

# ANNUAL REPORT

平成20・21年度 独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館活動報告

Independent Administrative Institution National Museum of Art

The National Museum of Modern Art, Tokyo 2008-09

2008-09



# 目次

## Contents

### 美術・工芸部門

#### I 作品収集・修理等

1 作品収集	6-1-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻(立体造形) 映像 書 写真 資料]
	6-1-2 工芸作品[陶磁 染織 漆工 金工 木工 竹工 ガラス 人形 グラフィック・デザイン 工業デザイン その他の工芸 工芸資料]
2 平成20・21年度新収蔵作品	7-2-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻(立体造形) 映像 写真 資料]
	46-2-2 工芸作品[陶磁 ガラス 漆工 染織 人形 金工 木工 工業デザイン 工芸資料]
3 作品修理	70-3-1 美術作品
	74-3-2 工芸作品

#### II 公衆への観覧

1 展覧会	75-1-1 入館者数
	76-1-2 これまでの展覧会一覧
	100-1-3-1 平成20年度企画展覧会記録 1-3-2 平成21年度企画展覧会記録
	116-1-4 平成20・21年度所蔵作品展記録 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館 1-4-3 MOMATパスポート
	128-1-5 東京国立近代美術館工芸館所蔵作品巡回展等
2 作品貸与・特別観覧・プリントスタディ	131-2-1 本館 2-2 工芸館

#### III 調査研究

1 本館	132
2 工芸館	142

#### IV 教育普及

1 普及活動	148-1-1 資料の収集及び図書室の公開
	150-1-2 児童生徒を対象とした事業 1-2-1 本館 1-2-2 工芸館
	157-1-3 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク等 1-3-1 本館 1-3-2 工芸館
	170-1-4 大学等との連携 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館
	173-1-5 ボランティア 1-5-1 本館 1-5-2 工芸館
	177-1-6 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修
2 刊行物	178-2-1 企画展覧会カタログ 2-1-1 本館 2-1-2 工芸館
	181-2-2 目録・ガイド等 2-2-1 本館 2-2-2 工芸館
	184-2-3 研究紀要・年報等
	185-2-4 その他の刊行物 2-4-1 本館 2-4-2 工芸館
	186-2-5 美術館ニュース『現代の眼』
3 広報	188-3-1 広報
	189-3-2 美術館情報システムによる普及・広報

### 映画部門

#### I 作品収集・復元等

1 作品収集	192-1-1 映画フィルム
	196-1-2 映画関連資料
2 保存/復元	199
3 カタロギング/ドキュメンテーション	202

#### II 公衆への観覧

1 上映会等	203-1-1 入館者数 1-1-1 上映会 1-1-2 展覧会
	206-1-2 上映会 1-2-1 上映会一覧 1-2-2 平成20年度上映会記録 1-2-3 平成21年度上映会記録
	311-1-3 展覧会 1-3-1 展覧会一覧 1-3-2 平成20年度展覧会記録 1-3-3 平成21年度展覧会記録
	320-1-4 共催事業 1-4-1 共催による館外上映会
2 優秀映画鑑賞推進事業	329
3 所蔵品へのアクセス	345

#### III 調査研究

#### IV 教育普及

1 普及活動	361-1-1 資料の収集及び図書室の公開
	362-1-2 学校や社会教育施設への幅広い学習機会の提供
	363-1-3 児童生徒を対象とした事業
	364-1-4 シンポジウム・講演会・ギャラリートーク等 1-4-1 シンポジウム 1-4-2 ゲストトーク
	1-4-3 ギャラリートーク
	372-1-5 大学等との連携
2 刊行物	374-2-1 カタログ
	375-2-2 目録・ガイド等
	376-2-3 NFCカレンダー等 2-3-1 NFCカレンダー 2-3-2 展覧会チラシ 2-3-3 上映会チラシ
	2-3-4 こども映画館
	382-2-4 NFCニューズレター
	384-2-5 その他
3 広報	385-3-1 美術館情報システムによる普及・広報

### 記録

1 国際交流	388-1-1 平成20・21年度招聘者
	389-1-2 平成20・21年度来館者
2 日誌	391
3 予算	393-3-1 平成20・21年度歳出予算一覧
4 名簿	394-4-1 東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)
	395-4-2 東京国立近代美術館評議員(映画部会)
	396-4-3 東京国立近代美術館職員





## 1-1 美術作品

種別	平成20年度収集点数	所蔵総点数	平成21年度収集点数	所蔵総点数
日本画	6	737	3	740
油彩 その他	12	1,175	8	1,183
版画	12	1,920	0	1,920
水彩・素描	30	671	39	710
彫刻(立体造形)	3	426	5	427
映像	0	0	20	24
書	0	19	0	19
写真	180	1,792	94	1,886
資料	2	3,138	1	3,139
計	245	9,878	170	10,048

平成21年度より種別に「映像」を追加した。これに伴い、これまで「彫刻(立体造形)」に含まれていた作品4点を、平成21年度より「映像」に分類し直した。平成20年度、21年度の「彫刻(立体造形)」および「映像」の所蔵総点数に異動があるのはこのためである。

## 1-2 工芸作品

種別	平成20年度収集点数	所蔵総点数	平成21年度収集点数	所蔵総点数
陶磁	84	782	44	826
染織	11	388	10	398
漆工	20	247	0	247
金工	3	350	32	382
木工	9	61	10	71
竹工	0	36	0	36
ガラス	3	123	3	126
人形	0	73	2	75
グラフィック・デザイン	0	582	0	582
工業デザイン	15	141	0	141
その他の工芸	0	9	0	9
工芸資料	2	25	3	28
計	147	2,817	104	2,921

金工作品1点(一式3点)を、平成20年度に1点(一式3点のうち2点)、平成21年度に1点とわけて収蔵した。実績報告書では平成20年度に2点、平成21年度に1点購入と数えたため、本活動報告と誤差が生じている。

## 2-1 美術作品 Art Works

美術作品の購入、受贈による新収蔵作品は次のとおり。

## 【平成20年度】

日本画6点(購入1点、受贈5点)、油彩 その他12点(購入4点、受贈8点)、版画12点(受贈12点)、水彩・素描30点(購入27点、受贈3点)、彫刻(立体造形) 3点(購入1点、受贈2点)、写真180点(購入102点、受贈78点)、資料2点(受贈2点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of works of art during fiscal 2008 were as follows: 6 works of Japanese-style painting (1 purchased, 5 donated); 12 works of oil painting, etc. (4 purchased, 8 donated); 12 works of print (12 donated); 30 works of watercolor and drawing (27 purchased, 3 donated); 3 works of sculpture (1 purchased, 2 donated); and 180 photographic works (102 purchased, 78 donated), and 2 supplementary materials (2 donated).

## 【平成21年度】

日本画3点(購入2点、受贈1点)、油彩 その他8点(購入3点、受贈5点)、水彩・素描39点(購入24点、受贈15点)、彫刻(立体造形) 5点(購入2点、受贈3点)、映像20点(購入20点)、写真94点(購入81点、受贈13点)、資料1点(受贈1点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of works of art during fiscal 2009 were as follows: 3 works of Japanese-style painting (2 purchased, 1 donated); 8 works of oil painting, etc. (3 purchased, 5 donated); 39 works of watercolor and drawing (24 purchased, 15 donated); 5 works of sculpture (2 purchased, 3 donated); 20 video works (20 purchased); 94 photographic works (81 purchased, 13 donated) and 1 supplementary material (1 donated).

<div style="text-align: center;"> <p>平成20年度</p> <p>日本画</p> <p>Japanese-style Paintings</p> </div>	<p>小野竹喬(1889-1979)</p> <p>湖邊之図</p> <p>大正11-12年頃 紙本彩色・屏風2曲 158.0×156.0cm 反町時子氏寄贈 J-737</p> <p>ONO, Chikkyo (1889-1979)</p> <p>Lakeside c.1922-23 color on paper, two-fold screen 158.0×156.0cm</p>	<p>片岡球子(1905-2008)</p> <p>ポーズ3</p> <p>昭和60年 紙本彩色・額 71.0×116.0cm 第40回春の院展(東京、日本橋三越、1985年) 作者遺贈 J-732</p> <p>KATAOKA, Tamako (1905-2008)</p> <p>Pose 3 1985 color on paper 71.0×116.0cm</p>
<p>片岡球子(1905-2008)</p> <p>ポーズ7</p> <p>平成元年 紙本彩色・額 90.5×115.5cm 第44回春の院展(東京、日本橋三越、1989年) 作者遺贈 J-733</p>	<p>片岡球子(1905-2008)</p> <p>ポーズ17</p> <p>平成11年 紙本彩色・額 115.5×79.5cm 第54回春の院展(東京、日本橋三越、1999年) 作者遺贈 J-734</p>	<p>片岡球子(1905-2008)</p> <p>ポーズ21</p> <p>平成15年 紙本彩色・額 79.5×115.5cm 第58回春の院展(東京、日本橋三越、2003年) 作者遺贈 J-735</p>
<p>KATAOKA, Tamako (1905-2008)</p> <p>Pose 7 1989 color on paper 90.5×115.5cm</p>	<p>KATAOKA, Tamako (1905-2008)</p> <p>Pose 17 1999 color on paper 115.5×79.5cm</p>	<p>KATAOKA, Tamako (1905-2008)</p> <p>Pose 21 2003 color on paper 79.5×115.5cm</p>

小林古径(1883-1957)

茄子

昭和3年頃  
絹本彩色・軸  
128.5×42.1cm  
購入  
J-736

KOBAYASHI, Kokei (1883-1957)

Eggplants  
c.1928  
color on silk, hanging scroll  
128.5×42.1cm

平成20年度

油彩 その他

Oil Paintings, etc.

麻生三郎(1913-2000)

花(アマリリス)

昭和18年  
油彩・キャンバス  
73.2×91.0cm  
第1回新人画会展(東京、日本楽器画廊、1943年)  
永井甚右衛門氏寄贈  
O-1202

ASO, Saburo (1913-2000)

Flowers (Amaryllises)  
1943  
oil on canvas  
73.2×91.0cm

梅原龍三郎(1888-1986)

瑠璃子像

昭和38年  
油彩・キャンバス  
75.5×60.0cm  
梅原龍三郎遺作展(東京国立近代美術館・京都国立近代美術館、1988年)  
城下るり子氏遺贈  
O-1200

UMEHARA, Ryuzaburo (1888-1986)

Portrait of Ruriko  
1963  
oil on canvas  
75.5×60.0cm

梅原龍三郎(1888-1986)

葬壇

昭和52年  
油彩・キャンバス  
73.0×91.0cm  
近作・未発表作品を中心とする梅原龍三郎展  
(東京、日本橋三越、1977年)  
城下るり子氏遺贈  
O-1201

UMEHARA, Ryuzaburo (1888-1986)

Funeral Altar  
1977  
oil on canvas  
73.0×91.0cm

菅井汲(1919-1996)

低い雲(NUAGE BAS)

昭和36年  
油彩・キャンバス  
87.0×195.0cm  
購入  
O-1208

SUGAI, Kumi (1919-1996)

Low Cloud  
1961  
oil on canvas  
87.0×195.0cm

勝呂忠(1926-2010)

重い月

昭和31年  
油彩・キャンバス  
60.6×72.7cm  
第6回モダンアート展(東京都美術館、1956年)  
作者寄贈  
O-1203

SUGURO, Tadashi(1926-2010)

Heavy Moon  
1956  
oil on canvas  
60.6×72.7cm

長沢秀之(1947- )

生命体 No. 8

平成20年  
油彩・キャンバス  
194.0×194.0cm  
「風景からフウケイへ 長沢秀之展」  
(川崎市立美術館、2008年)  
作者寄贈  
O-1204

NAGASAWA, Hideyuki (1947- )

Life Being No. 8  
2008  
oil on canvas  
194.0×194.0cm

福沢一郎(1898-1992)

メトロ工事

昭和4年  
油彩・キャンバス  
161.5×112.0cm  
第5回一九三〇年協会展(東京府美術館、1930年)  
購入  
O-1197

FUKUZAWA, Ichiro (1898-1992)

Metro Construction  
1929  
oil on canvas  
161.5×112.0cm

福沢一郎(1898-1992)

人

昭和11年  
油彩・キャンバス  
130.0×161.0cm  
第7回独立展(東京府美術館、1937年)  
購入  
O-1198

FUKUZAWA, Ichiro (1898-1992)

Persons  
1936  
oil on canvas  
130.0×161.0cm



正木隆(1971-2004)

造形 00-1

平成12年  
油彩・綿布  
100.0×140.0cm  
「正木隆展」(東京、なびす画廊、2000年)  
正木建治氏寄贈  
O-1205

MASAKI, Takashi (1971-2004)

Formation 00-1

2000  
oil on cotton  
100.0×140.0cm

正木隆(1971-2004)

造形 00-3

平成12年  
油彩・綿布  
100.0×140.0cm  
「正木隆展」(東京、なびす画廊、2000年)  
正木建治氏寄贈  
O-1206

MASAKI, Takashi (1971-2004)

Formation 00-3

2000  
oil on cotton  
100.0×140.0cm

正木隆(1971-2004)

造形 01-20

平成13年  
油彩・キャンバス  
61.0×73.0cm  
「セゾンアートプログラム・アートイング東京  
2001 生きられた空間・時間・身体」展(東京、旧  
新宿区立牛込原町小学校、2001年)  
(株)ヒトスギ寄贈  
O-1207

MASAKI, Takashi (1971-2004)

Formation 01-20

2001  
oil on canvas 61.0×73.0cm

モーリス・ルイス(1912-1962)

神酒

昭和33年  
アクリリック・キャンバス  
248.9×365.8cm  
個展(French & Company, New York, 1959年)  
購入  
O-1199

LOUIS, Morris (1912-1962)

Libation

1958  
acrylic on canvas  
248.9×365.8cm

平成20年度

版画

Prints

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “1) Wire Net  
Between Paper and Black Ink No.2”

昭和54年  
シルクスクリーン、金網・紙  
46.5×32.0cm  
イダショウイチスタジオ寄贈  
P-1909

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “1) Wire Net  
Between Paper and Black Ink No.2”

1979  
silkscreen and wire net on paper  
46.5×32.0cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “2) Paper  
Between Same Line and Same Line No.3”

昭和54年  
リトグラフ、両面刷り・紙  
49.8×35.1cm  
イダショウイチスタジオ寄贈  
P-1910

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “2) Paper  
Between Same Line and Same Line No.3”

1979  
lithograph, printed both sides on paper  
49.8×35.1cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “3) Paper Between  
Black Ink Stain and Black Ink Stain No.5”

昭和54年  
シルクスクリーン、両面刷り、シーヌコレ・紙  
50.0×35.4cm  
イダショウイチスタジオ寄贈  
P-1911

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “3) Paper Between  
Black Ink Stain and Black Ink Stain No.5”

1979  
silkscreen, printed both sides with chine-colle on paper  
50.0×35.4cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “4) Paper on  
Paper”

昭和54年  
リトグラフ、シーヌコレ・紙  
47.6×33.3cm  
イダショウイチスタジオ寄贈  
P-1912

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “4) Paper on Paper”

1979  
lithograph with chine-colle on paper  
47.6×33.3cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “5) Paper  
Between Line and Line No.5”

昭和54年  
リトグラフ、エッチング、両面刷り、シーヌコレ・紙  
45.5×30.8cm  
イダショウイチスタジオ寄贈  
P-1913

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.—Lotus Sutra “5) Paper Between  
Line and Line No.5”

1979  
lithograph and etching, printed both sides with chine-colle on paper  
45.5×30.8cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “6) Paper Between Scratching and Scratching No.6”

昭和54年  
リトグラフ、エッチング・紙  
45.5×30.8cm  
イダシヨウイチスタジオ寄贈  
P-1914

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “6) Paper Between Scratching and Scratching No.6”

1979  
lithograph and etching on paper  
45.5×30.8cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “7) Iron Sand on Iron Plate”

昭和54年  
シルクスクリーン、鉄・紙  
47.0×33.0cm  
イダシヨウイチスタジオ寄贈  
P-1915

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “7) Iron Sand on Iron Plate”

1979  
silkscreen and iron on paper  
47.0×33.0cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “8) Falling and Horizontal”–Paper as time suspending gravity

昭和54年  
リトグラフ、両面刷り、シーヌコレ・紙  
47.0×33.0cm  
イダシヨウイチスタジオ寄贈  
P-1916

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “8) Falling and Horizontal”–Paper as time suspending gravity

1979  
lithograph, printed both sides with chine-colle on paper  
47.0×33.0cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “9) Paper Between Dropped Stain and Dispersed Stain”–Paper as time suspending gravity

昭和54年  
シルクスクリーン、両面刷り・紙  
47.0×32.8cm  
イダシヨウイチスタジオ寄贈  
P-1917

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “9) Paper Between Dropped Stain and Dispersed Stain”–Paper as time suspending gravity

1979  
silkscreen, printed both sides on paper  
47.0×32.8cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “10) Paper Between Touching and Scratching”

昭和54年  
リトグラフ、両面刷り、シーヌコレ・紙  
46.2×31.2cm  
イダシヨウイチスタジオ寄贈  
P-1918

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “10) Paper Between Touching and Scratching”

1979  
silkscreen, printed both sides with chine-colle on paper  
46.2×31.2cm

井田照一(1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “11) Gauze in Ink”

昭和54年  
シルクスクリーン・紗・紙  
46.5×33.0cm  
イダシヨウイチスタジオ寄贈  
P-1919

IDA, Shoichi (1941-2006)

S.B.B.V.H.–Lotus Sutra “11) Gauze in Ink”

1979  
silkscreen on gauze and paper  
46.5×33.0cm

井田照一(1941-2006)

Surface is the Between–Between Vertical and Horizon–Garden Project–Lotus Sutra–“For Four Corners–Garden Project No. 72”

昭和54-58年  
リトグラフ、水彩、石・紙  
109.0×75.2×4.0cm  
イダシヨウイチスタジオ寄贈  
P-1920

IDA, Shoichi (1941-2006)

Surface is the Between–Between Vertical and Horizon–Garden Project–Lotus Sutra–“For Four Corners–Garden Project No. 72”

1979-83  
lithograph, watercolor and stone on paper  
109.0×75.2×4.0cm

平成20年度

水彩・素描

Watercolors & Drawings

エミコ・サワラギ・ギルバート(1947- )

無題(人像)

平成18年  
チャコールペンシル・紙  
223.0×81.5cm  
個展(東京、澁画廊、2006年)  
ジェフリー・ギルバート氏寄贈  
D-487

GILBERT, Emiko Sawaragi (1947- )

Untitled (Human Figure)

2006  
charcoal pencil on paper  
223.0×81.5cm

小林正人(1957- )

Artist

平成10年  
チョーク・紙  
75.5×110.0cm  
「夜に」展(東京、佐谷画廊、1998年)  
購入  
D-499

KOBAYASHI, Masato (1957- )

Artist

1998  
chalk on paper  
75.5×110.0cm

---

小林正人(1957- )

Artist

平成11年  
チョーク・紙  
75.5×110.0cm  
「夜に」展(東京、佐谷画廊、1998年)  
購入  
D-500

小林正人(1957- )

教育(to Make Light)

平成11年  
木炭・紙  
70.5×100.0cm  
「夜に」展(東京、佐谷画廊、1998年)  
購入  
D-501

小林正人(1957- )

教育(to Make Light)

平成11年  
木炭・紙  
70.5×100.0cm  
「夜に」展(東京、佐谷画廊、1998年)  
購入  
D-502

KOBAYASHI, Masato (1957- )

Artist

1998  
chalk on paper  
75.5×110.0cm

KOBAYASHI, Masato (1957- )

Education (to Make Light)

1998  
charcoal on paper  
70.5×100.0cm

KOBAYASHI, Masato (1957- )

Education (to Make Light)

1998  
charcoal on paper  
70.5×100.0cm

---

小林正人(1957- )

教育(to Make Light)

平成11年  
木炭・紙  
70.5×94.0cm  
購入  
D-503

小林正人(1957- )

教育(to Make Light)

平成11年  
木炭・紙  
71.0×71.0cm  
「夜に」展(東京、佐谷画廊、1998年)  
購入  
D-504

瀧口修造(1903-1979)

ドローイング

昭和35年  
インク、水彩・紙  
33.3×24.0cm  
「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)  
購入  
W-216

KOBAYASHI, Masato (1957- )

Education (to Make Light)

1998  
charcoal on paper  
70.5×94.0cm

KOBAYASHI, Masato (1957- )

Education (to Make Light)

1998  
charcoal on paper  
71.0×71.0cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Drawing

1960  
ink and watercolor on paper  
33.3×24.0cm

---

瀧口修造(1903-1979)

ドローイング

昭和35年  
インク・紙  
24.4×36.0cm  
「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)  
購入  
D-495

瀧口修造(1903-1979)

ドローイング

昭和36年  
インク、水彩・紙  
37.5×28.8cm  
「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)  
購入  
W-217

瀧口修造(1903-1979)

バート・ドローイング

昭和36年  
バート・ドローイング、水彩・紙  
37.7×26.5cm  
「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)  
購入  
W-218

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Drawing

1960  
ink on paper  
24.4×36.0cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Drawing

1961  
ink and watercolor on paper  
37.5×28.8cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Burnt Drawing

1961  
burnt drawing and watercolor on paper  
37.7×26.5cm

---

瀧口修造(1903-1979)

バート・ドローイング

昭和36年  
バート・ドローイング、水彩、コラージュ・紙  
27.2×38.7cm  
「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)  
購入  
W-219

瀧口修造(1903-1979)

Projet pour le Monument de Paul Klee (パウル・クレーの記念碑のためのプロジェクト)

昭和37年  
コラージュ・紙  
28.8×6.0cm  
「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)  
購入  
D-498

瀧口修造(1903-1979)

ロト・デッサン

制作年不詳  
鉛筆・紙  
16.2×17.0cm  
「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)  
購入  
D-496

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Burnt Drawing

1961  
burnt drawing, watercolor and collage on paper  
27.2×38.7cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Project for the Monument of Paul Klee

1962  
collage on paper  
28.8×6.0cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Roto-dessin

n.d.  
pencil on paper  
16.2×17.0cm

---

瀧口修造(1903-1979)

ロト・デッサン

制作年不詳

鉛筆・紙

16.1×15.9cm

「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)

購入

D-497

瀧口修造(1903-1979)

デカルコマニー

制作年不詳

デカルコマニー・紙

19.2×13.2cm

「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)

購入

W-220

瀧口修造(1903-1979)

デカルコマニー

制作年不詳

デカルコマニー・紙

13.5×10.0cm

「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)

購入

W-221

---

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Roto-dessin

n.d.

pencil on paper

16.1×15.9cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Décalcomanie

n.d.

décalcomanie on paper

19.2×13.2cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Décalcomanie

n.d.

décalcomanie on paper

13.5×10.0cm

---

瀧口修造(1903-1979)

デカルコマニー

制作年不詳

デカルコマニー・紙

13.6×19.7cm

「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)

購入

W-222

瀧口修造(1903-1979)

デカルコマニー

制作年不詳

デカルコマニー・紙

13.8×9.8cm

「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)

購入

W-223

瀧口修造(1903-1979)

バーント・ドローイング

制作年不詳

バーント・ドローイング、水彩・紙

46.2×38.5cm

「瀧口修造の造形的実験」展(富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館、2001-02年)

寄贈

W-215

---

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Décalcomanie

n.d.

décalcomanie on paper

13.6×19.7cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Décalcomanie

n.d.

décalcomanie on paper

13.8×9.8cm

Takiguchi, Shuzo (1903-1979)

Burnt Drawing

n.d.

burnt drawing and watercolor on paper

46.2×38.5cm

---

アンリ・ミシヨー(1899-1984)

鉛筆によるフロッターージュ

昭和13-15年

鉛筆・紙

26.2×20.8cm

購入

D-489

アンリ・ミシヨー(1899-1984)

ペンによる素描、墨

昭和19年

墨・紙

24.0×32.0cm

購入

D-490

アンリ・ミシヨー(1899-1984)

ムーザマン

昭和25-26年

墨・紙

31.7×24.0cm

購入

D-491

---

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Frottage with Pencils

1938-40

pencil on paper

26.2×20.8cm

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Indian Ink Drawing with Pen

1944

sumi on paper

24.0×32.0cm

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Movements

1950-51

sumi on paper

31.7×24.0cm

---

アンリ・ミシヨー(1899-1984)

水彩、グアッシュ、墨

昭和29-30年

水彩、グアッシュ、墨・紙

50.0×65.3cm

購入

W-213

アンリ・ミシヨー(1899-1984)

メスカリン素描

昭和31年

色鉛筆・紙

31.9×23.8cm

購入

D-492

アンリ・ミシヨー(1899-1984)

メスカリン素描

昭和32年

墨・紙

31.5×24.0cm

個展(パリ、国立近代美術館、1978年)

購入

D-488

---

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Watercolor, Gouache and Indian Ink

1954-55

watercolor, gouache and sumi on paper

50.0×65.3cm

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Mescaline Drawing

1956

color pencil on paper

31.9×23.8cm

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Mescaline Drawing

1957

sumi on paper

31.5×24.0cm

---

アンリ・ミシヨール(1899-1984)

墨

昭和36年頃  
墨・紙  
51.0×66.0cm  
購入  
D-493

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Indian Ink Painting  
c.1961  
sumi on paper  
51.0×66.0cm

アンリ・ミシヨール(1899-1984)

墨

昭和38年  
墨・紙  
48.0×60.0cm  
購入  
D-494

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Indian Ink Painting  
1963  
sumi on paper  
48.0×60.0cm

アンリ・ミシヨール(1899-1984)

グアッシュ

昭和47-49年  
グアッシュ・紙  
38.2×57.0cm  
購入  
W-214

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Gouache  
1972-74  
gouache on paper  
38.2×57.0cm

---

アンリ・ミシヨール(1899-1984)

水彩、墨

昭和56年  
水彩、墨・紙  
31.2×24.7cm  
ミシュリーヌ・ファンキム氏寄贈  
W-212

MICHAUX, Henri (1899-1984)

Watercolor and Indian Ink  
1981  
watercolor and sumi on paper  
31.2×24.7cm

平成20年度

彫刻(立体造形)

Sculpture

---

野村仁(1945- )

量子発生

平成3年  
ガラス、大理石  
60.0×30.0×33.0cm  
「Cosmo Chronography」展(東京、ギャラリー手、  
1991年)  
田中恒子氏寄贈  
S-431

NOMURA, Hitoshi (1945- )

Quantum Creation of Universes  
1991  
glass and marble  
60.0×30.0×33.0cm

野村仁(1945- )

弦の発生

平成3年  
ガラス、大理石  
58.0×14.0×15.0cm  
「Cosmo Chronography & Phonography」展(大阪、  
ギャラリー KURANUKI、1991年)  
田中恒子氏寄贈  
S-432

NOMURA, Hitoshi (1945- )

Creating Strings  
1991  
glass and marble  
58.0×14.0×15.0cm

---

シュテファン・バルケンホール(1957- )

大きな頭部と3枚からなる黒いレリーフ

平成19年  
米杉、アユース、松・彩色  
73.0×65.5×84.0cm(頭部)、100.0×56.5×68.5cm(台座)、  
300.0×298.5×4.5cm(レリーフ)  
「シュテファン・バルケンホール」展(東京、小山登美夫ギャラリー、2007年)  
購入  
S-433

BALKENHOL, Stephan (1957- )

Big Head with Three Part-Relief (Black)  
2007  
beach wood, wawawood, and pine wood painted with pastel  
73.0×65.5×84.0cm(head), 100.0×56.5×68.5cm(plinth),  
300.0×298.5×4.5cm(relief)

平成20年度

写真

Photographic Works

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 新宿区西新宿

昭和55年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1660

INA, Eiji (1957- )

Nishishinjuku, Shinjuku-ku from “In Tokyo”  
1980  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 千代田区大手町

昭和56年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1661

INA, Eiji (1957- )

Otemachi, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1981  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 千代田区大手町

昭和56年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1662

INA, Eiji (1957- )

Otemachi, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1981  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 千代田区大手町

昭和56年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1663

INA, Eiji (1957- )

Otemachi, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1981  
gelatin silver print  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 千代田区桜田門

昭和56年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1664

INA, Eiji (1957- )

Sakuradamon, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1981  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 港区元赤坂

昭和56年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1665

INA, Eiji (1957- )

Akasaka, Minato-ku from “In Tokyo”  
1981  
gelatin silver print  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 品川区大井

昭和56年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1666

INA, Eiji (1957- )

Oi, Shinagawa-ku from “In Tokyo”  
1981  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 文京区本郷

昭和57年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1667

INA, Eiji (1957- )

Hongo, Bunkyo-ku from “In Tokyo”  
1982  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 文京区本郷

昭和57年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1668

INA, Eiji (1957- )

Hongo, Bunkyo-ku from “In Tokyo”  
1982  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 港区台場

昭和57年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm  
作者寄贈  
Ph1669

INA, Eiji (1957- )

Daiba, Minato-ku from “In Tokyo”  
1982  
gelatin silver print  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )

「In Tokyo」より 港区元赤坂

昭和57年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1738

INA, Eiji (1957- )

Motoakasaka, Minato-ku from “In Tokyo”  
1982  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 品川区大井

昭和57年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1739

INA, Eiji (1957- )  
Oi, Shinagawa-ku from “In Tokyo”  
1982  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 横浜市大黒埠頭

昭和57年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1740

INA, Eiji (1957- )  
Daikoku Pier, Yokohama from “In Tokyo”  
1982  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 横浜市鶴見区

昭和57年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1741

INA, Eiji (1957- )  
Tsurumi-ku, Yokohama from “In Tokyo”  
1982  
gelatin silver print  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 横浜市鶴見区

昭和57年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1742

INA, Eiji (1957- )  
Tsurumi-ku, Yokohama from “In Tokyo”  
1982  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 文京区後楽園

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1743

INA, Eiji (1957- )  
Korakuen, Bunkyo-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 千代田区大手町

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1744

INA, Eiji (1957- )  
Otemachi, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 千代田区大手町

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1745

INA, Eiji (1957- )  
Otemachi, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 千代田区大手町

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1746

INA, Eiji (1957- )  
Otemachi, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 千代田区有楽町

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1747

INA, Eiji (1957- )  
Yurakuchō, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 中央区浜離宮

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1748

INA, Eiji (1957- )  
Hamarikyu, Chuo-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 中央区日比谷

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1749

INA, Eiji (1957- )  
Hibiya, Chuo-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 目黒区中目黒

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1750

INA, Eiji (1957- )  
Nakameguro, Meguro-ku “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区飯倉

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1751

INA, Eiji (1957- )  
Ikura, Minato-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区飯倉

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1752

INA, Eiji (1957- )  
Ikura, Minato-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区三田

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1753

INA, Eiji (1957- )  
Mita, Minato-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区六本木

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.8×24.2(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1754

INA, Eiji (1957- )  
Roppongi, Minato-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
18.8×24.2(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 渋谷区宇田川町

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1755

INA, Eiji (1957- )  
Udagawacho, Shibuya-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 渋谷区宇田川町

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1756

INA, Eiji (1957- )  
Udagawacho, Shibuya-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区芝浦

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1757

INA, Eiji (1957- )  
Shibaura, Minato-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 新宿区西新宿

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1758

INA, Eiji (1957- )  
Nishishinjuku, Shinjuku-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 新宿区西新宿

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1759

INA, Eiji (1957- )  
Nishishinjuku, Shinjuku-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 新宿区千駄ヶ谷

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1760

INA, Eiji (1957- )  
Sendagaya, Shinjuku-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 豊島区東池袋

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1761

INA, Eiji (1957- )  
Higashiikebukuro, Toshima-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区芝浦

昭和58年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.2(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1762

INA, Eiji (1957- )  
Shibaura, Minato-ku from “In Tokyo”  
1983  
gelatin silver print  
18.9×24.2(27.8×35.4)cm



---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 千代田区大手町  
昭和59年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1763

INA, Eiji (1957- )  
Otemachi, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1984  
gelatin silver print  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 千代田区大手町  
昭和59年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1764

INA, Eiji (1957- )  
Otemachi, Chiyoda-ku from “In Tokyo”  
1984  
gelatin silver print  
18.8×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区新橋  
昭和59年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1765

INA, Eiji (1957- )  
Shinbashi, Minato-ku from “In Tokyo”  
1984  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区新橋  
昭和59年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1766

INA, Eiji (1957- )  
Shinbashi, Minato-ku from “In Tokyo”  
1984  
gelatin silver print  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区六本木  
昭和59年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1767

INA, Eiji (1957- )  
Roppongi, Minato-ku from “In Tokyo”  
1984  
gelatin silver print  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 港区六本木  
昭和59年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1768

INA, Eiji (1957- )  
Roppongi, Minato-ku from “In Tokyo”  
1984  
gelatin silver print  
18.9×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 新宿区西新宿  
昭和59年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1769

INA, Eiji (1957- )  
Nishishinjuku, Shinjuku-ku from “In Tokyo”  
1984  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 新宿区西新宿  
昭和59年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1770

INA, Eiji (1957- )  
Nishishinjuku, Shinjuku-ku from “In Tokyo”  
1984  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 江東区新豊洲  
昭和63年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1771

INA, Eiji (1957- )  
Shintoyosu, Koto-ku from “In Tokyo”  
1988  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

---

伊奈英次(1957- )  
「In Tokyo」より 新宿区西新宿  
平成2年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm  
購入  
Ph1772

INA, Eiji (1957- )  
Nishishinjuku, Shinjuku-ku from “In Tokyo”  
1990  
gelatin silver print  
19.0×24.1(27.8×35.4)cm

大辻清司(1923-2001)  
凧揚げ  
昭和15-18年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
16.8×16.7(25.5×30.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1593

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)  
Kite-flying  
c.1940-43(1998 print)  
gelatin silver print  
16.8×16.7(25.5×30.4)cm

大辻清司(1923-2001)  
女性たち  
昭和15-18年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
14.8×22.9(25.5×30.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1594

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)  
Women  
c.1940-43(1998 print)  
gelatin silver print  
14.8×22.9(25.5×30.4)cm

---

**大辻清司(1923-2001)****野球少年**

昭和15-18年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
16.8×16.7(25.5×30.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1595

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Boy Playing Baseball**

c.1940-43(1998 print)  
gelatin silver print  
16.8×16.7(25.5×30.3)cm

**大辻清司(1923-2001)****百葉箱**

昭和15-18年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
14.8×23.1(25.5×30.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1596

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Instrument Screens**

c.1940-43(1998 print)  
gelatin silver print  
14.8×23.1(25.5×30.4)cm

**大辻清司(1923-2001)****二階から雲を撮る**

昭和15-18年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
16.8×16.7(25.5×30.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1597

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Clouds Photographed from Upstairs**

c.1940-43(1998 print)  
gelatin silver print  
16.8×16.7(25.5×30.4)cm

---

**大辻清司(1923-2001)****模型飛行機大会**

昭和15-18年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
16.8×16.7(25.5×30.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1598

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Model Airplane Meeting**

c.1940-43(1998 print)  
gelatin silver print  
16.8×16.7(25.5×30.4)cm

**大辻清司(1923-2001)****父、母、祖父**

昭和16年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
17.8×41.6(23.7×43.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1599

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Father, Mother and Grandfather**

c.1941(1998 print)  
gelatin silver print, 2 pieces  
17.8×41.6(23.7×43.3)cm

**大辻清司(1923-2001)****模型飛行機**

昭和16年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
14.8×23.1(25.5×30.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1600

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Model Airplane**

c.1941(1998 print)  
gelatin silver print  
14.8×23.1(25.5×30.4)cm

---

**大辻清司(1923-2001)****密着焼き機**

昭和16年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
22.9×14.8(30.4×25.5)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1601

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Contact Printer**

c.1941(1998 print)  
gelatin silver print  
22.9×14.8(30.4×25.5)cm

**大辻清司(1923-2001)****物体A**

昭和24年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
30.0×22.0(43.5×35.5)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1602

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Object A**

1949(1998 print)  
gelatin silver print  
30.0×22.0(43.5×35.5)cm

**大辻清司(1923-2001)****絡まりのオブジェ**

昭和24年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.6×32.8(35.6×43.6)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1603

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Tangled Object**

1949(1998 print)  
gelatin silver print  
23.6×32.8(35.6×43.6)cm

---

**大辻清司(1923-2001)****いたましき物体**

昭和24年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
14.4×16.2(35.5×43.5)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1604

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Pitiful Object**

1949(1998 print)  
gelatin silver print  
14.4×16.2(35.5×43.5)cm

**大辻清司(1923-2001)****美術家の肖像、阿部展也のアトリエにて**

昭和25年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
41.6×30.4(56.1×45.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1605

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Portrait of the Artist—in Abe Nobuya's**

Atelier  
1950(1998 print)  
gelatin silver print  
41.6×30.4(56.1×45.4)cm

**大辻清司(1923-2001)****オブジェ、阿部展也のアトリエにて**

昭和25年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
41.7×32.0(55.9×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1606

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)****Object—in Abe Nobuya's Atelier**

1950(1998 print)  
gelatin silver print  
41.7×32.0(55.9×45.9)cm

---

大辻清司(1923-2001)

オブジェ、阿部展也のアトリエにて

昭和25年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
41.7×32.0(56.1×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1607

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Object—in Abe Nobuya's Atelier

1950(1998 print)  
gelatin silver print  
41.7×32.0(56.1×45.9)cm

大辻清司(1923-2001)

オブジェ、阿部展也のアトリエにて

昭和25年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
41.7×30.0(56.2×45.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1608

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Object—in Abe Nobuya's Atelier

1950(1998 print)  
gelatin silver print  
41.7×30.0(56.2×45.3)cm

大辻清司(1923-2001)

氷紋

昭和25-34年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.0×28.4(55.8×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1615

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Pattern on Ice

1950s(1998 print)  
gelatin silver print  
28.0×28.4(55.8×45.9)cm

---

大辻清司(1923-2001)

氷紋

昭和25-34年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.5×28.4(55.8×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1616

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Pattern on Ice

1950s(1998 print)  
gelatin silver print  
28.5×28.4(55.8×45.9)cm

大辻清司(1923-2001)

独立したもの

昭和25-34年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、9点組  
各20.0×20.0cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1617

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Independent Objects

1950s(1998 print)  
gelatin silver print, 9 pieces  
each 20.0×20.0cm

大辻清司(1923-2001)

北代省三

昭和25-34年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.5×24.5(42.8×35.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1686

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Kitadai Shozo

1950s(1998 print)  
gelatin silver print  
24.5×24.5(42.8×35.1)cm

---

大辻清司(1923-2001)

高橋悠治

昭和25-34年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.5×21.6(43.2×35.7)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1677

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Takahashi Yuji

1950s(1998 print)  
gelatin silver print  
32.5×21.6(43.2×35.7)cm

大辻清司(1923-2001)

石元泰博

昭和29-33年頃(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.5×32.4(35.2×43.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1671

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Ishimoto Yasuhiro

c.1954-58(1998 print)  
gelatin silver print  
21.5×32.4(35.2×43.0)cm

大辻清司(1923-2001)

「月に憑かれたピエロ」(装置・仮面デ  
ザイン:北代省三, 衣装:福島秀子)

昭和30年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.5×24.5(42.9×35.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1672

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Pierrot Lunaire

1955(1998 print)  
gelatin silver print  
24.5×24.5(42.9×35.3)cm

---

大辻清司(1923-2001)

榎本和子

昭和30年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.6×24.6(43.3×35.6)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1673

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Enomoto Kazuko

1955(1998 print)  
gelatin silver print  
24.6×24.6(43.3×35.6)cm

大辻清司(1923-2001)

陳列窓

昭和31年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.0×28.2(55.8×45.8)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1609

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Show Window

1956(1998 print)  
gelatin silver print  
28.0×28.2(55.8×45.8)cm

大辻清司(1923-2001)

陳列窓

昭和31年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.5×28.3(55.8×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1610

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Show Window

1956(1998 print)  
gelatin silver print  
28.5×28.3(55.8×45.9)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

岡本太郎

昭和31年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.4×21.5(42.9×35.2)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1674

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Okamoto Taro  
1956(1998 print)  
gelatin silver print  
32.4×21.5(42.9×35.2)cm

**大辻清司(1923-2001)**

田中敦子

昭和31年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.4×21.5(42.9×35.2)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1675

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Tanaka Atsuko  
1956(1998 print)  
gelatin silver print  
32.4×21.5(42.9×35.2)cm

**大辻清司(1923-2001)**

村上三郎

昭和31年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、3点組  
各21.6×32.4(35.6×43.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1676

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Murakami Saburo  
1956(1998 print)  
gelatin silver print, 3 pieces  
each 21.6×32.4(35.6×43.4)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

航空機

昭和32年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
19.9×28.9(27.8×35.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1611

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Airplane  
1957  
gelatin silver print  
19.9×28.9(27.8×35.9)cm

**大辻清司(1923-2001)**

航空機

昭和32年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.5×28.3(46.0×45.8)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1612

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Airplane  
1957(1998 print)  
gelatin silver print  
28.5×28.3(46.0×45.8)cm

**大辻清司(1923-2001)**

無言歌

昭和32年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
20.2×20.5(55.8×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1613

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Song without Words  
1957(1998 print)  
gelatin silver print  
20.2×20.5(55.8×45.9)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

無言歌

昭和32年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.6×33.9(55.8×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1614

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Song without Words  
1957(1998 print)  
gelatin silver print  
33.6×33.9(55.8×45.9)cm

**大辻清司(1923-2001)**

嶋本昭三

昭和32年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×32.4(35.6×43.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1677

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Shimamoto Shozo  
1957(1998 print)  
gelatin silver print  
21.6×32.4(35.6×43.4)cm

**大辻清司(1923-2001)**

斎藤義重、瀧口修造、山口勝弘(左より)

昭和32年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×32.4(35.3×43.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1678

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Saito Yoshishige, Takiguchi Shuzo,  
Yamaguchi Katsuhiko  
1957(1998 print)  
gelatin silver print  
21.6×32.4(35.3×43.3)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

ジョルジュ・マチウ

昭和32年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.4×21.6(43.2×35.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1679

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Georges Mathieu  
1957(1998 print)  
gelatin silver print  
32.4×21.6(43.2×35.4)cm

**大辻清司(1923-2001)**

駒井哲郎

昭和33年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×32.4(35.1×43.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1680

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Komai Tetsuro  
1958(1998 print)  
gelatin silver print  
21.6×32.4(35.1×43.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

勅使河原蒼風

昭和33年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.4×24.4(42.8×35.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1681

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Teshigawara Sofu  
1958(1998 print)  
gelatin silver print  
24.4×24.4(42.8×35.0)cm

---

大辻清司(1923-2001)

山口勝弘

昭和34年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.4×21.5(43.2×35.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1682

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Yamaguchi Katsuhiko  
1959(1998 print)  
gelatin silver print  
32.4×21.5(43.2×35.3)cm

大辻清司(1923-2001)

土方巽(中央)

昭和34年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.5×32.4(35.3×43.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1683

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Hijikata Tatsumi  
1959(1998 print)  
gelatin silver print  
21.5×32.4(35.3×43.3)cm

大辻清司(1923-2001)

大野慶人(土方巽「禁色」)

昭和34年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.5×32.4(35.3×43.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1684

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Ono Yoshito  
1959(1998 print)  
gelatin silver print  
21.5×32.4(35.3×43.4)cm

---

大辻清司(1923-2001)

建島寛造

昭和34年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.6×24.5(43.0×35.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1685

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Tatehata Kakuzo  
1959(1998 print)  
gelatin silver print  
24.6×24.5(43.0×35.1)cm

大辻清司(1923-2001)

マース・カニンガム

昭和39年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×32.4(35.7×44.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1688

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Merce Cunningham  
1964(1998 print)  
gelatin silver print  
21.6×32.4(35.7×44.1)cm

大辻清司(1923-2001)

ジョン・ケージ

昭和39年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×32.4(35.9×43.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1689

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

John Cage  
1964(1998 print)  
gelatin silver print  
21.6×32.4(35.9×43.3)cm

---

大辻清司(1923-2001)

武満徹

昭和41年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.4×21.6(43.4×35.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1690

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Takemitsu Toru  
1966(1998 print)  
gelatin silver print  
32.4×21.6(43.4×35.3)cm

大辻清司(1923-2001)

宮脇愛子

昭和42年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.6×24.6(43.4×35.6)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1691

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Miyawaki Aiko  
1967(1998 print)  
gelatin silver print  
24.6×24.6(43.4×35.6)cm

大辻清司(1923-2001)

一柳慧(左)

昭和44年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×32.4(35.3×42.8)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1692

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Ichiyonagi Toshi  
1969(1998 print)  
gelatin silver print  
21.6×32.4(35.3×42.8)cm

---

大辻清司(1923-2001)

展示中のライナー・ルッテンバック(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.3×49.8(50.6×50.6)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1618

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Reiner Ruthenbeck at Work (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
33.3×49.8(50.6×50.6)cm

大辻清司(1923-2001)

展示中のバリー・フラナガン(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.3×49.8(50.6×50.6)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1619

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Barry Flanagan at Work (*The 10th Tokyo  
Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
33.3×49.8(50.6×50.6)cm

大辻清司(1923-2001)

松澤宥のパフォーマンス(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.5(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1620

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Performance of Matsuzawa Yutaka (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.5(40.9×51.1)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

松澤宥のパフォーマンス(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.5(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1621

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Performance of Matsuzawa Yutaka (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.5(40.9×51.1)cm

**大辻清司(1923-2001)**

松澤宥のパフォーマンス(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1622

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Performance of Matsuzawa Yutaka (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm

**大辻清司(1923-2001)**

松澤宥のパフォーマンス(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.5(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1623

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Performance of Matsuzawa Yutaka (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.5(40.9×51.1)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

ケイス・ソニヤのインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1624

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Keith Sonnier (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(40.9×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

シルベルト・ゾリオのインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1625

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Gilberto Zorio (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(40.9×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

シルベルト・ゾリオのインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1626

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Gilberto Zorio (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

マルクス・レッツのインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1627

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Markus Raetz (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm

**大辻清司(1923-2001)**

ディートリッヒ・アルブレヒトの作品(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.5(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1628

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Work of Dietrich Albrecht (*The 10th Tokyo  
Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.5(40.9×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

ソル・ルウィット作品の展示作業

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1629

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installing the Work of Sol LeWitt (*The 10th  
Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

ヤニス・クネリス作品の展示作業(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.5(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1630

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installing the Work of Jannis Kounellis (*The  
10th Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.5(40.9×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

カール・アンドレのインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1631

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Carl Andre (*The 10th Tokyo  
Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(40.9×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

河口龍夫、堀川紀夫の作品(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1632

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Works of Kawaguchi Tatsuo and Horikawa Michio  
(*The 10th Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(40.9×51.1)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

展示中のマリオ・メルツ(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.4(41.0×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1633

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Mario Merz at Work (*The 10th Tokyo  
Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.4(41.0×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

マリオ・メルツのインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.5×28.6(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年) \*カタログ未掲載  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1634

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Mario Merz (*The 10th Tokyo  
Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
28.5×28.6(40.9×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

高松次郎、野村仁のインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.5×28.6(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館フ  
ィルムセンター展示室、1999年) \*カタログ未掲載  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1635

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installations of Takamatsu Jiro and Nomura Hitoshi  
(*The 10th Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
28.5×28.6(40.9×51.0)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

クリストのインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.4×39.5(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年) \*カタログ未掲載  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1636

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Christo (*The 10th Tokyo  
Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
26.4×39.5(40.9×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

ヤニス・クネリス作品の展示作業(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.4×21.6(40.9×51.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館フ  
ィルムセンター展示室、1999年) \*カタログ未掲載  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1637

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installing the Work of Jannis Kounellis (*The  
10th Tokyo Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
32.4×21.6(40.9×51.1)cm

**大辻清司(1923-2001)**

ヘル・ファン・エルク作品のインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.6×28.6(41.0×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館フ  
ィルムセンター展示室、1999年) \*カタログ未掲載  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1638

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Ger van Elk (*The 10th Tokyo  
Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
28.6×28.6(41.0×51.0)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

ヘル・ファン・エルク作品のインスタレーション(「人間と物質」展)

昭和45年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
28.6×28.6(40.9×51.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館フ  
ィルムセンター展示室、1999年) \*カタログ未掲載  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1639

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Installation of Ger van Elk (*The 10th Tokyo  
Biennale: between man and matter*)  
1970(1998 print)  
gelatin silver print  
28.6×28.6(40.9×51.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

佐藤慶次郎

昭和49年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、3点組  
各21.6×32.3(35.3×43.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1693

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

Sato Keijiro  
1974(1998 print)  
gelatin silver print, 3 pieces  
each 21.6×32.3(35.3×43.3)cm

**大辻清司(1923-2001)**

住まいができれば

昭和51年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
34.0×50.4(51.3×60.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1640

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

New House  
1976(1998 print)  
gelatin silver print  
34.0×50.4(51.3×60.4)cm

---

**大辻清司(1923-2001)**

住まいができれば

昭和51年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.6×26.7(55.8×46.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1641

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

New House  
1976(1998 print)  
gelatin silver print  
39.6×26.7(55.8×46.0)cm

**大辻清司(1923-2001)**

住まいができれば

昭和51年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.1×36.4(55.8×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1642

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

New House  
1976(1998 print)  
gelatin silver print  
24.1×36.4(55.8×45.9)cm

**大辻清司(1923-2001)**

住まいができれば

昭和51年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.4×34.2(55.8×46.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1643

**OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)**

New House  
1976(1998 print)  
gelatin silver print  
33.4×34.2(55.8×46.0)cm

---

大辻清司(1923-2001)

住まいができたら

昭和51年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.4×34.2(55.8×46.0)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1644

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

New House  
1976(1998 print)  
gelatin silver print  
33.4×34.2(55.8×46.0)cm

大辻清司(1923-2001)

住まいができたら

昭和51年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.4×34.2(55.8×45.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1645

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

New House  
1976(1998 print)  
gelatin silver print  
33.4×34.2(55.8×45.9)cm

大辻清司(1923-2001)

篠原一男

昭和51年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×32.4(35.3×43.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1694

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Shinohara Kazuo  
1976(1998 print)  
gelatin silver print  
21.6×32.4(35.3×43.3)cm

---

大辻清司(1923-2001)

ひと函の過去

昭和52年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.2×12.3(25.3×20.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1646

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

The Past in a Box  
1977(1998 print)  
gelatin silver print  
18.2×12.3(25.3×20.3)cm

大辻清司(1923-2001)

ひと函の過去

昭和52年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.2×12.3(25.3×20.4)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1647

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

The Past in a Box  
1977(1998 print)  
gelatin silver print  
18.2×12.3(25.3×20.4)cm

大辻清司(1923-2001)

瀧口修造の書齋

昭和55年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
38.0×37.8(50.7×60.8)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1695

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Takiguchi Shuzo's Study  
1980(1998 print)  
gelatin silver print  
38.0×37.8(50.7×60.8)cm

---

大辻清司(1923-2001)

瀧口修造の書齋

昭和55年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
38.0×37.8(50.8×60.8)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1696

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Takiguchi Shuzo's Study  
1980(1998 print)  
gelatin silver print  
38.0×37.8(50.8×60.8)cm

大辻清司(1923-2001)

瀧口修造の書齋

昭和55年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
38.0×37.8(50.6×60.6)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
購入  
Ph1697

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Takiguchi Shuzo's Study  
1980(1998 print)  
gelatin silver print  
38.0×37.8(50.6×60.6)cm

大辻清司(1923-2001)

展示をする斎藤義重、東京都美術館

昭和58年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.0×36.6(55.9×46.2)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1648

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Saito Yoshishige at Work, Tokyo  
Metropolitan Museum of Art  
1983(1998 print)  
gelatin silver print  
24.0×36.6(55.9×46.2)cm

---

大辻清司(1923-2001)

展示をする斎藤義重、東京都美術館

昭和58年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.0×36.5(55.6×46.1)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1649

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Saito Yoshishige at Work, Tokyo  
Metropolitan Museum of Art  
1983(1998 print)  
gelatin silver print  
24.0×36.5(55.6×46.1)cm

大辻清司(1923-2001)

展示をする斎藤義重、東京都美術館

昭和58年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.0×36.5(56.0×46.2)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1650

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Saito Yoshishige at Work, Tokyo  
Metropolitan Museum of Art  
1983(1998 print)  
gelatin silver print  
24.0×36.5(56.0×46.2)cm

大辻清司(1923-2001)

展示をする斎藤義重、東京都美術館

昭和58年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
24.0×36.5(55.8×46.2)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1651

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Saito Yoshishige at Work, Tokyo  
Metropolitan Museum of Art  
1983(1998 print)  
gelatin silver print  
24.0×36.5(55.8×46.2)cm



---

大辻清司(1923-2001)

展示をする斎藤義重、東京都美術館

昭和58年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
38.4×25.8(61.0×51.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1652

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Saito Yoshishige at Work, Tokyo  
Metropolitan Museum of Art  
1983(1998 print)  
gelatin silver print  
38.4×25.8(61.0×51.3)cm

大辻清司(1923-2001)

斎藤義重の作品、有楽町朝日ギャラリー

昭和61年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.6×39.1(51.1×60.8)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1653

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Saito Yoshishige's Work, Yurakucho Asahi Gallery  
1986(1998 print)  
gelatin silver print  
39.6×39.1(51.1×60.8)cm

大辻清司(1923-2001)

斎藤義重の作品、有楽町朝日ギャラリー

昭和61年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.6×39.2(51.1×60.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1654

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Saito Yoshishige's Work, Yurakucho Asahi Gallery  
1986(1998 print)  
gelatin silver print  
39.6×39.2(51.1×60.9)cm

---

大辻清司(1923-2001)

斎藤義重の作品、有楽町朝日ギャラリー

昭和61年(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.6×39.1(51.1×60.9)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年)  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1655

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

Saito Yoshishige's Work, Yurakucho Asahi Gallery  
1986(1998 print)  
gelatin silver print  
39.6×39.1(51.1×60.9)cm

大辻清司(1923-2001)

題名不詳[矢印]

撮影年不詳(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.1×12.3(25.3×20.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年) \*カタログ未掲載  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1656

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

title unknown [Arrow]  
n. d.(1998 print)  
gelatin silver print  
18.1×12.3(25.3×20.3)cm

大辻清司(1923-2001)

題名不詳[矢印]

撮影年不詳(平成10年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
13.1×13.1(25.3×20.3)cm  
「大辻清司写真実験室」展(東京国立近代美術館  
フィルムセンター展示室、1999年) \*カタログ未掲載  
大辻誠子氏寄贈  
Ph1657

OHTSUJI, Kiyoji (1923-2001)

title unknown [Arrow]  
n. d.(1998 print)  
gelatin silver print  
13.1×13.1(25.3×20.3)cm

---

鈴木崇(1971- )

Altus 020

平成17年  
タイプCプリント、アクリルにマウント、2点組、ed.1/5  
各63.0×40.0cm  
「写真の現在3 臨界をめぐる6つの試論」(東京国立  
近代美術館、2006年)  
作者寄贈  
Ph1670

SUZUKI, Takashi (1971- )

Altus 020

2005  
type C print mounted on acrylic, 2 pieces 1/5  
each 63.0×40.0cm

田村彰英(1947- )

「BASE」より 横田

昭和43年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
15.6×23.5(20.8×25.5)cm  
作者寄贈  
Ph1658

TAMURA, Akihide (1947- )

Yokota from "BASE"

1968  
gelatin silver print  
15.6×23.5(20.8×25.5)cm

田村彰英(1947- )

「BASE」より 横須賀

昭和43年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
15.9×23.8(20.7×25.6)cm  
作者寄贈  
Ph1659

TAMURA, Akihide (1947- )

Yokosuka from "BASE"

1968  
gelatin silver print  
15.9×23.8(20.7×25.6)cm

---

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：軍艦島全景

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.4cm  
購入  
Ph1698

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Views  
of Gunkanjima from "Human Land"  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.4cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：軍艦島全景

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×32.9cm  
購入  
Ph1699

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Views  
of Gunkanjima from "Human Land"  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
21.6×32.9cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：岩壁

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.9cm  
購入  
Ph1700

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: The  
Sea Wall from "Human Land"  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.9cm

---

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：時化

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.7×32.9cm  
購入  
Ph1701

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：時化

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.9cm  
購入  
Ph1702

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：時化

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.1×21.8cm  
購入  
Ph1703

---

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: In  
Stormy Weather from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.7×32.9cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: In  
Stormy Weather from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.9cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: from  
In Stormy Weather “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.1×21.8cm

---

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：ごみ捨て場

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.1×22.4cm  
購入  
Ph1704

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：ごみ捨て場

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.1×21.7cm  
購入  
Ph1705

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：地下道

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.8×32.8cm  
購入  
Ph1706

---

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The  
Dump from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
33.1×22.4cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The  
Dump from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
33.1×21.7cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The  
Tunnel from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.8×32.8cm

---

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：雪の貯炭場

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.5×32.8cm  
購入  
Ph1707

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：雪の貯炭場

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.8×32.9cm  
購入  
Ph1708

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：事故

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
22.3×32.8cm  
購入  
Ph1709

---

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Snow on  
the Coal-storage Yard from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
21.5×32.8cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Snow on  
the Coal-storage Yard from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.8×32.9cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: An  
Accident in the Mine from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
22.3×32.8cm

---

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島—軍  
艦島：立坑のリフトに乗る坑夫達

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×25.8cm  
購入  
Ph1710

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島—軍  
艦島：立坑のリフトに乗る坑夫達

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.8×21.9cm  
購入  
Ph1711

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島—軍  
艦島：立坑のリフトに乗る坑夫達

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.8cm  
購入  
Ph1712

---

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima:  
Miners in the Lift from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×25.8cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima:  
Miners in the Lift from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.8×21.9cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima:  
Miners in the Lift from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.8cm

---

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：立坑のリフトに乗る坑夫達  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.8cm  
購入  
Ph1713

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：立坑のリフトに乗る坑夫達  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.9cm  
購入  
Ph1714

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：坑道天井  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.9×33.0cm  
購入  
Ph1715

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Miners in the Lift from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.8cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Miners in the Lift from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.9cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The Roof of the Shaft from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.9×33.0cm

---

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：地底880m、採炭現場  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.7×32.9cm  
購入  
Ph1716

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：浴場  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.9×33.0cm  
購入  
Ph1717

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：浴場  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.7cm  
購入  
Ph1718

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Mining, 880 meters below the Sea Level from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.7×32.9cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: In the Communal Bath from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.9×33.0cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: In the Communal Bath from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.7cm

---

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：浴場  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.7cm  
購入  
Ph1719

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：浴場  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.7cm  
購入  
Ph1720

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：作業場と浮桟橋、夜景  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.9×33.0cm  
購入  
Ph1721

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: In the Communal Bath from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.7cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: In the Communal Bath from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.7cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The Mine and the Jetty at Night from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.9×33.0cm

---

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：街灯  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×25.8cm  
購入  
Ph1722

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：立坑夜景  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.8cm  
購入  
Ph1723

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパートの入口、夜景  
昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.8cm  
購入  
Ph1724

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Lamps from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×25.8cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The Mine Shaft at Night from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.8cm

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Apartment Entrance at Night from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.8cm

---

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパート俯瞰、昼景

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×33.2cm  
購入  
Ph1725

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Overhead Views of Apartments in Daylight from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.6×33.2cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパート俯瞰、昼景

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.8×32.9cm  
購入  
Ph1726

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Overhead Views of Apartments in Daylight from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.8×32.9cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパート俯瞰、昼景

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.8cm  
購入  
Ph1727

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Overhead Views of Apartments in Daylight from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.8cm

---

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパート

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.8cm  
購入  
Ph1728

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Apartments from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.8cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパート

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×23.5cm  
購入  
Ph1729

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Apartments from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×23.5cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパートの物干

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.6cm  
購入  
Ph1730

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Apartment Cloth-drying Pole Racks from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.6cm

---

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパートの階段

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
22.0×33.0cm  
購入  
Ph1731

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Apartment Stairs from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
22.0×33.0cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：アパートの道

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.8×32.9cm  
購入  
Ph1732

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Street between Apartments from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
21.8×32.9cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：夕食の買物時間

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.8×33.0cm  
購入  
Ph1733

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Time to Shop for Supper from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
21.8×33.0cm

---

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：汐降り防止の木戸

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×22.0cm  
購入  
ph1734

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Wooden Spray-protection Panels from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×22.0cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：日なたぼっこ

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.6cm  
購入  
Ph1735

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Sun-bathing from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.6cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より 緑なき島一軍艦島：海を見る少年

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.7×33.0cm  
購入  
Ph1736

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima: Boy Watching the Sea from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
21.7×33.0cm

奈良原一高(1931- )

「人間の土地」より

緑なき島—軍艦島：端島神社

昭和29-32年(昭和61年プリント)

ゼラチン・シルバー・プリント

21.9×33.0cm

購入

Ph1737

NARAHARA, Ikko (1931- )

Island without Green—Gunkanjima:

Hashima Shinto Shrine from “Human Land”

1954-57(1986 print)

gelatin silver print

21.9×33.0cm

平成20年度

資料

Supplementary Materials

北脇昇(1901-1951)

オブジェ

昭和12年頃

木

19.0×15.0×9.5cm

「北脇昇展」(東京国立近代美術館、1997年)

北脇道夫氏寄贈

M-644

KITAWAKI, Noboru (1901-1951)

Object

c.1937

wood

19.0×15.0×9.5cm

北脇昇(1901-1951)

オブジェ

昭和17年頃

木

27.0×27.0×5.7cm

「北脇昇展」(東京国立近代美術館、1997年)

北脇道夫氏寄贈

M-645

KITAWAKI, Noboru (1901-1951)

Object

c.1942

wood

27.0×27.0×5.7cm

平成21年度

日本画

Japanese-style Paintings

鏑木清方(1878-1972)

晩涼

大正9年

絹本彩色・軸

171.0×71.8cm

第5回金鈴社展(東京、竹の台陳列館、1920年)

購入

J-740

KABURAKI, Kiyokata (1878-1972)

Evening Cool

1920

color on silk, hanging scroll

171.0×71.8cm

吉川靈華(1875-1929)

藐姑射之処子

大正7年

紙本彩色・軸

170.0×75.0cm

第3回金鈴社展(東京、日本橋倶楽部、1918年)

購入

J-738

KIKKAWA, Reika (1875-1929)

Virgin at Mt. Hakoya

1918

color on paper, hanging scroll

170.0×75.0cm

三上誠(1919-1972)

冥

昭和134年

縄、漆喰、布、釘他、墨、彩色・板 額

111.1×151.6cm

第17回パンリアル展(京都市美術館、1959年)

GALLERY TERASHITA寄贈

J-739

MIKAMI, Makoto (1919-1972)

Darkness

1959

rope, plaster, cloth, nail etc, sumi and color on

board

111.1×151.6cm

平成21年度

油彩 その他

Oil Paintings, etc.

河口龍夫(1940- )

関係一質

昭和56年  
布、鉄、雨水、木製パネル  
183.2×91.7×1.5cm  
個展(名古屋、桜画廊、1982年)  
作者寄贈  
O-1215

KAWAGUCHI, Tatsuo (1940- )

Relation—Quality  
1981  
cotton cloth, iron, rainwater and wooden panel  
183.2×91.7×1.5cm

河口龍夫(1940- )

関係一質 青84-7

昭和59年  
布、銅、液体、木製パネル  
180.0×100.0×1.5cm  
個展(東京、雅陶堂ギャラリー一竹芝、1984年)  
作者寄贈  
O-1216

KAWAGUCHI, Tatsuo (1940- )

Relation—Quality (Blue 84-7)  
1984  
cotton cloth, copper plate, solution and wooden panel  
180.0×100.0×1.5cm

坂本繁二郎(1882-1969)

三月頃の牧場

大正4年  
油彩・キャンバス  
61.0×80.5cm  
第2回二科展(東京、日本橋三越呉服店、1915年)  
購入  
O-1209

SAKAMOTO, Hanjiro (1882-1969)

Dairy Farm about March  
1915  
oil on canvas  
61.0×80.5cm

中村一美(1956- )

存在の鳥 107

平成18年  
アクリリック・綿布  
260.1×190.8cm  
「中村一美 2008 存在の鳥 II」展(東京、南天子画廊、2008年)  
購入  
O-1212

NAKAMURA, Kazumi (1956- )

*Phasianus colchicus* (A Bird in its Existence) 107  
2006  
acrylic on cotton  
260.1×190.8cm

長谷川利行(1891-1940)

カフェ・パウリスタ

昭和3年  
油彩・キャンバス  
53.0×72.8cm  
第3回一九三〇年協会展(東京、日本美術協会、1928年)  
購入  
O-1211

HASEKAWA, Toshiyuki (1891-1940)

Cafe Paulista  
1928  
oil on canvas  
53.0×72.8cm

藤田嗣治(1886-1968)

ラ・フォンテーヌ頃

昭和24-35年  
油彩・キャンバス  
76.0×103.0cm  
寄贈  
O-1213

FUJITA, Tsuguharu (1886-1968)

Homage to *La Fontaine*  
1949-60  
oil on canvas  
76.0×103.0cm

藤田嗣治(1886-1968)

動物宴

昭和24-35年  
油彩・キャンバス  
75.7×117.0cm  
寄贈  
O-1214

FUJITA, Tsuguharu (1886-1968)

Feast of Animals  
1949-60  
oil on canvas  
75.7×117.0cm

李禹煥(1936- )

突きより

昭和49年  
墨・和紙  
145.0×112.0cm  
太田正樹氏寄贈  
O-1210

LEE, Ufan (1936- )

Push Up  
1974  
sumi on paper  
145.0×112.0cm

平成21年度

水彩・素描

Watercolors & Drawings

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-506

IKEMURA, Leiko(1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-507

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

---

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-508

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-509

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-510

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

---

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-511

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-512

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-513

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

---

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-514

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-515

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-516

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

---

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-517

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-518

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-519

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

---

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
購入  
D-520

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-521

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-522

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on canvas  
40.5×29.5cm

---

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-523

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-524

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-525

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

---

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-526

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-527

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-528

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

---

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-529

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-530

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm

イケムラレイコ(1951- )

樹の愛

平成19年  
パステル・紙  
40.5×29.5cm  
「現代美術への視点6 エモーショナル・ドロー  
イング」(東京国立近代美術館ほか、2008年)  
作者寄贈  
D-531

IKEMURA, Leiko (1951- )

Tree Love  
2007  
pastel on paper  
40.5×29.5cm



<p>イケムラレイコ(1951- )</p> <p>樹の愛</p> <p>平成19年 パステル・紙 40.5×29.5cm 「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」(東京国立近代美術館ほか、2008年) 作者寄贈 D-532</p>	<p>イケムラレイコ(1951- )</p> <p>樹の愛</p> <p>平成19年 パステル・紙 40.5×29.5cm 「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」(東京国立近代美術館ほか、2008年) 作者寄贈 D-533</p>	<p>イケムラレイコ(1951- )</p> <p>樹の愛</p> <p>平成19年 パステル・紙 40.5×29.5cm 「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」(東京国立近代美術館ほか、2008年) 作者寄贈 D-534</p>
<p>IKEMURA, Leiko (1951- )</p> <p>Tree Love</p> <p>2007 pastel on paper 40.5×29.5cm</p>	<p>IKEMURA, Leiko (1951- )</p> <p>Tree Love</p> <p>2007 pastel on paper 40.5×29.5cm</p>	<p>IKEMURA, Leiko (1951- )</p> <p>Tree Love</p> <p>2007 pastel on paper 40.5×29.5cm</p>
<p>イケムラレイコ(1951- )</p> <p>樹の愛</p> <p>平成19年 パステル・紙 40.5×29.5cm 「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」(東京国立近代美術館ほか、2008年) 作者寄贈 D-535</p>	<p>坂上チユキ(1961- )</p> <p>無題</p> <p>昭和55年頃 鉛筆・紙 40.7×31.0cm 購入 D-536</p>	<p>坂上チユキ(1961- )</p> <p>無題</p> <p>昭和55年頃 鉛筆・紙 40.5×31.0cm 購入 D-537</p>
<p>IKEMURA, Leiko (1951- )</p> <p>Tree Love</p> <p>2007 pastel on paper 40.5×29.5cm</p>	<p>SAKAGAMI, Chiyuki (1961- )</p> <p>Untitled</p> <p>c.1980 pencil on paper 40.7×31.0cm</p>	<p>SAKAGAMI, Chiyuki (1961- )</p> <p>Untitled</p> <p>c.1980 pencil on paper 40.5×31.0cm</p>
<p>坂上チユキ(1961- )</p> <p>無題</p> <p>昭和55年頃 鉛筆・紙 25.3×20.2cm 購入 D-538</p>	<p>坂上チユキ(1961- )</p> <p>フローズン・キング</p> <p>昭和57年 水彩・紙 14.4×25.7cm 購入 D-539</p>	<p>坂上チユキ(1961- )</p> <p>無題</p> <p>昭和57年頃 水彩、鉛筆・紙 22.0×14.7cm 購入 D-540</p>
<p>SAKAGAMI, Chiyuki (1961- )</p> <p>Untitled</p> <p>c.1980 pencil on paper 25.3×20.2cm</p>	<p>SAKAGAMI, Chiyuki (1961- )</p> <p>Frozen King</p> <p>1982 watercolor on paper 14.4×25.7cm</p>	<p>SAKAGAMI, Chiyuki (1961- )</p> <p>Untitled</p> <p>c.1982 watercolor and pencil on paper 22.0×14.7cm</p>
<p>坂上チユキ(1961- )</p> <p>捜神 7</p> <p>昭和59年 鉛筆・紙 22.0×14.7cm 購入 D-541</p>	<p>坂上チユキ(1961- )</p> <p>Amores Hallaras</p> <p>平成11年 水彩・紙 19.0×18.5cm 購入 W-224</p>	<p>坂上チユキ(1961- )</p> <p>淡水魚のテリーヌ、アール・ブリュット風(ジュヌヴィエーヴに捧ぐ)</p> <p>平成12年 水彩、顔料、鉱物、その他・紙 22.0×16.0cm 購入 W-225</p>
<p>SAKAGAMI, Chiyuki (1961- )</p> <p>In Search of the Supernatural 7</p> <p>1984 pencil on paper 22.0×14.7cm</p>	<p>SAKAGAMI, Chiyuki (1961- )</p> <p>Amores Hallaras</p> <p>1999 watercolor on paper 19.0×18.5cm</p>	<p>SAKAGAMI, Chiyuki (1961- )</p> <p>Terrine of Freshwater Fish in Art Brut Style (to Genevieve)</p> <p>2000 watercolor, pigment and mineral etc on paper 22.0×16.0cm</p>

前田青邨(1885-1977)

那須七湯

昭和3年  
墨、彩色・紙 画帖 26面  
32.8×42.6cm  
購入  
D-505

MAEDA, Seison (1885-1977)

Seven Spas of Nasu  
1928  
sumi and color on paper, 26 pages  
32.8×42.6cm

平成21年度

彫刻(立体造形)

Sculpture

河口龍夫(1940- )

DARK BOX 2009

平成21年  
鉄、闇  
37.0×60.0×35.0cm  
個展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
S-457

KAWAGUCHI, Tatsuo (1940- )

DARK BOX 2009

2009  
iron and darkness  
37.0×60.0×35.0cm

河口龍夫(1940- )

関係—種子、土、水、空気

昭和61-64年  
鉛、真鍮、銅、アルミニウム、種子、土、水、空気  
サイズ可変  
個展(大阪府立現代美術センター、1986年)  
購入  
S-458

KAWAGUCHI, Tatsuo (1940- )

Relation—Seed, Soil, Water, Air

1986-89  
lead, brass pipe, copper pipe, aluminum pipe, seed,  
soil, water and air  
dimension varied

湯原和夫(1930- )

無題 No.3-71

昭和46年  
真鍮、ニッケル・メッキ  
18.0×17.5×7.0cm  
フランス国際現代美術展 E.I.A.C (パリ、グラン・  
パレ、1976年)  
作者寄贈  
S-455

YUHARA, Kazuo (1930- )

Untitled No.3-71

1971  
brass and nickel plate  
18.0×17.5×7.0cm

湯原和夫(1930- )

作品 No.3-77

昭和52年  
鉛、ガラス  
19.0×17.0×16.5cm  
個展(神奈川県立近代美術館、1982年)  
作者寄贈  
S-456

YUHARA, Kazuo (1930- )

Work No.3-77

1977  
lead and glass  
19.0×17.0×16.5cm

ロバート・ラウシェンバーク(1925-2008)

ポテト・バツズ

昭和46年  
段ボール  
185.4×121.9×19.7cm  
「Filling the Gap」展(ニューヨーク、Richard Feigen  
& Co., 1989年)  
購入  
S-434

RAUSCHENBERG, Robert (1925-2008)

Potato Buds

1971  
corrugated cardboard  
185.4×121.9×19.7cm

平成21年度

映像

Video Works

ヴェイト・アコンチ(1940- )

適応についての3つの研究

昭和45年  
スーパー 8フィルム(デジタル・ベータカムに変  
換)、モノクロ・サイレント  
8分05秒  
配給: Electronic Arts Intermix  
購入  
V-5

ACCONCI, Vito (1940- )

Three Adaptation Studies

1970  
super 8 film(on video), b&w, silent  
8' 05"

ヴェイト・アコンチ(1940- )

こじ開け

昭和46年  
ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノ  
クロ・サウンド  
17分10秒  
配給: Electronic Arts Intermix  
購入  
V-6

ACCONCI, Vito (1940- )

Pryings

1971  
video, b&w, sound  
17' 10"

<p>ヴィト・アコンチ(1940- ) センターズ 昭和46年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノクロ・サウンド 22分28秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-7</p>	<p>ジョン・バルデッサリ(1931- ) I Am Making Art 昭和46年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノクロ・サウンド 18分40秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-8</p>	<p>ジョン・バルデッサリ(1931- ) 植物にアルファベットを教える 昭和47年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノクロ・サウンド 18分40秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-9</p>
<p>ACCONCI, Vito (1940- ) Centers 1971 video, b&amp;w, sound 22'28"</p>	<p>BALDESSARI, John (1931- ) I Am Making Art 1971 video, b&amp;w, sound 18'40"</p>	<p>BALDESSARI, John (1931- ) Teaching a Plant the Alphabet 1972 video, b&amp;w, sound 18'40"</p>
<p>ジョン・バルデッサリ(1931- ) 二つのグラスを同調させようとする4分間(フィル・グラス六重奏団のために) 昭和51年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノクロ・サウンド 4分09秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-10</p>	<p>リンダ・ベングリリス(1941- ) ナウ 昭和48年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、カラー・サウンド 12分00秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-11</p>	<p>ダラ・バーンバウム(1946- ) テクノロジー／トランスフォーメーション：ワンダーウーマン 昭和53-54年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、カラー・サウンド 5分50秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-12</p>
<p>BALDESSARI, John (1931- ) Four Minutes of Trying to Tune Two Glasses (For the Phil Glass Sextet) 1976 video, b &amp; w, sound 4'09"</p>	<p>BENGLIS, Lynda (1941- ) Now 1973 video, color, sound 12'00"</p>	<p>BIRNBAUM, Dara (1946- ) Technology/Transformation: Wonder Woman 1978-79 video, color, sound 5'50"</p>
<p>ナンシー・ホルト(1938- )と ロバート・スミッソン(1938-1973) 湿地 昭和46年 16ミリフィルム(デジタル・ベータカムに変換)、カラー・サウンド 6分00秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-13</p>	<p>ジョーン・ジョナス(1936- ) ヴァーティカル・ロール 昭和47年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノクロ・サウンド 19分38秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-14</p>	<p>ゴードン・マッタ＝クラーク(1943-1978) プログラム6 昭和49-51年 デジタル・ベータカムに変換、カラー／モノクロ・サウンド／サイレント 計40分50秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-15</p>
<p>HOLT, Nancy (1938- ) and SMITHSON, Robert (1938-1973) Swamp 1971 16 mm film(on video), color, sound 6'00"</p>	<p>JONAS, Joan (1936- ) Vertical Roll 1972 video, b&amp;w, sound 19'38"</p>	<p>MATTA-CLARK, Gordon (1943-1978) Program 6 1974-76 video, color/b &amp; w, sound/silent 40'50" in sum</p>
<p>ゴードン・マッタ＝クラーク(1943-1978) プログラム7 昭和50-平成17年 デジタル・ベータカムに変換、カラー／モノクロ・サウンド／サイレント 計44分00秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-16</p>	<p>ブルース・ナウマン(1941- ) スロー・アングル・ウォーク(ベケット・ウォーク) 昭和43年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノクロ・サウンド 60分00秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-17</p>	<p>ブルース・ナウマン(1941- ) コーナーで跳ねる No.1 昭和43年 ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノクロ・サウンド 60分00秒 配給：Electronic Arts Intermix 購入 V-18</p>
<p>MATTA-CLARK, Gordon (1943-1978) Program 7 1975-2005 video, color/b &amp; w, sound/silent 44'00" in sum</p>	<p>NAUMAN, Bruce (1941- ) Slow Angle Walk (Beckett Walk) 1968 video, b &amp; w, sound 60'00"</p>	<p>NAUMAN, Bruce (1941- ) Bouncing in the Corner No.1 1968 video, b&amp;w, sound 60'00"</p>

ブルース・ナウマン(1941- )

壁と床での姿勢

昭和43年  
ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノ  
クロ・サウンド  
6分00秒  
配給: Electronic Arts Intermix  
購入  
V-19

ブルース・ナウマン(1941- )

リップ・シンク

昭和44年  
ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノ  
クロ・サウンド  
57分00秒  
配給: Electronic Arts Intermix  
購入  
V-20

デニス・オッペンハイム(1938- )

プログラム4

昭和46-47年  
ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノ  
クロ・サイレント  
計44分40秒  
配給: Electronic Arts Intermix  
購入  
V-21

NAUMAN, Bruce (1941- )

Wall-Floor Positions

1968  
video, b&w, sound  
60'00"

NAUMAN, Bruce (1941- )

Lip Sync

1969  
video, b&w, sound  
57'00"

OPPENHEIM, Dennis (1938- )

Program 4

1971-72  
video, b&w, silent  
44'40" in sum

マーサ・ロスラー(1943- )

キッチン記号論

昭和50年  
ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、モノ  
クロ・サウンド  
6分09秒  
配給: Electronic Arts Intermix  
購入  
V-22

ロバート・スミッソン(1938-1973)

スパイラル・ジェット

昭和45年  
16ミリフィルム(デジタル・ベータカムに変換)、  
カラー・サウンド  
35分00秒  
配給: Electronic Arts Intermix  
購入  
V-23

ビル・ヴィオラ(1951- )

映り込む池 作品集1977-80

昭和52-55年  
ビデオ(デジタル・ベータカムに変換)、カラー・  
サウンド  
計60分36秒  
配給: Electronic Arts Intermix  
購入  
V-24

ROSLER, Martha (1943- )

Semiotics of the Kitchen

1975  
video, b&w, sound  
6'09"

SMITHSON, Robert (1938-1973)

Spiral Jetty

1970  
16 mm film(on video), color, sound  
35'00"

VIOLA, Bill (1951- )

The Reflecting Pool – Collected Works 1977-80

1977-80  
video, color, sound  
60'36" in sum

平成21年度

写真

Photographic Works

河口龍夫(1940- )

113cm (鉄道)

昭和48年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
各72.8×103.0cm 2点組  
初出品展: 第12回サンパウロ・ビエンナーレ(サン  
パウロ美術館、1973年)  
購入  
Ph1786

河口龍夫(1940- )

無題(防波堤)

昭和48年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
各72.8×103.0cm 2点組  
初出品展: 第12回サンパウロ・ビエンナーレ(サン  
パウロ美術館、1973年)  
購入  
Ph1787

KAWAGUCHI, Tatsuo (1940- )

113cm(Railroad)

1973  
gelatin silver print  
each 72.8×103.0cm 2pieces

KAWAGUCHI, Tatsuo (1940- )

untitled(Seawall)

1973  
gelatin silver print  
each 72.8×103.0cm 2pieces

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 坂本九 歌手

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.7(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近  
代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1773

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 畠山みどりさん 歌手

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.4(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近  
代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1774

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 松村達雄 俳優

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近  
代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1775

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Sakamoto Kyu, Singer from "Otsukaresama"

1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.7(45.7×56.0)cm

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Hatakeyama Midori, Singer from "Otsukaresama"

1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.4(45.7×56.0)cm

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Matsumura Tatsuo, Actor from "Otsukaresama"

1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 田辺靖雄・榎みちよ 歌手

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.4(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1776

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Tanabe Yasuo and Azusa Michiyo, Singer from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.4(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 小川真由美 俳優

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.0(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1777

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Ogawa Mayumi, Actress from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.0(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 上原ゆかり  
タレント(当時)

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1778

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Uehara Yukari, TV Personality from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 渥美清 俳優

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1779

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Atsumi Kiyoshi, Actor from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 横山道代  
タレント

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.4(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1780

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Yokoyama Michiyo, TV Personality from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.4(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 青島幸男  
テレビ作家(当時)

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1781

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Aoshima Yukio, TV Writer from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 木島則夫 TV  
キャスター(当時)

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1782

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Kijima Norio, Anchor Man from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.3(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より ザ・ピーナッツ  
(伊藤エミ・ユミ) 歌手

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.5(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1783

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

The Peanuts (Ito Emi and Yumi), Singer from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.5(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「オツカレサマ」より 長谷川一夫  
俳優

昭和39年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
39.3×48.4(45.7×56.0)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1784

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Hasegawa Kazuo, Actor from “*Otsukaresama*”  
1964(2008 print)  
gelatin silver print  
39.3×48.4(45.7×56.0)cm

高梨豊(1935- )

「東京人」より 台東区 浅草寺 29 Augst

昭和40年(平成20年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
20.3×30.6(27.9×35.6)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
Ph1785

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Sensoji Temple, Taito-ku from “Tokyoites”  
1965(2008 print)  
gelatin silver print  
20.3×30.6(27.9×35.6)cm

高梨豊(1935- )

「町」より 本郷 文京区本郷四ノ  
三五ノ四 うさぎや

昭和50年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
購入  
Ph1833

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Hongo: Usagiya Store, 4-35-4 Hongo,  
Bunkyo-ku from “Machi”  
1975(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

高梨豊(1935- )

「町」より 本郷 文京区本郷六ノ  
一七ノ一 万定パーラー

昭和50年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年)  
購入  
Ph1834

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Hongo: Manjo Parlor, 6-17-1 Hongo,  
Bunkyo-ku from “Machi”  
1975(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

---

高梨豊(1935- )

「町」より 白山・小石川 文京区小石川二ノ二四ノ一四 砂糖店

昭和50年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1835

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Hakusan, Koishikawa: Suger shop, 2-24-14  
Koishikawa, Bunkyo-ku from “Machi”  
1975(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

高梨豊(1935- )

「町」より 佃 中央区佃一ノ三ノ六 井戸のある土間

昭和51年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1836

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Tsukuda: Earth floor with an well, 1-3-6  
Tsukuda, Chuo-ku from “Machi”  
1976(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

高梨豊(1935- )

「町」より 佃 中央区佃一ノ三ノ一四 天安佃煮店

昭和51年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1837

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Tsukuda: Tenyasu Tsukudani Shop, 1-3-14  
Tsukuda, Chuo-ku from “Machi”  
1976(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

---

高梨豊(1935- )

「町」より 佃 中央区佃二ノ二一ノ八 仕出屋岡平

昭和51年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1838

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Tsukuda: Okahei Restaurant, 2-21-8,  
Tsukuda, Chiyoda-ku from “Machi”  
1976(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

高梨豊(1935- )

「町」より 三田・芝 港区芝五ノ三ノ一 三分間写真

昭和51-52年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1839

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Mita, Shiba: 3 minutes photo booth, 5-31-1  
Shiba, Minato-ku from “Machi”  
1976-77(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

高梨豊(1935- )

「町」より 三田・芝 港区芝五ノ二〇ノ一四 鈴木鋼商店

昭和51-52年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1840

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Mita, Shiba: Suzuki Steal Shop, 5-20-14  
Shiba, Minato-ku from “Machi”  
1976-77(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

---

高梨豊(1935- )

「町」より 神田 千代田区淡路町二ノ八 加島屋酒店

昭和52年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1841

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Kanda: Kashimaya Liquor Store, 2-8 Awaji-cho,  
Chiyoda-ku from “Machi”  
1977(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

高梨豊(1935- )

「町」より 神田 千代田区神田司町二ノ八ノ二 桃太郎菓子舗

昭和52年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1842

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Kanda: Momotaro Sweet Shop, 2-8-2  
Kandatsukasa-cho, Chiyoda-ku from “Machi”  
1977(2008 print)  
type C print  
43.7×55.2(54.0×63.3)cm

高梨豊(1935- )

「新宿／都市のテキスト」より  
ゴールデン街 博多

昭和57年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
44.4×55.0(53.0×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1843

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Golden-gai Street, Bar Hakata from “Text  
of the City: Shinjuku”  
1982(2008 print)  
type C print  
44.4×55.0(53.0×63.3)cm

---

高梨豊(1935- )

「新宿／都市のテキスト」より  
ゴールデン街 文庫屋

昭和57年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.4×55.5(53.4×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1844

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Golden-gai Street, Bar Bunkoya from “Text  
of the City: Shinjuku”  
1982(2008 print)  
type C print  
43.4×55.5(53.4×63.3)cm

高梨豊(1935- )

「新宿／都市のテキスト」より  
ゴールデン街 摘人

昭和57年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
44.4×56.3(52.5×63.2)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1845

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Golden-gai Street, Bar Tsumibito from  
“Text of the City: Shinjuku”  
1982(2008 print)  
type C print  
44.4×56.3(52.5×63.2)cm

高梨豊(1935- )

「新宿／都市のテキスト」より  
ゴールデン街 唯尼庵

昭和57年(平成20年プリント)  
タイプCプリント  
43.4×55.3(52.7×63.3)cm  
「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館, 2009年)  
購入  
Ph1846

TAKANASHI, Yutaka (1935- )

Golden-gai Street, Bar Yuinian from “Text  
of the City: Shinjuku”  
1982(2008 print)  
type C print  
43.4×55.3(52.7×63.3)cm

<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より ゴールデン街 ルル 昭和157年(平成20年プリント) タイプCプリント 43.3×55.4(53.3×63.4)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1847</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) Golden-gai Street, Bar Lulu from “Text of the City: Shinjuku” 1982(2008 print) type C print 43.3×55.4(53.3×63.4)cm</p>	<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より ゴールデン街 ブーサン 昭和157年(平成20年プリント) タイプCプリント 44.2×55.3(52.2×63.3)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1848</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) Golden-gai Street, Bar Pusan from “Text of the City: Shinjuku” 1982(2008 print) type C print 44.2×55.3(52.2×63.3)cm</p>	<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より ゴールデン街 ミッキーハウス 昭和157年(平成20年プリント) タイプCプリント 43.5×56.3(52.3×63.0)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1849</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) Golden-gai Street, Bar Mickey House from “Text of the City: Shinjuku” 1982(2008 print) type C print 43.5×56.3(52.3×63.0)cm</p>
<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より ゴールデン街 まえだ 昭和157年(平成20年プリント) タイプCプリント 43.4×55.5(53.3×63.3)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1850</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) Golden-gai Street, Bar Maeda from “Text of the City: Shinjuku” 1982(2008 print) type C print 43.4×55.5(53.3×63.3)cm</p>	<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より 太宗寺・塩地蔵尊 昭和157年(平成20年プリント) タイプCプリント 34.3×43.4(42.7×52.4)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1851</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) <i>Shio-jizoson</i>, Taisoji Temple from “Text of the City: Shinjuku” 1982(2008 print) type C print 34.3×43.4(42.7×52.4)cm</p>	<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より 太宗寺・閻魔像 昭和157年(平成20年プリント) タイプCプリント 34.3×43.7(42.8×52.4)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1852</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) <i>Enma-zo</i> (Statue of Yama), Taisoji Temple from “Text of the City: Shinjuku” 1982(2008 print) type C print 34.3×43.7(42.8×52.4)cm</p>
<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より 花園神社・状況劇場赤テント 昭和157年(平成20年プリント) タイプCプリント 34.3×43.7(43.0×53.3)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1853</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) Jokyo Gekijo Theater, Red Tent, Hanazonojinja Shrine from “Text of the City: Shinjuku” 1982(2008 print) type C print 34.3×43.7(43.0×53.3)cm</p>	<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より 路地 昭和158年(平成20年プリント) タイプCプリント 43.4×34.3(53.3×42.7)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1854</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) Back Alley from “Text of the City: Shinjuku” 1983(2008 print) type C print 43.4×34.3(53.3×42.7)cm</p>	<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より 路地 昭和158年(平成20年プリント) タイプCプリント 43.4×34.3(53.3×42.7)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1855</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) Back Alley from “Text of the City: Shinjuku” 1983(2008 print) type C print 43.4×34.3(53.3×42.7)cm</p>
<p>高梨豊(1935- ) 「新宿／都市のテキスト」より 路地 昭和158年(平成20年プリント) タイプCプリント 44.2×35.0(52.2×44.0)cm 「高梨豊 光のフィールドノート」展(東京国立近代美術館、2009年) 購入 Ph1856</p> <p>TAKANASHI, Yutaka (1935- ) Back Alley from “Text of the City: Shinjuku” 1983(2008 print) type C print 44.2×35.0(52.2×44.0)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：軍艦島全景 昭和129-32年(昭和161年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 22.0×32.9(27.9×35.6)cm 裏面に署名、プリント年 購入 Ph1788</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Views of Gunkanjima from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 22.0×32.9(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：時化 昭和129-32年(昭和162年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.8×32.9(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1789</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: In Stormy Weather from “Human Land” 1954-57(1987 print) gelatin silver print 21.8×32.9(27.9×35.6)cm</p>

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：岩壁

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
22.0×32.8(27.9×35.6)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1790

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The  
Sea Wall from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
22.0×32.8(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：地下道

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.8×22.5(35.6×27.9)cm  
裏面に署名、プリント年  
購入  
Ph1791

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The  
Tunnel from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.8×22.5(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：地下道

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.8×22.5(35.6×27.9)cm  
裏面に署名、プリント年  
購入  
Ph1792

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: The  
Tunnel from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.8×22.5(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：一服

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.8(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1793

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima:  
Relaxing with a Smoke from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：一服

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.8(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1794

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima:  
Relaxing with a Smoke from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：浴場

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.9(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1795

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: In  
the Communal Bath from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.9(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島—軍  
艦島：アパートの俯瞰、夜景

昭和29-32年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
18.5×27.7(20.0×30.3)cm  
購入  
Ph1796

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Overhead View of  
Apartments at Night from “Human Land”  
1954-57  
gelatin silver print  
18.5×27.7(20.0×30.3)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島—軍  
艦島：汐降り防止の木戸

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.8(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1797

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Wooden  
Spray-protection Panels from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：お使いの子供

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.8(35.6×27.9)cm  
裏面に署名、プリント年  
購入  
Ph1798

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Child  
on an Errand from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：夕食の支度

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×22.0(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1799

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima:  
Preparing Supper from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×22.0(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 緑なき島—軍  
艦島：潜水服のある風景

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.8(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1800

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: View  
with Diving Suit from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：潜水夫

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.9(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1801

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima: Diver  
from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.9(35.6×27.9)cm



<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：子守りの老人達 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 22.0×33.0(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1802</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Old People Caring for the Young from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 22.0×33.0(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：帰り道 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.5×32.9(27.9×35.6)cm 購入 Ph1803</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Going Home from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 21.5×32.9(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：水のないプール 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.8×33.0(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1804</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Pool without Water from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 21.8×33.0(27.9×35.6)cm</p>
<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：水のないプール 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.8×33.0(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1805</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Pool without Water from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 21.8×33.0(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍 艦島：雪の貯炭場の少年 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 33.0×21.7(35.6×27.9)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1806</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Boy in the Coal-storage yard in Snow from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 33.0×21.7(35.6×27.9)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：端島神社 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 33.0×21.8(35.6×27.9)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1807</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Hashima Shinto Shrine from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 33.0×21.8(35.6×27.9)cm</p>
<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍 艦島：アマリリスのあるバルコニー 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.5×33.0(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1808</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Balcony with Amaryllis from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 21.5×33.0(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍 艦島：屋上のラジオ・アンテナ 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.9×33.1(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1809</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Rooftop Radio Antennas from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 21.9×33.1(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍 艦島：中ノ島の無縁墓地 昭和29-32年(平成8年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 32.6×21.6(35.6×27.9)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1810</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Graveyard for Those with no Surviving Relatives, Nakanoshima Island from “Human Land” 1954-57(1996 print) gelatin silver print 32.6×21.6(35.6×27.9)cm</p>
<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍 艦島：葬式船を見送る人々 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 33.0×22.0(35.6×27.9)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1811</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Watching the Funeral Boat Leave from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 33.0×22.0(35.6×27.9)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：アパートの屋上 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 33.0×21.8(35.6×27.9)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1812</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Apartment Rooftop from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 33.0×21.8(35.6×27.9)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 緑なき島—軍艦島：アパートの窓 昭和29-32年(昭和61年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 32.9×21.8(35.6×27.9)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1813</p> <p>NARAHARA, Ikko (1931- ) Island without Green—Gunkanjima: Apartment Windows from “Human Land” 1954-57(1986 print) gelatin silver print 32.9×21.8(35.6×27.9)cm</p>

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：落日

昭和29-32年(昭和61年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
22.0×33.0(27.9×35.6)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1814

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima:  
Sunset from “Human Land”  
1954-57(1986 print)  
gelatin silver print  
22.0×33.0(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
緑なき島—軍艦島：夕陽の軍艦島

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.9(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1815

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Island without Green—Gunkanjima:  
Gunkanjima in Sunset Light from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.9(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
火の山の麓—黒神村：夜の熔岩

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.0×21.0(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1816

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Lava at Night from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
32.0×21.0(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 火の山の麓—黒神  
村：壊れた水道管(エタニット・パイプ)

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.7×32.9(27.9×35.6)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1817

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Broken Water Pipe (Eternit Pipe) from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
21.7×32.9(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
火の山の麓—黒神村：噴煙

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.9(35.6×27.9)cm  
裏面に署名、プリント年  
購入  
Ph1818

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Volcanic Smoke from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.9(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
火の山の麓—黒神村：噴煙

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.8×21.6(35.6×27.9)cm  
裏面に署名、プリント年  
購入  
Ph1819

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Volcanic Smoke from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
32.8×21.6(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
火の山の麓—黒神村：晴れた日

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.7(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1820

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: On a Fair Day from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.7(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
火の山の麓—黒神村：草を取る老婆

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.6×33.0(27.9×35.6)cm  
裏面に署名、プリント年  
購入  
Ph1821

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Old Woman Cutting Grass from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
21.6×33.0(27.9×35.6)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
火の山の麓—黒神村：草を取る老婆

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.0×21.7(35.6×27.9)cm  
裏面に署名、プリント年  
購入  
Ph1822

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Old Woman Cutting Grass from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
33.0×21.7(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
火の山の麓—黒神村：破れた野良着

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
32.9×21.9(35.6×27.9)cm  
裏面に署名、プリント年  
購入  
Ph1823

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Worn-out Field Smock from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
32.9×21.9(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より  
火の山の麓—黒神村：水を運ぶ女

昭和29-32年(平成8年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.5×21.8(35.6×27.9)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1824

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Woman Carrying Water from “Human Land”  
1954-57(1996 print)  
gelatin silver print  
26.5×21.8(35.6×27.9)cm

奈良原一高(1931- )  
「人間の土地」より 火の山の麓—  
黒神村：ふき採りの帰り道

昭和29-32年(昭和62年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
21.9×33.0(27.9×35.6)cm  
裏面にプリント年  
購入  
Ph1825

NARAHARA, Ikko (1931- )  
Village at the Foot of the Volcano—Kurokami  
Mura: Returning from Picking Butterbur from “Human Land”  
1954-57(1987 print)  
gelatin silver print  
21.9×33.0(27.9×35.6)cm

<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 火の山の麓—黒神村：しらみ取り 昭和29-32年(昭和62年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.7×33.0(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1826 NARAHARA, Ikko (1931- ) Village at the Foot of the Volcano—Kurokami Mura: Picking Lice from “Human Land” 1954-57(1987 print) gelatin silver print 21.7×33.0(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 火の山の麓—黒神村：溶岩の道 昭和29-32年(昭和62年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.9×33.0(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1827 NARAHARA, Ikko (1931- ) Village at the Foot of the Volcano—Kurokami Mura: Paths through Lava from “Human Land” 1954-57(1987 print) gelatin silver print 21.9×33.0(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 火の山の麓—黒神村：溶岩の道 昭和29-32年(昭和62年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.7×32.9(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1828 NARAHARA, Ikko (1931- ) Village at the Foot of the Volcano—Kurokami Mura: Paths through Lava from “Human Land” 1954-57(1987 print) gelatin silver print 21.7×32.9(27.9×35.6)cm</p>
<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 火の山の麓—黒神村：薪運び 昭和29-32年(昭和62年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 21.6×32.8(27.9×35.6)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1829 NARAHARA, Ikko (1931- ) Village at the Foot of the Volcano—Kurokami Mura: Carrying Firewood from “Human Land” 1954-57(1987 print) gelatin silver print 21.6×32.8(27.9×35.6)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 火の山の麓— 黒神村：穴のあいた天井 昭和29-32年(昭和62年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 32.6×21.5(35.6×27.9)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1830 NARAHARA, Ikko (1931- ) Village at the Foot of the Volcano—Kurokami Mura: Hole in the Kitchen Ceiling from “Human Land” 1954-57(1987 print) gelatin silver print 32.6×21.5(35.6×27.9)cm</p>	<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 火の山の麓— 黒神村：夜の部屋の片隅 昭和29-32年(昭和62年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 32.6×21.3(35.6×27.9)cm 裏面にプリント年 購入 Ph1831 NARAHARA, Ikko (1931- ) Village at the Foot of the Volcano—Kurokami Mura: Room Corner at Night from “Human Land” 1954-57(1987 print) gelatin silver print 32.6×21.3(35.6×27.9)cm</p>
<p>奈良原一高(1931- ) 「人間の土地」より 火の山の麓—黒神村：むしろの扉 昭和29-32年(昭和62年プリント) ゼラチン・シルバー・プリント 32.7×21.5(35.6×27.9)cm 裏面に署名、プリント年 購入 Ph1832 NARAHARA, Ikko (1931- ) Village at the Foot of the Volcano—Kurokami Mura: Straw-mat Door from “Human Land” 1954-57(1987 print) gelatin silver print 32.7×21.5(35.6×27.9)cm</p>	<p>松江泰治(1963- ) GREECE11634 平成13年 タイプCプリント、アクリルにマウント、額装、 ed. 2/5 110.0×137.5(122.7×177.2)cm 裏面に題名、年記、エディション番号 購入 Ph1857 MATSUE, Taiji (1963- ) GREECE11634 2001 type C print, mounted on acrylic, framed 110.0×137.5(122.7×177.2)cm</p>	<p>松江泰治(1963- ) BJX41115 平成16年 タイプCプリント、アクリルにマウント、額装、 ed. 4/5 110.0×137.5(122.7×177.2)cm 裏面に題名、年記、エディション番号 購入 Ph1858 MATSUE, Taiji (1963- ) BJX41115 2004 type C print, mounted on acrylic, framed 110.0×137.5(122.7×177.2)cm</p>
<p>松江泰治(1963- ) ECUADOR70346 平成19年 タイプCプリント、アクリルにマウント、額装、 ed. 1/5 110.0×137.5(122.7×177.2)cm 裏面に題名、年記、エディション番号 購入 Ph1859 MATSUE, Taiji (1963- ) ECUADOR70346 2007 type C print, mounted on acrylic, framed 110.0×137.5(122.7×177.2)cm</p>	<p>松江泰治(1963- ) 12HAJ 平成15/19年 タイプCプリント、アクリルにマウント、ed. 3/5 45.0×45.0cm 裏面に題名、年記、エディション番号 購入 Ph1860 MATSUE, Taiji (1963- ) 12HAJ 2003/2007 type C print, mounted on acrylic, framed 45.0×45.0cm</p>	<p>松江泰治(1963- ) 20PAR 平成15/19年 タイプCプリント、アクリルにマウント、ed. 3/5 45.0×45.0cm 裏面に題名、年記、エディション番号 購入 Ph1861 MATSUE, Taiji (1963- ) 20PAR 2003/2007 type C print, mounted on acrylic, framed 45.0×45.0cm</p>

松江泰治(1963- )

22GRX

平成17/19年  
タイプCプリント、アクリルにマウント、ed. 4/5  
45.0×45.0cm  
裏面に題名、年記、エディション番号  
購入  
Ph1862

MATSUE, Taiji (1963- )

22GRX

2005/2007  
type C print, mounted on acrylic, framed  
45.0×45.0cm

松江泰治(1963- )

25LIS

平成17/19年  
タイプCプリント、アクリルにマウント、ed. 3/5  
45.0×45.0cm  
裏面に題名、年記、エディション番号  
購入  
Ph1863

MATSUE, Taiji (1963- )

25LIS

2005/2007  
type C print, mounted on acrylic, framed  
45.0×45.0cm

松江泰治(1963- )

28NCE

平成17/19年  
タイプCプリント、アクリルにマウント、ed. 2/5  
45.0×45.0cm  
裏面に題名、年記、エディション番号  
購入  
Ph1864

MATSUE, Taiji (1963- )

28NCE

2005/2007  
type C print, mounted on acrylic, framed  
45.0×45.0cm

松江泰治(1963- )

31EC

平成19年  
タイプCプリント、アクリルにマウント、ed. 2/5  
45.0×45.0cm  
裏面に題名、年記、エディション番号  
購入  
Ph1865

MATSUE, Taiji (1963- )

31EC

2007  
type C print, mounted on acrylic, framed  
45.0×45.0cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より

1. 夜景、マンハッタン

昭和7年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
24.1×26.2cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作:Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-001

Berenice Abott (1898-1991)

1. Night Scene, Manhattan from the portfolio "10 Photographs"  
1932(1976 print)  
gelatin silver print  
24.1×26.2cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より

2. ジェイムズ・ジョイス

昭和3年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
34.4×26.7cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作:Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-002

Berenice Abott (1898-1991)

2. James Joyce from the portfolio "10 Photographs"  
1928(1976 print)  
gelatin silver print  
34.4×26.7cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より

3. ウジェーヌ・アジェ

昭和12年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
33.8×26.3cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作:Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-003

Berenice Abott (1898-1991)

3. Eugene Atget from the portfolio "10 Photographs"  
1927(1976 print)  
gelatin silver print  
33.8×26.3cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より

4. プリンセス・ウジェーヌ・ムラ

昭和14年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
34.5×26.7cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作:Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-004

Berenice Abott (1898-1991)

4. Princess Eugene Murat from the portfolio "10 Photographs"  
1929(1976 print)  
gelatin silver print  
34.5×26.7cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より

5. エドワード・ホッパー

昭和22年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
34.2×26.7cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作:Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-005

Berenice Abott (1898-1991)

5. Edward Hopper from the portfolio "10 Photographs"  
1947(1976 print)  
gelatin silver print  
34.2×26.7cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より

6. エクスチェンジ・プレイス

昭和19年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
35.0×9.3cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作:Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-006

Berenice Abott (1898-1991)

6. Exchange Place from the portfolio "10 Photographs"  
1934(1976 print)  
gelatin silver print  
35.0×9.3cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より

7. 5番街8丁目

昭和11年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
26.8×34.5cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作:Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-007

Berenice Abott (1898-1991)

7. Fifth Avenue at 8th Street from the portfolio "10 Photographs"  
1936(1976 print)  
gelatin silver print  
26.8×34.5cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より

8. ブロッサム・レストラン、パワリー地区

昭和10年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
26.8×34.2cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作:Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-008

Berenice Abott (1898-1991)

8. Blossom Restaurant, the Bowery from the portfolio "10 Photographs"  
1935(1976 print)  
gelatin silver print  
26.8×34.2cm

---

ベレニス・アボット(1898-1991)  
ポートフォリオ「10点の写真」より  
9. 工場の倉庫、ブルックリン

昭和11年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
27.2×34.2cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作: Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-009

Berenice Abott (1898-1991)

9. Factory Warehouse, Brooklyn from the portfolio "10 Photographs"  
1936(1976 print)  
gelatin silver print  
27.2×34.2cm

ベレニス・アボット(1898-1991)

ポートフォリオ「10点の写真」より  
10. 多数の鏡とレンズによる構成実験

昭和34-35年(昭和51年プリント)  
ゼラチン・シルバー・プリント、ed. 30/50  
34.8×27.3cm  
台紙裏面にスタンプ、署名、エディション番号  
ポートフォリオ制作: Witkin-Berley Ltd. (ニューヨーク)  
購入  
Ph1866-010

Berenice Abott (1898-1991)

10. Experiment of Lens Formation with Many  
Mirrors from the portfolio "10 Photographs"  
1959-60(1976 print)  
gelatin silver print  
34.8×27.3cm

平成21年度

資料

Supplementary Materials

---

河口龍夫(1940- )

relation latitude 35.69052 longitude 139.75470

平成21年  
本(178枚のドローイング(複写))  
30.2×42.8×2.5cm  
個展(東京国立近代美術館、2009年)  
作者寄贈  
H213K107

KAWAGUCHI, Tatsuo (1940- )

relation latitude 35.69052 longitude

139.75470  
2009  
book (photocopies of 178 drawings)  
30.2×42.8×2.5cm

---

工芸作品の購入、受贈による新収蔵作品は次のとおり。

【平成20年度】

陶磁84点(購入3点、受贈81点)、染織11点(受贈11点)、漆工20点(受贈20点)、金工3点(購入1点、受贈2点)、木工9点(受贈9点)、ガラス3点(受贈3点)、工業デザイン15点(購入1点、受贈14点)、工芸資料2点(受贈2点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of crafts during fiscal 2008 were as follows: 84 ceramic works (3 purchased, 81 donated); 11 textiles (11 donated); 20 lacqueredwares (20 donated); 3 metal works (1 purchased, 2 donated); 9 wood works (9 donated); 3 glass works (3 donated); 15 item of industrial design works (1 purchased, 14 donated); and 2 reference materials (2 donated).

【平成21年度】

陶磁44点(購入37点、受贈7点)、染織10点(購入2点、受贈8点)、金工32点(購入1点、受贈31点)、木工10点(受贈10点)、ガラス3点(購入3点)、人形2点(購入2点)、工芸資料3点(受贈3点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of crafts during fiscal 2009 were as follows: 44 ceramic works (37 purchased, 7 donated); 10 textiles (2 purchased, 8 donated); 32 metal works (1 purchased, 31 donated); 10 wood works (10 donated); 3 glass works (3 purchased); 2 dolls (2 purchased); and 3 reference materials (3 donated).

平成20年度

陶磁

Ceramic Works

荒川豊蔵(1894-1985)

織部香合

昭和34年  
陶器  
h3.5 w6.1 d6.2cm  
寄贈  
Cr0757

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Incensecase, *oribe* type  
1959  
stoneware  
h3.5 w6.1 d6.2cm

荒川豊蔵(1894-1985)

志野茶碗 春霞

昭和40年頃  
陶器  
h9.9 D12.2cm  
寄贈  
Cr0770

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, "Haru-gasumi (spring haze)",  
*shino* type  
c.1965  
stoneware  
h9.9 D12.2cm

荒川豊蔵(1894-1985)

志野盃 隆廣

昭和42年  
陶器  
h4.8 D7.8cm  
寄贈  
Cr0772

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Sake cup, "Ryuko", *shino* type  
1967  
stoneware  
h4.8 D7.8cm

荒川豊蔵(1894-1985)

志野茶碗 新雪

昭和44年  
陶器  
h9.5 D12.5cm  
寄贈  
Cr0758

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, "Shinsetsu", *shino* type  
1969  
stoneware  
h9.5 D12.5cm

荒川豊蔵(1894-1985)

志野茶碗 朝陽

昭和44年  
陶器  
h10.0 w13.3 d13.5cm  
寄贈  
Cr0759

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, "Choyo", *shino* type  
1969  
stoneware  
h10.0 w13.3 d13.5cm

---

荒川豊蔵(1894-1985)

志野茶碗 氷梅

昭和45年  
陶器  
h9.8 w13.5 d13.6cm  
第17回日本伝統工芸展  
寄贈  
Cr0760

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, "Kooriume", *shino* type  
1970  
stoneware  
h9.8 w13.5 d13.6cm

荒川豊蔵(1894-1985)

志野盃

昭和45年  
陶器  
h4.8 D7.1cm  
寄贈  
Cr0773

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

*Sake* cup, *shino* type  
1970  
stoneware  
h4.8 D7.1cm

荒川豊蔵(1894-1985)

赤絵花鳥図壺

昭和46年  
磁器  
h17.7 w15.1 d15.0cm  
荒川豊蔵染付赤絵展  
寄贈  
Cr0761

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Jar, overglaze red enamel, flower and bird design  
1971  
porcelain  
h17.7 w15.1 d15.0cm

---

荒川豊蔵(1894-1985)

赤絵桜徳利

昭和46年  
磁器  
h13.7 D8.0cm  
荒川豊蔵染付赤絵展  
寄贈  
Cr0762

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

*Sake* bottle, cherry blossoms design, overglaze red enamels  
1971  
porcelain  
h13.7 D8.0cm

荒川豊蔵(1894-1985)

赤絵桜盃

昭和46年  
磁器  
h6.4 w5.8 d5.7cm  
寄贈  
Cr0763

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

*Sake* cup, cherry blossoms design, overglaze enamels  
1971  
porcelain  
h6.4 w5.8 d5.7cm

荒川豊蔵(1894-1985)

色絵雲錦鉢

昭和46年  
陶器  
h13.1 w25.9 d26.0cm  
荒川豊蔵染付赤絵展  
寄贈  
Cr0766

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Bowl, overglaze enamels, cherry-blossom and corored—Leaves design  
1971  
stoneware  
h13.1 w25.9 d26.0cm

---

荒川豊蔵(1894-1985)

黄瀬戸徳利

昭和48年  
陶器  
h14.5 D10.0cm  
寄贈  
Cr0764

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Bottle, *kizeto* type  
1973  
stoneware  
h14.5 D10.0cm

荒川豊蔵(1894-1985)

志野筍茶碗 蕾雪

昭和49年  
陶器  
h10.2 D9.8cm  
寄贈  
Cr0765

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, "Raisetsu", *shino* type  
1974  
stoneware  
h10.2 D9.8cm

荒川豊蔵(1894-1985)

黄瀬戸盃

昭和51年頃  
陶器  
h4.0 D6.9cm  
寄贈  
Cr0774

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

*Sake* cup, *kizeto* type  
c.1976  
stoneware  
h4.0 D6.9cm

---

荒川豊蔵(1894-1985)

備前酒盃

昭和52年  
陶器  
h4.3 w6.5 d6.3cm  
五窯歴遊・荒川豊蔵展  
寄贈  
Cr0767

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

*Sake* cup, Bizen ware  
1977  
stoneware  
h4.3 w6.5 d6.3cm

荒川豊蔵(1894-1985)

鼠志野筍香合

昭和53年  
陶器  
h4.3 w7.5 d4.7cm  
陶・漆・書・画 荒川豊蔵展  
寄贈  
Cr0768

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Incense case, *nezumi-shino* type  
1978  
stoneware  
h4.3 w7.5 d4.7cm

荒川豊蔵(1894-1985)

信楽茶碗

昭和53年  
陶器  
h9.0 D10.9cm  
陶・漆・書・画 荒川豊蔵展  
寄贈  
Cr0771

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, *shigaraki* type  
1978  
stoneware  
h9.0 D10.9cm

---

荒川豊蔵(1894-1985)  
瀬戸黒金彩木の葉文水指

昭和55年  
陶器  
h18.3 w18.5 d18.8cm  
寄贈  
Cr0769

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)  
Water container, *setoguro* type, overglaze  
gold  
1980  
stoneware  
h18.3 w18.5 d18.8cm

石黒宗麿(1893-1968)  
黄釉犬文壺

昭和34年頃  
陶器  
h19.4 w14.7 d14.6cm  
購入  
Cr0838

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)  
Jar, dog pattern, yellow glazes  
c.1959  
stoneware  
h19.4 w14.7 d14.6cm

ヴォーコス、ピーター(1924-2002)  
水指

平成3年頃  
陶器  
h21.5 D21.0cm  
寄贈  
Cr0804

VOULKOS, Peter (1924-2002)  
Water container  
c.1991  
stoneware  
h21.5 D21.0cm

---

岡部(加藤)嶺男(1919-1990)  
絵志野長方皿

昭和35年頃  
陶器  
w33.0 d27.0cm  
寄贈  
Cr0776

OKABE (KATO), Mineo (1919-1990)  
Square dish, *e-shino* type  
c.1960  
stoneware  
w33.0 d27.0cm

岡部(加藤)嶺男(1919-1990)  
紅志野壺

昭和40年頃  
陶器  
h25.5 D19.0cm  
寄贈  
Cr0777

OKABE (KATO), Mineo (1919-1990)  
Jar, *beni-shino* style  
c.1965  
stoneware  
h25.5 D19.0cm

加藤土師萌(1900-1968)  
色絵瓷盃

昭和41年頃  
磁器  
h4.3 D6.7cm  
寄贈  
Cr0778

KATO, Hajime (1900-1968)  
*Sake* cup, overglaze enamels  
c.1966  
porcelain  
h4.3 D6.7cm

---

六代清水六兵衛(1901-1980)  
金彩羊歯文茶碗

昭和43年頃  
磁器  
h7.9 D11.4cm  
寄贈  
Cr0779

KIYOMIZU, Rokubei VI (1901-1980)  
Tea bowl, overglaze red enamel and gold,  
fern design  
c.1968  
porcelain  
h7.9 D11.4cm

小池頌子(1943- )  
貝のうつわ

平成9年  
陶器  
h30.5 w48.0 d47.0cm  
個展  
寄贈  
Cr0801

KOIKE, Shoko (1943- )  
Shell Vessel  
1997  
stoneware  
h30.5 w48.0 d47.0cm

小池頌子(1943- )  
青の形

平成11年  
陶器  
h31.0 w48.0 d48.0cm  
個展  
寄贈  
Cr0802

KOIKE, Shoko (1943- )  
Blue Form  
1999  
stoneware  
h31.0 w48.0 d48.0cm

---

清水卯一(1926-2004)  
窯変天目釉茶碗

昭和41年  
陶器  
h5.7 D16.8cm  
寄贈  
Cr0781

SHIMIZU, Uichi (1926-2004)  
Tea bowl, *temmoku* style with *yohen*  
1966  
stoneware  
h5.7 D16.8cm

清水卯一(1926-2004)  
青瓷茶碗

昭和44年  
陶器  
w12.5 d12.3cm  
寄贈  
Cr0780

SHIMIZU, Uichi (1926-2004)  
Tea bowl, celadon  
1969  
stoneware  
w12.5 d12.3cm

鈴木蔵(1934- )  
志野ぐい呑

昭和48年頃  
陶器  
h5.1 D6.0cm  
寄贈  
Cr0782

SUZUKI, Osamu (1934- )  
*Sake* cup, *shino* type  
c.1973  
stoneware  
h5.1 D6.0cm



---

鈴木蔵(1934- )

志野茶碗

平成18年  
陶器  
h9.5 D13.0cm  
寄贈  
Cr0803

SUZUKI, Osamu (1934- )

Tea bowl, *shino* ware  
2006  
stoneware  
h9.5 D13.0cm

ステート=マリー、ウィリアム

(1881-1962)

花器 ファイアー・サークル

昭和10年  
陶器  
h43.0 D19.8cm  
個展  
購入  
Cr0839

STAITE-MURRAY, William (1881-1962)

Vase, "Fire Circle"  
1935  
stoneware  
h43.0 D19.8cm

塚本快示(1912-1990)

青白磁高杯

昭和50年  
磁器  
h8.9 D10.7cm  
寄贈  
Cr0783

TSUKAMOTO, Kaiji (1912-1990)

Cup, bluish white porcelain  
1975  
porcelain  
h8.9 D10.7cm

---

塚本快示(1912-1990)

白瓷高杯

昭和50年  
磁器  
h9.3 D10.8cm  
寄贈  
Cr0784

TSUKAMOTO, Kaiji (1912-1990)

Cup, white porcelain  
1975  
porcelain  
h9.3 D10.8cm

塚本快示(1912-1990)

青白磁汲出碗

昭和51年  
磁器  
各h6.1 D10.3cm  
寄贈  
Cr0785

TSUKAMOTO, Kaiji (1912-1990)

Cups, bluish white porcelain  
1976  
porcelain  
each h6.1 D10.3cm

辻清明(1927-2008)

信楽大合子 天心

昭和45年  
陶器  
h40.0 w45.0 d43.5cm  
寄贈  
Cr0805

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Large case, "Tenshin", *shigaraki* type  
1970  
stoneware  
h40.0 w45.0 d43.5cm

---

辻清明(1927-2008)

信楽陶匣

昭和45年  
陶器  
h23.3 w35.6 d21.5cm  
寄贈  
Cr0806

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Box, *shigaraki* type  
1970  
stoneware  
h23.3 w35.6 d21.5cm

辻清明(1927-2008)

唐津盃

昭和50年頃  
陶器  
h6.5 D7.3cm  
寄贈  
Cr0807

TSUJI, Seimei (1927-2008)

*Sake* cup, Karatsu ware  
c.1975  
stoneware  
h6.5 D7.3cm

辻清明(1927-2008)

伊賀陶盤 うねり

昭和60年  
陶器  
h15.3 w50.0 d37.3cm  
寄贈  
Cr0808

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Plaque, "Uneri (swell)", *iga* type  
1985  
stoneware  
h15.3 w50.0 d37.3cm

---

辻清明(1927-2008)

信楽大盤

昭和60年  
陶器  
h5.0 w64.0 d51.0cm  
寄贈  
Cr0809

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Large plate, *shigaraki* type  
1985  
stoneware  
h5.0 w64.0 d51.0cm

辻清明(1927-2008)

信楽窯変茶碗

昭和61年  
陶器  
h9.3 w13.2 d12.5cm  
寄贈  
Cr0810

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Tea bowl, *shigaraki yohen* type  
1986  
stoneware  
h9.3 w13.2 d12.5cm

辻清明(1927-2008)

信楽自然釉盃

昭和61年  
陶器  
h6.5 D7.0cm  
寄贈  
Cr0811

TSUJI, Seimei (1927-2008)

*Sake* cup, natural ash glaze, *shigaraki* type  
1986  
stoneware  
h6.5 D7.0cm

---

辻清明(1927-2008)

岩手土花生

昭和64年  
陶器  
h25.0 w12.8 d13.5cm  
寄贈  
Cr0812

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Vase, Iwate clay  
1989  
stoneware  
h25.0 w12.8 d13.5cm

辻清明(1927-2008)

唐津窯変大盃

平成元年  
陶器  
h8.5 w10.0 d6.0cm  
寄贈  
Cr0813

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Large *sake* cup, Karatsu *yohen* type  
1989  
stoneware  
h8.5 w10.0 d6.0cm

辻清明(1927-2008)

信楽叩き目大盤

平成2年  
陶器  
h4.0 w74.5 d39.7cm  
寄贈  
Cr0814

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Large plate, patted pattern, *shigaraki* type  
1990  
stoneware  
h4.0 w74.5 d39.7cm

---

辻清明(1927-2008)

信楽亀合子

平成2年  
陶器  
h9.0 w11.5 d15.7cm  
寄贈  
Cr0815

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Case in the shape of tortoise, *shigaraki* type  
1990  
stoneware  
h9.0 w11.5 d15.7cm

辻清明(1927-2008)

信楽掛分茶碗

平成2年  
陶器  
h10.0 w12.2 d11.7cm  
寄贈  
Cr0816

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Tea bowl, *shigaraki* type  
1990  
stoneware  
h10.0 w12.2 d11.7cm

辻清明(1927-2008)

信楽窯変徳利

平成2年  
陶器  
h17.4 D12.3cm  
寄贈  
Cr0817

TSUJI, Seimei (1927-2008)

*Sake* bottle, *shigaraki yohen* type  
1990  
stoneware  
h17.4 D12.3cm

---

辻清明(1927-2008)

絵唐津筒茶碗

平成4年  
陶器  
h9.7 w12.7 d12.2cm  
寄贈  
Cr0818

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Sylindrical tea bowl, *e-garatsu* type  
1992  
stoneware  
h9.7 w12.7 d12.2cm

辻清明(1927-2008)

信楽自然釉茶碗

平成4年  
陶器  
h8.3 w12.0 d11.5cm  
寄贈  
Cr0819

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Tea bowl, natural ash glaze, *shigaraki* type  
1992  
stoneware  
h8.3 w12.0 d11.5cm

辻清明(1927-2008)

信楽山羊馬上杯

平成4年  
陶器  
h10.0 w13.0 d8.5cm  
寄贈  
Cr0820

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Stirrup cup with the shape of goat head,  
*shigaraki* type  
1992  
stoneware  
h10.0 w13.0 d8.5cm

---

辻清明(1927-2008)

信楽虎馬上杯

平成4年  
陶器  
h8.3 w13.2 d8.0cm  
寄贈  
Cr0821

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Stirrup cup with the shape of tiger head,  
*shigaraki* type  
1992  
stoneware  
h8.3 w13.2 d8.0cm

辻清明(1927-2008)

信楽鼈

平成4年  
陶器  
h6.8 w17.6 d9.6cm  
寄贈  
Cr0822

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Water dropper, "Tortoise" *shigaraki* type  
1992  
stoneware  
h6.8 w17.6 d9.6cm

辻清明(1927-2008)

信楽鳥耳羅漢花生

平成5年  
陶器  
h27.0 w14.5 d14.4cm  
寄贈  
Cr0823

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Vase with ears in the shape of birds,  
*shigaraki* type  
1993  
stoneware  
h27.0 w14.5 d14.4cm

---

辻清明(1927-2008)

信楽茶碗 那智

平成5年  
陶器  
h10.3 D12.2cm  
寄贈  
Cr0824

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Tea bowl, "Nachi", *shigaraki* type  
1993  
stoneware  
h10.3 D12.2cm

辻清明(1927-2008)

信楽耳付水指

平成5年  
陶器  
h17.1 w23.0 d18.4cm  
寄贈  
Cr0825

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Water container with ears, *shigaraki* type  
1993  
stoneware  
h17.1 w23.0 d18.4cm

辻清明(1927-2008)

信楽水指

平成5年  
陶器  
h18.8 D19.0cm  
寄贈  
Cr0826

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Water container, *shigaraki* type  
1993  
stoneware  
h18.8 D19.0cm

---

辻清明(1927-2008)

信楽馬角杯

平成5年  
陶器  
h7.0 w11.5 d8.0cm  
寄贈  
Cr0827

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Horn-shaped cup on the horsehead  
sculpture, *shigaraki* type  
1993  
stoneware  
h7.0 w11.5 d8.0cm

辻清明(1927-2008)

信楽窯変陶缶

平成18年  
陶器  
h17.0 w10.5 d10.3cm  
寄贈  
Cr0828

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Vase in the shape of can, *shigaraki yohen*  
type  
2006  
stoneware  
h17.0 w10.5 d10.3cm

辻清明(1927-2008)

信楽陶缶

平成18年  
陶器  
h30.0 w13.6 d13.0cm  
寄贈  
Cr0829

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Vase in the shape of can, *shigaraki* type  
2006  
stoneware  
h30.0 w13.6 d13.0cm

---

辻清明(1927-2008)

信楽珍獣

平成18年  
陶器  
h8.8 w13.3 d9.2cm  
寄贈  
Cr0830

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Rare animal, *shigaraki* type  
2006  
stoneware  
h8.8 w13.3 d9.2cm

辻清明(1927-2008)

信楽窯変鯨

平成18年  
陶器  
h5.8 w11.3 d8.5cm  
寄贈  
Cr0831

TSUJI, Seimei (1927-2008)

"Cat fish", *shigaraki yohen* type  
2006  
stoneware  
h5.8 w11.3 d8.5cm

辻清明(1927-2008)

信楽鯨

平成18年  
陶器  
h5.7 w7.1 d9.8cm  
寄贈  
Cr0832

TSUJI, Seimei (1927-2008)

"Cat fish", *shigaraki* type  
2006  
stoneware  
h5.7 w7.1 d9.8cm

---

西端正(1948- )

丹波灰釉掛分陶筥

平成元年  
陶器  
h13.0 w32.0 d32.0cm  
第36回日本伝統工芸展  
寄贈  
Cr0836

NISHIHATA, Tadashi (1948- )

Octagonal box, ash glazes, Tamba ware  
1989  
stoneware  
h13.0 w32.0 d32.0cm

浜田庄司(1894-1978)

塩釉鉄砂抜絵注瓶

昭和40-45年頃  
陶器  
h21.3 D14.5cm  
寄贈  
Cr0787

HAMADA, Shoji (1894-1978)

Pitcher, wax resist technique on iron and  
salt glazes  
c.1965-70  
stoneware  
h21.3 D14.5cm

浜田庄司(1894-1978)

柿釉赤絵角皿

昭和45年  
陶器  
w32.1 d32.0cm  
第17回日本伝統工芸展  
寄贈  
Cr0786

HAMADA, Shoji (1894-1978)

Square dish, overglaze enamels  
1970  
stoneware  
w32.1 d32.0cm

---

藤本能道(1919-1992)

色絵柘榴図向付

昭和45-50年頃

陶器

h5.1 D12.2 ~ h5.4 D12.7cm

寄贈

Cr0788

FUJIMOTO, Yoshimichi (1919-1992)

Small bowls, overglaze enamels,  
pomegranate design

c.1970-75

stoneware

h5.1 D12.2-h5.4 D12.7cm

フランスス、サム(1923-1994)

信楽陶盤

昭和39年

陶器

h4.0 w24.5 d24.5cm

寄贈

Cr0833

FRANCIS, Sam (1923-1994)

Plaque, *shigaraki* type

1964

stoneware

h4.0 w24.5 d24.5cm

前田青邨(1885-1977)

志野犬香合

昭和36年

陶器

h5.5 w3.5 d3.0cm

寄贈

Cr0775

MAEDA, Seison (1885-1977)

Incense case shaped dog, *shino* type

1961

stoneware

h5.5 w3.5 d3.0cm

---

前田青邨(1885-1977)

香合 西遊記

不詳

陶器

h4.8 w7.9 d4.2cm

寄贈

Cr0834

MAEDA, Seison (1885-1977)

Incense case, "*Saiyuki*", *shino* type

unknown

stoneware

h4.8 w7.9 d4.2cm

三輪壽雪(十一代休雪)(1910- )

萩茶碗 峰紅葉

昭和41年

陶器

h9.9 w10.9 d10.8cm

寄贈

Cr0789

MIWA, Jusetsu (Kyusetsu XI) (1910- )

Tea bowl, "*Mine-no-momiji*", Hagi ware

1966

stoneware

h9.9 w10.9 d10.8cm

三輪壽雪(十一代休雪)(1910- )

白萩茶碗 峰ノ雪

昭和42年

陶器

h9.8 w12.7 d12.4cm

第14回日本伝統工芸展

寄贈

Cr0790

MIWA, Jusetsu (Kyusetsu XI) (1910- )

Tea bowl, "*Mine-no-yuki*", Hagi ware, *shira-hagi* type

1967

stoneware

h9.8 w12.7 d12.4cm

---

三輪壽雪(十一代休雪)(1910- )

萩茶碗 村雨

昭和44年頃

陶器

h8.8 D12.8cm

寄贈

Cr0791

MIWA, Jusetsu (Kyusetsu XI) (1910- )

Tea bowl, "*Murasame*", Hagi ware

c.1969

stoneware

h8.8 D12.8cm

三輪壽雪(十一代休雪)(1910- )

萩茶碗 岩清水

昭和45年

陶器

h9.5 w13.7 d13.3cm

第17回日本伝統工芸展

寄贈

Cr0792

MIWA, Jusetsu (Kyusetsu XI) (1910- )

Tea bowl, "*Iwa-shimizu*", Hagi ware

1970

stoneware

h9.5 w13.7 d13.3cm

三輪壽雪(十一代休雪)(1910- )

鬼萩窯変茶碗 雅歌

平成8年

陶器

h10.1 D13.1cm

寄贈

Cr0793

MIWA, Jusetsu (Kyusetsu XI) (1910- )

Tea bowl, "*Miyabi-uta*", Hagi ware, *oni-hagi* type

1996

stoneware

h10.1 D13.1cm

---

三輪壽雪(十一代休雪)(1910- )

鬼萩窯変割高台茶碗 龍神

平成10年

陶器

h10.0 w16.2 d14.1cm

米寿記念 人間国宝 三輪休雪展

寄贈

Cr0794

MIWA, Jusetsu (Kyusetsu XI) (1910- )

Tea bowl with notched foot, "*Ryujin*", Hagi ware, *oni-hagi* type

1998

stoneware

h10.0 w16.2 d14.1cm

三輪壽雪(十一代休雪)(1910- )

白萩角花入 天の香具山

平成10年

陶器

h26.7 w8.0 d8.0cm

米寿記念 人間国宝 三輪休雪展

寄贈

Cr0795

MIWA, Jusetsu (Kyusetsu XI) (1910- )

Square flower vase, "*Ama-no-kaguyama*", white glaze, Hagi ware

1998

stoneware

h26.7 w8.0 d8.0cm

山口長男(1902-1983)

信楽陶板

昭和56年

陶器

h28.0 w27.0 d2.8cm

寄贈

Cr0835

YAMAGUCHI, Takeo (1902-1983)

Plaque, *shigaraki* type

1981

stoneware

h28.0 w27.0 d2.8cm

山本出(1944- )

梅紋大鉢

昭和55年  
陶器  
h10.0 D59.0cm  
第27回日本伝統工芸展  
寄贈  
Cr0837

YAMAMOTO, Izuru (1944- )

Large bowl, plum blossom design, Bizen  
ware  
1980  
stoneware  
h10.0 D59.0cm

リー、ルーシー(1902-1995) /

コパー、ハンス(1920-1981)

カップ

昭和35年頃  
陶器  
h11.0 D6.4cm  
寄贈  
Cr0800

RIE, Lucie (1902-1995)/COPER, Hans  
(1920-1981)

Cup  
c.1960  
stoneware  
h11.0 D6.4cm

リー、ルーシー(1902-1995)

ネックレス

昭和35年頃  
陶器  
11.5×15.2cm  
購入  
Cr0840

RIE, Lucie (1902-1995)

Necklace  
c.1960  
stoneware  
11.5×15.2cm

リー、ルーシー(1902-1995)

鉢

昭和40年  
磁器  
h7.4 D21.8cm  
寄贈  
Cr0798

RIE, Lucie (1902-1995)

Bowl  
1965  
porcelain  
h7.4 D21.8cm

リー、ルーシー(1902-1995)

鉢

昭和59年頃  
磁器  
h11.2 D21.7cm  
寄贈  
Cr0799

RIE, Lucie (1902-1995)

Bowl  
c.1984  
porcelain  
h11.2 D21.7cm

リーチ、バーナード(1887-1979)

鹿図タイル

昭和3年頃  
陶器  
10.0×10.0cm  
寄贈  
Cr0797

LEACH, Bernard (1887-1979)

Tile, decorated with the figure of deer  
c.1928  
stoneware  
10.0×10.0cm

リーチ、バーナード(1887-1979)

鉄釉抜絵巡礼図皿

昭和44-47年頃  
陶器  
h8.0 D32.7cm  
寄贈  
Cr0796

LEACH, Bernard (1887-1979)

Dish, decorated with the figure of pilgrim  
and mountains  
c.1969-72  
stoneware  
h8.0 D32.7cm

平成20年度

ガラス

Glass Works

辻清明(1927-2008)

硝子蕪鉢

平成3年  
ガラス、街吹き  
h17.2 w23.0 d22.0cm  
寄贈  
G10123

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Glass bowl in the shape of turnip  
1991  
glass, blowing  
h17.2 w23.0 d22.0cm

辻清明(1927-2008)

硝子釘型掛花生

平成3年  
ガラス、街吹き  
h37.4 w11.7 d8.5cm  
寄贈  
G10124

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Glass vase in the shape of peg  
1991  
glass, blowing  
h37.4 w11.7 d8.5cm

辻清明(1927-2008)

硝子缶型花生

平成3年  
ガラス、宙吹き  
h38.8 w11.2 d11.0cm  
寄贈  
GI0125

TSUJI, Seimei (1927-2008)

Glass vase in the shape of can  
1991  
glass, blowing  
h38.8 w11.2 d11.0cm

平成20年度

漆工

Lacquerwares

磯井如真(1883-1964)

蒔醬丸盆

昭和17年頃  
漆、蒔醬  
h3.0 w32.4 d32.6cm  
寄贈  
Lc0232

ISOI, Joshin (1883-1964)

Round tray, dragon design, *kimma*  
c.1942  
lacquer, *kimma*  
h3.0 w32.4 d32.6cm

磯井正美(1926- )

蒔醬橘花香合

平成20年  
漆、蒔醬  
h2.7 D8.2cm  
寄贈  
Lc0233

ISOI, Masami (1926- )

Incense case, mandarin orange flower  
design, *kimma*  
2008  
lacquer, *kimma*  
h2.7 D8.2cm

太田儔(1931- )

籃胎存清香合 菖蒲

平成3年頃  
漆、籃胎、存清  
h3.3 w7.7 d7.7cm  
寄贈  
Lc0234

OTA, Hitoshi (1931- )

Incense case, "Iris", *zonsei on rantai*  
c.1991  
lacquer, *rantai, zonsei*  
h3.3 w7.7 d7.7cm

太田儔(1931- )

籃胎蒔醬香合 道しるべ

平成17年  
漆、籃胎、蒔醬  
h6.6 D6.6cm  
寄贈  
Lc0235

OTA, Hitoshi (1931- )

Incense box, "Michishirube (tiger beatles)",  
*kimma on rantai*  
2005  
lacquer, *rantai, kimma*  
h6.6 D6.6cm

小椋範彦(1958- )

乾漆割貝蒔絵飾箱 半夏生

平成9年  
漆、乾漆、蒔絵、螺鈿  
h12.0 w17.0 d28.0cm  
第44回日本伝統工芸展  
寄贈  
Lc0236

OGURA, Norihiko (1958- )

Box, "Hangesho (lizard's tail)", *maki-e* and  
*raden* inlay  
1997  
lacquer, *kansbitsu, maki-e, raden*  
h12.0 w17.0 d28.0cm

小椋範彦(1958- )

蒔絵盤 山芋

平成12年  
漆、蒔絵、螺鈿  
h4.0 D36.1cm  
寄贈  
Lc0237

OGURA, Norihiko (1958- )

Tray, yam design, *maki-e*  
2000  
lacquer, *maki-e, raden*  
h4.0 D36.1cm

音丸耕堂(1898-1997)

堆漆香合 夜梅

昭和44年頃  
漆、堆漆  
h4.8 D5.4cm  
寄贈  
Lc0238

OTOMARU, Kodo (1898-1997)

Incense case, "Plum Blossom at Night",  
*tsuishitsu*  
c.1969  
lacquer, *tsuishitsu*  
h4.8 D5.4cm

小森邦衛(1945- )

沈黒菊文丸盆

平成17年  
漆、沈黒  
各h2.1 D36.4cm  
個展  
寄贈  
Lc0239

KOMORI, Kunie (1945- )

Round tray, chrysanthemum flower design,  
*chinkoku*  
2005  
lacquer, *chinkoku*  
each h2.1 D36.4cm

---

佐治賢使(1914-1999)

都会

昭和35年  
漆、色漆、螺鈿  
185.0×181.0cm  
第3回新日展  
寄贈  
Lc0246

SAJI, Tadashi (1914-1999)

Two-fold screen, "Urban City"

1960  
lacquer, colored lacquer, *raden*  
185.0×181.0cm

佐治賢使(1914-1999)

蝕

昭和38年  
漆  
70.0×140.0cm  
寄贈  
Lc0247

SAJI, Tadashi (1914-1999)

*Shoku*

1963  
lacquer  
70.0×140.0cm

田口善国(1923-1998)

野原蒔絵香合

昭和43年頃  
漆、螺鈿、蒔絵  
h2.8 D9.4cm  
寄贈  
Lc0240

TAGUCHI, Yoshikuni (1923-1998)

Incense case, grassland design, *maki-e*, *raden* inlay

c.1968  
lacquer, *raden*, *maki-e*  
h2.8 D9.4cm

---

寺井直次(1912-1998)

夕映蒔絵茶箱

平成元年頃  
漆、蒔絵、卵殻  
h13.9 w21.5 d14.8cm  
寄贈  
Lc0241

TERAI, Naoji (1912-1998)

Box of tea utensils, "Sunset", *maki-e*, *rankaku*

c.1989  
lacquer, *maki-e*, *rankaku*  
h13.9 w21.5 d14.8cm

鳥毛清(1955- )

沈金色紙箱 雨あがる

平成12年  
漆、沈金  
h6.8 w29.4 d26.2cm  
寄贈  
Lc0242

TORIGE, Kiyoshi (1955- )

Writing-paper box, cat design, *chinkin*

2000  
lacquer, *chinkin*  
h6.8 w29.4 d26.2cm

並木恒延(1949- )

絹の水

平成元年  
漆、蒔絵、螺鈿  
130.0×162.0cm  
第21回改組日展  
寄贈  
Lc0248

NAMIKI, Tsunenobu (1949- )

Silky water

1989  
lacquer, *maki-e*, *raden* inlay  
130.0×162.0cm

---

日本農民美術研究所

蘇芳木文大飾皿

大正11-昭和14年頃  
木、漆  
h6.8 w39.0 d37.5cm  
寄贈  
Lc0249

Japan Peasant Art Institute

Large decorative dish

c.1922-39  
wood, lacquer  
h6.8 w39.0 d37.5cm

日本農民美術研究所

朱漆パフ入れ

大正11-昭和14年頃  
木、漆  
h11.4 D7.6cm  
寄贈  
Lc0250

Japan Peasant Art Institute

Powder puff container

c.1922-39  
wood, lacquer  
h11.4 D7.6cm

日本農民美術研究所

朱漆枇杷文小箱

大正11-昭和14年頃  
木、漆  
h2.7 w9.0 d6.0cm  
寄贈  
Lc0251

Japan Peasant Art Institute

Small box

c.1922-39  
wood, lacquer  
h2.7 w9.0 d6.0cm

---

増村紀一郎(1941- )

乾漆鉢

平成11年  
漆、乾漆  
h14.5 w29.6 d19.2cm  
寄贈  
Lc0244

MASUMURA, Kiichiro (1941- )

Bowl, *kanshitsu*

1999  
lacquer, *kanshitsu*  
h14.5 w29.6 d19.2cm

増村紀一郎(1941- )

乾漆葉盤

平成14年  
漆、乾漆  
h.7.8 w34.4 d35.0cm  
第49回日本伝統工芸展  
寄贈  
Lc0243

MASUMURA, Kiichiro (1941- )

Tray in the shape of leaf, *kanshitsu*

2002  
lacquer, *kanshitsu*  
h.7.8 w34.4 d35.0cm

増村益城(1910-1996)

乾漆盛器

昭和32年頃  
漆、乾漆  
h7.8 w38.7 d38.8cm  
寄贈  
Lc0245

MASUMURA, Mashiki (1910-1996)

Tray, *kanshitsu*

c.1957  
lacquer, *kanshitsu*  
h7.8 w38.7 d38.8cm

平成20年度

染織

Textiles

北村武資(1935- )

六耀梅文羅金裂地

平成9年  
絹、羅金  
w72.0cm  
寄贈  
Tx0378

KITAMURA, Takeshi (1935- )

*Rakin* type silk, six-petal plum blossom pattern  
1997  
silk, *rakin* (complex gauze with gold weft) type weaving  
w72.0cm

木村雨山(1891-1977)

加賀友禪壁掛

昭和元-9年頃  
麻、友禪  
200.0×172.0cm  
寄贈  
Tx0380

KIMURA, Uzan (1891-1977)

Wall-hanging, *yuzen* dyeing  
c.1926-34  
hemp cloth, *yuzen* dyeing  
200.0×172.0cm

木村雨山(1891-1977)

華布壁掛

昭和4年  
絹、友禪  
202.0×235.0cm  
第10回帝展  
寄贈  
Tx0379

KIMURA, Uzan (1891-1977)

Wall-hanging, *yuzen* dyeing  
1929  
cotton cloth, *yuzen* dyeing  
202.0×235.0cm

木村雨山(1891-1977)

縮緬地友禪訪問着 ばらの花

昭和42年  
絹、友禪  
168.8×132.0cm  
第14回日本伝統工芸展  
寄贈  
Tx0381

KIMURA, Uzan (1891-1977)

Kimono, rose design, *yuzen* dyeing on crepe silk  
1967  
silk, *yuzen*, dyeing  
168.8×132.0cm

木村雨山(1891-1977)

訪問着 薫花

昭和47年  
絹、友禪  
165.0×129.0cm  
第14回人間国宝新作展  
寄贈  
Tx0382

KIMURA, Uzan (1891-1977)

Kimono, "Fragrance of Flower", *yuzen* dyeing on crepe silk  
1972  
silk, *yuzen*, dyeing  
165.0×129.0cm

木村雨山(1891-1977)

縮緬地友禪訪問着 花薫

昭和47年  
絹、友禪  
168.0×130.2cm  
第19回日本伝統工芸展  
寄贈  
Tx0383

KIMURA, Uzan (1891-1977)

Kimono, hollyhock design, *yuzen* dyeing on crepe silk  
1972  
silk, *yuzen*, dyeing  
168.0×130.2cm

広川松五郎(1889-1952)

掛軸 兎

昭和120-27年頃  
絹、蠟染、軸装  
129.8×36.0cm  
寄贈  
Tx0384

HIROKAWA, Matsugoro (1889-1952)

Hanging scroll, "Rabbit"  
c.1945-52  
silk, wax resist dyeing  
129.8×36.0cm

堀友三郎(1924- )

造船所

昭和37年  
綿、糊染  
175.5×171.3cm  
寄贈  
Tx0385

HORI, Tomosaburo (1924- )

Shipyard  
1962  
cotton, paste resist dyeing  
175.5×171.3cm

堀友三郎(1924- )

長崎

昭和38年  
綿、糊染  
122.0×102.9cm  
寄贈  
Tx0386

HORI, Tomosaburo (1924- )

Nagasaki  
1963  
cotton, paste resist dyeing  
122.0×102.9cm

堀友三郎(1924- )

寂

昭和38年  
綿、糊染  
109.1×80.5cm  
寄贈  
Tx0387

HORI, Tomosaburo (1924- )

Silence  
1963  
cotton, paste resist dyeing  
109.1×80.5cm

堀友三郎(1924- )

溪谷

昭和41年  
綿、糊染  
133.4×88.6cm  
寄贈  
Tx0388

HORI, Tomosaburo (1924- )

Glen  
1966  
cotton, paste resist dyeing  
133.4×88.6cm



平成20年度

金工

Metal Works

田中正幸(1950-2005)

南鐮交差水文指

昭和60年  
銀、鍛造  
h11.5 D19.5cm  
第32回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0363

TANAKA, Masayuki (1950-2005)

Water container, crossing pattern, *nanryo*  
silver  
1985  
silver, (*nanryo*) hammering  
h11.5 D19.5cm

田中正幸(1950-2005)

南鐮臙銀接合せ水指

平成17年頃  
銀、鍛造  
h14.4 D18.0cm  
田中照一・正幸金工展  
寄贈  
Mt0364

TANAKA, Masayuki (1950-2005)

Water container, joined and hammered  
*nanryo* and *rogin* silver  
c.2005  
silver (*nanryo* and *rogin*), hammering  
h14.4 D18.0cm

橋本真之(1947- )

果樹園一果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実

昭和53-61年  
銅板、溶接、鍛造  
h230.0cm  
購入  
Mt0362-001

HASHIMOTO, Masayuki (1947- )

Orchard: Sunlight Penetrating Fruit, Fruit in Sunlight Filtering Through Leaves  
1978-86  
copper plate, welding, forging  
h230.0cm

橋本真之(1947- )

果樹園一果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実

昭和62-63年  
銅板、溶接、鍛造  
h230.0cm  
購入  
Mt0362-002

HASHIMOTO, Masayuki (1947- )

Orchard: Sunlight Penetrating Fruit, Fruit in Sunlight Filtering Though Leaves  
1987-88  
copper plate, welding, forging  
h230.0cm

平成20年度

木工

Wood Works

秋山逸生(1901-1988)

椀盆

昭和22-23年頃  
木(樺)、象嵌  
h3.6 D36.8cm  
寄贈  
Wd0055

AKIYAMA, Issei (1901-1988)

Round tray, inlay on zelkova wood  
c.1947-48  
wood (zelkwa wood), inlay  
h3.6 D36.8cm

秋山逸生(1901-1988)

透輪文象嵌箱

昭和24年  
木、象嵌  
h11.6 w18.7 d7.0cm  
第1回千葉県展  
寄贈  
Wd0054

AKIYAMA, Issei (1901-1988)

Ornamental box, openworked circle design  
1949  
wood, inlay  
h11.6 w18.7 d7.0cm

秋山逸生(1901-1988)

蝶貝象嵌箱

昭和40年頃  
木(チーク)、象嵌  
h8.5 w25.6 d13.5cm  
寄贈  
Wd0056

AKIYAMA, Issei (1901-1988)

Box, inlay on teak  
c.1965  
wood (teak), inlay  
h8.5 w25.6 d13.5cm

秋山逸生(1901-1988)

嵌装チーク箱

昭和47年  
木(チーク)、象嵌  
h8.3 w11.6 d11.6cm  
第12回伝統工芸新作展  
寄贈  
Wd0057

AKIYAMA, Issei (1901-1988)

Box, inlay on teak  
1972  
wood (teak), inlay  
h8.3 w11.6 d11.6cm

秋山逸生(1901-1988)

湧水文木画文鎮

昭和54年  
木(黒檀)、象嵌  
h3.6 w3.6 d28.8cm  
第26回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0058

AKIYAMA, Issei (1901-1988)

Paper weight, spring water design, inlay on ebony wood  
1979  
wood (ebony wood), inlay  
h3.6 w3.6 d28.8cm

秋山逸生(1901-1988)

水煙文薰香箱

昭和57年  
木(黒檀)、象嵌  
h6.0 w8.7 d32.7cm  
第29回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0059

秋山逸生(1901-1988)

黒檀鳥文飾箱

昭和59年  
木(黒檀)、象嵌  
h4.5 w12.5 d10.8cm  
第31回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0060

秋山逸生(1901-1988)

縞黒檀珠文八角箱

昭和62年  
木(黒檀)、象嵌  
h7.5 D16.2cm  
第34回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0061

AKIYAMA, Issei (1901-1988)

Incense box, spray design, inlay on ebony wood

1982  
wood (ebony wood) , inlay  
h6.0 w8.7 d32.7cm

AKIYAMA, Issei (1901-1988)

Hexagonal box, bird design, inlay on ebony wood

1984  
wood (ebony wood) , inlay  
h4.5 w12.5 d10.8cm

AKIYAMA, Issei (1901-1988)

Ornamental box, bead design, striped black ebony

1987  
wood (ebony wood) , inlay  
h7.5 D16.2cm

川北良造(1934- )

枳棋造盛器

平成12年頃  
木(けんぼなし)  
h9.2 w35.0 d30.0cm  
寄贈  
Wd0053

KAWAGITA, Ryozo (1934- )

Square bowl, clear lacquer on Japanese raisin wood

c.2000  
wood (Japanese raisin wood) , turning  
h9.2 w35.0 d30.0cm

平成20年度

工業デザイン

Industrial Design

小松誠(1943- )

Kul灰皿

昭和49年  
磁器  
L:h2.5 D18.2;M:h2.3 D15.3;球:各h3.1 D4.2cm  
製作：セラミック ジャパン  
寄贈  
Id0127

KOMATSU, Makoto (1943- )

Kul ashtrays

1974  
porcelain  
L:h2.5 D18.2;M:h2.3 D15.3:sphere: each h3.1 D4.2cm  
Firm:Ceramic Japan

小松誠(1943- )

Crinkle Series スーパーバッグ K1、K2、K3

昭和50年  
磁器  
K1:h35.0 w23.0 d13.0;K2:h25.0 w18.0 d9.0;K3:h18.0 w12.0 d7.0cm  
第20回暮らしを創る'79クラフト展(K3のみ)  
製作：セラミック ジャパン  
寄贈  
Id0128

KOMATSU, Makoto (1943- )

Crinkle Series, superbag K1, K2, K3

1975  
porcelain  
K1:h35.0 w23.0 d13.0;K2:h25.0 w18.0 d9.0;K3:h18.0 w12.0 d7.0cm  
Firm:Ceramic Japan

小松誠(1943- )

Crinkle Series スーパーバッグ KNS-2、KNS-3

昭和54年  
磁器  
KNS-2:h25.0 w18.0 d9.0;KNS-3:h18.0 w12.0 d7.0cm  
デザインフォーラム'79 (KNS-3の2)  
製作：小松工房  
寄贈  
Id0129

KOMATSU, Makoto (1943- )

Crinkle Series, superbag KNS-2, KNS-3

1979  
porcelain  
KNS-2:h25.0 w18.0 d9.0;KNS-3:h18.0 w12.0 d7.0cm  
Firm:Komatsu Studio

小松誠(1943- )

Crinkle Series outline

昭和54年  
ステンレスワイヤー  
h35.5 w25.0 d12.0cm  
デザインフォーラム'79  
製作：小松工房  
寄贈  
Id0130

KOMATSU, Makoto (1943- )

Crinkle Series, outline

1979  
stainless wire  
h35.5 w25.0 d12.0cm  
Firm:Komatsu Studio

小松誠(1943- )

Crinkle Series metal

昭和54年  
アルミニウム  
h10.8 w7.7 d4.1cm  
デザインフォーラム'79  
製作：小松工房  
寄贈  
Id0131

KOMATSU, Makoto (1943- )

Crinkle Series, metal

1979  
aluminum  
h10.8 w7.7 d4.1cm  
Firm:Komatsu Studio

小松誠(1943- )

Crumple Series タンブラー、ワイングラス  
昭和55年  
ガラス  
タンブラー :h8.5 D8.0;ワイングラスL:h10.7  
D7.5;ワイングラスS:h8.0 D6.0cm  
製作：木村硝子店  
寄贈  
Id0132

KOMATSU, Makoto (1943- )

Crumple Series, tumblers and wineglasses  
1980  
glass  
tumble:each h8.5 D8.0;wine glass L:h10.7 D7.5,  
wineglass S:h8.0 D6.0cm  
Firm:Kimura Glass

小松誠(1943- )

Crinkle Series プレート、箸置き  
昭和58年  
磁器  
プレートL:h4.0 w24.0 d24.0;プレートM:h2.0 w13.0 d13.0;  
プレートS:h1.5 w9.5d9.5;箸置き：h1.5 w5.0 d5.0cm  
製作：セラミック ジャパン  
寄贈  
Id0133

KOMATSU, Makoto (1943- )

Crinkle Series, plates, chopstick rests  
1983  
porcelain  
plate L: h4.0 w24.0 d24.0; plate M: h2.0 w13.0 d13.0; plate  
S: h1.5 w9.5 d9.5; chopstick rest: h1.5 w5.0 d5.0cm  
Firm: Ceramic Japan

小松誠(1943- )

Crumple Series 皿  
昭和59年  
ガラス  
M:w18.0 d18.0;S:w13.0 d13.0cm  
製作：木村硝子店  
寄贈  
Id0134

KOMATSU, Makoto (1943- )

Crumple Series, plates  
1984  
glass  
M: w18.0 d18.0; S: w13.0 d13.0cm  
Firm:Kimura Glass

小松誠(1943- )

インフィニティ ボール

昭和59年  
磁器  
h5.0 w9.0 d8.7 ~ h14.0 w33.0 d27.0cm  
個展「インフィニティ」  
製作：セラミック ジャパン  
寄贈  
Id0135

KOMATSU, Makoto (1943- )

Infinity bowls  
1984  
porcelain  
h5.0 w9.0 d8.7-h14.0 w33.0 d27.0cm  
Firm: Ceramic Japan

小松誠(1943- )

You-ki 徳利、ぐい呑

平成5年  
磁器  
徳利:各h13.5 w9.5 d8.5;盃:各h4.7 w6.0 d5.5cm  
製作：セラミック ジャパン/小松工房  
寄贈  
Id0136

KOMATSU, Makoto (1943- )

You-ki *sake* bottles and cups  
1993  
porcelain  
bottles: each h13.5 w9.5 d8.5 ; cups: each h4.7 w6.0  
d5.5 cm  
Firm: Ceramic Japan/Komatsu Studio

小松誠(1943- )

Crinkle Series スーパーバッグ

平成9年  
磁器  
各h23.0 w17.0 d16.0cm  
デザインフォーラム 1999  
製作：小松工房  
寄贈  
Id0137

KOMATSU, Makoto (1943- )

Crinkle Series, superbag  
1997  
porcelain  
each h23.0 w17.0 d16.0cm  
Firm:Komatsu Studio

小松誠(1943- )

CERATIUM 花器

平成11年  
磁器  
各h14.5 w19.5 d17.0;h6.3 w12.3 d10.5cm  
製作：小松工房  
寄贈  
Id0138

KOMATSU, Makoto (1943- )

CERATIUM vases  
1999  
porcelain  
each h14.5 w19.5 d17.0; each h6.3 w12.3 d10.5cm  
Firm:Komatsu Studio

ブロイヤー、マルセル(1902-1981)

肘掛け椅子

大正11-13年頃  
木(オーク)、革  
h94.0 w56.5 d57.2cm  
寄贈  
Id0139

BREUER, Marcel (1902-1981)

Wood-slat "Lattenstuhl" Armchair  
c.1922-24  
wood (oak) , leather  
h94.0 w56.5 d57.2cm

リンディッヒ、オットー(1895-1966)

ティーセット

昭和13年  
陶器  
ポット:h14.8 w24.0 d15.3;カップ:各h5.4 w13.6 d11.0;  
ソーサー:各h2.0 D16.7; 皿: 各h2.2 D18.5; 砂糖入  
れ: h8.5 D12.4; クリーマー h7.5 w15.7 d19.5cm  
製作：バウハウス陶器工房(ドルンブルク)  
寄贈  
Id0140

LINDIG, Otto (1895-1966)

Tea set  
1928  
stoneware  
pot: h14.8 w24.0 d15.3; cup: each h5.4 w13.6 d11.0;  
saucer: each h2.0 D16.7; dish: each h2.2 D18.5; sugar  
pot: h8.5 D12.4; creamer h7.5 w15.7 d19.5cm  
firm:Dornburger Keramik-Ateliers des Bauhauses

リーマーシュミット、リチャルト  
(1868-1957)

パンチボウル

明治33年頃  
陶器  
h32.4 D26.7cm  
製作：ラインホルト・メルケルバッハ  
購入  
Id0141

RIEMERSCHMID, Richard (1868-1957)

Punch bowl  
c.1900  
stoneware  
h32.4 D26.7cm  
Firm:Reinhold Merkelbach

平成20年度

工芸資料

Reference Materials

荒川豊蔵(1894-1985)

壺に桃花流水之図

昭和55年  
墨、彩色、紙  
60.2×45.5cm  
寄贈  
Rf0024

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

The Stream of Peach and Flower in the Jar  
1980  
sumi-ink and color on paper  
60.2×45.5cm

リーチ、バーナード(1887-1979)

壺図

昭和42年  
インク、紙  
22.0×17.5cm  
寄贈  
Rf0025

LEACH, Bernard (1887-1979)

Jar  
1967  
ink on paper  
22.0×17.5cm

平成21年度

陶磁

Ceramic Works

猪倉高志(1962- )

立体の水 07-15

平成19年  
半磁器  
h14.7 w17.7 d15.0cm  
「工芸の力—21世紀の展望」  
購入  
Cr0883

IKURA, Takashi (1962- )

Solid Water 07-15  
2007  
semi-porcelain  
h14.7 w17.7 d15.0cm

猪倉高志(1962- )

立体の水 07-16

平成19年  
半磁器  
h14.9 w18.9 d15.6cm  
「工芸の力—21世紀の展望」  
購入  
Cr0884

IKURA, Takashi (1962- )

Solid Water 07-16  
2007  
semi-porcelain  
h14.9 w18.9 d15.6cm

小川待子(1946- )

無題

平成20年  
陶器  
h22.5 w64.5 d58.5cm  
個展  
購入  
Cr0876

OGAWA, Machiko (1946- )

Untitled  
2008  
stoneware  
h22.5 w64.5 d58.5cm

川崎毅(1942- )

I-4 街

平成21年  
陶器  
h30.0 w35.0 d22.0cm  
個展  
購入  
Cr0878

KAWASAKI, Tsuyoshi (1942- )

I-4 City  
2009  
stoneware  
h30.0 w35.0 d22.0cm

川崎毅(1942- )

I-5 街

平成21年  
陶器  
h29.0 w35.0 d22.0cm  
個展  
購入  
Cr0879

KAWASAKI, Tsuyoshi (1942- )

I-5 City  
2009  
stoneware  
h29.0 w35.0 d22.0cm

北大路魯山人(1883-1959)

赤絵馬上杯

昭和14年頃  
磁器  
h5.8 D5.1cm  
寄贈  
Cr0841

KITAOJI, Rosanjin (1883-1959)

Stem cup, overglaze enamels  
c.1939  
porcelain  
h5.8 D5.1cm

北大路魯山人(1883-1959)

赤呉須湯呑

昭和14年頃  
磁器  
各h7.4 D6.7cm  
寄贈  
Cr0842

KITAOJI, Rosanjin (1883-1959)

Tea bowls, overglaze red  
c.1939  
porcelain  
each h7.4 D6.7cm

北川宏人(1967- )

TU07005—スキンヘッド

平成19年  
陶土、手びねり、アクリル彩色  
h163.5 w40.5 d33.5cm  
個展  
購入  
Cr0877

KITAGAWA, Hiroto (1967- )

TU07005 - Skinhead  
2007  
stoneware, hand building, acrylic paint  
h163.5 w40.5 d33.5cm

---

小池頌子(1943- )

貝のうつわ

平成7年  
陶器  
h27.0 w65.5 d65.5cm  
寄贈  
Cr0843

KOIKE, Shoko (1943- )

Shell Vessel

1995  
stoneware  
h27.0 w65.5 d65.5cm

島田文雄(1948- )

彩磁朝鮮朝顔文大皿

平成20年  
磁器  
h5.8 D48.8cm  
個展  
購入  
Cr0875

SHIMADA, Fumio (1948- )

Large Dish, jimson weed design, underglaze colors  
2008  
porcelain  
h5.8 D48.8cm

滝口和男(1953- )

夢見ごごちの暖かさ

平成16年  
陶器  
h16.5 w20.3 d15.6cm  
購入  
Cr0870

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Dreamy Warmth

2004  
stoneware  
h16.5 w20.3 d15.6cm

---

滝口和男(1953- )

草原へと

平成18年  
陶器  
h3.6 w7.2 d5.6cm  
購入  
Cr0871

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Toward the Grassy Plain

2006  
stoneware  
h3.6 w7.2 d5.6cm

滝口和男(1953- )

旅を夢みて

平成18年  
陶器  
h3.9 w7.0 d4.9cm  
購入  
Cr0872

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Dreaming of Travel

2006  
stoneware  
h3.9 w7.0 d4.9cm

滝口和男(1953- )

白兎も

平成20年  
陶器  
h10.0 w13.0 d8.0cm  
個展  
購入  
Cr0849

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Also the White Rabbit

2008  
stoneware  
h10.0 w13.0 d8.0cm

---

滝口和男(1953- )

更紗の屋根が

平成20年  
陶器  
h10.0 w15.0 d9.0cm  
個展  
購入  
Cr0850

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Chintz-patterned Roof

2008  
stoneware  
h10.0 w15.0 d9.0cm

滝口和男(1953- )

赤い飛行機

平成20年  
陶器  
h12.0 w9.0 d9.0cm  
個展  
購入  
Cr0851

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Red Airplane

2008  
stoneware  
h12.0 w9.0 d9.0cm

滝口和男(1953- )

白い古城の

平成20年  
陶器  
h9.0 w10.0 d9.0cm  
個展  
購入  
Cr0852

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Of the White Old Castle

2008  
stoneware  
h9.0 w10.0 d9.0cm

---

滝口和男(1953- )

城壁の梟は

平成20年  
陶器  
h8.0 w6.0 d5.0cm  
個展  
購入  
Cr0853

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

The Owl on the Castle Wall

2008  
stoneware  
h8.0 w6.0 d5.0cm

滝口和男(1953- )

嬉しくて駆ける

平成20年  
陶器  
h15.0 w15.0 d9.0cm  
個展  
購入  
Cr0854

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Running for Joy

2008  
stoneware  
h15.0 w15.0 d9.0cm

滝口和男(1953- )

熟れた果実を

平成20年  
陶器  
h4.0 w5.0 d5.0cm  
個展  
購入  
Cr0855

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Ripe Fruit

2008  
stoneware  
h4.0 w5.0 d5.0cm

---

滝口和男(1953- )

古き棲家に

平成20年  
陶器  
h10.0 w10.0 d8.0cm  
個展  
購入  
Cr0856

滝口和男(1953- )

乗越え進むと

平成20年  
陶器  
h7.0 w7.0 d6.0cm  
個展  
購入  
Cr0857

滝口和男(1953- )

ひと休み

平成20年  
陶器  
h9.0 w12.0 d9.0cm  
個展  
購入  
Cr0858

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

At on Old Dwelling

2008  
stoneware  
h10.0 w10.0 d8.0cm

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Getting Over and Going Forward

2008  
stoneware  
h7.0 w7.0 d6.0cm

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

A Break

2008  
stoneware  
h9.0 w12.0 d9.0cm

---

滝口和男(1953- )

澄ます姿で

平成20年  
陶器  
h16.0 w10.0 d9.0cm  
個展  
購入  
Cr0859

滝口和男(1953- )

一筋の

平成20年  
陶器  
h5.0 w6.0 d6.0cm  
個展  
購入  
Cr0860

滝口和男(1953- )

花を飾り

平成20年  
陶器  
h5.0 w10.0 d10.0cm  
個展  
購入  
Cr0861

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Looking Prim

2008  
stoneware  
h16.0 w10.0 d9.0cm

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Of a Line

2008  
stoneware  
h5.0 w6.0 d6.0cm

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Decorating with Flowers

2008  
stoneware  
h5.0 w10.0 d10.0cm

---

滝口和男(1953- )

赤煉瓦へと

平成20年  
陶器  
h5.0 w4.0 d4.0cm  
個展  
購入  
Cr0862

滝口和男(1953- )

白鳥が微笑むと

平成20年  
陶器  
h7.0 w10.0 d7.0cm  
個展  
購入  
Cr0863

滝口和男(1953- )

白き野原で

平成20年  
陶器  
h15.5 w10.5 d12.0cm  
個展  
購入  
Cr0864

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Toward the Red Brick

2008  
stoneware  
h5.0 w4.0 d4.0cm

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

As the Swan Smiles

2008  
stoneware  
h7.0 w10.0 d7.0cm

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

In a White Field

2008  
stoneware  
h15.5 w10.5 d12.0cm

---

滝口和男(1953- )

蔦の絡まる館に

平成20年  
陶器  
h9.0 w16.5 d12.5cm  
個展  
購入  
Cr0865

滝口和男(1953- )

星座に

平成20年  
陶器  
h10.0 D10.0cm  
個展  
購入  
Cr0866

滝口和男(1953- )

大地からの

平成20年  
陶器  
h7.5 D17.0cm  
個展  
購入  
Cr0867

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

At an Ivy-covered Building

2008  
stoneware  
h9.0 w16.5 d12.5cm

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

To the Constellation

2008  
stoneware  
h10.0 D10.0cm

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

From the Earth

2008  
stoneware  
h7.5 D17.0cm

---

滝口和男(1953- )

縵と綴りて

平成20年  
陶器  
h9.5 D16.0cm  
個展  
購入  
Cr0868

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Binding Together with *Kage*  
2008  
stoneware  
h9.5 D16.0cm

滝口和男(1953- )

自慢の

平成20年  
陶器  
h5.0 D8.0cm  
個展  
購入  
Cr0869

TAKIGUCHI, Kazuo (1953- )

Proud Of  
2008  
stoneware  
h5.0 D8.0cm

ダム、ワウター(1957- )

青い彫刻

平成17年  
陶器  
h27.0 w34.0 d27.0cm  
購入  
Cr0881

DAM, Wouter (1957- )

Blue Sculpture  
2005  
stoneware  
h27.0 w34.0 d27.0cm

---

富本憲吉(1886-1963)

白磁壺

昭和11年  
磁器  
h18.0 D22.5cm  
購入  
Cr0848

TOMIMOTO, Kenkichi (1886-1963)

Jar, white porcelain  
1936  
porcelain  
h18.0 D22.5cm

富本憲吉(1886-1963)

土焼鉄描銅彩白雲悠々皿

昭和29年  
陶器  
h3.7 D25.3cm  
寄贈  
Cr0844

TOMIMOTO, Kenkichi (1886-1963)

Dish, letters "Leisurely White Clouds", iron  
brown and copper green, stoneware  
1954  
stoneware  
h3.7 D25.3cm

富本憲吉(1886-1963)

色絵竹模様珈琲碗

昭和33年  
磁器  
カップ：h7.1 w9.3 d7.2cm；受皿：h2.1 D15.7cm  
寄贈  
Cr0845

TOMIMOTO, Kenkichi (1886-1963)

A set of coffee cups and saucers, bamboo  
design, overglaze enamels  
1958  
porcelain  
cups:h7.1 w9.3 d7.2cm ;saucers:h2.1 D15.7cm

---

富本憲吉(1886-1963)

色絵金彩竹林月夜皿

昭和34年  
磁器  
h3.0 D40.5cm  
寄贈  
Cr0846

TOMIMOTO, Kenkichi (1886-1963)

Plate, "Bamboo Thickers under the Moon",  
overglaze enamel and gold  
1959  
porcelain  
h3.0 D40.5cm

富本憲吉(1886-1963)

瑠璃金彩花字小壺

昭和35年  
磁器  
h8.2 D7.5cm  
寄贈  
Cr0847

TOMIMOTO, Kenkichi (1886-1963)

Small jar, character "*Hana* (flower)", cobalt  
glaze and gold  
1960  
porcelain  
h8.2 D7.5cm

中島晴美(1950- )

WORK-0602

平成18年  
磁器  
h40.6 w45.8 d34.9cm  
「現代陶芸その未来展」  
購入  
Cr0882

NAKASHIMA, Harumi (1950- )

WORK-0602  
2006  
porcelain  
h40.6 w45.8 d34.9cm

---

平井智(1947- )

ギリシャへの想い

昭和61年  
マジョリカ陶器、金彩  
h57.0 w45.0 d20.0cm  
第1回国際陶磁器展美濃'86  
購入  
Cr0880

HIRAI, Tomo (1947- )

Affection of Greece  
1986  
stoneware  
h57.0 w45.0 d20.0cm

三原研(1958- )

炆器 起源

平成20年  
陶器  
h51.0 w85.5 d22.5cm  
日本陶磁協会賞受賞作家展  
購入  
Cr0874

MIHARA, Ken (1958- )

Vessel, "Origin"  
2008  
stoneware  
h51.0 w85.5 d22.5cm

リー、ルーシー(1902-1995)

青釉鉢

昭和53年  
磁器  
h8.4 D18.3cm  
購入  
Cr0873

RIE, Lucie (1902-1995)

Blue glazed bowl  
1978  
porcelain  
h8.4 D18.3cm

平成21年度

ガラス  
Glass Works

松島巖(1946- )  
虹彩シェブロン碗

平成6年  
ガラス  
h10.5 D12.0cm  
購入  
GI0128

MATSUSHIMA, Iwao (1946- )  
Rainbow-colored bowl with chevron patterns  
1994  
glass  
h10.5 D12.0cm

松島巖(1946- )  
綾紡ぎコーン

平成19年  
ガラス  
h29.3 w8.5cm  
購入  
GI0127

MATSUSHIMA, Iwao (1946- )  
Twill patterned Cone  
2007  
glass  
h29.3 w8.5cm

松島巖(1946- )

陽刻レース錐盤

平成21年  
ガラス  
h8.5 D17.6cm  
購入  
GI0126

MATSUSHIMA, Iwao (1946- )  
Corn-shaped vessel with chevron patterns  
2009  
glass  
h8.5 D17.6cm

平成21年度

染織  
Textiles

木村雨山(1891-1977)  
縮緬地友禪訪問着 華

昭和39年  
絹、友禪  
167.0×130.0cm  
第11回日本伝統工芸展  
寄贈  
Tx0396

KIMURA, Uzan (1891-1977)  
Kimono, flower design, *yuzen* dyeing on crepe silk  
1964  
silk, *yuzen* dyeing  
167.0×130.0cm

古賀フミ(1927- )  
佐賀錦菱襷文帯 水辺の朝

昭和63年  
紙、絹、佐賀錦  
w30.7 L365.6cm  
第35回日本伝統工芸展  
寄贈  
Tx0389

KOGA, Fumi (1927- )  
Sash, "Morning at Waterside", *Saga-nishiki* type weave  
1988  
*Saga-nishiki* (paper warp with silk weft) weaving  
w30.7 L365.6cm

古賀フミ(1927- )  
佐賀錦紗綾菱文笛袋 煌

昭和63年  
紙、絹、佐賀錦  
w7.0 d6.5 L40.8cm  
第25回日本伝統工芸染織展  
寄贈  
Tx0390

KOGA, Fumi (1927- )  
Bag for flute, "Ko", *Saga-nishiki* type weave  
1988  
*Saga-nishiki* (paper warp with silk weft) weaving  
w7.0 d6.5 L40.8cm

古賀フミ(1927- )  
佐賀錦松皮菱文帯 波照間

平成元年  
紙、絹、佐賀錦  
w31.0 L360.0cm  
第36回日本伝統工芸展  
寄贈  
Tx0391

KOGA, Fumi (1927- )  
Sash, "Hateruma Island", *Saga-nishiki* type weave  
1989  
*Saga-nishiki* (paper warp with silk weft) weaving  
w31.0 L360.0cm

古賀フミ(1927- )  
佐賀錦鍵絞綾文雅袋 水煌

平成元年  
紙、絹、佐賀錦  
h15.6 w15.0 d10.7cm  
第26回日本伝統工芸染織展  
寄贈  
Tx0392

KOGA, Fumi (1927- )  
Bag, "Suiko", *Saga-nishiki* type weave  
1989  
*Saga-nishiki* (paper warp with silk weft) weaving  
h15.6 w15.0 d10.7cm



古賀フミ(1927- )  
佐賀錦網代文帯 雪間の春

平成3年  
紙、絹、佐賀錦  
w30.5 L356.2cm  
第38回日本伝統工芸展  
寄贈  
Tx0393

KOGA, Fumi (1927- )  
Sash, "Spring Tints among the Snows",  
Saga-*nishiki* type weave  
1991  
Saga-*nishiki* (paper warp with silk weft) weaving  
w30.5 L356.2cm

古賀フミ(1927- )  
佐賀錦菱文帯 かぐや姫

平成5年  
紙、絹、佐賀錦  
w31.5 L364.8cm  
第40回日本伝統工芸展  
寄贈  
Tx0394

KOGA, Fumi (1927- )  
Sash, "Kaguya-hime", Saga-*nishiki* type  
weave  
1993  
Saga-*nishiki* (paper warp with silk weft) weaving  
w31.5 L364.8cm

古賀フミ(1927- )  
佐賀錦花菱文笛袋 玉藻

平成10年  
紙、絹、佐賀錦  
w6.5 d6.7 L41.0cm  
第33回人間国宝新作展  
寄贈  
Tx0395

KOGA, Fumi (1927- )  
Bag for flute, "Tamamo", Saga-*nishiki* type  
weave  
1998  
Saga-*nishiki* (paper warp with silk weft) weaving  
w6.5 d6.7 L41.0cm

佐々木苑子(1939- )  
絵紺紬着物 翠嵐

平成18年  
絹、織  
177.0×118.0cm  
購入  
Tx0398

SASAKI, Sonoko (1939- )  
Kimono, "Breathing Green", *tsumugi* silk  
2006  
silk, weaving  
177.0×118.0cm

森口邦彦(1941- )  
友禪着物 流砂文

昭和59年  
絹、友禪  
162.0×138.0cm  
第2回全日本伝統工芸選抜作家展  
購入  
Tx0397

MORIGUCHI, Kunihiko (1941- )  
Kimono, "Sand Flow", *yuzen* dyeing  
1984  
silk, *yuzen* dyeing  
162.0×138.0cm

平成21年度

人形  
Dolls

岩瀬なほみ(1941- )  
春

平成20年  
木彫布貼  
h42.0cm  
第48回東日本伝統工芸展  
購入  
DI0075

IWASE, Nahomi (1941- )  
Spring  
2008  
wood, carving, cloth  
h42.0cm

中村信喬(1957- )  
島影

平成11年  
陶彫、彩色  
h24.0cm  
第46回日本伝統工芸展  
購入  
DI0074

NAKAMURA, Shinkyō (1957- )  
Looking at Islands on the Sea  
1999  
stoneware, coloring  
h24.0cm

平成21年度

金工  
Metal Works

伊藤萌木(1942- )  
露頭する

昭和58年  
アルミニウム  
h49.7 w72.2 d61.6cm  
第22回日本現代工芸美術展  
寄贈  
Mt0365

ITO, Moegi (1942- )  
Outcrop  
1983  
aluminum  
h49.7 w72.2 d61.6cm

豊田勝秋(1897-1972)  
線文花器

昭和29年  
青銅、鋳造  
h31.4 D32.3cm  
第10回日展  
寄贈  
Mt0366

TOYODA, Katsuaki (1897-1972)  
Vase, liner design, bronze, casting  
1954  
bronze, casting  
h31.4 D32.3cm

---

豊田勝秋(1897-1972)

鑄銅花生

昭和37年  
青銅、鑄造  
h39.8 D21.0cm  
第5回新日展  
寄贈  
Mt0367

TOYODA, Katsuaki (1897-1972)

Vase, bronze, casting  
1962  
bronze, casting  
h39.8 D21.0cm

橋本真之(1947- )

果樹園—果実の中の木もれ陽、木もれ陽の中の果実

昭和63年  
銅板、溶接、鍛造  
h230.0cm  
購入  
Mt0362-003

HASHIMOTO, Masayuki (1947- )

Orchard: Sunlight Penetrating Fruit, Fruit in Sunlight Filtering Through Leaves  
1988  
copper plate, welding, forging  
h230.0cm

増田三男(1909-2009)

煙草入

昭和12年  
鉄、象嵌  
h10.9 w8.2 d6.4cm  
寄贈  
Mt0368

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Cigarette box, inlaid on iron  
1937  
iron, inlay  
h10.9 w8.2 d6.4cm

---

増田三男(1909-2009)

銀鉄野草紋箱

昭和15年  
鉄、銀、木  
h17.0 w29.1 d15.1cm  
紀元2600年奉祝美術展  
寄贈  
Mt0369

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Box, grass design, silver and iron  
1940  
iron, silver, wood  
h17.0 w29.1 d15.1cm

増田三男(1909-2009)

からたちの花紋衝立

昭和15年頃  
木、銅  
93.2×97.5cm  
寄贈  
Mt0370

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Two-fold screen, trifoliate-orange design  
c.1940  
wood, copper  
93.2×97.5cm

増田三男(1909-2009)

金彩臥牛紋壺

昭和12年  
銅、鍍金  
h21.5 D17.8cm  
第3回日展  
寄贈  
Mt0371

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Vase, bull design, gilding on copper  
1947  
copper, gilding  
h21.5 D17.8cm

---

増田三男(1909-2009)

ネックレス

昭和32年  
銀、鍍金、ガラス  
h0.7 L12.3cm  
第1回URアクセサリー協会展  
寄贈  
Mt0372

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Necklace  
1957  
silver, gilding, glass  
h0.7 L12.3cm

増田三男(1909-2009)

ネックレス

昭和32年  
銀、鍍金、ガラス  
h0.7 w12.0 d16.5cm  
第1回URアクセサリー協会展  
寄贈  
Mt0373

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Necklace  
1957  
silver, gilding, glass  
h0.7 w12.0 d16.5cm

増田三男(1909-2009)

金彩小箱

昭和35-44年頃  
真鍮、鍍金  
h5.8 w7.5 d6.0cm  
寄贈  
Mt0379

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Small box, gilding on brass  
c.1960s  
brass, gilding  
h5.8 w7.5 d6.0cm

---

増田三男(1909-2009)

髪飾り

昭和35-44年頃  
銅、鍍金  
w12.2 d4.8cm  
寄贈  
Mt0380

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Hair accessory  
c.1960s  
copper, gilding  
w12.2 d4.8cm

増田三男(1909-2009)

金彩蝶文箱

昭和38年  
真鍮、鍍金、木  
h9.5 w17.0 d9.2cm  
第18回新匠会展  
寄贈  
Mt0374

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Box, butterfly design  
1963  
brass, gilding, wood  
h9.5 w17.0 d9.2cm

増田三男(1909-2009)

鍍金箱 残月狐影

昭和39年  
真鍮、鍍金、鍍銀、木  
h9.5 w18.5 d15.5cm  
第11回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0375

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Box, "Zangetsu-koei (motif of fox under moonlight)", gilding on brass  
1964  
brass, gilding, wood  
h9.5 w18.5 d15.5cm

---

増田三男(1909-2009)

金彩銀六角箱

昭和40年  
銀、鍍金、石、ガラス  
h8.7 w15.5 d12.8cm  
第12回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0376

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Hexagonal box, moths design, gilding on silver  
1965  
silver, gilding, stone, glass  
h8.7 w15.5 d12.8cm

増田三男(1909-2009)

丘陵と湖(黄金分割に依る試作)

昭和43年  
真鍮、鍍金、螺鈿、顔料  
h6.0 w8.4 d6.0cm  
第8回伝統工芸新作展  
寄贈  
Mt0377

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Small box, "Hill and Lake"  
1968  
brass, gilding, raden  
h6.0 w8.4 d6.0cm

増田三男(1909-2009)

金彩竹林水指

昭和44年頃  
銅、鍍金  
h8.3 D13.1cm  
寄贈  
Mt0378

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Water container, bamboo grove design, gilding on copper  
c.1969  
copper, gilding  
h8.3 D13.1cm

---

増田三男(1909-2009)

金銅透彫箱 鴨跖草と蝶

昭和46年  
真鍮、鍍金、木  
h12.3 w13.4 d10.0cm  
第18回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0381

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Box, "Dayflowers and Butterflies", openwork and gilding on brass  
1971  
brass, wood, gilding  
h12.3 w13.4 d10.0cm

増田三男(1909-2009)

金彩水指 瀨

昭和47年  
銅、鍍金  
h10.0 D17.9cm  
第19回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0382

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Water container, "Se (shallow)", gilding on copper  
1972  
copper, gilding  
h10.0 D17.9cm

増田三男(1909-2009)

金彩銅水指 縞

昭和49年  
銅、鍍金、顔料  
h12.3 D17.0cm  
第21回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0383

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Water container, "Shima (stripes)", gilding on copper  
1974  
copper, gilding  
h12.3 D17.0cm

---

増田三男(1909-2009)

金彩遊鹿文銀壺

昭和52年  
銀、鍍金  
h12.7 D16.4cm  
第24回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0384

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Jar, deers design, gilding on silver  
1977  
silver, gilding  
h12.7 D16.4cm

増田三男(1909-2009)

金彩銀兎文水指

昭和57年  
銀、鍍金  
h10.2 D17.9cm  
第29回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0385

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Water container, hare design, gilding on silver  
1982  
copper, gilding  
h10.2 D17.9cm

増田三男(1909-2009)

金彩水指 想春

昭和59年  
銅、鍍金  
h10.0 D16.1cm  
第31回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0386

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Water container, "Soshun (imagining spring)", gilding on copper  
1984  
copper, gilding  
h10.0 D16.1cm

---

増田三男(1909-2009)

金彩梅花垣水指

昭和60年  
銅、鍍金  
h13.0 D17.1cm  
第32回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0387

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Water jar, plum-blossom-fence design, gilding on copper  
1985  
copper, gilding  
h13.0 D17.1cm

増田三男(1909-2009)

花器 葱文

昭和62年  
銅、鍍金  
h18.3 D6.8cm  
第17回伝統工芸日本金工展  
寄贈  
Mt0388

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Flower vase, onion head design, gilding on copper  
1987  
copper, gilding  
h18.3 D6.8cm

増田三男(1909-2009)

金彩柳文水指

平成元年  
銅、鍍金  
h10.2 D16.0cm  
第36回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0389

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Water container, willow design gilding on copper  
1989  
copper, gilding  
h10.2 D16.0cm

増田三男(1909-2009)

金彩兎文銀壺 有明

平成4年  
銀、鍍金  
h12.8 D16.5cm  
第39回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0390

増田三男(1909-2009)

金彩黒銅箱 雑木林月夜

平成5年  
銅、鍍金、木  
h8.8 w18.0 d8.2cm  
第28回人間国宝新作展  
寄贈  
Mt0391

増田三男(1909-2009)

金彩兎文香爐

平成5年  
銀、鍍金、ガラス  
h7.1 w7.0 d7.0cm  
第28回人間国宝新作展  
寄贈  
Mt0392

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Jar, "Ariake (daybreak)", gilding on silver  
1992

silver, gilding  
h12.8 D16.5cm

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Box, "Moonlit Night in a Wood", gilding  
on copper

1993  
copper, wood, gilding  
h8.8 w18.0 d8.2cm

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Incense burner, hare design, gilding on  
silver

1993  
silver, wood, gilding  
h7.1 w7.0 d7.0cm

増田三男(1909-2009)

金彩蝶文角箱

平成5年  
銀、鍍金、顔料  
h6.5 w7.1 d6.2cm  
第33回伝統工芸新作展  
寄贈  
Mt0393

増田三男(1909-2009)

金彩壺 爆ぜる

平成9年  
銅、金彩  
h23.0 D9.5cm  
第32回人間国宝新作展  
寄贈  
Mt0394

増田三男(1909-2009)

雪装雑木林月夜飾箱

平成14年  
銀、鍍金  
h10.2 w16.7 d9.4cm  
第49回日本伝統工芸展  
寄贈  
Mt0395

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Small square box, butterfly design, gilding  
on silver

1993  
silver, wood, gilding  
h6.5 w7.1 d6.2cm

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Vase, "Hazeru (bursting)", gilding on copper

1997  
copper, gilding  
h23.0 D9.5cm

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Ornamental box, moonlit-snowy-woods  
design

2002  
silver, gilding  
h10.2 w16.7 d9.4cm

平成21年度

木工

Wood Works

大坂弘道(1937- )

朴木菱形木画箱

昭和53年  
朴、木画  
h17.6 w12.7 d38.1cm  
第25回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0062

大坂弘道(1937- )

菱形木画箱

昭和54年  
紫檀、黒柿、桑、黄楊  
h17.1 w28.5 d31.6cm  
第26回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0063

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Marquetry box with diamond-shaped  
pattern, *ho* (Magnolia hypoleuca)

1978  
*ho*(Magnolia hypoleuca), marquetry  
h17.6 w12.7 d38.1cm

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Marquetry box with diamond-shaped  
pattern

1979  
rosewood, marquetry  
h17.1 w28.5 d31.6cm

大坂弘道(1937- )

紅木紫檀八角経筒

昭和62年  
紫檀、指物、象嵌  
h37.0 D8.6cm  
第34回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0064

大坂弘道(1937- )

紅木紫檀墨匣

平成元年  
紅木紫檀、銀、象嵌(錫)  
h14.0 w28.0 d12.0cm  
第36回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0065

大坂弘道(1937- )

白檀八角経筒

平成2年  
白檀、象嵌  
h36.0 D7.6cm  
第37回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0066

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Octagonal sutra case, rosewood

1987  
rosewood, joining, inlay  
h37.0 D8.6cm

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Box for ink sticks, rosewood

1989  
rosewood, joining, tin inlay  
h14.0 w28.0 d12.0cm

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Octagonal sutra case, sandalwood

1990  
sandalwood, joining, inlay  
h36.0 D7.6cm

大坂弘道(1937- )

唐花文嵌荘筆箱

平成5年  
黒柿、象嵌(錫)  
h6.0 w9.3 d30.0cm  
第40回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0067

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Box for writing brush box, floral scroll design in inlay, dyed from sappanwood on persimmon wood 1993  
persimmon wood, joining, tin inlay  
h6.0 w9.3 d30.0cm

大坂弘道(1937- )

唐草文嵌透荘筆箱

平成9年  
黒柿、象嵌(錫)  
h10.0 w8.0 d30.0cm  
第44回日本伝統工芸展  
寄贈  
Wd0068

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Box for writing brush box, floral scroll design in openwork and inlay, dyed from sappanwood on persimmon wood 1997  
persimmon wood, joining and openwork, tin inlay  
h10.0 w8.0 d30.0cm

大坂弘道(1937- )

蓮弁唐草文透嵌荘合子

平成13年  
黒柿、象嵌(錫)  
h4.0 w27.2 d18.0cm  
寄贈  
Wd0069

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Incense container in the shape of lotus petal, floral scroll design in openwork and inlay, dyed from sappanwood on persimmon wood 2001  
persimmon wood, curving and openwork, tin inlay  
h4.0 w27.2 d18.0cm

大坂弘道(1937- )

黒柿蘇芳染拭漆唐草文嵌荘香盒子 西華

平成18年  
黒柿、象嵌(錫)  
h5.5 w20.8 d9.8cm  
寄贈  
Wd0070

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Box, "Saiyu", floral scroll design in inlay, dyed from sappanwood and clear lacquer on persimmon wood 2006  
persimmon wood, curving and openwork, tin inlay  
h5.5 w20.8 d9.8cm

大坂弘道(1937- )

黒柿蘇芳染拭漆宝相華文嵌荘箱 西華

平成19年  
黒柿、指物、象嵌(錫)  
h9.3 w20.0 d10.0cm  
寄贈  
Wd0071

OSAKA, Hiromichi (1937- )

Box, "Seika", hosoge flowers design in inlay, dyed from sappanwood and clear lacquer on persimmon wood 2007  
persimmon wood, joining, tin inlay  
h9.3 w20.0 d10.0cm

平成21年度

工芸資料

Reference Materials

石黒宗麿(1893-1968)

書道

紙本墨書  
95.6×24.4cm  
寄贈  
Rf0026

ISHIGURO, Munemaro (1893-1968)

Calligraphy, "Michi"

sumi ink, paper  
95.6×24.4cm

富本憲吉(1886-1963)

額装 風花雪月

昭和125年頃  
紙本墨書  
31.3×66.2cm  
寄贈  
Rf0028

TOMIMOTO, Kenkichi

Framed calligraphy, "Wind, Flower, Snow, Moon"  
c.1950  
sumi ink, paper  
31.3×66.2cm

増田三男(1909-2009)

軸 兎文図案

昭和130年頃  
紙本墨書  
21.3×26.7cm  
寄贈  
Rf0027

MASUDA, Mitsuo (1909-2009)

Painting a hare in the grass

c.1955  
sumi ink, paper  
21.3×26.7cm

平成20年度、21年度に修理した美術作品は次のとおり。

【平成20年度】

日本画10点、油彩 その他36点、版画9点、水彩・素描2点、彫刻(立体造形)2点、戦争記録画1点、資料1点

【平成21年度】

日本画4点、油彩 その他8点

◆日本画(20年度)

J-237 小林古径《富士》1944年

表具部分の糊浮き接着

J-511 小林古径《唐蜀黍》1939年

絵具層剥落止め

J-615 伊東深水《露》1931年

絵具層剥落止め

J-422 水越松南《虎穴図》1952年

絵具層剥落止め、尾背の糊浮き接着

J-114 近藤浩一路《鶺鴒六題(浴泉)》1923年

パネル側面の糊浮き接着

J-24 星野空外《春》1913年

絵具層剥落止め

J-702 加山又造《湖と鹿》1953年

絵具層剥落止め

J-12 尾竹国観《油断》1909年

絵具層剥落止め

J-460 東山魁夷《青響》1960年

額縁の亚克力板取り外しと再装着、画面汚れの除去

J-602 加山又造《春秋波濤》1966年

絵具層剥落止め

◆日本画(21年度)

J-26 鎭木清方《墨田河舟遊》1914年

絵具層剥落止め、尾背の絵絹の浮きを接着

J-84 橋本関雪《防空壕》1942年

絵具層剥落止め

J-103 奥村土牛《胡瓜畑》1927年

絵具層剥落止め

J-47 西山英雄《比良薄暮》1947年

画面継ぎ手の浮き部分接着

◆油彩 その他(20年度)

O-539 小林和作《人形を持つ娘》1928年

絵具層剥落止め

O-74 小林和作《ゆく春》1951年

キャンバス張り調整、絵具層の亀裂接着

O-714 小林和作《山湖》1955年

絵具層の亀裂接着

O-541 小林和作《入海》1959年

額縁の亚克力板取り外し、絵具層剥落止め

- O-709 小林和作《海》1962年  
キャンバス張り調整、絵具層の亀裂接着
- O-543 小林和作《北国の春》1965年  
キャンバス張り調整、絵具層の亀裂接着
- O-974 桜井滨江《花》1947年  
絵具層の亀裂、浮き上がり部分接着
- O-973 桜井滨江《壺》1946年  
絵具層の亀裂、浮き上がり部分接着
- O-387 石井柏亭《草上の小憩》1904年  
絵具層の亀裂、浮き上がり部分接着
- O-1177 テリー・ウィンターズ《桑実胚 I》1983年  
絵具層の亀裂、浮き上がり部分接着
- O-1033 元永定正《作品》1962年  
アクリルケース取り外し、額縁内の洗浄、絵具層の亀裂接着
- O-66 大久保作次郎《花苑の戯れ》1948年  
絵具層の浮き上がり部分接着、額縁剥落止め
- O-446 荒川修作《アルファベットの皮膚 No.3》1966-67年  
画面の汚損の除去
- O-200 椿貞雄《山(桜島)》不詳  
絵具層の剥落部分の充填補彩
- O-962 椿貞雄《冬枯れの道》1916年  
額固定方法改良
- O-202 椿貞雄《髪すき図》1931年  
額固定方法改良
- O-629 大沢昌助《岩と人》1940年  
絵具層の亀裂、浮き上がり部分接着
- O-9 野田英夫《サーカス》1937年  
キャンバスの張り矯正、絵具層の亀裂接着
- O-550 満谷国四郎《椅子による裸婦》1912年  
額縁のアクリル板取り外し、作品固定方法改良
- O-194 中川一政《板橋風景》1919年  
額縁の剥落止め
- O-22 中川八郎《北国の冬》1908年  
額固定方法改良
- O-656 山下新太郎《裸婦》1908年  
額固定方法改良
- O-1053 松本竣介《ニコライ堂と聖橋》1941年  
カビ痕除去
- O-826 藤田嗣治《自画像》1929年  
額縁の亀裂接着
- O-21 和田三造《南風》1907年  
絵具層の亀裂接着
- O-19 鬚光《自画像》1944年  
額縁の剥落箇所の充填補彩
- O-389 古賀春江《海》1929年  
絵具層の剥落部分の固着、額縁の亀裂接着
- O-1134 草間彌生《残骸のアキュミレーション(離人カーテンの囚人)》1950年  
絵具層の亀裂接着
- O-1099 青木繁《運命》1904年  
額縁の亀裂接着
- O-20 中沢弘光《夏》1907年  
額固定方法改良
- O-164 東郷青児《サルタンバンク》1926年  
額縁の亀裂接着
- O-537 岡本太郎《夜明け》1948年  
キャンバス接合部に生じた絵具層の亀裂接着
- O-241 北脇昇《影(観相学シリーズ)》1938年  
全面にわたって絵具層の固着強化

- O-355 犬飼恭平《自画像》1918年  
地塗層、絵具層の固着強化
- O-512 伊藤廉《鳩のいる窓辺の風景》1949年  
パネルからの分離、絵具層の固着強化、木枠新調
- O-638 巖光《馬》1936年  
裏打ちのキャンバス分離、支持体の変形補正

◆油彩 その他(21年度)

- O-1197 福沢一郎《メトロ工事》1929年  
絵具層の亀裂接着、剥落部分の充填補彩、キャンバスの変形補正
- O-1198 福沢一郎《人》1936年  
絵具層の亀裂接着、剥落部分の充填補彩、キャンバスの変形補正
- O-1211 長谷川利行《カフェ・パウリスタ》1928年  
画面洗浄、絵具層の接着、木枠新調、キャンバスの変形補正
- O-171 古賀春江《観音》1921年  
絵具層の亀裂接着、剥落部分の充填補彩
- O-856 南薫造《夕に祈る》1908年  
絵具層の亀裂接着、剥落部分の充填補彩
- O-196 藤島武二《うつつ》1913年  
額縁金地部分の剥落止め
- O-29 小杉放菴(未醒)《水郷》1911年  
絵具層の亀裂接着、額との固定方法改良
- O-285 山口長男《転》1961年  
絵具層の浮き上がり部分の接着

◆版画(20年度)

- P-1890 谷中安規《自転車B》1932年  
接着剤の除去、汚れの除去、折れ跡の緩和
- P-1893 谷中安規《街の本(ムーラン・ルージュ)》1933年  
接着剤の除去、汚れの除去、折れ跡の緩和、支持体補強
- P-1894 谷中安規《朝鮮(朝鮮の夜)》1933年  
酸性汚れの洗浄、支持体補強
- P-1896 谷中安規《怪その2》1933年  
接着剤の除去、酸性汚れの洗浄、黄変の漂白
- P-1898 谷中安規《弓》1933年  
台紙からの分離、酸性汚れの洗浄、接着剤の除去、支持体補強
- P-1901 谷中安規《怪鳥》1934年  
酸性汚れの洗浄、黄変の漂白、支持体補強
- P-1903 谷中安規《行進》1936年  
接着剤の除去、糊のしみを軽減
- P-1906 谷中安規《レコードと蓄音機》1937-39年頃  
接着剤の除去、酸性汚れの洗浄、黄変の漂白
- P-1908 谷中安規《裸の舞》不詳  
接着剤の除去、汚れの洗浄

◆水彩・素描(20年度)

- D-487 エミコ・サワラギ・ギルバート《無題(人像)》2006年  
展示のため上下辺にヒンジを接着
- D-484 谷中安規《自画像》不詳  
接着剤の除去、酸性汚れの洗浄

◆彫刻(立体造形)(20年度)

- S-326 荒川修作《作品》1960年  
合板箱の亀裂を接着
- S-395 トニー・クラッグ《メーター(計測器)》2003年  
ひび割れ、剥離部分を接着



◆戦争記録画(20年度)

X-72 清水登之《工兵隊架橋作業》1944年頃  
絵具層の浮き上がり接着

◆資料(20年度)

M-632-71 河野通勢《風俗枕屏風》1925年  
絵具層剥落止め

【平成20年度】

染織1件、人形3件

【平成21年度】

染織2件、漆工2件

◆染織(20年度)

Tx0054 志村ふくみ《蘇芳染たて縞織着物》 昭和35年  
シミ、黴、汚れの修復、丸洗い等の現状保存修復

◆人形(20年度)

DI0009 平田郷陽《萌芽》 昭和35年  
顔面の打傷修復、燻蒸、虫食い穴の修復等の現状保存修復

DI0014 平田郷陽《遊楽》 昭和33年  
指・髪損傷修復、燻蒸、虫食い穴の修復等の現状保存修復

DI0068 五味文郎《帰り路》 昭和13年  
脱落した帯の修復

◆染織(21年度)

Tx0052 志村ふくみ《紬織着物 鈴虫》 昭和34年  
シミや黴、色ヤケ、汚れの修復、丸洗い等による現状保存修復

Tx0053 志村ふくみ《紬織着物 七夕》 昭和35年  
シミや黴、色ヤケ、汚れの修復、丸洗い等による現状保存修復

◆漆工(21年度)

Lc0038 松田権六《蒔絵榎柏文手箱》 昭和30年  
汚れ除去、塗面の漆固め・養生、擦傷修復等の現状保存修復

Lc0049 松田権六《蒔絵竹林文箱》 昭和40年  
塗面の漆固め・養生、擦傷・打傷修復、象嵌真珠・平文再接着等の現状保存修復

# Ⅱ 公衆への観覧

## 1 展覧会 Exhibitions

### 1-1 入館者数

#### 【平成20年度入館者数(人)】

	所蔵作品展	企画展	合計
本館	207,499	310,033	517,532
工芸館	73,676	37,436	111,112
入館者総数	281,175	347,469	628,644

回数	展覧会名	入館者数(人)
448	生誕100年 東山魁夷展	256,486人(1日平均5,829人) (平成19年度中 11,572人 合計 268,058人)
449	建築がうまれるとき ペーター・メルクリと青木淳	19,970人(1日平均370人)
450(工85)	カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠	11,676人(1日平均278人)
451	現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング	13,459人(1日平均313人)
452(工86)	かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー	12,969人(1日平均232人)
453(工87)	小松誠—デザイン+ユーモア—	12,791人(1日平均266人)
454	沖繩・プリズム 1872-2008	10,554人(1日平均235人)
455	高梨豊 光のフィールドノート	9,449人(1日平均225人)
456	ビデオを待ちながら—映像, 60年代から今日へ	115人(1日平均115人)

#### 【平成21年度入館者数(人)】

	所蔵作品展	企画展	合計
本館	225,201	369,899	595,100
工芸館	77,209	44,471	121,680
入館者総数	302,410	414,370	716,780

回数	展覧会名	入館者数(人)
456	ビデオを待ちながら—映像, 60年代から今日へ	12,240人(1日平均207人) (平成20年度中 115人 合計 12,355人)
457	ゴーギャン展	288,444人(1日平均3,898人)
458(工88)	染野夫妻陶芸コレクション—リーチ・濱田・豊藏・壽雪—	22,500人(1日平均433人)
459	権鎮圭	11,683人(1日平均234人)
460	河口龍夫展 言葉・時間・生命	11,350人(1日平均214人)
461(工89)	現代工芸への視点—装飾の力	10,569人(1日平均165人)
462	ウィリアム・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える そしてドローイングは動き始めた……	12,718人(1日平均335人)
463(工90)	早川良雄—“顔”と“形状”—	11,402人(1日平均300人)
464	生誕120年 小野竹喬展	33,464人(1日平均1,239人) (平成22年度中 30,933人 合計 64,397人)

回数 展覧会名

昭和27年度 [1952]

- 1 日本近代美術展—近代絵画の回顧と展望  
Modern Japanese Art: Retrospective and Perspective of Modern Painting
- 2 近代洋画の歩み—西洋と日本  
Development of Modern Western-Style (Oil) Painting: Europe and Japan

昭和28年度 [1953]

- 3 世界のポスター展  
World Posters
- 4 日本画の流れ—系譜と展開  
Mainstream of Japanese-Style Painting: Its Schools and Development
- 5 近代彫塑展—西洋と日本  
Modern Sculpture: Europe and Japan
- 6 現代写真展—日本とアメリカ  
The Exhibition of Contemporary Photography — Japan and America
- 7 四人の画家(小茂田青樹・土田麦僊・中村彝・萬鐵五郎)  
Exhibition of Four Artists: Seiju Omoda, Bakusen Tsuchida, Tsune Nakamura, Tetsugoro Yorozu
- 8 抽象と幻想—非写実絵画をどう理解するか  
Abstraction and Fantasy: How to Understand Non-figurative(Non-realistic) Painting
- 9 近代の肖像画  
Exhibition of Modern Japanese Portraiture
- 10 第27回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 27th Venice Biennial Exhibits from Japan
- 11 国吉康雄遺作展  
Posthumous Exhibition of Yasuo Kuniyoshi

昭和29年度 [1954]

- 12 大正期の画家  
The Exhibition of the Painting of the Taisho Era
- 13 グロピウスとバウハウス—近代建築工芸運動の出発  
Gropius and Bauhaus: Start of Modern Architecture and Craft Movements
- 14 黒田清輝展  
Exhibition of Seiki Kuroda
- 15 水彩と素描  
Exhibition of Water Colors and Drawings
- 16 世界の児童画  
Exhibition of World Children's Art
- 17 四人の画家(佐伯祐三・前田寛治・村上華岳・広島晃甫)  
Exhibition of Four Painters—Yuzo Saeki, Kanji Maeta, Kagaku Murakami, Koho Hiroshima
- 18 現代の眼—日本の美術史から  
Today's Focus: On the History of Japanese Art

- 19 19人の作家—戦後の絵画・彫刻  
同時開催 第3回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Living Nineteen Japanese Artists: Painting and Sculpture in the Past Ten Years  
Preview Exhibition of the 3rd São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 20 松方コレクション国立美術館建設協賛展  
Exhibition in Liaison with the Establishment of The National Museum of Western Art
- 21 明治初期洋画展—近代リアリズムの展開  
Western-Style Painting of the Early Meiji Era

昭和**30**年度[1955]

- 22 日米抽象美術展  
Abstract Art Exhibition: Japan and U. S. A.
- 23 巨匠の20代  
Great Masters in their Twenties
- 24 日米水彩画展  
Joint Exhibition of American and Japanese Water Colours
- 25 現代日本の書・墨の芸術—ヨーロッパ巡回展の国内展示  
Contemporary Japanese Calligraphy: Art in Sumi
- 26 晩期の鉄斎  
Tessai in His Last Period
- 27 四人の作家(下村観山・荻原守衛・巖光・橋本平八)  
Exhibition of Four Artists: Kanzan Shimomura, Morie Ogiwara, Aimitsu, Heihachi Hashimoto
- 28 現代の眼—アジアの美術史から  
Today's Focus: Eastern Art Seen Through Eyes of the Present
- 29 明治以後の風俗画  
Genre-Painting in the Meiji, Taisho and Showa Eras
- 30 第28回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 28th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**31**年度[1956]

- 31 安井曾太郎遺作展  
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 32 現代の版画—日本とエコール・ド・パリ  
Contemporary Prints: Japanese Artists and l'École de Paris
- 33 今日の写真—日本とフランス  
Contemporary Photography: Japan and France
- 34 日本の風景  
Japanese Scenery
- 35 日本の彫刻—上代と現代  
Exhibition of Japanese Sculpture: Contemporary versus Bronze Buddhist Statues, and Mask of the Asuka and the Nara Period
- 36 菊池契月遺作展  
Posthumous Exhibition of Keigetsu Kikuchi
- 37 日本の風刺絵画  
Japanese Satirical Painting (Cartoons)

- 38 近代日本の名作  
Masterpieces of Modern Japanese Painting
- 39 第4回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 4th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 40 20世紀のデザイン—ヨーロッパとアメリカ  
20th Century Design in Europe and America

昭和32年度[1957]

- 41 墨の芸術—中国と日本の絵画  
Suiboku Paintings of China and Japan
- 42 前衛美術の15人  
同時開催 アメリカ現代美術  
15 Vanguard Artists  
Special Showing of 8 Contemporary American Artists
- 43 第1回東京国際版画ビエンナーレ展(於 読売会館)  
特別展示 歌麿と北斎  
The 1st International Biennial  
Exhibition of Prints in Tokyo Exhibition of Utamaro and Hokusai
- 44 四人の作家(平福百穂・小林徳三郎・武井直也・三岸好太郎)  
Exhibition of Four Artists: Hyakusui Hirafuku, Tokusaburo Kobayashi,  
Naoya Takei, Kotaro Migishi
- 45 最近のドイツ版画  
Deutsche Druckgraphik der letzten Jahre
- 46 17人の作家  
Living Seventeen Japanese Artists
- 47 第1回安井賞候補新人展  
The 1st Yasui Award Exhibition
- 48 近代日本絵画の歩み(於 京都市美術館)  
Development of Modern Japanese Painting

昭和33年度[1958]

- 49 近代日本における名作の展望—絵画と彫刻  
Masterpieces of Modern Japanese Painting and Sculpture
- 50 抽象絵画の展開  
Development of Japanese Abstract Painting
- 51 四人の作家(小川芋銭・梶田半古・佐分真・北脇昇)  
Exhibition of Four Artists: Usen Ogawa, Hanko Kajita,  
Makoto Saburi, Noboru Kitawaki
- 52 オーストラリア・ニュージーランド巡回 日本現代美術展国内展示  
Preview Exhibition of Contemporary Japanese Art Exhibition to be  
circulated in Australia and New Zealand
- 53 川合玉堂遺作展  
Posthumous Exhibition of Gyokudo Kawai
- 54 白隠の芸術—水墨画と書  
Hakuin's Art: Suiboku Painting and Calligraphy
- 55 第2回安井賞候補新人展  
The 2nd Yasui Award Exhibition

- 56 近代日本美術の常時陳列  
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 57 戦後の秀作  
Postwar Outstanding Works of Art
- 58 近代日本の静物画  
同時開催 ブラジル近代建築展—新首都建築  
Still-life in Modern Japanese Painting  
Modern Brazilian Architecture

昭和**34**年度[1959]

- 59 第5回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 5th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 60 近代木彫の流れ  
Development of Modern Sculpture in Wood
- 61 現代日本の陶芸  
Contemporary Japanese Ceramic Art
- 62 横山大観遺作展  
Posthumous Exhibition of Taikan Yokoyama
- 63 ヨーロッパ巡回 棟方志功展国内展示  
Preview Exhibition of Shiko Munakata Exhibition to be circulated in Europe
- 64 第3回安井賞候補新人展  
The 3rd Yasui Award Exhibition
- 65 近代日本美術の常時陳列  
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 66 現代写真展 1959年  
同時開催 ハイנטツ・ハイェク=ハルケの抽象光画  
Contemporary Photographs 1959  
Deutsche Lichtgrafik Werke von Heinz Hajek-Halke
- 67 近代日本の素描(アメリカ巡回展国内展示)  
同時開催 マリノ・マリーニのリトグラフ  
Japanese Drawings in XXth Century (Preview of the Travelling Exhibition in U. S. A.)  
Lithographs by Marino Marini
- 68 日本画の新世代  
Recent Development in Japanese Style Painting
- 69 第30回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 30th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**35**年度[1960]

- 70 超現実絵画の展開  
同時開催 ブラジルのポエマ・コンクレート  
Development of Surrealistic Paintings  
Brazilian Poema Concrete
- 71 四人の作家(菱田春草・瑛九・上阪雅人・高村光太郎)  
Exhibition of Four Artists: Shunso Hishida, Ei-kyu, Gajin Kosaka, Kotaro Takamura
- 72 現代の眼—原始美術から  
Today's Focus: Primitive Art Seen Through Eyes of the Present

- 73 近代日本美術の常時陳列  
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 74 日本人の手—現代の伝統工芸  
同時開催 芸術としての写真  
Contemporary Japanese Handicrafts: Contemporary Traditional Crafts  
Photographs as Art
- 75 小林古径遺作展  
Posthumous Exhibition of Kokei Kobayashi
- 76 第2回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 2nd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 77 第4回安井賞候補新人展  
The 4th Yasui Award Exhibition
- 78 現代写真展1960年  
同時開催 アニメーションの芸術  
Contemporary Photographs 1960  
Animation Art
- 79 現代スペイン絵画展  
Exposicion: Contrastes en la Pintura Española de Hoy
- 80 第6回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
同時陳列 現代日本の版画  
Preview Exhibition of the 6th São Paulo Biennial Exhibits from Japan  
Contemporary Japanese Prints

昭和36年度[1961]

- 81 文部省新収品を中心とする常時陳列  
Permanent Exhibit: Mainly New Acquisitions of the Ministry of Education
- 82 現代美術の実験  
Adventure in Today's Art of Japan
- 83 近代日本の名作展—日本画・洋画(於 仙台)  
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 84 近代日本油絵の流れ(於 日本橋三越)  
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 85 近代日本の名作展(於 札幌)  
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 86 近代日本彫刻の流れ(於 日本橋三越)  
Development of Sculpture in Modern Japan
- 87 近代日本画の流れ(於 日本橋三越)  
Development of Japanese-Style Painting in Modern Japan
- 88 近代日本の洋画(於 大阪市立美術館)  
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 89 第5回安井賞候補新人展(於 プリヂストン美術館)  
The 5th Yasui Award Exhibition
- 90 現代日本の版画(於 銀座松坂屋)  
Contemporary Japanese Prints
- 91 現代絵画の展望(於 日本橋三越)  
Prominent Works of Contemporary Japanese Painting



昭和**37**年度[1962]

- 92 近代日本の造形—油絵と彫刻  
Oil Painting and Sculpture in Modern Japan
- 93 近代日本の造形—絵画と彫刻  
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 94 近代の屏風絵  
Painting on Folding Screen in Modern Japan
- 95 第3回東京国際版画ビエンナーレ展  
特別展示 写楽  
The 3rd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo  
Sharaku
- 96 四人の作家(坂田一男・野田英夫・近藤浩一路・藤川勇造)  
同時開催 フランス映画史展  
Exhibition of Four Artists: Kazuo Sakata, Hideo Noda, Koichiro Kondo,  
Yuzo Fujikawa  
History of French Films
- 97 第6回安井賞候補新人展  
The 6th Yasui Award Exhibition
- 98 現代写真展 1961—62年  
Contemporary Photographs 1961-62
- 99 近代日本の絵画と彫刻  
Painting and Sculpture of Modern Japan
- 100 須田国太郎遺作展  
Posthumous Exhibition of Kunitaro Suda
- 101 現代の油絵と版画  
Contemporary Oil Painting and Prints

昭和**38**年度[1963]

- 102 ビュッフェ展—その芸術の全貌  
同時陳列 現代の日本画  
Bernard Buffet: Exposition au Japon 1963  
Contemporary Japanese-Style Paintings
- 103 彫刻の新世代  
New Generation of Japanese Sculptures
- 104 現代の眼—暮らしの中の日本の美  
同時陳列 近代の日本画  
Today's Focus: Traditional Daily Implements of Japan Seen Through Eyes  
of the Present  
Modern Japanese-Style Paintings
- 105 近代日本の絵画と彫刻  
Painting and Sculpture of Modern Japan
- 106 近代日本美術における1914年  
同時陳列 近代日本の素描  
1914: The Beginning of an Era in Modern Japanese Art  
Modern Japanese Drawings
- 107 北大路魯山人の芸術  
同時陳列 日本の抽象絵画  
The Art of Rosanjin Kitaoji  
Japanese Abstract Paintings

- 108 第7回安井賞候補新人展  
同時開催 マヤ芸術の拓本展  
The 7th Yasui Award Exhibition  
Rubbed Prints of Mayan Art
- 109 滞欧作とその後  
同時陳列 織田一磨の版画  
Japanese Artists: A Contrast Seen before and after Sojourning in Europe or America  
Kazuma Oda's Prints
- 110 近代作家の回顧(富田溪仙・太田聰雨・佐藤玄々・石井柏亭・中西利雄)  
同時開催 第32回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Posthumous Exhibition of five Artists: Keisen Tomita, Chouu Ota, Gengen Sato, Hakutei Ishii, Toshio Nakanishi  
Preview Exhibition of the 32nd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**39**年度[1964]

- 111 児島善三郎遺作展  
Posthumous Exhibition of Zenzaburo Kojima
- 112 ピカソ展—その芸術の70年  
Pablo Picasso Exhibition: Japan 1964
- 113 京都の日本画—円山応挙から現代まで  
Japanese Painting in Kyoto: from Okyo Maruyama to Present Generation
- 114 現代国際陶芸展  
同時陳列 本館所蔵の日本画  
International Exhibition of Contemporary Ceramic Art  
Japanese-style Paintings from the Museum Collection
- 115 近代日本の名作—オリンピック東京大会芸術展示  
Masterpieces of Modern Japanese Art: Art Exhibition during Tokyo Olympics
- 116 第4回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 4th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 117 第8回安井賞候補新人展  
同時陳列 新収集の日本画  
The 8th Yasui Award Exhibition  
New Pieces of Japanese-Style Paintings in the Museum Collection
- 118 戦中世代の画家  
Painters of the "Senchu" Generation
- 119 戦後の絵画—所蔵作品を中心として  
同時開催 第8回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
同時陳列 古賀春江の水彩  
Postwar Paintings: Mainly from the Museum Collection  
Preview Exhibition of the 8th São Paulo Biennial Exhibits from Japan  
Harue Koga's Water Colors

昭和**40**年度[1965]

- 120 近代における文人画とその影響—日本と中国  
Modern "Bunjin-ga" of China and Japan and its Influence
- 121 近代日本の裸体画  
同時陳列 新収集の油絵と彫刻  
Paintings of Nudes in Modern Japan  
New Pieces of the Museum Collection: Oil Painting and Sculpture

- 122 近代作家の回顧(小杉放庵・木村莊八・前川千帆・藤井浩祐)  
同時開催 ユーゴスラビア現代版画展  
Exhibition of Four Artists: Hoan Kosugi, Shohachi Kimura,  
Sempan Maekawa, Koyu Fujii  
Exhibition of Contemporary Prints in Yugoslavia
- 123 近代日本の油絵—所蔵品による  
Oil Paintings of Modern Japan from the Museum Collection
- 124 院展芸術の歩み—戦前  
The Retrospective Exhibition of the INTEN: The Prewar Period
- 125 在外日本作家展—ヨーロッパとアメリカ  
Exhibition of Japanese Artists Abroad: Europe and America
- 126 第1回日本芸術祭出品作品国内展示  
The 1st Preliminary Show of Japan Art Festival
- 127 第9回安井賞候補新人展  
同時陳列 2人のアメリカの写真作家  
The 9th Yasui Award Exhibition  
Two American Photographers
- 128 現代美術の新世代  
New Generation of Contemporary Art
- 129 近代の日本画—所蔵作品による  
同時開催 第33回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Modern Japanese-Style Paintings from the Museum Collection  
Preview Exhibition of the 33rd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和**41**年度[1966]

- 130 現代の眼—東洋の幻想  
Today's Focus: Fantasy of the Orient Seen Through Eyes of the Present
- 131 近代作家の回顧—岸田劉生  
Posthumous Exhibition of Ryusei Kishida
- 132 ポーランドのポスター  
現代写真の10人  
Posters of Poland  
Ten Artists of Contemporary Japanese Photography
- 133 ミロ展  
Miro Exhibition
- 134 現代アメリカ絵画展  
Exhibition of Contemporary American Painting
- 135 第5回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 5th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 136 第10回安井賞候補新人展  
特別陳列 安井賞の作家たち—受賞作品とその後  
The 10th Yasui Award Exhibition  
Yasui Award Artists: Their Awards and Later Works
- 137 所蔵作品による近代日本の美術—大正から昭和前期の絵画  
同時開催 第9回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Modern Japanese Art from the Museum Collection: Paintings from Taisho  
to Early Showa Eras  
Preview Exhibition of the 9th São Paulo Biennial Exhibits from Japan

昭和42年度[1967]

- 138 グラフィック・アート USA  
Graphic Art USA
- 139 近代日本の版画  
Modern Japanese Prints
- 140 第2回日本芸術祭出品作品国内展示  
The 2nd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 141 近代日本の水彩と素描  
Modern Japanese Water Colors and Drawings
- 142 現代イタリア美術展  
Exhibition of Contemporary Italian Art
- 143 ソ連絵画50年展  
50 Years of Painting U. S. S. R.
- 144 第11回安井賞候補新人展  
特別陳列 安井曾太郎の遺作  
The 11th Yasui Award Exhibition  
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 145 近代日本の油絵—大正・昭和(戦前)を中心として/  
—昭和(戦後)を中心として  
同時開催 第34回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Oil Paintings of Modern Japan: mainly from the Taisho and Showa  
(prewar) Periods: mainly from the Showa (postwar) Period  
Preview Exhibition of the 34th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和43年度[1968]

- 146 現代陶芸の新世代  
New Generation of Ceramic Art in Japan
- 147 第3回日本芸術祭出品作品国内展示  
The 3rd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 148 ダダ展  
Dada
- 149 韓国現代絵画展  
Contemporary Korean Painting
- 150 東西美術交流展—明治100年記念  
Mutual Influences between Japanese and Western Art
- 151 第6回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 6th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo

昭和44年度[1969]

- 152 現代世界美術展—東と西の対話  
Contemporary Art: Dialogue between the East and the West
- 153 ヘンリー・ムーア展  
Henry Moore Exhibition in Japan, 1969
- 154 現代ドイツ建築展  
Moderne Deutsche Architektur
- 155 第4回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示  
The 4th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 156 フランス現代タピスリー展  
Tapisserie Française d'aujourd'hui

	157	ピカソ近作版画展 Picasso's Recent Works in Prints
昭和45年度[1970]	158	富本憲吉遺作展 Posthumous Exhibition of Kenkichi Tomimoto
	159	ベン・シャーン展 Ben Shahn
	160	第5回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示 The 5th Preliminary Show of Japan Art Festival
	161	1970年8月 現代美術の一断面 August 1970: Aspects of New Japanese Art
	162	現代イギリス美術展 Contemporary British Art
	163	現代インド絵画展 Contemporary Indian Painting
	164	第7回東京国際版画ビエンナーレ展 The 7th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
	165	バウハウス50年展 Bauhaus Exhibition
昭和46年度[1971]	166	近代日本美術における1930年 Around 1930 in Modern Japanese Art
	167	ルネ・マグリット展 La Rétrospective René Magritte
	168	第6回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示 The 6th Preliminary Show of Japan Art Festival
	169	新収蔵作品の展示—日本画・版画・工芸・書 New Acquisition: Japanese-Style Painting, Prints, Crafts, and Calligraphy
	170	近代作家の回顧—山口薫 Posthumous Exhibition of Kaoru Yamaguchi
	171	現代ドイツ美術展 ZEITGENÖSISCHE DEUTSCHE KUNST
	172	現代の陶芸—アメリカ・カナダ・メキシコと日本 Contemporary Ceramic Art: Canada, U. S. A., Mexico and Japan
	173	戦後日本美術の展開—具象表現の変貌 Development of Postwar Japanese Art: Figurative Art
	174	新収蔵作品の展示—油絵と彫刻 New Acquisition: Oil Painting and Sculpture
昭和47年度[1972]	175	現代スウェーデン美術展 Swedish Art 1972: A Contemporary Theme
	176	近代イタリア美術の巨匠たち Masters of Modern Italian Art from the Collection of Gianni Mattioli

- 177 昭和46年度新収蔵作品の展示  
同時陳列 本館所蔵の素描  
New Acquisition 1971  
Drawings in the Museum Collection
- 178 開館20年記念 現代の眼—近代日本の美術から  
The 20th Anniversary Exhibition: Today's Focus: on Modern Japanese Art
- 179 第8回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 8th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 180 ヨーロッパの日本作家  
Japanese Artists in Europe
- 181 平櫛田中展  
The Retrospective Exhibition of Denchu Hirakushi

昭和48年度[1973]

- 182 現代ユーゴスラヴィア美術展  
Contemporary Yugoslav Art
- 183 戦後日本美術の展開—抽象表現の多様化  
Development of Postwar Japanese Art: Abstract and Non-Figurative
- 184 新収蔵作品の展示  
同時陳列 東京国立博物館より移管の日本画  
New Acquisition 1972  
Japanese-Style Paintings Transferred from the Tokyo National Museum
- 185 近代日本美術史におけるパリと日本  
Modern Japanese Art and Paris
- 186 ジャコモ・マンズー展  
Exhibition of Giacomo Manzu
- 187 アメリカの日本作家  
Japanese Artists in the Americas
- 188 近代作家の回顧—新海竹蔵・福田豊四郎  
Modern Japanese Artists in Retrospect: Takezo Shinkai, Toyoshiro Fukuda

昭和49年度[1974]

- 189 アンドリュー・ワイエス展  
Works of Andrew Wyeth
- 190 徳岡神泉遺作展  
Posthumous Exhibition of Shinsen Tokuoka
- 191 15人の写真家  
Fifteen Photographers Today
- 192 現代メキシコ美術展  
Contemporary Mexican Art
- 193 第9回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 9th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 194 近代日本の美術  
Modern Japanese Art
- 195 福田平八郎遺作展  
Posthumous Exhibition of Heihachiro Fukuda

昭和50年度[1975]

- 196 ポール・デルボー展  
Paul Delvaux
- 197 前田青邨展  
The Retrospective Exhibition of Seison Maeda
- 198 香月泰男遺作展  
Posthumous Exhibition of Yasuo Kazuki
- 199 新収蔵作品の展示  
同時陳列 ソ連寄贈・福田平八郎作品展  
New Acquisition 1973 and 1974  
Exhibition of Works by Heihachiro Fukuda: Donation from the U. S. S. R.
- 200 シュルレアリスム展  
Surrealism
- 201 フランス工芸の美—15世紀から18世紀のタピスリー  
同時陳列 ジョセフ・アルバーズの形成・連接  
Merveilles de la Tapisserie Française  
Josef Albers: Formulation, Articulation
- 202 ドイツ・リアリズム 1919—1933  
Realistische Tendenzen Deutscher Kunst 1919-1933 Eine Ausstellung aus  
Museen der DDR

昭和51年度[1976]

- 203 ルフィーノ・タマヨ展  
Exhibition Rufino Tamayo
- 204 安田鞞彦展  
The Retrospective Exhibition of Yukihiko Yasuda
- 205 恩地孝四郎と「月映」  
Koshiro Onchi and "Tsukuhae"
- 206 シャガール展  
Exposition Mark Chagall
- 207 キュービズム展  
Cubism
- 208 第10回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 10th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 209 今日の造形〈織〉—ヨーロッパと日本  
Fiber Works: Europe and Japan
- 210 新収蔵作品の展示  
New Acquisition 1975

昭和52年度[1977]

- 211 浜田庄司展  
The Retrospective Exhibition of Shoji Hamada
- 212 素朴な画家たち  
Peintres Naifs
- 213 新収蔵作品の展示  
New Acquisition 1975
- 214 フォンタネージ, ラグーザと明治前期の美術  
Fontanesi, Ragusa e l'arte Giapponese nel primo periodo Meiji

- 215 **工1** 工芸館開館記念展 現代日本工芸の秀作  
Masterpieces of Contemporary Japanese Crafts: Commemorative Exhibition for Opening of the Crafts Gallery
- 216 今日の造形〈織〉—アメリカと日本  
Fiber Works: Americas and Japan
- 217 フリードリッヒとその周辺  
Casper David Friedrich und Sein Kreis

昭和**53**年度[1978]

- 218 マリノ・マリーニ展  
Exhibition Marino Marini
- 219 斎藤義重展  
SAITO Yoshishige Exhibition 1978
- 220 **工2** 松田権六展  
Gonroku Matsuda Exhibition
- 221 佐伯祐三展  
50th Year Posthumous Exhibition Yuzo Saeki
- 222 世界現代工芸展 スカンディナヴィアの工芸  
World Contemporary Crafts Exhibition: Scandinavian Craft
- 223 ヨーロッパのポスター—その源流から現代まで  
L’Affiche en Occident de ses origines a nos jours
- 224 **工3** 近代日本の色絵磁器  
Enamelled Porcelain of Modern Japan
- 225 新収蔵美術作品の展示—昭和52年度  
New Acquisition 1977

昭和**54**年度[1979]

- 226 没後50年記念 岸田劉生展  
50th Year Posthumous Exhibition Ryusei Kishida
- 227 第11回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 11th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 228 **工4** 昭和52, 53年度収蔵工芸作品の展示  
New Acquisition 1977 and 1978 (Craft)
- 229 **工5** 近代日本の漆芸  
Lacquer Art of Modern Japan
- 230 ドローネー展 ロベールとソニア  
Robert / Sonia Delaunay
- 231 ブリジット・ライリー展—視覚の眩惑  
Bridget Riley: Works 1959-78

昭和**55**年度[1980]

- 232 新収蔵美術作品の展示—昭和53, 54年度  
New Acquisition 1978 and 1979
- 233 山口長男・堀内正和展—日本の抽象美術のパイオニア  
Exhibition YAMAGUCHI Takeo & HORIUCHI Masakazu
- 234 **工6** 伝統と現代 日本の型染  
KATAZOME Japanese stencil and print dyeing: Tradition and Today



- 235 ポンピドウ・センター／20世紀の美術  
Le Musee National d'Art Moderne Centre Georges Pompidou/ L'Art du 20e Siecle
- 236 **工7** 現代ガラスの美—ヨーロッパと日本  
Contemporary Glass: Europe and Japan

昭和**56**年度[1981]

- 237 マチス展  
Matisse Exhibition
- 238 **工8** 石黒宗麿展—陶芸の心とわざ  
Munemaro Ishiguro Exhibition
- 239 **工9** 八木一夫展—火と土のメッセージ  
The Ceramic Artist Kazuo Yagi
- 240 20世紀カナダ絵画展  
20th Century Canadian Painting
- 241 東山魁夷展  
Kai Higashiyama Exhibition
- 242 ムンク展—生の不安 愛と死  
Munch Exhibition
- 243 **工10** 現代ガラスの美—オーストラリア、カナダ、アメリカと日本  
Contemporary Glass: Australia, Canada, U. S. A. & Japan
- 244 1960年代—現代美術の転換期  
The 1960's: Decade of Change in Contemporary Japanese Art
- 245 **工11** 現代の食器—注ぐ  
Contemporary Vessels: How to pour
- 246 坂本繁二郎展  
Hanjiro Sakamoto Exhibition

昭和**57**年度[1982]

- 247 開館30周年記念展I 近代日本の美術—1945年以後  
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 1 [1945-]
- 248 **工12** 開館30周年記念展 近代日本の工芸  
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Crafts
- 249 アメリカに学んだ日本の画家たち展  
—国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・シーン絵画  
Japanese Artists Who Studied in U. S. A. and The American Scene
- 250 開館30周年記念展II 近代日本の美術—1945年以前  
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 2 [1900-1945]
- 251 **工13** 近代日本のガラス工芸—明治初期から現代まで  
Modern Japanese Glass: Early Meiji to Present
- 252 ベルギー象徴派展  
Symbolism in Belgium
- 253 **工14** イギリスのニードルワーク  
British Needlework
- 254 **工15** 黒田辰秋展—木工芸の匠  
KURODA Tatsuaki: Master Wood Craftsman

昭和58年度[1983]

- 255 ピカソ展  
Picasso
- 256 フランシス・ベーコン  
Francis Bacon: Paintings 1945-1982
- 257 **E16** 伝統工芸30年の歩み  
30 Years of Modern Japanese Traditional Crafts
- 258 現代美術における写真—1970年代の美術を中心として  
Photography in Contemporary Art
- 259 **E17** モダニズムの工芸家たち—金工を中心にして  
Modernism and Craftsmen The 1920's to the 1930's
- 260 20世紀アメリカのポスター—ニューヨーク近代美術館所蔵による  
The modern American Poster
- 261 村上華岳展  
Kagaku Murakami Exhibition

昭和59年度[1984]

- 262 ティッセン・コレクション名作展—近代絵画の展開  
Modern Masters From The Thyssen-Bornemisza Collection
- 263 三次元性—ドイツ彫刻の現在  
Dreidimensional: Aktuelle Kunst aus der Bundesrepublik Deutschland
- 264 **E18** 河井寛次郎—近代陶芸の巨星  
Kanjiro Kawai
- 265 構成主義と幾何学的抽象  
Constructivism and the Geometric Tradition
- 266 **E19** 今日のジュエリー—世界の動向  
Contemporary Jewelry: The Americas, Australia, Europe and Japan
- 267 現代美術への視点—メタファーとシンボル  
Metaphor and/or Symbol: A Perspective on Contemporary Art
- 268 新収蔵作品展—昭和58, 59年度  
New Acquisition 1983 and 1984
- 269 **E20** 竹の工芸—近代における展開  
Modern Bamboo Craft
- 270 棟方志功展  
Shiko Munakata

昭和60年度[1985]

- 271 **E21** 現代染織の美—森口華弘・宗廣力三・志村ふくみ  
Kimono as Art: Modern Textile Works by Kako Moriguchi,  
Rikizo Munehiro, and Fukumi Shimura
- 272 モディリアーニ展  
Modigliani
- 273 写実の系譜 I—洋風表現の導入—江戸中期から明治初期まで  
Development of Western Realism in Japan
- 274 現代デザインの展望—ポストモダンの地平から  
Contemporary Landscape, From the Horizon of Postmodern Design
- 275 プロイセン文化財団ベルリン国立美術館所蔵—19世紀ドイツ絵画名作展  
Meisterwerke deutscher Malerei des 19. Jahrhunderts aus der Nationalgalerie  
Berlin: Staatliche Museen Stiftung Preußischer Kulturbesitz

	276	<b>工22</b> 人形工芸 昭和期を中心にして Modern Japanese Dolls
昭和 <b>61</b> 年度[1986]	277	松本竣介展 Shunsuke Matsumoto Exhibition 1986
	278	所蔵作品による全館陳列—近代日本の美術 Modern Japanese Art from the Museum Collection
	279	近代の見なおし—ポストモダンの建築1960-1986 Revision der Moderne: Postmoderne Architektur 1960-1986
	280	写実の系譜 II—大正期の細密描写 An Eye for Minute Details: Realistic Painting in the Taisho Period
	281	京都の日本画1910-1986 Nihon-ga the Kyoto School 1910-1986
	282	<b>工23</b> 1960年代の工芸—昂揚する新しい造形 Forms in Aggression: Formative Uprising of the 1960s
	283	昭和60, 61年度 新収蔵作品展 New Acquisitions 1985 and 1986
	284	ゴーギャン展—楽園を求めて Paul Gauguin: In Search of Paradise
昭和 <b>62</b> 年度[1987]	285	カンディンスキー展 Kandinsky
	286	<b>工24</b> 木工芸—明治から現代まで Modern Woodcraft
	287	杉山 寧展 Yasushi Sugiyama
	288	<b>工25</b> 現代陶芸の美 加守田章二展 KAMODA Shoji: A Prominent Figure in Contemporary Ceramics
	289	若林奮展—今日の作家 Isamu Wakabayashi
	290	難波田龍起展—今日の作家 Tatsuoki Nambata
	291	ブリュッセル王立歴史博物館所蔵—ヨーロッパのレース Dentelles Européennes
	292	梅原龍三郎遺作展 Ryuzaburo Umehara Retrospective
昭和 <b>63</b> 年度[1988]	293	ルネ・マグリット展 René Magritte
	294	所蔵作品による全館陳列—近代美術における人間像 The Image of Man in Modern Japanese Art from the Museum Collection
	295	<b>工26</b> 図案の変貌 Design in Transition
	296	写実の系譜 III—明治中期の洋画 Realistic Representation III: Painting in Japan 1884-1907

297 **Ⅰ27** 現代イギリスの工芸  
Contemporary British Crafts

298 オディロン・ルドン展  
Odilon Redon

平成元年度[1989]

299 高山辰雄展  
Tatsuo Takayama

300 所蔵作品による全館陳列—昭和の美術  
Art of the Showa Period: From the Museum Collection

301 **Ⅰ28** 生命のかたち—熊倉順吉の陶芸  
Organs that Provoke: Ceramic Works of Junkichi Kumakura

302 現代美術への視点—色彩とモノクローム  
A Perspective on Contemporary Art: Color and/or Monochrome

303 **Ⅰ29** 能弁なオブジェ—現代アメリカ工芸の展開  
The Eloquent Object: The Evolution of American Art in Craft Media since 1945

平成2年度[1990]

304 **Ⅰ30** ヴァン・ド・ヴェルド展  
Van de Velde Exhibition

305 文展の名作[1907—1918]  
Masterpieces from the Bunten Exhibition 1907-1918

306 手塚治虫展  
Osamu Tezuka Exhibition

307 写真の過去と現在  
The Past and the Present of Photography

308 **Ⅰ31** グラフィックデザインの今日  
Graphic Design Today

309 移行するイメージ 1980年代の映像表現  
Images in Transition: Photographic Representation in the Eighties

平成3年度[1991]

310 **Ⅰ32** 富本憲吉展  
TOMIMOTO Kenkichi

311 荒川修作の実験展—見る者がつくられる場  
Constructing the Perceiver — ARAKAWA: Experimental Works

312 **Ⅰ33** 大英博物館所蔵品による アフリカの染織  
African Textiles

313 古賀春江—創作のプロセス 東京国立近代美術館所蔵作品を中心に  
Harue Koga — The Creative Process: A Show Built Around the Museum Collection

314 イサム・ノグチ展  
Isamu Noguchi Retrospective 1992

平成4年度[1992]

315 ルネ・ラリック展  
René Lalique

316 現代美術への視点—形象のはざまに  
A Perspective on Contemporary Art: Among the Figures

- 317 アボリジニの美術 伝承と創造／オーストラリア大地の夢  
Crossroads Toward A New Reality: Aboriginal Art from Australia
- 318 セバスチャン・サルガドー人間の大地  
Sebastião Salgado: In Human Effort
- 319 **工34** 塗りの系譜  
Nuances in Lacquer: 70 Years of Innovations
- 320 フォーヴィズムと日本近代洋画  
Fauvism and Modern Japanese Painting

平成5年度[1993]

- 321 小川芋銭展  
OGAWA Usen Retrospective
- 322 柳原義達展  
Yoshitatsu Yanaguihara: A Retrospective
- 323 **工35** 現代の陶芸(I)山陰の陶窯―出西窯  
Contemporary Japanese Ceramic Shussai Kiln: Folk Craft in San'in Area
- 324 国画創作協会回顧展  
Kokuga-Sosaku-Kyokai Retrospective
- 325 黒田アキ 廻廊＝メタモルフォフォーゼ1993  
Aki Kuroda: Corridor=Metamorphosis 1993
- 326 **工36** 現代の型染―くりかえすパターン  
Contemporary Stencil Dyeing and Printing: The Repetition of Patterns
- 327 山本丘人展  
YAMAMOTO Kyujin Retrospective

平成6年度[1994]

- 328 木村忠太展  
Chuta Kimura
- 329 **工37** イスラエルの工芸―アリックス・ド・ロスチャイルド財団のコレクションを中心にして―  
Israeli Contemporary Crafts ―Featuring the Collection of the Alix de Rothschild Foundation―
- 330 写実の系譜IV―「絵画」の成熟 1930年代の日本画と洋画  
Realistic Representation IV: Master Paintings in Japan in the 1930s
- 331 **工38** 素材の領分―素材を見直しはじめた美術・工芸・デザイン  
The Domain of the Medium: New Approaches to the Medium in Art, Craft, Design
- 332 日本の美―伝統と近代  
The Traditional Beauty in Japanese Art
- 333 **工39** 現代の彫漆  
Choshitsu [Carved Lacquer] Today
- 334 若林奮展―素描という出来事  
Isamu Wakabayashi: Works on Paper
- 335 メトロポリタン美術館所蔵 抽象表現主義―紙の上の冒険  
同時開催 国内所蔵 アメリカ抽象表現主義の名作展  
Abstract Expressionism: Works on Paper, Selections from The Metropolitan Museum of Art  
Abstract Expressionism: Masterpieces from Japanese Collections

平成7年度[1995]

- 336 **工40** 〈珠玉の陶芸〉板谷波山展  
ITAYA Hazan Retrospective
- 337 東京国立近代美術館と写真 1953-1995  
Photography and The National Museum of Modern Art, Tokyo 1953-1995
- 338 **工41** コンテンポラリー・ジュエリー —日本の作家30人による—  
Contemporary Jewelry: Exploration by thirty Japanese artists
- 339 **工42** アール・デコのポスター  
Art Déco Posters
- 340 辰野登恵子 1986-1995  
Toeko Tatsuno 1986-1995
- 341 **工43** 生活の中の工芸—1950-1960年代のモダン・クラフト  
Crafts in Everyday Life in the 1950s and the 1960s
- 342 現代美術への視点 絵画、唯一なるもの  
A Perspective on Contemporary Art: Painting — Singular Object
- 343 ドナウの夢と追憶：ハンガリーの建築と応用美術 1896-1916  
Panorama: Architecture and Applied Arts in Hungary 1896-1916
- 344 **工44** 現代世界のポスター 東京国立近代美術館所蔵品より  
Contemporary Posters from Museum's Collection
- 345 石元泰博展 現在の記憶  
Yasuhiro Ishimoto: Remembrance of Things Present
- 346 身体と表現 1920-1980 ポンピドゥーセンター所蔵作品から  
La Dimension du Corps 1920-1980

平成8年度[1996]

- 347 岸田劉生 所蔵作品と資料の展示  
同時開催 平成5-7年度新収蔵作品展  
KISHIDA Ryusei: Works and Archives from the Museum Collection  
New Acquisition 1993-1995
- 348 東京国立近代美術館・国立西洋美術館 所蔵作品による  
交差するまなざし—ヨーロッパと近代日本の美術  
The Crossing Visions: European and Modern Japanese Art from the  
Collections of The National Museum of Western Art & The National  
Museum of Modern Art, Tokyo
- 349 **工45** 亀倉雄策のポスター 時代から時代へ 1953年-1996年の軌跡  
Yusaku Kamekura Poster Exhibition
- 350 **工46** 磁器の表現 1990年代の展開  
New Expression in Porcelain: Developments in the 1990s
- 351 90年代の韓国美術から—等身大の物語  
An Aspect of Korean Art in the 1990s
- 352 東松照明写真展 インターフェイス  
Shomei Tomatsu: Interface
- 353 プロジェクト・フォー・サバイバル 1970年以降の現代美術再訪  
Project for Survival
- 354 理知と幻想のシュルレアリスト 北脇昇展  
Noboru Kitawaki: A Retrospective
- 355 **工47** 藤井達吉展—近代工芸の先駆者  
Tatsukichi Fujii: A Pioneer in Modern Crafts

平成9年度[1997]

- 356 モダニズムの光跡 恩地孝四郎・権原治・瑛九  
Traces of Light in Modernism: Koshiro Onchi, Osamu Shiihara and Ei-kyu
- 357 絵画の大地を揺り動かした画家 萬鐵五郎展  
YOROZU Tetsugoro Retrospective
- 358 モダン・デザインの父 ウィリアム・モリス展  
William Morris
- 359 **Ⅰ48** 福田繁雄のポスター—視覚の遊気  
Posters of FUKUDA Sigeo: An Artist of Visual Wit
- 360 アルフレッド・スティーグリッツと野島康三  
Alfred Stieglitz and Yasuzo Nojima
- 361 土田麦僊展  
TSUCHIDA Bakusen: A Retrospective
- 362 **Ⅰ49** 増村増城展—漆の美・塗の造形  
MASUMURA Mashiki: Intrinsic and Formal Beauty of Lacquer
- 363 村岡三郎展  
Saburo Muraoka
- 364 **Ⅰ50** トーネ・ヴィーゲラン展—ノルウェーの現代アート・ジュエリー—  
Tone Vigeland: Norwegian Art Jewelry
- 365 文人画の近代—鉄斎とその師友たち—  
Destination of the Literary School Painting in Modern Ages: Tessai and Teachers and Friends
- 366 写真の現在—距離の不在  
Photography Today: The Absence of Distance
- 367 加山又造展  
Matazo Kayama Exhibition

平成10年度[1998]

- 368 **Ⅰ51** 竹内碧外展 木工芸・わざと風雅  
Elegance of Woodwork: Art of TAKEUCHI Hekigai
- 369 20世紀の“線描”—〈生成〉と〈差異〉  
Making It Visible — Graphic Elements in 20th Century Art
- 370 **Ⅰ52** 永井一正ポスター展—Life  
Posters of Kazumasa Nagai [life]
- 371 土谷武展 しなやかな造形, 生成するかたち  
Takeshi Tsuchitani: A Retrospective
- 372 **Ⅰ53** 「かたち」の領分—機能美とその転生  
The Domain of the Form — Functional Beauty and its Transmigration
- 373 京都の工芸[1910-1940] 伝統と変革のはざまに  
Crafts Reforming In Kyoto [1910-1940] A Struggle Between Tradition and Renovation
- 374 大辻清司写真実験室  
Kiyoji Ohtsuji Retrospective: Experimental Workshop of Photography
- 375 **Ⅰ54** 鈴木治の陶芸—詩情のオブジェ  
Ceramic Art of SUZUKI Osamu: Poetry in Ceramic Works
- 376 籙木清方展—回想の江戸・明治 郷愁のロマン  
KABURAKI Kiyokata: A Retrospective

平成11年度[1999]

- 377 **E55** 本野東一の染色  
MOTONO TOICHI: A Retrospective
- 378 横山操展  
Misao Yokoyama: A Retrospective
- 379 **E56** 田中一光ポスター展—伝統への接点  
Beyond Tradition: An Exhibition of IKKO TANAKA's Posters
- 380 **E57** 加藤土師萌の陶芸：近代陶芸の精華  
Hajime Kato: The Quintessence of Modern Japanese Ceramic Art
- 381 石内都 モノクローム—時の器  
Miyako Ishiuchi: Time Textured in Monochrome
- 382 顔—絵画を突き動かすもの(於 国立西洋美術館)  
VISAGE: Painting and the Human Face in 20th Century Art

平成12年度[2000]

- 383 **E58** 杉浦非水展 都市生活のデザイナー  
SUGIURA HISUI: A Retrospective
- 384 **E59** うつわをみる—暮らしに息づく工芸—  
Thoughts on Contemporary Vessels
- 385 トーマス・シュトゥルツ：マイ・ポートレート  
Thomas Struth: My Portrait
- 386 **E60** ドイツ陶芸の100年—アール・ヌーヴォーから現代作家まで—  
German Ceramics in 20th Century
- 387 美術館を読み解く—表慶館と現代の美術(於 東京国立博物館 表慶館)  
Reading the Art Museum: Hyokeikan and Art of Today

平成13年度[2001]

- 388 **E61** 1930年代日本の印刷デザイン—大衆社会における伝達  
Japanese Posters and Handbills in the 1930s: Communication in Mass Society
- 389 **E62** 現代の布—染と織の造形思考—  
Contemporary Textile—Weaving and Dyeing: Ways of Formative Thinking
- 390 **E63** 京都の工芸[1945-2000]  
Crafts in Kyoto: 1945-2000
- 391 未完の世紀：20世紀美術がのこすもの  
The Unfinished Century: Legacies of 20th Century Art
- 392 カンディンスキー展  
Kandinsky

平成14年度[2002]

- 393 写真の現在 2 サイト—場所と光景  
Photography Today 2—[sáit] site/sight
- 394 **E64** 森正洋—陶磁器デザインの革新—  
Masahiro Mori: A Reformer of Ceramic Design
- 395 小倉遊亀展  
Yuki Ogura: A Retrospective
- 396 **E65** 昭和の桃山復興展  
Modern Revival of Momoyama Ceramics: Turning Point Toward Modernization of Ceramics



- 397 現代美術への視点 連続と侵犯  
A Perspective on Contemporary Art: Continuity/Transgression
- 398 ヴォルフガング・ライブ展  
Wolfgang Laib
- 399 **E66** クッションから都市計画まで—ヘルマン・ムテジウスと  
ドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相 1900-1927  
From Cushion to Urban-Planning Hermann Muthesius and the German  
Werkbund: Modern Design in Germany 1900-1927
- 400 青木繁と近代日本のロマンティシズム  
Shigeru AOKI and Romanticism in Modern Japanese Art
- 401 **E67** 今日の人形芸術 想念の造形  
Contemporary Dolls: Formative Art of the Human Sentiment

平成15年度[2003]

- 402 牛腸茂雄展  
Shigeo Gocho: A Retrospective
- 403 **E68** オーストラリア現代工芸3人展：未知の形を求めて  
Light Black: Three Contemporary Australian Craftspersons
- 404 地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画  
Dreams of the Horizon: Fantastic Paintings in Japan, 1935-1945
- 405 **E69** 三代藍堂 宮田宏平—金属造形の先駆け  
Rando Miyata III: A Retrospective
- 406 野見山暁治展  
Gyoji Nomiyama: A Retrospective
- 407 **E70** 現代の木工家具 スローライフの空間とデザイン  
Contemporary Furniture and Woodworks in Japan
- 408 旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン  
Traveling: Towards the Border
- 409 **E71** あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻  
Akari: Light Sculptures by Isamu Noguchi
- 410 ヨハネス・イッテン—造形芸術への道  
Johannes Itten: Wege zur Kunst
- 411 国吉康雄展  
Yasuo Kuniyoshi: A Retrospective

平成16年度[2004]

- 412 ブラジル：ボディ・ノスタルジア  
Brazil: Body Nostalgia
- 413 琳派 RIMPA  
RIMPA
- 414 **E72** 非情のオブジェ 現代工芸の11人  
Cool & Light: New Spirit in Craft Making
- 415 木村伊兵衛展  
Ihei Kimura — The Man with the Camera
- 416 草間彌生—永遠の現在  
YAYOI KUSAMA Eternity-Modernity

- 417 **E73** 人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉  
Daily Vessels by Kenkichi Tomimoto, the Master of Ceramic Art
- 418 痕跡—戦後美術における身体と思考  
TRACES — Body and Idea in Contemporary Art
- 419 **E74** 河野鷹思のグラフィック・デザイン—都会とユーモア  
Graphic Designs of Takashi KONO: Humor and City
- 420 ゴッホ展 孤高の画家の原風景  
Van Gogh in Context

平成17年度[2005]

- 421 **E75** 伊砂利彦—型染の美  
ISA TOSHIHIKO: Beauty of Stencil Dyeing
- 422 近代日本画の名匠 小林古径展  
Kokei Kobayashi
- 423 アジアのキュビズム 境界なき対話  
Cubism in Asia: Unbounded Dialogues
- 424 **E76** 日本のアール・ヌーヴォー 1900-1923: 工芸とデザインの新時代  
Art Nouveau in Japan 1900-1923: The New Age of Crafts and Design
- 425 ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために  
Zwischen Wirklichkeit und Bild: Positionen deutscher Fotografie der Gegenwart
- 426 アウグスト・ザンダー展  
August Sander: Face of Our Time
- 427 須田国太郎展  
SUDA Kunitaro
- 428 **E77** 渡辺力—リビング・デザインの革新  
Riki Watanabe: Innovating in Modern Living
- 429 生誕120年 藤田嗣治展 パリを魅了した異邦人  
LEONARD FOUJITA

平成18年度[2006]

- 430 生誕100年記念 吉原治良展  
Jiro Yoshihara: A Centenary Retrospective
- 431 **E78** 萩焼の造形美 人間国宝 三輪壽雪の世界  
Jusetsu Miwa: A Retrospective
- 432 モダン・パラダイス 大原美術館+東京国立近代美術館 東西名画の饗宴  
Modern Paradise
- 433 **E79** ジュエリーの今: 変貌のオブジェ  
Transfiguration: Japanese Art Jewelry Today
- 434 写真の現在3 臨界をめぐる6つの試論  
Photography Today 3: Resolution/Dissolution
- 435 揺らぐ近代 日本画と洋画のはざまに  
Modern Art in Wanderings: In Between the Japanese- and Western-Style Paintings
- 436 **E80** 人間国宝 松田権六の世界  
Matsuda Gonroku: Master of Lacquer Art and Living National Treasure

- 437 都路華香展  
Tsuji Kakō Exhibition
- 438 **工81** 柳宗理—生活のなかのデザイン—  
Sori Yanagi: Design in Everyday Life
- 439 **工82** 青磁を極める—岡部嶺男展  
Mineo Okabe: A Retrospective
- 440 生誕100年 鬚光展  
AI-MITSU

平成19年度[2007]

- 441 アンリ・カルティエ＝ブレッソン 知られざる全貌  
De qui s' agit-il ? : Rétrospective de Henri Cartier-Bresson
- 442 アンリ・ミショー ひとのかたち  
Henri Michaux / Emerging Figures
- 443 平山郁夫 祈りの旅路  
Ikuo Hirayama: A Retrospective—Pilgrimage for Peace
- 444 **工83** 開館30周年記念展Ⅰ 工芸館30年のあゆみ  
The Crafts Gallery 30th Anniversary Exhibition I 30 Years of the Crafts Gallery
- 445 日本彫刻の近代  
Modern Age in Japanese Sculpture From its Beginings Through the 1960s
- 446 **工84** 開館30周年記念Ⅱ 工芸の力—21世紀の展望  
The Crafts Gallery 30th Anniversary Exhibition II The Power of Crafts: Outlook for the 21st Century
- 447 わたしいまめまいしたわ 現代美術にみる自己と他者  
Self / Other
- 448 生誕100年 東山魁夷展  
Kaii Higashiyama: A Retrospective

## 会 期

平成20年6月3日～平成20年8月3日  
(54日間)

## 会 場

東京国立近代美術館本館  
2階ギャラリー4

## 主 催

東京国立近代美術館

## 後 援

スイス大使館

## 助 成

スイス・プロ・ヘルヴェティア  
文化財団

## 協 賛

サンスター  
ノバルティスファーマ株式会社

## 協 力

スイスインターナショナルエアライ  
ンズ、新建築社、エー・アンド・ユー

## 出品点数

437点

## 入場者

19,970人(1日平均370人)

## 新聞・雑誌等における掲載記事

The Japan Times 5月29日(無記名)  
朝日新聞 6月25日夕刊 「建築がうま  
れるとき」(青木淳)  
読売新聞 6月26日 「建築季評 消費シ  
ステム超えられるか」(中川理)  
新建築 7月号 「建築言語の誕生」(西沢  
大良)  
建築ジャーナル 1138号 「色彩と形態の  
エクササイズ」(伊藤憲夫)  
建築技術 703号 「へだたりを慎重に考  
える幸福で大切な体験」(三浦丈典)  
DETAIL JAPAN 2008年6月(無記名)  
フィガロジャポン No.365 「アイデアを  
かたちにするプロセスを見せる。」(無記  
名)  
BRAIN 576号 「スイスと日本の建築家  
の“頭”の中をのぞく」(無記名)  
和楽 7月号 「ふたりの建築家のアート  
な発想に着目」(無記名)  
コンフォルト 8月号 「ふたりの建築家  
の頭の中を旅しませんか？」(無記名)  
METROPOLIS #744 (無記名)  
カーサ ブルータス 8月号 「カーサと一  
緒に街に出よう！」(青野尚子)  
Real Design 9月号 「道のりをたどっ  
てみると……」(白坂ゆり)  
建築ノート No.5 「世界のアート&建築  
最新レポート スイスと日本の建築家二  
人が美術館にて邂逅」(田中元子)

## 449 建築がうまれるとき ペーター・メルクリと青木淳

スイスのペーター・メルクリ(1953年-)と日本の青木淳(1956年-)の二人の建築家を紹介する企画展である。二人の間に直接的なつながりはないが、絵画や彫刻など造形美術に対して強い関心を持つ点で共通しており、そうした関心が、建築のアイデアの発展にいかにか寄与しているか、比較しながら検証することを、本展の狙いとした。

したがって、完成模型や図面ではなく、アイデア段階でのドローイングやスタディ模型を展示した。

メルクリのパートでは、プロジェクトとは関係なく描かれたドローイング約300枚、《ノバルティス・キャンパス・ビジターセンター》(2006年竣工)のためにつくられたスタディ模型14点が展示された。また、それとともに、メルクリに強い影響を与えた彫刻家ハンス・ヨゼフソンの作品も、小品2点を特別に展示した。

青木のパートでは、住宅《M》のためにつくられた100個のスタディ模型を展示した。検討しているテーマによって14のグループに分けられ、それぞれに青木自身によるコメントがつくことで、建築家の逡巡をそのままたどれるようにした。

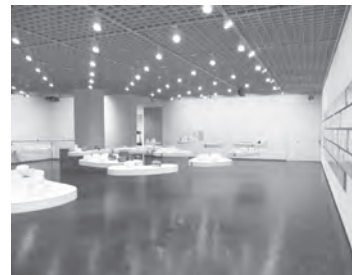
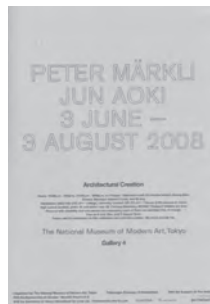
## Architectural Creation: Peter Märkli and Jun Aoki

This was a special exhibition introducing the work of two architects—Peter Märkli (born 1953) from Switzerland, and Japan's Aoki Jun (born 1956). Although there exists no direct connection between them, they both share a strong interest in such figurative arts as painting and sculpture. This exhibition was organized with the aim to explore the work of both artists by comparing how this interest is reflected in the development of their respective architectural ideas.

Accordingly, the exhibition featured drawings and study models made during the conceptual stage, rather than maquettes and plans reflecting final designs.

Märkli's exhibit featured approximately 300 drawings not necessarily related to specific projects, as well as 14 study models for the Novartis Campus Visitor Center (completed in 2006). Separately on display were also two small-sized items by sculptor Hans Josephson, whose work has been exerting a massive influence on Märkli.

Aoki's exhibit displayed 100 study models for the “M” house. The displays were divided into 14 thematic groups, each of which was introduced along with Aoki's own comments, in order to allow the visitor to re-experience the architect's struggles throughout the project.



会 期
平成20年6月17日～平成20年8月3日 (42日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主 催
東京国立近代美術館 京都国立近代美術館 ファエンツァ市 エミリア・ロマーニャ州 カルロ・ザウリ美術館 日本経済新聞社
後 援
イタリア文化省、イタリア外務省 イタリア議会下院、ラヴェンナ県 ラヴェンナ商工会議所 イタリア大使館、イタリア文化会館
協 賛
フェラーリニ社、モカドーロ、GD
協 力
アリタリア航空、オープン・ケア
出品点数
166点
入場者
11,676人(1日平均278人)
新聞・雑誌等における掲載記事
文部科学時報 6月号 「国立美術館・博物館研究員は語る 『カルロ・ザウリ展』をめぐって」(唐澤昌宏) タイルの本 6月号 「巻頭カラー特集 イタリア現代陶芸の巨匠 カルロ・ザウリのタイル」(依田郁夫) コレカラ 8月号 「ふたりのお出かけナビ 陶器で柔らかな曲線を表現。日本で最も知られたイタリア現代陶芸家の回顧展」(浅野陽子) 月刊C 8月号 「カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠」(梅山美紀) 月刊展覧会ガイド 7月号 「《形態のうねり》」(唐澤昌宏) Domani 7月号 「村田真のアートを身近に楽しむ展覧会レビュー」(村田真) テレビでイタリア語 6月号 「日本で見ることのできるイタリア美術 『カルロ・ザウリ展』」(池上英洋) The Japan Times 6月26日 「Breaking tradition to grasp the earth」(D.H.Rosen) 朝日新聞 7月9日夕刊 「美・博ピックアップ 陶芸と彫刻 斬新に融合」

## 450 (E85) カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠

現代陶芸の偉大な改革者の一人として国際的にも高く評価され、日本にも大きな影響を与えてきたイタリアの巨匠、カルロ・ザウリ(1926-2002年)の没後初めての回顧展を開催し、初期の1951年から闘病前の1991年まで、約40年間の芸術活動の軌跡を検証することを目指した。

展覧会の構成は、マジョリカ陶器やストーンウェアなどの陶作品128点を制作年代により5つの章に分け、さらにグラフィック13点とタイル25点を1つの章でくくり、全体を6つの章とした。第1章では、ザウリの出身地であるファエンツァ伝統のマジョリカ焼の技法を用いた色彩豊かな作品を紹介。第3章(1962-67年)から第5章(1981-91年)までは、ザウリ作品を代表する独自の釉薬、「ザウリの白」と彫刻的な形体との融合による革新的な作品を紹介。なかでも第5章では、高さ4メートルを超える迫力ある作品や、「ザウリの白」とは対照的な土の素材感を強く感じさせる艶のない黒い作品も展示した。本展はイタリアにおける偉大な作家であるカルロ・ザウリが、生涯をかけて自らの美意識を作品に映し出そうとした偉業に触れる機会とした。

### CARLO ZAULI: A RETROSPECTIVE

Internationally acclaimed as a renowned reformer of contemporary ceramic art, Italian Carlo Zauli (1926–2002) has also had a great impact in Japan. Our aim with this first posthumous retrospective exhibition was to explore Zauli's accomplishments during his four decades of artistic activity between 1951 (his early period) and 1991 (before he was put under medical treatment).

The exhibition was divided into six chapters, the first five of which presenting 128 ceramic pieces including majolica pieces and stoneware, grouped according to production periods. The last chapter comprised 13 illustrations and 25 pieces of tile work. The first chapter showcased a number of colorful pieces of work based on the traditional majolica pottery techniques of Zauli's native Faenza region. Chapters 3 (1962–1967) to 5 (1981–1991) were dedicated to highly innovative pieces of work that blurred the boundary between sculpture and ceramics, defined by the special "Zauli white" glaze that characterizes Zauli's unique style. Chapter 5 included an impressive piece of work measuring over four meters in height, as well as matte black pieces with a distinctly earthy feel, in stark contrast to the "Zauli white." Altogether, the exhibition was an opportunity to encounter the accomplishments of this great Italian master, who spent a lifetime channeling his aesthetic consciousness into magnificent artifacts.



会期
平成20年8月26日～平成20年10月13日 (43日間)
会場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主催
東京国立近代美術館 京都国立近代美術館、国際交流基金
協力
日本航空
出品点数
1,279点
入場者
13,459人(1日平均 313人)
新聞・雑誌等における掲載記事
徳島新聞 8月10日 「インド人芸術家 阿波紙使い空間の美表現」 日本経済新聞 8月30日 「文化往来 ド ローイングによるアジアの絵画表現提 示」 毎日新聞 9月10日 「いち押し」(無記 名) 毎日新聞 9月16日夕刊 「小さな「揺れ」 を線に込め」(岸桂子) 読売新聞 9月18日 「世界のナラ 「生 の場」再現」(菅原敦夫) 東京新聞 9月20日 「眠っていた感覚呼 び起こす」(内田真由美) 日本経済新聞 9月20日 「アジア現代美 術独自の表現問い直す」(小川敦生、郷原 信之) 朝日新聞 9月24日 「溶け合う映像の動 と静」(古賀太) Art Monthly Australia issue #212 (無記名) 新美術新聞 9月11日 「いま、ドローイ ングとはなにか」(保坂健二郎) Hanako 930号 「今週のオススメART」 (青野尚子) STUDIO VOICE vol.394 「余白と線— アジアとドローイングの親和」(大森俊 克) STORY 10月号 「明日、美術館に行く ための一夜漬け」(齋藤素子) ART iT Vol.6 No.4 「Reviews: Art02」 (bilingual)(白坂ゆり) 美術手帖 915号 「関係の灼熱を求める 共同性の顕現」(金井直)

## 451 現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング

本展は、当館が1984年より開催しているシリーズ「現代美術への視点」の第6回目であり、今日におけるドローイング的表現の実際や可能性を検証しようとするものである。出品作家は、30代前半の若手から、今日のアート界を代表するようになってきているアーティストまでの16人(組)で、すべてアジアあるいは中東の出身であった。

出品作品には、オーソドックスなドローイングはもちろん、水彩、アニメーション、インスタレーションなども、発展的な在り方として含まれている。その内容も、顔をモチーフにしたもの、幼少期の記憶に基づいたもの、日記的な表現、深層心理を引き出そうとしているものなど多岐にわたる。

それらの作品は、ドローイング特有の脆弱さ、未完成であることを許すおおらかさ、あるいはどんな表現ジャンルにおいてもつくられるという意味での根源的な在り方などを活用して、鑑賞者の感情や情動を引き出そうとしている点で共通している。それらは、感情や情動を引き出し、それをなまなましく定着させる点において評価される。そのような、理性よりも感性をより重視する作品が、今日、とりわけアジアや中東の世界でいかなる位置を占めているかを検証するべく、本展は構成されている。

### A Perspective on Contemporary Art 6: Emotional Drawing

As the sixth installment of the “A Perspective on Contemporary Art” series, which the museum has been hosting since 1984, this exhibition was held with the aim of discussing the present state and future potential of drawing-based artistic expression. Here, 16 artists/groups from Asia and the Middle East were featured, ranging from young creators in their early thirties to experienced artists that have come to play leading roles in today’s art scene.

Next to orthodox drawings, the artwork on display included watercolor paintings, animations, and installations, while motifs widely ranged from portraits to childhood memories, diary-style expression, and subjects touching upon deep psychological matters.

As a common thread connecting the exhibited work, all of them shared an obvious attempt to elicit feelings and emotions from both the artists and the audience by way of the characteristic sense of fragility inherent in the drawings, along with spontaneity tolerating imperfection and the primordial function of the means used in any artistic genre. After all, the art of the drawing is based on a valuation of how it produces feelings and emotions, and how vividly these are reflected. The exhibition was designed to locate the current position and significance of such work with an emphasis on emotion over reason, especially in the Asian and Middle Eastern realm.



会 期
平成20年10月4日～平成20年12月7日 (56日間)
会 場
東京国立近代美術館工芸館
主 催
東京国立近代美術館
助 成
財団法人美術工芸振興佐藤基金
協 力
アイティーエル株式会社
出品点数
69点
入場者
12,969人(1日平均232人)
新聞・雑誌等における掲載記事
文化庁月報 10月号 「かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー」(北村仁美) 文部科学時報 No.1592 「鑑賞席 彫金の伝統を現代に生かす」(北村仁美) 月刊C 11月号 「かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー」(梅山美紀) 現代の眼 572号 「平松保城との対話」(横溝廣子) 現代の眼 572号 「平松保城へのオマージュ」(クリスティアネ・ヴェーバー=シュテーパー)

## 452 (E86) かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー

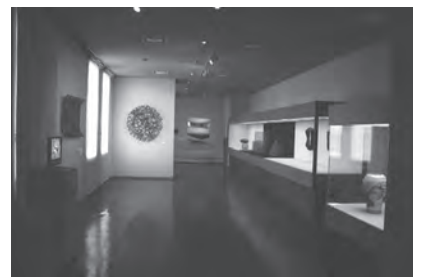
ジュエリー作家として世界的に高い評価を得ている平松保城(1926年-)は、日本のコンテンポラリー・ジュエリーの黎明期から現在まで、長くこの分野を鼓舞し、牽引し続けてきた。日本の彫金の伝統をバックボーンとしつつも、現代の生活に根ざした工芸を目指し、クラフトやジュエリーの領域で活動を展開、金属の箔を折り曲げてできる皺や、金属線を金槌で叩いてできた槌目そのものに美を見出し、素材が持つ柔らかさ、優美さをダイレクトに表現した作品で、金属のイメージを刷新した。

本展では、初期から近作までの69点の作品で、制作の軌跡を辿った。ジュエリーを軸にオブジェ、クラフトと全体を3つのセクションに分け、幅広い視野で展開する平松保城の造形思考を紹介した。

### Yasuki Hiramatsu — Jewelry: The Essence of Form

Yasuki Hiramatsu (born 1926), an internationally regarded jewelry artist, has been invigorating the realm of Japanese contemporary jewelry as a driving force for many years, from the genre's early days to the present. On a foundation of Japanese traditional metal-carving work, he has been pursuing a form of jewelry and craftwork rooted in contemporary lifestyle. He recognized the beauty of wrinkles in folded metal foil, along with impressions of a hammer on metallic wire, and reshaped the image of metal by way of work that directly communicates the grace and flexibility of each respective material.

This event traced the history of Hiramatsu's work in 69 items, ranging from his earliest efforts to his most recent. In addition to jewelry, the exhibition featured two additional sections dedicated to artifacts and craftwork, respectively, included with the aim to reflect Hiramatsu's broad artistic horizon.



会 期
平成20年10月28日～平成20年12月21日 (48日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 2階ギャラリー4
主 催
東京国立近代美術館
協 力
武蔵野美術大学
出品点数
71点
入場者
12,791人(1日平均266人)
新聞・雑誌等における掲載記事
文化庁月報 11月号「小松誠—デザイン ＋ユーモア—」(諸山正則) 陶説 670 「関東の陶芸展」(外館和子・ 唐澤昌宏) GRACE 11月号 「グレース大学院旬の ヒト特別講義 焼き物学」(下里康子) 東京新聞 12月19日夕刊 「日本のデザ イン再考」(藤田一人) 現代の眼 572号 「世界変容の器—批評 的な、あまりにも批評的な、小松誠の仕事 の現代性について」(新見隆) 現代の眼 572号 「精緻な手が生み出す 機能を超えた機能」(山田節子)

## 453 (E87) 小松誠—デザイン＋ユーモア—

現代デザイン展として陶磁器デザイナーの小松誠の主要な作品を紹介する展覧会を開催した。

小松誠(1943年-)は、約40年間に磁器の白さとユーモアの個性的感性を發揮した器物等の作品を次々と発表し、国内外で高い評価を獲得してきた。今日、国外でも高い評価を得ている現代日本のデザイン界を代表する作家として小松を取り上げ、プロダクト・デザインの標準の高さを示した。主要作71点を選択し、製品化された「プロダクト・デザイン」、代表作の「クリンクルシリーズ」、デザインの広がりを表す「異素材の組み合わせ」、デザインのエッセンスを示す試作「エクササイズ」に分類し、デザインの特徴と現代性を理解しやすく展示した。

### MAKOTO KOMATSU EXHIBITION —design＋humour—

This show introducing ceramics designer Makoto Komatsu's most significant works was held as part of the contemporary design exhibition program.

For about 40 years, Komatsu (born 1943) has continued to create vessels and other items charged with an individual sense of humor in combination with the characteristic white of porcelain, establishing a domestic and international reputation. While introducing Komatsu as a representative of the Japanese contemporary design that is recently attracting attention around the world, the exhibition indicated the high level of product design inherent in Japan. A total of 71 key items were selected and divided into four categories: the commercialized "Product Design"; the characteristic "Crinkle Series"; "Combination of Materials", demonstrating the expansiveness of design; and "Exercise", collecting trial productions that highlight the essence of design. The displays conveyed the characteristics and contemporary relevance of design in an intelligible way.





会期
平成20年10月31日～平成20年12月21日 (45日間)
会場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主催
東京国立近代美術館
特別協力
沖縄県立博物館・美術館
協賛
ザ・テラスホテルズ株式会社 オリオンビール株式会社
協力
日本航空
出品点数
作品179点、資料78点
入場者
10,554人(1日平均235人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 12月3日夕刊 「従来の沖縄像を超えて」(古賀太)
読売新聞 12月4日 「多様な視線が交錯する場」(前田恭二)
東京新聞 12月5日夕刊 「『近代』への内省的まなざし」(南島宏)
沖縄タイムス 12月8日 「歴史と未来、不安が交錯」(渡慶次佐和)
毎日新聞 12月15日夕刊 「企画展『沖縄・プリズム』開催 近現代の美術を通史的に展示」(鈴木英生)
琉球新報 12月18日 「傍観視できない歴史の箱庭」(石川翠)
琉球新報 12月19日 「純粋な心の叫びに焦点を」(磯崎主佳)
琉球新報 12月22日 「『沖縄・プリズム』鈴木勝雄氏インタビュー」(小那覇安剛)
美術手帖 1月号 「皇居前の沖縄」(小原真史)
比較文学研究 第94号 「『展覧会カタログ評』『沖縄・プリズム 1872-2008』展」(西田桐子)
国立国会図書館月報 第589号 「本屋にない本」『沖縄プリズム 1872-2008』(田中亮之介)

## 454 沖縄・プリズム 1872-2008

これまで沖縄をテーマとした展覧会は数多く開催されてきたが、その多くは、琉球王朝の工芸を展覧するものだった。そこに欠けていた視点、すなわち、沖縄が日本の版図に編入された近代という時代のうねりの中で、この地から誕生した美術を検証するのが「沖縄・プリズム 1872-2008」展のねらいである。表現の源泉としての沖縄という場所がもつ意味と可能性を、今日的な視点から考察することを試みた。

展覧会は「第一章：異国趣味と郷愁1872-1945」、「第二章：同化と異化のはざま1945-1975」、「第三章：沖縄の喚起力1975-2008」の3章で構成された。ゆるやかに時間軸に沿いながら、それぞれの時代で沖縄がどのように表現されてきたのかを、作品のみならず、歴史的、社会的背景を伝える雑誌、書籍、記録映画などの資料とあわせて考察した。また、この展覧会は、表現する主体を沖縄出身者に限定せず、周知のように沖縄が多くの本土出身の作家を魅了し、触発する場所でもあったことに注目。沖縄出身の作家が表現した「沖縄」と本土出身の作家が見つめた「沖縄」を対比させながら、両者の共通点や相違、あるいは緊張を孕んだ関係の中に、沖縄から生まれる表現の現代性を見出していった。出品作品は、絵画、版画、写真、映画、工芸等、様々なジャンルに及ぶ179点、これに78点の資料が加わった。

### Okinawa Prismed 1872-2008

Although a large number of art exhibitions themed around Okinawa have been held in the past, most of them focused exclusively on artifacts dating back to the Ryukyu Dynasty. Thus, it was the primary aim of the “Okinawa Prismed 1872-2008” exhibition to fill the gap by exploring art that emerged from Okinawa during the turbulent currents of the modern age, when Okinawa was absorbed into Japanese territory. The exhibition marked an occasion to explore the region’s meaning and potential as a source of artistic expression from a contemporary perspective.

The exhibition was composed of three parts: “Chapter 1: Exoticism and Nostalgia”, “Chapter 2: Between Assimilation and Dissimilation”, and “Chapter 3: Evocative Power of Okinawa”. While loosely following a given timeline, each part introduced works of art displaying how Okinawa was portrayed in different eras, along with a variety of magazines, books, documentary films, and other material illustrating the respective historical and social backgrounds. On display were a total of 179 items embracing such varied genres as painting, printing, photography, film, crafts, and others, along with 78 related documents.



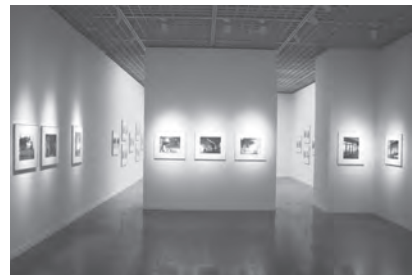
会 期
平成21年1月20日～平成21年3月8日 (42日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主 催
東京国立近代美術館
出品協力
東京造形大学
協 力
キヤノンマーケティングジャパン株式会社 フォトグラファーズ・ラボラトリー
出品点数
282点
入場者
9,449人(1日平均225人)
新聞・雑誌等における掲載記事
読売新聞 2月12日 「写真『高梨豊』展 都市を巡る重層的思考」(前田恭二) 毎日新聞 2月17日夕刊 『『高梨豊 光の フィールドノート』展 『狩人』と『拾い 屋』の50年』(飯沢耕太郎) 産経新聞 2月23日 「写眼 バス目線の日 常」(海老沢類) アサヒカメラ 3月号 「今日の写真 2009」(鼎談：倉石信乃、ホンマタカシ、 吉増剛造) アサヒカメラ 4月号 「展評'09『高梨豊 光のフィールドノート』展」(日高優) 現代の眼 573号 「狙いの屈曲—高梨豊 写真集をデザインして」(鈴木一誌) 「一九九五年の高梨さんの回答」(鳥原学)

## 455 高梨豊 光のフィールドノート

写真家高梨豊(1935年-)の最初期から未発表の新作までを紹介する個展。高梨は1950年代末に写真家としてそのキャリアをスタートさせ、ファッションや広告の分野の第一線で活躍する一方、小型カメラによるスナップショットで高度成長期の時代状況を捉えた〈東京人〉(1965年)や大型カメラによる事物の精密な記録に重点を置いた〈町〉(1975-77年)、地名を頼りに2点1組の写真により、バブル崩壊後の東京を撮影した〈地名論〉(1994-2000年)など、多様な方法論を駆使して「都市」という主題に取り組み、現代日本の写真表現をリードしてきた。本展はその方法論の転換に注目しつつ、「都市」をめぐる作品を軸に、15のシリーズによって構成され、全282点の作品(うち53点はスライドショー形式による展示)を展示した。

### Yutaka Takanashi: Field Notes of Light

This solo show of Yutaka Takanashi (born 1935) encompassed the photographer's work from his earliest efforts to yet-unpublished newer work. Takanashi embarked on his career as a photographer in the late 1950s, and while operating in the frontlines of fashion and advertising, he became a leading figure in Japanese contemporary photography by focusing on the subject of the "city" using various methods. He captured the signs of the times during the Japanese high-growth period in small-format camera snapshots in *Tokyoites* (1965), while for *Machi* (1975-1977) he shifted his focus toward rather precise visual records of things shot with a large-format camera. Then, in *Chimeiron: genius loci, Tokyo* (1994-2000), he portrayed the Japanese capital after the burst of the economic bubble in pairs of photographs reflecting the city's old name. While considering Takanashi's ever-changing methods, the exhibition was composed of 15 different series around a core of "city" themed work, the total number of which amounted to 282 (including 53 items presented in slideshows).



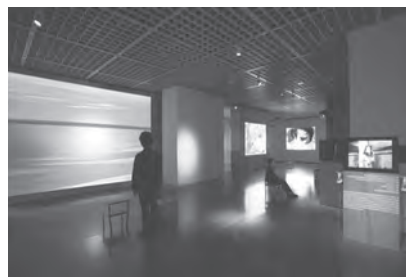
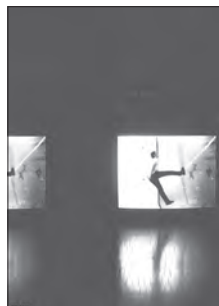
会 期
平成21年3月31日～平成21年6月7日 (60日間、うち平成20年度1日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主 催
東京国立近代美術館
出品点数
51点
入場者
115人(平成21年度含む12,355人) (平成20年度1日平均115人)
新聞・雑誌等における掲載記事
日本経済新聞 2月28日 「先端技術が生む新しい視覚体験」(白木緑) 毎日新聞 4月14日夕刊 「アートの風『ビデオを待ちながら』展」(三田晴夫) 東京新聞 5月8日夕刊 「美術評 映像表現の入門編」(岡村恵子) 読売新聞 5月14日 「美術 『ビデオを待ちながら』展」(前田恭二) 朝日新聞 5月16日夕刊 「アート 『ビデオを待ちながら』展 映像、60年代から今日へ」展」(大西若人) しんぶん赤旗 12月10日 「'09回顧 美術」 読売新聞 12月17日 「回顧 2009 アート」 REAR 22号 「ビデオ・アートのフォーマリズムは可能か」(西村智弘) 美術手帖 6月号 「(間違った)推理」(平倉圭) STUDIO VOICE vol.402 (6月号) 「ビデオを待ちながら一映像、60年代から今日へ」(山辺冷) 建築ジャーナル no.1152 (6月号) 「NEWS 五十嵐太郎の先読み編集局」(五十嵐太郎) 中央公論 6月号 「art『ビデオを待ちながら一映像、60年代から今日へ』 マスメディア漬けからの覚醒を！」(住友文彦) ecce 映像と批評 1(2)号 「現代美術と映像の合流、現在からの見直し—『ビデオを待ちながら 映像、60年代から今日へ』展」(西嶋憲生) 現代の眼 575号 「『ビデオを待ちながら』展」(野々村文宏)「とぼける身体」(伊藤亜紗)

## 456 ヴィデオを待ちながら一映像, 60年代から今日へ

1960年代半ばから現在までに制作されたビデオやフィルムといった映像表現を、国内外の30作家、計51点の作品によって紹介。以下の3点を明らかにすることを展覧会のねらいとした。(1)美術の分野における映像の使用が、商業映画や実験映画における探究とは異なる独自の可能性を有する点、(2)「時間性」と「動き」を特質とする映像表現と、同時代の絵画・彫刻といった空間芸術との間の共通点および差異、(3)1960～70年代の映像作品における試みと現代作家の試みとが共有する特徴。展覧会は、「鏡と反映」、「芸術の非物質化」、「身体/物体/媒体」、「フレームの拡張」、「サイト」という5つの章立てから構成された。

### Waiting for Video: Works From the 1960s To Today

This exhibition introduced a total of 51 video and film works by 30 artists from Japan and abroad, created between the mid-1960s and the present. The central aim of the exhibition was to shed light on the following three issues: (1) How moving image such as video and film used in the field of art holds a unique, different potential from that of explorations in commercial and experimental film; (2) What distinguishes moving image, with its essential notions of time and movement, from contemporary forms of “spatial art”, such as painting or sculpture, and what both genres share; and (3) What characteristics are shared between attempts in video and film works from the 1960s–1970s and those of today. The exhibition consisted of five chapters: “Mirror and Reflection”, “The Dematerialization of Art”, “Object(ive)/Body/Medium”, “Expanded Frame: Time and Space”, and “Site”.



## 会期

平成21年7月3日～平成21年9月23日  
(74日間)

## 会場

東京国立近代美術館本館  
1階企画展ギャラリー

## 主催

東京国立近代美術館  
NHK、NHKプロモーション

## 後援

外務省、文化庁

## 協賛

損保ジャパン、大日本印刷、  
トヨタ自動車、三菱商事

## 特別協力

ボストン美術館、  
名古屋ボストン美術館

## 協力

日本航空

## 出品点数

53点

## 入場者数

288,444人(1日平均3,898人)

## 新聞・雑誌等における掲載記事

しんぶん赤旗 7月15日 「ゴーギャン展  
狭い意識を解き放つ絵画 罪の自覚と芸術家の本能」(増山麗奈)朝日新聞 7月15日夕刊 「ゴーギャンの  
最高傑作展示 東京近美『二十数年来の悲願』」毎日新聞 8月3日夕刊 「大作『我々はど  
こから来たのか～』ゴーギャン展で日本  
初公開」(永田晶子)読売新聞 8月20日 「タヒチ以前にも同  
じテーマ」(高野清見)しんぶん赤旗 8月23日 「ゴーギャン展  
超大作に込めたナゾ」(大井健地)芸術新潮 7月号 「特集 ゴーギャンと  
いう人生」(丹尾安典)月刊美術 8月号 「特集 我々は何者  
か? ゴーギャンが遺した大作を読み解  
く」(本江邦夫 荒屋舗透)現代の眼 577号 「タヒチというモデル  
ーゴーギャン、ランボー、そして写真」(鈴  
村和成)「『我々はどこから来たのか 我々  
は何者か 我々はどこへゆくのか』をめぐ  
って」(岡谷公二)てんとう虫 9月号 「なにを意味するか  
ではなく、絵そのものの『スゴサ』に向き  
合う『ゴーギャン展』」(森村泰昌)

## 457 ゴーギャン展

当館では、1987年、すでにゴーギャンの回顧展を開催しているが、その際、ゴーギャンの最高傑作である《我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか》の出品はかなわなかった。今回、ボストン美術館の全面的な協力のもと、この大作を軸とした展覧会が実現した。ゴーギャンは、19世紀末の爛熟した西欧文明に背を向け、自らが思い描く楽園を求めて、ブルターニュ、マルチニーク島、南仏アルル、そして2度にわたりタヒチへと、生涯にわたって絶え間ない移動を繰り返し、そのなかで自ずと獲得された、人間の生と死、文明と未開といった主題を造形的に表現することが彼の絵画の課題となった。その集大成としてタヒチで制作された《我々は・・・》は、今も見るものに様々な問いを発しつつ、単に美術の領域の問題にとどまらない多くの示唆を与えている。

本展は、この大作を中心に、国内外から集められた油彩・版画・彫刻計53点の作品を通して、ゴーギャンの芸術を今日的な視点から改めて捉えなおす試みであり、ゴーギャンという複雑で、また繊細な画家の世界を、さまざまな側面から照らし出そうとしたものである。

## Paul Gauguin

The museum had already showed a retrospective exhibition of Paul Gauguin in 1987, however at the time, Gauguin's greatest masterpiece, "Where Do We Come From? What Are We? Where Are We Going?", could not be included. With full cooperation from the Museum of Fine Arts, Boston, this time we managed to put together an exhibition around this masterful work as a centerpiece. Around the end of the 19th century, Gauguin turned his back on the overmatured Western European civilization, and in pursuit of his own idea of "paradise", he spent the rest of his life traveling restlessly between Brittany, Martinique, Arles in Southern France, and Tahiti (which he visited twice). The central theme of his artistic work quite naturally shifted toward plastic representations of such topics as human life and death, civilization and barbarism, culminating in Where Do We..., a painting made in Tahiti that continues to appeal to the viewer with a catalog of questions and suggestions reaching far beyond the realm of art.

The painting served as a central pillar for this exhibition designed to reinterpret Gauguin's artistic vision from a contemporary perspective by way of 53 items collected from around the globe, including oil paintings, prints, and sculptures. The event was at once an opportunity to shed some light on the intricate and fine-spun microcosm of Paul Gauguin from various angles.



撮影：木奥恵三

会 期
平成21年9月4日～平成21年11月3日 (52日間)
会 場
東京国立近代美術館工芸館
主 催
東京国立近代美術館、朝日新聞社
企画協力
山口県立萩美術館・浦上記念館
出品点数
211点
入場者数
22,500人(1日平均 433人)
新聞・雑誌等における掲載記事
現代の眼 577号 『『染野夫妻陶芸コレクション展』によせて』(渡辺浩男)
現代の眼 577号 「染野夫妻の陶芸収集—表現者との邂逅」(石崎泰之)
文化庁月報 9月号 「鑑 文化芸術へのいざない 日本の陶芸史を飾る作家の逸品に出会う」(唐澤昌宏)
メトロポリス 809号 「SOMENO COLLECTION Slapdash ceramics stir the mind at the National Museum of Modern Art」(C.B. Liddell)
家庭画報 INTERNATIONAL EDITION 2009年秋冬号 Peerles Pottery (Yoshiko Endo)

## 458 (工88) 染野夫妻陶芸コレクション—リーチ・濱田・豊藏・壽雪—

染野夫妻陶芸コレクションとは、法律家であった故・染野義信、啓子ご夫妻が収集した284点の美術品の中で、とくに近・現代陶芸作品を中心とした263点のことをいう。ご遺族からの寄贈を受けた山口県立萩美術館・浦上記念館と東京国立近代美術館が協力して受贈を記念した展覧会を企画した。

本展では、このコレクションの中心的な存在を示す、バーナード・リーチ、濱田庄司、荒川豊藏、三輪壽雪、藤本能道、塚本快示といった人間国宝やそれに準じるクラスの陶芸家など50作家の作品211点を紹介。その内容は、茶碗や水指、花入、香合などの茶の湯で用いられる器から、用途をもたないオブジェまでと幅広く、とくに荒川豊藏と三輪壽雪に代表される茶陶作品は、その中核を形成するとともに、ご夫妻の作品に対する考えをはっきりと映している。染野ご夫妻が美術品収集に傾けられた情熱のすばらしさを感じてもらうとともに、日本の陶芸の魅力とその特質や、現代に生きる陶芸家たちの表現活動についても関心を持ってもらえるように配慮した。

### Bernard Leach, Hamada Shoji, Arakawa Toyozo and Miwa Jusetsu—From Mr. and Mrs. Someno's Ceramics Collection

The ceramics collection of Mr. and Mrs. Someno, comprising 263 pieces of modern and contemporary ceramic art, is part of a collection of 284 pieces of art in total collected by the late Someno Yoshinobu, formerly a lawyer, and his wife Keiko. The deceased's family donated the collection to the Hagi Uragami Museum in Yamaguchi and the National Museum of Modern Art, Tokyo. This exhibition was jointly organized by the two museums to commemorate these donations.

The exhibition introduced 211 pieces of work by 50 artists, including such living national treasures and equally esteemed artists as Bernard Leach, Hamada Shoji, Arakawa Toyozo, Miwa Jusetsu, Fujimoto Yoshimichi, and Tsukamoto Kaiji, with each playing a central part in the collection. The wide range of work on display included: tea bowls, water jars, vases, incense cases, and other tea ceramics used in tea ceremony, along with other artifacts with no specific use. Next to forming the heart of the exhibition, the tea ceramics—created by the likes of Arakawa Toyozo and Miwa Jusetsu—very clearly reflected the Somenos' attitude toward art. The show was designed to mirror the passion that Mr. and Mrs. Someno channeled into their collection of artifacts, as well as to spark visitor interest in the characteristics/appeal of Japanese ceramics and highlight the endeavors of contemporary ceramic artists.



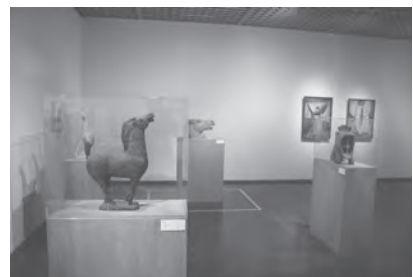
会 期
平成21年10月10日～平成21年12月6日 (50日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 2階ギャラリー4
主 催
東京国立近代美術館、武蔵野美術大学 美術資料図書館、韓国国立現代美術館
出品点数
29点
入場者数
11,683人(1日平均 234人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東洋経済日報 10月16日 「韓国近代彫刻の先駆者 権鎮圭の作品世界の全貌」(無記名) 赤旗 11月13日 「権鎮圭展 彫刻の根本にこだわる」(アライ=ヒロユキ) The Asahi Shimbun 11月13日 “Kwon Jinkyu”(無記名) 毎日新聞 11月17日夕刊 「韓国近代彫刻の先駆者 権鎮圭の回顧展開催」(岸桂子) 朝日新聞 11月18日夕刊 『『権鎮圭－韓国近代彫刻の先覚者』展 骨格正しく重い作品群』(田中三蔵) 公明新聞 11月24日 「権鎮圭展 リアリズムの真骨頂」(藤田一人) 読売新聞 11月26日 「韓国近代彫刻の先達」(無記名) 文教速報 10月28日号 「東近美『権鎮圭』展が開幕」(無記名) 文教ニュース 11月2日号 「東近美『権鎮圭』展開幕」(無記名) 家庭画報 12月1日号 『『権鎮圭』展』(無記名)

## 459 権鎮圭

権鎮圭(1922年、現在・北朝鮮の咸興市生まれ)は、1948年来日して武蔵野美術学校(武蔵野美術大学の前身)に学び、1959年に帰国後は韓国で活動、とりわけ1973年に没してのち、同国近代彫刻の先駆者として高い評価を受けるようになった彫刻家である。当館では、作品発表のピークとなる東京での個展(1968年)の出品作を中心に、初期滞日時代から最晩年にいたる代表作29点(内4点はドローイング)を精選して展示した。同時開催された武蔵野美術大学美術資料図書館での展示作品と合わせて彫刻約100点、素描・画帳など30余点が、その後、共催館である韓国国立現代美術館で展示されたが、これは同国の公立美術館で開かれた初めての権鎮圭回顧展となった。

### Kwon Jinkyu

Kwon Jinkyu (born 1922 in Hamhung, now North Korea) came to Japan in 1948 and studied at Musashino Art School (now Musashino Art University). He had been based in South Korea since returning there in 1959, and came to be highly regarded as a pioneer in South Korean modern sculptor, especially after his death in 1973. Built around a core of work shown at his solo show in Tokyo in 1968, the peak of Kwon's exhibitions and creative work, the exhibition also comprised a selection of 29 representative works (including four drawings), ranging from early efforts during his stay in Japan to his latest work. Together with work that was concurrently on display at the Musashino Art University Museum & Library, about 100 sculptures and over 30 drawings and sketchbooks later traveled to the co-organizing National Museum of Contemporary Art, Korea, to be shown in the first-ever retrospective exhibition of Kwon Jinkyu at a public art museum in South Korea.



会期
平成21年10月14日～平成21年12月13日 (53日間)
会場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主催
東京国立近代美術館
出品点数
150点
入場者数
11,350人(1日平均214人)
新聞・雑誌等における掲載記事
日本経済新聞 10月4日 「語る 河口龍夫氏 時間感覚を視覚化する」(無署名) 産経新聞 10月21日 「難解さの中の永遠 河口龍夫展覧会 『言葉・時間・生命』」(渋沢和彦) The Japan Times 11月6日 「Cultivating a way for egoless art」(Marius Gomblich) 新かながわ 11月8日 「河口龍夫展 東京国立近代美術館 初の時間が生み出す芸術」(宮田徹也) 新美術新聞 11月21日 「河口龍夫展 言葉・時間・生命 芸術とは『精神の冒険』」(大谷省吾) 朝日新聞 11月25日夕刊 「『楽しめる』現代美術 河口龍夫さん個展」(大西若人) 毎日新聞 12月1日夕刊 「河口龍夫展 未来を表すポジティブな造形」(岸桂子) 千葉日報 12月2日 「『精神の冒険』への誘い 河口龍夫展 言葉・時間・生命」(無署名) 文化庁月報 10月号 「河口龍夫展 言葉・時間・生命」(大谷省吾) 週刊新潮 11月5日号 「週刊新潮掲示板」(河口龍夫) Hanako 11月12日号 「河口龍夫展 言葉・時間・生命 生命や言葉とともに時間を超えるアート。」(青野尚子) サライ 11月号 「美術館員の仕事 展覧会はかくして作られる」(無署名) 美術手帖 12月号 「アーティストといっしょにあるく! 河口龍夫展@東京国立近代美術館」(河口龍夫) 婦人画報 12月号 「私の空想美術館 河口龍夫《時の航海》《木馬から天馬へ》《蜂がパイロットの偵察機》」(真野響子) 芸術新潮 12月号 「河口龍夫 種しぶきの航路」(無署名) 現代の眼 577号 「展覧会予告 河口龍夫展 言葉・時間・生命」(大谷省吾) 現代の眼 578号 「『河口龍夫展』によせて一視覚をこえて」(市川政憲) 「交叉する言葉・時間・生命—河口龍夫の伏流に沿って」(馬場駿吉)

## 460 河口龍夫展 言葉・時間・生命

河口龍夫(1940年、兵庫県生まれ)は、1960年代から今日に至るまで、さまざまな素材を用いながら、物質と物質、あるいは物質と人間との間の、目に見えない関係を浮かび上がらせるという一貫した姿勢によって制作を続けてきた。1970年の東京ビエンナーレ「人間と物質」や1989年の「大地の魔術師」展(ポンピドゥー・センター)など、国内外における数多くの重要な美術展に招待出品し、90年代以降は各地の美術館で精力的に個展を開催するなど、現代美術の分野において日本を代表する作家のひとりである。本展は、こうした長年にわたる河口の制作のあゆみと、その多様な作品を包括的に紹介するため、「言葉・時間・生命」というキーワードのもとに3つの章で構成し、それぞれのテーマによる過去の主要作品と、新作とをあわせて展示した。

### Kawaguchi Tatsuo: Language, Time, Life

Kawaguchi Tatsuo (born 1940 in Hyogo Prefecture) has maintained in his artistic activities a consistent stance from the 1960s to the present day, as he keeps utilizing a variety of materials to highlight the invisible connections between different forms of matter, or between matter and the human being. Having been invited to participate in a number of major domestic and international art exhibitions, such as the 1970 Tokyo Biennale (Between Man and Matter) and the Magiciens de la terre exhibition in 1989 (Centre Georges Pompidou), and while showcasing his work energetically in solo shows at museums in various location since the 1990s, Kawaguchi is one of the representative Japanese artists in the field of contemporary art. In order to introduce Kawaguchi's longstanding endeavors and their diverse products in a comprehensive manner, this exhibition was composed of three chapters based on the keywords "language", "time", and "life", with outstanding past work and new creations displayed together in accordance with each theme.



会期
平成21年11月14日～平成22年1月31日 (64日間)
会場
東京国立近代美術館工芸館
主催
東京国立近代美術館
出品点数
115点
入場者数
10,569人(1日平均165人)
新聞・雑誌等における掲載記事
いけ花籠生 1月号「デコレーション? Decoraton?」(北里晋)
陶説 3月号「関東の陶芸展」(外館和子・唐澤昌宏)
美術手帖 3月号「かたちを伴ったドロ잉」(沢田眉香子)
毎日新聞 12月22日夕刊『『過剰な装飾』繊細な造形』(岸桂子)
朝日新聞 1月6日夕刊「デコ 工芸作品にも」(西田健作)
日本経済新聞 1月5日夕刊「工芸新世代『今』写す作風」(窪田直子)
文化庁月報 1月号「特別展 現代工芸への視点—装飾の力」(唐澤昌宏)
PEELER 11月「工芸館は青田も買う」(藤田千彩)
花椿 719号「SPEED CULTURE」(渡部千春)
Ceramic Monthly 5月号「Upfront reviews “The Power of Pecoration” at the Crafts Gallery of the National Museum of Art, Tokyo, Japan」(塚本直美)
現代の眼 578号「装飾の力—大学の「やきもの」から」(森野彰人)
現代の眼 578号「『装飾の力』展に寄せて—《天女(まごころ)像》の僕より。」(徳丸鏡子)

## 461 (工89) 現代工芸への視点—装飾の力

工芸館では、これまでも現代工芸をテーマに、その時々々の旬な動向を切り口として展覧会を企画してきた。今後はそれをシリーズ化し、「現代工芸への視点」と題して展覧会を組み立てていく。今回は、身近に感じられる「装飾」をテーマに、現代工芸作品に見られる一つの傾向を紹介した。

近年、装飾に対する意識の高まりが、日常の生活の中でも強く感じられるとともに、個性を表現する工芸制作の中において、とくに若い世代の工芸家の間で顕著となってきている。

そしてそれらは、過剰なまでに装飾を施し、作品という立体を飾るためというよりも、まるで装飾するという行為そのものが目的となって立体を生み出し、強く個性を打ち出しているのである。こうした作品からは、素材と密接なかかわりを通じて、人とモノとの原初的な関係を回復しつつ、さらに新たなアプローチを模索しているかのような気配が強く感じられるのである。

本展では、「装飾」をひとつのキーワードとして、現代に生きる工芸家の美意識を感じ取りながら、21世紀における工芸制作と表現活動の可能性を29名の作家の作品115点により探ることとした。

### The Power of Decoration—A Viewpoint on Contemporary *Kôgei* (studio crafts)

At the Crafts Gallery, various contemporary craft-themed exhibitions have been organized to capture and present the genre's current developments in real-time. Such exhibitions are being planned as a series under the title *A Viewpoint on Contemporary Kôgei*. This installment was themed around “decoration” —a familiar aspect of daily life—focused on one specific trend in contemporary studio crafts.

In recent years, an increased consciousness toward decoration has also been notable in all kinds of situations in everyday life, and has become prominent in the realm of craftwork, where they serve as means for expressing individuality, especially among young creators.

Their artifacts hammer out originality with such excessive decoration that it seems as if the purpose of a creative act is defined by the act of ornamentation rather than by the body underneath. Works of such kind suggest very explicitly a search for new approaches, while at once restoring through close contact with materials the primary relationship between humans and objects.

The idea behind this exhibition based on the keyword “decoration” was to perceive the sense of beauty of artisans in the present age, as well as to explore the possibilities of art and craftwork in the 21st century by way of 115 works by 29 artists.





会 期
平成22年1月2日～平成22年2月14日 (38日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主 催
東京国立近代美術館 京都国立近代美術館
出品点数
118点
入場者数
12,718人(1日平均335人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 1月13日夕刊 『ウィリアム・ケントリッジー歩きながら歴史を考える』展(西田健作)
読売新聞 1月28日 『『アバター』と視覚の生理』(前田恭二)
日本経済新聞 2月2日夕刊 「美術家がアニメーション展」(小川敦生)
美術手帖 12月号 「ARTIST INTERVIEW ウィリアム・ケントリッジ」(聞き手:河本信治)
ぴあ 1月21日号 「Catch:ウィリアム・ケントリッジの軌跡」(中島水緒)「ススめる! Navigator」(福住廉)
Pen 2月1日号 「動き出すドローイング、原初的な手法が映す“世界”とは?」(川上典季子)
Real Design 3月号 「響き合う、手描きアニメーション」(白坂ゆり)
high fashion 4月号 「ケントリッジの黙示録」(佐伯誠)
週刊金曜日 786号 「きんようぶんか観客席 美術 『ウィリアム・ケントリッジ』展」(中村富美子)
現代の眼 579号 「ケントリッジを日本で視る」(吉岡洋)「定点観測—ウィリアム・ケントリッジ《プロジェクトのための9つのドローイング》について」(土居伸彰)

## 462 ウィリアム・ケントリッジー歩きながら歴史を考える そしてドローイングは動き始めた……

ウィリアム・ケントリッジ(1955年、南アフリカ共和国生まれ)は、木炭とパステルで描いたドローイングを部分的に描き直ししながら、1コマ毎に映画用カメラでコマ撮りする行為を繰り返すことで、「動くドローイング」とも呼べる独自のアニメーション・フィルムを制作する作家である。南アフリカの歴史と社会状況を色濃く反映した初期の映像作品によって、1990年代半ばに世界的に注目され始めたケントリッジは現在、現代美術における映像表現の第一人者の一人として高く評価されている。ケントリッジの作品は、これまで国内ではグループ展において何度か紹介されたことはあったが、その全貌を明らかにするような展覧会は行われておらず、美術関係者や美術ファンにその実現がながく待ち望まれてきた。本展は、作家との3年間にわたる緊密な協力と広範な準備作業を経て実現されるもので、我が国では初の個展である。80年代の代表作から最新作までを網羅した約20点の映像作品と、約100点におよぶドローイング・版画によりケントリッジの活動の全貌を紹介した。

William Kentridge—What We See & What We Know: Thinking About History While Walking, and Thus the Drawings Began to Move...

William Kentridge (born 1955 in South Africa) began creating his signature “drawings in motion” in the late 1980s. These animated works are created through the process of photographing charcoal-and-pastel drawings with a 35mm motion picture camera, adding new marks and erasures frame by frame to make the drawings “move”. Having attracted worldwide attention in the mid-1990s with his early film work that vividly illustrates the history and social situation of South Africa, Kentridge is now acclaimed as one of the leading artists within the realm of contemporary art. Kentridge was featured in several group shows in Japan, however none of these introduced his work exhaustively, which is why Japanese audiences have been waiting for a long time for such an exhibition. This exhibition, realized after three years of extensive preparation in close cooperation with the artist, was Kentridge’s first solo show in Japan. About 20 film works and approximately 100 drawings and prints were chosen to offer an insight into the work of William Kentridge, covering everything from his major achievements in the 1980s to his most recent productions.



会 期
平成22年1月2日～平成22年2月14日 (38日間)
会 場
東京国立近代美術館本館 2階ギャラリー4
主 催
東京国立近代美術館
出品点数
73点
入場者
11,402人(1日平均 300人)
新聞・雑誌等における掲載記事
メトロポリス 826号 YOSHIO HAYAKAWA(Dan Grunebaum) 公明新聞 2月2日 『『小村雪岱とその時代』展『早川良雄』展』(藤田一人) 朝日新聞 1月27日夕刊 「グラフィックの本流探る」(西田健作) 現代の眼 579号 「早川良雄先生のこと」(黒田征太郎) 現代の眼 579号 「イラストレーター早川良雄のデザイン」(菅谷富夫)

## 463 (E90) 早川良雄—“顔”と“形状”—

国内外でデザイナーとしての高い評価をいち早く獲得し、戦後のグラフィック・デザイン界を強力に牽引してきた早川良雄(1917-2009)の芸術を検証した。早川は、1951年日本宣伝美術会(日宣美)創設に参画、日本調モダンのデザインを展開させた。その自由奔放で明快なデザイン、鮮やかな色彩とタッチ、特異な造形表現で描写する手法などを駆使し、まさにイラストレーションの作家としての時代を風靡した。特に、初期から特徴的なテーマとなった女性像や女の“顔”の作品では、多種多様な表現手法によって情感と造形に迫るイラストレーションの力が発揮された。また“顔”とともに後年の主要なテーマとなった“形状”では、抽象形態を客観的に把握しつつユニークな空間認識のなかに独自の感性を現すなど、一貫して明快な個性を発揮した。2009年3月に急逝した。

本展では、早川良雄と重ねた展覧会構想をもとに、早川のデザインを象徴する、“顔”の原画やポスター作品など46点、ドローイングやポスター作品などの“形状”のシリーズ27点を特集し、主要な作品によって多年の活動を回顧した。

### Hayakawa Yoshio: “The Face” and “The Form”

Hayakawa Yoshio (1917–2009), was a leader in postwar graphic design and one of the first Japanese people to establish a domestic and international reputation as a designer. He was then involved in the launch of the Japan Advertising Artists Club (JAAC) in 1951, and helped develop the “Japanese modern” design style. His free-spirited, lucid design characterized by lively colors, a vivid touch, and peculiar methods of formative representation laid the foundation for a career as one of the predominating illustrators of his time. Especially in his female portraits and works focusing on the face—central themes already clear in his very early work—Hayakawa has been displaying a special ability to illustrate forms and feelings by diverse means of expression. In addition to the “face”, the “form” was another main theme through which Hayakawa’s individual style consistently manifested itself in his later work, highlighting an unusual sensitivity for grasping abstract shapes objectively within a setting of unique spatial recognition. He suddenly passed away in March 2009.

This exhibition, conceived with Hayakawa Yoshio, focused on 46 original “face” paintings and posters, along with 27 items from the “form” series of drawing and posters that represent Yoshio Hayakawa’s design. This event looked back on several decades of Yoshio Hayakawa’s creative endeavors.



会期
平成22年3月2日～平成22年4月11日 (37日間、うち平成21年度27日間)
会場
東京国立近代美術館本館 1階企画展ギャラリー
主催
東京国立近代美術館、毎日新聞社、 NHK、NHKプロモーション
出品点数
171点
入場者数
33,464人(平成22年度含む64,397人) (平成21年度1日平均1,239人)
新聞・雑誌等における掲載記事
毎日新聞 2月10日 「生誕120年 小野竹喬展 3人が語る作品への思い」(竹下景子・上村淳之・黛まどか) 毎日新聞 3月1日 「生誕120年 小野竹喬展 坂東玉三郎さんが語る」 毎日新聞 3月23日 「俳人の黛まどかさんと石寒太さん「奥の細道」魅力語る」(川俣享子) 毎日新聞 3月30日夕刊 「初期作品にみる格闘の跡」(岸桂子) 毎日新聞 3月6、15、23、25日、4月7日 「小野竹喬の世界—生誕120年展から」(島二作・ポンテ・ヴェッキオ・冬日帖・宿雪・奥の細道句抄絵 暑き日を海にいれたり最上川)(鶴見香織) 朝日新聞 3月31日夕刊 「『宿雪』小野竹喬(美の履歴書)」(西田健作) 日本経済新聞 4月1日 「小野竹喬、和洋混交の実験を超えた『茜空』(文化往来)」 公明新聞 3月23日 「小野竹喬展を鑑賞(言葉の遠近法)」(日和聡子) THE DAILY YOMIURI 4月2日 「Ono Retrospective」(Robert Reed) クロワッサン 3月号 「生誕120年 小野竹喬展(展覧会へようこそ160)」(竹下景子) サンデー毎日 3月9日号 「大らかな色彩 日本画の大家 小野竹喬の回顧展」(山内宏泰) 現代の眼 580号 「ルッソーの率直—竹喬との接点」(遠藤望) 「竹喬のセザンヌ受容再考」(永井隆則)

## 464 生誕120年 小野竹喬展

小野竹喬は1889年に岡山県笠岡市に生まれ、京都で活躍した日本画家である。青年期には1918年に設立された国画創作協会の創立メンバーとして、西洋近代絵画の表現法をとりいれながら日本画の革新運動にとりくんだ。後年は、温雅な色彩と簡潔なかたちを特徴とする画風をうちたて、戦後日展で活躍した。

本展では色彩に重きをおく作画へと転じた1939年頃を大きな転換期とみなし、それを境に竹喬の画業を2期に分ける2章構成とした。また各章に「竹喬の渡欧」、「奥の細道句抄絵」と題した特集展示を設け、1921年から22年にかけての渡欧経験と、1976年の代表作《奥の細道句抄絵》の意味や意義を考察した。

なお、本展は竹喬の生誕120年を記念して開催したもので、長年地元で竹喬に関する資料等を集めてきた笠岡市立竹喬美術館とともに共同研究、開催することで、重要な作品がほとんど出品されたかつてない規模での開催となった。

### Ono Chikkyo—120 Years After His Birth

Ono Chikkyo, born 1889 in Kasaoka, Okayama, was a Japanese-style painter based in Kyoto. As a young adult he was a founding member of the Kokuga Sosaku Kyokai, which was established in 1918, while plotting a revolution of Japanese-style painting by integrating the techniques of modern Western painting. He later established a painting style characterized by mild colors and simple forms, and participated in Nitten (Japan Fine Arts Exhibition) after World War II.

This exhibition, focusing on the period around 1939, which marked a major turning point toward an emphasis on coloration, was separated into two parts, each dedicated to the time before and after the change in Chikkyo's painting style. At the same time, both parts were accompanied by special exhibitions, titled "Chikkyo in Europe" and "For Haiku Poems in Basho's *Narrow Road to a Far Province*", respectively. As the titles suggest, one of these exhibitions was focusing on the experience Chikkyo had gathered in Europe between 1921 and 1922, while the other looked at the meaning and significance of his most well-known work made in 1976, "For Haiku Poems in Basho's *Narrow Road to a Far Province*".

Organized as an event to celebrate Chikkyo's 120th birthday, the exhibition became the biggest to date, featuring almost all of his important work, which was only possible thanks to the collaborative work of the co-hosting Chikkyo Art Museum, Kasaoka, a local institution that has been collecting material related to Chikkyo for many years.



撮影：木奥恵三

所蔵作品展「近代日本の美術」

読売新聞 都内版 4月11日朝刊 『『近代美術の東京』川合玉堂『行く春』』（都築千重子）

読売新聞 都内版 5月9日朝刊 『『近代美術の東京』オーギュスト・ロダン『トルソー』』（鈴木勝雄）

読売新聞 都内版 6月13日朝刊 『『近代美術の東京』今村紫紅『時宗』』（都築千重子）

読売新聞 都内版 7月11日朝刊 『『近代美術の東京』畠山直哉『川の連作』より』（増田玲）

読売新聞 都内版 9月12日朝刊 『『近代美術の東京』川端龍子『草炎』』（中村麗子）

読売新聞 都内版 11月14日朝刊 『『近代美術の東京』土田麦僊『島の女』』（三輪健仁）

読売新聞 都内版 12月12日朝刊 『『近代美術の東京』中村彝『エロシエンコ氏の像』』（蔵屋美香）

読売新聞 都内版 1月30日朝刊 『『近代美術の眼』深澤索一『冬日』』（坂保健二郎）

読売新聞 都内版 3月13日朝刊 『『近代美術の眼』岡村桂三郎『白象図』』（中林和雄）

多摩川新聞 12月14日 「近代日本の美術展」(無記名)

小企画「壁と大地の間で」

多摩川新聞 8月20日 「壁と大地の間で 東京国立近代美術館」(無記名)

朝日新聞 9月10日夕刊 『『天慧星 拵命 三郎(水滸伝豪傑の内)』白髪一雄』(水曜アート「美の履歴書075」)(大西若人)

現代の眼 571号 「[コレクションによる小企画] 壁と大地の間で」(三輪健仁)

小企画

「コラージュ切断と再構築による創造」

多摩川新聞 12月14日 「コラージュ切断と再構築による創造展」(無記名)

GQ JAPAN No.71 (Apr. 2009) 「果てしなく広がるコラージュ世界の一端を。(MORE TO SEE!）」(無記名)

いけ花 龍生 3月号 「コラージュ切断と再構築による創造」(無記名)

現代の眼 573号 「[コレクションによる小企画] 『コラージュ切断と再構築による創造』それでも創る—コラージュの破壊と創造、パンリアル美術協会の作家たちを中心に」(都築千重子)

1-4-1 本館

本館では、平成21年度、所蔵作品数が10,000点を突破した。所蔵作品展「近代日本の美術」では、20年度、21年度とも、絵画・彫刻・水彩・素描・版画・写真など、毎回約200点を選び、20世紀初頭から現代に至る日本の近・現代美術の流れが概観できるよう展示した。また、参照項となる海外の作品の展示にも力を入れた。

【平成20年度】

平成20年度は6回の展示替を行い、会期ごとに展示作品の8割程度を入れ替えた(日本画・版画・写真はすべて入れ替え)。また4F特集コーナー、3F版画コーナー、写真コーナー、2Fギャラリー 4では、特定の作家に絞った展示やテーマによる小企画を行い、編年順とは異なる新鮮な視点から作品を紹介した。これらの工夫により、会期ごとの変化を印象づけるよう努めた。

◆平成20年3月29日～平成20年5月18日(47日間／うち平成20年度44日間)

特集展示(4F)：萬鉄五郎

版画コーナー(3F)：北岡文雄

写真コーナー(3F)：白岡順

出品点数：219点(うち重要文化財4点)

入場者数：120,611人(平成21年度含む126,811人)

◆平成20年6月3日～平成20年8月3日(54日間)

特集展示(4F)：今村紫紅—「絵巻物模写」と「印度旅行スケッチ帳」

版画コーナー(3F)：高橋力雄

写真コーナー(3F)：写真の複数性

出品点数：213点(うち重要文化財5点)

入場者数：24,200人

◆平成20年8月9日～平成20年10月13日(57日間)

特集展示(4F)：旅行記としての美術

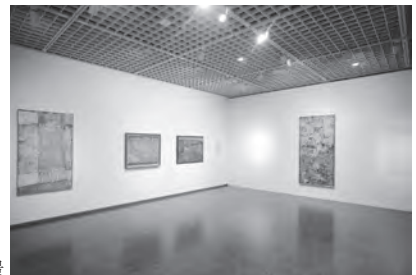
版画コーナー(3F)：斎藤寿一

写真コーナー(3F)：林隆喜「ZOO」

小企画(2Fギャラリー 4)：「壁と大地の間で」

出品点数：244点(うち重要文化財4点)

入場者数：19,082人



「壁と大地の間で」会場風景

**特集展示**

**特別公開 横山大観「生々流転」**

和楽 1月号 「全長40m。迫力のある『生々流転』を全巻展示 所蔵作品展『近代日本の美術』(無記名)

趣味の水墨画 2月号 「水墨画の競演 横山大観『生々流転』と近藤浩一路の世界」(無記名)

The Asahi Shimbun 1月23日 “Modern Japanese Art From the Museum Collection”(無記名)

現代の眼 573号 「所蔵作品展 近代日本の美術 特別公開 横山大観『生々流転』(都築千重子)

**小企画「木に潜むもの」**

多摩川新聞 3月10日 「木に潜むもの展 引き出された『祈り』『近代』『越境』」(無記名)

朝日新聞 4月1日夕刊 「木に潜むもの」(大西若人)

現代の眼 575号 「[コレクションを中心とした小企画]『木に潜むもの』 木に何を『潜ませる』か?—素材との付き合い方、そして造形へ」(中村麗子)

◆平成20年10月18日～平成21年1月12日(72日間)

特集展示(4F)：新宿中村屋につどった人々—大正時代の芸術サロン  
版画コーナー(3F)：山本容子「光の大地」  
写真コーナー(3F)：東松照明「光る風・沖縄」と「京」  
出品点数：169点(うち重要文化財3点)  
入場者数：21,834人

◆平成21年1月20日～平成21年3月8日(42日間)

特集展示(4F)：光と墨の水墨画 近藤浩一路の世界  
版画・水彩・素描コーナー(3F)：枯れた樹と葉  
写真コーナー(3F)：神谷俊美「東京神話」  
小企画(2Fギャラリー 4)：「コラージュ切断と再構築による創造」  
特集展示(1F)：特別公開 横山大観「生々流転」  
出品点数：211点(うち重要文化財6点)  
入場者数：19,964人



「コラージュ切断と再構築による創造」  
会場風景

◆平成21年3月14日～平成21年6月7日(75日間／うち平成20年度15日間)

特集展示(4F)：北脇昇—思考のプロセス  
版画コーナー(3F)：ガラスの叙情  
写真コーナー(3F)：細江英公「薔薇刑」  
小企画(2Fギャラリー 4)：「木に潜むもの」  
出品点数：194点(うち重要文化財5点)  
入場者数：3,808人(平成21年度含む21,676人)

In fiscal year 2009, the number of items in the museum's collection exceeded the 10,000 pieces. For each installment of the *Modern Japanese Art from the Museum Collection* exhibition, about 200 pieces, including paintings, sculptures, watercolors, drawings, prints, photographs, and others, were selected with the aim to give visitors an overview of the history of modern Japanese art from the early 20th century to the present. At the same time, we are also putting great effort into displays of work from overseas that serve as reference.

#### Fiscal year 2008

Throughout fiscal year 2008, exhibits at the museum were changed six times. For each exhibition period, approximately 80% of the exhibited works were replaced with other work (Japanese-style paintings, prints, and photographs were all replaced). "Topic in focus" on the fourth floor, the prints and photograph sections on the third floor, along with Gallery 4 on the second floor, various display profiling specific artists or themes were shown, whereas the artwork here was presented from a fresh look in a non-chronological order. Such measures were taken with the aim to create the impression of change from one exhibition period to the next.

◆ March 29–May 18, 2008 (47 days, including 44 days in fiscal year 2008)  
Topic in focus (4F): Tetsugoro Yorozu  
Prints section (3F): Fumio Kitaoka  
Photograph section (3F): Jun Shiraoka  
Number of exhibited work: 219 (including four important cultural properties)  
Number of visitors: 120,611 (126,811, including visitors in fiscal year 2009)

◆ June 3–August 3, 2008 (54 days)  
Topic in focus (4F): Shiko Imamura: *Copies After Ancient Scrolls and Sketches From the Trip to India*  
Prints section (3F): Rikio Takahashi  
Photograph section (3F): Multipleness of Photography  
Number of exhibited work: 213 (including five important cultural properties)  
Number of visitors: 24,200

◆ August 9–October 13, 2008 (57 days)  
Topic in focus (4F): Art as Travelogue  
Prints section (3F): Juichi Saito  
Photograph section (3F): Takayoshi Hayashi: "Zoo"  
Exhibition primarily from the Museum Collection (Gallery 4, 2F): Between the Wall and the Ground  
Number of exhibited work: 244 (including four important cultural properties)  
Number of visitors: 19,082

◆ October 18, 2008–January 12, 2009 (72 days)  
Special exhibition (4F): Artists Who Gathered at Shinjuku Nakamura–Art Salon in the Taisho Period  
Prints section (3F): Yoko Yamamoto: *The Earth of Light*

Photograph section (3F): Shomei Tomatsu: “Sparkling Winds–Okinawa” and “Kyoto”

Number of exhibited work: 169 (including three important cultural properties)

Number of visitors: 21,834

◆ January 20–March 8, 2009 (42 days)

Topic in focus (4F): Koichiro Kondo

Prints/watercolors/drawings section (3F): Trees and Withered Leaves

Photograph section (3F): Toshimi Kamiya: “Mirabilitas Tokyo”

Exhibition primarily from the Museum Collection (Gallery 4, 2F): Collage: Creation by Severance and Reconstruction

Topic in focus (1F): Taikan Yokoyama: *Metempsychosis*

Number of exhibited work: 211 (including six important cultural properties)

Number of visitors: 19,964

◆ March 14–June 7, 2009 (75 days, including 15 days in fiscal year 2008)

Topic in focus (4F): Noboru Kitawaki–Thought Process

Prints section (3F): Lyricism of Glass

Photograph section (3F): Eikoh Hosoe: “Ordeal by Roses”

Exhibition primarily from the Museum Collection (Gallery 4, 2F): What Lurks in Wood

Number of exhibited work: 194 (including five important cultural properties)

Number of visitors: 3,808 (21,676, including visitors in fiscal year 2009)

## 新聞・雑誌等における掲載記事

### 所蔵作品展「近代日本の美術」

読売新聞 都内版 4月10日朝刊 『『近代美術の眼』長谷川潔『コップに挿した種子草』(都築千重子)』

読売新聞 都内版 5月8日朝刊 『『近代美術の眼』細江英公『薔薇刑』(増田玲)』

読売新聞 都内版 6月12日朝刊 『『近代美術の眼』萬鉄五郎『もたれて立つ人』(蔵屋美香)』

読売新聞 都内版 7月10日朝刊 『『近代美術の眼』坂本繁二郎『水より上る馬』(保坂健二郎)』

読売新聞 都内版 9月11日朝刊 『『近代美術の眼』川田喜久治『ラスト・コスモロジー』より 20世紀日本最後の日蝕—小笠原父島』(増田玲)』

読売新聞 都内版 11月13日朝刊 『『近代美術の眼』黒田清輝『落葉』(鈴木勝雄)』

読売新聞 都内版 12月18日朝刊 『『近代美術の眼』菱田春草『賢首菩薩』(中村麗子)』

読売新聞 都内版 1月8日朝刊 『『近代美術の眼』前田藤四郎『時計』(都築千重子)』

読売新聞 都内版 2月26日朝刊 『『近代美術の眼』竹内栖鳳『飼われたる猿と兎』(中村麗子)』

### 小企画

#### 「寝るひと・立つひと・もたれるひと」

朝日新聞 7月15日夕刊 『『裸体美人』萬鉄五郎(水曜アート「美の履歴書115」)』(小川雪)

アートコレクター 10月号 「熊谷守一『半裸婦』『豊の裸婦』(山下祐二のこれが欲しい!)(山下裕二)』

現代の眼 576号 「『コレクションによる小企画』寝るひと・立つひと・もたれるひと」(蔵屋美香)

### 小企画「水浴考」

毎日新聞 3月1日夕刊 「水浴を表現した絵画など51点集め展覧会」(無記名)

東京人 5月号 「東京国立近代美術館『水浴考 On Bathing』所蔵作品展のススメ。」(保坂健二郎)

現代の眼 580号 「『コレクションによる小企画』『水浴考』へのプロローグ」(鈴木勝雄)

## 【平成21年度】

平成21年度は5回の展示替を行い、会期ごとに展示作品の8割程度を入れ替えた(日本画・版画・写真はすべて入れ替え)。本年度は、特に、①企画展(1階)から所蔵作品展(4-2階)への効果的な誘導、②無料観覧日の積極的アピール、の2点につき、工夫を行った。①に関しては、企画展出口に案内パネルを設置する、企画展の内容に関わりのある所蔵作品を展示する等、②に関しては、無料観覧日の告知に的を絞った新聞広告を打つ等である。また、所蔵作品を用いた特集展示、小企画も充実させ、新企画として、テーマに沿って展示室内に点在する作品をだどる形式の「テーマで歩こう」を開催した。

### ◆平成21年6月13日～平成21年9月23日(91日間)

特集展示(4F)：坂本繁二郎

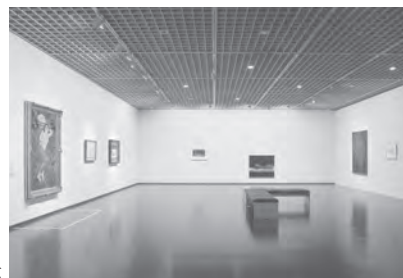
素描コーナー(3F)：黒い風景

写真コーナー(3F)：川田喜久治「ラスト・コスモロジー」

小企画(2Fギャラリー4)：「寝るひと・立つひと・もたれるひと」

出品点数：216点(うち重要文化財4点)

入場者数：150,833人



「寝るひと・立つひと・もたれるひと」

会場風景

### ◆平成21年10月3日～平成21年12月13日(62日間)

特集展示(4F)：油彩技法から見た近代日本絵画

素描コーナー(3F)：木村荘八《溷東綺譚》

写真コーナー(3F)：松江泰治

出品点数：223点(うち重要文化財4点)

入場者数：20,633人

### ◆平成21年12月19日～平成22年2月14日(46日間)

特集展示(4F)：小林和作 意外と大胆な風景

水彩・素描コーナー(3F)：生まれる線

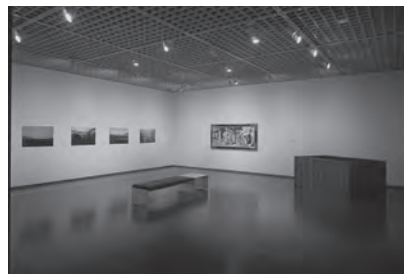
写真コーナー(3F)：今道子

出品点数：181点(うち重要文化財6点)

入場者数：15,427人



◆平成22年2月20日～平成22年4月11日(45日間／うち平成21年度35日間)  
テーマで歩こう(4F～2F)：庭一作家の小宇宙  
特集展示(4F)：須田国太郎  
水彩・素描コーナー(3F)：顔を描く  
写真コーナー(3F)：ウジェーヌ・アジェ  
小企画(2Fギャラリー4)：「水浴考」  
出品点数：249点(うち重要文化財6点)  
入場者数：20,440人(平成22年度含む36,099人)



「水浴考」会場風景

撮影：大谷一郎

## Fiscal Year 2009

In fiscal year 2009, exhibits at the museum were changed five times. For each exhibition period, approximately 80% of the exhibited works were replaced with other work (Japanese-style paintings, prints, and photographs were all changed). In this fiscal year, special emphasis was placed on: (1) efficient guidance from special exhibitions (1F) to collection exhibitions (2–4F), and (2) constructive advertisement of admission-free days. Regarding (1), information panels were installed at the exits of special exhibitions, and work from the museum collection with a connection to the respective special exhibition's theme was put on display. Regarding (2), newspaper advertisements were placed announcing admission-free days. Furthermore, feature and displays with specific themes including work from the museum collection were enhanced, and the "Let's Browse with Topical Focus", exploring exhibits in different parts of the venue by topic, was launched as a new program.

### ◆ June 13–September 23, 2009 (91 days)

Topic in focus (4F): Sakamoto Hanjiro

Drawings section (3F): Paysage in Black

Photograph section (3F): Kawata Kikuji: "The Last Cosmology"

Exhibition primarily from the Museum Collection (Gallery 4, 2F): Lying, Standing and Leaning

Number of exhibited work: 216 (including four important cultural properties)

Number of visitors: 150,833

### ◆ October 3–December 13, 2009 (62 days)

Topic in focus (4F): Oil Painting Techniques Seen in Modern Japanese Paintings

Drawings section (3F): Kimura Shohachi: *Bokuto Kidan*

Photograph section (3F): Matsue Taiji

Number of exhibited work: 223 (including four important cultural properties)

Number of visitors: 20,633

### ◆ December 19, 2009– February 14, 2010 (46 days)

Topic in focus (4F): Kobayashi Wasaku

Watercolors/drawings section (3F): Lines to Be

Photograph section (3F): Kon Michiko

Number of exhibited work: 181 (including six important cultural properties)

Number of visitors: 15,427

### ◆ February 20–April 11, 2010 (45 days, including 35 days in fiscal year 2009)

Let's Browse with Topical Focus (2F–4F): Garden: Painters' Microcosm

Topic in focus (4F): Suda Kunitaro

Watercolors/drawings section (3F): Drawing Faces

Photograph section (3F): Eugène Atget

Exhibition primarily from the Museum Collection (Gallery 4, 2F): On Bathing

Number of exhibited work: 249 (including six important cultural properties)

Number of visitors: 20,440 (36,099, including visitors in fiscal year 2010)

新聞・雑誌等における掲載記事

所蔵作品展「近代工芸の名品—花と人形」

文部科学時報 3月号 「鑑賞席 所蔵作品展 「近代工芸の名品—花と人形」 (諸山正則)

刺繍通信 vol.12 「近代工芸の名品—花と人形」(渡辺尚子)

現代の眼 568号 「見えざるものへの化身：人形と花についての幻想譚」(新見隆)

所蔵作品展「I ヨーロッパの近代工芸とデザイン／II 新収蔵作品展2006-2007」

文化庁月報 5月号 「ヨーロッパの近代工芸とデザイナー—アール・デコを中心に—」(三上美和)

月刊展覧会ガイド 6月号 「アール・ヌーヴォーとアール・デコの時代」(相元慶季)

週刊SPA! 5/27号 「ヨーロッパの近代工芸とデザイナー—アール・デコを中心に—」(三上美和)

モノ・マガジン No.584 「よく聞くパウハウスって何？」 +plus eyes (ジョー・スズキ)

現代の眼 569号 「アール・デコと都市の輝き」(三上美和)

所蔵作品展「こども工芸館[装飾/デコ]」

読売新聞 8月2日夕刊 「工芸品展 大胆な装飾 わくわく」

毎日小学生新聞 8月11日 「ろくろでお皿作り」

読売新聞 8月19日夕刊 「美術館博物館情報 東京国立近代美術館工芸館「所蔵作品展 こども工芸館[装飾/デコ]」から

文化庁月報 8月号 「所蔵作品展 こども工芸館[装飾]」(木田拓也)

VERY 8月号 「体感するアートを厳選見て触れて、親子で楽しいミュージアムガイド」(豊田祐子)

読売新聞 8月2日夕刊 週刊KODOMO新聞 「工芸品展 大胆な装飾わくわく」(平井絵未理、高松奈々、田中成美)

毎日小学生新聞 8月11日 「走れ！毎小特派員 『装飾(デコ)』展のワークショップで」(角田紘)

現代の眼 571号 「模様の創作：写生から模様へ、混沌から秩序へ」(木田拓也)

所蔵作品展

「きものの輝き／漆・木・竹工芸の美」

文化庁月報 2月号 所蔵作品展 「きものの輝き／漆・木・竹工芸の美」(今井陽子)

美しいキモノ 2008冬号 誌上ギャラリー「《能衣装唐織黒絵段》《一越縮緬地花鳥文訪問着》」(今井陽子)

和楽 2月号 「人間国宝を中心とした至高の工芸品を一堂に」(富永恭子)

1-4-2 工芸館

陶磁、ガラス、染織、漆工、木竹工、金工・ジュエリー、人形、工業デザイン、グラフィック・デザイン等の各分野にわたる所蔵作品の中から、約100点～130点の作品を選び、工芸の歴史や特定のテーマに沿った展示を実施した。

【平成20年度】

例年入館者が減少しがちである冬の季節に「きもの」をテーマとした所蔵作品展を開催するとともに、展覧会にあわせて『工芸館名品集—染織』を刊行し、入館者の導入に努めた。また、鑑賞理解の補助のための英和の出品リストや鑑賞カードの配布に加え、要望が多く寄せられていたキャプションの改善(作品名等へのルビふりや技法、素材の記載)等、来館者サービスの充実に努めた。

◆近代工芸の名品—花と人形

平成20年2月26日～平成20年5月21日(69日間／うち平成20年度38日間)

出品点数：114点

入場者数：22,517人(平成21年度含む32,009人)

◆I ヨーロッパの近代工芸とデザイン／II 新収蔵作品展2006-2007

平成20年5月20日～平成20年7月6日(42日間)

出品点数：92点

入場者数：9,722人

◆こども工芸館[装飾/デコ]

平成20年7月17日～平成20年9月23日(59日間)

出品点数：133点

入場者数：8,803人

◆近代工芸の名品—陶芸

平成20年10月4日～平成20年12月7日(56日間)

出品点数：48点

入場者数：12,969人

◆きものの輝き／漆・木・竹工芸の美

平成20年12月20日～平成21年2月22日(53日間)

出品点数：137点

入場者数：13,505人

◆近代工芸の名品—花

平成21年3月7日～平成21年5月10日(57日間／うち平成20年度22日間)

出品点数：132点

入場者数：6,160人(平成22年度含む25,240人)



現代の眼 573号 「まとう美術品」(林真理子)

所蔵作品展「近代工芸の名品一花」

文化庁月報 3月号 所蔵作品展 「近代工芸の名品一花」(唐澤昌宏)

刺繍通信 vol.14 「近代工芸の名品一花」(渡辺尚子)

現代の眼 574号 「富本憲吉の『花』—その描線のジレンマについて」(富田康子)

Approximately 100–130 items from the museum's collection encompassing a variety of genres, such as ceramic and glass art, textiles, lacquer art, bamboo and woodwork, metalwork and jewelry, dollmaking, and industrial and graphic design, have been selected to be featured in exhibitions on specific themes or for introducing the general history of craftwork.

### Fiscal Year 2008

Concurrently with a kimono-themed collection exhibition in the winter season, when the number of visitors tends to drop, the “Textiles: Masterpieces from the Crafts Gallery Collection” book was published with the aim to increase visitors. Furthermore, viewing notes and lists of displayed items in Japanese and English were distributed as auxiliary material, and—responding to public demand—captions were revised putting kana readings beside titles and information on techniques and materials, in order to enhance the visitor's experience and their understanding of the exhibits.

◆Flower and Doll from the Museum Collection

February 26–May 21, 2008 (69 days, including 38 days in fiscal year 2008)

Number of exhibited works: 114

Number of visitors: 22,517 (32,009, including visitors in fiscal year 2009)

◆I: European Modern Crafts and Design / II: New Acquisitions 2006–2007

May 20–July 6, 2008 (42 days)

Number of exhibited works: 92

Number of visitors: 9,722

◆Deco—Crafts Gallery for Kids From the Museum Collection

July 17–September 23, 2008 (59 days)

Number of exhibited works: 133

Number of visitors: 8,803

◆Masterpieces of Modern Crafts from the Museum Collection—Ceramics

October 4–December 7, 2008 (56 days)

Number of exhibited works: 48

Number of visitors: 12,969

◆Museum Collection Exhibition: Radiance of Kimono/Beauty of Lacquer, Wood and Bamboo Works

December 20, 2008 –February 22, 2009 (53 days)

Number of exhibited works: 137

Number of visitors: 13,505

◆Modern Japanese Crafts from the Museum Collection: Flower Design

March 7–May 10, 2009 (57 days, including 22 days in fiscal year 2008)

Number of exhibited works: 132

Number of visitors: 6,160 (25,240, including visitors in fiscal year 2010)

新聞・雑誌等における掲載記事

所蔵作品展「近代工芸の名品一花」

前年度にまとめて記載

所蔵作品展「ヨーロッパの工芸とデザイン—アール・ヌーヴォーから現代まで」

文化庁月報 5月号 「ヨーロッパの工芸とデザイン—アール・ヌーヴォーから現代まで」(木田拓也)

所蔵作品展「子ども工芸館～い！コレクション／おとな工芸館～涼しさ招く」

文化庁月報 8月号 「鑑 文化芸術へのいざない 子どもとともに、学び、楽しむ 工芸館の夏2009」(今井陽子)

InRed 9月号 「30代女子に効くアートサプリ Monthly Theme: 涼しい夏のアート」(原田マハ)

メトロポリス 798号 「CRAFTS GALLERY FOR KIDS: い！ COLLECTION」

現代の眼 576号 「子ども工芸館」の挑戦」(齊藤佳代)

所蔵作品展「近代工芸の名品一花」

文化庁月報 3月号 「所蔵作品展 近代工芸の名品一花」(今井陽子)

婦人公論 3月22日号 「九段下の桜と『花』を愛でる 工芸ならではの素材や技法」(木谷節子)

現代の眼 580号 「櫻の“花”」(稗田竜子)

【平成21年度】

平成20年度の巡回展「感じる鼓動 東京国立近代美術館工芸館所蔵 人形展」の好評を受けて、工芸館の人形コレクションをより広く知ってもらえるように、所蔵作品の名品集の3冊目として『工芸館名品集—人形』を出版した。

◆ヨーロッパの工芸とデザイン—アール・ヌーヴォーから現代まで  
平成21年5月16日～平成21年6月28日(38日間)

出品点数：127点

入場者数：8,513人

◆子ども工芸館～い！コレクション／おとな工芸館～涼しさ招く

平成21年7月7日～平成21年8月30日(48日間)

出品点数：118点

入場者数：15,652人

◆近代工芸の名品—陶芸

平成21年9月4日～平成21年11月3日(52日間)

出品点数：18点

入場者数：22,500人

◆近代工芸の名品一花

平成22年2月11日～平成22年4月18日(59日間、うち平成21年度43日間)

出品点数：106点

入場者数：11,464人(平成22年度含む28,980人)



## Fiscal Year 2009

Responding to the great popularity of the “Masterpieces of Modern Dolls from the Crafts Gallery, The National Museum of Modern Art, Tokyo” traveling exhibition of dolls from the museum collection in fiscal year 2008, “Dolls: Masterpieces from the Crafts Gallery Collection”, was published as the third volume in the series aimed to introduce the Crafts Gallery’s doll collection to an even broader audience.

### ◆European Crafts and Design from the Museum Collection

May 16–June 28, 2009 (38 days)

Number of exhibited works: 127

Number of visitors: 8,513

### ◆Museum Collection Exhibition: Crafts Gallery for Kids: ! Collection/Crafts Gallery for Adults: Inviting Coolness

July 7–August 30, 2009 (48 days)

Number of exhibited works: 118

Number of visitors: 15,652

### ◆Masterpieces of Modern Japanese Ceramics—From the Museum Collection

September 4–November 3, 2009 (52 days)

Number of exhibited works: 18

Number of visitors: 22,500

### ◆Modern Japanese Crafts from the Museum Collection: Flower Design

February 11–April 18, 2010 (59 days, including 43 days in fiscal year 2009)

Number of exhibited works: 106

Number of visitors: 11,464 (28,980, including visitors in fiscal year 2010)

平成18年12月から、本館・工芸館の所蔵作品展、フィルムセンターの展示室を1,000円で1年間、何度でも観覧できる「MOMATパスポート」の販売を開始した。チラシやホームページにより広報を行い、平成20年度は606枚、平成21年度は571枚を販売した。

The MOMAT Passport was launched in December 2006. The passport allows the holder to visit the Film Center gallery and the Museum Collection exhibitions in the Main Building and Crafts Gallery as often as desired during a 12-month period for just 1,000 yen. Information on the Passport was provided to the public through leaflets and website notices. Unit sales totaled 606 in fiscal 2008 ending March 31,2009 and 571 in fiscal 2009 ending March 31,2010.

## 会期

平成20年12月23日～平成21年2月15日  
(41日間)

## 会場

碧南市藤井達吉現代美術館

## 主催

東京国立近代美術館  
碧南市、碧南市教育委員会

## 入館者数

7,324人

## 出品点数

69点

## 会期

平成21年2月21日～3月30日(33日間)

## 会場

佐野美術館

## 主催

東京国立近代美術館  
佐野美術館、三島市  
三島市教育委員会  
静岡第一テレビ30ch

## 後援

静岡県教育委員会

## 協賛

伊豆箱根鉄道株式会社

## 入館者

5,900人

## 出品点数

69点

## 新聞・雑誌等における掲載記事

## 碧南市藤井達吉現代美術館会場

中日新聞 12月22日 「昭和初期一人形  
芸術史たどる」(坂口千夏)朝日新聞 12月24日 「昭和初期～現代  
人形70点を展示」(岡本真幸)日本経済新聞 1月22日夕刊 「人形展一  
感じる鼓動」(山脇佐江子)中日新聞 1月23日 「美術館に親しもう  
児童が人形展鑑賞」

## 佐野美術館会場

週刊芸術新聞 2月12日 「人形展 感じる  
鼓動」日刊岳南朝日 「東京国立近代美術館工  
芸館所蔵人形展 鼓動感じる人形たち」

東京新聞 「あふれる鼓動」(堀場達)

静岡新聞 「日独人形作家の70点並ぶ」

## 【平成20年度】

## 感じる鼓動 東京国立近代美術館所蔵 人形展

東京国立近代美術館工芸館では、昭和初期から現代にいたって発展してきた人形芸術を検証しつつ、特に重要な作品の収集と普及に努めてきた。人形制作に近代の意識を芽生えさせた竹久夢二や五味文郎の創作人形や、伝統の人形を革新した平田郷陽や野口光彦、堀柳女、鹿児島寿蔵をはじめ、伝統の手法をもとに個性的な創作表現を深めている秋山信子や林駒夫、面屋庄甫、また人形という現代の造形芸術を表している友永詔三や浜いさを、四谷シモンらが活躍してきた。そのコレクションから、日本の主要な作家26人の代表作にドイツの作家4人による所蔵作品を加えた69点で構成し、人形芸術の発展と個性的創作を対照させた。

## Masterpieces of Modern Dolls from the Crafts Gallery, The National Museum of Modern Art, Tokyo

Examining Japanese doll art that has developed since the late 1920s to the present, the Crafts Gallery of the National Museum of Modern Art, Tokyo has endeavored to collect particularly important works and to make them widely known. Important doll makers include Takehisa Yumeji and Gomi Fumio whose original dolls brought modern consciousness to doll making; Hirata Goyo, Noguchi Mitsuhiko, Hori Ryujo and Kagoshima Juzo who renovated traditional dolls; Akiyama Nobuko, Hayashi Komao and Menya Shoho, who are exploring individual expression based on traditional techniques; and Tomonaga Akimitsu, Hama Isao and Yotsuya Simon, representatives of doll art as a contemporary plastic art. The exhibition presented from our collection 69 pieces including important works of 26 leading Japanese doll makers and four German artists, aiming to contrast the development of doll art with unfolding of individual styles.





会 期
平成21年12月19日～平成22年2月7日 (50日間)
会 場
飛騨高山美術館
主 催
東京国立近代美術館 飛騨高山美術館、中日新聞社
出品点数
161点
入館者
4,240人
新聞・雑誌等における掲載記事
中日新聞・岐阜県版 12月20日 「国立近代美術館工芸館名品展：『子どもに本物の作品を』—高山で開場式、豊蔵作品など並ぶ」
中日新聞・飛騨版 12月23日 「人間国宝の名品に感動：松倉中 飛騨高山美術館を訪問」
中日新聞・岐阜県版 12月23-25日 「華麗なる技の世界—：東京国立近代美術館工芸館名品展 上・中・下」
中日新聞・岐阜県版 12月27日 「一流に触れて感性磨け：岩滝小生が高山美術館—国立近代美術館工芸館名品展見学」

【平成21年度】  
飛騨高山美術館開館13周年記念特別展  
東京国立近代美術館工芸館名品展

東京国立近代美術館所蔵品のなかから、開催館である飛騨高山美術館が収集・展示に力を注いでいるガラス、陶磁器、さらに飛騨高山に春慶塗の伝統があることから漆芸の主要な作品を選び、展示した。作品の制作年代は明治から平成に渡り、作風も伝統的なものからいわゆる“オブジェ”まで多岐に渡って紹介した。海外の作品が多い開催館所蔵品との比較から地域による差異や歴史的関係性を見出し、また地元の産業的工芸品との対照から漆芸の普遍的特質を探り、観覧者の工芸に対する関心を高めることを目的とした。

Masterpieces of Modern Crafts from the Crafts Gallery, the National Museum of Modern Art, Tokyo

This exhibition presented from our collection important examples of glassware, ceramics and lacquerware. The host museum, Hida Takayama Museum of Art, is paying special attention to the first two genres in their collection and exhibition activities. The third genre is included because Hida Takayama is well known for its tradition of Shunkei lacquerware. The years of production of the exhibits spanned the four periods from the Meiji (1868–1912) to the Heisei (1989– ), and the styles ranged widely from the traditional to the so-called “objet”. Aiming to heighten visitors’ interest in crafts, the show tried to identify the regional differences and historical relationships by contrasting the exhibits from our collection with those from the collection of the host museum that included many pieces from abroad, and to explore the universal nature of lacquer art by comparing our exhibits with local industrial crafts.



会 期
平成21年12月12日～平成21年12月23日 (12日間)
会 場
和光本館6階 和光ホール
主 催
和光、東京国立近代美術館
出品点数
104点
入館者数
4,382人
新聞・雑誌等における掲載記事
文化庁月報 12月号 「東京国立近代美術館所蔵 工芸名品展」(稗田竜子) チャイム 12月号 「銀座に集う、日本が誇る工芸の粋」

## 東京国立近代美術館所蔵 工芸名品展

東京国立近代美術館所蔵作品のなかから、明治以降の近現代工芸の歴史が概観できる代表的な作品を選び、展示紹介した。ただし、和光でも工芸の展示会を多数開催していることから、前後の展示会にも目を配り、染織のなかでも着物や人形については展示をひかえた。展示作品は伝統的なものから、いわゆるオブジェまでとし、とくに作風を絞り込むことなく、工芸の表現の広さを理解し、かつ、工芸への関心を高めてもらえるように考慮した。

### Collection of Selected Crafts from The National Museum of Modern Art, Tokyo

The show presented important pieces selected from our collection to provide an overview on the history of Japanese crafts since the Meiji period (1868–1912). We refrained from showing kimonos and dolls, though, considering contents of many crafts exhibitions given in about the same period at Wako, a jewelry shop in Ginza. The exhibits ranged from the traditional to the so-called objet. Focusing on no particular style, the exhibition was designed to help visitors understand the breadth of expression of, and heighten their interest in, crafts.



## 2 作品貸与・特別観覧・プリントスタディ

### 2-1 本館

#### 【平成20年度】

- ①貸 与 73件 (375点)
- ②特別観覧 157件 (397点)
- ③出品協力 1件 (12点)
- ④プリントスタディ(写真作品観覧制度) 8件(147名,224点)

#### 【平成21年度】

- ①貸 与 69件 (230点)
- ②特別観覧 163件 (270点)
- ③出品協力 1件 (9点)
- ④プリントスタディ(写真作品観覧制度) 12件(172名,408点)

### 2-2 工芸館

#### 【平成20年度】

- ①貸 与 27件 (195点)
- ②特別観覧 34件 (91点)

#### 【平成21年度】

- ①貸 与 31件 (265点)
- ②特別観覧 24件 (102点)

【平成20年度】

◆一條彰子

『小学校学習指導要領解説図画工作編』（作成協力者）（文部科学省、2008年8月）

発表「国立美術館が行う鑑賞教育研修」／第32回InSEA（国際美術教育学会）世界大会2008 in 大阪、招待セミナー「我が国の鑑賞教育・美術館教育の研究プロジェクト」（大阪インターナショナル・ハウス、2008年8月6日）

「第5・6学年の授業展開」／『小学校学習指導要領の解説と展開 図画工作編』（教育出版、2008年8月17日）

講演「美術館を活用した鑑賞教育」、演習「アートカードを使って」／『授業実践の発表と題材（教材）の研究』（東京都中学校美術教育研究会、中野ZEROホール、2008年8月21日）

「美術館と学校をつなぐ鑑賞教育」／『文部科学時報』1593号（文部科学省、2008年10月）

「国立美術館の研修と教材」／『教育美術』797号（財団法人教育美術振興会、2008年11月）

「連携で活用できる美術館の資源」／『平成20年改訂 小学校教育課程講座 図画工作』（ぎょうせい、2008年11月15日）

「鑑賞教育と向かい合う3日間」、ほか企画編集／『平成20年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修』記録集（2008年12月）

企画編集「特集：美術館と学校Ⅱ」／『現代の眼』574号

発表「国立美術館の研修と教材」／『美術鑑賞教育の現状・課題・展望』（科研「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の開発」報告会、文部科学省第1講堂、2009年2月21日）

「美術館から見た学校—美術館連携」／『美術教育の動向』（武蔵野美術大学出版局、2009年3月30日）

◆大谷省吾

講演「岡本太郎とシュルレアリスム」（川崎市岡本太郎美術館、2008年5月11日）

「碌山美術館との深い関わり」／『碌山 碌山美術館友の会だより』19号（2008年6月）

「反抗と前衛」／『別冊太陽 近代日本の画家たち』（平凡社、2008年8月）

「Artist Interview 塩田千春」／『美術手帖』912号（美術出版社、2008年9月）

「太田三郎展：鑑賞上のご注意」／『太田三郎—日々』展カタログ（山形美術館、2008年11月）

講演「新発見の福沢一郎作品をめぐって」（福沢一郎記念館、2008年11月12日）

「岡本太郎の“対極主義”の成立をめぐって」／『東京国立近代美術館研究紀要』13号

「戦前と戦後の前衛絵画をつなぐもの—福沢一郎、鶴岡政男、北脇昇を例に」／『藝叢』25号（筑波大学芸術学研究室、2009年3月）

◆尾崎正明

「加山又造について」／『加山又造展』カタログ（国立新美術館、2009年）

◆蔵屋美香

「ロマンと情緒」、作家解説、作品解説、コラム／『別冊太陽 近代日本の画家たち』(平凡社、2008年8月)

資料解説：「山本芳翠」「藤田嗣治(レオナルド・フジタ)」「沖縄の画家が描く沖縄」／『沖縄・プリズム 1872-2008』展カタログ

発表「How to Globalize/Glocalize the Community? A Life with Art Museum」／テグ市立美術館設立準備シンポジウム(韓国、テグ市デザインセンター、2008年9月26日)

「より前へ」／『シェル美術賞展2008』カタログ(昭和シェル石油株式会社、2008年11月)

講演「よくわかる近代日本の美術」／平成20年度国立美術館巡回展「名作と出会う 明治・大正・昭和の美術」展(福井県立美術館、2008年11月23日)

「近代美術の東京 中村彝『エロシエンコ氏の像』」／『読売新聞』(都内版、2008年12月12日)

章解説、作品解説、翻訳文献解説、作家略歴／『ビデオを待ちながら一映像、60年代から今日へ』展カタログ

「寝る人・立つ人・もたれる人—萬鉄五郎の人体表現」／『東京国立近代美術館研究紀要』第13号

「田尾創樹」／『VOCA展 2009 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』展カタログ(上野の森美術館、2009年3月)

◆鈴木勝雄

「近代美術の東京 ロダン『トルソー』」／『読売新聞』(都内版、2008年5月9日)

「沖縄・プリズム—隔たりを生きる倫理」、「乱反射する沖縄」、章解説、作品・資料解説：「島海青児」「沖縄観光の黎明」「民藝と沖縄」「沖縄と記録映画」「沖縄戦と戦後沖縄の変容はいかに伝えられたか」「廃墟からの出発」「安次嶺金正」「安次富長昭」「未知の島から既知の島へ」「写真集に託されたメッセージ」「東松照明と平良孝七」「沖縄海洋博覧会と沖縄の『崩壊』」「戯曲『人類館』」／『沖縄・プリズム 1872-2008』展カタログ

「日本美を求めて」、作家解説、作品解説、コラム／『別冊太陽 近代日本の画家たち』(平凡社、2008年8月)

◆都築千重子

「近代美術の東京 川合玉堂『行く春』」／『読売新聞』(都内版、2008年4月11日)

「近代美術の東京 今村紫紅『時宗』」／『読売新聞』(都内版、2008年6月13日)

「[コレクションによる小企画]『コラージュ—切断と再構築による創造』それでも創る—コラージュの破壊と創造、パンリアル美術協会の作家たちを中心に」／『現代の眼』573号

テキスト／『コラージュ—切断と再構築による創造』展ブローシャ

「パンリアル美術協会草創期の流れと下村良之介」／京都国立近代美術館ニュース『視る』437(2009年3月20日)

◆鶴見香織

「生誕100年展へようこそ！」インタビュー(尾崎正明と解説)／『芸術新潮』701号(新潮社、2008年5月)

「南画と個性派」、作家解説、作品解説、コラム／『別冊太陽 近代日本の画家たち』(平凡社、2008年8月)

作品解説／『趣味の水墨画』233号(ユーキャン、2008年8月)  
作品解説／『日本の美Ⅲ 日本の四季 春夏編』(美術年鑑社、2008年9月)  
資料解説：「富田溪仙」「菊池契月」／『沖縄・プリズム 1872-2008』展カタログ  
「作品研究 川合玉堂《行く春》について」／『現代の眼』572号  
「近代水墨画の鑑賞」、作家解説、作品解説(京都国立近代美術館・小倉実子と構成・執筆)／『趣味の水墨画』238号(ユーキャン、2009年1月)  
作品解説／『趣味の水墨画』240号(ユーキャン、2009年3月)

◆中林和雄

「岸田劉生《道路と土手と塀》」／『紫明』第23号(紫明の会、2008年9月20日)  
発表「ドローイングの時間性」／シンポジウム「ドローイング再考 テクネーとアートのはざままで」(東京国立近代美術館講堂、2008年9月27日)  
翻訳『ロスコ 芸術家のリアリティ 美術論集』(みすず書房、2009年2月)  
「近代美術の眼 岡村桂三郎『白象図』」／『読売新聞』(都内版、2009年3月13日)

◆中村麗子

「装飾表現の試み」、作家解説、作品解説、コラム／『別冊太陽 近代日本の画家たち』(平凡社、2008年8月)  
作家解説／『現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング』展カタログ  
「近代美術の東京 川端龍子『草炎』」／『読売新聞』(都内版、2008年9月12日)  
講演「京都の日本画―竹内栖鳳を中心に―」(町田市立博物館、2008年10月26日)  
イベント報告「『現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング』展関連パフォーマンス『エモーショナル・バゲージ』(シュシ・スライマン)について」／『現代の眼』574号  
テキスト／『木に潜むもの』展ブローシャ

◆保坂健二郎

「戦後具象」「ニュー・ペインティング」「ニュー・スカルプチャー」／『美術手帖』(美術出版社、2008年4月)  
「美術館ならではの建築展をめざして」／『建築雑誌』(日本建築学会、2008年4月)  
「Exhibition Walkabout (1)～(11)」／『東京人』(都市出版、2008年5月～2009年3月)  
「山口で見るメディア・アート―池田亮司が見せる世界」／『すばる』(集英社、2008年6月)  
「建築家がつくり続ける理由 ペーター・メルクリと青木淳」／『建築がうまれるとき ペーター・メルクリと青木淳』展カタログ  
集中講座「絵画の歴史 近代から現代まで」／(アーツイニシアティヴ トウキョウ、2008年6月20-21日)  
『「墜ちた天空」と葎の意志―畠山直哉が写した地下採石場』／『すばる』(集英社、2008年7月)  
「凛々しい絵、日高理恵子の樹」／『すばる』(集英社、2008年8月)  
「エモーショナル・ドローイングについて」、作家解説／『現代美術への視点

## 6 エモーショナル・ドローイング展カタログ

「縁起は未来に一石山修武の建築ライヴ」／『すばる』(集英社、2008年9月)  
「丸山直文と雰囲気的美学」／『丸山直文全作品集 1988-2008』(求龍堂、2008年10月)

発表「ドローイングは『近代』を疑う」／「国際シンポジウム Count 10 Before You Say Asia-Asian Art after Postmodernism-」(国際交流基金、2008年11月23日)  
講演「フランシス・ベーコン《横たわる人物》について」(富山県立近代美術館、2008年11月30日)

発表「ドローイングは極私的メディアか 奈良美智を手がかりにして」／『第13回アート・スタディーズ 1995年～2004年大震災以後の建築と美術』(INAX銀座、2008年12月8日)

対談「ドローイングを語る」(相手：金井直)(京都国立近代美術館、2008年12月13日)

「見えない炭坑を記録するために—『山本作兵衛の世界』を見て」／『すばる』(集英社、2009年1月)

「近代美術の眼 深沢索一『索一自選小品集 第一輯』より 4.冬目」／『読売新聞』(都内版、2009年1月30日)

『キュレーターになる！—アートを世に出す表現者』(編著、フィルムアート社、2009年2月)

「冬に熊谷守一を見るということ」／『すばる』(集英社、2009年2月)

発表「作品を言葉にすること……」／シンポジウム「アメニティ・ネットワーク・フォーラム3」(大津プリンスホテル、2009年2月21日)

講演「建築×アート＝青木淳」(青森県美術館、2009年2月28日)

「ペインタリー」「風景」「関係」／『美術手帖』(美術出版社、2009年3月)

「アール・ブリュットへの恋文を書くことの困難について」／『アール・ブリュット・コレクションとボーダレス・アートミュージアムNO-MAとの連携事業報告書』(特定非営利活動法人はれたりくもったり、2009年3月)

### ◆増田玲

「光のフィールドノート」／『高梨豊 光のフィールドノート』展カタログ

「コミュニティとともに歩む写真部門 サンフランシスコ近代美術館での研修を終えて」／『現代の眼』570号

「近代美術の東京 畠山直哉『川の連作』」／『読売新聞』(都内版、2008年7月11日)

「美術館と写真の現在」／『写真空間2』(青弓社、2008年9月)

「〈In Tokyo〉について」／『伊奈英次 In Tokyo + EMPEROR OF JAPAN』展カタログ(ギャラリー・アートアンリミテッド、2008年10月)

### ◆松本透

「アンビヴァレンスの絵画—中村一美の新作」／『中村一美 2008 存在の鳥 II』展小冊子(南天子画廊、2008年6月)

「拡張せよ！メディアの内部と外部」／『第5回ソウル国際メディア・アート・ビエンナーレ』カタログ(ソウル市、2008年9月、韓国語及び英語)

発表「現代美術とオリジナル」／第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究週間(東京国立博物館平成館大講堂、2008年12月6日)

発表「展覧会カタログと現代美術」／アート・ドキュメンテーション学会主催『展覧会カタログ総覧』刊行記念シンポジウム「いま、あらためて展覧会カ

タログを見直す」(和光大学附属梅根記念図書館、2009年3月20日)

◆水谷長志

発表「文化財情報の発信と連携について—検索サイト『ALC』と『想—IMAGINE』を事例に」/東京文化財研究所企画情報部研究会(東京文化財研究所、2008年4月22日)

「書評『美術家書誌の書誌：雪舟から東芋、ヴァン・エイクからイ・ブルまで』/『アート・ドキュメンテーション通信』77号(2008年4月)

発表「シンポジウム：物語るアート・ドキュメンテーションのためのブリーフ・イントロダクション」/アート・ドキュメンテーション学会年次大会シンポジウム(京都国際マンガミュージアム、2008年6月7日)

発表「MLA+E試論—独立行政法人国立美術館における情報〈連携〉再論」/アート・ドキュメンテーション学会年次大会(京都国際マンガミュージアム、2008年6月8日)

「〈連携〉する美術情報 国立美術館の公開情報資源—所蔵作品と図書情報を中心に」/『現代の眼』571号

発表「美術と演劇—新たなMLA〈連携〉の可能性：関根正二《女の顔》と生田長江『円光』をめぐって」/シンポジウム「演劇博とは何か—演劇博物館の80年とWASEDA文化」(早稲田大学小野記念講堂、2008年10月26日)

発表「〈連携〉する美術情報：IFLA/ARLIS/JADS/ALCの展開を通して Bridging the distances between art information/resources, professionals and organizations/institutions: Some cases on IFLA/ARLIS/JADS/ALC」/シンポジウム「2008 視覚芸術政策フォーラム〈Art Archives〉II」(韓国文化芸術委員会Arkoアートセンター、2008年11月14日)

「Arko韓国文化芸術委員会等主催『2008 視覚芸術政策フォーラム〈Art Archives〉II (2008.11.14, Seoul)』に参加して」/『アート・ドキュメンテーション通信』80号(2009年1月)

「夢の砦—展覧会カタログのために」/『展覧会カタログ総覧』(日外アソシエーツ、2009年1月)

発表「基調報告“夢の砦”を築くには JADS, ALCと展覧会カタログ—達成と課題」/アート・ドキュメンテーション学会主催『展覧会カタログ総覧』刊行記念シンポジウム「いま、あらためて展覧会カタログを見直す」(和光大学附属梅根記念図書館、2009年3月20日)

◆三輪健仁

テキスト/『壁と大地の隙で』展ブローシャ

「近代美術の東京 土田麦僊『島の女』」/『読売新聞』(都内版、2008年11月14日)

「不純なる媒体：1970年前後の映像について」、作品解説、翻訳：ベンジャミン・H.D. ブクロー「リチャード・セラの作品におけるプロセス彫刻とフィルムについて」/『ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ』展カタログ

◆荒木和

解説・問題作成「西洋美術史 原始・古代～ルネサンス」「西洋美術史 20世紀」/『美術検定 過去問題集2008 四択マークシート』(美術出版社、2008年7月)

構成「2008年のアーティスト・トークから」/『現代の眼』574号



◆山口百合

執筆・編集『MOMATコレクションこどもセルフガイド』

「KIDS★MOMAT2008 東京国立近代美術館のなつやすみ 夏休み！こども美術館」／『現代の眼』573号

「KIDS★MOMAT2008 夏休み！こども美術館」／『教育美術』第797号（財団法人教育美術振興会、2008年11月）

【平成21年度】

◆一條彰子

講演「これからの学校と美術館」／日本美術教育連合主催教育講演会（東京国立近代美術館講堂、2009年5月10日）

発表「美術館におけるミュージアム・リテラシー」／第14回日本ミュージアム・マネージメント学会大会指定討論（東京家政学院大学、2009年6月6日）

「美術館におけるミュージアム・リテラシー」／『日本ミュージアム・マネージメント学会会報No.53』Vol.14 No.2（2009年9月）

「トークラリー—いまどきの中学生のための逆ギャラリートーク」／『現代の眼』579号

「国立美術館の研修と教材」／『教育美術』第797号（財団法人教育美術振興会、2008年11月）

執筆・編集『東京国立近代美術館のスクール・プログラム』

「変化への対応と今後に向けて」、ほか企画編集／『平成21年度美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修記録集』（独立行政法人国立美術館、2010年3月）

◆大谷省吾

「銀座紀伊國屋ギャラリーという場所」／東京文化財研究所編『昭和期美術展覧会の研究 戦前篇』（東京文化財研究所、2009年4月）

「新発見の福沢一郎作品をめぐって」／『福沢一郎記念館ニュース』29号（2009年4月）

「影響と自立」／『躍動する魂のきらめき 日本の表現主義』展カタログ（栃木県立美術館他、2009年4月）

「高松次郎の《日本語の文字》はなぜ版画でなければならなかったのだろうか？」／『現代の眼』576号

発表「銀座紀伊國屋ギャラリーをめぐって」／明治美術学会（早稲田大学、2009年7月25日）

「展覧会予告 河口龍夫展 言葉・時間・生命」／『現代の眼』577号

「河口龍夫展 言葉・時間・生命」／『文化庁月報』493号（2009年10月）

「星座をつくる人」、章解説、作品解説（ギャラリートーク風に）／『河口龍夫展 言葉・時間・生命』展カタログ

「交響曲としての展覧会」、作品解説／『河口龍夫展 言葉・時間・生命』展カタログ別冊

「The Experimental Workshop—The Meeting of Media」／『Experimental Workshop Japan 1951-1958』展カタログ（Annely Juda Fine Art, London、2009年10月）

講演「河口龍夫展」（河口龍夫、松本透と座談会）（東京国立近代美術館、2009年11月14日）

◆葦屋美香

「情感とエロティシズムの表出 あるいは、造形の実験」／『別冊太陽 裸婦素晴らしき日本女性の美』(平凡社、2009年4月)

「平成20年度の新収蔵作品(美術作品)について」／『現代の眼』575号

「[コレクションによる小企画] 寝るひと・立つひと・もたれるひと」／『現代の眼』576号

テキスト／『寝るひと・立つひと・もたれるひと』展ブローシャ

「近代美術の眼 萬鉄五郎『もたれて立つ人』」／『読売新聞』(都内版、2009年6月12日)

「ステューディオ:クリエイターの仕事場。丸山直文」／『ハイファッション』(文化出版局、2009年10月)

「展評:アート・ビジョンVOL.8 小林正人展—この星の絵の具」／『美術手帖』(美術出版社、2009年9月)

「麗子はどこにいる?—岸田劉生 1914-1918の肖像画」／『東京国立近代美術館研究紀要』第14号

◆鈴木勝雄

作品解説、《我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこに行くのか》解説／『ゴーギャン展』カタログ

「近代美術の眼 黒田清輝『落葉』」／『読売新聞』(都内版、2009年11月13日)

「北川民次《メキシコ静物》—近代精神のユートピア」／『現代の眼』579号

「『水浴考』へのプロローグ」／『現代の眼』580号

テキスト／『水浴考』展ブローシャ

◆都築千重子

「近代美術の眼 長谷川潔『コップに挿した種子草』」／『読売新聞』(都内版、2009年4月10日)

作品解説／『別冊太陽 裸婦素晴らしき日本女性の美』(平凡社、2009年4月)

「近代美術の眼 前田藤四郎『時計』」／『読売新聞』(都内版、2010年1月8日)

◆鶴見香織

コラム「今村紫紅と新南画」／『別冊太陽 日本のこころ161 速水御舟—日本画を破壊する』(平凡社、2009年9月)

共著『もっと知りたい速水御舟 生涯と作品』(東京美術、2009年10月)

「小野竹喬《島二作》《郷土風景》について」、特集展示解説、コラム、作品解説／『生誕120年 小野竹喬展』カタログ

作品解説／『趣味の水墨画』250号(ユーキャン、2010年2月)

作品解説「小野竹喬の世界—生誕120年展から」(連載)／『毎日新聞』(都内版、2010年3月6、15、23、25日、4月7日)

講演「生誕120年 小野竹喬展」(中野ZERO、2010年2月23日)

講演「生誕120年 小野竹喬展」(板橋区立文化会館、2010年3月17日)

講演「生誕120年 小野竹喬展」(調布市グリーンホール、2010年3月18日)

◆中林和雄

「ジャン・デュビュッフェ《草の茂る壁際》主体性と装飾」／『現代の眼』575

号

「ジャッド・発注・絵画」／『Fuji Xerox Print Collection Donald Judd』展ブローシャ (Art Space by Fuji Xerox, 2009年6月)

「ゴッティンへの試論」、作品解説／『ゴッティン展』カタログ

「繁茂とうつろい—和紙的もしくは植物的想像力について [Wachstum und Wandel, Über die Imaginationskraft von Papier und Vegetation]」(独語・英語)／『Kami. Silence/Action-Japanische Kunst der Gegenwart auf Papier』展カタログ (Staatliche Kunstsammlungen Dresden Kupferstich-Kabinett, 2009年10月)

「マティス試論(II)絵画と装飾性」／『東京国立近代美術館研究紀要』第14号

#### ◆中村麗子

「日本画にみる裸婦」、作家解説、作品解説／『別冊太陽 裸婦 素晴らしき日本女性の美』(平凡社, 2009年4月)

「木に何を『潜ませる』か?—素材との付き合い方、そして造形へ(コレクションを中心とした小企画『木に潜むもの』)」／『現代の眼』575号

作品解説／『日本の美IV 日本の四季 秋冬』(美術年鑑社, 2009年8月)

「近代美術の眼 菱田春草『賢首菩薩』」／『読売新聞』(都内版, 2009年12月18日)

「近代美術の眼 竹内栖鳳『飼われたる猿と兎』」／『読売新聞』(都内版, 2010年2月26日)

テキスト／『テーマで歩こう 庭—作家の小宇宙』展ブローシャ

#### ◆保坂健二郎

「Exhibition Walkabout」(連載)／『東京人』(都市出版社, 2009年4月~2010年3月)

「なぜ田中功起は編集に懐疑的なのか」／『すばる』(集英社, 2009年4月)

「すべての芸術は模型に憧れる!？」／『東京人』(都市出版社, 2009年5月)

「ステューディオ:クリエイターの仕事場。小谷元彦」／『ハイファッション』(文化出版局, 2009年6月)

「西野達の本能的な制作」／『すばる』(集英社, 2009年6月)

「彫刻論の再編成に向けて」(「小谷元彦 SP4 “the specter” in modern sculpture」展の展評)／『美術手帖』(美術出版社, 2009年6月)

「清宮質文が描く建物」／『すばる』(集英社, 2009年7月)

トーク「TWS-Emerging 2009 Vol.2」(トーキョーワンダーサイト本郷, 2009年7月4日)

「近代美術の眼 坂本繁二郎『豚』」／『読売新聞』(都内版, 2009年7月10日)

「『道具的理性』からの脱却」(「西野達『バレたらどうする』」展の展評)／『美術手帖』(美術出版社, 2009年8月)

「スイスの建築家と日本」／『すばる』(集英社, 2009年9月)

公開会議「集まれ! アート・イニシアチヴ PART2」(BankART Studio NYK, 2010年9月5日)

審査員「第62回岩手芸術祭」(岩手県民会館展示室, 2009年9月13日)

「小穴純 アナログにとどまること」／『すばる』(集英社, 2009年10月)

審査員「平成21年度 二国間交流事業 台北派遣クリエイター」(トーキョーワンダーサイト, 2009年10月9、16日)

展覧会企画『この世界とのつながりかた』(ポーダレス・アートミュージア

ムNO-MA、2009年10月24日～2010年3月7日)

「なぜ建築はコレクションされるべきなのか」／『建築以前、建築以後』(アケセス・パブリッシング、2009年11月)

『『瀬東綺譚』を描く』／『すばる』(集英社、2009年11月)

「鼎談 門林岳史+保坂健二郎+新藤淳 イメージのプレゼンスとエモーション」／『Review House』3号(Review House編集室、2009年12月)

「レベッカ・ホルンのちぐはぐな器具」／『すばる』(集英社、2010年1月)

講演「作品を言葉にすること」(沖縄県立博物館・美術館講座室、2010年1月9日)

集中講座「絵画の歴史」／NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ(AIT代官山、2010年1月22日、23日)

基調報告、パネリスト「モードとしてのドローイング」／シンポジウム「絵画の時代—ゼロ年代の地平から」(国立国際美術館、2010年1月24日)

「絵画のヴァリエーション」／『美術手帖』(美術出版社、2010年2月)

「展覧会予告 建築はどこにあるの? 7つのインスタレーション」／『現代の眼』580号

講演「作品を選ぶこと」／「アメニティー・ネットワーク・フォーラム4」(大津プリンスホテル、2010年2月6日)

企画運営「シンポジウム 建築アーカイヴの現在と未来」(東京大学本郷キャンパス工学部1号館15号講義室、2010年2月21日)

「鼎談 奈良美智+高嶺格+保坂健二郎」／『アウトサイダー・アートの作家たち』(角川学芸出版、2010年3月)

#### ◆増田玲

「近代美術の眼 細江英公『薔薇刑』」／『読売新聞』(都内版、2009年5月8日)

「近代美術の眼 川田喜久治『ラスト・コスモロジー』」／『読売新聞』(都内版、2009年9月11日)

「鑑賞の位相—土門拳と藤本四八の仏像写真をめぐって」／『現代の眼』580号

#### ◆松本透

「赤と青—鈴木隆の近作」／小冊子『鈴木隆』(GALLERY TERASHITA、2009年4月)

「権鎮圭の回顧展に寄せて」／『現代の眼』577号

「物質への動機—鈴木久雄の彫刻」／『鈴木久雄展—彫刻の領域』カタログ(中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館、2009年8月)

「河口龍夫—未来形の芸術」／『河口龍夫 言葉・時間・生命』展カタログ

「感情と構造—権鎮圭の彫刻」／『権鎮圭』展カタログ

「現代美術とオリジナル」／「“オリジナル”の行方—文化財を伝えるために」(東京文化財研究所編、平凡社、2010年3月)

#### ◆水谷長志

「美術館・博物館研究員は語る 美術館の中の図書室(アートルाइブラリ)—美と知の宝庫」／『文部科学時報』(2009年4月)

「書評『図書館 この素晴らしき世界』」／『図書館雑誌』103巻6号(2009年6月)

「特集にあたって」、「〈連携〉する美術館図書室—『展覧会カタログ総覧』から

見るアートライブラリの展開と課題』／『現代の眼』576号

「連携」する美術情報：IFLA／ARLIS／JADS／ALCの展開を通して』／『韓国の視覚芸術の課題と展望』(タハルメディア(ソウル)、2009年11月)

発表「総論 美術情報・資料の活用法—提供と利用のはざまにおいて」、**「第Ⅲ講 今日図書館から俯瞰する美術館の資料活動」**、「第Ⅳ講 電子的リソース(二次資料)」／全国美術館会議情報・資料研究部会企画セミナー「美術情報・資料の活用法—展覧会カタログからWebまで」(東京国立博物館、国立西洋美術館、2009年11月10-11日)

発表「日本におけるMLA連携の現状と課題」、「記念鼎談 これからのMLA連携に向けて」、「日本のアート・ドキュメンテーション—20年の達成とJADS趣旨説明—イントロダクション」／第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「日本のアート・ドキュメンテーション—20年の達成 MLA連携の現状、課題、そして将来」(東京国立博物館平成館、2009年12月13日)

「ジェーン・ライト (Jane Wright, 1879-1929)、ふたたび」／『アート・ドキュメンテーション通信』84号(2010年1月)

「第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラムを終えて」／『アート・ドキュメンテーション通信』84号(2010年1月)

発表「国立美術館の情報発信—近年の展開と課題」／全国美術館会議第25回学芸員研修会「美術館の情報発信—参加する、つながる、共有する、ウェブの新時代—」(国立新美術館、2010年3月12日)

#### ◆三輪健仁

翻訳：ウィリアム・ケントリッジ「影の礼讃」／『ウィリアム・ケントリッジ—歩きながら歴史を考える—そしてドローイングは動き始めた……』展カタログ

公開講座「批評(創造)の現在シリーズ—4」(近畿大学 国際人文科学研究所 東京コミュニティカレッジ 四谷アート・ステュディオム、2009年10月3日)

#### ◆荒木和

解説・問題作成・コラム／『美術検定 2級過去問題集2009』(美術出版社、2009年7月)

解説・問題作成・コラム／『美術検定 3級・4級過去問題集2009』(美術出版社、2009年7月)

「『鑑賞ノススメ』と音声ガイド」／『現代の眼』578号

構成「2009年のアーティスト・トークから」／『現代の眼』580号

#### ◆山口百合

執筆・編集「ゴーギャン展こどもセルフガイド ゴーギャンの冒険」

執筆・編集「MOMATコレクションこどもセルフガイド」

【平成20年度】

## ◆今井陽子

イベント報告「トークイベントから 前田昭博×今井陽子」『現代の眼』569号

「北村武資の《羅》」／『現代の眼』573号

「茶室の工芸学 加藤土師萌」／『淡交』763号(淡交社、2008年4月)

「OWL IN THE WELL ～梟の棲む井戸」、『柳原睦夫展』カタログ(日本橋高島屋、2008年5月)

「茶室の工芸学 松田権六」／『淡交』770号(淡交社、2008年10月)

「染織の美」、作品解説「甲田栄佑 精好 仙台平 利休」「山田貢 麻地友禅着物 朝凧」「古賀フミ 佐賀錦松皮菱文帯 春匂う」「伊砂利彦 きものドビュッシー 前奏曲集交代する三度のイメージより」他／『工芸館名品集—染織』

「染織作家の情景(1) 鈴田照次」／『美しいキモノ』227号(アシェット婦人画報社、2009年2月)

セルフガイド『デコハント』、『鑑賞の手引き』、ワークシート『デコドリル』、『やきものワークショップ』、『こどもタッチ&トーク』他／『こども工芸館～装飾(デコ)』展(2008年7月)

「人形私考」／『感じる鼓動 東京国立近代美術館工芸館所蔵 人形』展カタログ(碧南市藤井達吉現代美術館、佐野美術館、2008年12月)

講演「工芸鑑賞のすすめ」(大妻女子大学、2008年8月)

講演「近代の人形芸術」(碧南市藤井達吉現代美術館、2008年12月)

## ◆金子賢治

監修『非水百花譜』(ランダムハウス講談社、2008年7月、「非水百花譜」の時代—「美術工芸」からモダン・デザインへ執筆)

北野勝久—「磁器の表現」新世代／『北野勝久個展』カタログ(黒田陶苑、2008年5月)

「染織の歴史—模様染と織の系譜」／『工芸館名品集—染織』

井上康徳の現在—「影青」から非情の曲線へ／『井上康徳展』カタログ(2009年2月)

共著『日本美術史ハンドブック』(新書館、2009年3月)

## ◆唐澤昌宏

イベント報告「トークイベントから 橋本真之×唐澤昌宏」／『現代の眼』569号

「荒川豊藏の〈志野〉」／『現代の眼』574号

「加藤唐九郎・重高・高宏—『かまぐれ』三代の作陶」／『加藤唐九郎・重高・高宏 窯ぐれ三代展』カタログ(中日新聞社、2008年10月)

『茶陶』—写しから創造への歩み、そして造形と意匠にみる現在性—／『茶陶—造形と意匠にみる現在性』展カタログ(多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス、2008年12月)

『窯ぐれ三代展』に寄せて—加藤唐九郎・重高・高宏—『かまぐれ』三代の作陶』／『陶説』671号(日本陶磁協会、2009年2月)

コラム「日本陶磁協会賞の重みと励み」／『陶説』670号(日本陶磁協会、2009

年1月)

作品解説「形態のうねり」／『月刊 展覧会ガイド』(2008年7月号)

作品解説「茶室の工芸学 三輪壽雪《鬼萩割高台茶碗》」／『淡交』通巻768号(淡交社、2008年9月)

作品解説「加藤唐九郎《志野茶盃 銘 垂幌》」／『中日新聞』(中日新聞社、2008年10月16日)

作品解説「加藤重高《紫志野刻文花器》」／『中日新聞』(中日新聞社、2008年10月17日)

作品解説「加藤高宏《黄瀬戸花器》」／『中日新聞』(中日新聞社、2008年10月18日)

作品解説「加藤唐九郎《志野茶盃 銘 貫道》」／『東京新聞』(東京新聞社、2009年1月19日)

作品解説「近代工芸の名作 第61回 荒川豊藏《志野茶壺 銘 氷梅》」／『チャイム銀座』通巻308号(和光、2009年3月)

作品解説「木村雨山《一越縮緬地花鳥文訪問着》」ほか／『工芸館名品集一染織』

作品解説「素材を手の内に 加藤土師萌《青白磁鳥獸浮文鉢》、塚本快示《青白磁彫花鉢》」／『淡交』通巻775号(淡交社、2009年3月)

座談会「現代陶芸としての茶陶」(多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス、2008年12月7日)

講演「加藤唐九郎・重高・高宏『かまぐれ』三代の作陶について」(菊池寛実記念 智美術館、2009年1月17日)

#### ◆木田拓也

「帝展が描き出す『工芸美術』の輪郭線」／『美術史の余白に：工芸・アルス・現代美術』(美学出版、2008年9月)

Industrial Arts Institute (IAI) and Designers from the Occident: Planting the Idea of Modern Design in Japan in the 1930s-1940s, *Proceedings of the 6th International Conference of Design History and Design Studies, "Another Name for Design: Words for Creation"*, Osaka University Communication-Design Center, 2008年10月

「渡辺素舟と大正十四年の図案工芸界」／『叢書・近代日本のデザイン16「図案工芸年鑑 大正十五年度」渡辺素舟』(ゆまに書房、2008年10月)

「シリーズ陶芸の巨匠：加藤土師萌」／『炎芸術』97号、2009年1月

学会発表 Industrial Arts Institute (IAI) and Designers from the Occident: Planting the Idea of Modern Design in Japan in the 1930s-1940s (第6回国際デザイン学デザイン史学会、大阪大学中ノ島センター、2008年10月26日)

講演「魯山人と『桃山復興』」(岐阜市歴史博物館、2009年6月21日)

作品解説「宮川香山《鳩桜花図高浮彫花瓶》」(所蔵作品展こども工芸館「装飾／デコ」)／『読売新聞』(2008年8月19日夕刊)

作品解説「茶室の工芸学 音丸耕堂《彫漆紫陽花茶器》」／『淡交』62巻5号(2008年5月)

作品解説「近代工芸の名作 第55回 喜多川平朗《打掛唐織萌黄地牡丹文》」／『チャイム銀座』29巻7号(2008年7月)

作品解説「近代工芸の名作 第60回 平良敏子《芭蕉布斜角取縞緋着物》」／『チャイム銀座』30巻1号(2009年1月)

◆北村仁美

「かたちのエッセンス—平松保城の制作と思考」／『かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー』展カタログ

作品解説「平松保城《ブローチ》」（企画展「かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー」）『読売新聞』2008年11月11日。

作品解説「茶室の工芸学 生野祥雲齋《紫竹まがき華籃》」『淡交』62巻6号（2008年6月）。

作品解説「近代工芸の名作 第52回 ルネ・ラリック 《ブローチ・翼のある風の精》、《ブローチ・桑の木と甲虫》」『チャイム銀座』29巻5号（2008年5月）

作品解説「近代工芸の名作 第57回 平松保城《スカルプチャー・ウエイト》」『チャイム銀座』29巻10号（2008年10月）

◆三上美和

「所蔵作品展 ヨーロッパの近代工芸とデザイナー—アール・デコを中心にアール・デコと都市の輝き」／『現代の眼』569号

「博士論文要約」／学習院大学教務部（2008年5月）

『鑑賞の手引き』、ワークシート『デコドリル』、『やきものワークショップ』、『こどもタッチ&トーク』他／「こども工芸館～装飾（デコ）」展（2008年7月）

作品解説「茶室の工芸学：現代工芸家の茶器；[31] 齋藤明『蠟型臙銀花器』1987年」／『淡交』62巻7号（通号766）（2008年7月）

『平成20年度美術館を活用した鑑賞教育のための指導者研修』（2008年10月）

作品解説「東京国立近代美術館コレクションより（第5回）十二代酒井田柿右衛門『色絵草花文蓋物』」／『Taiki plus』4号 Autumn 2008（2008年10月）

「平松保城年譜」／『かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー』展カタログ

◆諸山正則

「富田文隆の家具という芸術」／『富田文隆—木の美しさ、家具の造形—』展カタログ（群馬県立近代美術館、2008年6月）

「The handcrafted contemporary furniture of Fumitaka Tomita and Kenji Suda」／『KATEIGAHO International Edition』21号（2008年夏）

「茶室の工芸学—現代工芸家の茶器 小林菊一郎『うろこ文切子鉢、小鉢』」／『淡交』767号（2008年8月）

「三田村自芳《春秋蒔絵茶器》」／『チャイム』303号（2008年9月）

「小松誠—デザイン+ユーモア—」／『小松誠—デザイン+ユーモア—』展カタログ

「素材を手の内に 漆—赤地友哉《はりぬき朱八角中次》・角偉三郎《溜漆椀》」／『淡交』774号（2009年2月）

「本池秀夫の革の人形とその時代」／『本池秀夫—革の世界—』展カタログ（米子市美術館、2009年2月）

◆齊藤佳代

セルフガイド『デコハント』、『鑑賞の手引き』、ワークシート『デコドリル』、『やきものワークショップ』、『こどもタッチ&トーク』他／『こども工芸館～装飾（デコ）』展（2008年7月）



【平成21年度】

◆今井陽子

「素材を手の内に 衣裳人形」／『淡交』776号(淡交社、2009年4月)

「染織作家の情景(2) 喜多川平朗」／『美しいキモノ』228号(アシェット婦人画報社、2009年5月)

「染織作家の情景(3) 宗広力三」／『美しいキモノ』229号(アシェット婦人画報社、2009年8月)

「素材を手の内に 紬」／『淡交』781号(淡交社、2009年7月)

「文化芸術へのいざない(10)：子どもとともに、学び、楽しむ 工芸館の夏2009」／『文化庁月報』491号(2009年8月)

「染織作家の情景(4) 森口華弘」／『美しいキモノ』230号(アシェット婦人画報社、2009年11月)

「語りかけるかたち(1) 古賀フミ」／『美しいキモノ』230号(アシェット婦人画報社、2010年2月)

セルフガイド『!コレクション』『涼』『鑑賞の手引き』『やきものワークショップ』『こどもタッチ&トーク』他／「こども工芸館～!コレクション」「おとな工芸館～涼しさ招く」展(2009年7月)

作家解説：「青木克世」「青野千穂」他／『現代工芸への視点—装飾の力』展カタログ

◆金子賢治

「透明なトランジション—堀友三郎の精神性」／『堀友三郎作品集』(求龍堂、2009年6月)

「カメラの遺伝子：植葉香澄の現在」／『植葉香澄』展パンフレット(目黒陶芸館、2009年9月)

「ミュシャから杉浦非水へ」／『ユリイカ』(青土社、2009年9月)

「森正洋の仕事—モダンデザインと『表現』の工芸」／『森正洋の全仕事』(ランダムハウス講談社、2009年10月)

「秋山逸生：『際立ちの美』」／『秋山逸生』展パンフレット(市川市芳澤ガーデンギャラリー、2010年1月)

「神谷紀雄さんの新境地」／『神谷紀雄個展』カタログ(日本橋三越、2010年2月)

『ルーシー・リー作品の特質』／『炎芸術』101号(2010年2月)

『『表現の人形』史—竹久夢二から現代へ』／『工芸館名品集—人形』

「装飾：過剰のメンタリティー」／『現代工芸への視点 装飾の力』展カタログ

◆唐澤昌宏

「自身を織り込む—中島晴美の陶造形—」／『中島晴美展』リーフレット(ギャラリー目黒陶芸館、2009年7月26日)

「加藤唐九郎の作陶」／『TAIKI』05号(新日本教育図書、2009年7月31日)

「日本の陶芸史を飾る作家の逸品に出会う」／『文化庁月報』492号(2009年9月)

「近代以降の『天目』 “写し”から“創作”への歩み」／『淡交別冊 愛蔵版天目—賞翫され続ける至宝の茶碗』第56号(淡交社、2009年11月16日)

「古典から探り出す急須の在り方」／『炎芸術』101号(阿部出版、2010年2月1

日)

鼎談「鈴木志野」／『不二の志野 人間国宝 鈴木藏展』カタログ(高島屋、2009年4月)

レポート「第20回日本陶芸展」／『炎芸術』98号(阿部出版、2009年5月1日)

作品解説「今泉毅《黒彩ノ器》」／『第20回日本陶芸展』カタログ(毎日新聞社、2009年4月)

作家解説「バーナード・リーチ」「荒川豊藏」／『染野夫妻陶芸コレクションーリーチ・濱田・豊藏・壽雪ー』展カタログ

作品解説「近代工芸の名作 第66回 荒川豊藏《瀬戸黒金彩木葉文水指》」／『チャイム銀座』通巻313号(和光、2009年9月)

作品解説「近代工芸の名作 第67回 荒川豊藏《赤絵花鳥図壺》」／『チャイム銀座』通巻314号(和光、2009年10月)

作品解説「素材を手の内に 板谷波山《雲青磁牡丹彫文花瓶》、三浦小平二《青瓷蓋物 馬頭琴(ダッツァンにて)》」／『淡交』通巻783号(淡交社、2009年10月)

作家解説「十四代今泉今右衛門」「佐合道子」「篠崎裕美子」「田中知美」「服部真紀子」「森野彰人」／『現代工芸への視点ー装飾の力』展カタログ

作品解説「近代工芸の名作 第69回 初代長野埜志《松林の図肩衝釜》」／『チャイム銀座』通巻316号(和光、2009年12月)

作品解説「近代工芸の名作 第70回 十四代今泉今右衛門《色絵墨色墨はじき草花更紗文花瓶》」／『チャイム銀座』通巻317号(和光、2010年1月)

作品解説「大林蘇乃《西銀座昼の月》」ほか／『工芸館名品集一人形』

講演「荒川豊藏の〈志野〉ー自然と生命の讃歌」(山口県立萩美術館・浦上記念館、2009年5月2日)

講演「近代陶芸の発展における小森忍の窯業研究と作陶」(瀬戸市文化センター文化交流館、2009年8月22日)

講演「工芸における表現とは」(金沢市文化ホール、2010年2月20日)

#### ◆木田拓也

「一九三〇年代における工芸とナショナリズム：『伝統工芸』前史について」／『美術フォーラム21』19号(美術フォーラム21刊行会、2009年5月)

“Traditional Art Crafts (*Dentō Kōgei*)” in Japan: From Reproductions to Original Works, *The Journal of Modern Craft*, Vol. 3, No. 1, (2010年3月)

学会発表「国井喜太郎の固有工芸論：1930年代における『日本的なもの』とモダンデザイン」／デザイン史学研究会(埼玉大学、2010年3月13日)

作品解説「近代工芸の名作 第68回 富田美樹子《変質する形》」／『チャイム銀座』30巻9号(2009年11月)

作品解説「近代工芸の名作 第63回 ジャン・ピユイフォルカ《ティー・セット》」／『チャイム銀座』30巻4号(2009年5月)。

作品解説「素材を手の内に 崇高な世界にいざなう金の輝き」／『淡交』63巻11号(2009年11月)

作品解説「素材を手の内に 作品をひきたてる貝殻の輝き」／『淡交』63巻5号(2009年5月)

#### ◆北村仁美

「ルーシー・リーの生涯」／『炎芸術』101号(阿部出版、2010年2月)

作品解説「素材を手の内に 『型絵染』に際立つ個性」／『淡交』63巻6号(2009

年6月)

◆三上美和

作家略歴・解説(植木寛子、北村純子、高村宜志)／『工芸館名品集 染織』

作品解説「素材を手の内に 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より [8] : 色絵磁器—富本憲吉『色絵金銀彩四弁花染付風景文字文壺』1957年、藤本能道『梅白釉描色絵金銀彩 鷲図扁壺』1991年／『淡交』63巻8号(通号780)(2009年8月)

「安田鞞彦筆《夢殿》—明治期聖徳太子顕彰を手掛かりに—」／美術史学会『美術史』第167冊(2009年10月)

「教育普及レポート 工芸の鑑賞を考える—教職員のための研修から—」『現代の眼』第579号

作品解説「素材を手の内に 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より [12] : 陶磁—富本憲吉『土焼刷毛目壺』1926年、『白磁珈琲器』1933年」／『淡交』63巻12号(通号785)(2009年12月)

作品解説(竹下夢二《少年》《ピエロ》、堀柳女《けはい》他)『工芸館名品集—人形』

「活動報告」／『平成21年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修』(2010年3月)

◆諸山正則

「鹿児島寿蔵の人形芸術」／『人間国宝 鹿児島寿蔵』展カタログ(東京ステーションギャラリー—ギャラリー、2009年4月)

「『吟上のうつわ』展に寄せて」／『川瀬忍 吟上のうつわ』展カタログ(2009年4月)

「鈴木治《四角い窓》」／『TAIKI』5号(2009年7月)

「素材を手の内に 田辺一竹斎《透し編瓢形花籃》・三代田辺竹雲斎《方》」／『淡交』779号(2009年7月)

「Contemporary Japanese Ceramics and the Green Gallery Collection (日本の現代陶芸とグリーンギャラリー・コレクション)」／『Green Gallery Collection at Auckland Museum: Celebration of an Acquisition』(Auckland Museum、2009年8月)

「陶芸家・河井寛次郎の歓喜」／『河井の真実』展カタログ(益子陶芸美術館、2009年9月)

「日本の伝統美と技を守る人々 32 大坂弘道(木工芸)」／『文化庁月報』493号(2009年10月)

「江戸小紋、長板中型、そして型紙」／『なごみ』359号(2009年11月)

「作家略歴・解説 川端健太郎、高石次郎、徳丸鏡子」／『現代工芸への視点—装飾の力』展カタログ

「早川良雄の“顔”と“形状”」／『早川良雄—“顔”と“形状”—』展カタログ

◆齊藤佳代

セルフガイド『コレクション』『鑑賞の手引き』「やきものワークショップ」  
「こどもタッチ&トーク」他／「こども工芸館〜コレクション」  
「おとな工芸館〜涼しさ招く」展(2009年7月)

### 1-1 資料の収集及び図書室の公開 Art Libraries and Other Reference Materials

[本館]

【平成20年度】

①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	192	864	22	1,078	23,508
洋図書	85	227	10	322	10,082
国内展覧会カタログ	7	1,272	11	1,290	43,948
国外展覧会カタログ	37	304	6	347	28,015
計	321	2,667	49	3,037	105,553

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総誌数
和雑誌	—	—	—	218	3,047
洋雑誌	—	—	—	21	870

注) 雑誌はタイトル数を計上

②アーツライブラリ(本館2階)公開活動

開室日数	218日
公開件数	11,671件
入室者数	2,860人
公開資料件数	2,043件

【平成21年度】

①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	267	865	36	1,168	24,683
洋図書	59	400	1	460	10,594
国内展覧会カタログ	7	3,099	19	3,125	47,043
国外展覧会カタログ	69	493	0	562	28,624
計	402	4,857	56	5,315	110,944

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総誌数
和雑誌	—	—	—	109	3,167
洋雑誌	—	—	—	19	893

注) 雑誌はタイトル数を計上

②アーツライブラリ(本館2階)公開活動

開室日数	223日
公開件数	10,179件
入室者数	2,827人
公開資料件数	1,856件

[工芸館]

【平成20年度】

①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	110	208	76	394	5,828
洋図書	14	25	3	42	767
国内展覧会カタログ	11	764	252	1,027	9,618
国外展覧会カタログ	2	58	30	90	1,235
計	137	1,055	361	1,553	17,448
種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総誌数
和雑誌	—	—	—	67	985
洋雑誌	—	—	—	8	101

注) 雑誌はタイトル数を計上

②図書閲覧室(工芸館1階)公開活動

開室日数	162日
公開件数	1,158件
入室者数	395人
公開請求件数	246件

【平成21年度】

①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	46	342	129	517	6,347
洋図書	7	40	11	58	825
国内展覧会カタログ	15	864	40	919	10,537
国外展覧会カタログ	2	96	2	100	1,335
計	70	1,341	182	1,594	19,044
種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総誌数
和雑誌	—	—	—	54	1039
洋雑誌	—	—	—	5	106

注) 雑誌はタイトル数を計上

②図書閲覧室(工芸館1階)公開活動

開室日数	167日
公開件数	816件
入室者数	307人
公開請求件数	186件

## 1-2 児童生徒を対象とした事業

### 1-2-1 本館

#### 【平成20年度】

#### ◆小・中・高等学校への授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成20年6月25日	千代田区立番町小学校	102人
平成20年7月2日	杉並区立方南小学校	57人
平成20年7月8日	荒川区立瑞光小学校	36人
平成20年7月11日	荒川区立瑞光小学校	38人
平成20年7月15日	荒川区立瑞光小学校	37人
平成20年12月16日	江東区立第五砂町小学校	44人
平成20年12月17日	江東区立第五砂町小学校	43人
平成20年12月19日	文京区立本郷小学校	62人
平成21年1月28日	吉見町立北小学校	24人
平成21年2月20日	豊島区立巢鴨小学校	39人
平成21年3月5日	千代田区立九段小学校	64人
平成20年4月15日	岩手県一関市立千厩中学校	5人
平成20年5月13日	宮城県仙台市立台原中学校	6人
平成20年4月16日	愛知教育大学附属岡崎中学校	4人
平成20年6月4日	刈谷市立富士松中学校	41人
平成20年6月12日	千代田区立神田一橋中学校	8人
平成20年7月23日	袖ヶ浦市立昭和中学校	24人
平成20年9月3日	和洋九段女子中学校	279人
平成20年10月7日	文京区立第十中学校	96人
平成20年11月11日	共立女子中学校	182人
平成20年11月12日	共立女子中学校	139人
平成20年11月13日	共立女子中学校	92人
平成20年11月14日	共立女子中学校	229人
平成20年11月15日	共立女子中学校	94人
平成20年12月12日	東京学芸大学附属国際中等教育学校	60人
平成20年12月12日	東京学芸大学附属国際中等教育学校	55人
平成21年2月6日	千代田区立麴町中学校	4人
平成21年2月10日	小金井市立小金井第一中学校	5人
平成21年3月6日	文京区立第七中学校	46人
平成20年12月2日	仙台高等学校	42人
平成20年9月13日	東京都立飛鳥高校+東京都立大泉桜高校	9人
平成20年10月4日	東京都立飛鳥高校+東京都立大泉桜高校	9人
平成20年11月22日	東京都立飛鳥高校+東京都立大泉桜高校	9人
平成20年12月13日	東京都立飛鳥高校+東京都立大泉桜高校	9人

#### ◆学校教職員の研修会等への協力

平成20年7月2日	東京都中学校美術教育研究会	23人
平成20年8月19日	川口市立教育研究会 版画工作研究会	59人

#### ◆学校教職員を対象とした研究会

「生誕100年 東山魁夷展」美術館活用研究会

日時：平成20年4月4日 14時00分～15時30分 聴講者数：52人  
講師：鶴見香織(主任研究員)

◆小・中学生向けプログラム

「夏休み！こども美術館」

小学生プログラム

平成20年8月23日	午前の部(10時30分～12時00分)	参加者数：34名
	午後の部(14時00分～15時30分)	参加者数：25名
8月24日	午前の部(10時30分～12時00分)	参加者数：33名
	午後の部(14時00分～15時30分)	参加者数：33名

中学生プログラム

平成20年7月19日	午前の部(10時30分～12時00分)	参加者数：70名
	午後の部(14時00分～16時00分)	参加者数：46名
7月20日	午前の部(10時30分～12時00分)	参加者数：60名
	午後の部(14時00分～16時00分)	参加者数：59名

◆MOMATコレクションセルフガイド

小・中学生を対象として、所蔵作品展に関連したこどもセルフガイドを作成し、来館した小・中学生に配布した。

◆KIDS★MOMAT2008

夏休み企画として、本館・工芸館・フィルムセンターの子ども向けプログラム情報を集約したチラシを作成し、都内近県の小・中学校の協力を得て配布し、ホームページに掲載した。

【平成21年度】

◆小・中・高等学校への授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成21年5月20日	千代田区立番町小学校	83人
平成21年7月1日	杉並区立方南小学校	61人
平成21年7月3日	豊島区立長崎小学校	28人
平成21年7月7日	荒川区立瑞光小学校	33人
平成21年7月8日	荒川区立瑞光小学校	38人
平成21年7月9日	文京区立本郷小学校	88人
平成21年7月23日	品川区立清水台小学校	18人
平成21年10月16日	青山学院初等部	127人
平成21年12月10日	豊島区立巣鴨小学校	37人
平成22年2月24日	国本学園 国本小学校	51人
平成22年3月2日	昭和女子大学附属昭和小学校	115人

平成21年4月22日	八丈町立富士中学校	5人
平成21年4月22日	福島県南会津郡下郷町立下郷中学校	14人
平成21年5月19日	多賀城市立高崎中学校	17人
平成21年5月27日	愛知県丹羽郡扶桑町立扶桑中学校	4人
平成21年6月3日	愛知県愛知郡長久手町立長久手中学校	7人
平成21年8月2日	千代田区立神田一橋中学校 通信教育課程	25人
平成21年9月10日	文京区立第十中学校	74人
平成21年10月16日	千代田区立麴町中学校	3人
平成21年11月10日	共立女子中学高等学校	137人
平成21年11月11日	共立女子中学高等学校	126人

平成21年11月12日 共立女子中学高等学校 131人  
 平成21年11月13日 共立女子中学高等学校 215人  
 平成21年11月14日 共立女子中学高等学校 87人  
 平成21年11月27日 墨田区立両国中学校 203人  
 平成21年12月11日 東京学芸大学附属国際中等教育学校 61人  
 平成21年12月11日 東京学芸大学附属国際中等教育学校 60人  
 平成22年1月15日 修徳学園中学校 71人

平成21年7月22日 橘学苑高等学校 44人  
 平成21年10月7日 広島県立賀茂高等学校 7人  
 平成21年10月10日 東京都立飛鳥高校+東京都立大泉桜高校 9人  
 平成21年10月14日 石川県金沢辰巳高等学校 21人  
 平成21年10月15日 北海道帯広三条高等学校(1班) 19人  
 平成21年10月16日 北海道帯広三条高等学校(2班) 19人  
 平成21年11月7日 東京都立飛鳥高校+東京都立大泉桜高校 11人  
 平成21年11月19日 東京都立文京盲学校 13人  
 平成21年11月27日 日々輝学園高等学校 32人  
 平成21年11月28日 東京都立飛鳥高校+東京都立大泉桜高校 11人  
 平成21年12月12日 東京都立飛鳥高校+東京都立大泉桜高校 9人  
 平成22年2月5日 共立女子中学高等学校 19人  
 平成22年2月9日 共立女子中学高等学校 24人  
 平成22年2月10日 共立女子中学高等学校 20人  
 平成22年2月12日 共立女子中学高等学校 24人

◆学校教職員の研修会等への協力

平成21年7月24日 千葉県香取教育研究協議会 図工美術教育研究部 10人  
 平成21年8月20日 千葉県野田市公立小中学校造形部会 28人  
 平成21年8月25日 東京都小金井市教育研究会図工部 6人  
 平成21年8月27日 千葉県我孫子市教育研究会 24人  
 平成21年8月28日 神奈川県川崎市立古市場小学校 教職員研修 18人  
 平成21年9月4日 東京都清瀬市教育研修(清瀬市図画工作教員) 9人  
 平成21年10月7日 東京都東村山市立教育研究会 2人  
 平成21年11月11日 東京都中央区小学校図工部研修 11人  
 平成21年11月17日 山梨市甲州市教育協議会 図工美術教員研究会 5人  
 平成22年3月2日 宮城県三股町立三股中学校研修 1人

◆学校教職員を対象とした研究会

「ゴーギャン展」先生のための鑑賞講座  
 日時：平成21年7月3日 18時00分～19時00分 聴講者数：177人  
 講師：鈴木勝雄(主任研究員)

「小野竹喬展」先生のための鑑賞講座  
 日時：平成22年3月5日 18時00分～19時00分 聴講者数：34人  
 講師：鶴見香織(主任研究員)

◆小・中学生向けプログラム

「小野竹喬展」  
 平成22年3月29日(月) 16時30分～18時30分  
 小野竹喬展こども鑑賞プログラム



「絵から感じる五七五」

参加者数20名

「夏休み！こども美術館」

小学生プログラム

日時：7月18日 午前の部(10時30分～12時00分) 参加者数：34名

午後の部(14時00分～15時30分) 参加者数：35名

7月19日 午前の部(10時30分～12時00分) 参加者数：35名

午後の部(14時00分～15時30分) 参加者数：32名

中学生プログラム

日時：8月20日 10時00分～13時00分 参加者数：153名

8月21日 10時00分～13時00分 参加者数：128名

◆こどもセルフガイド

小・中学生を対象として、「ゴーギャン展こどもセルフガイド <ゴーギャンの冒険>」を作成し、学校等へ配布するとともに、来館した小・中学生に配布した。

◆MOMATコレクションセルフガイド

小・中学生を対象として、所蔵作品展に関連したこどもセルフガイドを作成し、来館した小・中学生に配布した。

◆MOMATスクール・プログラムガイド

東京国立近代美術館のスクール・プログラム(学校と連携した教育普及事業)を、先生向けに紹介するガイドを作成し、学校等へ配布するとともに、ホームページに掲載した。

◆KIDS★MOMAT2009

夏休み企画として、本館・工芸館・フィルムセンターの子ども向けプログラム情報を集約したチラシを作成し、都内近県の小・中学校の協力を得て配布するとともに、ホームページに掲載した。

## 【平成20年度】

## ◆小・中・高等学校の授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成20年5月27日 安城市立明祥中学校 2人  
 平成20年7月～8月 九段中等教育学校夏休み課題協力 160人  
 平成21年3月17日 小千谷市東小千谷中学校 2人

## ◆学校教職員の研修会等への協力

平成20年8月22日 小金井市図画工作部教職員 12人  
 平成20年8月25日 東京都図画工作研究会 86人  
 平成20年9月10日 東京都図画工作研究会文京区教職員 21人  
 平成21年3月13日 東京都中学美術教育研究会 4人

## ◆学校教職員を対象とした研究会

「所蔵作品展 こども工芸館 [装飾/デコ]」工芸作品鑑賞研究会  
 日時：平成20年6月13日 15時00分～17時00分 聴講者数：27人  
 平成20年6月14日 11時00分～13時00分 聴講者数：20人  
 講師：木田拓也(工芸課主任研究員)「工芸作品における装飾性」

## ◆タッチ&amp;トーク(学校対応)

平成20年6月17日 東京都立葛飾ろう学校 9人  
 平成20年6月20日 東京都立大江戸高等学校 9人  
 平成20年7月25日 稲城市立稲城第一中学校 17人  
 平成20年7月31日 千代田区立富士見小学校 23人  
 平成20年8月26日 品川区立清水台小学校 20人  
 平成20年9月22日 杉並区立天沼小学校 79人  
 平成20年11月11日 東京都立若葉総合高校 11人  
 平成20年12月1日 葛飾区立白鳥小学校 102人  
 平成21年1月24日 都立飛鳥高等学校/都立大泉桜高校 8人  
 平成21年1月28日 東京都立工芸高校 37人  
 平成21年2月6日 文京区立本郷小学校 76人  
 平成21年3月14日 世田谷区立尾山台中学校 10人

## ◆小・中学生向けプログラム

## やきものワークショップ

日時：平成20年7月21日 13時30分～15時30分 参加者数：14人  
 日時：平成20年7月22日 13時30分～15時30分 参加者数：24人  
 講師：小山耕一(陶芸家)

## ◆未就学児から小学生向けプログラム

## こどもタッチ&amp;トーク

日時：平成20年8月10日 14時00分～16時00分 参加者数：22人  
 日時：平成20年8月11日 14時00分～16時00分 参加者数：22人  
 日時：平成20年8月17日 14時00分～16時00分 参加者数：22人  
 日時：平成20年8月18日 14時00分～16時00分 参加者数：22人

◆こどもセルフガイド、ワークシート等

小・中学生を対象として、「所蔵作品展こども工芸館[装飾/デコ]」に関連したセルフガイド『デコハント』、ワークシート『デコパーティ』及び指導案『活用のヒント』を作成し、学校等に配布するとともに、来館した小・中学生と付添者(小・中学校教職員、保護者等)に配布し、鑑賞の一助とした。なお、『デコパーティ』は、鑑賞の成果を絵と言葉によって表現し、館内掲示板にて各自発表するものである。また、小・中学生と付添者のコミュニケーションツールとして、ワークシート『デコドリル』を作成、大人も含む来館者全員に配布した。

【平成21年度】

◆小・中・高等学校の授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成21年4月21日 栃木県大田原市立若草中学校 5人

◆学校教職員の研修会等への協力

平成21年7月30日 品川区立小学校中学校教職員合同鑑賞会 13人

平成21年8月24日 東京都中学校美術教育研究会夏季研修会 58人

◆学校教職員を対象とした研究会

「所蔵作品展こども工芸館 こども工芸館：!コレクション」工芸作品鑑賞研究会

日時：平成21年6月6日 11時00分～13時00分 聴講者数：28人

講師：齊藤佳代(工芸課研究補佐員)「工芸作品と子どもの鑑賞」

◆タッチ&トーク(学校対応)

平成21年6月19日 東京都立大江戸高等学校 12人

平成21年7月7日 足立区立東栗原小学校 74人

平成21年7月28日 葛飾区立高砂中学校 14人

平成21年7月29日 大田区立出雲中学校 12人

平成21年7月30日 千代田区立富士見小学校 13人

平成21年8月5日 世田谷区立尾山台中学校 19人

平成21年8月26日 文京区立駒本小学校 14人

平成21年12月8日 文京区立明化小学校 54人

平成21年12月12日 文京区立本郷小学校 80人

平成22年1月16日 都立大泉桜高等学校、都立飛鳥高校 14人

平成22年1月19日 千代田区立富士見小学校 57人

◆小・中学生向けプログラム

やきものワークショップ

日時：平成20年7月20日 14時00分～15時00分 参加者数：14人

日時：平成20年7月21日 14時00分～15時00分 参加者数：22人

講師：伊勢崎淳(陶芸家)

◆未就学児から小学生向けプログラム

こどもタッチ&トーク

日時：平成20年8月9日 14時00分～16時00分 参加者数：16人

日時：平成20年8月10日 14時00分～16時00分 参加者数：19人

日時：平成20年8月11日 14時00分～16時00分 参加者数：15人

◆こどもセルフガイド、ワークシート等

小学生を対象として、所蔵作品展「こども工芸館 2 コレクション」に関連したセルフガイド『2 コレクション』及び指導演『活用のヒント』を、また同時開催の「おとな工芸館 涼しさ招く」に関連したセルフガイドを中学生以上を対象として作成、学校等に配布するとともに、来館者に配布した。また、ワークシート『2 カード』もあわせて配布し、鑑賞の成果を絵と言葉によって表現、館内掲示板にて各自発表した。

## 【平成20年度】

## ◆「生誕100年 東山魁夷展」講演会

「若き日の東山魁夷」

日時：平成20年4月5日 14時00分～15時00分

講師：川崎鈴彦(日本画家)

聴講者数：115人

「東山魁夷 画業の軌跡」

日時：平成20年4月19日 14時00分～15時30分

講師：尾崎正明(特任研究員、本展企画者)

聴講者数：150人

## ◆「建築が生まれるとき ペーター・メルクリと青木淳」展 講演会

「自作について」

日時：平成20年6月6日 18時00分～19時30分

講師：ペーター・メルクリ(出品作家)

聴講者数：188人

「Mのスタディ」

日時：平成20年7月5日 14時00分～15時30分

講師：青木 淳(出品作家)

聴講者数：220人

## ◆「高梨豊 光のフィールドノート」展 対談

日時：平成21年2月7日 14時00分～15時30分

講師：高梨 豊、田中 純(東京大学大学院准教授)

聴講者数：209人

## ◆「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」展 シンポジウム

「ドローイング再考 テクネーとアートのはざままで」

日時：平成20年9月27日 13時00分～16時00分

講師：金井 直(信州大学人文学部准教授)、斎藤 環(精神科医、爽風会佐々木病院診療部長)、ヤン・ジョンム(韓国芸術総合学校美術学部准教授)、中林和雄(企画課長)、

モデレーター：保坂健二郎(企画課研究員、本展キュレーター)

聴講者数：117人

## ◆「沖縄プリズム 1872-2008」展 関連演劇上演

「演劇集団『創造』による『人類館』上演」

主催：東京国立近代美術館、早稲田大学

協力：早稲田大学琉球・沖縄研究所

日時：平成20年12月16日 18時30分～

会場：早稲田大学大隈記念講堂 大講堂

観覧者数：1,030人

◆「建築がうまれるとき ペーター・メルクリと青木淳」展 ギャラリートーク

日時：平成20年6月27日 18時00分～19時00分

講師：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：52人

日時：平成20年7月11日 18時00分～19時00分

講師：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：33人

◆「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」展 アーティスト・トーク

日時：平成20年8月26日 14時00分～16時00分

講師：マニュエル・オカンポ、ピナリー・サンピタック、ミトウ・セン(出品作家)

聴講者数：55人

◆「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」展 ギャラリートーク

日時：平成20年9月5日 18時00分～19時00分

講師：保坂健二郎(企画課研究員)、中村麗子(美術課研究員)

聴講者数：48人

日時：平成20年9月19日 18時00分～19時00分

講師：保坂健二郎(企画課研究員)、中村麗子(美術課研究員)

聴講者数：42人

日時：平成20年10月3日 18時00分～19時00分

講師：保坂健二郎(企画課研究員)、中村麗子(美術課研究員)

聴講者数：37人

◆「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」展 トークイベント

「スクリーニング&トーク」

日時：平成20年9月13日 14時00分～16時00分

講師：辻直之(出品作家)

聴講者数：113人

◆「沖縄・プリズム 1872-2008」展 ギャラリートーク

「新作を発表した若手3人のリレートーク」

日時：平成20年10月31日 18時30分～19時30分

講師：阪田清子、照屋勇賢、山城知佳子(出品作家)

聴講者数：40人

日時：平成20年11月1日 14時00分～15時00分

講師：比嘉豊光(出品作家)

聴講者数：50人

日時：平成20年11月21日 18時30分～19時30分

講師：鈴木勝雄(美術課主任研究員)

聴講者数：25人

日時：平成20年11月29日 14時00分～15時00分  
講師：鈴木勝雄(美術課主任研究員)  
聴講者数：28人

日時：平成20年12月5日 18時30分～19時30分  
講師：鈴木勝雄(美術課主任研究員)  
聴講者数：32人

◆「高梨豊 光のフィールドノート」展 ギャラリートーク

日時：平成21年2月13日 18時30分～19時30分  
講師：増田 玲(美術課主任研究員)  
聴講者数：37人

日時：平成21年2月28日 14時00分～15時00分  
講師：増田 玲(美術課主任研究員)  
聴講者数：40人

◆「沖縄・プリズム 1872-2008」展 上映会

波多野哲朗監督「サルサとチャンプルー Cuba / Okinawa」、  
高嶺剛監督「ウンタマギルー」

日時：平成20年11月15日 10時30分～16時00分  
観覧者数：43人

日時：平成20年11月30日 10時30分～16時00分  
観覧者数：50人

「琉球放送ドキュメンタリー傑作選」

提供：琉球放送

日時：平成20年11月16日 10時30分～16時15分  
観覧者数：35人

日時：平成20年12月6日 10時30分～16時15分  
観覧者数：40人

◆キュレーター・トーク

「大正期の絵画」

日時：平成20年4月18日 18時00分～19時00分  
担当研究員：松本 透(企画課長)  
聴講者数：21人

「白岡順の写真について」

日時：平成20年4月25日 18時00分～19時00分  
担当研究員：増田 玲(美術課主任研究員)  
聴講者数：19人

日時：平成20年5月10日 11時00分～12時00分  
担当研究員：増田 玲(美術課主任研究員)  
聴講者数：19人

「萬鉄五郎《裸体美人》の謎をとく」

日時：平成20年8月15日 18時00分～19時00分

担当研究員：蔵屋美香(美術課長)

聴講者数：33人

「壁と大地の隙で」

日時：平成20年8月29日 18時00分～19時00分

担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)

聴講者数：38人

日時：平成20年10月4日 11時00分～12時00分

担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)

聴講者数：10人

「墨の表現 小杉放菴を中心に」

日時：平成20年11月29日 11時00分～12時00分

担当研究員：鶴見香織(企画課主任研究員)

聴講者数：9人

「新宿中村屋と芸術家たち 二つのエロシエンコ像を中心に」

日時：平成20年12月12日 18時00分～19時00分

担当研究員：大谷省吾(企画課主任研究員)

聴講者数：15人

「コラージュ切断と再構築による創造」

日時：平成21年1月23日 18時00分～19時00分

担当研究員：都築千重子(美術課主任研究員)

聴講者数：18人

日時：平成21年2月8日 11時00分～12時00分

担当研究員：都築千重子(美術課主任研究員)

聴講者数：35人

「抽象絵画って何でしょうね？」

日時：平成21年3月6日 18時00分～19時00分

担当研究員：中林和雄(企画課長)

聴講者数：15人

#### ◆研究員による所蔵品ガイド

日時：平成20年6月7日 14時00分～15時00分

担当研究員：蔵屋美香(美術課主任研究員)

聴講者数：56人

日時：平成20年8月9日 14時00分～15時00分

担当研究員：鈴木勝雄(美術課主任研究員)

聴講者数：49人

日時：平成20年10月18日 14時00分～15時00分

担当研究員：増田 玲(美術課主任研究員)

聴講者数：40人



日時：平成21年1月24日 14時00分～15時00分  
担当研究員：都築千重子(美術課主任研究員)  
聴講者数：45人

日時：平成21年3月14日 14時00分～15時00分  
担当研究員：中村麗子(美術課研究員)  
聴講者数：46人

◆アーティスト・トーク

日時：平成20年4月11日 18時30分～19時30分  
アーティスト：鈴木省三(画家)  
聴講者数：133人

日時：平成20年6月13日 18時30分～20時00分  
アーティスト：畠山直哉(写真家)  
聴講者数：133人

日時：平成20年8月22日 18時30分～19時30分  
アーティスト：元永定正(画家)  
聴講者数：69人

日時：平成20年11月14日 18時30分～19時30分  
アーティスト：辰野登恵子(画家)  
聴講者数：65人

日時：平成21年1月30日 18時30分～19時30分  
アーティスト：白木ゆり(版画家)  
聴講者数：104人

【平成21年度】

◆「ビデオを待ちながら—映像, 60年代から今日へ」展 講演会

「方法としての『彫刻』—ポストミニマリズムと映像をめぐる」

日時：平成21年4月18日 14時00分～15時30分  
講師：林 道郎(上智大学教授)  
聴講者数：123人

「マクルーハンとビデオ・アートの接点を考える—その理論的・歴史的  
条件」

日時：平成21年4月25日 14時00分～15時30分  
講師：門林岳史(関西大学助教)  
聴講者数：66人

「60-70年代の音楽と美術」

日時：平成21年5月9日 14時00分～15時30分  
講師：小沼純一(早稲田大学文学学術院教授)  
聴講者数：84人

「60-70年代の構造映画と美術」

日時：平成21年5月16日 14時00分～15時30分  
講師：西嶋憲生(多摩美術大学教授)  
聴講者数：103人

「ダンスとレディ・メイド—1960-70年代のダンスと美術」

日時：平成21年5月23日 14時00分～15時30分

講師：木村覚(日本女子大学専任講師)

聴講者数：122人

◆「河口龍夫展 言葉・時間・生命」展 講演会

日時：平成21年11月14日 14時00分～15時30分

講師：河口龍夫(出品作家)+松本 透(副館長)+大谷省吾(企画課主任研究員)

聴講者数：60人

日時：平成21年11月22日 14時00分～15時30分

講師：河口龍夫(出品作家)

聴講者数：110人

日時：平成21年12月5日 14時00分～15時30分

講師：河口龍夫(出品作家)+谷 新(宇都宮美術館館長)

聴講者数：90人

◆「ウィリアム・ケントリッジー歩きながら歴史を考える そしてドロウイングは動き始めた……」展 講演会

日時：平成22年1月10日 14時00分～15時30分

講師：ジェーン・テイラー(批評家、作家/シカゴ大学客員教授・本展カタログ執筆者)

聴講者数：87人

日時：平成22年1月30日 14時00分～15時30分

講師：河本信治(京都国立近代美術館学芸課長、本展企画者)

聴講者数：70人

◆「ビデオを待ちながら—映像, 60年代から今日へ」展 ギャラリートーク

日時：平成21年4月3日 18時00分～19時00分

講師：三輪健仁(企画課研究員)+蔵屋美香(美術課長)

聴講者数：43人

日時：平成21年5月30日 14時00分～15時00分

講師：三輪健仁(企画課研究員)+蔵屋美香(美術課長)

聴講者数：48人

◆「ビデオを待ちながら—映像, 60年代から今日へ」展 トークイベント

「泉太郎+小林耕平トーク・イベント」

日時：平成21年5月23日 11時00分～12時30分

講師：泉太郎+小林耕平(出品作家)

聴講者数：37人

「『それを見ていたほかの犬』—記録と表現について」

日時：平成21年6月6日 12時00分～13時00分

講師：上崎 千(慶應義塾大学アート・センター(アーカイヴ担当))+森大志郎(グラフィックデザイナー)+三輪健仁(企画課研究員)

聴講者数：75人

◆「権鎮圭」展 ギャラリートーク

日時：平成21年11月6日 18時00分～19時00分  
講師：黒川弘毅(彫刻家、武蔵野美術大学教授)  
聴講者数：30人

日時：平成21年11月20日 18時00分～19時00分  
講師：松本透(副館長)  
聴講者数：30人

◆「河口龍夫展 言葉・時間・生命」展 ギャラリートーク

日時：平成21年11月27日 18時00分～19時00分  
講師：松本透(副館長)  
聴講者数：16人

日時：平成21年12月4日 18時00分～19時00分  
講師：大谷省吾(企画課主任研究員)  
聴講者数：38人

◆「ウィリアム・ケントリッジー歩きながら歴史を考える そしてドロイー  
ングは動き始めた……」展 ギャラリートーク

日時：平成22年1月22日 18時00分～19時00分  
講師：三輪健仁(企画課研究員)  
聴講者数：39人

日時：平成22年2月5日 18時00分～19時00分  
講師：三輪健仁(企画課研究員)  
聴講者数：37人

◆「生誕120年 小野竹喬展」ギャラリートーク

日時：平成22年3月6日 15時00分～16時00分  
講師：鶴見香織(企画課主任研究員)  
聴講者数：40人

日時：平成22年3月12日 18時00分～19時00分  
講師：鶴見香織(企画課主任研究員)  
聴講者数：50人

日時：平成22年3月19日 18時00分～19時00分  
講師：鶴見香織(企画課主任研究員)  
聴講者数：80人

◆「生誕120年 小野竹喬展」トークイベント

「俳句コンテスト記念トーク」

日時：平成22年3月22日 14時00分～15時30分  
講師：黛まどか(俳人)、石寒太(「炎環」主宰、「俳句αあるふぁ」編集長)  
聴講者数：120人

◆キュレーター・トーク

「木に潜むもの」

日時：平成21年4月19日 11時00分～12時00分

講師：中村麗子(美術課研究員)

聴講者数：10人

日時：平成21年5月15日 18時00分～19時00分

講師：中村麗子(美術課研究員)

聴講者数：10人

「1920-30年代の抽象芸術をめぐる」

日時：平成21年4月24日 18時00分～19時00分

講師：松本透(副館長)

聴講者数：11人

「寝るひと・立つひと・もたれるひと」

日時：平成21年7月4日 11時00分～12時00分

講師：葎屋美香(美術課長)

聴講者数：23人

日時：平成21年8月7日 18時00分～19時00分

講師：葎屋美香(美術課長)

聴講者数：39人

「川田喜久治『ラスト・コスモロジー』について」

日時：平成21年8月28日 18時00分～19時00分

講師：増田玲(美術課主任研究員)

聴講者数：13人

「『反復』について」

日時：平成21年12月5日 11時00分～12時00分

講師：三輪健仁(企画課研究員)

聴講者数：15人

日時：平成21年12月11日 18時00分～19時00分

講師：三輪健仁(企画課研究員)

聴講者数：10人

「大胆な風景画 小林和作を中心に」

日時：平成22年1月17日 11時00分～12時00分

講師：保坂健二郎(美術課研究員)

聴講者数：15人

日時：平成22年2月12日 18時00分～19時00分

講師：保坂健二郎(美術課研究員)

聴講者数：18人

「水浴考」

日時：平成22年2月28日 11時00分～12時00分

講師：鈴木勝雄(美術課主任研究員)

聴講者数：9人

日時：平成22年4月2日 18時00分～19時00分  
講師：鈴木勝雄(美術課主任研究員)  
聴講者数：10人

「テーマで歩こう：庭—画家の小宇宙」  
日時：平成22年3月21日 11時00分～12時00分  
講師：中村麗子(美術課研究員)  
聴講者数：10人

日時：平成22年4月3日 11時00分～12時00分  
講師：中村麗子(美術課研究員)  
聴講者数：10人

◆研究員による所蔵品ガイド

日時：平成21年6月13日 14時00分～15時00分  
講師：増田 玲(美術課主任研究員)  
聴講者数：34人

日時：平成21年10月3日 14時00分～15時00分  
講師：保坂健二郎(美術課研究員)  
聴講者数：42人

日時：平成21年12月19日 14時00分～15時00分  
講師：蔵屋美香(美術課長)  
聴講者数：37人

日時：平成22年2月20日 14時00分～15時00分  
講師：都築千重子(美術課主任研究員)  
聴講者数：41人

◆アーティスト・トーク

日時：平成21年4月10日 18時30分～19時30分  
講師：岡村桂三郎(画家)  
聴講者数：105人

日時：平成21年6月19日 18時30分～19時30分  
講師：田中信太郎(彫刻家)  
聴講者数：115人

日時：平成21年10月16日 18時30分～19時30分  
講師：中川佳宣(美術家)  
聴講者数：32人

日時：平成22年1月15日 18時30分～19時30分  
講師：長沢秀之(画家)  
聴講者数：49人

日時：平成22年2月26日 18時30分～19時30分  
講師：檜橋朝子(写真家)  
聴講者数：26人

## 【平成20年度】

## ◆「カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠」講演会

日時：平成20年6月22日 14時00分～15時00分  
講師：マッテオ・ザウリ(カルロ・ザウリ美術館長)  
聴講者数：82人

日時：平成20年7月6日 14時00分～15時00分  
講師：平井智一(陶芸家)  
聴講者数：73人

## ◆「カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠」ギャラリートーク

日時：平成20年6月21日 14時00分～15時00分  
講師：平井智一(陶芸家)  
聴講者数：38人

日時：平成20年7月27日 14時00分～15時00分  
講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究員)  
聴講者数：53人

## ◆「かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー」展 ギャラリートーク

日時：平成20年10月26日 14時00分～15時00分  
講師：平松保城(出品作家、ジュエリー作家)  
聴講者数：96人

日時：平成20年11月30日 14時00分～15時00分  
講師：北村仁美(工芸課研究員)  
聴講者数：26人

## ◆「小松誠—デザイン+ユーモア—」展 ギャラリートーク

日時：平成20年11月8日 14時00分～15時00分  
講師：小松 誠(出品作家、プロダクトデザイナー)  
聴講者数：119人

日時：平成20年11月15日 14時00分～15時00分  
講師：諸山正則(工芸課主任研究員)  
聴講者数：55人

日時：平成20年12月6日 14時00分～15時00分  
講師：新見 隆(武蔵野美術大学教授)  
聴講者数：89人

日時：平成20年12月13日 14時00分～15時00分  
講師：木田拓也(工芸課主任研究員)  
聴講者数：48人

◆所蔵作品展「近代の工芸の名品 花と人形」ギャラリートーク

日時：平成20年4月13日 14時00分～15時00分

講師：木田拓也(工芸課主任研究員)

聴講者数：27人

◆「ヨーロッパの近代工芸とデザインーⅠ アール・デコを中心に／Ⅱ 新収蔵作品展2006-2007」展 ギャラリートーク

日時：平成20年6月8日 14時00分～15時00分

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：12人

日時：平成20年6月29日 14時00分～15時00分

講師：三上美和(工芸課客員研究員)

聴講者数：44人

◆所蔵作品展「こども工芸館[装飾／デコ]」展 ギャラリートーク

日時：平成20年8月3日 14時00分～15時00分

講師：木田拓也(工芸課主任研究員)

聴講者数：22人

日時：平成20年9月7日 14時00分～15時00分

講師：木田拓也(工芸課主任研究員)

聴講者数：32人

◆所蔵作品展「きものの輝き／漆・木・竹工芸の美」ギャラリートーク

日時：平成20年12月21日 14時00分～15時00分

講師：諸山正則(工芸課主任研究員)

聴講者数：13人

日時：平成21年1月18日 14時00分～15時00分

講師：木田拓也(工芸課主任研究員)

聴講者数：31人

日時：平成21年2月18日 14時00分～15時00分

講師：今井陽子(工芸課主任研究員)

聴講者数：49人

◆所蔵作品展「近代工芸の名品一花」ギャラリートーク

日時：平成21年3月15日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究員)

聴講者数：25人

【平成21年度】

◆「染野夫妻陶芸コレクション―リーチ・濱田・豊藏・壽雪―」展 ギャラリートーク

日時：平成21年9月13日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究員)

聴講者数：50人

日時：平成21年9月27日 14時00分～15時00分

講師：石崎泰之(山口県立萩美術館・浦上記念館学芸課長)

聴講者数：51人

日時：平成21年10月18日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究員)

聴講者数：42人

◆「現代工芸への視点―装飾の力」展 ギャラリートーク

日時：平成21年11月22日 14時00分～15時00分

講師：徳丸鏡子(出品作家・陶芸家)

聴講者数：41人

日時：平成21年12月6日 14時00分～15時00分

講師：木田拓也(工芸課主任研究員)

聴講者数：17人

日時：平成21年12月13日 14時00分～15時00分

講師：森野彰人(出品作家・陶芸家)

聴講者数：32人

日時：平成22年1月10日 14時00分～15時00分

講師：植葉香澄(出品作家・陶芸家)

聴講者数：47人

日時：平成22年1月24日 14時00分～15時00分

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究員)

聴講者数：23人

◆「早川良雄―“顔”と“形状”―」展 講演会及び語る会

日時：平成22年1月16日 14時00分～17時00分

講師：講演＝永井一正(グラフィックデザイナー)

語る会＝長友啓典(グラフィックデザイナー)、灘本唯人(グラフィックデザイナー)、平野敬子(デザイナー)、山口はるみ(イラストレーター)

司会・進行：諸山正則(工芸課主任研究員)

聴講者数：70人

◆「早川良雄―“顔”と“形状”―」展 ギャラリートーク

日時：平成22年1月9日 14時00分～15時00分

講師：菅谷富雄(大阪市立近代美術館建設準備室 主任学芸員)

聴講者数：24人



日時：平成22年1月23日 15時00分～16時00分  
講師：山田崇雄(グラフィックデザイナー)  
聴講者数：33人

日時：平成22年2月6日 15時00分～16時00分  
講師：諸山正則(工芸課主任研究員)  
聴講者数：35人

◆所蔵作品展「近代工芸の名品一花」ギャラリートーク

日時：平成21年4月19日 14時00分～15時00分  
講師：北村仁美(工芸課研究員)  
聴講者数：23人

◆所蔵作品展「アール・ヌーヴォーから現代まで」ギャラリートーク

日時：平成21年5月31日 14時00分～15時00分  
講師：三上美和(工芸課客員研究員)  
聴講者数：37人

日時：平成21年6月14日 14時00分～15時00分  
講師：木田拓也(工芸課主任研究員)  
聴講者数：36人

◆所蔵作品展「こども工芸館 21コレクション／おとな工芸館～涼しさ招く」  
ギャラリートーク

日時：平成21年7月19日 14時00分～15時00分  
講師：今井陽子(工芸課主任研究員)  
聴講者数：18人

日時：平成21年8月2日 14時00分～15時00分  
講師：三上美和(工芸課客員研究員)  
聴講者数：30人

◆所蔵作品展「近代工芸の名品一花」ギャラリートーク

日時：平成22年2月11日 14時00分～15時00分  
講師：今井陽子(工芸課主任研究員)  
聴講者数：23人

日時：平成22年3月21日 14時00分～15時00分  
講師：三上美和(工芸課客員研究員)  
聴講者数：27人

## 1-4 大学等との連携

### 1-4-1 本館

#### 【平成20年度】

##### ◆インターンシップ

参加者数：10名

研修内容：コレクション・企画展・美術館教育・図書資料の4分野における基本的な日常業務の補助、および研修者の目的に沿った個別事業への参加。

##### ◆大学の授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成20年6月14日 コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ東京校 7人  
平成20年6月17日 文化女子大学 48人  
平成20年6月21日 東京学芸大学 美術科 22人  
平成20年9月14日 長岡造形大学 41人

##### ◆生涯学習施設等への協力

平成20年6月18日 文化庁 職員 40人  
平成20年7月25日 大田区異業種交流会 フォワード7 11人  
平成20年11月1日 千葉県立船橋古和釜高等学校PTA 30人

#### 【平成21年度】

##### ◆インターンシップ

参加者数：5名

研修内容：コレクション・企画展・美術館教育・図書資料の4分野における基本的な日常業務の補助、および研修者の目的に沿った個別事業への参加。

##### ◆大学の授業等への協力(ギャラリートークやガイダンス等を伴う受入)

平成21年4月23日 武蔵野美術大学 30人  
平成21年4月25日 日本女子体育大学 5人  
平成21年5月1日 多摩美術大学 152人  
平成21年5月11日 多摩美術大学 60人  
平成21年5月15日 東京藝術大学 美術学部 先端芸術表現科 32人  
平成21年5月16日 武蔵野美術大学 31人  
平成21年5月18日 明治学院大学 30人  
平成21年5月19日 東洋美術学校 67人  
平成21年5月22日 玉川大学 15人  
平成21年5月28日 多摩美術大学 41人  
平成21年5月30日 東京学芸大学 22人  
平成21年6月26日 千葉大学文学部 22人  
平成21年7月3日 多摩美術大学生涯学習センター 22人  
平成21年9月12日 長岡造形大学 41人  
平成21年10月16日 千葉大学文学部 12人  
平成21年12月8日 横浜国立大学 15人

◆生涯学習施設等への協力

平成21年6月24日	文化庁 職員 19人
平成21年6月27日	埼玉県立近代美術館 ボランティアスタッフ 13人
平成21年8月7日	岩手県立美術館 友の会 解説ボランティアスタッフ 6人
平成21年8月26日	特定非営利活動(NPO法人)新現役ネット 31人
平成21年9月13日	杉並ユネスコ協会 22人
平成21年11月18日	久留米文化振興会(石橋文化センター) 36人
平成21年11月23日	横瀬町公民館事業「秋の美術館・博物館めぐり」 31人
平成22年2月27日	山武市青少年相談員連絡協議会 26人
平成22年3月11日	横浜美術友の会 47人

1-4-2 工芸館

【平成20年度】

◆インターンシップ

参加者数：8名(うち1名は19年度からの更新)

研修内容：展覧会の準備(カタログ執筆・展示撤収作業含む)、作品貸借立会、所蔵作品の状態管理、広報・普及活動等、学芸業務全般の補助

◆博物館実習

受入期間：平成20年8月19日～8月23日

開催場所：工芸館

参加者数：2名

担当した研究員数：6名

実習内容：工芸作品の取扱および工芸館の活動について

◆大学の授業等への協力

平成20年5月28日	共立女子大学 40人
平成20年6月5日	ICSカレッジオブアーツ 30人
平成20年10月23日	文化女子短期大学 11人
平成20年11月6日	東京家政大学 10人
平成21年3月14日	コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ日本校 6人

◆生涯学習施設等への協力

平成20年5月9日	新現役ネット 30人
平成20年7月19日	あ〜との森 10人
平成20年10月17日	石毛正造形会 37人
平成20年10月27日	日本工芸会東日本支部染織部会 50人
平成21年1月26日	銀座もとじ 40人
平成21年2月9日	美しいキモノ 40人
平成21年2月17日	三越友の会 43人
平成21年3月8日	NHK文化センター 20人
平成21年3月11日	朝日カルチャーセンター 20人
平成21年3月16日	ポーラ伝統文化振興財団「Movie+Touch&Talk」 55人

【平成21年度】

◆インターンシップ

参加者数：5名(うち1名は20年度からの更新)

◆博物館実習

受入期間：平成21年8月20日～8月26日

開催場所：工芸館

参加者数：4名

担当した研究員数：6名

実習内容：工芸作品の取扱いおよび工芸館の活動について

◆大学の授業等への協力

平成21年6月10日	共立女子短期大学	42人
平成21年7月9日	梨花女子大学	52人
平成21年7月13日	桜美林大学	34人
平成21年10月6日	御茶の水美術学院	13人
平成21年10月27日	千葉県生涯大学	29人
平成21年12月19日	首都大学東京	10人
平成21年12月22日	共立女子大学	45人
平成22年1月16日	千葉大学	10人
平成22年1月17日	女子美術大学	21人
平成22年1月18日	東京家政大学	22人
平成22年1月30日	桜美林大学	6人

◆生涯学習施設等への協力

平成21年4月17日	いてふの会	16人
平成21年4月20日	美しいキモノ	44人
平成21年7月18日	美しいキモノ	44人
平成21年9月26日	森下文化センター	20人
平成21年10月5日	銀座もとじ	48人
平成21年10月13日	美しいキモノ	40人
平成21年10月26日	ポーラ伝統文化振興財団「Movie+Touch&Talk」	66人
平成21年10月29日	市川市本行徳公民館	17人
平成22年1月8日	銀座もとじ	55人
平成22年1月12日	美しいキモノ	37人

## 【平成20年度】

19年度末に募集したガイドスタッフ3期生13名が、養成研修を修了し、6月より所蔵品ガイドに加わった。

ボランティアの登録人数 36人

## ◆MOMATガイドスタッフによる所蔵作品ガイド

平成20年3月29日～5月18日	44回／1144人
平成20年6月3日～8月3日	48回／465人
平成20年8月9日～10月13日	56回／447人
平成20年10月18日～平成21年1月12日	72回／508人
平成21年3月14日～6月7日	73回／545人

## ◆ハイライト・ツアー

平成20年4月6日	64人
平成20年7月6日	30人
平成20年8月3日	54人
平成20年9月7日	30人
平成20年10月5日	23人
平成20年11月2日	30人
平成21年12月7日	28人
平成21年1月4日	30人
平成21年2月1日	37人
平成21年3月1日	22人

## 【平成21年度】

フォローアップ研修(10月)では、NPO法人より講師を迎えて視覚障害者への鑑賞サポートについて学び、盲学校の高校生へのギャラリートークを行った(11月)。毎日実施している所蔵品ガイドについては、参加人数や対象作品、参加者の反応などを発足以来日誌に記してきたが、これをブログ(担当者と同館ボランティアのみ閲覧可能)に記載するようにし、自宅からでも活動状況を知ることができるようにした。

ボランティアの登録人数 36人

## ◆MOMATガイドスタッフによる所蔵作品ガイド

平成21年6月13日～6月7日	87回／1698人
平成21年10月13日～9月23日	61回／458人
平成21年12月19日～平成22年2月14日	45回／338人
平成22年2月22日～5月8日	44回／725人

◆ハイライト・ツアー

平成21年4月5日	32人
平成21年5月3日	30人
平成21年6月7日	33人
平成21年7月5日	30人
平成21年8月2日	30人
平成21年10月4日	34人
平成21年11月1日	28人
平成21年12月6日	22人
平成22年1月3日	30人
平成22年2月7日	35人
平成22年3月7日	35人

所蔵作品展及び企画展会期中の水・土曜日午後2時から約1時間、展示会場並びにくさわってみようコーナーで解説する「タッチ&トーク」を、解説ボランティアである工芸館ガイドスタッフを行った。定例のガイドに加え、夏季の子ども向け鑑賞プログラムの企画・運営に携わるほか、学校や生涯教育機関等による団体見学も担当した。

#### 【平成20年度】

昨年度研修を行った3期メンバーが加わって、本年度の登録者は総勢27名となり、学校等の団体受入れを前年度以上に充実させることが出来た。また、(財)ポーラ伝統文化振興財団との共催で、同財団制作のフィルム上映とタッチ&トークを連携させた鑑賞プログラムを実施するなど、多様な活動を行った。

ボランティアの登録人数 27人

#### ◆タッチ&トーク

「所蔵作品展 近代工芸の名品一花と人形」  
実施回数：12回／100人(タッチ) 132人(トーク)

「所蔵作品展 Iヨーロッパ近代工芸とデザイン／II新収蔵作品展2006-2007」  
実施回数：14回／127人(タッチ) 162人(トーク)

「所蔵作品展 こども工芸館 [装飾/デコ]」  
実施回数：19回／213人(タッチ) 218人(トーク)

「平松保城展/近代工芸の名品展」  
実施回数：19回／119人(タッチ) 143人(トーク)

「所蔵作品展 きものの輝き/漆・木・竹工芸の美」  
実施回数：18回／202人(タッチ) 219人(トーク)

「所蔵作品展 近代工芸の名品一花」  
実施回数：7回／56人(タッチ) 61人(トーク)

#### ◆タッチ&トーク(英語)

実施回数：3回／40人

#### 【平成21年度】

昨年度に引き続き、ポーラ伝統文化振興財団との共催による鑑賞プログラムを開催し、ボランティアガイドがこれを担当した。

本年度は、工芸課ガイドスタッフ第4期を募集し、養成研修を10回実施し、新規に7名の登録を決定した。

ボランティアの登録人数 24人

◆タッチ&トーク

「所蔵作品展 近代工芸の名品一花」

実施回数：12回／118人(タッチ) 153人(トーク)

「所蔵作品展 ヨーロッパの工芸とデザイン—アール・ヌーヴォーから現代まで」

実施回数：13回／88人(タッチ) 117人(トーク)

「所蔵作品展 こども工芸館～!コレクション／おとな工芸館～涼しさ招く」

実施回数：16回／257人(タッチ) 266人(トーク)

「染野夫妻陶芸コレクション—リーチ・濱田・豊藏・壽雪—」展

実施回数：17回／293人(タッチ) 315人(トーク)

「現代工芸への視点—装飾の力」展

実施回数：21回／138人(タッチ) 165人(トーク)

「所蔵作品展 近代工芸の名品一花」

実施回数：14回／100人(タッチ) 127人(トーク)

◆タッチ&トーク(英語)

実施回数：2回／21人



小・中学校の教員、美術館の学芸員、教育委員会の指導主事が一堂に会し、美術の鑑賞力を高めるための講演(子どもの心と鑑賞、創造的行為としての鑑賞、美術館教育の歴史)、ギャラリートーク(鑑賞授業例の研究)、美術館と学校の連携を念頭においた事例紹介、グループワーク及び発表等が行われた。グループワークの成果発表では、演劇形式によりその成果を熱く表現したものや教員、指導主事、学芸員それぞれの立場からの意見を踏まえた指導案を作成するなど力の込められた発表が見られた。

主 催：独立行政法人国立美術館  
 共 催：文部科学省、文化庁(20年度のみ)  
 会 場：東京国立近代美術館本館、国立新美術館

#### 【平成20年度】

日 時：平成20年7月28日(月)～7月30日(水)

参加者数：131名

(小学校教諭33名、中学校教諭45名、指導主事14名、学芸員35名、  
 養護学校教諭2名、その他2名)

#### 【平成21年度】

本研修において、平成21年度「教員免許状更新講習」を実施した。

日 時：平成21年8月3日(月)～8月5日(水)

参加者数：129名

(小学校教諭44名、中学校教諭51名、指導主事11名、学芸員21名、  
 養護学校教諭2名)

教員免許状更新講習：受講者14名

修了者14名

## 【平成20年度】

建築がうまれるとき ペーター・メルクリと青木淳

19×13cm / 263p

編著者：保坂健二郎

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2008

現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング[本編]

22×14cm / 159p

編著者：保坂健二郎、中村麗子、古市保子、鈴木慶子

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2008

現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング カタログ別冊

22×26cm / 37p

編著者：保坂健二郎、中村麗子

出版者：東京国立近代美術館

出版年：[2008]

沖縄・プリズム 1872-2008

26×20cm / 175p

編著者：鈴木勝雄、蔵屋美香、鶴見香織

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2008

高梨豊 光のフィールドノート

26×19cm / 171p

編著者：増田玲、大谷省吾

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2009

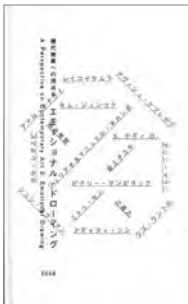
ビデオを待ちながら—映像, 60年代から今日へ

13×19cm / 295p

編著者：三輪健仁、蔵屋美香

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2009



【平成21年度】

ゴーギャン展

30×23cm / 169p

編著者：中林和雄、鈴木勝雄、横山由季子

出版者：NHK、NHKプロモーション

出版年：©2009

権鎮圭展

30×22cm / 338p

編著者：朴亨國、黒川弘毅、松本透、柳枝延

出版者：東京国立近代美術館、武蔵野美術大学美術資料図書館、韓国国立現代美術館

出版年：2009.10

河口龍夫展 言葉・時間・生命 1 [本編]

31×24cm / 171p

編著者：大谷省吾、松本透

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2009

河口龍夫展 言葉・時間・生命 2 カタログ別冊

31×23cm / 31p

編著者：大谷省吾、松本透

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2009

ウィリアム・ケントリッジー歩きながら歴史を考える そしてドローイングは動き始めた……

30×22cm / 219p

編著者：池澤茉莉、河本信治、永田絵里、西岡勉

出版者：京都国立近代美術館

出版年：2009.9

生誕120年 小野竹喬展

29×23cm / 231p

編著者：弓野隆之、上蘭一郎、徳山亜希子、鶴見香織

出版者：毎日新聞社、NHKプロモーション、NHKプラネット近畿

出版年：©2009





【平成20年度】

かたちのエッセンス—平松保城のジュエリー

24×19cm / 103P

編集者：金子賢治、北村仁美、三上美和

出版年：2008

小松誠—デザイン+ユーモア—

22×28cm / 127P

編集者：金子賢治、諸山正則、木田拓也

出版年：2008



【平成21年度】

染野夫妻陶芸コレクション—リーチ・濱田・豊藏・壽雪—

29.5×22.5cm / 207P

編集者：金子賢治、唐澤昌宏、北村仁美

山口県立秋美術館・浦上記念館

石崎泰之、徳留大輔

出版年：2009



現代工芸への視点—装飾の力

24×19cm / 155P

編集者：金子賢治、唐澤昌宏、木田拓也

出版年：2009

早川良雄—“顔”と“形状”—

28×22.5cm / 95P

編集者：金子賢治、諸山正則、今井陽子

出版年：2010



## 2-2 目録・ガイド等

### 2-2-1 本館

#### 【平成20年度】

壁と大地の際で  
62×41cm (折りたたみ23×11cm) / 1枚  
編著者：三輪健仁  
出版者：東京国立近代美術館  
出版年：©2008

コラージュ | 切断と再構築による創造  
23×11cm / 5p  
編著者：都築千重子、三輪健仁  
出版者：東京国立近代美術館  
出版年：©2009

木に潜むもの  
23×11cm / 7p  
編著者：中村麗子、三輪健仁  
出版者：東京国立近代美術館  
出版年：©2009

東京国立近代美術館子どもセルフガイド：KIDS★MOMAT 2008  
21×15cm / 12枚(リング止め)  
編著者：山口百合  
出版者：東京国立近代美術館  
出版年：[2008]





【平成21年度】

寝るひと・立つひと・もたれるひと

11×23cm / 9p

編著者：蔵屋美香

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2009

水浴考

11×23cm / 11p

編著者：鈴木勝雄

出版者：東京国立近代美術館

出版年：©2010



ゴッガン展子どもセルフガイド：ゴッガンの冒険

42×30cm (四つ折り21×15cm) / 1枚

編著者：山口百合

出版者：[東京国立近代美術館]

出版年：[2009]

MOMATコレクション子どもセルフガイド

21×15cm / 10枚(リング止め)

編著者：山口百合

出版者：[東京国立近代美術館]

出版年：[2009]



【平成20年度】



セルフガイド「デコハント」

20×11cm / 4p

編著者：今井陽子、三上美和、齊藤佳代

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2008



セルフガイド「デコハント」活用のヒント「デコハント」

21×29.7cm / 4p

編著者：今井陽子、三上美和、齊藤佳代

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2008

【平成21年度】



セルフガイド「?!コレクション」

42×29.7cm (6つ折 10.2×14cm)

編著者：今井陽子、齊藤佳代

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2009

「?!コレクション」活用のヒント

29.7×21cm / 4p

編著者：今井陽子、齊藤佳代

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2009



【平成20年度】

東京国立近代美術館研究紀要 第13号

24×19cm / 123p

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2009.3

平成19年度 東京国立近代美術館年報

26×18cm / 212p

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2009.3

平成20年度 東京国立近代美術館概要

30×21cm / 28p

【平成21年度】

東京国立近代美術館研究紀要 第14号

24×19cm / 85p

出版者：東京国立近代美術館

出版年：2010.3

平成21年度 東京国立近代美術館概要

30×21cm / 28p







## 2-4 その他の刊行物

### 2-4-1 本館

#### 【平成20年度】

平成20年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修

21×15cm / 127p

編著者：一條彰子、小堀幸子

出版者：国立美術館

出版年：©2008

#### 【平成21年度】

平成21年度 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修

21×15cm / 127p

編著者：一條彰子、小堀幸子

出版者：国立美術館

出版年：©2010

### 2-4-2 工芸館

#### 【平成20年度】

『工芸館名品集—染織』

24×19cm / 166P

編集者：東京国立近代美術館

出版年：©2009

#### 【平成21年度】

『工芸館名品集—人形』

24×19cm / 138P

編集者：東京国立近代美術館

出版年：©2010

【平成20年度】

30×21cm / 15p  
 編著・出版：東京国立近代美術館



No.569 2008年4-5月号  
 特集1：生誕100年 東山魁夷  
 特集2：平成19年度の新収蔵作品(1)  
 出版年：2008.4



No.570 2008年6-7月号  
 特集1：カルロ・ザウリ イタリア現代陶芸の巨匠  
 特集2：平成19年度の新収蔵作品(2)  
 出版年：2008.6



No.571 2008年8-9月号  
 特集1：現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング  
 特集2：現代工芸を語る  
 出版年：2008.8



No.572 2008年10-11月号  
 特集1：沖縄・プリズム 1872-2008  
 特集2：小松誠—デザイン+ユーモア—  
 出版年：2008.10



No.573 2008年12月-2009年1月号  
 特集：高梨豊 光のフィールドノート  
 出版年：2008.12



No.574 2009年2-3月号  
 特集：美術館と学校II  
 出版年：2009.2

【平成21年度】



No.575 2009年4-5月号

特集1：ビデオを待ちながら一映像, 60年代から今日へ

特集2：平成20年度の新収蔵作品(1)

出版年：2009.4



No.576 2009年6-7月号

特集1：〈連携〉する美術情報

特集2：平成20年度の新収蔵作品(2)

出版年：2009.6



No.577 2009年8-9月号

特集1：ゴージャン

特集2：染野夫妻陶芸コレクションーリーチ・濱田・豊蔵・壽雪

出版年：2009.8



No.578 2009年10-11月号

特集1：河口龍夫 言葉・時間・生命

特集2：現代工芸への視点ー装飾の力

出版年：2009.10



No.579 2009年12月-2010年1月号

特集1：ウィリアム・ケントリッジー歩きながら歴史を考える そしてドローイングは動き始めた……

特集2：早川良雄ー"顔"と"形状"

出版年：2009.12



No.580 2010年2-3月号

特集：「生誕120年 小野竹喬」展によせて 竹喬と西洋近代絵画ーそこからなにを学んだか

出版年：2010.2

## 【平成20年度】

「平成20年度展覧会案内」(ミュージアム・カレンダー)を和英で作成したほか、展覧会ごとにプレス・リリースを作成して報道各機関に送付、展覧会前日に記者内見会を開催した。展覧会ごとにポスター、チラシを作成、送付し、JR、地下鉄、京王線等の主要駅にポスターを掲出した。また情報誌『ぴあ』と年間契約を結び定常的な広報媒体とした。

「ビデオを待ちながら」展では展覧会場を動画撮影しYOU TUBEに掲出するなど、インターネットを介した広報にも力を入れた。

さらに「北の丸公園文化ゾーンマップ」の作成や「ぐるっとパス」への参加などを周辺機関と協力して広報に努めた。

本館・工芸館の所蔵作品展やフィルムセンターの展示室を年間を通じて観覧できるMOMATパスポートについては、ホームページやチラシにより広報を行い、その普及に努めた。

このほか、本館では所蔵作品展について、年間5回の展示替えごとに『朝日新聞』夕刊に広告を掲載して、見どころや特集展示を告知して新鮮さをアピールするとともに、『読売新聞』都内版に毎月1回「近代美術の東京」を掲載して所蔵作品の普及に努めた。

工芸館では、『月刊チャイム銀座』『茶道誌淡交』の2誌に連載を行い、所蔵作品の普及に努めるとともに、『I CLUB NEWS』誌において定期的に在日外国人向けの情報提供を行った。

## 【平成21年度】

「平成21年度展覧会案内」(ミュージアム・カレンダー)を和英で作成したほか、展覧会ごとにプレス・リリースを作成して報道各機関に送付、展覧会前日に記者内見会を開催した。展覧会ごとにポスター、チラシを作成、送付し、JR、地下鉄、京王線等の主要駅にポスターを掲出した。また情報誌『ぴあ』と年間契約を結び定常的な広報媒体とした。

「河口龍夫」展においては、広報会社と協力してツイッターによる広報を試みるなど、インターネットを介した広報にも力を注いだ。

さらに「北の丸公園文化ゾーンマップ」の作成や「ぐるっとパス」への参加などを周辺機関と協力して広報に努めた。

本館・工芸館の所蔵作品展やフィルムセンターの展示室を年間を通じて観覧できるMOMATパスポートについては、ホームページやチラシにより広報を行い、その普及に努めた。

このほか、本館では所蔵作品展について、年間5回の展示替えごとに『朝日新聞』夕刊に広告を掲載して、見どころや特集展示を告知して新鮮さをアピールした。また『読売新聞』都内版の毎月1回の連載について、これまで東京に関わりのある作品に焦点を当ててきた「近代美術の東京」から、「近代美術の眼」へと改題し、より幅広く所蔵作品を紹介するようにした。

工芸館では、『月刊チャイム銀座』『茶道誌淡交』(平成21年12月までの)2誌に連載を行い、所蔵作品の普及に努めるとともに、中国や韓国の旅行会社が運営するウェブサイトや、韓国や台湾、香港のミニコミ誌に情報を提供して、アジアに向けての広報活動を積極的に行った。

## 【平成20年度】

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た油彩その他作品1,288点について画像を新規登録した。また、彫刻についての著作権者情報を整備するとともに、著作権許諾申請手続を開始した。

国立美術館5館全体においてVPN（暗号化された通信網）を採用し、情報ネットワークの安定かつ高速化を実現するとともに、VPNを用いたグループウェアおよびテレビ会議システムの稼働について平成21年度上半期において実施する体制を築いた。

リーフレット型電子企画展表示システム「国立美術館 遊歩館」が財団法人日本産業デザイン振興会の2008年度グッドデザイン賞を受賞した。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムを国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)に登録して、国立国会図書館ならびに関連機関作成のデジタルアーカイブとの横断検索を可能にした。

情報資源の多面的・効果的提供システムとして国立情報学研究所と国立美術館版「想-IMAGINE」の試行版を共同開発して、国立美術館の所蔵作品、図書、展覧会に関わる情報資源の連携検索のための試験公開を行った。

美術図書館横断検索を維持する美術図書館連絡会ALC参加館とともに共監修した『展覧会カタログ総覧』を日外アソシエーツから刊行した。

## (1) ホームページのアクセス件数

12,196,684件(本館・工芸館・フィルムセンター含む)

## (2) インターネットによる調査研究成果の公表

『研究紀要』第12号(2008年)より、収録論文全文のホームページへの掲載を開始した。また、『研究紀要』『現代の眼』および自館ならびに国立西洋美術館開催展覧会カタログなどの目次情報をホームページにおいて公開するとともに、図書検索システム(OPAC)からもこれら目次検索を従来通り可能にしている。

## (3) インターネットを用いた広報

## ①メールマガジン

年間計10号を発行した。

## ②美術館情報システムに広報活動

平成19年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム(CMS)を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化し、本年度は特に企画展等の英文情報の充実化を進める体制を整えた。

## ③特徴的な取り組み

「ビデオを待ちながら」展においてYOU TUBEを用いた広報を行った。

## 【平成21年度】

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た彫刻作品531点について画像を新規登録した。また、版画についての著作権者情報を整備するとともに、著作権許諾申請手続を開始した。

国立美術館5館全体においてVPN（暗号化された通信網）を採用し、情報ネットワークの安定かつ高速化を実現するとともに、VPNを用いたグループウェアおよびテレビ会議システムを稼働させた。

平成20年に国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)に登録して国立国会図書館ならびに関連機関作成のデジタルアーカイブとの横断検

索を可能にしている国立美術館所蔵作品総合目録検索システムのデータの新規登録分を更新した。

平成20年に情報資源の多面的・効果的提供システムとして国立情報学研究所と共同開発した国立美術館版「想-IMAGINE」の試行版を、データ等更新して国立美術館の所蔵作品、図書、展覧会に関わる情報資源の連携検索システムの本版として公開した。

当館ニュース誌『現代の眼』576号(平成20年6-7月)で特集「〈連携〉する美術情報」を組み、当館と国立国会図書館、国立情報学研究所との共同事業を解説し広報した。

- (1) ホームページのアクセス件数  
13,915,620件(本館・工芸館・フィルムセンター含む)
- (2) インターネットによる調査研究成果の公表  
『研究紀要』第13号(2009年)より、収録論文全文のホームページへの掲載を開始した。また、『研究紀要』『現代の眼』および自館ならびに国立西洋美術館開催展覧会カタログなどの目次情報をホームページにおいて公開するとともに、図書検索システム(OPAC)からもこれら目次検索を従来通り可能にしている。
- (3) インターネットを用いた広報
  - ①メールマガジン  
年間計8号を発行した。
  - ②美術館情報システムによる広報活動  
平成19年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム(CMS)を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化し、本年度は特に企画展等の英文情報の充実化を進めた。
  - ③特徴的な取り組み  
「河口龍夫」展においてTwitterを用いた広報を行った。



フィルムセンターは、東京国立近代美術館の映画部門であるが、その収集方針については、芸術的評価を第一義とする選択的なアート・ミュージアム・ポリシーではなく、我が国唯一の国立映画機関として映画の歴史を全て集積させることを努力目標に掲げるアーカイバル・ポリシーを重視しており、年代、製作国及びフォーマット等を問わずあらゆる映画フィルムを収集している。なかでも、日本映画については、最優先で網羅的な収集を目指しているが、この方針は各国のナショナル・フィルム・アーカイブが自国映画遺産の安全保護と次世代への確実な継承に責任を負うべきだという国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の精神にも合致している。

また、経年劣化や劣悪な環境に置かれていたため分解、腐朽が懸念されるフィルム、廃棄、滅失等による散逸が懸念されるフィルムや国内外で残存することが判明した作品を優先して収集する一方、文化的、歴史的、美学的に重要な作品も積極的に収集することとしている。

上映事業との関連では、とりわけ企画上映に必要となるフィルム、国際交流に必要な作品等のプリント作成を優先的に行っている。

#### 【平成20年度】

購入についてはプラネット映画資料図書館から、戦後映画の代表作『蜂の巣の子供たち』(1948年)について、可燃性マスターポジより、デューブネガ及びプリントを収集した。また、監督の代表作にもかかわらず、これまでマスターポジしか存在しなかった『金環蝕』(1934年)、『火花』(1956年)、『正義派』(1957年)等について、デューブネガ及びプリントの収集を行った。日本を代表する映画監督のうち、比較的収集率の少なかった野村芳太郎、鈴木清順、吉田喜重監督の作品については、プリント等の購入によりコレクションを充実することができた。上映企画に必要となる作品の収集については、亀井文夫監督作品及び怪獣・SF映画について、大量のフィルムを収集した。加えて、収集本数の少なかった蔵原惟繕監督の作品については、英語字幕付プリント10本を購入することにより、今後の国際交流事業に資するフィルムを収集した。

寄贈については、株式会社ヨネプロダクション、株式会社カジマジョン、株式会社読売映像等、文化・記録映画及びニュース映画製作会社から大量の原版類を受け入れたことが、大きな特徴である。可燃性フィルムについては、マキノ雅弘監督のご遺族からマキノ真三監督『暗黒街の天使』(1948年)のオリジナルネガ、戦前茅ヶ崎にあった結核療養所・南湖院に残されていた『東宮殿下御外遊 實況 大正十年』(1921年)等の大量のプリント等、これまで残存が確認されていなかったユニークな作品を収集することができた。また、文化庁との「近代歴史資料調査」の結果、新たに発見されたフィルムのうち、最初期の日本映画『紅葉狩(大谷版)』(1899年)の可燃性プリント、アメリカ・シカゴで開かれた博覧会の記録『世紀の進歩博覧会』(1933年)の16mmプリント等、貴重な作品のフィルムを受贈した。



## 平成20年度映画フィルム収集本数

種別 (genre)	購入 (purchase)	寄贈 (donation)	所蔵総本数 (total)
劇映画 (feature)	229	62	291
文化・記録映画 (documentary)	111	6,316	6,427
アニメーション映画 (animation)	26	64	90
ニュース映画 (newsreel)	9	162	171
テレビ映画 (television film)	0	1,067	1,067
計 (total)	375	7,671	8,046

Although National Film Center is the film division of the National Museum of Modern Art, Tokyo, it regards the archival policy more importantly than the art museum policy in its collecting activities. By the art museum policy we mean the selective method that uses the artistic value of the work in question as the foremost criteria. In contrast, the archival policy sets its goal in accumulating the entire film history towards which NFC makes its efforts as the only national film institution in Japan. As such, NFC collects all kinds of films regardless of the year, the country, and the format the film was made in. Especially prioritized are the Japanese films that NFC strives to collect comprehensively. This policy matches the spirit of the Fédération Internationale des Archives du Film (FIAF) that maintains that the national film archive of each country should be responsible for protecting the film heritage of that country and for its secure inheritance to the next generations.

In collecting films, NFC makes it a point, first, to prioritize the films that might start the decomposition process any time owing to the fact that they have been stored in an extremely poor condition and/or for a very long time, the films that are at the risk of being discarded and/or lost, and the films that had long been considered lost but were found within and outside of Japan. NFC also makes it a point to actively collect films that are important from the cultural, historical, and aesthetic viewpoints.

In relation to the screening activities, NFC prioritizes in making viewing copies of the films that are necessary for the screening programs and for the international exchange.

2008

## Purchase

Regarding the representative film of the immediate post-war period *Hachi no su no kodomotachi* (1948), NFC collected the duplicate negatives and print made from the nitrate master positives in the collection of Planet Bibliothèque de Cinéma. In addition, for the titles only the master positives existed in the past despite the fact that they are the representative works of the directors, including *Kinkanshoku* (1934), *Hibana* (1956), and *Seigiha* (1957), NFC collected duplicate negatives and prints. Among the representative Japanese film directors, NFC used to hold the relatively smaller portion of the films by Nomura Yoshitaro, Suzuki Seijun, and Yoshida Kiju. This year, NFC succeeded in making its collection stronger on these directors by purchasing the prints. Regarding the collection of the films that were necessary for the screening programs, NFC collected a large number of films directed by Kamei Fumio and also the monster and science fiction films. In addition, NFC purchased 10 prints with English subtitles of the films by

director Koreyoshi Kurahara. It is expected that these prints will be of use to the international exchange activities in the future.

#### Donation

The most notable case was accepting a large number of pre-print elements (original negatives, master positives and duplicate negatives) from the production companies of the cultural film, documentary and newsreel such as YONE PRODUCTION Co., Ltd., KAJIMAVISION PRODUCTIONS' CO., LTD., and YOMIURI EIZOU CO., LTD. Regarding the nitrate films, NFC was able to collect unique works that had previously regarded extinct. They include the original negatives of *Ankokugai no tenshi* (dir. Makino Masazo, 1948) which were donated by the family members of the late director Makino Masahiro, and a large number of prints that had been left at Nankoin, the tuberculosis clinic which existed in Chigasaki in the pre-war period. The representative title among the latter prints is *Togu denka gogaiyu jikkyo taisho 10 nen* (1921). In addition, as a result of the research on the materials regarding the modern history conducted with the Agency for Cultural Affairs, some important films were discovered. Among them, NFC received such precious films as the nitrate print of *Momijigari* (1899), one of the first films shot in Japan, and the 16mm print of *Seiki no shinpo tenrankai* (1933), the record of the exposition in Chicago, the USA.

#### 【平成21年度】

購入については、上映企画に合わせ、『水俣 患者さんとその世界』(1971年)を初めとする土本典昭監督作品15作品、『処刑の島』(1967年)を初めとする篠田正浩監督作品11作品、『女醫の記録』(1941年)を初めとする田中絹代出演作品19作品のフィルムを購入した。ビネガー・シンドロームや褪色の危険性が高い1950年代後半から60年代にかけての作品については、新東宝作品や加藤泰、千葉泰樹監督作品等を重点的に収集した。また、戦後の日本アニメーション映画のメインストリームとなった東映動画時代の作品で、未収蔵作品のプリント13本を購入し、アニメーション映画のコレクションの充実を図ることができた。

寄贈については、映画フィルムを葵映画合資会社、株式会社吉甚等、日本劇映画、文化・記録映画の製作会社から原版寄贈を受けたのに加え、鳥類研究で著名な財団法人山階鳥類研究所、戦後ソビエト映画の輸入・紹介を務めてきた日本ユーラシア協会等から、可燃性フィルムを含むユニークなコレクションを受け入れたことが大きな特徴である。また、一般社団法人芸遊会からは、田中絹代のアメリカ旅行を記録した貴重なフィルムの寄贈を受けた。近年増加傾向にある個人製作による映画フィルムの寄贈については、1930年代中頃に関西でカラー撮影等を行っていた梶田和三郎氏のコレクションや、現在映画監督として活躍する七里圭氏の高校時代の作品『時を駆ける症状 The Message from subway』(1984年)等を受贈し、企業の管理下に置かれていないため散逸や劣化の危険性が高い映画フィルムを、安全に保護することができた。

平成21年度映画フィルム収集本数

種別 (genre)	購入 (purchase)	寄贈 (donation)	所蔵総本数 (total)
劇映画 (feature)	1,077	582	1,659
文化・記録映画 (documentary)	102	706	808
アニメーション映画 (animation)	15	20	35
ニュース映画 (newsreel)	0	305	305
テレビ映画 (television film)	0	35	35
計 (total)	1,194	1,648	2,842

2009

Purchase

In conjunction with the screening programs, NFC purchased the following films: 15 titles directed by Tsuchimoto Noriaki including *Minamata kanjasan to sono sekai* (1971), 11 titles directed by Shinoda Masahiro including *Shokei no shima* (1967), and 19 films, including *Joi no kiroku* (1941), in which Tanaka Kinuyo appears. As for the films of the 1950s and 1960s that are at the high risk of vinegar syndrome and color fading, NFC collected the titles directed by Kato Tai, Chiba Yasuki, and those produced at Shintoho studio. In addition, NFC purchased 13 prints of the animation films during the Toei doge era, the mainstream of the Japanese animation films in the post-war period, thus enriching its collection of the animation films.

Donation

NFC received the donation of pre-print elements from such production companies of drama films and cultural and documentary films as Aoi Eiga & Co., Ltd. and Yoshijin Col, Ltd. Other donators include Yamashina Institute for Ornithology which is famous for the research on birds and Japan-Eurasia Society that has imported and introduced the post-war Soviet films to Japan. Their donated collections are the unique ones that encompass nitrate films. Geiyukai donated precious films that record Tanaka Kinuyo's trip to America. In recent years, the donations of the privately produced films have been on the increase. This year, such donations included the collection of Masuda Wasaburo who shot in color in the Kansai Region of Japan in the mid-1930 and director Shichiri Kei's work in his high school days *Toki wo kakeru Shoji The Message from subway* (1984). Thus NFC was successful in safely protecting such films that are at the higher risk of being lost and disintegrated since they are not under the corporate management.

映画関連資料については、映画史を集積させるアーカイバル・ポリシーを目標に掲げて網羅的な収集に努めている。ただし、映画関係者の死去が相次ぎ、映画技術にも急速な変化が訪れている現状では、古い資料の散逸が危惧されている。国内に映画専門の機関が限られていることもあり、国内のそうした機関との連携や情報交換を進めながら、可能な限り寄贈資料の受け入れを行っている。また潤滑な収集を実現するために、収蔵場所の整備や登録等の整理態勢をさらに充実させたい。

国内に同種機関が少ないことから寄贈される資料の数が年々増加する傾向にあるが、懸案であったスチル写真やポスター等、基礎資料の整理方法が確立されつつあることから、登録等の処理能力の及ぶ限りにおいて多くの受け入れを行う。

#### 【平成20年度】

これまで長年にわたって収集してきたプレス資料の本格的な整理作業に着手し、アクセスへの対応が可能な資料のさらなる増加を目指した。雑誌等紙資料については、丸尾定氏所蔵の外国映画図書・雑誌940点が寄贈されたことがもっとも特筆され、ほかに有限会社バス・ストップからの劇場用パンフレットやプレス資料2,101点、ユニフランス東京事務所からフランス映画のプレス資料等、622点の寄贈を受けている。また、かねてからの整理作業を終えた資料の寄贈手続きを進め、なかでも藤田敏八監督のご遺族から受領した監督の個人資料674点の整理が終了し、寄贈手続きが完了した。

寄贈 4,859点(図書資料を除く)

- (1) シナリオ「愛の渇き」等、計674点：藤田雅子氏寄贈
- (2) 和書「シナリオ 西鶴一代女」等、計60点：小亀淳氏寄贈
- (3) 松竹大船撮影所写真等、計2点：矢代松雄氏寄贈
- (4) シナリオ『山は生きている』等、計158点：株式会社英映画新社寄贈
- (5) 日本映画ポスター『東京シンデレラ娘』計1点：河辺公一氏寄贈
- (6) 洋書籍「Hollywood Character Actors」等、計940点：丸尾定氏寄贈
- (7) 映画館プログラム合本『帝國館ニュース 昭和4年度』等、計259点：鈴木朝治氏寄贈
- (8) 外国映画ポスター『帽子箱を持った少女』等、計15点：袋正氏寄贈
- (9) 『全国活動寫真辯士大番付 第八輯』(1917年)等、計1点：中村虎男氏寄贈
- (10) ライオン製玩具映写機計1点：土居貢氏寄贈
- (11) 外国映画パンフレット『ア・フュー・グッドメン』等、計2,101点：有限会社バス・ストップ寄贈
- (12) 外国映画スチル写真『ぼくの伯父さん』等、計622点：ユニフランス東京事務所寄贈
- (13) 和書 今村太平『志賀直哉論』等、計24点：飯島みつ子氏寄贈
- (14) 女優・山本静子アルバム計1点：鈴木正孝氏寄贈

Regarding the non-film materials, NFC sets the archival policy of accumulating film history as a goal and makes efforts to achieve comprehensive collection. It is feared, however, that the old materials are at the risk of being scattered and lost in the present situation in which many filmmakers pass away and the filmmaking technologies are going under rapid changes. As the number of the institutions specializing in film is limited in Japan, NFC is promoting network and exchange of information with such institutions so as to receive as many donated materials as possible. In order to further facilitate the collection activities, NFC wishes to keep the space for storage in a good condition and to strengthen the system of registering and sorting out the collected items.

As the number of the similar institutions is limited within Japan, the number of donations has been on the rise. NFC plans to accept as many donations as possible, as long as the capacity to process them allows. In fact, the method of sorting out the basic materials such as still photographs and posters was the issue of concern, but it is now being nearly established.

2008

We began sorting out the press materials which had been collected over many years, so as to further increase the number of accessible reference materials. As for paper references such as magazines, the most remarkable donation was made by Maruo Sadamu who gave NFC 940 pieces of foreign film books and magazines from his collection. In addition, NFC received 2,101 pieces of movie pamphlets and press releases from Bus Stop Cinema Shop and 622 pieces of press releases of French films from Unifrance's Tokyo Office. NFC also finished sorting out the personal reference materials that were given by the family members of the late director Fujita Toshiya. The donation process of the 674 pieces was finished.

【平成21年度】

所蔵数の膨大さのために整理に長い年月を費やしてきたスチル写真のカタロギングがほぼ終了し、約61万枚の写真がデータベースに記録された。また平成20年に開始されたプレス資料の本格的な整理作業を進め、アクセスへの対応が可能な資料のさらなる増加を目指した。

寄贈については、女優香川京子氏所蔵のアルバムほか220点が寄贈されたこと、株式会社IMAGICA東京映像センターよりアメリカ映画テレビ技術協会機関誌「SMPTE Journal」419点を受領したことがもっとも特筆される。ほかにも寺村洋一郎氏より映画パンフレット等、133点、白倉民子・誠子氏より東宝の名カメラマン飯村正の遺品58点の寄贈を受けた。

また、かねてからの整理作業を終えた資料の寄贈手続きを進めており、なかでも夫人の水谷佐紀氏から受領した美術監督水谷浩の旧蔵資料7,356点、フィルム編集者南とめ氏旧蔵資料284点の整理が終了し、寄贈手続きが完了した。

また技術資料の保管場所の確保が困難になっていたが、相模原分館における技術資料保存室が新設されれば事態は好転するものと期待する。これは書庫や旧来の保存場所が手狭になっていた図書・紙資料についても同様である。今後は、アクセスの容易さと保存水準のバランスを考えつつ、新たな保管計画を立案する必要がある。

寄贈 12,885点(図書資料を除く)

- (1) アルバム『窓から飛び出せ』『若様侍捕物帖 謎の能面屋敷』『君と行くアメリカ航路』等、220点：香川京子氏寄贈
- (2) カラー撮影用 三色カラーメーター計1点：佐伯勝氏寄贈
- (3) 外国映画パンフレット『会議は踊る』等、計133点：寺村洋一郎氏寄贈
- (4) アルバム『南海の花束』等、計58点：白倉民子氏、白倉誠子氏寄贈
- (5) 水谷浩『噂の女』セットデザイン下絵等、計29点：猪鼻浩行氏寄贈
- (6) 美術デザイン『森の石松』下書A 8点等、7,356点：水谷佐紀氏寄贈
- (7) 鈴木崧旧蔵 新外映関連資料等、計15点：横前秀幸氏寄贈
- (8) アメリカ映画テレビ技術者協会 機関誌「SMPTE Journal」(1927年8月号)等、計419点：株式会社IMAGICA
- (9) アルバム「国定忠治 大学の山賊たち 次郎長三国志第七部」等、計9点：神保昭治氏寄贈
- (10) 川喜多かしこ「映画ひとすじに」(講談社、1973年) 著者サイン入り等、計67点：遠藤博文氏寄贈
- (11) シナリオ『不毛地帯』等、計284点：高倉三郎氏寄贈
- (12) 和書 シクロフスキー『文学と映画』(1927年)等、計3,830点：大熊ゆま氏、大熊風生氏寄贈
- (13) スチル写真 ガラス乾版 『俺は用心棒』(1950年、稲垣浩監督)等、計273点：東映株式会社寄贈
- (14) 外国映画ポスター『真昼の不思議な物体』(アピチャートボン・ウィーラセータクン監督、2000年)等、計191点：特定非営利活動法人 東京フィルメックス実行委員会寄贈

2009

Due to the huge volume, it took NFC many years to sort out the still photographs. This year, the process nearly finished and approximately 610,000 photographs registered in the database. In addition, NFC continued its work on press materials which it started in the previous year, so as to further increase the number of accessible reference materials.

As for donations, it is especially notable that actress Kagawa Kyoko donated 220 pieces including her albums and IMAGICA Tokyo Imaging Center donated 419 pieces of *SMPTE Journal* published by the Society of Motion Picture and Television Engineers. In addition, NFC received 133 pieces including film pamphlets from Teramura Yoichiro and 58 items that belonged to the late Iimura Tadashi, the renowned cinematographer of Toho.

NFC also finished sorting out the 7,356 pieces of reference materials that belonged to the late art director Mizutani Hiroshi, that had been given by Mizutani Saki, and 284 pieces of materials that belonged to the late film editor Minami Tome. The donation process of these was finished.

NFC had run out of the space for storing the technical reference materials and had to put some items outside of the vaults for a while. We expect that the situation will become better if a new storage room for the technical materials is built at the Sagamihara Annex. The situation is the same for the books and paper materials since the stack space and vaults had become too crowded. We need to make new plans for storage by striking a balance between easy accessibility and the standard of preservation.

## 【平成20年度】

復元作業については、亀井文夫監督『女ひとり大地を行く』（1953年）の可燃性オリジナルネガとマスターポジを調査した結果、オリジナルを編集・短縮していたことが判明し、マスターポジを基に最長版の復元を行った点が特筆される。デジタル技術を用いた復元では、角川映画株式会社がアメリカ・アカデミー・フィルム・アーカイブ（FIAPF会員）と共同で行った『羅生門』（1950年）のデジタル復元に際し、素材提供、監修協力を行うとともに、復元版プリントを収集した。また、最初期の日本映画『紅葉狩』（1899年）について、解像度及び修復レベルの比較テストを行うことを通して、一部デジタル修復を施した。

映画関連資料に関しては、平成19年に開始したプレス資料のカタログリングを進め、過去に寄贈されたプレスシート、映画パンフレット、チラシ、試写状といったさまざまな形態を持つプレス資料の整理を行っている。また複数の映画人の個人資料のカタログリングも進行中である。

## 修復件数

映画フィルムデジタル復元	5本
ノイズリダクション等	74本
不燃化作業	13本
映画フィルム洗浄	0本

## 2008

The notable restoration work was done of *Onna hitori daichi wo yuku* (dir. Kamei Fumio, 1953). Our inspections on the nitrate original negatives and master positives revealed that the original films had been edited and shortened. With this knowledge, NFC made the longest version of the print based on the master positives. Regarding restoration work using digital technologies, NFC helped the digital restoration of *Rashomon* (1950) co-produced by Kadokawa Pictures, Inc. and Academy Film Archive (FIAPF member) by providing the materials and supervision. NFC also collected the restored print. In addition, NFC has partially started with the project of digitally restoring *Momijigari* (1899), the Japanese film from the very early period, through conducting comparative analyses of different resolutions and restoration levels.

Regarding the non-film materials, NFC has continued to register press materials in the database since fiscal year 2009, sorting out various kinds of materials including press sheets, movie programs, flyers and invitation cards for press screenings. In addition, the cataloging work for donated private collections is also in progress.

## The number of restoration projects

Digital restoration of films	5
Noise reduction, etc	74
Making safety duplicates from the nitrate elements	13
Cleaning films	0

As for the films that were cleaned, we recorded the facts on the database of the titles in the collection.

#### 【平成21年度】

特筆すべき復元作業としては、特殊な現像技法によりシルバー・カラーと呼ばれる独特な色彩を生み出した市川崑監督の『幸福』（1981年）について、当時の現像プロセスを再現することによって、可能限り忠実な復元を行ったことが挙げられる。

デジタル技術を用いた復元については、毎年新たな技術的課題や文化的意義等を設定しながら、プロジェクトを推進している。平成21年度は、重要文化財指定を受けた『紅葉狩』（1899年、柴田常吉撮影）について、全篇のデジタル復元を実施した。また、日本の実験映画の嚆矢と言える松本俊夫監督の『銀輪』（1955年）についても、全篇デジタル復元を行うとともに、三色分解による白黒ネガへの保存、及びその白黒ネガから再度スキャニングしたデータによるデジタル上での三色合成を試み、復元の成果を相互に比較した。

平成21年度補正予算により、日本劇映画を対象とし、フィルムセンターで所蔵する作品及び映画製作者等が所有保管し劣化の危険性がある重要な作品のうち、ポジフィルムのみ存在し、ネガフィルムが存在しない332作品（フィルム複製159作品、フィルム購入173作品）について、ネガ（画・音）及びチェック用プリントの作成を行い、安定的かつ確実な保存を行った。

映画関連資料に関しては、展覧会「戦後フランス映画ポスターの世界」の開催を踏まえて、展示されるポスターの簡易修復を行った。また、平成20年度に開始されたプレス資料のリスト化を進め、過去に寄贈されたプレスシート・チラシ・試写状といったさまざまな形態を持つプレス資料の整理を行っている。アニメーション作家の大藤信郎をはじめ複数の映画人の個人資料のカタログ化も進行中であり、フィルム編集者南とめの旧蔵資料等、正式な寄贈手続を終えたものもある。

#### 修復件数

映画フィルムデジタル復元	13本
ノイズリダクション等	271本
不燃化作業	42本
映画フィルム洗浄	1本



2009

A notable restoration work was done on *Kofuku* (dir. Ichikawa Kon, 1981). This film had the unique colors called “Silver Color” as a result of the special developing techniques. We recreated the actual developing processes so as to restore the film as faithful as possible to the original.

Each year, NFC sets a new technological agenda and defines desired cultural significance in relation to restoration work using digital technologies. In 2009, NFC worked on restoring the entire film, of *Momijigari* (1899, shot by Shibata Tsunekichi), which had been designated as important cultural property. In addition to digitally NFC also digitally restored *Ginrin* (dir. Matsumoto Toshio, 1955), arguably the first instance of Japanese experimental film, and conducted the comparative tests of the results among recording the restored data to a color stock, recording to the three-separation black and white negatives and optically mixing the films, and re-scanning the three-separation negatives and digitally mixing the data.

Using the supplementary budget for the fiscal year 2009, NFC made the negatives (pictures and sound) and answer prints of 332 film titles that only exist in positive films (the negatives did not exist for them.) These are the important Japanese fiction films that are either in the NFC collection or are held and stored by the producers and are at the risk of deterioration. (Film duplication 159 titles, film purchases 173 titles)

As for non-film materials, NFC did a simplified restoration work on the posters that were to be exhibited in *Postwar French Cinema in Posters—From the Shingai Collection of the National Film Center* show. In addition, NFC continued the work it started in the previous year and made the lists of the press materials of various forms such as press sheets, flyers, and the invitation cards for the preview screenings. At the same time, personal reference materials that originally belonged to several filmmakers including animation artist Ofuji Noburo are being catalogued. Some of them, for example the materials that belonged to the late film editor Minami Tome, have already been officially donated.

The number of restoration projects	
Digital restoration of films	13
Noise reduction, etc	271
Making safety duplicates from the nitrate elements	42
Cleaning films	1

As for the films that were cleaned, we recorded the facts on the database of the titles in the collection.

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、文化庁主導で民間へ委託することで運営管理を行っている。当館は会議への出席並びに資料提供等を行った。

【平成20年度】

	公開レコード数	累計公開件数
日本映画情報システム	8,252本	28,592件
所蔵映画フィルム検索システム	302件	4,792件

【平成21年度】

	公開レコード数	累計公開件数
日本映画情報システム	8,072本	36,664件
所蔵映画フィルム検索システム	354件	5,146件

The Japanese Cinema Database is run and managed by the Agency for Cultural Affairs by commissioning the private company to do the work based on the instruction of the Agency. NFC attended the meetings and provided necessary reference materials for the project.

2008

Japanese Cinema Database	National Film Center Database
The number of records open to the public	8,252 / 302
The cumulative total	28,592 / 4,792

2009

Japanese Cinema Database	National Film Center Database
The number of records open to the public	8,072 / 354
The cumulative total	36,664 / 5,146

## 1 上映会等 Screening Programs and Exhibitions

### 1-1 入館者数 Number of Visitors

平成20年度入場者数(人)

	上映日数	上映回数	上映作品数	プログラム数	1回平均入館者数	入館者数
上映会(大ホール)	295日	731回	527作品	317プログラム	144人	105,980人
上映会(小ホール)	70日	140回	106作品	81プログラム	87人	12,131人
上映会計	365日	871回	633作品	398プログラム	136人	118,111人
上映会入館者内訳	一般 53.87%	シニア 27.34%	学生 5.47%	小人 0.18%	無料 13.12%	

※「EUフィルムデーズ2008」を小ホールで計上

	開催日数	1日平均入館者数	入館者数
展覧会(展示室)	290日	48人	13,906人
上映会と展覧会計	655日		132,017人

平成21年度入場者数(人)

	上映日数	上映回数	上映作品数	プログラム数	1回平均入館者数	入館者数
上映会(大ホール)	276日	692回	369作品	307プログラム	145人	100,139人
上映会(小ホール)	92日	184回	134作品	90プログラム	74人	13,538人
上映会計	368日	876回	503作品	397プログラム	130人	113,677人
上映会入館者内訳	一般 54.16%	シニア 26.60%	学生 4.85%	小人 0.06%	障害者等 0.12%	無料 14.22%

	開催日数	1日平均入館者数	入館者数
展覧会(展示室)	276日	56人	15,518人
上映会と展覧会計	644日		129,195人

### 1-1-1 上映会 Screening Programs

【平成20年度】

回数	上映会名	入館者数(人)	会場
267	「ルノワール＋ルノワール展」開催記念 ジャン・ルノワール映画の世界 ジャン・ルノワール監督名作選	8,566人	大ホール
268	《京橋映画小劇場No.10》映画の中の日本文学 Part 1	2,450人	小ホール
269	発掘された映画たち2008	6,047人	大ホール
270	EUフィルムデーズ2008	4,906人	大ホール 小ホール
271	スターと監督 長谷川一夫と衣笠貞之助	19,434人	大ホール
272	日本インディペンデント映画史シリーズ① PPF30回記念 ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.1	1,302人	小ホール

273	生誕100年 川喜多かしこヨーロッパ映画の黄金時代	29,163人	大ホール
274	《京橋映画小劇場No.11》 アンコール特集：2007年度上映作品より	2,278人	小ホール
275	生誕110周年 スターと監督 大河内傳次郎と伊藤大輔	15,990人	大ホール
276	《京橋映画小劇場No.12》 映画の教室2008	1,692人	小ホール
277	第9回東京フィルメックス 特集上映 蔵原惟繕監督特集 ～狂熱の季節～	3,000人	大ホール
278	生誕百年 映画監督 亀井文夫	4,704人	大ホール
279	日本映画史横断③ 怪獣・SF映画特集	11,616人	大ホール
280	日本オランダ年2008-2009 オランダ映画祭2009	3,465人	大ホール
281	カナダ・アニメーション映画名作選	1,778人	大ホール
282	《京橋映画小劇場No.13》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究②	1,720人	小ホール

#### 【平成21年度】

回数	上映会名	入館者数(人)	会場
283	映画の中の日本文学 Part 2	3,720人	大ホール
284	発掘された映画たち2009	2,857人	大ホール
285	日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 ブルガリア映画特集	1,619人	小ホール
286	日本映画史横断④ 怪獣・SF映画特集Part 2	4,275人	大ホール
287	EUフィルムフェーズ2009	7,835人	大ホール
288	特集・逝ける映画人を偲んで 2007-2008	14,364人	大ホール
289	日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.2	810人	小ホール
290	第31回ぴあフィルムフェスティバル	7,607人	大ホール
291	《京橋映画小劇場No.14》 ドキュメンタリー作家 土本典昭	2,190人	小ホール
292	《京橋映画小劇場No.15》 映画の教室2009	1,949人	小ホール
293	生誕百年 映画監督 山中貞雄	4,175人	大ホール
294	生誕百年 映画女優 田中絹代	27,907人	大ホール
295	《京橋映画小劇場No.16》 アンコール特集：2008年度上映作品より	1,744人	小ホール
296	映画監督 大島渚	9,495人	大ホール
297	川喜多かしこ生誕100年記念事業 川喜多賞受賞監督作品選集	3,517人	小ホール
298	アンコール特集：1995-2004年度の上映作品より	6,466人	大ホール
299	映画監督 篠田正浩	11,438人	大ホール
300	《京橋映画小劇場No.17》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究③	1,709人	小ホール

1-1-2 展覧会 Visitors to Exhibitions

【平成20年度】

回数	展覧会名	入館者数(人)
21	映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1	3,946人
22	生誕100年 川喜多かしこ展	5,709人
23	無声時代ソビエト映画ポスター展	4,251人

【平成21年度】

回数	展覧会名	入館者数(人)
24	映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2	2,752人
25	ドキュメンタリー作家 土本典昭	2,636人
26	生誕百年 映画女優 田中絹代	5,050人
27	戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より	5,080人

1-2 上映会 Screening Programs

1-2-1 上映会一覧(開館より平成19年度まで)  
Screenings from the Opening in Fiscal 1970 until 2007

回数 企画名

昭和45年度 [1970]	1	アメリカ古典映画の回顧
	2	成瀬巳喜男監督の特集
	3	シナリオライター野田高梧をしのぶ
	4	フランス映画の歴史
	5	ドイツ映画の回顧上映
昭和46年度 [1971]	6	田中絹代特集 — 女優の歩みを見る日本映画史 —
	7	内田吐夢監督の回顧上映
	8	フランス映画の特集
	9	アニメーション映画の回顧
	10	小津安二郎監督の特集
昭和47年度 [1972]	11	ベルギー映画の特集
	12	占領下の日本映画
	13	音楽映画の特集
	14	新収蔵映画の上映
	15	金語楼映画の上映
	16	ポーランド映画の回顧 *特別上映 第8回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
	17	日本の記録映画特集 — 戦前篇 —
昭和48年度 [1973]	18	イタリア映画の特集
	19	溝口健二監督の特集
	20	飯田蝶子特集 *特別上映 ジョン・フォード監督追悼特別上映
	21	1930年代ヨーロッパ映画特集
	22	1930年代ヨーロッパ映画特集(再上映)
	23	収蔵映画未公開作品の上映
	24	— 交換映画祭 — 現代ブルガリア映画の展望
	25	五所平之助監督特集
昭和49年度 [1974]	26	特集・逝ける映画人を偲んで
	27	日本の記録映画特集 — 戦後篇 —
	28	監督研究 清水宏と石田民三
	29	島津保次郎監督特集 *特別上映 第9回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
	30	フランス映画を創った人たち — 第1期

	31	— ハンガリー映画祭 — ハンガリー映画の30年 映画史上の名作
昭和50年度[1975]	32	収蔵映画未公開作品の上映 — 戦前の時代劇を集めて
	33	— エリザベス女王御訪日記念 — 英国映画の史的展望
	34	特集・逝ける映画人を偲んで<1974-1975>
	35	— 昭和50年度(第30回記念)芸術祭協賛 — 芸術祭大賞映画の回顧
	36	フランス映画を創った人たち — 第2期
	37	小津安二郎監督特集
	土曜特集	映画史上の名作
昭和51年度[1976]	38	戦後日本映画の流れ<1946-1962> — 収蔵映画未上映作品より —
	39	戦前オーストリア映画の回顧<1919-1937>
	40	監督研究 衣笠貞之助
	41	特集・逝ける映画人を偲んで<1975-1976>
	42	70年代ポーランド映画の展望
	43	— 建国200年記念 — アメリカ映画の史的展望<1894-1936>
		*特別上映 第10回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
	44	木下恵介監督特集
	45	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	映画史上の名作
昭和52年度[1977]	46	— 文化功労者記念 — 黒沢明監督特集
	47	監督研究 伊藤大輔
	48	現代ブルガリア映画の展望
	49	恐怖と幻想の映画特集
	50	長編ドキュメンタリー映画10選
	51	夏休み少年少女名作鑑賞
	52	特集・逝ける映画人を偲んで<1976-1977>
	53	映画に見る昭和十年代
	54	日本映画技術の展望 — 戦後30年 —
	55	カナダ映画の史的展望
	56	ソ連映画の史的展望<1923-1946>
	57	日本のアニメーション映画<1924-1958>
	58	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	日本映画特選/各国特選/映画史上の名作/昭和十年代公開のフランス映画
昭和53年度[1978]	59	日本映画の流れ<1961-1966> — 収蔵映画未上映作品より —
	60	映画史上の名作(第1集)
	61	溝口健二監督特集
	62	夏休み少年少女名作鑑賞
	63	特集・逝ける映画人を偲んで<1977-1978>
	64	— 生誕100年記念 — マキノ省三とその人脈
	65	映画史上の名作(第2集)

- 66 チャプリン初期短篇特集  
— キーストン、エッサネイ、ミューテュアル、ファースト・ナショナル時代 —
- 67 デンマーク映画の史的展望
- 68 田坂具隆監督特集
- 69 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 各国の音楽映画／各国特選／映画史上の名作／短篇・文化・記録映画特集

昭和**54**年度[1979]

- 70 長谷川一夫特集
- 71 映画史上の名作
- 72 特集・逝ける映画人を偲んで〈1978-1979〉
- 73 夏休み少年少女名作鑑賞
- 74 成瀬巳喜男監督特集
- 75 現代ベルギー映画の展望
- 76 牛原虚彦監督特集
- 77 豊田四郎監督特集
- 78 戦後フランス映画秀作特集〈1945-1954〉
- 79 監督研究 ジャン・ルノワール
- 80 オーストラリア映画の史的展望〈1919-1956〉
- 81 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 各国特選／戦前の音楽映画／米英映画特選／溝口健二監督特選／小津安二郎監督特選(サイレント篇)／短篇文化・記録映画特集

昭和**55**年度[1980]

- 82 戦後日本映画の流れ〈1967-1971〉— 収蔵映画未上映作品から —
- 83 監督研究 クロード・ジュトラ
- 84 映画史上の名作
- 85 特集・逝ける映画人を偲んで〈1979-1980〉
- 86 夏休み少年少女名作鑑賞
- 87 — 近代映画協会30年記念 — 監督研究吉村公三郎と新藤兼人
- 88 戦後フランス映画秀作集〈1955-1960〉
- 89 小津安二郎監督特集
- 90 マーティン・スコセッシ監督特集
- 91 スイス映画の史的展望〈1941-1979〉
- 92 — 国際障害者年協賛 — 春休み少年少女名作鑑賞  
小津安二郎監督特選(アンコール上映Ⅰ)
- 土曜特集 戦後フランス映画秀作集(アンコール上映)／映画史上の名作(アンコール上映)／一つの原作・二つの映画／短篇・文化・記録映画特集

昭和**56**年度[1981]

- 93 ジョルジュ・サドゥール賞受賞作品選集
- 94 映画史上の名作
- 95 稲垣浩監督特集
- 96 特集・逝ける映画人を偲んで〈1980-1981〉
- 97 夏休み少年少女名作鑑賞
- 98 1920年代のドイツ映画
- 99 日本のトーキー：誕生から確立へ
- 100 イタリア古典映画特集
- 101 日本映画史研究(1) — 東映映画30年の歩み —



	102	フィンランド映画の史的展望<1940-1977>
	103	収蔵映画未上映作品集<外国篇>
	104	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	小津安二郎監督特選(アンコール上映Ⅱ)／映画史上の名作／清水宏監督研究／短篇・文化・記録映画特集
昭和 <b>57</b> 年度[1982]	105	映画史上の名作
	106	D.W.グリフィス監督特集
	107	夏休み少年少女名作特集
	108	特集・逝ける映画人を偲んで<1981-1982>
	109	日本映画史研究(2) — 東宝映画50年の歩み —
	110	現代イギリス映画の展望
	111	スウェーデン映画の史的展望<1910-1969>
	112	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	短篇・文化・記録映画特集
昭和 <b>58</b> 年度[1983]	113	映画史上の名作
	114	ジョン・フォード監督特集<1917-1946>
	115	夏休み少年少女名作鑑賞
	116	特集・逝ける映画人を偲んで<1982-1983>
	117	フランス映画の回顧<1930-1946>(1)
	118	今井正監督特集
	119	フランス映画の回顧<1930-1946>(2)
	120	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	短篇・文化・記録映画特集
昭和 <b>59</b> 年度[1984]	121	フィルムセンター所蔵映画選集(1) 河村黎吉選集／テレンス・フィッシャー監督選集／ラルフ・トーマス監督選集／<忠臣蔵>映画選集／<エノケン>映画選集／マイケル・パウエル&エメリック・プレスバーク監督選集／<鞍馬天狗>映画選集／カルミネ・ガッローネ監督選集
	122	1920年代のドイツ映画—表現主義と新即物主義の間
	123	撮影監督 宮川一夫特集
	124	夏休み少年少女名作鑑賞
	125	特集・逝ける映画人を偲んで<1983-1984>
	126	スペイン映画の史的展望<1951-1977>
	127	フィルムセンター所蔵外国映画選集
	土曜特集	短篇・文化・記録映画特集
昭和 <b>60</b> 年度[1985]	128	フィルムセンター所蔵日本映画選集 — 名傍役の魅力 — 吉川満子選集／藤原釜足選集／浦辺条子選集／浜村純選集／清川虹子選集／殿山泰司選集
	129	中国映画の回顧<1922-1952>
	130	所蔵外国映画選集Ⅱ<フィルムセンター焼失フィルムのための募金の会寄贈による>

- 131 フィルムセンター所蔵日本映画選集 — 映画カメラマンの魅力  
〈1921-1944〉  
水谷文次郎(至宏)選集／杉山公平選集／三村明選集／高橋通夫(與  
吉)選集／伊藤武夫選集  
132 特集・逝ける映画人を偲んで〈1984-1985〉

昭和**61**年度[1986]

- 133 フィルムセンター所蔵外国映画選集  
中南米映画選／北欧映画選／G.W.パプスト監督選／アナトール・  
リトヴァク監督選／カール・リッター監督選／ヴィリ・フォルスト  
監督選／ジュリアン・デュヴィヴィエ監督選／マルセル・シャンタ  
ル主演映画選／1930年代のヨーロッパ音楽映画選／オムニバス映  
画選／ドキュメンタリー映画選／アニメーション映画選／“映画の  
映画”選／金曜特集・無声映画選  
134 日本映画史研究(3) — 蒲田映画の世界〈1921-1936〉  
135 アメリカ映画の名匠たち — ラオール・ウォルシュとその時代〈1914-1939〉  
136 現代スイス映画の展望

昭和**62**年度[1987]

- 137 蒲田映画の若き日 — 小津・清水・成瀬  
138 フィルムセンター所蔵日本映画選集  
139 特集・逝ける映画人を偲んで〈1986-1987〉  
140 中国映画の回顧〈1932-1964〉  
141 フィルムセンター所蔵外国映画選集  
142 フィルムセンター所蔵日本映画選集(1)

昭和**63**年度[1988]

- 143 フィルムセンター所蔵日本映画選集(2)  
144 特集・逝ける映画人を偲んで〈1987-1988〉  
145 フィルムセンター所蔵映画選集 — 日本のアニメーション  
146 フィルムセンター所蔵外国映画選集 — D.W.グリフィスとその時代

平成**元**年度[1989]

- 147 フィルムセンター所蔵日本映画選集 — 新興キネマの世界  
148 フランス映画の黄金時代  
149 日本映画の系譜  
150 戦後ヨーロッパ映画秀作選

平成**2**年度[1990]

- 151 シナリオ作家 依田義賢特集  
152 特集・「ポーランド派」の映画  
153 特集・逝ける映画人を偲んで〈1988-1989〉

平成**3**年度[1991]

- 154 発掘された映画たち — 小宮登美次郎コレクション  
155 特集・逝ける映画人を偲んで〈1990-1991〉

平成**4**年度[1992]

- 156 内田吐夢監督特集

	157	孫瑜監督と上海映画の仲間たち 中国映画の回顧
	158	フィルムセンター所蔵日本映画選集
平成5年度[1993]	159	知られざるアメリカ映画
	160	特集・逝ける映画人を偲んで<1991-1993>
平成6年度[1994]	161	サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて
平成7年度[1995]	162	開館記念特集 フィルムは魅了する：銀幕の体験
	163	開館記念特集 フィルムは記録する：日本の文化・記録映画作家たち
	164	マキノ雅広の世界：「次郎長三國志」と「日本侠客伝」
	165	インド映画の魅力
	166	1930年代ヨーロッパ映画10選
	167	女優 山田五十鈴
	168	特集・逝ける映画人を偲んで 1993-1994
	169	第8回東京国際映画祭協賛企画 特集上映 日本映画の系譜
	170	特別企画上映／映画生誕百周年記念 シネマの冒険 闇と音楽
	171	コニカラー：甦る国産カラー・プロセス 「緑はるかに」特別上映会
	172	映画生誕百周年記念 ゴーモン映画の100年 フランス映画の100年
	173	映画生誕百周年記念 ジョルジュ・メリエス 夢と魔法の王国
	174	ゴーモン映画秀作選
	175	1950年代の青空と太陽
平成8年度[1996]	176	日本映画の発見Ⅰ：無声映画時代
	177	日本映画の発見Ⅱ：トーキーの開始と戦前の黄金時代
	178	芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽 1996
	179	ジャン・ルノワール、映画のすべて。
	180	フィルムは記録する '97：日本の文化・記録映画作家たち
平成9年度[1997]	181	日本映画の発見Ⅲ：戦争の時代
	182	特集・逝ける映画人を偲んで 1995-1996
	183	芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽 1997
	184	NFC所蔵外国映画選集 1970年代映画の一断面
	185	フィルムは記録する '98：日本の文化・記録映画作家たち
平成10年度[1998]	186	日本映画の発見Ⅳ：占領下のNIPPON
	187	特集・逝ける映画人を偲んで 1997
	188	シネマの冒険 闇と音楽 1998
	189	憧憬のフランス映画 ― 1930年代を中心に ―
平成11年度[1999]	190	日本映画の発見Ⅴ：栄光の'50年代
	191	発掘された映画たち 1999

- 192 ハリウッド伝説 ハワード・ホークス映画祭  
193 シネマの冒険 闇と音楽：フリッツ・ラング選集

平成12年度[2000]

- 194 特別追悼特集 偉大なる“K”(1)：小林正樹  
195 特別追悼特集 偉大なる“K”(2)：黒澤明  
196 特別追悼特集 偉大なる“K”(3)：木下恵介  
197 シネマの冒険 闇と音楽：オランダの無声映画 オランダ映画博物館  
無声映画コレクションより  
198 フィルムは記録する2001：日本の文化・記録映画作家たち  
199 発掘された映画たち2001：ロシア・ゴスフィルモフォンで発見された日本映画

平成13年度[2001]

- 200 中国映画史の流れ：無声後期からトーキーへ  
201 日本映画の発見Ⅵ：1960年代  
202 日本におけるイタリア2001 イタリア映画大回顧  
203 フィルムで見る20世紀の日本

平成14年度[2002]

- 204 NFC所蔵外国映画選集 追憶のスター女優たち  
205 日本映画の発見Ⅶ：1970年代  
206 こども映画館 2002年の夏休み  
207 2002年日韓国民交流年記念事業 韓国映画 — 栄光の1960年代  
208 シネマの冒険 闇と音楽 D.W.グリフィス選集  
209 特集・逝ける映画人を偲んで 1998-2001 (1)  
210 こども映画館 2003年の春休み

平成15年度[2003]

- 209 特集：逝ける映画人を偲んで 1998-2001 (2)  
211 発掘された映画たち2003  
212 映画監督 市川崑  
213 社団法人映像文化製作者連盟創立50周年記念 短篇映像メディアに見る現代日本  
214 日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在  
215 聖なる映画作家、カール・ドライヤー  
216 小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術  
217 第4回東京フィルメックス 特集上映 清水宏 生誕100年  
218 シリーズ・日本の撮影監督(1)

平成16年度[2004]

- 219 日本・キューバ外交関係樹立75周年記念 キューバ映画への旅  
220 アジア映画 — “豊穡と多様”  
221 日本アニメーション映画史  
222 映画女優 高峰秀子  
223 第5回東京フィルメックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負  
224 特集・逝ける映画人を偲んで 2002-2003  
225 シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ無声映画傑作選  
226 フィルムは記録する2005：日本の文化・記録映画作家たち

平成17年度[2005]

- 227 生誕百年特集 映画監督 稲垣浩
- 228 生誕百年特集 映画監督 豊田四郎
- 229 発掘された映画たち2005
- 230 生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男
- 231 ポーランド映画, 昨日と今日
- 232 生誕百年特集 映画監督 斎藤寅二郎と野村浩将
- 233 第6回東京フィルメックス 特集上映  
生誕百年特集 映画監督 中川信夫 ～地獄のアルチザン～
- 234 日韓友情年2005  
韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆(ユ ヒョンモク)監督特集
- 235 シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち
- 236 松竹創業110周年記念 松竹映画探案 1960-70年代
- 237 日本におけるドイツ2005/2006  
NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選

平成18年度[2006]

- 238 シナリオ作家 新藤兼人
- 239 《京橋映画小劇場 No.1》 映画の教室2006
- 240 NFC所蔵外国映画選集 フランス古典映画への誘い
- 241 ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭
- 242 《京橋映画小劇場 No.2》 アンコール特集：2005年度上映作品より
- 243 日本映画史横断① 日活アクション映画の世界
- 244 《京橋映画小劇場 No.3》 生誕100周年記念 美術監督 水谷浩作品選集
- 245 日豪交流年2006 オーストラリア映画祭
- 246 《京橋映画小劇場 No.4》 シネマの冒険 闇と音楽2006
- 247 没後50年 溝口健二再発見
- 248 第7回東京フィルメックス 特集上映 岡本喜八 日本映画のダンディズム
- 249 日本映画史横断② 歌謡・ミュージカル映画名作選
- 250 シリーズ・日本の撮影監督(2)
- 251 《京橋映画小劇場 No.5》 CHANBARA① 市川右太衛門

平成19年度[2007]

- 252 追悼特集 映画監督 今村昌平と黒木和雄
- 253 EUフィルムデーズ2007
- 254 映画監督 川島雄三
- 255 《京橋映画小劇場No.6》 映画の教室2007
- 256 特集・逝ける映画人を偲んで 2004-2006
- 257 《京橋映画小劇場No.7》 アンコール特集：2006年度上映作品より
- 258 日本・ポーランド国交回復50周年記念  
ポーランド短篇映画選 ウッチ映画大学の軌跡
- 259 日本・ウズベキスタン国交樹立15周年記念 ウズベキスタン映画祭
- 260 日印交流年 インド映画の輝き
- 261 スウェーデン・ドキュメンタリー新作選
- 262 第8回東京フィルメックス 山本薩夫監督特集  
～ザッツ<社会派>エンタテインメント～
- 263 NFC所蔵外国映画選集 ヨーロッパ映画名作選
- 264 《京橋映画小劇場No.8》 日本の文化・記録映画選：芸術を記録する
- 265 生誕百年 映画監督 マキノ雅弘
- 266 《京橋映画小劇場No.9》 NFC所蔵外国映画選集  
アメリカ映画史研究①

## 会 期

平成20年4月1日～平成20年4月23日  
(20日間)

## 会 場

大ホール

## 主 催

東京国立近代美術館フィルムセンター  
日本テレビ放送網株式会社  
株式会社読売新聞東京本社

## 作品数・上映回数

15作品／13プログラム／40回上映

## 入館者数

8,566人(1回平均 214人)

## 新聞・雑誌等における掲載記事

読売新聞 1月28日 「ルノワール＋ルノ  
ワール展 絵と映画 父子の才対比」読売新聞 3月21日夕刊 「ルノワール  
監督作を回顧 長短編15作」朝日新聞 4月2日 「ジャン・ルノワ  
ール監督名作選」映像新聞 4月7日 第1350号 「ジャン・  
ルノワールの映画15本を特集 NFC」常陽藝文 4月号 「ジャン・ルノワール  
映画の世界 ジャン・ルノワール監督名  
作選」ビデオSALON 4月号 「ジャン・ルノ  
ワール監督名作選」267 「ルノワール＋ルノワール展」開催記念  
ジャン・ルノワール映画の世界  
ジャン・ルノワール監督名作選

画家ピエール＝オーギュスト・ルノワールの次男として生まれ、いまだ  
揺籃期にあった映画を20世紀の代表的な芸術にまで高めた映画監督ジャン  
・ルノワールの作品を紹介する特集。Bunkamura ザ・ミュージアムで開  
かれた展覧会「ルノワール＋ルノワール展」(その後、京都国立近代美術館へ  
巡回)を記念する上映企画「ジャン・ルノワール映画の世界」の一環として、  
日本テレビ、読売新聞社との共同主催により開催されたもので、無声映画  
時代のデビュー作『水の娘』(1924年)や代表作『素晴しき放浪者』(1932年)、  
『フレンチ・カンカン』(1954年)等、15本を上映した。

L'Univers cinématographique de Jean Renoir  
Rétrospective Jean Renoir

This program showcased the works by film director Jean Renoir, the second  
son of painter Pierre-Auguste Renoir, who elevated cinema to the realm of art  
that represents the 20th century during its very early and turbulent days.  
The program was held in conjunction with the screening program *L'Univers  
cinématographique de Jean Renoir*. The program was organized so as to  
commemorate the exhibition *Renoir + Renoir exposition organisée avec le  
Musée d'Orsay* which opened in Bunkamura the Museum and later travelled  
to The National Museum of Modern Art, Kyoto. NFC co-organized the  
program with Nippon Television Network Corporation and the Yomiuri  
Shimbun, and screened 15 films including Renoir's first film in the silent era  
*La Fille de l'eau* (1924), his representative works *Boudu sauvé des eaux* (1932),  
*French Cancan* (1954), and the English version of *Le Carrosse d'or* (1952),  
which was screened for the first time in Japan.



1

4/1(火)3:00pm 4/10(木)7:00pm 4/18(金)7:00pm

水の娘(79分・35mm・無声・白黒) LA FILLE DE L'EAU  
'24(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

2

4/1(火)7:00pm 4/9(水)3:00pm 4/20(日)1:00pm

女優ナナ(148分・35mm・無声・白黒) NANA  
'26(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

3

4/2(水)3:00pm 4/10(木)3:00pm 4/15(火)7:00pm

チャールストン(25分・35mm・無声・白黒)  
SUR UN AIR DE CHARLESTON  
'27(フランス)(監督)ジャン・ルノワールマッチ売りの少女(29分・35mm・無声サウンド版・白黒)  
LA PETITE MARCHANDE D'ALLUMETTES  
'28(フランス)(監督)ジャン・ルノワール、ジャン・テデスコ

ジャン・ルノワールの演技指導

(23分・35mm・カラー・関連作品)  
LA DIRECTION D'ACTEURS PAR JEAN RENOIR  
'68(フランス)(監督)ジゼル・ブロンベルジェ

4

4/2(水)7:00pm 4/19(土)4:00pm 4/22(火)3:00pm

のらくら兵(130分・35mm・無声・白黒) TIRE-AU-FLANC  
'28(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

5

4/3(木)3:00pm 4/9(水)7:00pm 4/19(土)1:00pm

素晴しき放浪者(84分・35mm・白黒)  
BOUDU SAUVÉ DES EAUX  
'32(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

6

4/4(金)3:00pm 4/13(日)1:00pm 4/22(火)7:00pm

ボヴァリー夫人(103分・35mm・白黒) MADAME BOVARY  
'33(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

7

4/3(木)7:00pm 4/11(金)3:00pm 4/20(日)4:00pm 4/23(水)3:00pm

どん底(82分・35mm・白黒) LES BAS-FONDS  
'36(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

8

4/5(土)1:00pm 4/13(日)4:00pm 4/17(木)7:00pm

大いなる幻影(113分・35mm・白黒) LA GRANDE ILLUSION  
'37(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

9

4/4(金)7:00pm 4/12(土)1:00pm 4/16(水)3:00pm

河(99分・35mm・カラー) THE RIVER  
'50(インド=アメリカ)(監督)ジャン・ルノワール

10

4/5(土)4:00pm 4/8(火)7:00pm 4/16(水)7:00pm

黄金の馬車(102分・35mm・カラー・英語版)  
LE CARROSSE D'OR  
'52(フランス=イタリア)(監督)ジャン・ルノワール

11

4/6(日)1:00pm 4/18(金)3:00pm 4/23(水)7:00pm

フレンチ・カンカン(102分・35mm・カラー)  
FRENCH CANCAN  
'54(フランス=イタリア)(監督)ジャン・ルノワール

12

4/6(日)4:00pm 4/11(金)7:00pm 4/15(火)3:00pm

恋多き女(97分・35mm・カラー) ELENA ET LES HOMMES  
'56(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

13

4/8(火)3:00pm 4/12(土)4:00pm 4/17(木)3:00pm

草の上の昼食(92分・35mm・カラー)  
LE DÉJEUNER SUR L'HERBE  
'59(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

会 期
平成20年4月18日～平成20年5月4日 (9日間)※金、土、日のみ上映
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
9作品／9プログラム／18回上映
入館者数
2,450人(1回平均 136人)
新聞・雑誌等における掲載記事
ジェイヌード 4月3日 vol.46「映画の中の日本文学 Part 1」
TBSラジオOTTAVA 4月7日 「映画の中の日本文学」
世界日報 4月13日 「映画の中の日本文学 Part 1 文学作品原作の映画9本を上映」
読売新聞 4月12日夕刊 「『文学の映画化』展示と特集上映」
読売新聞 4月15日夕刊 「映画の中の日本文学」
葛西新聞 4月18日 「映画の中の日本文学 Part 1」
常陽藝文 5月号、6月号、7月号 「映画の中の日本文学 Part 1」

## 268 《京橋映画小劇場No.10》 映画の中の日本文学 Part 1

展示室で開催の「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1」の開催に合わせて、「古事記」「日本書紀」にもとづく東宝のオールスター映画『日本誕生』(1959年、稲垣浩監督)や近松門左衛門の浄瑠璃を前衛的な表現で映画化した『心中天網島』(1969年、篠田正浩監督)等、大正期までの文学作品を原作とする映画作品9本を上映した。

### 《Kyobashi-za No.10》

#### Japanese Literature in Film Part 1 [Film Screening]

In conjunction with the exhibition *Japanese Literature in Film Part 1: From the NFC Non-film Collection*, this program screened nine films that are based on the literary works up to the Taisho era (-1925). The films include *Nihon tanjo* (dir. Inagaki Hiroshi, 1959) that is based on *Kojiki* and *Nihon shoki* and features all the stars at Toho and *Shinju ten no amishima* (dir. Shinoda Masahiro, 1969), a filmic rendition of Chikamatsu Monzaemon's *yoruri*, a type of dramatic recitation, in an avant-garde style.





1

4/18(金)2:00pm 4/26(土)3:00pm

日本誕生(124分・35mm・カラー)

'59(東宝)(監督)稲垣浩

2

4/18(金)6:00pm 4/27(日)0:00pm

心中天網島(102分・35mm・白黒)

'69(ATG=表現社)(監督)篠田正浩

3

4/19(土)0:00pm 4/27(日)3:00pm

にごりえ(130分・35mm・白黒)

'53(文学座=新世紀映画社)(監督)今井正

4

4/19(土)3:00pm 5/2(金)2:00pm

吾輩は猫である(115分・35mm・カラー)

'75(芸苑社)(監督)市川崑

5

4/20(日)0:00pm 5/2(金)6:00pm

野菊の如き君なりき(92分・35mm・白黒)

'55(松竹大船)(監督)木下恵介

6

4/20(日)3:00pm 5/3(土・祝)0:00pm

阿部一族(106分・35mm・白黒)

'38(東宝東京=前進座)(監督)熊谷久虎

7

4/25(金)2:00pm 5/3(土・祝)3:00pm

地獄変(95分・35mm・カラー)

'69(東宝)(監督)豊田四郎

8

4/25(金)6:00pm 5/4(日・祝)0:00pm

痴人の愛(92分・35mm・カラー)

'67(大映東京)(監督)増村保造

9

4/26(土)0:00pm 5/4(日・祝)3:00pm

夜明け前(142分・35mm・白黒)

'53(近代映画協会=劇団民芸)(監督)吉村公三郎

会 期
平成20年4月24日～平成20年5月15日 平成20年5月23日～平成20年6月1日 (28日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
96作品/28プログラム/56回上映
入館者数
6,047人(1回平均108人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 3月27日 「アニメ 大正時代の作品、復元・公開へ 最古のアニメ侍動いた 発掘・復元96本公開へ」
読売新聞 3月27日 「90年前の国産アニメ発見」
東京新聞 3月27日 「お宝アニメ映画発見 1917年公開、現存最古フィルム」
毎日新聞 3月27日 「和製アニメ第2号『なまくら刀』 1917年公開 現存最古大阪で発見 フィルム修復 お披露目」
産経新聞 3月27日 「ユーモアたっぷり日本最古のアニメ 1917年『なまくら刀』」
Hollywood repiter 3月27日 「Japan's oldest anime found」(Gavin J Blair)
映像新聞 4月21日 「新たに発掘・復元した映画を上映」(中川洋吉)
読売新聞 4月25日夕刊 「発掘 お宝フィルム 伊藤大輔監督 幻の映画 修復 復元 東京・国立近代美術館で上映」(近藤孝)
産経新聞 4月26日 「なまぐら刀“原点”はエネルギー」(鈴木伸一)
草月 4月号 「映画の発掘、世界の発見」(平沢剛)
視聴覚教育 5月号 vol.727 「映画会『発掘された映画たち2008』と『EUフィルムデーズ2008』」
キネマ旬報 5月上旬特別号 「発掘された映画たち2008」、「日本最古のアニメ発掘 修復上映」
赤旗 6月12日 「日本アニメ 源流の一滴」(おかだえみこ)

## 269 発掘された映画たち2008

フィルムセンターが近年発掘、復元したフィルムを紹介する恒例企画の6回目。今回は新たに見つかった現存最古のコマ撮りアニメーションの『なまくら刀』(1917年)、ロサンゼルス of 全米日系人博物館から寄贈された入江たか子主演の『月よりの使者』(1934年)、昭和初期にフィルムとSPレコードを同期させて上映された「レコードトーキー」の復元版、コレクターの安部善重氏が残した可燃性フィルムからの復元プリント、CIE映画など、計96本の作品を28プログラムにまとめて上映し、映画保存機関としての活動の成果を発表した。

### Cinema: Lost and Found 2008

This is the sixth of the series that show the films which NFC recently discovered and restored. This time, 96 films were screened as 28 programs so as to showcase the achievement as the film archive. The films include a newly found *Namakura gatana* (1917), the oldest extant frame-by-frame animation, *Tsuki yori no shisha* (1934) starring Irie Takako. This was donated by Japanese American National Museum, Los Angeles. Also shown were the restored version of “record talkie” that was screened in synchronicity with the SP records in the early Showa era (1926-1989), the safety duplicates made from the nitrate films left by collector Abe Yoshishige, and USIS.



## 1

4/24(木)3:00pm 5/10(土)1:00pm

レコードトーカーの復元(計70分)

月形半平太(14分・35mm・白黒)  
'25(聯合映画芸術家協会)(監督)衣笠貞之助

東京行進曲(3分・35mm・白黒)  
'29(服部小型映画研究所)

黒ニャゴ[デジタル復元版](3分・35mm・白黒)  
'29(千代紙映画社)(作画)大藤信郎

證城寺の狸囃子(3分・35mm・染色)  
'30年代初頭(伴野商店)(監督)大石郁雄

小馬(3分・35mm・白黒)  
'30(日本キネマ商会)

江戸子守唄(4分・35mm・染色)  
'30(岡田嘉子プロダクション)(撮影)木村秀勝

神田小唄(3分・35mm・白黒)  
'30(十字屋小型映画部)

文部省唱歌 汽車(3分・35mm・染色)  
'30(内藤友彌プロダクション)

マリチャンノエホン(6分・35mm・白黒)  
'30(日本キネマ商会)

村祭[デジタル復元版](3分・35mm・染色)  
'30(千代紙映画社)(作画)大藤信郎

國歌 君か代(3分・35mm・白黒)  
'31(千代紙映画社)(作画)大藤信郎

鼠の留守番(3分・35mm・染色)  
'31(伴野文三郎商店)(監督)大石郁雄

おもちゃの汽車(2分・35mm・白黒)  
'31(伴野文三郎商店)(作画)西倉喜代次

大きくなるよ(3分・35mm・白黒)  
'31(Iida Pictures)(監督)飯田東吉

茶目子の一[デジタル復元版](7分・35mm・白黒)  
'31(協力映画製作社)(監督)西倉喜代治

文福茶釜(7分・35mm・白黒)  
'32(伴野文三郎商店)(監督)大石郁雄

## 2

4/24(木)7:00pm 5/11(日)1:00pm

発掘されたアニメーション映画(計109分)

なまくら刀(はなへこないめいとうの まき) [デジタル復元版](2分・16fps・35mm・無声・染色)  
'17(小林商会)(作画)幸内純一

浦島太郎[デジタル復元版](2分・16fps・35mm・無声・染色)  
'18(日活向島)(作画)北山清太郎

漫画 癩取り(10分・24fps・35mm・無声・染色)  
'29(横浜シネマ商会)(監督)青地忠三

火の用心(13分・18fps・35mm・無声・染色)  
'30(横浜シネマ商会)(監督)青地忠三

古寺のおばけ騒動(5分・35mm・白黒)  
'36(日本マンガフィルム研究所)(作画)(撮影)鈴木宏昌

熊に喰われぬ男(9分・35mm・白黒)  
'48(三幸映画社)(監督)オーフジ・ノブロー(大藤信郎)

狐と小鳥(11分・35mm・白黒)  
'48(近代映画株式会社)(監督)森野佐登志

ガリヴァー奮闘記(9分・35mm・白黒)  
'50(近代映画社)(監督)黒田外喜男、小沢重行

バクダット姫[最長版](48分・35mm・白黒)  
'48(三幸映画社)(監督)芦田巖

## 3

5/8(木)7:00pm 5/13(火)3:00pm

CIE映画選集1(計78分)

シー・アイ・イー フィルムスケッチ第13号 アメリカの話  
(9分・35mm・白黒)  
Themes from the U.S.  
'49(東亜発声映画[日本語版製作])

いとしき子らのために (39分・35mm・白黒)  
Children's Guardian  
'50(東宝[日本版製作])

戦争花嫁 (30分・35mm・白黒)  
Japanese Bride in America  
'52(ニッカーボッカー・プロダクション)

## 4

5/9(金)3:00pm 5/27(火)7:00pm

CIE映画選集2(計86分)

議事の進め方 (22分・35mm・白黒)  
USING PARLIAMENTARY PROCEDURES  
'50(理研映画[日本語版製作])(監督)水木荘也

交換学生の一年 (29分・35mm・白黒) YEAR IN AMERICA  
'51(フランク・ドノヴァン・アソシエーツ)

病菌はどこにあるか (18分・35mm・白黒)  
WHERE ARE THE GERMS?  
'52(中井プロダクション[日本版製作])

労働組合員教育 (17分・35mm・白黒)  
EDUCATION IN LABOR UNIONS  
'52(電通映画社[日本版製作])

5

5/9(金)7:00pm 5/28(水)3:00pm

CIE映画選集3(計90分)

すなど  
漁人々(25分・35mm・白黒) MEN WHO FISH  
'50(シュウ・タグチ・プロ)

格子なき図書館(22分・35mm・白黒)  
LIBRARIES WITHOUT BARS  
'50(日本映画社[日本版製作])

ディスカッションの手引(23分・35mm・白黒)  
DISCUSSION TECHNIQUES  
'52(理研映画=日本漫画映画[日本版製作])

音楽の森(20分・35mm・白黒) TANGLEWOOD  
'52(MPOプロダクション)

6

4/25(金)3:00pm 5/10(土)4:00pm

アジアはひとつ(96分・16mm・パートカラー)  
'73(NDU日本ドキュメンタリストユニオン)

7

4/25(金)7:00pm 5/11(日)4:00pm

忠臣蔵(139分・白黒・35mm)  
'33(松竹下加茂)(監督)衣笠貞之助

8

4/26(土)1:00pm 5/14(水)3:00pm

安部善重コレクション1(計81分)

日活行進曲 曾我兄弟(14分・18fps・35mm・無声・染色・断片)  
'29(日活)(監督)清瀬英次郎

乙女シリーズ その一 花物語 福壽草(67分・24fps・35mm・無声・白黒)  
'35(新興キネマ)(監督)川手二郎

9

4/26(土)4:00pm 5/27(火)3:00pm

安部善重コレクション2(計83分)

肉付の面(6分・16fps・35mm・無声・染色)  
'22(牧野教育映画)

妙好人傳 大和の清九郎(15分・16fps・35mm・無声・染色・不完全)  
'22(東本願寺映画班)

光を仰ぎて(15分・18fps・35mm・無声・白黒・不完全)  
'32(協立映画プロダクション)(監督)金森万象

腹籠りの聖教 信の巻(16分・18fps・35mm・無声・染色)  
'34(本派本願寺)

無限の寶 (31分・35mm・白黒・不完全)  
'36(振進キネマ社)(監督)井上麗吉

10

4/27(日)1:00pm 5/13(火)7:00pm

安部善重コレクション3

一郎・二郎・三郎(仮題)(94分・20fps・35mm・無声・一部染色)  
'29-30頃

11

4/27(日)4:00pm 5/14(水)7:00pm

パン・コレクション1

月よりの使者(92分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'34(入江プロダクション)(監督)田坂具隆

12

4/29(火・祝)1:00pm 5/15(木)7:00pm

パン・コレクション2

薩摩飛脚(91分・24fps・35mm・無声・白黒)  
'38(新興キネマ)(監督)伊藤大輔

13

5/7(水)7:00pm 5/24(土)1:00pm

パン・コレクション3

悲恋華(88分・24fps・35mm・無声・白黒)  
'36(松竹蒲田)(監督)佐々木康

14

5/8(木)3:00pm 5/24(土)4:00pm

パン・コレクション4

あの道この道(77分・24fps・35mm・無声・白黒)  
'35(松竹蒲田)(監督)佐々木康

15

5/6(火・振替休日)1:00pm 5/15(木)3:00pm

大都映画1(計87分)

誓ひの乳母車(43分・35mm・白黒)

'39(大都映画)(監督)中島宝三

大空の遺書(44分・35mm・白黒・不完全)

'41(大都映画)(監督)益田晴夫

16

5/6(火・振替休日)4:00pm 5/23(金)7:00pm

大都映画2(計95分)

松風村雨(72分・24fps・35mm・無声・白黒)

'36(大都映画)(監督)吉村操

杉野兵曹長の妻(23分・35mm・白黒・不完全)

'40(大都映画)(監督)山内俊英

17

5/7(水)3:00pm 5/25(日)1:00pm

大都映画3(計101分)

法廷哀話 涙の審判(67分・24fps・35mm・無声・白黒)

'36(大都映画)(監督)吉村操

怪電波の戦慄 第二篇 透明人間篇(34分・35mm・白黒)

'39(大都映画)(監督)山内俊英

18

4/29(火・祝)4:00pm 5/23(金)3:00pm

由比正雪(58分・24fps・35mm・無声・白黒)

'30(河合映画)(監督)丘虹二

鐵の爪 花嫁掠奪篇(45分・35mm・白黒)

'35(エトナ映画)(監督)後藤岱山

19

4/30(水)3:00pm 5/25(日)4:00pm

小楠公とその母(60分・35mm・サウンド版・白黒)

'36(日本合同映画)(監督)中川紫朗

橋本左内(45分・35mm・白黒)

'38(日本自動現像社)(監督)田中榮三

20

4/30(水)7:00pm 5/31(土)1:00pm

天明怪捕物 梟(52分・18fps・35mm・無声・染色)

'26(東亜キネマ)(監督)石田民三

豪快 村越三十郎(42分・35mm・サウンド版・白黒)

'37(甲陽映画)(監督)高見貞衛

21

5/4(日・祝)4:00pm 5/30(金)7:00pm

激流(40分・35mm・白黒・不完全)

'40(新興キネマ)(監督)小石榮一

まごころ(21分・35mm・白黒)

'41頃(監督)二宮茂樹

僕の万年筆(36分・35mm・白黒)

'42(振進キネマ社)(監督)井上麗吉

22

5/1(木)7:00pm 6/1(日)1:00pm

散りゆく大和櫻 空閑少佐(16分・20fps・35mm・無声・白黒・不完全)

'32(赤澤キネマ)(監督)赤澤大助

赤心一票 明朗の暁(25分・35mm・白黒)

'35(東京日日新聞社=大阪毎日新聞社)(監督)西尾佳雄

日の丸馬車(43分・35mm・白黒)

'39(英洋行教育映画部)(監督)西尾佳雄

23

5/2(金)3:00pm 5/31(土)4:00pm

悲願 千早城(50分・35mm・白黒)

'46(大同映画)(監督)平沢讓二

煉獄に咲く花(38分・35mm・白黒)

'53(監督)石山稔

24

5/2(金)7:00pm 6/1(日)4:00pm

演芸映画選集(計69分)

ハリキリ青春部隊(17分・35mm・白黒)

'30年代後半(読売新聞社)(監督)長尾史録

亞歐聯絡大飛行完成記念 神風音頭(2分・35mm・白黒)

'37(朝日新聞社)

特輯 藝能たから船 藝能映畫第三輯(お笑ひ週間 笑ふ風船)

(30分・35mm・白黒)

'46(松竹大船)(監督)川島雄三

麗人歌合戦(20分・35mm・白黒)

'46-47年頃(朝日映画社)

## 25

5/3(土・祝)1:00pm 5/28(水)7:00pm

## 戦前記録映画選集(計103分)

西比利亞派遣軍之情况(14分・16fps・35mm・無声・染色・不完全)  
'21(サワタ映画)

皇太子殿下御歸朝 第一巻(4分・18fps・35mm・無声・白黒・不完全)  
'21(推薦映画協会)(監督)今井兼寛、牧野虎次、星野辰男

山縣公爵國葬實況(6分・16fps・35mm・無声・白黒)  
'22(日活)

東京築地本願寺再建起工式(13分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'31

早稲田大學創立五十周年記念式典(13分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'32

三社祭(5分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'32頃

帝都の防空(23分・18fps・35mm・無声・白黒)  
'33-34年頃(櫻映画製作所)

東郷元帥 國葬の實況(9分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'34

山階宮御所藏映画(10分・24fps・35mm・無声・白黒)  
'23(ヘンリー映画製作所=横浜シネマ商会)(撮影)吉田英男、中村次郎、相原隆昌

政友会総裁 田中義一氏演説(6分・21fps・35mm・白黒)  
'28(昭和キネマ)

## 26

5/3(土・祝)4:00pm 5/29(木)3:00pm

## 戦中記録映画選集(計103分)

中支那鐵道 建設の記録(51分・35mm・白黒)  
'37(同盟通信社=鉄道省)

轉換工場(18分・35mm・白黒・不完全)  
'44(朝日映画)(監督)森永健治郎

海軍と体操(34分・35mm・白黒)  
'42(日活多摩川=海軍省教育局)(監督)西村元男

## 27

5/4(日・祝)1:00pm 5/29(木)7:00pm

## 戦後記録映画選集(計66分)

国立近代美術館 記録 第1集(8分・24fps・35mm・無声・白黒)  
'53

美の誕生(9分・35mm・白黒)  
'48(プレミア映画)(構成)(撮影)岡崎宏三

貿易まつり(18分・35mm・白黒)  
'49

日本の象徴(21分・35mm・白黒)  
'50(理研映画)(構成)岡野巖

さぼん丸完成(10分・35mm・白黒)  
'50(理研映画)

## 28

5/1(木)3:00pm 5/30(金)3:00pm

## 戦前の普及宣伝映画(計66分)

郵便物語 遞信シリーズ・第一編(32分・22fps・35mm・無声・白黒)  
'36(芸術映画社)(監督)南不競

製糖の実況(16分・18fps・35mm・無声・染色・不完全)  
'27

我等の明治(10分・35mm・白黒・不完全)  
'36(写真科学研究所)

伸びゆく明治(8分・35mm・白黒・不完全)  
'36(写真科学研究所)

会 期
平成20年5月16日～平成20年5月22日 (大ホール)(6日間) 平成20年5月23日～平成20年6月5日 (小ホール)(12日間)
会 場
大ホール及び小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター 欧州連合(EU)駐日欧州委員会代表部 EU加盟国大使館・文化機関
作品数・上映回数
21作品／18プログラム／36回上映 ※大ホールで上映した12作品中 10作品は小ホールで上映している
入館者数
4,906人(1回平均 136人)
新聞・雑誌等における掲載記事
世界日報 4月30日 「EUフィルムデーズ 2008」 THE DAILY YOMIURI 5月2日 「EVENT EU Film Days 2008」 映像新聞 5月5日 「EUフィルムデーズ」 読売新聞 5月9日夕刊 「EU諸国の映画 特集上映」 HERALD TRIBUNE(ASAHI SHINBUN) 5月16日 「EU FILM DAYS」 読売新聞 5月20日夕刊 「EUフィルム デーズ2008」 視聴覚教育 5月号 vol.727 「映画会『発 掘された映画たち2008』と『EUフィルム デーズ2008』」 NHKラジオ まいにちスペイン語 5月 号 「EUフィルムデーズでスペイン映画 『タパス』を上映」 メディカルクォール 7月号 「EUフィル ムデーズに新しいヨーロッパを探して」 (杉原賢彦) SCREEN 7月号 「EUフィルムデーズ」

## 270 EUフィルムデーズ2008

欧州連合(EU)駐日欧州委員会代表部及びEU加盟国大使館・文化機関との共同主催により、現代ヨーロッパ社会・文化の多様性を紹介する上映企画の第6回目。第5回より主催者にフィルムセンターが加わり、フィルムセンターの大ホール、小ホールを会場としている。

フィルムセンターでは平成20年度で2年目の開催となり、『ノー・マンズ・ランド』(2001年)の主演で注目を集めたブランコ・ジュリッチの監督・主演による『チーズとジャム』(2003年、スロヴェニア)や、『4ヶ月、3週と2日』で2007年カンヌ国際映画祭パルム・ドールを授賞したクリスティアン・ムンジウ監督のデビュー作『西欧』(2002年、ルーマニア)等、19カ国から計21本(短篇3本を含む)を集め、18プログラムに構成して上映した。

### EU Film Days 2008

This was the 6th installment of the screening program that showcases diversity of contemporary European societies and cultures. The series was originally co-organized by the Delegation of the European Commission to Japan and the Embassies and the cultural institutions of the EU member nations. NFC joined as the co-organizer from the fifth installment and Cinema 1 and 2 of the NFC building are used as the venues since 2007.

This year, 21 titles (including three shorts) from 19 countries were shown in 18 programs. The notable films are as follows. *Kajmak in Marmelada* (2003, Slovenia) directed and starred by Branco Djuric, who became famous as a leading actor in *No Man's Land* (2001). *Occident* (2002, Rumania), the directorial debut of Cristian Mungiu who won Palme d'or at the Festival de Cannes in 2007 for *4 Luni, 3 saptamâni si zile*.



1

5/16(金)3:00pm [大ホール] 5/18(日)4:00pm [大ホール]

[スロヴェニア]

チーズとジャム(90分・35mm・カラー)

KAJMAK IN MARMELEDA

2003(監督)ブランコ・ジュリッチ

2

5/16(金)7:00pm [大ホール] 5/17(土)1:00pm [大ホール]

[ルーマニア]

西欧(105分・35mm・カラー) OCCIDENT

2002(監督)クリスティアン・ムンジウ

3

5/17(土)4:00pm [大ホール] 5/27(火)2:00pm [小ホール]

[イタリア]

ヴィットリオ広場のオーケストラ(90分・35mm・カラー)

L'ORCHESTRA DI PIAZZA VITTORIO

2006(監督)アゴスティエーノ・フェッレンテ

4

5/18(日)1:00pm [大ホール] 6/3(火)2:00pm [小ホール]

[スペイン]

タパス(94分・35mm・カラー) TAPAS

2005(監督)ホセ・コルパチョ、ファン・クルス

5

5/20(火)3:00pm [大ホール] 5/31(土)0:00pm [小ホール]

[フランス]

タンギー(109分・35mm・カラー) TANGUY

2001(監督)エティエンヌ・シャティリエーズ

6

5/20(火)7:00pm [大ホール] 5/24(土)3:00pm [小ホール]

[ベルギー]

フラットライフ(11分・35mm・カラー) FLATLIFE

2004(監督)ヨナス・ゲーナート

[ベルギー]

世界は仲間(7分・35mm・カラー) JUST TO BE A PART OF IT

※字幕なし

1997(監督)ゲルト&amp;ペルト・ヴァンゲータム

[ドイツ]

ワン・デイ・イン・ヨーロッパ(100分・35mm・カラー)

ONE DAY IN EUROPE

2005(監督)ハネス・シュテアー

7

5/21(水)3:00pm [大ホール] 5/31(土)3:00pm [小ホール]

[スウェーデン]

エヴァとステファンとすてきな家族(106分・35mm・カラー)

TILLSAMMANS

2000(監督)トーマス・ムーディソン

8

5/21(水)7:00pm [大ホール] 5/24(土)0:00pm [小ホール]

[アイルランド]

麦の穂をゆらす風(127分・35mm・カラー)

THE WIND THAT SHAKES THE BARLEY

2001(監督)ケン・ローチ

9

5/22(木)3:00pm [大ホール] 5/27(木)6:00pm [小ホール]

[リトアニア]

あなたは私(90分・35mm・カラー) AŠ ESI TU

2006(監督)クリスティヨナス・ヴィルジューナス

10

5/22(木)7:00pm [大ホール] 6/1(日)3:00pm [小ホール]

[ポーランド]

エキストラ(119分・35mm・カラー) STATYŚCI

2001(監督)エティエンヌ・シャティリエーズ

11

5/23(金)2:00pm [小ホール] 5/28(水)6:00pm [小ホール]

[ルクセンブルク]

小さな秘密(90分・35mm・カラー) PERL ODER PICA

2006(監督)ボル・クリュシュトン

12

5/23(金)6:00pm [小ホール] 6/3(火)6:00pm [小ホール]

[オーストリア]

シー、ミー&amp;ハー(100分・35mm・カラー)

MEINE SCHWESTER DAS BIEST

2002(監督)ラインハルト・シュヴァーベニツキー

[オーストリア]

コピー・ショップ(12分・35mm・白黒) COPY SHOP

2001(監督)ヴィルギル・ヴィドリヒ

13

5/25(日)0:00pm [小ホール] 5/29(木)6:00pm [小ホール]

[ラトビア]

人質(74分・35mm・カラー) KĪLNIEKS

2006(ラトビア)(監督)ライラ・パカルニニャ

14

5/25(日)3:00pm [小ホール] 6/5(木)6:00pm [小ホール]

[ポルトガル]

オーダーは自殺(88分・35mm・カラー)

SUICÍDIO ENCOMENDADO

2007(監督)アルトゥール・セハ・アラウージョ



15

5/28(水)2:00pm [小ホール] 6/1(日)0:00pm [小ホール]

[ブルガリア]

**レディース・タイム**(92分・35mm・カラー)

VREME ZA ZHENI

2006(監督)イリヤ・コストフ

16

5/29(木)2:00pm [小ホール] 6/4(水)6:00pm [小ホール]

[ハンガリー]

**君の涙 ドナウに流れ ハンガリー 1956**(120分・35mm・カラー)

SZABADSÁG, SZERELEM

2006(監督)クリスティナ・ゴダ

17

5/30(金)2:00pm [小ホール] 6/4(水)2:00pm [小ホール]

[ギリシャ]

**ザ・ベリー・ブアー・インク**(90分・35mm・カラー)

PAMPTOCHI A.E.

2000(監督)アンドニス・コッキノス

18

5/30(金)6:00pm [小ホール] 6/5(木)2:00pm [小ホール]

[英国]

**キンキーブーツ**(107分・35mm・カラー) KINKY BOOTS

2005(監督)ジュリアン・ジャロルド

会 期
平成20年6月3日～平成20年7月20日 (42日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
55作品／52プログラム／126回上映
入館者数
19,434人(1回平均 154人)
新聞・雑誌等における掲載記事
ビデオSALON 6月1日 「スターと監督」
聖教新聞 6月2日 「上映企画 長谷川一夫と衣笠貞之助」
東京新聞 6月10日夕刊 「二枚目と巨匠の足跡たどる『スターと監督 長谷川一夫と衣笠貞之助』」
読売新聞 6月20日夕刊 「特殊上映『スターと監督 長谷川一夫と衣笠貞之助』」
美しいキモノ SUMMER No.224 「スターと監督 『長谷川一夫と衣笠貞之助』」
東京人 8月号 「風街映画館④ 源氏物語千年紀」(松本隆)
ピクトアップ 8月号 「日本映画史に残る最強コンビ！ 黄金時代の輝き！」

## 271 スターと監督 長谷川一夫と衣笠貞之助

前衛的な無声映画『狂った一頁』(1926年)や日本に初のカンヌ映画祭グランプリをもたらした『地獄門』(1953年)等で知られる巨匠監督・衣笠貞之助(1896-1982)と、1927年のデビューより美剣士スターとして爆発的な人気を集め、「二枚目」の代名詞として戦後もトップスターの座に君臨した長谷川一夫(1908-1984)の作品を特集する企画。長谷川一夫の生誕100周年を記念して開催された企画であり、また映画史上有名なスターと監督のコンビを取り上げる初めての試みとなった。

### Hasegawa Kazuo and Kinugasa Teinosuke

This program was organized in conjunction with the centenary of the birth of Hasegawa Kazuo (1908-1984), who enjoyed immense popularity as the beautiful swordsman star since his debut in 1927. Hasegawa continued to reside as the top star in the post-war film industry, lovingly known as the “beau-part actor (nimaimé)” by the public. This was the first attempt for NFC to organize a program dealing with the combined achievement of the actor and director. The director Hasegawa worked with many times is Kinugasa Teinosuke (1896-1982), the master director well known for his avant-garde silent film *Kurutta ichipeiji* (1926) and *Jigokumon* (1953), which brought to Japan a grand prix from the Festival de Cannes for the first time.



1

6/3(火)1:00pm 6/22(日)2:00pm 7/18(木)7:00pm

月形半平太〔ハテベビー短縮版〕(14分・16fps・35mm・無声・白黒)  
'25(聯合映画芸術家協会)(監督)衣笠貞之助

狂った一頁(59分・35mm・サウンド版・白黒)

'26(新感覚派映画聯盟=ナショナルアートフィルム社)(監督)衣笠貞之助

2

6/3(火)4:00pm 6/29(日)5:00pm 7/17(木)4:00pm

天一坊と伊賀之亮(44分・18fps・16mm・無声・白黒・不完全)  
'26(聯合映画芸術家協会)(監督)衣笠貞之助、牧野省三

十字路(47分・35mm・サウンド版・白黒)

'28(衣笠映画聯盟=松竹下加茂)(監督)衣笠貞之助

3

6/3(火)7:00pm 6/28(土)11:00am

風雲城史(68分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'28(衣笠映画聯盟=松竹下加茂)(監督)山崎藤江(出演)林長二郎

4

6/4(水)1:00pm 6/28(土)2:00pm

金色夜叉(76分・24fps・16mm・無声・白黒)  
'32(松竹蒲田)(監督)野村芳亭(出演)林長二郎

5

6/4(水)4:00pm 6/24(火)7:00pm

忠臣蔵(139分・35mm・白黒)  
'32(松竹下加茂)(監督)衣笠貞之助(出演)林長二郎

6

6/4(水)7:00pm 6/29(日)11:00am

私の兄さん(69分・16mm・白黒)  
'34(松竹蒲田)(監督)島津保次郎(出演)林長二郎

7

6/5(木)1:00pm 6/27(金)4:00pm 7/13(日)5:00pm

花婿の寝言(73分・35mm・白黒)  
'35(松竹蒲田)(監督)五所平之助(出演)林長二郎

8

6/5(木)4:00pm 7/4(金)1:00pm 7/20(日)5:00pm

雪之丞変化〔総集篇〕(97分・35mm・白黒)  
'35(松竹下加茂)(監督)衣笠貞之助(出演)林長二郎

9

6/5(木)7:00pm 6/29(日)2:00pm

かごや判官(63分・35mm・白黒)  
'35(松竹下加茂)(監督)冬島泰三(出演)林長二郎

人肌観音 第一編(58分・35mm・白黒)

'37(松竹下加茂)(監督)衣笠貞之助

10

6/6(金)1:00pm 6/28(土)5:00pm

元禄快挙余譚 土屋主税〔落花篇・雪解篇〕(112分・35mm・白黒)  
'37(松竹下加茂)(監督)犬塚稔(出演)林長二郎

11

6/6(金)4:00pm 6/26(木)7:00pm 7/20(日)11:00am

藤十郎の戀(95分・35mm・白黒)  
'38(東宝東京)(監督)山本嘉次郎(出演)長谷川一夫

12

6/6(金)7:00pm 6/25(水)1:00pm

鶴八鶴次郎(88分・35mm・白黒)  
'38(東宝東京)(監督)成瀬巳喜男(出演)長谷川一夫

13

6/7(土)11:00am 6/24(火)1:00pm 7/16(水)4:00pm

喧嘩鳶〔前後篇〕(89分・35mm・白黒)  
'39(東宝東京)(監督)石田民三(出演)長谷川一夫

14

6/7(土)2:00pm 6/25(水)7:00pm 7/18(金)1:00pm

白蘭の歌〔前後篇〕(102分・35mm・白黒)  
'39(東宝東京)(監督)渡邊邦男(出演)長谷川一夫

15

6/7(土)5:00pm 6/24(火)4:00pm 7/17(木)7:00pm

蛇姫様 總輯篇(128分・35mm・白黒)  
'40(東宝東京)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

16

6/10(火)4:00pm 6/27(金)7:00pm

支那の夜〔前後篇〕(126分・35mm・白黒)  
'40(東宝東京)(監督)伏水修(出演)長谷川一夫

17

6/10(火)7:00pm 7/10(木)4:00pm

熱砂の誓ひ〔前後篇〕(123分・35mm・白黒)  
'40(東宝東京)(監督)渡邊邦男(出演)長谷川一夫

18

6/8(日)11:00am 6/26(木)4:00pm 7/16(水)7:00pm

川中島合戦(119分・35mm・白黒)  
'41(東宝東京)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

19

6/8(日)2:00pm 6/27(金)1:00pm

名人長次彫(84分・35mm・白黒)  
'43(東宝)(監督)萩原遼(出演)長谷川一夫

20

6/8(日)5:00pm 6/25(水)4:00pm

伊那節仁義『伊那の勘太郎』改題(68分・35mm・白黒)  
'43(東宝)(監督)瀧澤英輔(出演)長谷川一夫

21

6/10(火)1:00pm 7/9(水)4:00pm 7/12(土)5:00pm

或る夜の殿様(112分・35mm・白黒)  
'46(東宝)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

22

6/11(水)1:00pm 7/6(日)5:00pm

女優(115分・16mm・白黒)  
'47(東宝)(監督)衣笠貞之助

23

6/11(水)4:00pm 7/3(木)1:00pm 7/19(土)2:00pm

銭形平次(83分・35mm・白黒)  
'51(大映京都)(監督)森一生(出演)長谷川一夫

24

6/11(水)7:00pm 7/4(金)4:00pm

源氏物語(123分・35mm・白黒)  
'51(大映京都)(監督)吉村公三郎(出演)長谷川一夫

25

6/12(木)1:00pm 7/5(土)11:00am

修羅城秘聞 双龍の巻(95分・16mm・白黒)  
'52(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

26

6/12(木)4:00pm 7/5(土)2:00pm

續 修羅城秘聞 飛雲の巻(95分・16mm・白黒)  
'52(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

27

6/12(木)7:00pm 7/6(日)11:00am 7/18(金)4:00pm

大佛開眼(128分・35mm・白黒)  
'52(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

28

6/13(金)1:00pm 6/22(日)5:00pm 7/15(火)7:00pm

振袖狂女(96分・35mm・白黒)  
'52(大映京都)(監督)安田公義(出演)長谷川一夫

29

6/14(土)11:00am 7/8(火)1:00pm

地獄門(89分・35mm・カラー)  
'53(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

30

6/14(土)2:00pm 7/4(金)7:00pm 7/15(火)4:00pm

近世名勝負物語 花の講道館(102分・35mm・白黒)  
'53(大映京都)(監督)森一生(出演)長谷川一夫

31

6/14(土)5:00pm 7/2(水)4:00pm 7/17(木)1:00pm

花の長脇差(97分・35mm・白黒)  
'54(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

32

6/13(金)4:00pm 7/10(木)7:00pm

近松物語(101分・35mm・白黒)  
'54(大映京都)(監督)溝口健二(出演)長谷川一夫

33

6/15(日)11:00am 7/11(金)4:00pm 7/16(水)1:00pm

川のある下町の話(108分・16mm・白黒)  
'55(大映東京)(監督)衣笠貞之助

34

6/13(金)7:00pm 7/2(水)1:00pm 7/13(日)2:00pm

薔薇いくたびか(135分・35mm・白黒)  
'55(大映東京)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

35

6/17(火)1:00pm 7/2(水)7:00pm 7/19(土)11:00am

婦系図 湯島の白梅(116分・35mm・白黒)  
'55(大映東京)(監督)衣笠貞之助

36

6/17(火)4:00pm 7/11(金)7:00pm

新・平家物語 義仲をめぐる三人の女(119分・35mm・カラー)  
'56(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

37

6/17(火)7:00pm 7/10(木)1:00pm 7/20(日)2:00pm

火花(101分・35mm・白黒)  
'56(大映東京)(監督)衣笠貞之助

38

6/15(日)2:00pm 7/9(水)7:00pm 7/15(火)1:00pm

月形半平太 花の巻 嵐の巻(109分・35mm・カラー)  
'56(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

39

6/18(水)1:00pm 7/1(火)7:00pm

鳴門秘帖(101分・35mm・カラー)  
'57(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

40

6/18(水)4:00pm 7/3(木)7:00pm 7/19(土)5:00pm

源氏物語 浮舟(118分・35mm・カラー)

'57(大映京都)(監督)衣笠貞之助(出演)長谷川一夫

41

6/19(木)3:30pm 7/8(火)6:30pm

忠臣蔵(164分・35mm・カラー)

'58(大映京都)(監督)渡辺邦男(出演)長谷川一夫

42

6/15(日)5:00pm 6/26(木)1:00pm

大阪の女(104分・35mm・カラー)

'58(大映東京)(監督)衣笠貞之助

43

6/19(木)1:00pm 7/1(火)4:00pm 7/13(日)11:00am

白鷺(97分・35mm・カラー)

'58(大映東京)(監督)衣笠貞之助

44

6/18(水)7:00pm 7/6(日)2:00pm

春高樓の花の宴(111分・35mm・カラー)

'58(大映東京)(監督)衣笠貞之助

45

6/19(木)7:00pm 7/12(土)2:00pm

情炎(115分・35mm・カラー)

'59(大映東京)(監督)衣笠貞之助

46

6/20(金)1:00pm 7/5(土)5:00pm

かげろう絵図(117分・35mm・カラー)

'59(大映京都)(監督)衣笠貞之助

47

6/20(金)4:00pm 7/12(土)11:00am

歌行燈(113分・35mm・カラー)

'60(大映東京)(監督)衣笠貞之助

48

6/21(土)11:00am 7/3(木)4:00pm

みだれ髪(95分・35mm・カラー)

'61(大映東京)(監督)衣笠貞之助

49

6/21(土)2:00pm 7/9(水)1:00pm

お琴と佐助(94分・35mm・カラー)

'61(大映東京)(監督)衣笠貞之助

50

6/20(金)7:00pm 7/1(火)1:00pm

雪之丞変化(113分・35mm・カラー)

'63(大映京都)(監督)市川崑(出演)長谷川一夫

51

6/21(土)5:00pm 7/8(火)4:00pm

江戸無情(85分・35mm・白黒)

'63(大映京都)(監督)西山正輝(出演)長谷川一夫

52

6/22(日)11:00am 7/11(金)1:00pm

小さい逃亡者(110分・35mm・カラー)

'66(ゴロッキー＝大映東京)(監督)衣笠貞之助、エドアルド・ポチャロフ

会 期
平成20年6月24日～平成20年7月18日 (22日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター ぴあ株式会社
作品数・上映回数
40作品/22プログラム/44回上映
入館者数
1,302人(1回平均 30人)
新聞・雑誌等における掲載記事
日本経済新聞 5月12日夕刊 「邦画監督の雄 育て支える ぴあ映画祭、30回迎える」(窪田直子)
R25 6月19日 「自主制作映画登竜門の歴史を観る 『ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.1』」
朝日新聞 6月23日 「入選監督 次々と開花」(長谷川千尋)
Weeklyぴあ 6月26日 「名画の聖地で PFF回顧上映開催 現在進行形のムーヴメントに迫る」
読売新聞 7月4日夕刊 「自主映画の特集上映」
赤旗 7月6日 「文化短信 PFF 30回記念・ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.1」

## 272 日本インディペンデント映画史シリーズ① PFF30回記念 ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.1

8mmや16mmなど「自主映画」のコンペティションを実施して、平成21年度で30回目を迎える「ぴあフィルムフェスティバル (PFF)」の歴史を回顧する特集。ぴあ株式会社との共同主催により歴代の入選作を上映しながら、新たな才能を発見する場所であると同時に、現在の日本映画を支える映画監督たちの映画界への登竜門としても知られているPFFの歴史を振り返るもので、フィルムセンターが映画産業の枠外で製作された企業外映画を本格的に取り上げる「日本インディペンデント映画史シリーズ」の第1回目となった。

### The History of Japanese Independent Cinema I Retrospective of Pia Film Festival vol.1

This is a retrospective of Pia Film Festival (PFF), known for its competitions of “independent films” in 8mm and 16mm formats, which marks its 30th anniversary in 2009. NFC co-organized this event with Pia Corporation. The program screened the award winning films of each year and by doing so, looked back at the history of PFF that is well known as the venue to discover new talents, many of who later became the important filmmakers at the center of the Japanese film industry. The program also marked the first of the series, the History of Japanese Independent Cinema, the new series at NFC that showcases the films that were produced outside of the commercial film industry.



1

6/24(火) 2:00pm 7/13(日)0:00pm

ユキガロックを棄てた夏(70分・16mm・白黒)

'78(監督)長崎俊一

2

6/24(火) 6:00pm 7/6(日)0:00pm

ライブイン茅ヶ崎(85分・8mm・カラー) \*デジタル素材での上映

'78(監督)森田芳光

3

6/25(水) 2:00pm 7/12(土)0:00pm

突撃! 博多愚連隊(67分・8mm・カラー) \*デジタル素材での上映

'78(狂映舎)(監督)石井聰互

4

6/25(水) 6:00pm 7/8(火)2:00pm

ORANGING '79(25分・8mm・カラー)

'79(監督)今関あきよし

スバルの夜(25分・8mm・カラー)

'79(銀河画報社)(監督)山田勇男

5

6/26(木) 2:00pm 7/8(火)6:00pm

UNK(15分・8mm・カラー)

'79(監督)手塚真

錆びた缶空(59分・8mm・カラー)

'79(狂映舎)(監督)松井良彦

6

6/26(木) 6:00pm 7/6(日)3:00pm

放課後(1分・8mm・カラー)

'80(監督)倉田恵子

おろち(4分・16mm・カラー)

'78(監督)宇田川幸洋

気分を変えて?(30分・8mm・カラー)

'78(法政一高シネマ・ド・ヒマゴ)(監督)犬童一心

教訓 I (35分・8mm・カラー)

'80(熱血笹平組&amp;放浪舎)(監督)笹平剛

7

6/27(金) 2:00pm 7/13(日)3:00pm

まじかよ?(10分・8mm・カラー)

'80(監督)芹沢洋一郎

ピハインド(60分・8mm・パートモノクロ)

'78(早大シネ研タコス)(監督)山川直人

8

6/27(金)6:00pm 7/12(土)3:00pm

休憩(10分・8mm・カラー)

'80(監督)飯田譲治

東京白菜関K者(62分・8mm・カラー) \*デジタル素材での上映

'80(ダイナマイトプロ)(監督)緒方明

9

6/28(土) 0:00pm 7/9(水)2:00pm

海辺の記憶(5分・8mm・カラー)

'82(監督)山崎幹夫

バスクリナイト(28分・8mm・カラー)

'83(監督)香川まさひと

吊首轟太郎の青春(35分・8mm・カラー)

'84(監督)クマガイコウキ

10

6/28(土) 3:00pm 7/11(金)2:00pm

田舎の法則(25分・16mm・白黒)

'83(監督)松岡錠司

リトル・ウィング(70分・8mm・カラー)

'81(監督)島田元

11

6/29(日) 0:00pm 7/15(火)6:00pm

ミミズのうた(80分・8mm・カラー)

'82(監督)佐野和宏

12

6/29(日) 3:00pm 7/18(金)6:00pm

少年たちの夢(19分・8mm・カラー)

'81(監督)関根博之

雨(25分・8mm・カラー)

'81(監督)小口詩子

デッド・エンドレス(12分・8mm・カラー)

'83(監督)竹平時夫

0×0(ゼロカケルコトノゼロ)(22分・8mm・カラー)

'83(監督)風間志織

13

7/1(火) 2:00pm 7/16(水)6:00pm

ファララ(65分・8mm・カラー) \*デジタル素材での上映

'83(監督)塩田明彦

14

7/1(火)6:00pm 7/10(木)2:00pm

肉体労働者が空を飛ぶ時、窓ぎわのコーちゃんに恐怖の暗躍団が迫る!!(78分・8mm・カラー)

'83(Y.Y PRODUCTION)(監督)西尻幸嗣、内田勇治

15

7/2(水) 2:00pm 7/17(木)6:00pm

家、回帰(18分・8mm・カラー)

'84(監督)石井秀人

変形作品第2番(30分・8mm・カラー)

'84(監督)黒坂圭太

二度と目覚めぬ子守唄(27分・8mm・カラー)

'85(監督)原田浩

16

7/2(水) 6:00pm 7/15(火)2:00pm

うしろあたま(124分・8mm・パートモノクロ)

'84(監督)斎藤久志

17

7/3(木)2:00pm 7/11(金)6:00pm

はなされるGANG(85分・8mm・カラー) \*デジタル素材での上映

'84(監督)諏訪敦彦

18

7/3(木)6:00pm 7/16(水)2:00pm

時を駆ける症状 The message from subway(24分・8mm・カラー)

'84(C・C・C)(監督)七里圭

狂った触角(57分・8mm・カラー)

'84(監督)平野勝之

19

7/4(金)2:00pm 7/9(水)6:00pm

いそげブライアン(67分・8mm・カラー)

'85(監督)小松隆志

20

7/4(金) 6:00pm 7/17(木)2:00pm

俺は園子温だ!!(32分・8mm・カラー)

'84(監督)園子温

にっぽにーず・がーる(59分・8mm・カラー)

'84(Golden Partners Company)(監督)常本琢招

21

7/5(土)0:00pm 7/18(金)2:00pm

みどり女(135分・8mm・カラー)

'85(監督)成島出

22

7/5(土)3:00pm 7/10(木)6:00pm

ヒッチハイク・ブレイク(9分・8mm・カラー)

'84(監督)武吉伸治

ヒュルル…1985(56分・8mm・カラー)

'85(監督)橋口亮輔



会 期
平成20年7月25日～平成20年9月28日 (57日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター 財団法人川喜多記念映画文化財団
作品数・上映回数
59作品／57プログラム／171回上映
入館者数
29,163人(1回平均 171人)
新聞・雑誌等における掲載記事
葛西新聞 7月18日 「生誕100年 川喜多かしくとヨーロッパ映画の黄金時代」
VARIETY 7月16日 「川喜多かしくさん トリビュート、カンヌで“閉幕”」
新潟日報 7月22日 「輝く映画一筋の人生 25日から『生誕100年』川喜多かしく展」
神奈川新聞 7月24日 「鎌倉ゆかりの川喜多かしくさん生誕100年 欧州の名作を日本に紹介」
中国新聞 7月25日 「川喜多かしくさん生誕100年 欧州映画輸入に献身 東京で企画展や上映」
映像新聞 7月28日 「東和配給の欧州映画を上映 川喜多かしくの生誕100年を記念し開催」
公明新聞 8月3日 「日本の映画大使 川喜多かしく 生誕100年に思う」(佐藤忠男)
The Asahi Shinbun 8月15日 「CLASSIC CINEMA SCREENINGS」
赤旗 8月31日 「生誕100年 川喜多かしくとヨーロッパ映画の黄金時代」
シアターガイド 8月 「生誕100年 川喜多かしくとヨーロッパ映画の黄金時代」
東京新聞 9月18日 「生誕100年 川喜多かしくとヨーロッパ映画の黄金時代」
FRNC-PARLER 9月号 「生誕100年 川喜多かしくとヨーロッパ映画の黄金時代」
文化庁月報 9月号 「生誕100年 川喜多かしくとヨーロッパ映画の黄金時代」
聖教新聞 10月1日 「世界と日本を結んだ映画人 川喜多かしくさん」(高野悦子)

## 273 生誕100年 川喜多かしくとヨーロッパ映画の黄金時代

東和商事(現・東宝東和)の社長で夫の川喜多長政とともに、戦前より数々の優れたヨーロッパ映画を日本に輸入するかわら、日本映画の海外への普及や、「アート・シアター」運動、「フィルム・ライブラリー」運動にも先駆的な役割を果たした川喜多かしく(1908-1993)の生誕100年を記念した企画である。川喜多記念映画文化財団との共同開催により、かしく夫人が初めて輸入にかかわった『制服の処女』(1931年)等のドイツ映画をはじめ、30年代のフランス映画、戦後のイギリス映画等、東和の配給で紹介された作品59本を上映した。

Madame Kawakita:

L'Ambassadrice cinématographique du film européen

This program commemorates the centenary of Kawakita Kashiko's birth (1908-1993). Together with her husband Kawakita Nagamasa, the president of Towa Shoji (currently Toho-Towa), Kawakita Kashiko imported a number of strong European films to Japan since the pre-war era. In addition, she brought many Japanese films to international markets. She also made pioneering contributions to "art theater" movement and "film library" movement. Co-organized with Kawakita Memorial Film Institute, this program screened 59 films, the 1930s German and French films as well as the post-war British titles that were originally distributed by Towa. *Mädchen In Uniform* (1931), the first film Madame Kawakita worked on to import to Japan, was included in the program.



1

7/25(金)0:30pm 8/21(木)4:00pm 9/7(日)5:00pm

アスファルト(117分・18fps・35mm・無声・白黒) \*日本語インタータイトルのみ

ASPHALT

'29(ドイツ)(監督)ヨーエ・マイ

2

7/25(金)3:30pm 8/17(日)5:00pm 9/17(水)7:00pm

月世界の女(147分・20fps・35mm・無声・白黒) \*英語インタータイトル/日本語字幕付き

FRAU IM MOND

'29(ドイツ)(監督)フリッツ・ラング

3

7/25(金)7:00pm 8/23(土)11:00am 9/10(水)1:00pm

嘆きの天使(107分・35mm・白黒) DER BLAUE ENGEL

'30(ドイツ)(監督)ジョゼフ・フォン・スタンパーグ

4

7/26(土)11:00am 8/19(火)1:00pm 9/10(水)4:00pm

ル・ミリオン(84分・35mm・白黒) LE MILLION

'31(フランス)(監督)ルネ・クレール

5

7/26(土)2:00pm 8/20(水)4:00pm 9/7(日)11:00am

自由を我等に(88分・35mm・白黒) À NOUS LA LIBERTÉ

'31(フランス)(監督)ルネ・クレール

6

7/26(土)5:00pm 8/21(木)7:00pm 9/14(日)2:00pm

制服の処女(89分・35mm・白黒) MÄDCHEN IN UNIFORM

'31(ドイツ)(監督)レオンティーネ・ザガン

7

7/27(日)11:00am 8/19(火)4:00pm 9/10(水)7:00pm

会議は踊る(91分・35mm・白黒) DER KONGRESS TANZT

'31(ドイツ)(監督)エリック・シャレル

8

7/27(日)2:00pm 8/20(水)1:00pm 9/9(火)7:00pm

少年探偵団(73分・35mm・白黒) EMIL UND DIE DETEKTIVE

'31(ドイツ)(監督)ゲルハルト・ランプレヒト

9

7/27(日)5:00pm 8/22(金)7:00pm 9/13(土)2:00pm

にんじん(92分・35mm・白黒) POIL DE CAROTTE

'32(フランス)(監督)ジュリアン・デュヴィヴィエ

10

7/29(火)1:00pm 8/17(日)2:00pm 9/11(木)4:00pm

ドン・キホーテ(85分・35mm・白黒) DON QUICHOTTE

'33(フランス)(監督)ゲオルグ＝ヴィルヘルム・パプスト

11

7/29(火)4:00pm 8/17(日)11:00am 9/12(金)1:00pm

商船テナシチー(73分・35mm・白黒)

LE PAQUEBOT TENACITY

'34(フランス)(監督)ジュリアン・デュヴィヴィエ

12

7/29(火)7:00pm 8/16(土)5:00pm 9/17(水)4:00pm

モンブランの王者(81分・35mm・白黒)

DER EWIGE TRAUM (DER KÖNIG DES MONT BLANC)

'34(ドイツ)(監督)アーノルト・ファンク

13

7/30(水)1:00pm 8/16(土)2:00pm 9/11(木)7:00pm

最後の億万長者(89分・35mm・白黒)

LE DERNIER MILLIARDAIRE

'34(フランス)(監督)ルネ・クレール

14

7/30(水)4:00pm 8/23(土)2:00pm 9/12(金)7:00pm

未完成交響楽(88分・35mm・白黒)

LEISE FLEHEN MEINE LIEDER

'33(ドイツ＝オーストリア)(監督)ヴィリ・フォルスト

15

7/30(水)7:00pm 8/24(日)2:00pm 9/9(火)1:00pm

たそがれの維納(99分・35mm・白黒) MASKERADE

'34(オーストリア)(監督)ヴィリ・フォルスト

16

7/31(木)1:00pm 8/24(日)5:00pm 9/12(金)4:00pm

ミモザ館(112分・35mm・白黒) PENSION MIMOSAS

'34(フランス)(監督)ジャック・フェデー

17

7/31(木)4:00pm 8/23(土)5:00pm 9/16(火)7:00pm

三十九夜(86分・35mm・白黒) 39 STEPS

'35(イギリス)(監督)アルフレッド・ヒッチコック

18

7/31(木)7:00pm 8/30(土)2:00pm 9/9(火)4:00pm

上から下まで(81分・35mm・白黒) DU HAUT EN BAS

'33(フランス)(監督)ゲオルグ＝ヴィルヘルム・パプスト

19

8/1(金)1:00pm 8/30(土)5:00pm 9/16(火)4:00pm

マヅルカ(94分・35mm・白黒) MAZURKA

'35(ドイツ)(監督)ヴィリ・フォルスト

20

8/1(金)4:00pm 9/4(木)7:00pm 9/13(土)5:00pm

女だけの都(101分・35mm・白黒)

LA KERMESSE HÉROÏQUE

'35(フランス)(監督)ジャック・フェデー

21

8/1(金)7:00pm 8/31(日)2:00pm 9/16(火)1:00pm

赤ちゃん(95分・35mm・白黒) LE MIOCHE  
'37(フランス)(監督)レオニード・モギー

22

8/2(土)11:00am 8/19(火)7:00pm 9/17(水)1:00pm

ブルグ劇場(122分・35mm・白黒) BURGTHEATER  
'36(オーストリア)(監督)ヴァリ・フォルスト

23

8/2(土)2:00pm 8/22(金)1:00pm 9/18(木)4:00pm

民族の祭典 オリンピア 第1部(85分・35mm・白黒)  
FEST DER VÖLKER-OLYMPIA FILM TEIL I  
'38(ドイツ)(総指揮)レニ・リーフェンシュタール

24

8/2(土)5:00pm 8/22(金)4:00pm 9/18(木)7:00pm

美の祭典 オリンピア 第2部(81分・35mm・白黒)  
FEST DER SCHÖNHEIT-OLYMPIA FILM TEIL II  
'38(ドイツ)(総指揮)レニ・リーフェンシュタール

25

8/3(日)11:00am 8/21(木)1:00pm 9/19(金)7:00pm

うたかたの恋(82分・35mm・白黒) MAYERLING  
'37(フランス)(監督)アナトール・リトヴァク

26

8/3(日)1:00pm 8/26(火)0:00pm 9/23(火・祝)4:30pm

天井桟敷の人々(186分・35mm・白黒)  
LES ENFANTS DU PARADIS  
'45(フランス)(監督)マルセル・カルネ

27

8/3(日)5:00pm 8/27(水)4:00pm 9/19(金)1:00pm

ホフマン物語(111分・35mm・カラー)  
TALES OF HOFFMANN  
'51(イギリス)(監督)マイケル・パウエル、エメリック・プレスバ  
ーガー

28

8/5(火)1:00pm 8/27(水)7:00pm 9/28(日)2:00pm

巴里の空の下セーヌは流れる(117分・35mm・白黒)  
SOUS LE CIEL DE PARIS COULE LA SEINE  
'51(フランス)(監督)ジュリアン・デュヴィヴィエ

29

8/5(火)4:00pm 8/24(日)11:00am 9/24(水)7:00pm

第三の男(101分・35mm・白黒) THE THIRD MAN  
'49(イギリス)(監督)キャロル・リード

30

8/5(火)7:00pm 8/16(土)11:00am 9/26(金)4:00pm

禁じられた遊び(87分・35mm・白黒) JEUX INTERDITS  
'52(フランス)(監督)ルネ・クレマン

31

8/6(水)1:00pm 8/31(日)11:00am 9/25(木)4:00pm

三文オペラ(94分・35mm・カラー) THE BEGGER'S OPERA  
'53(イギリス)(監督)ピーター・ブルック

32

8/6(水)4:00pm 9/5(金)1:00pm 9/28(日)11:00am

陽気なドン・カミロ(107分・35mm・白黒)  
LE PETIT MONDE DE DON CAMILLO  
'53(フランス=イタリア)(監督)ジュリアン・デュヴィヴィエ

33

8/6(水)7:00pm 9/6(土)11:00am 9/26(金)1:00pm

青い麦(108分・35mm・白黒) LE BLÉ EN HERBE  
'53(フランス)(監督)クロード・オータン=ララ

34

8/7(木)1:00pm 9/6(土)2:00pm 9/24(水)4:00pm

たそがれの女心(99分・35mm・白黒) MADAME DE...  
'53(フランス=イタリア)(監督)マックス・オフルス

35

8/7(木)4:00pm 8/29(金)1:00pm 9/27(土)5:00pm

悪魔のような女(117分・35mm・白黒)  
LES DIABOLIQUES  
'54(フランス)(監督)アンリ=ジョルジュ・クルーゾー

36

8/7(木)7:00pm 8/27(水)1:00pm 9/21(日)2:00pm

われら巴里ッ子(107分・35mm・白黒) L'AIR DE PARIS  
'54(フランス)(監督)マルセル・カルネ

37

8/8(金)0:30pm 9/3(水)6:30pm 9/21(日)4:30pm

ワルツ合戦(91分・35mm・白黒) WALZERKRIEG  
'33(ドイツ)(監督)ルードヴィッヒ・ベルガー

38

8/8(金)4:00pm 9/6(土)5:00pm 9/25(木)7:00pm

わが青春のマリアンヌ(106分・35mm・白黒)  
MARIANNE DE MA JEUNESSE  
'55(フランス)(監督)ジュリアン・デュヴィヴィエ

39

8/8(金)7:00pm 8/28(木)1:00pm 9/23(火・祝)2:00pm

沈黙の世界(82分・35mm・カラー・吹替)  
LE MONDE DU SILENCE  
'55(フランス)(監督)ジャック=イヴ・クストー

40

8/9(土)11:00am 8/28(木)4:00pm 9/26(金)7:00pm

居酒屋(117分・35mm・白黒) GERVAISE  
'56(フランス)(監督)ルネ・クレマン

41

8/9(土)2:00pm 8/26(火)7:00pm 9/19(金)4:00pm

ピカソ―天才の秘密(74分・35mm・パートカラー・吹替)  
LE MYSTÈRE PICASSO  
'56(フランス)(監督)アンリ＝ジョルジュ・クルーゾー

42

8/9(土)5:00pm 8/29(金)7:00pm 9/24(水)1:00pm

宿命(128分・35mm・白黒) CELUI QUI DOIT MOURIR  
'57(フランス＝イタリア)(監督)ジュールス・ダッシン

43

8/10(日)11:00am 8/29(金)4:00pm 9/18(木)1:00pm

リラの門(98分・35mm・白黒) PORTE DES LILAS  
'57(フランス)(監督)ルネ・クレール

44

8/10(日)2:00pm 8/26(火)4:00pm 9/25(木)1:00pm

眼には眼を(110分・35mm・カラー) OEIL POUR OEIL  
'57(フランス＝イタリア)(監督)アンドレ・カイヤット

45

8/10(日)5:00pm 9/3(水)4:00pm 9/11(木)1:00pm

いとこ同志(109分・35mm・白黒) LES COUSINS  
'59(フランス)(監督)クロード・ジャブロール

46

8/12(火)1:00pm 9/5(金)4:00pm 9/20(土)2:00pm

あこがれ(25分・35mm・白黒) LES MISTONS  
'58(フランス)(監督)フランソワ・トリュフォー

大人は判ってくれない(98分・35mm・白黒)

LES QUATRE CENT COUPS

'59(フランス)(監督)フランソワ・トリュフォー

47

8/12(火)4:00pm 9/5(金)7:00pm 9/14(日)11:00am

喜劇の黄金時代(78分・35mm・白黒・フランス語版)  
LA GRANDE ÉPOQUE (GOLDEN AGE OF COMEDY)  
'57(アメリカ)(監督)ロバート・ヤングソン

48

8/12(火)7:00pm 8/31(日)5:00pm 9/27(土)2:00pm

尼僧ヨアンナ(108分・35mm・白黒)  
MATKA JOANNA OD ANIOŁÓW  
'61(ポーランド)(監督)イエジー・カワレロウィッチ

49

8/13(水)1:00pm 9/4(木)4:00pm 9/13(土)11:00am

夜(121分・35mm・白黒) LA NOTTE  
'60(イタリア)(監督)ミケランジェロ・アントニオーニ

50

8/13(水)4:00pm 9/2(火)1:00pm 9/20(土)5:00pm

アレクサンドル・ネフスキー(108分・35mm・白黒)  
ALEXANDER NEVSKY  
'38(ソ連)(監督)セルゲイ・エイゼンシュテイン、ドミトリー・ワ  
シーリエフ

51

8/13(水)7:00pm 9/4(木)1:00pm 9/23(火・祝)11:00am

新・七つの大罪(111分・35mm・白黒)  
LES SEPT PÉCHÉS CAPITAUX  
'62(フランス＝イタリア)(監督)シルヴァン・ドム、エドゥアール・  
モリナロ、フィリップ・ド・ブロカ、クロード・ジャブロール、ジャッ  
ク・ドゥミ、ジャン＝リュック・ゴダール、ロジェ・ヴァディム

52

8/14(木)1:00pm 9/2(火)4:00pm 9/20(土)11:00am

ふくろうの河(28分・35mm・白黒) LA RIVIÈRE DU HIBOU  
'61(フランス)(監督)ロベール・アンリコ

いぬ(107分・35mm・白黒) LE DOULOS

'62(フランス)(監督)ジャン＝ピエール・メルヴィル

53

8/14(木)4:00pm 9/2(火)7:00pm 9/28(日)5:00pm

第七の封印(97分・35mm・白黒) DETS JUNDE INSEGLET  
'57(スウェーデン)(監督)イングマール・ベルイマン

54

8/14(木)7:00pm 9/3(水)1:00pm 9/27(土)11:00am

アメリカの影(81分・35mm・白黒)  
SHADOWS  
'60(アメリカ)(監督)ジョン・カサヴェテス

55

8/15(金)1:00pm 8/28(木)7:00pm 9/27(日)11:00am

反撥(103分・35mm・白黒)  
REPULSION  
'65(イギリス)(監督)ロマン・ポランスキー

56

8/15(金)4:00pm 8/20(水)7:00pm 9/14(日)5:00pm

赤い砂漠(116分・35mm・カラー) IL DESERT ROSSO  
'64(イタリア＝フランス)(監督)ミケランジェロ・アントニオーニ

57

8/15(金)7:00pm 8/30(土)11:00am 9/7(日)2:00pm

バルタザールどこへ行く(95分・35mm・白黒)  
AU HASARD BALTHAZAR  
'64(フランス＝スウェーデン)(監督)ロベール・ブレッソン

会 期
平成20年8月22日～平成20年9月7日 (9日間)※金、土、日のみ上映
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
17作品／16プログラム／18回上映
入館者数
2,278人(1回平均 127人)
新聞・雑誌等における掲載記事
テレビブロス 8月16日 「活弁世界傑作 劇場 『洲崎パラダイス赤信号』(山田広 野) 映像新聞 8月25日 「2007年度の上映作 品をアンコール NFC」

## 274 《京橋映画小劇場No.11》 アンコール特集：2007年度上映作品より

前年度に上映して満席を記録した作品等、特に人気が高かった作品を再上映する企画で、平成20年度で3回目を迎えた。2007年度の上映データを検討して17作品を選定し16プログラムに構成、1プログラムにつき1回の上映を基本としたが、入場者の特に多かった『洲崎パラダイス 赤信号』(1956年)と『喜劇 とんかつ一代』(1963年)の2作品については、それぞれ2回の上映を行った。

### 《Kyobashi-za No.11》

#### Back by Popular Demand: From the Programs of 2007

This is the series that re-screen the films that were especially popular in the programs of the previous year, including those with the full-house audience. In its third installment in 2008, the event composed of 17 select films from 2007 which were screened in 16 programs. The films included *Suzaki Paradaisu Akashingo* (1956) and *Kigeki Tonkatsu Ichidai* (1963), among others.



1

8/22(金)6:00pm

にっぽん昆虫記(123分・35mm・白黒)  
'63(日活)(監督)今村昌平

2

8/23(土)0:00pm

女優と名探偵(31分・35mm・白黒)  
'50(松竹大船)(監督)川島雄三

天使も夢を見る(84分・35mm・白黒)

'51(松竹大船)(監督)川島雄三

3

8/22(金)2:00pm 9/7(日)0:00pm

洲崎パラダイス 赤信号(81分・35mm・白黒)  
'56(日活)(監督)川島雄三

4

8/23(土)3:00pm

幕末太陽傳(110分・35mm・白黒)  
'57(日活)(監督)川島雄三

5

8/24(日)0:00pm

グラマ島の誘惑(105分・35mm・カラー)  
'59(東京映画)(監督)川島雄三

6

8/24(日)3:00pm

貸間あり(112分・35mm・白黒)  
'59(宝塚映画)(監督)川島雄三

7

8/29(金)6:00pm

女は二度生まれる(99分・35mm・カラー)  
'61(大映東京)(監督)川島雄三

8

8/30(土)0:00pm

雁の寺(98分・35mm・パートカラー)  
'62(大映京都)(監督)川島雄三

9

8/30(土)3:00pm

青べか物語(100分・35mm・カラー)  
'62(東京映画)(監督)川島雄三

10

8/29(金)2:00pm 9/7(日)3:00pm

喜劇 とんかつ一代(94分・35mm・カラー)  
'63(東京映画)(監督)川島雄三

11

8/31(日)0:00pm

秋日和(128分・35mm・カラー)  
'60(松竹大船)(監督)小津安二郎

12

8/31(日)3:00pm

黄色い風土(90分・35mm・白黒)  
'61(ニュー東映東京)(監督)石井輝男

13

9/5(金)2:00pm

牝犬(100分・35mm・白黒)  
'51(大映東京)(監督)木村恵吾

14

9/6(土)0:00pm

卍(90分・35mm・カラー)  
'64(大映東京)(監督)増村保造

15

9/5(金)6:00pm

飢餓海峡(182分・35mm・白黒)  
'65(東映)(監督)内田吐夢

16

9/6(土)3:00pm

浪人街(110分・35mm・白黒)  
'57(松竹)(監督)マキノ雅弘

会 期
平成20年10月7日～平成20年10月25日 平成20年10月28日～平成20年11月21日 (39日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
61作品/56プログラム/112回上映
入館者数
15,990人(1回平均143人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 9月16日夕刊 「スターと監督 大河内傳次郎と伊藤大輔」 全私学新聞 10月13日 「スターと監督 上映中」 世界日報 10月19日 「大河内傳次郎と 伊藤大輔」 東京人 10月号 No.259 「やくざ・任 侠映画の興隆と終焉。 侠客道から集団抗 争へ」(木全公彦) 日本経済新聞 11月25日夕刊 「押し入 れ」8ミリ 地域の宝物に」 ビデオSALON 11月 「生誕110周年 ス ターと監督 大河内傳次郎と伊藤大輔」

## 275 生誕110周年 スターと監督 大河内傳次郎と伊藤大輔

「旧劇」の伝統に映画独自の話法や表現を開拓し、「時代劇映画」の確立に大きな役割を果たした巨匠監督・伊藤大輔(1898-1981)と、丹下左膳の当り役でも知られる時代劇の大スター・大河内傳次郎(1898-1962)の生誕110周年を記念して、その業績を現存するフィルムで回顧する特集。映画史上有名なスターと監督のコンビを取り上げる初めての試みは、先の「長谷川一夫と衣笠貞之助」に続くものである。

### Okochi Denjiro and Ito Daisuke in Celebration of the 110th Anniversary of their Birth

Following Hasegawa *Kazuo and Kinugasa Teinosuke*, this program also showcased the achievements of the combination of a famous film star and a director through extant films. The director is Ito Daisuke (1898-1981) who made a big contribution to the establishment of “*jidaigeki eiga* (period films)” by inventing the uniquely cinematic narrative methods and expressions and adding them to the tradition of “*kyugeki* (old theater).” The star is Okochi Denjiro (1898-1962) whose famous roles in the period films include the especially successful Tange Sazen. The program commemorated the 110th anniversary of Okochi’s birth.



## ◆無声映画プログラム

★印の回は、弁士・伴奏付き上映

1

10/21(火)3:00pm 10/23(木)7:00pm ★[弁士：澤登翠、伴奏：柳下美恵(ピアノ)]

**忠次旅日記**(94分・18fps・35mm・無声・染色・不完全)  
'27(日活大將軍)(監督)伊藤大輔(出演)大河内傳次郎

2

10/21(火)7:00pm ★[弁士：澤登翠、伴奏：湯浅ジョウイチ(ギター)、鈴木真紀子(フルート)] 10/24(金)3:00pm

**地雷火組**(31分・18fps・35mm・無声・白黒・部分)  
'27-28(日活京都)(監督)池田富保(出演)大河内傳次郎

**弥次喜多 伏見鳥羽の巻**(23分・16fps・35mm・無声・白黒・部分)  
'28(日活太秦)(監督)池田富保(出演)大河内傳次郎

**斬人斬馬剣**(26分・18fps・35mm・無声・白黒・部分)  
'29(松竹京都)(監督)伊藤大輔

3

10/22(水)3:00pm 10/24(金)7:00pm ★[弁士：澤登翠、伴奏：柳下美恵(ピアノ)]

**長恨**(12分・18fps・35mm・無声・染色・部分)  
'26(日活大將軍)(監督)伊藤大輔(出演)大河内傳次郎

**御誂次郎吉格子**(80分・18fps・35mm・無声・白黒)  
'31(日活太秦)(監督)伊藤大輔(出演)大河内傳次郎

4

10/22(水)7:00pm ★[弁士：澤登翠、伴奏：新垣隆(ピアノ)]  
10/23(木)3:00pm

**水戸黄門 血刃の巻**(92分・18fps・35mm・無声・白黒)  
'35(日活京都)(監督)荒井良平(出演)大河内傳次郎

5

10/25(土)4:00pm ★[弁士：澤登翠、伴奏：湯浅ジョウイチ(ギター)、鈴木真紀子(フルート)]

**薩摩飛脚**(86分・24fps・35mm・無声・白黒)  
'38(新興キネマ京都)(監督)伊藤大輔

## ◆トーキー映画プログラム

6

10/25(土)1:00pm 11/4(火)1:00pm

**丹下左膳 第1篇**(45分・35mm・白黒・部分)  
'33(日活太秦)(監督)伊藤大輔(出演)大河内傳次郎

**新編 丹下左膳 隻眼の巻**(62分・35mm・白黒・不完全)  
'39(東宝東京)(監督)中川信夫(出演)大河内傳次郎

7

10/7(火)1:00pm 11/1(土)2:00pm

**お六櫛**(80分・16mm・白黒)  
'35(第一映画)(監督)伊藤大輔

8

10/7(火)4:00pm 11/2(日)11:00am

**丹下左膳餘話 百萬兩の壺**(91分・35mm・白黒)  
'35(日活京都)(監督)山中貞雄(出演)大河内傳次郎

9

10/7(火)7:00pm 11/8(土)11:00am

**大菩薩峠 甲源一刀流の巻**(77分・35mm・白黒)  
'35(日活京都)(監督)稲垣浩(出演)大河内傳次郎

10

10/8(水)1:00pm 11/2(日)2:00pm

**小平太何処へ行く** [『四十八人目』改題再公開版]  
(91分・16mm・白黒)  
'36(第一映画)(監督)伊藤大輔

11

10/8(水)4:00pm 11/8(土)2:00pm

**南國太平記 前篇**(101分・35mm・白黒)  
'37(J.O.スタジオ)(監督)並木鏡太郎(出演)大河内傳次郎

12

10/8(水)7:00pm 11/9(日)11:00am

**巨人傳**(127分・35mm・白黒)  
'38(東宝東京)(監督)伊丹万作(出演)大河内傳次郎

13

10/9(木)1:00pm 11/2(日)5:00pm

**鞍馬天狗 黄金地獄** [『鞍馬天狗』改題再公開版] (90分・35mm・白黒)  
'42(大映京都)(監督)伊藤大輔

14

10/9(木)4:00pm 11/4(火)7:00pm

**ハワイ・マレー沖海戦**(116分・35mm・白黒)  
'42(東宝)(監督)山本嘉次郎(出演)大河内傳次郎

15

10/9(木)7:00pm 11/5(水)1:00pm

**姿三四郎**(91分・35mm・白黒)  
'43(東宝)(監督)黒澤明(出演)大河内傳次郎

16

10/10(金)1:00pm 11/9(日)2:00pm

**宮本武蔵 金剛院の決闘** [『宮本武蔵 二刀流開眼』改題再公開版] (91分・16mm・白黒)  
'43(大映京都)(監督)伊藤大輔



17

10/10(金)4:00pm 11/9(日)5:00pm

宮本武蔵 決闘般若坂 [再公開版] (75分・16mm・白黒)

'43(大映京都) (監督)伊藤大輔

18

10/10(金)7:00pm 11/4(火)4:00pm

あの旗を撃て (108分・35mm・白黒)

'44(東宝) (監督)阿部豊(出演)大河内傳次郎

19

10/14(火)1:00pm 11/6(木)7:00pm

東海二十八人衆 [『東海水滸傳』改題再公開版] (83分・35mm・白黒)

'45(大映京都) (監督)伊藤大輔、稲垣浩

20

10/11(土)11:00am 11/5(水)7:00pm

国際密輸團 (54分・35mm・白黒・不完全)

'44(大映京都) (監督)伊藤大輔

虎の尾を踏む男達 (59分・35mm・白黒)

'45(東宝) (監督)黒澤明(出演)大河内傳次郎

21

10/14(火)4:00pm 11/7(金)7:00pm

素浪人罷通る (81分・35mm・白黒)

'47(大映京都) (監督)伊藤大輔

22

10/11(土)2:00pm 11/5(水)4:00pm

生きている画像 (92分・35mm・白黒)

'48(新東宝) (監督)千葉泰樹(出演)大河内傳次郎

23

10/11(土)5:00pm 11/11(火)4:00pm

王將 (93分・35mm・白黒)

'48(大映京都) (監督)伊藤大輔

24

10/14(火)7:00pm 11/6(木)4:00pm

怪傑紫頭巾 総輯版 [『佐平次捕物控 紫頭巾』前後篇・改題短縮版] (96分・35mm・白黒)

'49(C・A・C) (監督)マキノ雅弘(出演)大河内傳次郎

25

10/12(日)11:00am 11/12(水)4:00pm

山を飛ぶ花笠 (83分・35mm・白黒)

'49(大映京都) (監督)伊藤大輔

26

10/12(日)2:00pm 11/14(金)4:00pm

小原庄助さん (91分・35mm・白黒)

'49(新東宝) (監督)清水宏(出演)大河内傳次郎

27

10/12(日)5:00pm 11/13(木)1:00pm

遥かなり母の國 (98分・35mm・白黒)

'50(大映京都) (監督)伊藤大輔

28

10/15(水)1:00pm 11/11(火)7:00pm

われ幻の魚を見たり (106分・35mm・白黒)

'50(大映京都) (監督)伊藤大輔(出演)大河内傳次郎

29

10/15(水)4:00pm 11/13(木)7:00pm

おぼろ駕籠 (97分・35mm・白黒)

'51(松竹京都) (監督)伊藤大輔

30

10/15(水)7:00pm 11/14(金)1:00pm

大江戸五人男 (132分・35mm・白黒)

'51(松竹京都) (監督)伊藤大輔

31

10/16(木)1:00pm 11/8(土)5:00pm

治郎吉格子 (100分・35mm・白黒)

'52(松竹京都) (監督)伊藤大輔

32

10/16(木)4:00pm 11/16(日)5:00pm 11/21(金)7:00pm

すつ飛び駕 (98分・35mm・白黒)

'52(大映京都) (監督)マキノ雅弘(脚本)伊藤大輔(出演)大河内傳次郎

33

10/16(木)7:00pm 11/15(土)11:00am

獅子の座 (126分・35mm・白黒)

'53(大映京都) (監督)伊藤大輔

34

10/17(金)1:00pm 11/15(土)2:00pm

丹下左膳 (101分・35mm・白黒)

'53(大映京都) (監督)マキノ雅弘(脚本)伊藤大輔(出演)大河内傳次郎

35

10/17(金)4:00pm 11/15(土)5:00pm

続丹下左膳 (89分・35mm・白黒)

'53(大映京都) (監督)マキノ雅弘(脚本)伊藤大輔(出演)大河内傳次郎

36

10/17(金)7:00pm 11/16(日)11:00am

番町皿屋敷 お菊と播磨(93分・35mm・白黒)

'54(大映京都)(監督)伊藤大輔

37

10/18(土)11:00am 11/7(金)1:00pm

剣侠江戸紫(113分・35mm・白黒)

'54(新東宝)(監督)並木鏡太郎(出演)大河内傳次郎

38

10/18(土)2:00pm 11/14(金)7:00pm

春琴物語(111分・35mm・白黒)

'54(大映東京)(監督)伊藤大輔

39

10/18(土)5:00pm 11/13(木)4:00pm

明治一代女(111分・16mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)伊藤大輔

40

10/28(火)1:00pm 11/19(水)7:00pm

下郎の首(98分・35mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)伊藤大輔

41

10/19(日)11:00am 11/7(金)4:00pm

王將一代(115分・16mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)伊藤大輔

42

10/28(火)4:00pm 11/20(木)7:00pm

元禄美少年記(108分・35mm・白黒)

'55(松竹京都)(監督)伊藤大輔

43

10/28(火)7:00pm 11/21(金)4:00pm

いとほん物語(82分・35mm・カラー)

'57(大映東京)(監督)伊藤大輔

44

10/19(日)2:00pm 11/6(木)1:00pm

地獄花(99分・35mm・カラー)

'57(大映京都)(監督)伊藤大輔

45

10/29(水)1:00pm 11/18(火)4:00pm

大菩薩峠(119分・35mm・カラー)

'57(東映京都)(監督)内田吐夢(出演)大河内傳次郎

46

10/29(水)4:00pm 11/20(木)1:00pm

女と海賊(90分・35mm・白黒)

'59(大映京都)(監督)伊藤大輔

47

10/29(水)7:00pm 11/18(火)1:00pm

ジャン・有馬の襲撃(114分・35mm・白黒)

'59(大映京都)(監督)伊藤大輔

48

10/30(木)1:00pm 11/19(水)4:00pm

切られ與三郎(94分・35mm・カラー)

'60(大映京都)(監督)伊藤大輔

49

10/19(日)5:00pm 11/19(水)1:00pm

月の出の血闘(77分・35mm・白黒)

'60(大映京都)(監督)伊藤大輔

50

10/30(木)4:00pm 11/12(水)1:00pm

反逆児(110分・35mm・カラー)

'61(東映京都)(監督)伊藤大輔

51

11/1(土)11:00am 11/20(木)4:00pm

赤い影法師(90分・35mm・カラー)

'61(東映京都)(監督)小沢茂弘(出演)大河内傳次郎

52

10/30(木)7:00pm 11/21(金)1:00pm

源氏九郎颯爽記 秘剣揚羽の蝶(98分・35mm・カラー)

'62(東映京都)(監督)伊藤大輔

53

10/31(金)1:00pm 11/18(火)7:00pm

王將(92分・35mm・白黒)

'62(東映東京)(監督)伊藤大輔

54

10/31(金)4:00pm 11/16(日)2:00pm

この首一万石(93分・35mm・カラー)

'63(東映京都)(監督)伊藤大輔

55

11/1(土)4:30pm 11/12(水)6:30pm

祇園祭(172分・35mm・カラー)

'68(日本映画復興協会)(監督)山内鉄也

56

10/31(金)7:00pm 11/11(火)1:00pm

幕末(121分・35mm・カラー)

'70(中村プロ)(監督)伊藤大輔

会 期
平成20年10月31日～平成20年11月16日 (9日間)※金、土、日のみ上映
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
12作品／9プログラム／18回上映
入館者数
1,692人(1回平均94人)
新聞・雑誌等における掲載記事
葛西新聞 10月24日 「映画の教室2008」
浦安新聞 10月24日 「映画の教室2008」
読売新聞 10月28日夕刊 「映画の教室2008」
朝日新聞(英語版) 10月31日 「FILM CLASS OF 2008」
ラン・パルレ 11月号 「映画の教室2008」

## 276 《京橋映画小劇場No.12》 映画の教室2008

小ホールの有効活用を狙いとする《京橋映画小劇場》第12回目の企画で、本シリーズは3年目を迎えた。所蔵作品の中から世界と日本の映画史を学ぶ上で重要な外国映画9本、日本映画3本の計12作品(9プログラム)を選んで上映した。大学等で映画史を学ぶ学生が増えているにもかかわらず、それに必要な古典的作品のフィルムによる上映機会は減少しているという状況を考慮し、そうした層を中心的なターゲットとして企画した上映会であり、平成19年度に続いて外国の名作を中心に作品を選定した。特に今回は無声映画の上映にも力を入れた。

### 《Kyobashi-za No.12》 Film Class of 2008

This is the third of the series, and screened 12 films (9 foreign and 3 Japanese) that are important for studying film histories in Japan and around the world in nine programs. In recent years, although the number of students who study film history at universities and in other ways has significantly increased, the screenings of the important classic films in the form of film projection has decreased. NFC started this series in order to fill such a gap.



◆外国映画

1

10/31(金)2:00pm 11/8(土)3:00pm

ジョルジュ・メリエス作品集(計64分)

月世界旅行(10分・18fps・16mm・無声・白黒)

LE VOYAGE DANS LA LUNE

'02(フランス)(監督)ジョルジュ・メリエス

極地征服(8分・18fps・35mm・無声・染色)

À LA CONQUÊTE DU PÔLE

'12(フランス)(監督)ジョルジュ・メリエス

シンデレラ(27分・18fps・35mm・無声・染色)

CENDRILLON OU LA PANTOUFLE MERVEILLEUSE

'12(フランス)(監督)ジョルジュ・メリエス

雪の騎士(19分・18fps・35mm・無声・染色)

LE CHEVALIER DES NEIGES

'12(フランス)(監督)ジョルジュ・メリエス

2

10/31(金)6:00pm 11/9(日)0:00pm

朝から夜中まで(69分・18fps・35mm・無声・白黒)

VON MORGENS BIS MITTERNACHTS

'21(ドイツ)(監督)カールハイントツ・マルティン

3

11/2(日)3:00pm 11/14(金)6:00pm

十月(127分・20fps・35mm・無声・白黒) ОКТЯБРЬ

'28(ソ連)(監督)セルゲイ・エイゼンシュテイン、グリゴリー・アレクサンドロフ

4

11/1(土)0:00pm 11/9(日)3:00pm

脱走者(106分・35mm・白黒) ДЕЗЕРТИР

'33(ソ連)(監督)フセヴォロド・ブドフキン

5

11/1(土)3:00pm 11/14(金)2:00pm

もだえ(101分・35mm・白黒) HETS

'44(スウェーデン)(監督)アルフ・シェーベルイ

6

11/2(日)0:00pm 11/15(土)0:00pm

沈黙(93分・35mm・白黒) TYSTNADEN

'63(スウェーデン)(監督)イングマール・ベルイマン

◆日本映画

7

11/7(金)6:00pm 11/15(土)3:00pm

路上の靈魂(112分・18fps・35mm・白黒・無声)

'21(松竹キネマ研究所)(監督)村田實

8

11/8(土)0:00pm 11/16(日)0:00pm

赤西蠣太(78分・35mm・白黒)

'36(千恵蔵プロ)(監督)伊丹万作

9

11/7(金)2:00pm 11/16(日)3:00pm

白痴(166分・35mm・白黒)

'51(松竹大船)(監督)黒澤明

会 期
平成20年11月22日～平成20年11月30日 (8日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター 特定非営利活動法人 東京フィルメックス実行委員会
作品数・上映回数
12作品／12プログラム／24回上映
入館者数
3,000人(1回平均125人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 11月5日 「国際映画祭『東京 フィルメックス』」
読売新聞 11月8日 「第9回東京フィル メックス ブラジル映画に注目」
週刊SPA 11月12日号 「トピックス 東 京フィルメックス・コンペティション作 品」(森山京子)
朝日新聞 12月7日 「可能性広げる姿勢 共通 多岐にわたる作品のジャンル 第 9回東京フィルメックス」
映像新聞 12月22日 「『東京フィルメッ クス』報告⑤ 興味深い『日本映画監督』 特集 日活の蔵原惟繕監督作品を上映」

## 277 第9回東京フィルメックス 特集上映 蔵原惟繕監督特集 ～狂熱の季節～

東京フィルメックスとの6回目の共催企画では、1950年代から60年代にかけて娯楽性と作家性を兼ね備えたユニークな作品を次々と発表し、また後に『南極物語』(1983年)等のヒット作を生み出したことでも知られる蔵原惟繕監督の作品12本を上映した。同監督の本格的な回顧特集が行われるのは初めてであり、特に今回はプログラムピクチャーの枠組みで製作された初期作品を中心に取り上げて、作家性の観点から再評価を試みた。

### Tokyo Filmex 2008: Special Program KURAHARA Koreyoshi Retrospective

This was the sixth co-organized program with Tokyo Filmex. Director Kurahara Koreyoshi made a number of films that were both entertaining and artistic in a rapid succession in the 1950s and 1960s. He is also well known for the hit, *Nankyoku monogatari* (1983). This event with 12 films directed by Kurahara was the first retrospective of his work. By focusing on his early films that were produced within the system of "Program Picture," the program aimed to reevaluate Kurahara as an auteur.



1

11/22(土)11:00am 11/27(木)7:00pm

**第三の死角**(96分・35mm・白黒)

'59(日活)(監督)蔵原惟繕

2

11/22(土)2:00pm 11/27(木)1:00pm

**海底から来た女**(76分・35mm・白黒)

'59(日活)(監督)蔵原惟繕

3

11/22(土)5:00pm 11/28(金)1:00pm

**地獄の曲り角**(93分・35mm・白黒)

'59(日活)(監督)蔵原惟繕

4

11/23(日・祝)11:00am 11/28(金)4:00pm

**われらの時代**(98分・35mm・白黒)

'59(日活)(監督)蔵原惟繕

5

11/23(日・祝)2:00pm 11/28(金)7:00pm

**ある脅迫**(65分・35mm・白黒)

'60(日活)(監督)蔵原惟繕

6

11/23(日・祝)5:00pm 11/27(木)4:00pm

**狂熱の季節**(75分・35mm・白黒)

'60(日活)(監督)蔵原惟繕

7

11/25(火)1:00pm 11/29(土)5:00pm

**憎いあんちくしょう**(105分・35mm・カラー)

'62(日活)(監督)蔵原惟繕

8

11/25(火)4:00pm 11/30(日)5:00pm

**硝子のジョニー 野獣のように見えて**(106分・35mm・白黒)

'62(日活)(監督)蔵原惟繕

9

11/25(火)7:00pm 11/30(日)11:00am

**黒い太陽**(95分・35mm・白黒)

'64(日活)(監督)蔵原惟繕

10

11/26(水)1:00pm 11/30(日)2:00pm

**執炎**(121分・35mm・白黒)

'64(日活)(監督)蔵原惟繕

11

11/26(水)4:00pm 11/29(土)11:00am

**夜明けのうた**(97分・35mm・白黒)

'65(日活)(監督)蔵原惟繕

12

11/26(水)7:00pm 11/29(土)2:00pm

**愛の湯き**(99分・35mm・パートカラー)

'67(日活)(監督)蔵原惟繕

会 期
平成20年12月2日～平成20年12月27日 (23日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
47作品／42プログラム／46回上映
入館者数
4,704人(1回平均 102人)
新聞・雑誌等における掲載記事
葛西新聞 11月28日 「生誕百年 映画監督 亀井文夫」
東京新聞 12月2日夕刊 「生誕百年 映画監督 亀井文夫」
朝日新聞 12月12日夕刊 「映像作家・亀井文夫 生誕100年記念し27日まで上映会」
赤旗 12月12日 「生誕百年 映画監督 亀井文夫」
赤旗 12月18日 「『生誕百年 映画監督 亀井文夫』開催中」

## 278 生誕百年 映画監督 亀井文夫

日本の文化・記録映画の歴史に大きな足跡を残した巨匠・亀井文夫(1908-1987)の生誕100年を記念して、その足跡を47本の作品(予告篇1本を含む)の上映を通してたどる企画である。

1935年の監督第1作『姿なき姿』(1935年)や『戦ふ兵隊』(1939年)、『信濃風土記より 小林一茶』(1941年)等の代表作に、戦後の長篇劇映画や企業PR映画作品を多数加えて、新たな角度から亀井文夫の再評価を試みるものであり、同監督の回顧上映として作品数、上映期間とも過去最大の規模となった。

### Kamei Fumio Retrospective at his Centenary

Commemorating the centenary of the birth of Kamei Fumio (1908-1987) who left important footsteps in the history of cultural and documentary films in Japan, this program surveyed Kamei's career through his 47 works (including one trailer.)

This was the biggest retrospective of Kamei both in the number of films and the duration of the event, and attempted to re-evaluate Kamei's works from a new perspective. For that purpose, the screened films included the feature-length drama films of the post-war era and the corporate PR films in addition to his representative films such as his debut title, *Sugata naki sugata* (1935), *Tatakau heitai* (1939), and *Shinano fudoki yori Kobayashi Issa* (1941).



1

12/2(火)3:00pm 12/14(日)1:00pm

姿なき姿(29分・35mm・白黒)  
'35(P.C.L.)(編集)亀井文夫

支那事変後方記録 上海(77分・35mm・白黒)  
'38(東宝)(編集)亀井文夫(撮影)三木茂

2

12/5(金)7:00pm 12/20(土)1:00pm

ハイキングの唄(23分・35mm・白黒)  
'35(鉄道省=P.C.L.)(監督)松崎啓次(脚本)亀井文夫

北京(45分・16mm・白黒・不完全)  
'38(東宝)(監督)亀井文夫

信濃風土記より 小林一茶(27分・35mm・白黒)  
'41(東宝)(監督)亀井文夫

3

12/2(火)7:00pm 12/27(土)4:00pm

富士の地質(11分・35mm・白黒・部分)  
'41(東宝)(監督)秋元憲

戦ふ兵隊(66分・35mm・白黒)  
'39(東宝)(監督)亀井文夫

4

12/3(水)3:00pm 12/18(木)7:00pm

この一冬(4分・35mm・白黒・断片)  
'43(電通映画社)(監督)中川順夫

制空(75分・35mm・白黒)  
'45(電通映画社)(監督)中川順夫、國木田三郎、大篠敬三(原作)亀井文夫

5

12/3(水)7:00pm 12/21(日)1:00pm

日本の悲劇(39分・35mm・白黒)  
'46(日本映画社)(編集)亀井文夫、吉見泰

基地の子たち(29分・16mm・白黒)  
'53(東京キノ・プロダクション)(編集)亀井文夫、田中徹、富沢隆雄、神保春枝、山崎聖教(撮影)井上莞、牛山邦一、山形周、瀬川浩、坂爪栄雄

6

12/4(木)3:00pm 12/17(水)7:00pm

戦争と平和(100分・35mm・白黒)  
'47(東宝)(監督)亀井文夫、山本薩夫

7

12/4(木)7:00pm 12/23(火・祝)1:00pm

女の一生(101分・16mm・白黒)  
'49(東宝=藤本プロダクション)(監督)亀井文夫

8

12/5(金)3:00pm 12/21(日)4:00pm

母なれば女なれば(100分・35mm・白黒)  
'52(キヌタプロダクション)(監督)亀井文夫

9

12/6(土)4:00pm 12/19(金)3:00pm

女ひとり大地を行く(164分・35mm・白黒)  
'53(キヌタプロダクション=日本炭鉱労働組合北海道地方本部)(監督)亀井文夫

10

12/6(土)1:00pm 12/16(火)3:00pm

世界にのびる金鳥(24分・35mm・カラー)  
'67(電通)(総監督)亀井文夫(監督)中村正

生きていてよかった(48分・16mm・白黒)  
'56(日本ドキュメントフィルム)(監督)亀井文夫

11

12/7(日)1:00pm 12/16(火)7:00pm

荒海に生きる マグロ漁民の生態(33分・16mm・白黒)  
'58(日本ドキュメントフィルム)(編集)亀井文夫(撮影)武井大、白田純一、菊池周、勅使河原宏

流血の記録 砂川(54分・35mm・白黒)  
'57(日本ドキュメントフィルム)(撮影)(編集)亀井文夫(撮影)武井大、植松永吉、城所敏夫、勅使河原宏、大野忠

12

12/7(日)4:00pm 12/24(水)3:00pm

世界は恐怖する 死の灰の正体[予告篇](2分・35mm・白黒)  
世界は恐怖する 死の灰の正体(79分・16mm・白黒)  
'57(日本ドキュメントフィルム=三映社)(監督)亀井文夫

13

12/9(火)3:00pm 12/19(金)7:00pm

いのちの詩(39分・35mm・カラー)  
'59(電通)(監督)亀井文夫

鳩ははばたく(42分・16mm・白黒)  
'58(日本ドキュメントフィルム)(構成)(編集)亀井文夫

14

12/9(火)7:00pm 12/18(木)3:00pm

女は下着で作られる(37分・35mm・白黒)  
'58(日本ドキュメントフィルム=東宝芸能)(監督)鴨居羊子、千明茂雄(編集)亀井文夫

モデルと写真家(27分・16mm・白黒)  
'58(日本ドキュメントフィルム=東宝芸能)(監督)中村正也、小山内治夫(編集)亀井文夫



15

12/10(水)3:00pm 12/26(金)7:00pm

ヒロシマの声 [英語版] (40分・16mm・白黒)  
'59(日本ドキュメントフィルム)

軍備なき世界を (41分・35mm・白黒)

'61(日本ドキュメントフィルム)

16

12/10(水)7:00pm 12/27(土)1:00pm

INVITATION TO JAPANESE ARCHITECTURE 『日本の建築』英語版 (20分・35mm・カラー)  
'59(日映科学映画製作所)(監督)亀井文夫

人間みな兄弟 (60分・16mm・白黒)

'60(日本ドキュメントフィルム=芸術映画社=松本プロダクション)(監督)亀井文夫

17

12/11(木)3:00pm 12/20(土)4:00pm

風土病との闘い (27分・35mm・白黒)  
'62(桜映画社)(監督)菊地周(編集)亀井文夫

静かな建築工法 (32分・35mm・カラー)

'62(電通)(監督)亀井文夫

MY DIARY IN JAPAN INVITATION TO SHIN  
MITSUBISHI 『僕の日本日記』英語版 (26分・35mm・カラー)  
'62(電通=シュウ・タグチ・プロダクション)(監督)亀井文夫

18

12/11(木)7:00pm 12/17(水)3:00pm

新しい小売店経営 ーある毛糸店の一日ー (16分・16mm・カラー)  
'63(電通)(監督)亀井文夫、原功

虹をあみましよう (18分・16mm・カラー)

'63(電通)(監督)亀井文夫、原功

魅惑のガラス (18分・16mm・カラー)

'63(電通)(監督)亀井文夫

エレクトロニクスに生きる (24分・35mm・カラー)

'64(電通)(監督)亀井文夫

19

12/12(金)3:00pm 12/23(火・祝)4:00pm

JAL空の旅シリーズ 香港・台北編 [改訂版] (40分・35mm・カラー)  
'65(日本ドキュメントフィルム)(監督)亀井文夫

JAL空の旅シリーズ 新・南十字星は招く (28分・35mm・カラー)

'68(日本ドキュメントフィルム)(監督)亀井文夫

遊び場のない子どもたち (37分・16mm・白黒)

'65(桜映画社)(監督)菊地周(編集)亀井文夫

20

12/12(金)7:00pm 12/25(木)3:00pm

JAL空の旅シリーズ ヨーロッパ モデルコース (36分・35mm・カラー)  
'65(日本ドキュメントフィルム)(監督)亀井文夫

のり平 アメリカ紀行 (41分・35mm・カラー)

'65(日本ドキュメントフィルム)(総監督)亀井文夫(監督)小島義史

のり平 トラベル・マナー (27分・35mm・カラー)

'66(日本ドキュメントフィルム)(総監督)亀井文夫(監督)倉益琢磨

21

12/13(土)1:00pm 12/24(水)7:00pm

THE SHARP TOMORROW MAKERS 『今日の歎びと明日の夢を育てる』改訂版・英語版 (28分・35mm・カラー)  
'68(電通)(監督)亀井文夫

未来を紡ぐもの ートーア紡への招待ー [改訂版] (25分・35mm・カラー)

'70(電通)(監督)亀井文夫

EXPO '70 in JAPAN 第二集 (10分・16mm・カラー)

'70(日本ドキュメントフィルム)(監督)亀井文夫

22

12/13(土)4:00pm 12/25(木)7:00pm

みんな生きなければならない ヒト・ムシ・トリ“農事民俗館” (80分・16mm・カラー)  
'84(東京写真工房)(構成)亀井文夫(撮影)菊地周

23

12/14(日)4:00pm 12/26(金)3:00pm

生物みなトモダチ(教育編) トリ・ムシ・サカナの子守歌 (166分・16mm・カラー)  
'87(生物みなトモダチ製作委員会)(監督)亀井文夫

会期
平成21年1月6日～平成21年2月22日 (42日間)
会場
大ホール
主催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
44作品／42プログラム／84回上映
入館者数
11,616人(1回平均138人)
新聞・雑誌等における掲載記事
映像新聞 1月5日 「日本の特撮映画44作品を企画上映」
日刊スポーツ 1月7日 「ゴジラとガメラ 共演 東京・京橋で『怪獣・SF映画特集』開幕」
聖教新聞 1月7日 「日本映画史横断 怪獣・SF特集」
朝日新聞 1月9日夕刊 「怪獣・SF映画が44本 東京国立近代美術館」
ヘラルド朝日 1月9日 「MONSTER AND SCIENCE FICTION FILM」
上毛新聞 1月12日 「特撮全盛期の邦画上映 『ゴジラ』スクリーンで」
下野新聞 1月12日 「怪獣・SF映画を上映」
熊本日日新聞 1月14日夕刊 「日本の怪獣SFを特集」
茨城新聞 1月15日 「怪獣・SF映画特集」
東奥日報 1月15日 「特撮映画特集 来月22日まで」
四国新聞 1月15日 「日本の特撮映画を特集」
行徳新聞 1月16日 「日本映画史横断③ 怪獣・SF映画特集」
河北新聞 1月20日 「ゴジラにガメラ 特撮邦画を特集」
週刊金曜日 1月23日 「日本映画史横断③ 怪獣・SF映画特集」
京都新聞 夕刊 1月20日 「日本の特撮技術を見せる 東京で怪獣映画特集」
高知新聞 1月24日 「日本の特撮映画 東京で集中上映」
赤旗 1月30日 「『ゴジラ』映画生誕55周年」(金子徹)
月刊ギャラリー 2月号 「日本映画史横断③ 怪獣・SF映画特集」
文化庁月報 2月号 「日本映画史横断③ 怪獣・SF映画特集」(赤崎陽子)
Casa BRUTUS 3月号「特集 大人のための博物館ガイド 怪獣・SF映画特集」

## 279 日本映画史横断③ 怪獣・SF映画特集

数々のユニークな怪獣を生み出し、近未来戦争や科学犯罪、スーパー・ヒーローの活躍等、様々な分野を開拓しながら、日本映画のユニークなジャンルとして定着してきた日本の特撮映画の歴史をたどる企画。『ゴジラ』(1954年)以前に円谷英二が特殊技術を担当した1949年の『透明人間現わる』から1968年の『怪獣総進撃』まで、第1次ブームと呼ばれる時代の作品44本(42プログラム)を上映した。

日本映画のジャンルを横断するシリーズ「日本映画史横断」の第3回目の企画で、第1回の日活アクション映画、第2回の歌謡・ミュージカル映画に続いて、フィルムセンターとしては初めて日本の特撮映画の特集上映を行った。

### Cross-Section of Japan's Cinematic Past [Part 3] Monster and Science Fiction Film

This event surveyed the history of special effects films which have, over the years, constituted a well-accepted unique genre. This genre has given births to a variety of innovative kaiju (monsters) and developed many subject matters such as the war in the futuristic world, scientific crimes, and active super heroes. The 44 films (organized in 42 programs) represented the so-called first boom and included *Tomei ningen arawaru* (1949) for which Tsuburaya Eiji was in charge of special effects before he became famous with *Godzilla* (1954), and *Kaiju soshingeki* (1968).

This was the third installment of the *Cross-Section of Japan's Cinematic Past*, which aims to cross across the boundaries of genres in Japanese cinema. Following the first installment, "Nikkatsu Action Film," and the second one, "Song and Dance Tradition," the third installment also turned out to be the case in which NFC screened the particular genre for the first time.



1

1/20(火)7:00pm 1/31(土)1:00pm

透明人間現わる(86分・35mm・白黒)  
'49(大映)(監督)安達伸生

2

1/6(火)3:00pm 2/22(日)4:00pm

ゴジラ(96分・35mm・白黒)  
'54(東宝)(監督)本多猪四郎

3

1/7(水)3:00pm 1/30(金)7:00pm

ゴジラの逆襲(81分・35mm・白黒)  
'55(東宝)(監督)小田基義

4

1/7(水)7:00pm 2/3(火)3:00pm

宇宙人東京に現わる(87分・35mm・カラー)  
'56(大映)(監督)島耕二

5

1/8(木)3:00pm 2/3(火)7:00pm

空の大怪獣 ラドン(82分・35mm・カラー)  
'56(東宝)(監督)本多猪四郎

6

1/8(木)7:00pm 2/1(日)4:00pm

スーパー ジャイアント  
鋼鉄の巨人(49分・35mm・白黒)  
'57(新東宝)(監督)石井輝男

スーパー ジャイアント  
続鋼鉄の巨人(52分・35mm・白黒)  
'57(新東宝)(監督)石井輝男

7

1/23(金)7:00pm 1/31(土)4:00pm

透明人間と蠅男(96分・35mm・白黒)  
'57(大映)(監督)村山三男

8

1/9(金)3:00pm 2/7(土)1:00pm

地球防衛軍(88分・35mm・カラー)  
'57(東宝)(監督)本多猪四郎

9

1/10(土)1:00pm 2/4(水)7:00pm

美女と液体人間(86分・35mm・カラー)  
'58(東宝)(監督)本多猪四郎

10

1/10(土)4:00pm 1/30(金)3:00pm

大怪獣バラン(87分・35mm・白黒)  
'58(東宝)(監督)本多猪四郎

11

1/11(日)1:00pm 2/4(水)3:00pm

遊星王子(57分・35mm・白黒)  
'59(東映)(監督)若林栄二郎

遊星王子 恐怖の宇宙船(64分・35mm・白黒)  
'59(東映)(監督)若林栄二郎

12

1/11(日)4:00pm 2/5(木)3:00pm

宇宙大戦争(90分・35mm・カラー)  
'59(東宝)(監督)本多猪四郎

13

1/13(火)3:00pm 2/7(土)4:00pm

電送人間(85分・35mm・カラー)  
'60(東宝)(監督)福田純

14

1/13(火)7:00pm 2/11(水・祝)4:00pm

第三次世界大戦 四十一時間の恐怖(77分・35mm・白黒)  
'60(第二東映)(監督)日高繁明

15

1/14(水)3:00pm 2/1(日)1:00pm

ガス人間第1号(91分・35mm・カラー)  
'60(東宝)(監督)本多猪四郎

16

1/14(水)7:00pm 2/14(土)1:00pm

宇宙快速船(74分・35mm・白黒)  
'61(ニュー東映)(監督)太田浩児

17

1/15(木)3:00pm 2/21(土)1:00pm

モスラ(101分・35mm・カラー)  
'61(東宝)(監督)本多猪四郎

18

1/15(木)7:00pm 2/15(日)1:00pm

世界大戦争(110分・35mm・カラー)  
'61(東宝)(監督)松林宗恵

19

1/17(土)1:00pm 2/5(木)7:00pm

妖星 ゴラス(88分・35mm・カラー)  
'62(東宝)(監督)本多猪四郎

20

1/17(土)4:00pm 2/6(金)3:00pm

キングコング対ゴジラ(74分・35mm・カラー)  
'62(東宝)(監督)本多猪四郎

21

1/18(日)1:00pm 2/6(金)7:00pm

海底軍艦(94分・35mm・カラー)

'63(東宝)(監督)本多猪四郎

22

1/16(金)3:00pm 2/10(火)7:00pm

モスラ対ゴジラ(89分・35mm・カラー)

'64(東宝)(監督)本多猪四郎

23

1/18(日)4:00pm 2/10(火)3:00pm

宇宙大怪獣 ドゴラ(81分・35mm・カラー)

'64(東宝)(監督)本多猪四郎

24

1/9(金)7:00pm 2/12(木)3:00pm

三大怪獣 地球最大の決戦(93分・35mm・カラー)

'64(東宝)(監督)本多猪四郎

25

1/20(火)3:00pm 2/11(水・祝)1:00pm

フランケンシュタイン対地底怪獣(93分・35mm・カラー)

'65(東宝)(監督)本多猪四郎

26

1/6(火)7:00pm 2/14(土)4:00pm

大怪獣ガメラ(78分・35mm・白黒)

'65(大映)(監督)湯浅憲明

27

1/21(水)3:00pm 2/12(木)7:00pm

怪獣大戦争(94分・35mm・カラー)

'65(東宝)(監督)本多猪四郎

28

1/21(水)7:00pm 2/15(日)4:00pm

大怪獣決闘 ガメラ対バルゴン(100分・35mm・カラー)

'66(大映)(監督)田中重雄

29

1/22(木)3:00pm 2/13(金)7:00pm

大魔神(84分・35mm・カラー)

'66(大映)(監督)安田公義

30

1/24(土)1:00pm 2/13(金)3:00pm

海底大戦争(83分・35mm・カラー)

'66(大映)(監督)佐藤肇

31

1/24(土)4:00pm 2/17(火)3:00pm

フランケンシュタインの怪獣 サンダ対ガイラ(88分・35mm・カラー)

'66(東宝)(監督)本多猪四郎

32

1/22(木)7:00pm 2/18(水)3:00pm

大魔神怒る(79分・35mm・カラー)

'66(大映)(監督)三隅研次

33

1/23(金)3:00pm 2/17(火)7:00pm

大魔神逆襲(87分・35mm・カラー)

'66(大映)(監督)森一生

34

1/16(金)7:00pm 2/19(木)3:00pm

ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘(87分・35mm・カラー)

'66(東宝)(監督)福田純

35

1/25(日)1:00pm 2/18(水)7:00pm

黄金バット(73分・35mm・白黒)

'66(東映)(監督)佐藤肇

36

1/25(日)4:00pm 2/19(木)7:00pm

大怪獣空中戦 ガメラ対ギャオス(87分・35mm・カラー)

'67(大映)(監督)湯浅憲明

37

1/27(火)3:00pm 2/8(日)1:00pm

宇宙大怪獣 ギララ(88分・35mm・カラー)

'67(松竹)(監督)二本松嘉瑞

38

1/27(火)7:00pm 2/21(土)4:00pm

大巨獣ガッパ(84分・35mm・カラー)

'67(日活)(監督)野口晴康

39

1/28(水)3:00pm 2/22(日)1:00pm

キングコングの逆襲(104分・35mm・カラー)

'67(東宝)(監督)本多猪四郎

40

1/28(水)7:00pm 2/20(金)3:00pm

怪獣島の決戦 ゴジラの息子(86分・35mm・カラー)

'67(東宝)(監督)福田純

41

1/29(木)3:00pm 2/8(日)4:00pm

ガメラ対宇宙怪獣バイラス(72分・35mm・カラー)

'68(大映)(監督)湯浅憲明

42

1/29(木)7:00pm 2/20(金)7:00pm

怪獣総進撃(89分・35mm・カラー)

'68(東宝)(監督)本多猪四郎

## 280 日本オランダ年2008-2009 オランダ映画祭2009

2008年の日蘭修好通商条約締結150周年と2009年の日蘭貿易400周年を記念する「日本オランダ年2008-2009」の一環として、キネマ旬報社との共同主催、ホランドフィルムの特別協賛、オランダ王国大使館の協賛によりオランダ映画を紹介する企画。1989年から2000年にかけて草月ホールで計4回が開催された「オランダ映画祭」(1989年はぴあ主催、1998年から2000年の3回はオランダ映画祭実行委員会主催)に続き、フィルムセンターでは初めての開催となった。ヨス・ステリング監督の最新作『ドゥスカ』(2007年)やオランダ国内で大ヒットを記録した『ラブ・イズ・オール』(2007年)、『ドゥーニャ&デージー』(2008年)の日本初公開作品3本、近年作られた短篇アニメーション等を含む計36本を20プログラムにまとめて上映した。

### Nederland in Japan 2008-2009 Holland Film Festival 2009

As part of Nederland in Japan 2008-2009 that commemorates the 150th anniversary of the Treaty of Amity and Commerce between Japan and the Netherlands of 2008 and 400th anniversary of the trade between the two countries of 2009, this festival was co-organized with Kinema Junpo Sha Co., Ltd with the special support from Holland Film and support from the embassy of the Kingdom of the Netherlands in order to introduce recent Dutch films to Japan. This was the first time Dutch film festival was held at NFC. In the past, Holland Film Festivals were held at Sogetsu Hall four times between 1989 and 2000. (The 1989 one was organized by Pia Corporation. The festivals between 1998 and 2000 were organized by Holland Film Festival Executive Committee.) 36 films were shown in 20 programs. They include three Japan premiers: director Jos Stelling's latest work, *Duska* (2007), a big box-office hit in the Netherlands *Alles is Leifde* (*Love is All*) and *Dunya & Desie*, as well as recent animation shorts.

会 期	平成21年2月24日～平成21年3月15日 (18日間)
会 場	大ホール
主 催	東京国立近代美術館フィルムセンター 株式会社キネマ旬報社
特別協賛	ホランドフィルム
協 賛	オランダ王国大使館
協 力	ぴあ株式会社
作品数・上映回数	36作品／20プログラム／36回上映
入館者数	3,465人(1回平均 96 人)
新聞・雑誌等における掲載記事	日本経済新聞 2月19日 「オランダ映画祭を開催」 映像新聞 3月2日 「オランダ映画祭 80年代以降の傑作」 聖教新聞 3月2日 「オランダ映画祭」 浦安新聞 3月6日 「オランダ映画祭 2009」 読売新聞 3月6日 「オランダ映画祭 2009」 常陽藝文 3月号 「日本オランダ年2008-2009 オランダ映画祭2009」 自然と人間 4月号 「話題の映画人 ヘーネ・ベルヴィッツ」 キネマ旬報 4月下旬号 「オランダ映画祭2009」(佐藤結)



◆日本初公開作品

1

2/25(水)3:00pm 3/8(日)4:00pm

ラブ・イズ・オール(120分・35mm・カラー)  
ALLES IS LIEFDE  
2007(監督)ヨーラム・リュルセン

2

2/24(火)7:00pm 3/15(日)4:00pm

ドウスカ(90分・35mm・カラー) DUSKA  
2007(監督)ヨス・ステリング

3

2/24(火)3:00pm 3/14(土)4:00pm

ドゥーニャ & デイジー(96分・35mm・カラー)  
DUNYA & DESIE  
2008(監督)ダナ・ネチュシュタン

◆オランダ映画近作選

4

2/25(水)7:00pm 3/6(金)3:00pm

水の味(104分・35mm・カラー)  
DE SMAAK VAN WATER  
'82(監督)オルロー・スンケ

5

2/26(木)3:00pm 3/13(金)7:00pm

ワン・マンス・レイター(103分・35mm・カラー)  
EEN MAAND LATER  
'87(監督)ナウチカ・ヴァンプラッケル

6

2/26(木)7:00pm 3/10(火)3:00pm

アイリス(91分・35mm・カラー) IRIS  
'87(監督)マディ・サクス

7

3/6(金)7:00pm

パニシング(106分・35mm・カラー)  
SPOORLOOS  
'88(監督)ゲオルグ・スラウツァー

8

2/27(金)3:00pm 3/5(木)7:00pm

密航者(91分・35mm・カラー)  
DE VERSTEKELING  
'97(監督)ベン・ヴァンリースハウト

9

2/28(土)1:00pm 3/11(水)7:00pm

テーチェの旅(95分・35mm・カラー)  
DE TRIP VAN TEETJE  
'97(監督)パウラ・ヴァンデルウスト

10

2/27(金)7:00pm 3/11(水)3:00pm

オール・スターズ(113分・35mm・カラー) ALL STARS  
'97(監督)ジャン・ヴァンデヴェルデ

11

3/1(日)1:00pm 3/10(火)7:00pm

失われたトランク(100分・35mm・カラー) LEFT LUGGAGE  
'98(監督)イェルン・クラベ

12

3/1(日)4:00pm 3/12(木)3:00pm

フェリーチェさん(103分・35mm・カラー)  
FELICE... FELICE...  
'98(監督)ペーター・デルプト

13

3/3(火)3:00pm 3/12(木)7:00pm

ポーランド人の結婚(89分・35mm・カラー)  
DE POOLSE BRUID  
'98(監督)カリム・トライディア

14

3/3(火)7:00pm 3/13(金)3:00pm

三人のプレイヤー(92分・35mm・カラー)  
DE BOEKVERFILMING  
'98(監督)エディ・テルストール

15

3/4(水)3:00pm 3/15(日)1:00pm

ノートレインズ、ノーブレインズ(104分・35mm・カラー)  
NO TRAINS NO PLANES  
'99(監督)ヨス・ステリング

16

3/4(水)7:00pm 3/14(土)1:00pm

私の青い鳥(81分・35mm・カラー) BLUEBIRD  
2004(監督)マイケ・デヨング

17

2/28(土)4:00pm 3/5(木)3:00pm

ティラミス(81分・35mm・カラー) TIRAMISU  
2007(監督)パウラ・ヴァンデルウスト

◆アニメーション選集

18

3/7(土)4:00pm

アニメーション選集1(合計81分)

キャラクターズ(8分・35mm・カラー)

DE KARACTERS

'86(監督)エヴェルト・デベイエル

ダダ(10分・35mm・カラー) DADA

'94(監督)ピート・クローン

フェイマス・ペインティングス(20分・35mm・カラー)

FAMOUS PAINTINGS

'96(監督)マーテン・コープマン

三人のお嬢さん(11分・35mm・カラー) 3 MISSES

'98(監督)ポール・ドリエッセン

バーコード(8分・35mm・カラー) BARCODE

2001(監督)アドリアーン・ロクマン

ぞうとかたつむり(6分・35mm・カラー) \*日本語字幕なし

THE ELEPHANT AND THE SNAIL

2002(監督)クリスタ・ムスカー

竹ざおを使う人々(13分・35mm・カラー) STILTWALKERS

2002(監督)シャーク・メイリンク

干潟(5分・35mm・カラー) WAD

2003(監督)ヨリス・オプリンズ

19

3/8(日)1:00pm

アニメーション選集2(合計88分)

カー・クレイズ(13分・35mm・カラー)

CAR CRAZE

2003(監督)エヴェルト・デベイエル

鳥のくちばし(13分・35mm・カラー) BEK(BEAK)

2004(監督)ルセッテ・ブラウネ

出口(5分・35mm・カラー) VENT

2004(監督)エリック・ヴァンスハイク

テスト・ワン・トゥー(5分・35mm・カラー)

TEST ONE TWO

2005(監督)メンノ&パウル・ノイエール

雨(3分・35mm・カラー) REGEN(RAIN)

2005(監督)ミハエル・セウナライン

ハードボイルド・チキン(5分・35mm・カラー)

HARD BOILED CHICKEN

2006(監督)アルヤン・ウィルシュット

ロスト・カーゴ(16分・35mm・カラー) LOST CARGO

2006(監督)ピーター・エンヘルズ、エフィン・パーリス

ファントム・オブ・シネマ(7分・35mm・カラー) \*日本語字幕なし

PHANTOM OF THE CINEMA

2008(監督)エリック・ヴァンスハイク

7人の兄弟(13分・35mm・カラー) THE 7 BROTHERS

2008(監督)カイ&ポール・ドリエッセン

パトゥーフエ劇場(8分・35mm・カラー) THEATRE PATOUFFE

2008(監督)マーテン・コープマン

◆ドキュメンタリー作品

20

3/7(土)11:00am

アムステルダム・グローバル・ヴィレッジ(245分・35mm・カラー) AMSTERDAM GLOBAL VILLAGE

'96(監督)ヨハン・ヴァンデルコイケン

会 期
平成21年3月17日～平成21年3月29日 (12日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター シネマテーク・ケベコワーズ
協 力
カナダ国立映画制作庁 ケベック州政府在日事務所
作品数・上映回数
100作品／12プログラム／24回上映
入館者数
1,778人(1回平均 74人)
新聞・雑誌等における掲載記事
映像新聞 3月16日 「カナダのアニメ映画を特集」 FRANC-PARLER 3月号 「カナダ・アニメーション映画名作選」 ビデオSALON 4号 「カナダで生まれたアニメーションの名作を一挙上映」

## 281 カナダ・アニメーション映画名作選

アニメーション映画の収集と保存で世界的に知られるシネマテーク・ケベコワーズ(カナダ・モントリオール)との共同主催により、同シネマテークのコレクションから、1941年から1985年までの間に製作されたカナダ・アニメーション映画100本を選び12プログラムに構成して上映した。本企画は、ともに国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の会員組織であるフィルムセンターとシネマテーク・ケベコワーズの交換事業の一つとして実現したものであり、フィルムセンターのコレクションをモントリオールで上映した前年の「アニメの源へー日本のアニメーション映画(1924-1952)」に続いての開催となった。

### A Selection of Canadian Animation: From the Collection of la Cinémathèque québécoise

NFC co-organized this event with la Cinémathèque québécoise, the internationally renowned institution for its collection and preservation of animation films. This event selected the animated films made between 1941 and 1985 from the Cinémathèque québécoise's collection and screened them in 12 programs. This event was part of the exchange projects between NFC and la Cinémathèque québécoise, the member institutions of FIAF (Fédération International des Archives du Film), and followed the screening program with the films from the NFC collection *To the source of Anime: Japanese Animation* which was held in Montreal in the previous year.





## 1

3/17(火)3:00pm 3/28(土)4:00pm

戦中と戦後のカナダ(合計63分)

郵便はお早めに(2分・16mm・カラー) MAIL EARLY

'41(監督)ノーマン・マクラレン

我らの勝利のために!(2分・16mm・カラー) V FOR VICTORY

'41(監督)ノーマン・マクラレン

めんどりの踊り(4分・35mm・カラー) HEN HOP

'42(監督)ノーマン・マクラレン

ファイブ・フォー・フォー(3分・16mm・カラー)

FIVE FOR FOUR

'42(監督)ノーマン・マクラレン

ドル札の踊り(4分・35mm・カラー) DOLLAR DANCE

'43(監督)ノーマン・マクラレン

星とストライプ(3分・16mm・カラー)

STARS AND STRIPES

'43(監督)ノーマン・マクラレン

君よ口をとぎせ!(2分・35mm・白黒)

KEEP YOUR MOUTH SHUT

'44(監督)ノーマン・マクラレン

痩せた牧草地(3分・16mm・白黒) GRIM PASTURES

'44(監督)ジョージ・ダニング

道すがら/櫂の力(5分・16mm・白黒)

EN PASSANT / C'EST L'AVIRON

'44(監督)アレクサンドル・アレクセイエフ(『道すがら』)、ノーマン・マクラレン(『櫂の力』)

三匹の盲目のネズミ(5分・35mm・白黒)

THE THREE BLIND MICE

'45(監督)ジョージ・ダニング

ホピティ・ポップ(3分・35mm・カラー)

HOPPITY POP

'46(監督)ノーマン・マクラレン

絵画の幻想(4分・16mm・白黒)

A LITTLE PHANTASY ON A 19TH CENTURY

'46(監督)ノーマン・マクラレン

10人の小さな農夫(6分・16mm・カラー)

TEN LITTLE FARMERS

'47(監督)ジム・マッケイ

不可能な地図(10分・16mm・カラー)

THE IMPOSSIBLE MAP

'00(監督)イザリン・ランバート

隣人(8分・35mm・カラー) VOISINSC / NEIGHBOURS

'52(監督)ノーマン・マクラレン

## 2

3/17(火)7:00pm 3/29(日)1:00pm

アニメーションと音楽: 歌えや踊れ!!(合計62分)

灰色めんどり(6分・35mm・カラー) LA POULETTE GRISE

'47(監督)ノーマン・マクラレン

フィドル・ディー・ディー(3分・16mm・カラー)

FIDDLE-DE-DEE

'47(監督)ノーマン・マクラレン

末っ子ルッセル(9分・16mm・カラー)

CADET ROUSSELLE

'47(監督)ジョージ・ダニング

色彩幻想—過去のつまらぬ気がかり(8分・35mm・カラー)

BEGONE DULL CARE(CAPRICE EN COULEURS)

'49(監督)ノーマン・マクラレン

つぐみ—小鳥のファンタジー(5分・35mm・カラー)

LE MERLE

'58(監督)ノーマン・マクラレン

スクエア・ダンス(3分・16mm・カラー)

RONDE CAREÉ (DANCE SQUARED)

'61(監督)ルネ・ジョドゥアン

三角形のダンス(5分・35mm・カラー)

NOTES SUR UN TRIANGLE

'66(監督)ルネ・ジョドゥアン

流れ(8分・35mm・カラー) THE CRUISE

'69(監督)(画)ローラン・ノデル

アスファルトの花(3分・35mm・カラー)

LES FLEURS DE MACADAM

'69(監督)ローラン・コデール

タクシー(2分・35mm・カラー) TAXI

'69(監督)ロラン・スタッツ

ネコのカルテット(4分・35mm・カラー) CATUOR

'70(監督)ジュディス・クレイン

バラバラにされて(4分・35mm・カラー)

TOUT ÉCARTILLÉ

'72(監督)アンドレ・ルデュック

恋愛中毒(オッフェンバッハ)(5分・35mm・カラー)

LOVE ADDICT(OFFENBACH)

'85(監督)ピエール・エペール

## 3

3/18(水)3:00pm 3/29(日)4:00pm

フレンチ・カナダの台頭(合計68分)

カラスとキツネ(3分・35mm・カラー)

LE CORBEAU ET LE RENARD

'69(監督)アンドレ・ルデュック、ミシェル・ボゼ、ピエール・エベール、フランシヌ・デビアン

わたしはわたし(7分・16mm・カラー) JE SUIS MOI

'74(監督)イヴァン・ドゥルアン、ニコル・ロベール、フランソワーズ・カルティエ、ミシェル・レイモン、フランシヌ・レジェ、ロジェ・オーティス、コメ・フェイ、モニーク・ダミアン、ウペール・ノー

ムッシュー・ポワンツ(13分・35mm・カラー)

MONSIEUR POINTU

'75(監督)アンドレ・ルデュック、ベルナル・ロンブレ

インスタント・フレンチ(1分・16mm・カラー)

CANADA VIGNETTES: INSTANT FRENCH

'79(監督)アンドレ・ルデュック

スピーク・ホワイト(6分・35mm・白黒) SPEAK WHITE

'80(監督)ピエール・ファラルドー、ジュリアン・ブーラン

クラック!(15分・35mm・カラー) CRAC!

'81(監督)フレデリック・バック

目覚め(5分・35mm・カラー) RÉVEILLE

'82(監督)フランシヌ・レジェ

電話(4分・35mm・カラー) TÉLÉPHONE

'85(監督)リュース・ロワ

母さん、あなたに言うわよ!(14分・35mm・カラー)

AH! VOUS DIRAI-JE, MAMAN

'85(監督)フランシヌ・デビアン

## 4

3/18(水)7:00pm 3/27(金)3:00pm

コスモポリタン・カナダ(合計72分)

ホット・スタッフ(9分・35mm・カラー) HOT STUFF

'71(監督)ツラツコ・ゲルジック

オーカッサンとニコレット(16分・35mm・カラー)

AUCASSIN ET NICOLETTE

'76(監督)ロッテ・ラインンガー

ストリート(10分・35mm・カラー) THE STREET

'76(監督)キャロライン・リーフ

死後の世界(7分・35mm・) AFTERLIFE (APRÈS LA VIE)

'78(監督)イシュ・パテル

生存競争(7分・35mm・カラー) JEU DE COUDES

'79(監督)ポール・ドリエッセン

ルナ・ルナ・ルナ(13分・35mm・カラー) LUNA, LUNA, LUNA

'81(監督)ヴィヴィアンヌ・エルネカーヴェ

アニジャム(10分・35mm・カラー) ANIJAM

'84(監督)マーヴ・ニューランド

## 5

3/19(木)3:00pm 3/27(金)7:00pm

アニメーションと教育(合計78分)

カナダの交通物語(11分・35mm・カラー)

THE ROMANCE OF TRANSPORTATION IN CANADA

'52(監督)コリン・ロウ

ジェット・エンジン(14分・16mm・カラー)

AN INTRODUCTION TO JET ENGINES

'59(監督)ルネ・ジョドゥアン

人口問題を考える(14分・16mm・カラー)

EXPLOSION DÉMOGRAPHIQUE

'67(監督)ピエール・エベール

コズミック・ズーム(8分・35mm・カラー)

COSMIC ZOOM (ZOOM COSMIQUE)

'81(監督)エヴァ・スザツ

大陸移動(9分・16mm・カラー) CONTINENTAL DRIFT

'68(監督)コ・ホードマン

太陽の衛星(12分・35mm・カラー) SATELLITES OF THE SUN

'74(監督)シドニー・ゴールドスミス

アニメーション・モーション 1(9分・35mm・カラー)

ANIMATION MOTION 1 (LE MOUVEMENT IMAGE PAR IMAGE 1)

'76(監督)ノーマン・マクラレン、グラント・マンロー

## 6

3/19(木)7:00pm 3/28(土)1:00pm

シュールレアリスムと幻想世界(合計71分)

線と色の即興詩(5分・35mm・カラー) BLINKITY BLANK

'55(監督)ノーマン・マクラレン

魔法使い(5分・16mm・カラー) THE SORCERER

'60(監督)アル・センス

ユーリノーム(7分・16mm・カラー) EURYNOME

'70(監督)ジョン・ストレイトン

変身(11分・35mm・白黒) METAMORPHOSIS

'75(監督)バリー・グリーンウォルド

心象風景(8分・35mm・白黒) (MINDSCAPE LE PAYSAGISTE)  
'76(監督)ジャック・ドゥルアン

ブランズウィック事件(23分・35mm・カラー)  
L'AFFAIRE BRONSWIK  
'78(監督)ロバート・アワード、アンドレ・ルデュック

浜辺(3分・35mm・カラー) LA PLAGES  
'78(監督)スザンヌ・ジェルヴェ

オールド・オーチャード・ビーチ(9分・16mm・カラー)  
OLD ORCHARD BEACH P. Q  
'81(監督)ミシェル・クールノワイエ

## 7

3/20(金・祝)11:00am 3/25(水)7:00pm

吼える60年代(合計70分)

たいへん素晴らしい(7分・16mm・白黒)  
VERY NICE, VERY NICE  
'61(監督)アーサー・リップセット

垂直線(6分・35mm・カラー)  
LINES – HORIZONTAL (LIGNES HORIZONTALES)  
'60(監督)ノーマン・マクラレン、イヴリン・ランバート

水平線(6分・35mm・カラー)  
LINES – VERTICAL (LIGNES VERTICALES)  
'62(監督)ノーマン・マクラレン、イヴリン・ランバート

見聞話考夢行動映画(25分・16mm・カラー)  
THE SEA, HEAR, TALK, THINK, DREAM AND ACT FILM  
'65(監督)アル・センス

オップ・ホップーホップ・オップ(4分・35mm・白黒)  
OP HOP – HOP OP  
'66(監督)ピエール・エベール

なんてこった!(10分・35mm・カラー)  
WHAT ON EARTH!  
'66(監督)レス・ドゥルウ、カイ・ピンダル

散歩(5分・35mm・カラー) WALKING  
'68(監督)ライアン・ラーキン

シンクロミー(7分・35mm・カラー)  
SYNCHROMIE (SYNCHROMY)  
'71(監督)ノーマン・マクラレン

## 8

3/20(金・祝)2:00pm 3/24(火)3:00pm

知性とユーモア:カナディアン・カートゥーン(合計69分)

私の財務経歴(7分・35mm・カラー)  
MY FINANCIAL CAREER  
'62(監督)グラント・マンロー、ジェラルド・ポッタートン

ハエを飲み込んだおばあちゃん(5分・16mm・カラー)  
I KNOW AN OLD LADY WHO SWALLOWED A FLY  
'63(監督)デリック・ラム

大玩具強盗(7分・35mm・カラー)  
THE GREAT TOY ROBBERY  
'63(監督)ジェフ・ヘイル

あやとり(10分・35mm・カラー)  
AU BOUT DU FIL (CAT'S CRADLE)  
'74(監督)ポール・ドリエッセン

会社でへとへとなった日(6分・16mm・カラー)  
A HARD DAY AT THE OFFICE  
'77(監督)アル・センス

どうしてボク?(9分・35mm・カラー) WHY ME?  
'78(監督)ジャネット・パールマン、デリック・ラム

特別な配達(7分・35mm・カラー) SPECIAL DELIVERY  
'79(監督)ジョン・ウェルドン、ユニス・マコウレイ

3分で解る世界史(3分・35mm・カラー)  
HISTORY OF THE WORLD IN THREE MINUTES FLAT  
'80(監督)マイケル・ミルズ

ジェスチャー(5分・35mm・カラー) CHARADE  
'84(監督)ジョン・ミニス

大喧嘩(10分・35mm・カラー) THE BIG SNIT  
'85(監督)リチャード・コンディー

## 9

3/21(土)1:00pm 3/26(木)7:00pm

匠の技とニューテクノロジー(合計71分)

カノン(9分・35mm・カラー) CANON  
'64(監督)グラント・マンロー、ノーマン・マクラレン

パ・ドウ・ドウ(13分・35mm・白黒) PAS DE DEUX  
'68(監督)ノーマン・マクラレン

風(9分・35mm・カラー) LE VENT  
'72(監督)ロン・チュニス

椅子取りゲーム(13分・35mm・カラー) L'ÂGE DE CHAISE  
'78(監督)ジャン＝トマ・ベダール

ハンガー(11分・35mm・カラー) LA FAIM (HUNGER)  
'74(監督)ピーター・フォルデス

長方形と長方形(8分・35mm・カラー)  
RECTANGLE ET RECTANGLES(RECTANGLES & RECTANGLES)  
'75(監督)ルネ・ジョドゥアン

ピアノ弾きのトニー(8分35・mm・カラー) TONY DE PELTRIE  
'85(監督)ピエール・ロビドゥ、ダニエル・ラングロワ、フィリップ・ベルジュロン

10

3/21(土)4:00pm 3/26(木)3:00pm

社会派(合計68分)

いたずら椅子(10分・35mm・白黒)  
A CHAIRY TALE (IL ÉTAIT UNE CHAISE)  
'57(監督)ノーマン・マクラレン、クロード・ジュトラ

Air!(2分・35mm・カラー) AIR!  
'72(監督)ポール・ドリエッセン

ビーズ・ゲーム(6分・35mm・カラー)  
BEAD GAME (HISTOIRE DE PERLES)  
'77(監督)イシュ・パテル

犬と狼の間で(21分・16mm・白黒)  
ENTRE CHIENS ET LOUP  
'78(監督)ピエール・エペール

「イー」(7分・35mm・カラー) 《E》  
'81(監督)プレッティスラフ・ポヤール、フランシーヌ・デビアン

戦争の思い出(16分・35mm・カラー)  
SOUVENIRS DE GUERRE  
'82(監督)ピエール・エペール

ふくろうとねずみ(6分・35mm・カラー)  
LE HIBOU ET LE LEMMING : UNE LÉGENDE ESKIMO  
'71(監督)コ・ホードマン

11

3/22(日)1:00pm 3/24(火)7:00pm

子どもまた観客(合計67分)

算数あそび(8分・35mm・カラー) RYTHMETIC  
'56(監督)ノーマン・マクラレン

へんてこなボール(6分・35mm・カラー) MABOULE  
'69(監督)コ・ホードマン

シュツ・シュツ(14分・35mm・カラー) TCHOU-TCHOU  
'72(監督)コ・ホードマン

カエルのデート(5分・35mm・カラー)  
MR. FROG WENT A-COURTING  
'74(監督)イヴリン・ランバート

古ぼけた箱(9分・35mm・カラー)  
UNE VIEILLE BOÎTE (AN OLD BOX)  
'75(監督)ポール・ドリエッセン

砂の城(13分・35mm・カラー)  
LE CHÂTEAU DE SABLE(THE SAND CASTLE)  
'77(監督)コ・ホードマン

イリュージョン(12分・35mm・カラー) ILLUSION?  
'77(監督)フレデリック・バック

12

3/22(日)4:00pm 3/25(水)3:00pm

ヘヴィメタル(90分・35mm・カラー) HEAVY METAL  
'81(監督)ジェラルド・ポッタートン

会 期	
平成21年2月20日～平成21年3月8日 (9日間)※金、土、日のみ上映	
会 場	
小ホール	
主 催	
東京国立近代美術館フィルムセンター	
作品数・上映回数	
9作品／9プログラム／18回上映	
入館者数	
1,720人(1回平均 96人)	
新聞・雑誌等における掲載記事	
行徳新聞	2月13日 「アメリカ映画史研究②」
葛西新聞	2月13日 「アメリカ映画史研究②」
浦安新聞	2月13日 「アメリカ映画史研究②」
ヘラルド朝日	2月13日 「AMERICAN FILMS OF THE 1930's」

## 282 《京橋映画小劇場No.13》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究②

平成14年度から15年度にかけてジョージ・イーストマン・ハウス国際写真映画博物館(アメリカ・ロチェスター)の協力により、ワーナー・ブラザーズから入手したアメリカ映画の16mmプリント・コレクションを紹介するシリーズの第2回で、平成19年度と同様トーキー初期のアメリカ映画9本を選び上映した。なお、本特集の上映プリントには日本語字幕が付されていないため、来館者にはあらずじを記したハンドアウトの配布を行った。

### 《Kyobashi-za No.13》 A Survey of American Film History Part 2: From the National Film Center Collection

This was the second screening event of the 16 mm prints of American films which NFC collected, in 2003 and 2004, from Warner Brothers with the cooperation of the George Eastman House Museum of Photography (Rochester, USA). Nine American films from the early talkie era were screened including *Mata Hari* (1931), a melodrama starring Greta Garbo, and *Libeled Lady* (1936), a fine screwball comedy film. As these films are not subtitled, handouts with the outlines in Japanese were given to the viewers beforehand.



1

2/20(金)2:00pm 2/28(土)3:00pm

マタ・ハリ(89分・16mm・白黒) MATA HARI  
'31(MGM)(監督)ジョージ・フィッツモーリス

2

2/20(金)6:00pm 3/1(日)0:00pm

自由の魂(93分・16mm・白黒) A FREE SOUL  
'31(MGM)(監督)クラレンス・ブラウン

3

2/21(土)0:00pm 3/1(日)3:00pm

類猿人ターザン(100分・16mm・白黒)  
TARZAN, THE APE MAN  
'32(MGM)(監督)W・S・ヴァン・ダイク

4

2/21(土)3:00pm 3/6(金)2:00pm

舗道の三人女(63分・16mm・白黒) THREE ON A MATCH  
'33(ファースト・ナショナル・ピクチャーズ)(監督)マーヴィン・  
ルロイ

5

2/22(日)0:00pm 3/6(金)6:00pm

海行かば(108分・16mm・白黒) SHIPMATES FOREVER  
'35(コスモポリタン・プロダクション)(監督)フランク・ボゼーギ

6

2/22(日)3:00pm 3/7(土)3:00pm

結婚クーデター(98分・16mm・白黒) LIBELED LADY  
'36(MGM)(監督)ジャック・コンウェイ

7

2/27(金)2:00pm 3/7(土)0:00pm

拾万弗玉手箱(80分・16mm・白黒) OLD HUTCH  
'36(MGM)(監督)J・ウォルター・ルーベン

8

2/28(土)0:00pm 3/8(日)0:00pm

化石の森(82分・16mm・白黒) THE PETRIFIED FOREST  
'36(ワーナー・ブラザース)(監督)アーチャー・メイヨ

9

2/27(金)6:00pm 3/8(日)3:00pm

大地(138分・16mm・白黒) THE GOOD EARTH  
'37(MGM)(監督)シドニー・フランクリン

## 283 映画の中の日本文学 Part2

展示室で開催の「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2」の開催に合わせた企画で、大正期までを取り上げた昨年の「Part1」に続き、今回は昭和の始まりから終戦期までの文学作品を原作とする映画作品16本（15プログラム）を上映した。

川端康成や石坂洋次郎、宮澤賢治等の原作をもとにした著名な映画化作品を取り上げ、特に『伊豆の踊子』については、無声映画時代の1933年に作られた最初の映画化作品（田中絹代主演）から1974年の映画化作品（山口百恵主演）まで、6本の作品を連続上映した。

## Japanese Literature in Film Part 2 [Film Screening]

In conjunction with the *Japanese Literature in Film Part 2—From the NFC Non-film Collection* exhibition, and following the *Part 1* screening event that showed films up to the Taisho era, this event screened 16 films, organized in 15 programs, that are based on the literary works published between the beginning of the Showa era (1926-1989) and the end of world war 2 such as the films based on the famous novels by Kawabata Yasunari and Miyazawa Kenji. Regarding Kawabata's *Izu no odoriko*, six different films ranging from the first film of 1933 starring Tanaka Kinuyo to the 1974 production starring Yamaguchi Momoe.



## 会期

平成21年4月3日～平成21年4月19日  
(15日間)

## 会場

大ホール

## 主催

東京国立近代美術館フィルムセンター

## 作品数・上映回数

16作品／15プログラム／30回上映

## 入館者数

3,720人(1回平均124人)

## 新聞・雑誌等における掲載記事

世界日報 4月5日 「映画の中の日本文学 Part2」

読売新聞 4月10日 「映画の中の日本文学 パート2」

1

4/3(金)3:00pm 4/11(土)4:00pm

恋の花咲く **伊豆の踊子**(124分・18fps・35mm・無声・白黒)  
'33(松竹)(監督)五所平之助

2

4/3(金)7:00pm 4/12(日)1:00pm

**伊豆の踊子**(97分・35mm・白黒)  
'54(松竹)(監督)野村芳太郎

3

4/7(火)3:00pm 4/15(水)7:00pm

**伊豆の踊子**(87分・35mm・カラー)  
'60(松竹)(監督)川頭義郎

4

4/7(火)7:00pm 4/16(木)3:00pm

**伊豆の踊子**(87分・35mm・カラー)  
'63(日活)(監督)西河克己

5

4/8(水)3:00pm 4/16(木)7:00pm

**伊豆の踊子**(85分・35mm・カラー)  
'67(東宝)(監督)恩地日出夫

6

4/4(土)1:00pm 4/15(水)3:00pm

**伊豆の踊子**(82分・35mm・カラー)  
'74(東宝=ホリプロ)(監督)西河克己

7

4/9(木)3:00pm 4/18(土)1:00pm

**若い人**(81分・35mm・白黒)  
'37(東京発声)(監督)豊田四郎

8

4/5(日)4:00pm 4/17(金)3:00pm

**鞍馬天狗 江戸日記**(63分・35mm・白黒)  
'39(日活)(監督)松田定次

9

4/9(木)7:00pm 4/19(日)4:00pm

**土と兵隊[不完全]**(144分・16mm・白黒)  
'39(日活)(監督)田坂具隆

10

4/8(水)7:00pm 4/12(日)4:00pm

**注文の多い料理店**(19分・35mm・カラー)  
'91(エコー=桜映画社)(監督)岡本忠成**風の又三郎**(96分・16mm・白黒)  
'40(日活)(監督)島耕二

11

4/10(金)3:00pm 4/18(土)4:00pm

**大日向村**(84分・35mm・白黒)  
'40(東京発声)(監督)豊田四郎

12

4/11(土)1:00pm 4/17(金)7:00pm

**無法松の一生**(78分・35mm・白黒)  
'43(大映)(監督)稲垣浩

13

4/10(金)7:00pm 4/19(日)1:00pm

**今ひとたびの**(118分・35mm・白黒)  
'47(東宝)(監督)五所平之助

14

4/4(土)4:00pm 4/14(火)3:00pm

**太陽のない街**(142分・35mm・白黒)  
'54(新星映画社)(監督)山本薩夫

15

4/5(日)1:00pm 4/14(火)7:00pm

**関の彌太ッペ**(84分・16mm・白黒)  
'55(新東宝)(監督)渡邊邦男



会 期
平成21年4月21日～平成21年5月3日 (12日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
44作品／12プログラム／24回上映
入館者数
2,857人(1回平均119人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 4月3日 「『重文』映画、公開へ」
日本経済新聞 4月3日 「初の重文映画、一般公開 1899年撮影『紅葉狩』」
静岡新聞 4月3日 「重文映画『紅葉狩』公開へ」
徳島新聞 4月4日 「『重文』映画を一般公開へ」
新潟日報 4月7日 「映画で初の重文『紅葉狩』を公開」
毎日新聞 4月13日 「朝鮮民族の皇民化推進目的で製作 映画『君と僕』のフィルム発見」
東洋経済日報 4月17日 「『内鮮一体』の映画発見 許泳監督『君と僕』」
読売新聞 4月17日 「貴重フィルム発掘、公開」
産経新聞 4月22日 「映画フィルム、初の重文指定へ」(堀晃和)

## 284 発掘された映画たち2009

フィルムセンターが近年発掘、復元したフィルムを紹介する恒例企画の7回目。今回は現存最古の日本映画であり、映画としては初めて重要文化財に指定されることとなった『紅葉狩』(1899年)、最新のデジタル技術で復元を行った『羅生門』(1950年)等、計44本の作品を12プログラムにまとめて上映し、映画保存機関としての活動の成果を発表した。

### Cinema: Lost and Found 2009

This is the seventh of the series that shows the films which NFC recently discovered and restored. This time, 44 films were screened as 12 programs so as to showcase the achievement as the film archive. The films include the oldest extant Japanese film *Momijigari* (1899) that was designated as the important cultural property. (This was the first time the film was designated.) In addition, *Rashomon* (1950) that was digitally restored with the latest technologies was screened.



## 1

4/21(火)7:00pm 4/29(水・祝)4:00pm

羅生門[デジタル復元版](88分・35mm・白黒)  
'50(大映京都)(監督)黒澤明

## 2

4/25(土)1:00pm 5/1(金)7:00pm

マキノ映画とマキノ眞三(計98分)

ゴムまり(15分・35mm・白黒)  
'47(マキノ映画社)(監督)荒井良平

暗黒街の天使(83分・35mm・白黒)  
'48(マキノ映画)(監督)マキノ眞三

## 3

4/25(土)4:00pm 4/30(木)7:00pm

ママの新婚旅行(94分・35mm・白黒)  
'54(永和プロ)(監督)佐藤武

## 4

4/21(火)3:00pm 5/2(土)1:00pm

CIE映画選集1(計91分)

働くものゝ苦情処理(安全燈)(30分・35mm・白黒)  
WORKERS' GRIEVANCE PROCEDURE  
'50(日本映画社)(監督)衣笠十四三

働くものゝ権利(20分・35mm・白黒)  
RIGHTS OF THE WORKER  
'50(東宝[日本版製作])(監督)西澤豪

値段と品物(21分・35mm・白黒) PRICE AND QUALITY  
'51(電通映画社[日本版製作])

一步前進(20分・35mm・白黒) STEP FORWARD  
'52(中井プロダクション[日本版製作])

## 5

4/22(水)3:00pm 4/28(火)7:00pm

CIE映画選集2(計102分)

公民館(32分・35mm・白黒) CITIZEN'S PUBLIC HALL  
'50(日本映画社[日本版製作])

わが街の出来事(14分・35mm・白黒)  
IT HAPPENED IN OUR TOWN  
'50(シュウタグチプロ)

農村の生活改善(18分・35mm・白黒) BETTER RURAL HOMES  
'51(理研映画[日本版製作])

保健婦の手紙(18分・35mm・白黒)  
PUBLIC HEALTH NURSE  
'51(プレミアヤ映画[日本版製作])

ある村の歩み(20分・35mm・白黒)  
CHANGING VILLAGE  
'52(日本映画社[日本版製作])

## 6

4/22(水)7:00pm 4/30(木)3:00pm

CIE映画選集3(計113分)

スクエア・ダンスを踊ろう(14分・35mm・白黒)  
LET'S SQUARE DANCE  
'50(東京映研)(監督)丹生正、水木荘也

國を支える三つの柱(14分・35mm・白黒)  
THE THREE PILLARS OF GOVERNMENT  
'50(東亜発声映画[日本版製作])

高崎での話(20分・35mm・白黒) TAKASAKI STORY  
'51(RKO パテ会社)

第二集 友情の篝火(10分・35mm・白黒)  
TORCH OF FRIENDSHIP  
'51(シュウ・タグチプロダクション)

ユネスコと私たち(20分・35mm・白黒)  
UNESCO AND JAPAN  
'52(理研映画[日本版製作])

国際連合の意義(19分・35mm・白黒)  
THE MEANING OF THE UNITED NATIONS  
'52(ニッカーボッカー・プロダクションズ)

アメリカの印象 第二集(16分・35mm・白黒)  
IMPRESSIONS OF AMERICA NO.2  
'52(ファースト映画社[日本版製作])

## 7

4/23(木)3:00pm 5/2(土)4:00pm

バン・コレクション1(計95分)

スクリーン・アトラクション 愛染二重奏 オシドリヒット歌集  
(19分・35mm・白黒)  
'40頃(朝日映画)

歌のアルバム 第五輯(9分・35mm・白黒)  
'46(日本映画社)

罪はいつこに(23分・24fps・35mm・無声・白黒・不完全)  
'34(大都)(監督)吉村操

母校の花形(44分・35mm・白黒・不完全)  
'37(日活多摩川)(監督)千葉泰樹

## 8

4/23(木)7:00pm 5/3(日・祝)1:00pm

パン・コレクション2(計110分)

赤尾の林蔵(43分・20fps・35mm・無声・白黒・不完全)

'37(大都)(監督)白井戦太郎

杉狂の催眠術(67分・35mm・白黒)

'38(日活多摩川)(監督)千葉泰樹

## 9

4/24(金)3:00pm 4/29(水・祝)1:00pm

新大都映画(計79分)

剣劇女優とストリッパー(26分・35mm・白黒)

'53(新大都映画)(監督)平澤讓二

アナタハン島の真相はこれだ!!(53分・35mm・白黒)

'53(新大都映画)(監督)吉田とし子

## 10

4/24(金)7:00pm 5/3(日・祝)4:00pm

戦前・戦中文化記録映画の復元(計56分)

紅葉狩(計10分・16fps・35mm・白黒)

1899(撮影)柴田常吉

電話のかけ方[仮題](9分・24fps・35mm・無声・染色・不完全)

1920年代後半頃?

警察犬(12分・35mm・白黒)

'41(興亜建立文化映画)(監督)持田米彦

海のますらを(25分・35mm・白黒)

'41(松竹文化映画製作所)(監督)田中忠夫

## 11

4/26(日)1:00pm 4/28(火)3:00pm

戦前・戦中劇映画の復元(計68分)

怪談 皿屋敷[仮題](11分・16fps・35mm・無声・染色・断片)

'23以前

播州皿屋敷(8分・18fps・35mm・無声・白黒)

'28頃(賀古プロ)(撮影)田中十三

槍供養[パテベビー版・デジタル復元版](17分・16fps・35mm・無声・白黒)

'27(日活太秦)(監督)辻吉郎

繪日傘 第二話 狸大盡[パテベビー版・デジタル復元版]

(8分・16fps・35mm・無声・白黒)

'30(マキノ御室)(監督)金森万象

君と僕(24分・35mm・白黒・部分)

'41(朝鮮軍報道部)(監督)日夏英太郎

## 12

4/26(日)4:00pm 5/1(金)3:00pm

南湖院コレクション(計103分)

社会教育映画 我等の運命(12分・16fps・35mm・無声・染色)

'20年代前半(藤谷プロダクション)

栄光の日は来る(25分・15fps・35mm・無声・白黒)

'31(日本キネマ)(監督)原田武造

第三十回醫王祭 十二月二十五日(16分・15fps・35mm・無声・一部染色)

'30

大震災以前 帝都の壯観(16分・16fps・35mm・無声・一部染色)

'25(東亜キネマ)

長への御幸をまつ 多摩御陵道(5分・16fps・35mm・無声・白黒)

'27

大禮記念 国産振興東京博覧会(14分・16fps・35mm・無声・白黒)

'28(東京映画社)

輝やく大東京(15分・16fps・35mm・無声・染色)

'30(東京市教育局社会教育課)(撮影)大日本教育映画協會

<b>会 期</b>
平成21年4月29日～平成21年5月8日 (9日間)
<b>会 場</b>
小ホール
<b>主 催</b>
東京国立近代美術館フィルムセンター ブルガリア共和国大使館
<b>作品数・上映回数</b>
14作品／5プログラム／18回上映
<b>入館者数</b>
1,619人(1回平均90人)
<b>新聞・雑誌等における掲載記事</b>
葛西新聞 4月24日 「ブルガリア映画特集」
浦安新聞 4月24日 「ブルガリア映画特集」
映像新聞 4月27日 「ブルガリア映画35年ぶりに特集」
東京新聞 4月30日 「ブルガリア映画特集」
SCREEN 6月号 「ブルガリア映画特集」

## 285 日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 ブルガリア映画特集

日本・ブルガリア外交関係再開50周年を記念して、ブルガリア共和国大使館と共同で、同国映画史を代表する1972年の『炎のマリア』をはじめ、70年代、80年代の代表作、そして近年の長篇劇映画、ドキュメンタリー映画、アニメーション映画まで計14作品(9プログラム)を上映した。

フィルムセンターでは、1974年の「ブルガリア映画特集」以来の企画であり、海外同種機関であるブルガリア国立フィルモテカからも上映プリントの提供を受け、限られた本数ではあったもののバランスのとれたプログラムを組むことができた。

日本語字幕の無い8作品について字幕の作成と投影を行った。

### 50 Years of Reestablishment of Diplomatic Relation between Bulgaria and Japan Bulgarian Film Week

Commemorating 50 Years of Reestablishment of Diplomatic Relation between Bulgaria and Japan, NFC co-organized this event with the embassy of the Republic of Bulgaria and screened 14 films in nine programs. The films include *Козият рог* (The Goat Horn) that represents the Bulgarian film heritage, representative films from the 1970s and 1980s, and more recent feature-length fiction films, documentary films, and animation films.

This was the second event on Bulgarian films at NFC after the one in 1974. NFC borrowed a number of screening prints from *Bulgarska Nacionalna Filmoteka*, the similar national institute to NFC in Bulgaria.



## ◆長篇劇映画

1

4/29(水・祝)0:00pm 5/7(木)6:00pm

炎のマリア(99分・35mm・白黒)  
КОЗИЯТ РОГ(THE GOAT HORN)  
'72(監督)メトディ・アンドノフ

2

4/29(水・祝)3:00pm 5/5(火・祝)0:00pm

無名兵士のピカピカ靴(84分・35mm・カラー)  
ЛАЧЕНИТЕ ОБУВКИ НА НЕЗНАЙНИЯ ВОЙН  
(THE UNKNOWN SOLDIER'S PATENT LEATHER SHOES)  
'79(監督)ランゲル・ヴァルチャノフ

3

4/30(木)6:00pm 5/3(日・祝)3:00pm

汗の栄光(95分・35mm・カラー)  
681 Г. СЛЕД ХРИСТА СЛАВАТА НА ХАНА  
(681 A.D. THE GLORY OF KHAN)  
'81(監督)リュドミール・スタイコフ

4

4/30(木)2:00pm 5/6(水・祝)0:00pm

引き出しの中の犬(85分・35mm・4カラー)  
КУЧЕ В ЧЕКМЕДЖЕ(A DOG IN A DRAWER)  
'82(監督)ディミータル・ペトロフ

5

5/1(金)2:00pm 5/5(火・祝)3:00pm

ラプソディ・イン・ホワイト(80分4・35mm・カラー)  
РАПСОДИЯ В БЯЛО(RHAPSODY IN WHITE)  
2002(監督)テディ・モスコフ

6

5/1(金)6:00pm 5/6(水・祝)3:00pm

レディース・タイム(92分・35mm・カラー)  
ВРЕМЕ ЗА ЖЕНИ(TIME FOR WOMEN)  
2006(監督)イリヤ・コストフ

7

5/2(土)0:00pm 5/7(木)2:00pm

ソフィアの3つの運命(96分・35mm・カラー)  
ШИВАЧКИ(SEAMSTRESSES)  
2007(監督)リュドミール・トドロフ

## ◆アニメーションとドキュメンタリー

8

5/2(土)3:00pm 5/8(金)2:00pm

青白き月(9分・35mm・カラー)  
ЛУНАТА СЪС СИННИТЕ ОЧИ (BLUE EYED MOON)  
2001(監督)ベンチョ・クンチェフ

A + E(5分・35mm・カラー) A + E  
2006(監督)ツヴェトミラ・ニコロヴァ

ほろ  
襤褸(9分・35mm・カラー)  
ПАРЦАЛЪТ (THE RAG)  
2007(監督)アンリ・クレフ

ゲオルギと蝶々(60分・35mm・カラー)  
ГЕОРГИ И ПЕПЕРУДИТЕ(GEORGI AND THE BUTTERFLIES)  
2004(監督)アンドレイ・パウノフ

9

5/3(日・祝)0:00pm 5/8(金)6:00pm

ZIRO(8分・35mm・カラー) ЗИРО(ZIRO)  
2007(監督)スラフ・バカロフ

五月(7分・35mm・カラー) МАЙ (MAY)  
2007(監督)ストヤン・ドゥコフ

蚊の問題その他の話(100分・35mm・カラー)  
ПРОБЛЕМЪТ С КОМАРИТЕ И ДРУГИ ИСТОРИИ  
(THE MOSQUITO PROBLEM AND OTHER STORIES)  
2007(監督)アンドレイ・パウノフ

会 期
平成21年5月5日～平成21年5月28日 (21日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
21作品／21プログラム／42回上映
入館者数
4,275人(1回平均102人)
新聞・雑誌等における掲載記事
フィギア王 4月24日 「日本映画史横断 ④ 怪獣・SF映画特集 Part2」
週刊金曜日 4月24日 「日本映画史横断 ④ 怪獣・SF映画特集 Part2」
読売新聞 5月8日 「怪獣・SF映画特集 Part2」
世界日報 5月8日 「日本映画史横断④ 怪獣・SF映画特集 Part2」
映像新聞 5月11日 「怪獣・SF映画特集 第2弾 21本を上映」
常陽藝文 5月号 「日本映画史横断④ 怪獣・SF映画特集 Part2」

## 286 日本映画史横断④ 怪獣・SF映画特集 Part2

数々のユニークな怪獣を生み出し、近未来戦争や科学犯罪、スーパー・ヒーローの活躍等、様々な分野を開拓しながら、日本映画のユニークなジャンルとして定着してきた日本の特撮映画の歴史をたどる企画の第2回。『ゴジラ』シリーズの製作が再び活発化する第2次ブームの時代を中心に、スタッフの世代交代や空前のSF小説ブーム、世界的なパニック・SF映画ブームを背景にさらなる変化を遂げつつあった日本の特撮映画の歩みをたどった。1968年に公開された異色のSF映画『吸血鬼ゴケミドロ』から1978年の超大作『宇宙からのメッセージ』まで21本を上映した。

### Cross-Section of Japan's Cinematic Past [Part 4] Monster and Science Fiction Film II

Following the *Part 3* in the previous year, this event surveyed the history of special effects films in Japan. Focusing on the second boom when the production of the Godzilla series became active again, the program showed the ways in which the Japanese special effect films were entering the new phase of transformation with the new generation of filmmakers taking over, the unprecedented boom of science fiction novels, and the world-wide boom of the panic science fiction films. 21 films were screened including the unusual science fiction film *Kyuketsuki Gokemidoro* (1968) and the monumental work *Uchu kara no messeji* (1978).



1

5/5(火・祝)1:00pm 5/27(水)7:00pm

吸血鬼ゴケミドロ(84分・35mm・カラー)  
'68(松竹)(監督)佐藤肇

2

5/5(火・祝)4:00pm 5/22(金)3:00pm

昆虫大戦争(84分・35mm・カラー)  
'68(松竹)(監督)二本松嘉瑞

3

5/6(水・祝)1:00pm 5/28(木)3:00pm

ガンマー第3号 宇宙大作戦(77分・35mm・カラー)  
'68(東映=ラム・フィルム)(監督)深作欣二

4

5/7(木)3:00pm 5/19(火)7:00pm

ガメラ対大悪獣ギロン(82分・35mm・カラー)  
'69(大映)(監督)湯浅憲明

5

5/6(水・祝)4:00pm 5/21(木)3:00pm

緯度0大作戦(89分・35mm・カラー)  
'69(東宝)(監督)本多猪四郎

6

5/8(金)3:00pm 5/21(木)7:00pm

ゴジラ ミニラ ガバラ オール怪獣大進撃(69分・35mm・カラー)  
'69(東宝)(監督)本多猪四郎

7

5/7(木)7:00pm 5/20(水)3:00pm

ガメラ対大魔獣ジャイガー(83分・35mm・カラー)  
'70(大映)(監督)湯浅憲明

8

5/8(金)7:00pm 5/16(土)1:00pm

ゲゾラ ガニメ カメーバ 決戦 南海の大怪獣(84分・35mm・カラー)  
'70(東宝)(監督)本多猪四郎

9

5/12(火)3:00pm 5/20(水)7:00pm

ガメラ対深海怪獣ジグラ(88分・35mm・カラー)  
'71(大映)(監督)湯浅憲明

10

5/9(土)1:00pm 5/19(火)3:00pm

ゴジラ対ヘドラ(85分・35mm・カラー)  
'71(東宝)(監督)坂野義光

11

5/9(土)4:00pm 5/26(火)7:00pm

地球攻撃命令 ゴジラ対ガイガン(89分・35mm・カラー)  
'72(東宝)(監督)福田純

12

5/10(日)1:00pm 5/22(金)7:00pm

怪獣大奮戦 ダイゴロウ対ゴリアス(85分・35mm・カラー)  
'72(円谷プロ)(監督)飯島敏宏

13

5/12(火)7:00pm 5/27(水)3:00pm

ゴジラ対メガロ(82分・35mm・カラー)  
'73(東宝)(監督)福田純

14

5/10(日)4:00pm 5/26(火)3:00pm

狼の紋章(78分・35mm・カラー)  
'73(東宝)(監督)松本正志

15

5/13(水)3:00pm 5/24(日)4:00pm

日本沈没(143分・35mm・カラー)  
'73(東宝)(監督)森谷司郎

16

5/13(水)7:00pm 5/23(土)1:00pm

ゴジラ対メガゴジラ(84分・35mm・カラー)  
'74(東宝)(監督)福田純

17

5/14(木)3:00pm 5/16(土)4:00pm

エスパイ(94分・35mm・カラー)  
'74(東宝)(監督)福田純(協力監督)大森健次郎

18

5/14(木)7:00pm 5/23(土)4:00pm

メカゴジラの逆襲(83分・35mm・カラー)  
'75(東宝)(監督)本多猪四郎

19

5/15(金)3:00pm 5/17(日)4:00pm

恐竜・怪鳥の伝説(92分・35mm・カラー)  
'77(東映)(監督)倉田準二

20

5/15(金)7:00pm 5/24(日)1:00pm

惑星大戦争(91分・35mm・カラー)  
'77(東宝)(監督)福田純

21

5/17(日)1:00pm 5/28(木)7:00pm

宇宙からのメッセージ(105分・35mm・カラー)  
'78(東映=東北新社=東映大秦映画村)(監督)深作欣二

会 期
平成21年5月29日～平成21年6月20日 (20日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター 欧州連合(EU)駐日欧州委員会代表部 EU加盟国大使館・文化機関
作品数・上映回数
21作品／20プログラム／40回上映
入館者数
7,835人(1回平均196人)
新聞・雑誌等における掲載記事
岩手日報 5月11日 「EU各国の映画21作品」
日本海新聞 5月12日 「EU加盟国の映画を上映へ」
東京新聞 5月12日夕刊 「欧州21カ国の映画を一堂に」
浦安新聞 5月22日 「EUフィルムデーズ2009」
行徳新聞 5月22日 「EUフィルムデーズ2009」
葛西新聞 5月22日 「EUフィルムデーズ2009」
山陽新聞 5月23日夕刊 「EU加盟国の映画上映」
映像新聞 5月25日 「EUフィルムデーズ2009 21カ国の作品公開」
熊本日日新聞 5月26日 「EU各国魅力映画で紹介へ」
朝日新聞 5月28日夕刊 「EUフィルムデーズ2009シンポジウム」
産経新聞 5月31日 「欧州映画監督や俳優迎えシンポ」

## 287 EUフィルムデーズ2009

欧州連合(EU)駐日欧州委員会代表部及びEU加盟国大使館・文化機関との共同主催により、現代ヨーロッパ社会・文化の多様性を紹介する上映映画の第7回目。第5回より主催者にフィルムセンターが加わり、3年目の開催となる今回は21カ国から計21本(短篇1本を含む)を集め、20プログラムに構成して上映した。

また、本企画のために来日した『カラマゾフ兄弟』(2008年、チェコ)のペトル・ゼレンカ監督と主演俳優のイヴァン・トロヤン氏、『クリスマス・オラトリオ』(1996年、スウェーデン)のシェル＝オーケ・アンデション監督と主演俳優のヨーワン・ヴィーデルベリ氏、『カマロン』(2005年、スペイン)のプロデューサーのミゲル・メネンデス・デ・スピリャーガ氏、『私は死んでいない』(2008年、フランス)のジャン＝シャルル・フィトゥシ監督を招き、舞台挨拶やQ&A、シンポジウムを開催した。

なお、本企画は昨年まで大ホールと小ホールの2つで開催していたが、本年度より全てのプログラムを大ホールで上映することとした。

### EU Film Days 2009

This was the 7th installment of the screening program that showcases diversity of contemporary European societies and cultures. The series was originally co-organized by the Delegation of the European Commission to Japan and the Embassies and the cultural institutions of the EU member nations. NFC joined as the co-organizer from the fifth installment. In this third event for NFC, 21 films (including one short) from 21 countries were screened in 20 programs.

This event had a number of guests who greeted the audience from the stage, attended the Q&A sessions, and participated in the symposium. What follows are the guests. Director Petr Zelenka and leading actor Yvan Trojan of *Karamazovi* (2008, Czechoslovakia), director Kjell-Åke Andersson and leading actor Johan Widerberg of *Juloratoriet* (1996, Sweden), producer Miguel Menendez de Sbillaga of *Camarón* (2005, Spain), and director Jean-Charles Fitoussi of *Je ne suis pas morte* (2008, France).

All the programs were held at Cinema 1 this year, instead of 1 and 2 till the previous year.





1

6/4(木)3:00pm 6/17(水)7:00pm

[アイルランド]

ジョジーの修理工場(82分・35mm・カラー)

GARAGE

2007(監督)レナド・エイブラハムソン

2

5/30(土)11:00am 6/12(金)7:00pm

[イタリア]

マイ・ブラザー(100分・35mm・カラー)

MIO FRATELLO È FIGLIO UNICO

2007(監督)ダニエレ・ルケッティ

3

6/9(火)3:00pm 6/20(土)1:00pm

[英国]

世にも憂鬱なハムレットたち(99分・35mm・カラー)

IN THE BLEAK MIDWINTER

'95(監督)ケネス・ブラナー

4

6/5(金)7:00pm 6/13(土)4:00pm

[オーストリア]

はじめに目ありき(45分・35mm・カラー)

IM ANFANG WAR DER BLICK

2003(監督)バディー・ミンク

[オランダ]

ティラミス(81分・35mm・カラー) TIRAMISU

2008(監督)パウラ・ヴァンデルウスト

5

5/31(日)1:00pm 6/18(木)3:00pm

[ギリシャ]

バック・ドア(104分・35mm・カラー) PISO PORTA

2001(監督)ヨルゴス・ツェベロプロス

6

5/29(金)7:00pm 6/20(土)4:00pm

[スウェーデン]

クリスマス・オラトリオ(124分・35mm・カラー)

JULORATORIET

'96(監督)シェル＝オーケ・アンデション

7

6/3(水)7:00pm 6/16(火)3:00pm

[スペイン]

カマロン(119分・35mm・カラー) CAMARÓN

2005(監督)ハイメ・チャバリ

8

6/2(火)3:00pm 6/7(日)1:00pm

[スロヴァキア]

コウノトリの帰還(96分・35mm・カラー)

NÁVRAT BOCIANOV

2007(監督)マルティン・レプカ

9

5/30(土)5:00pm 6/2(火)7:00pm

[チェコ]

カラマーズフ兄弟(104分・35mm・カラー)

KARAMAZOVI

2008(監督)ペトル・ゼレンカ

10

6/9(火)7:00pm 6/14(日)1:00pm

[デンマーク]

ファイター(100分・35mm・カラー) FIGHTER

2007(監督)ナターシャ・アーティ

11

6/7(日)4:00pm 6/11(木)3:00pm

[ドイツ]

耳のないウサギ(115分・35mm・カラー)

KEINOHRRHASEN

2007(監督)ティル・シュヴァイガー

12

6/5(金)3:00pm 6/13(土)1:00pm

[ハンガリー]

ウィニング チケット 一遙かなるブダペストー(104分・35mm・カラー) TELITALÁLAT

2003(監督)イレーシュ・サボー、シャーンドル・カルドシュ

13

6/4(木)7:00pm 6/17(水)3:00pm

[フィンランド]

氷の仮面舞踏会(110分・35mm・カラー) MUSTA JÄÄ

2007(監督)ベトリ・コトヴィカ

14

5/31(日)4:00pm 6/10(水)6:30pm

[フランス]

私は死んでいない(188分・35mm・カラー)

JE NE SUIS PAS MORTE

2008(監督)ジャン＝シャルル・フィトゥシ

15

5/29(金)4:00pm 6/19(金)7:00pm

[ブルガリア]

ラプソディ・イン・ホワイト(80分・35mm・カラー)

РАПСОДИЯ В БЯЛО

2002(監督)テディ・モスコフ

16

6/3(水)3:00pm 6/16(火)7:00pm

[ベルギー]

ハンドルネームはベンX(91分・35mm・カラー)

BEN X

2007(監督)ニック・バルタザール

17

6/12(金)3:00pm 6/18(木)7:00pm

[ポーランド]

神さまの小さなお庭で(114分・35mm・カラー) U PANA BOGA  
W OGRÓDKU

2007(監督)ヤツェク・プロムスキ

18

6/10(水)3:00pm 6/14(日)4:00pm

[ポルトガル]

コロッサル・ユース(155分・35mm・カラー)

JUVENTUDE EM MARCHA

2006(監督)ペドロ・コスタ

19

6/6(土)4:00pm 6/19(金)3:00pm

[ラトビア]

バトル・オブ・リガ(118分・35mm・カラー)

RIGAS SARGI

2007(監督)アイガース・グラウバ

20

6/6(土)1:00pm 6/11(木)7:00pm

[リトアニア]

永久機関(86分・35mm・カラー) PERPETUUM MOBILE

2008(監督)ヴァルダス・ナヴァサイティス

会 期
平成21年6月30日～平成21年7月16日 平成21年8月6日～平成21年9月13日 (49日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
52作品／49プログラム／97回上映
入館者数
14,364人(1回平均148人)
新聞・雑誌等における掲載記事
文化庁月報 6月号 「特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008」(赤崎陽子)
山陰中央新報 6月13日 「映画人追悼の企画上映」
山梨日日新聞 6月14日 「亡くなった映画人追悼」
東京新聞 6月16日 「映画人を偲び上映『野火』など5 2 作品」
埼玉新聞 6月20日 「亡くなった映画人企画上映で追悼」
東京新聞 6月25日 「特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008(前期)」
行徳新聞 6月26日 「特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008」
シネ・フロント 5・6月 「逝ける映画人を偲んで」
聖教新聞 7月2日 「逝ける映画人を偲ぶ」
赤旗 日曜版 7月5日 「逝ける映画人を偲んで2007-2008」
葛西新聞 7月10日 「特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008」
週刊金曜日 7月10日 「特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008」
常陽藝文 7月号 「特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008」
テレビ・プロス 8月5日 「活弁世界傑作劇場 『下落合焼きとりムービー』(山田広野)

## 288 特集・逝ける映画人を偲んで2007-2008

フィルムセンターのアーカイバル・コレクションを生かして、近年逝去した映画関係者の業績をその代表作で偲び、回顧する恒例企画である。

今回は2007年1月1日から2008年12月31日までの期間に亡くなった監督、俳優、技術スタッフ等を対象とした。市川崑、谷口千吉、植木等、船越英二をはじめ、約50名の映画人の携わった52作品、49番組を上映してその逝去を惜しんだ。

### In Memory of Film Figures We Lost in 2007-2008

This is the regular screening event that cherishes the memories of the recently deceased filmmakers by retrospectively showing their representative works. Utilizing the archival collection of NFC, 52 films were screened in 49 programs this year in order to pay homage to 50 filmmakers—directors, actors, and technical staffs—who passed away between January 1, 2007 and December 31, 2008. They include Ichikawa Kon, Taniguchi Senkichi, Ueki Hitoshi, and Funakoshi Eiji.



■太字は追悼対象となった映画人

1

6/30(火)3:00pm 8/16(日)1:00pm

田園交響楽(75分・35mm・白黒)

'38(東宝)(音楽)服部正(監督)山本薩夫

2

6/30(火)7:00pm 8/22(土)1:00pm

女の宿(86分・35mm・白黒)

'41(松竹京都)(監督)犬塚稔

3

7/1(水)3:00pm 8/16(日)4:00pm

銀嶺の果て(88分・35mm・白黒)

'47(東宝)(監督)谷口千吉

4

7/1(水)7:00pm 9/5(土)1:00pm

三つの結婚(96分・35mm・白黒)

'50(松竹大船)(監督)佐々木啓祐(出演)桂木洋子

5

7/2(木)3:00pm 8/23(日)4:00pm

やっさもっさ(106分・35mm・白黒)

'53(松竹大船)(監督)澁谷實(脚本)斎藤良輔(出演)桂木洋子

6

7/2(木)7:00pm 8/30(日)1:00pm

赤線基地(90分・35mm・白黒)

'53(東宝)(監督)(脚本)谷口千吉(出演)根岸明美

7

8/15(土)1:00pm 9/1(火)7:00pm

君待船(82分・35mm・白黒)

'54(大映東京)(監督)西村元男(出演)林成年、高松英郎

8

7/3(金)3:00pm 8/18(火)7:00pm

ジャンケン娘(92分・35mm・カラー)

'55(東宝)(監督)杉江敏男(出演)山田真二

9

7/3(金)7:00pm 8/23(日)1:00pm

真昼の暗黒(124分・35mm・白黒)

'56(現代ぷろ)(監督)今井正(出演)草薙幸二郎

10

8/15(土)4:00pm 9/10(木)7:00pm

弥次喜多道中(79分・35mm・白黒)

'56(大映)(監督)齋藤寅次郎(出演)林成年

11

7/7(火)3:00pm 8/19(水)7:00pm

娘道成寺(19分・35mm・白黒)

'45(東宝)(監督)市川崑(音楽)服部正

満員電車(99分・35mm・白黒)

'57(大映東京)(監督)(脚本)市川崑(出演)船越英二

12

7/4(土)1:00pm 8/18(火)3:00pm

楯山節考(98分・35mm・カラー)

'58(松竹大船)(監督)木下恵介(撮影)楠田浩之

13

7/4(土)4:00pm 8/20(木)7:00pm

巨人と玩具(96分・35mm・カラー)

'58(大映東京)(監督)増村保造(出演)高松英郎

14

7/7(火)7:00pm 8/26(水)3:00pm

野火(104分・35mm・白黒)

'59(大映東京)(監督)市川崑(出演)船越英二

15

7/8(水)3:00pm 8/21(金)7:00pm

地獄(101分・35mm・カラー)

'60(新東宝)(監督)中川信夫(脚本)宮川一郎

16

7/5(日)1:00pm 8/20(木)3:00pm

ルポルタージュ 炎(37分・35mm・カラー)

'60(岩波映画製作所)(監督)黒木和雄(音楽)松村禎三

ガラスの中の少女(65分・35mm・白黒)

'60(日活)(監督)若杉光夫(出演)草薙幸二郎、南風洋子、水原英子

17

7/8(水)7:00pm 8/21(金)3:00pm

悪名(94分・35mm・カラー)

'61(大映京都)(監督)田中徳三(美術)内藤昭

18

7/9(木)3:00pm 8/26(水)7:00pm

その場所に女ありて(94分・35mm・カラー)

'62(東宝)(製作)金子正且(監督)鈴木英夫

19

7/9(木)7:00pm 8/25(火)3:00pm

座頭市物語(96分・35mm・白黒)

'62(大映京都)(監督)三隅研次(脚本)犬塚稔(美術)内藤昭

20

7/10(金)3:00pm 8/25(火)7:00pm

斬る(71分・35mm・カラー)

'62(大映京都)(監督)三隅研次(美術)内藤昭

21

7/10(金)7:00pm 8/19(水)3:00pm

ニッポン無責任時代(86分・35mm・カラー)

'62(東宝)(監督)古澤憲吾(出演)植木等、峰健二

22

7/5(日)4:00pm 8/27(木)7:00pm

黒の報告書(92分・35mm・白黒)

'63(大映東京)(監督)増村保造(出演)高松英郎

23

7/14(火)3:00pm 9/11(金)7:00pm

眠狂四郎殺法帖(84分・35mm・カラー)

'63(大映京都)(監督)田中徳三(脚本)星川清司(美術)内藤昭

24

7/11(土)1:00pm 9/3(木)7:00pm

十三人の刺客(126分・35mm・白黒)

'63(東映京都)(監督)工藤栄一(脚本)池上金男

25

7/11(土)4:00pm 9/1(火)3:00pm

帝銀事件 死刑囚(108分・35mm・白黒)

'64(日活)(監督)(脚本)熊井啓(出演)草薙幸二郎

26

7/12(日)1:00pm 8/28(金)7:00pm

三匹の侍(93分・35mm・白黒)

'64(松竹京都=さむらいプロ)(製作)(脚本)岸本吟一(監督)五社英雄

27

7/12(日)4:00pm 8/27(木)3:00pm

血とダイヤモンド(96分・35mm・白黒)

'64(宝塚映画)(監督)福田純(出演)石立鉄男

28

7/14(火)7:00pm 8/30(日)4:00pm

明治俠客伝 三代目襲名(90分・35mm・カラー)

'65(東映京都)(監督)加藤泰(脚本)村尾昭

29

7/15(水)3:00pm 8/22(土)4:00pm

骨まで愛して(91分・35mm・カラー)

'66(日活)(監督)斎藤武市(原作)(脚本)川内康範

30

7/15(水)7:00pm 9/3(木)3:00pm

本能(103分・35mm・白黒)

'66(近代映画協会)(監督)新藤兼人(出演)(能)観世栄夫

31

7/16(木)3:00pm 9/2(水)7:00pm

爆弾男といわれるあいつ(91分・35mm・カラー)

'67(日活)(監督)長谷部安春(脚本)下飯坂菊馬

32

7/16(木)7:00pm 9/4(金)3:00pm

クレージの怪盗ジバコ(110分・35mm・カラー)

'67(東宝=渡辺プロ)(監督)坪島孝(出演)植木等

33

8/6(木)3:00pm 9/4(金)7:00pm

乱れ雲(108分・35mm・カラー)

'67(東宝)(製作)金子正且(監督)成瀬巳喜男(出演)村上冬樹

34

8/6(木)7:00pm 9/6(日)4:00pm

明治の絵画(22分・35mm・カラー)

'68(日映科学映画製作所)(監督)中村麟子(音楽)長沢勝俊

盲獣(84分・35mm・カラー)

'69(大映東京)(監督)増村保造(出演)船越英二

35

8/7(金)3:00pm 9/5(土)4:00pm

哀愁のサーキット(77分・35mm・カラー)

'72(日活)(監督)村川透(出演)峰岸隆之介

36

8/7(金)7:00pm 9/2(水)3:00pm

股旅(96分・35mm・カラー)

'73(崑プロ=ATG)(監督)(脚本)市川崑

37

8/8(土)4:00pm 8/28(金)3:00pm

復讐するは我にあり(140分・35mm・カラー)

'79(松竹=今村プロ)(監督)今村昌平(編集)浦岡敬一(出演)緒形拳、北村和夫

38

8/8(土)1:00pm 9/8(火)7:00pm

下落合焼とりムービー(86分・35mm・カラー)

'79(獅子プロ=東映)(製作)向江寛城(監督)山本晋也(脚本)(出演)赤塚不二夫

39

8/9(日)0:30pm 9/9(水)3:00pm

天平の薨(152分・35mm・カラー)

'80(「天平の薨」製作委員会)(監督)熊井啓(出演)草薙幸二郎

40

8/9(日)4:00pm 9/8(火)3:00pm

復活の日(156分・35mm・カラー)

'80(角川春樹事務所=東京放送)(監督)深作欣二(音楽)羽田健太郎  
(出演)緒形拳

41

8/11(火)7:00pm 9/6(日)1:00pm

愛の陽炎(108分・35mm・カラー)

'83(松竹)(監督)三村晴彦

42

8/29(土)1:00pm

東京裁判(277分・35mm・白黒)

'83(講談社)(監督)小林正樹(編集)浦岡敬一

43

8/11(火)3:00pm 9/13(日)4:00pm

魚影の群れ(140分・35mm・カラー)

'83(松竹)(監督)相米慎二(出演)緒形拳

44

8/12(水)3:00pm 9/12(土)1:00pm

BU・SU(95分・35mm・カラー)

'87(東宝=アミューズ・シネマ・シティ)(監督)市川準

45

8/12(水)7:00pm 9/10(木)3:00pm

黒い雨(123分・35mm・白黒)

'89(今村プロ=林原グループ)(監督)今村昌平(出演)北村和夫

46

8/13(木)3:00pm 9/9(水)7:00pm

ファンシイダンス(101分・35mm・カラー)

'89(大映)(監督)周防正行(出演)村上冬樹

47

8/13(木)7:00pm 9/11(金)3:00pm

12人の優しい日本人(115分・35mm・カラー)

'91(ニュー・センチュリー・プロデューサーズ=サントリー=日本テレビ)(監督)中原俊(出演)加藤善博

48

8/14(金)3:00pm 9/13(日)1:00pm

阿賀に生きる(115分・16mm・カラー)

'92(阿賀に生きる製作委員会)(監督)佐藤真

49

8/14(金)7:00pm 9/12(土)4:00pm

シベリア超特急2(106分・35mm・カラー)

2001(アルゴ・ピクチャーズ=水野晴郎事務所)(監督)MIKE  
MIZNO(原作)(脚本)(出演)水野晴郎

会 期
平成21年6月30日～平成21年7月24日 (22日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター ぴあ株式会社
作品数・上映回数
40作品／22プログラム／44回上映
入館者数
810人(1回平均18人)
新聞・雑誌等における掲載記事
読売新聞 7月1日 「ぴあフィルムフェス フィルムセンターと共催」(恩田泰子)
東京新聞 7月9日夕刊 「ぴあフィルム フェスティバルの軌跡vol.2」

## 289 日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.2

8mmや16mmなど「自主映画」のコンペティションを実施して30年以上になる「ぴあフィルムフェスティバル(PFF)」の歴史を回顧する特集の第2期。ぴあ株式会社との共同主催により歴代の入選作を上映しながら、多くの新しい才能を輩出してきたPFFの歴史を振り返るもので、フィルムセンターが企業外映画を本格的に取り上げる「日本インディペンデント映画史シリーズ」の2回目にもあたる。

今回の「vol.2」では、1987年(第10回)から97年(第20回)までを対象に、新たな世代の作家の台頭やビデオ作品の選出で注目を集めた10年間を、40本の作品(22プログラム)を通して回顧した。

### The History of Japanese Independent Cinema Ⅱ Retrospective of Pia Film Festival vol.2

This is the second installment of the feature program to review the history of Pia Film Festival (PFF), which has held competitions of “independent films” in formats such as 8mm and 16mm for more than 30 years. Coorganized with Pia Corporation, this event, showcasing 40 films in 22 programs, looks back a decade of PFF between 1987 (10th edition) and 1997 (20th edition), in which the rise of auteurs in new generations and of the video works was outstanding.



1

6/30(火)2:00pm 7/12(日)3:00pm

俺は園子温だ!! (32分・8mm・カラー)

男の花道 [第2部] (85分・8mm・カラー)

'86(監督)園子温

2

6/30(火)6:00pm 7/19(日)0:00pm

愛の街角2丁目3番地 (112分・8mm・カラー)

'86(不死身会=シネマヴァリエテ)(監督)平野勝之

3

7/1(水)2:00pm 7/17(金)6:00pm

MB映画 (122分・8mm・カラー)

'86(監督)岡本知己

4

7/1(水)6:00pm 7/16(木)2:00pm

恋の姿見 (86分・8mm・カラー)

'86(監督)大川戸耕一郎

5

7/2(木)2:00pm 7/15(水)6:00pm

ついのすみか (35分・8mm・カラー)

'86(監督)井川耕一郎

はばかりあん (57分・8mm・パート白黒)

'88(監督)永森裕二

6

7/2(木)6:00pm 7/12(日)0:00pm

バス・アマリリス (39分・8mm・カラー)

'88(監督)墨岡雅聡

電柱小僧の冒険 (47分・8mm・カラー) ※デジタル素材での上映

'88(監督)塚本晋也

7

7/3(金)2:00pm 7/21(火)6:00pm

わたくしと彫塑 (5分・8mm・カラー)

'88(監督)山本憲司

にじ (70分・8mm・カラー)

'88(監督)鈴木卓爾

8

7/3(金)6:00pm 7/14(火)2:00pm

青緑 (90分・8mm・カラー)

'88(監督)大谷健太郎

9

7/4(土)0:00pm 7/14(火)6:00pm

北新宿の切れた指先 (35分・8mm・カラー)

'86(監督)西沢正智

夕辺の秘密 (51分・8mm・カラー) ※デジタル素材での上映

'89(監督)橋口亮輔

10

7/4(土)3:00pm 7/15(水)2:00pm

RUNNING HIGH (26分・8mm・カラー)

'89(監督)篠原哲雄

三角測量 (54分・8mm・カラー)

'89(監督)北山裕章

11

7/5(日)0:00pm 7/16(木)6:00pm

葱 (14分・8mm・カラー)

'89(監督)三上昌晴

雨女 (72分・8mm・カラー) ※デジタル素材での上映

'90(監督)矢口史靖

12

7/5(日)3:00pm 7/17(金)2:00pm

花 (24分・8mm・カラー)

'89(監督)小池隆

うしろの正面 (26分・8mm・カラー)

'89(監督)具志堅剛

妹と油揚げ (37分・16mm・白黒)

'90(監督)天願大介

13

7/7(火)2:00pm 7/24(金)6:00pm

ギョーザつくる母 (3分・8mm・カラー)

'90(監督)矢部達也

ほがらかな金魚たち (81分・8mm・カラー)

'91(監督)岡元洋

14

7/7(火)6:00pm 7/23(木)2:00pm

手紙 (5分・8mm・カラー)

'91(監督)佐分克敏

流れるままのグリーン (79分・8mm・カラー)

'92(監督)杉浦昭嘉



15

7/8(水)2:00pm 7/19(日)3:00pm

PARALYSIS(13分・16mm・カラー)  
'92(監督)徳山高志・元子

ピクニック(70分・8mm・カラー)

'93(監督)奥原浩志

16

7/8(水)6:00pm 7/18(土)0:00pm

to Mayu(8分・16mm・カラー)

'92(監督)隅井朝子

悲しいだけ(17分・8mm・カラー)

'94(監督)豊島圭介

灼熱のドッジボール(15分・16mm・カラー)

'92(監督)古厩智之

家族ケチャップ(37分・16mm・カラー)

'92(監督)工藤義洋

17

7/9(木)2:00pm 7/18(土)3:00pm

五月雨厨房(17分・8mm・カラー)

'93(監督)中村義洋

ストレンジ ハイ(60分・8mm・カラー)

'93(監督)水戸英樹

18

7/9(木)6:00pm 7/24(金)2:00pm

PICKLED PUNK(82分・16mm・カラー)

'93(監督)山岡秀雄

19

7/10(金)2:00pm 7/23(木)6:00pm

寮内蔵(18分・16mm・白黒)

'94(監督)佐藤信介

はがね(68分・16mm・カラー)

'94(監督)中嶋莞爾

20

7/10(金)6:00pm 7/22(水)2:00pm

ゴキブリマン(33分・8mm・白黒)

'96(監督)福津泰至

19(ナインティーン)(51分・8mm・カラー) ※デジタル素材での  
上映

'96(監督)渡辺一志、神森崇

21

7/11(土)0:00pm 7/22(水)6:00pm

シンク(85分・ビデオ・カラー) ※デジタル素材での上映  
'97(Smalllight Pictures)(監督)村松正浩

22

7/11(土)3:00pm 7/21(火)2:00pm

鬼畜大宴会(112分・16mm・カラー)

'97(監督)熊切和嘉

会 期
平成21年7月17日～平成21年8月5日 (17日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター PFFパートナーズ(びあ株式会社、株式会社TBSテレビ、株式会社IMAGICA)
作品数・上映回数
16作品／8プログラム／47回上映
入館者数
7,607人(1回平均162人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 4月7日 「自主映画の祭典支援 国機関「びあ」と共催」
朝日新聞 6月24日夕刊 「びあフィルムフェスティバル」
読売新聞 7月1日 「びあフィルムフェスティバル、17日から コンペ部門の16作品など上映」
日本経済新聞 7月14日 「びあフェス、今年からフィルムセンターで」
東京新聞 7月14日夕刊 「コンペ応募は569本 びあフィルムフェス」
毎日新聞 7月16日夕刊 「あすからびあフィルムフェスティバル 荒木啓子ディレクターに聞く」
読売新聞 7月28日夕刊 「びあフィルムフェスティバル スペシャルプログラム」
日本経済新聞 8月1日 『『闘う映画人』大島渚 再考 若者へ継承 機運高まる』(白木緑)

## 290 第31回びあフィルムフェスティバル

平成21年度で31回目を迎える「びあフィルムフェスティバル」(PFF)をフィルムセンターとPFFパートナーズの共同主催で初めて開催した。映画祭のメイン事業である自主映画コンペティション「PFFアワード」、平成20年度のグランプリ監督による第19回「PFFスカラシップ」作品のプレミア上映のほか、恒例となっている「招待作品部門」では、クリント・イーストウッドの俳優時代から初期の監督作品、巨匠としての地位を確立した近年の作品までをたどる「イーストウッド！—映画監督クリント・イーストウッド誕生—」、そして過去にPFFの審査員をつとめ縁も深い大島渚の作品を取り上げ「大島渚講座」を開催した。

今回の「PFFアワード」では、総数569本の応募作から選ばれた16作品を上映し、グランプリその他の各賞を選出した。「イーストウッド！—映画監督クリント・イーストウッド誕生—」では、日本未公開の作品2本(短篇1本、長篇1本)を含む7本のプリントを海外から取り寄せ投影式の日本語字幕を付して上映したほか、「大島渚講座」では、長篇劇映画2本とテレビドキュメンタリーからなる計3プログラムの上映を行うとともに、現在第一線で活躍する映画監督3名がそれぞれの解説を行った。

### The 31st Pia Film Festival

The 31st Pia Film Festival in 2009 was co-organized by NFC and PFF Partners for the first time. The festival presented several events. The main ones were the competition of independent film, “PFF Award,” and the premier screening of the 19th PFF Scholarship film directed by the grand prix recipient of the previous year. In addition, “the Birth of Clint Eastwood, the Filmmaker” surveyed his career through the films he appeared as actor, his early film as director, and more recent titles which established Eastwood as a master director. Regarding Oshima Nagisa who participated PFF as the judge in the past, “Oshima Nagisa Lectures” was held with the films he directed.

In the “PFF Award” section, 16 films selected from 569 entries were screened and the grand prix and other awards winners were chosen. “The Birth of Clint Eastwood, the Filmmaker” fetched seven prints including two (one short and one feature) that had not been shown in Japan from abroad and screened them with the projected Japanese subtitles. “Oshima Nagisa Lectures” consisted of three screening programs of two feature films and a TV documentary. Three currently active film directors gave commentaries at each of the three screenings.



コンペティション部門

◆PFFアワード2009

1

7/18(土)10:30am 7/23(木)6:30pm

ソレダケ(26分・カラー)  
(監督)岩永洋

私の叙情的な時代(99分・カラー)  
(監督)任書剣

2

7/18(土)1:45pm 7/24(金)3:45pm

青春墓場～問答無用～(29分・カラー)  
(監督)奥田庸介

ぴゅーりたん(91分・カラー)  
(監督)佐々木想

3

7/19(日)2:00pm 7/24(金)0:30pm

大拳銃(31分・カラー)  
(監督)大畑創

夢の島(83分・白黒)  
(監督)蔦哲一朗

4

7/19(日)11:00am 7/23(木)3:30pm

かたすみで、ヤッホウ(40分・カラー)  
(監督)松村真吾

一秒の温度(75分・カラー)  
(監督)井上真行

5

7/18(土)5:00pm 7/23(木)0:30pm

Souda Kyouto He Ikou(40分・カラー)  
(監督)加納隼

恋愛革命(63分・カラー)  
(監督)武田真悟

6

7/19(日)5:00pm 7/24(金)7:00pm

シュナイダー(44分・カラー)  
(監督)頃安祐良

chain(55分・カラー)  
(監督)加治屋彰人

7

7/17(金)4:00pm 7/26(日)2:00pm

VISTA(46分・カラー)  
(監督)佐々木靖之

彼女のファンタジー(63分・カラー)  
(監督)中嶋祐介

8

7/17(金)7:00pm 7/26(日)11:00am

普通の恋(45分・カラー)  
(監督)木村承子

霧の中(61分・カラー)  
(監督)飯塚諒

◆表彰式とグランプリ作品上映

9

7/31(金)4:30pm

一秒の温度(75分・カラー)  
(監督)井上真行

招待作品部門

◆第19回PFFスカラシップ作品

10

7/30(木)7:00pm

川の底からこんにちは(114分・35mm・カラー)  
(監督)石井裕也

◆イーストウッド! ~映画監督クリント・イーストウッド誕生~

11

7/25(土)11:00am

半魚人の逆襲(82分・DVD・白黒)  
REVENGE OF THE CREATURE  
'55(監督)ジャック・アーノルド(出演)クリント・イーストウッド

12

7/25(土)1:30pm 8/1(土)1:15pm

夕陽のガンマン(132分・35mm・カラー)  
FOR A FEW DOLLARS MORE  
'65(監督)セルジオ・レオーネ(出演)クリント・イーストウッド

13

7/28(火)0:30pm 8/1(土)4:15pm

続・夕陽のガンマン/地獄の決斗(180分・35mm・カラー)  
THE GOOD, THE BAD AND THE UGLY  
'66(監督)セルジオ・レオーネ(出演)クリント・イーストウッド

14

7/28(火)4:30pm 8/2(日)11:00am

マンハッタン無宿(94分・カラー) COOGAN'S BLUFF  
'68(監督)ドン・シーゲル(出演)クリント・イーストウッド

15

7/28(火)7:00pm 8/1(土)10:30am

**The Beguiled : The Storyteller**(12分)

(監督)クリント・イーストウッド

**白い肌の異常な夜**(105分・35mm・カラー) THE BEGUILLED

'71(監督)ドン・シーゲル(出演)クリント・イーストウッド

16

7/29(水)1:00pm 8/2(日)1:30pm

**恐怖のメロディ**(102分・35mm・カラー) PLAY MISTY FOR ME

'71(監督)クリント・イーストウッド

17

7/29(水)4:00pm 8/4(火)7:00pm

**荒野のストレンジャー**(105分・35mm・カラー)

HIGH PLAINS DRIFTER

'73(監督)クリント・イーストウッド

18

7/29(水)7:00pm 8/2(日)4:30pm

**愛のそよ風**(105分・35mm・カラー) BREEZY

'73(監督)クリント・イーストウッド

19

7/21(火)7:00pm 8/5(水)4:00pm

**許されざる者**(131分・35mm・カラー) UNFORGIVEN

'92(監督)クリント・イーストウッド

20

8/4(火)1:00pm

**マディソン郡の橋**(135分・35mm・カラー)

THE BRIDGES OF MADISON COUNTRY

'95(監督)クリント・イーストウッド

21

7/21(火)3:30pm

**真夜中のサバナ**(155分・35mm・カラー)

MIDNIGHT IN THE GARDEN OF GOOD EVIL

'97(監督)クリント・イーストウッド

22

7/26(日)5:00pm

**トゥルー・クライム**(127分・35mm・カラー) TRUE CRIME

'99(監督)クリント・イーストウッド

23

8/5(水)7:00pm

**スペース カウボーイ**(130分・35mm・カラー)

SPACE COWBOYS

2000(監督)クリント・イーストウッド

24

7/21(火)0:30pm

**ブラッド・ワーク** BLOOD WORK

2002(監督)クリント・イーストウッド

25

8/4(火)4:00pm

**ミスティック・リバー**(138分・35mm・カラー)

MYSTIC RIVER

2003(監督)クリント・イーストウッド

26

7/22(水)0:00pm

**ミリオンダラー・ベイビー**(132分・35mm・カラー)

MILLION DOLLAR BABY

2004(監督)クリント・イーストウッド

27

8/5(水)1:00pm

**父親たちの星条旗**(132分・35mm・カラー)

FLAGS OF OUR FATHERS

2006(監督)クリント・イーストウッド

## ◆大島渚講座

28

7/22(水)3:00pm [講師：黒沢清]

**日本春歌考**(103分・35mm・カラー)

'67(監督)大島渚

29

7/22(水)6:15pm [講師：黒沢清]

**絞死刑**(118分・35mm・白黒)

'68(監督)大島渚

30

7/25(土)4:30pm [講師：若松孝二]

**愛のコリーダ**(104分・35mm・カラー)

'76(監督)大島渚

31

7/30(木)3:00pm [講師：是枝裕和]

特別講座「大島渚とテレビ・ドキュメンタリー」

**忘れられた皇軍**

'63(監督)大島渚

**青春の碑**

'64(監督)大島渚

**生きている海の墓標—トラックの海底をゆく**

'76(監督)大島渚

**生きている玉碎の島—サイパンの海底をゆく**

'76(監督)大島渚

会 期
平成21年8月11日～平成21年8月30日 (18日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
23作品／17プログラム／36回上映
入館者数
2,190人(1回平均61人)
新聞・雑誌等における掲載記事
ビデオSALON 7月17日 「没後一年 ドキュメンタリー作家 土本典昭の作品上映と展示」
活動家集団 思想運動 8月1日 「ドキュメンタリー作家 土本典昭」
東京新聞 8月5日 「『水俣』など記録映画 土本作品を上映」
サンデー毎日 8月10日 「『医学としての水俣病』は必見 全部まるごと土本典昭の世界」
読売新聞 8月11日夕刊 「ドキュメンタリー作家 土本典昭」

## 291 《京橋映画小劇場No.14》 ドキュメンタリー作家 土本典昭

鉄道ドキュメンタリーの傑作『ある機関助士』(1963年)や国内外で大きな反響を呼んだ「水俣」シリーズなどで知られる記録映画作家・土本典昭の没後1年を記念して、計23本の作品(17プログラム)を上映し、日本の現代ドキュメンタリーを代表する偉大な作家の足跡を回顧する上映企画。

展示室の特別展「ドキュメンタリー作家 土本典昭」と連繋しながら、土本の作品(上映)と活動(展示)の双方を立体的に提示することができた。

### 《Kyobashi-za No.14》

#### Tsuchimoto Noriaki: A Documentary Filmmaker

This year, just one year after the demise of Tsuchimoto Noriaki who is well known for such films as a superb railroad documentary *Aru kikanjoshi* (1963) and the highly controversial and acclaimed “Minamata” series, NFC held his retrospective. Screening 23 films in 17 programs, the event reviewed the footsteps of the great filmmaker who represents the contemporary Japanese documentary filmmaking.

Together with the special exhibition *Tsuchimoto Noriaki: The Life of a Documentary Filmmaker* in the gallery, NFC was able to showcase Tsuchimoto's achievements through his works (screenings) and his activities (exhibition).



## 1

8/11(火)2:00pm 8/20(木)6:00pm 8/30(日)0:00pm

ある機関助手(37分・16mm・カラー)  
'63(岩波映画製作所)(監督)土本典昭ドキュメント 路上(54分・35mm・白黒)  
'64(東洋シネマ)(監督)土本典昭

## 2

8/11(火)6:00pm 8/26(水)2:00pm

シベリヤ人の世界(99分・35mm・カラー)  
'68(日本映画新社)(監督)土本典昭

## 3

8/12(水)2:00pm 8/23(日)3:00pm

パルチザン前史(121分・16mm・白黒)  
'69(小川プロダクション)(監督)土本典昭、堤稚雄

## 4

8/12(水)6:00pm 8/21(金)2:00pm 8/30(日)3:00pm

水俣 患者さんとその世界(167分・16mm・白黒)  
'71(東プロダクション)(監督)土本典昭

## 5

8/13(木)2:00pm 8/21(金)6:00pm

留学生 チュア スイ リン(51分・16mm・白黒)  
'65(藤プロダクション)(監督)土本典昭水俣レポート1 実録・公調委(48分・16mm・白黒)  
'73(青林舎)(監督)土本典昭、小池征人

## 6

8/15(土)0:00pm 8/26(水)6:00pm

水俣一揆 一生を問う人びと(108分・16mm・白黒)  
'73(青林舎)(監督)土本典昭

## 7

8/13(木)6:00pm 8/22(土)0:00pm

医学としての水俣病 第一部 資料・証言篇(82分・16mm・カラー)  
'74(青林舎)(監督)土本典昭、小池征人、有馬澄雄、一之瀬紘子

## 8

8/14(金)2:00pm 8/22(土)3:00pm

医学としての水俣病 第二部 病理・病像篇(103分・16mm・カラー)  
'74(青林舎)(監督)土本典昭、小池征人、有馬澄雄、一之瀬紘子

## 9

8/14(金)6:00pm 8/23(日)0:00pm

医学としての水俣病 第三部 臨床・疫学篇(91分・16mm・カラー)  
'75(青林舎)(監督)土本典昭、小池征人、有馬澄雄、一之瀬紘子

## 10

8/15(土)3:00pm 8/25(火)2:00pm

不知火海(153分・16mm・カラー)  
'75(青林舎)(監督)土本典昭、小池征人、有馬澄雄、一之瀬紘子

## 11

8/16(日)0:00pm 8/25(火)6:00pm

水俣病 その20年(43分・16mm・カラー)  
'76(青林舎)(監督)土本典昭、小池征人、有馬澄雄わが街わが青春 石川さゆり水俣熱唱(43分・16mm・カラー)  
'78(青林舎＝東北新社)(監督)土本典昭、小池征人、西山正啓

## 12

8/16(日)3:00pm 8/27(木)2:00pm

水俣の囀 物語(112分・35mm・カラー)  
'81(青林舎)(監督)土本典昭

## 13

8/18(火)2:00pm 8/27(木)6:00pm

海とお月さまたち(50分・16mm・カラー)  
'80(日本記録映画研究所)(監督)土本典昭、西山正啓、原博徳、浅田康爾水俣病 その30年(43分・16mm・カラー)  
'87(青林舎＝シグロ)(監督)土本典昭

## 14

8/18(火)6:00pm 8/28(金)2:00pm

VOICES OF YOUNG JAPAN [『日本の若者はいま』英語版]  
(30分・16mm・カラー)

'79(ゲンヤフィルムプロダクション)(監督)土本典昭

偲ぶ・中野重治 葬儀・告別式の記録 1979年9月8日(55分・16mm・白黒)

'79(中野重治を偲ぶ映画人有志の会)(製作スタッフ)小田博、久保田幸雄、小林義正、鈴木志郎康、高岩仁、高橋達雄、土本典昭、西山正啓、山邨伸貴、若月治、加納宗子

## 15

8/19(水)2:00pm 8/28(金)6:00pm

原発切抜帖(45分・16mm・カラー)  
'82(青林舎)(監督)土本典昭はじけ鳳仙花 わが筑豊 わが朝鮮(48分・16mm・カラー)  
'84(幻燈社)(監督)土本典昭

## 16

8/19(水)6:00pm 8/29(土)0:00pm

海盜り 下北半島・浜関根(103分・16mm・カラー)  
'84(青林舎)(監督)土本典昭

## 17

8/20(木)2:00pm 8/29(土)3:00pm

よみがえれカレーズ(116分・16mm・カラー)  
'89(記録社＝シグロ)(監督)土本典昭、熊谷博子、アブドゥル・ラティーフ

会 期
平成21年9月11日～平成21年9月27日 (9日間)※金、土、日のみ上映
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
10作品／9プログラム／18回上映
入館者数
1,949人(1回平均108人)
新聞・雑誌等における掲載記事
映像新聞 8月31日 「秀作映画を上映 『映画の教室』実施」 FRANC-PARLER 9月号 「灯台守」

## 292 《京橋映画小劇場No.15》 映画の教室2009

小ホールの有効活用を狙いとする《京橋映画小劇場》第15回目の企画で、本シリーズは4年目を迎えた。所蔵作品の中から世界と日本の映画史を学ぶ上で重要な外国映画6本、日本映画4本の計10作品(9プログラム)を選んで上映した。大学等で映画史を学ぶ学生が増えているにもかかわらず、それに必要な古典的作品のフィルムによる上映機会は減少しているという状況を考慮し、そうした層を中心的なターゲットとして企画した上映会であり、昨年度に続いて外国の名作を中心に作品を選定した。昨年同様、無声映画の上映にも力を入れている。

### 《Kyobashi-za No.15》 Film Class of 2009

In this fourth installment of the series, NFC screened the total of 10 films (six foreign and four Japanese) that are important for the students of histories of world and Japanese films in nine programs. In recent years, although the number of students who study film history at universities and in other ways has significantly increased, the screenings of the important classic films in the form of film projection has decreased. NFC started this series in order to fill such a gap. Following the previous year, the emphasis was given on foreign films and silent films.



◆外国映画

1

9/11(金)2:00pm 9/19(土)3:00pm

ドリーの冒険(12分・16fps・35mm・無声・白黒・日本語字幕なし)  
THE ADVENTURES OF DOLLIE  
'08(アメリカ)(監督)デイビッド・W・グリフィス

チート(59分・18fps・35mm・無声・染色) THE CHEAT  
'15(アメリカ)(監督)セシル・B・デミル

2

9/11(金)6:00pm 9/20(日)0:00pm

燈台守(82分・18fps・35mm・無声・染色)  
GARDIENS DE PHARE  
'29(フランス)(監督)ジャン・グレミヨン

3

9/12(土)0:00pm 9/25(金)2:00pm

諜報員(92分・35mm・白黒)  
ПОДВИГ РАЗВЕДЧИКА  
'47(ソ連)(監督)ボリス・バルネット

4

9/13(日)3:00pm 9/25(金)6:00pm

渴き(147分・35mm・白黒)  
PYAASA (THE THIRSTY ONE/ETERNAL THIRST)  
'57(インド)(監督)グル・ダット

5

9/12(土)3:00pm 9/20(日)3:00pm

鏡の中の女(120分・35mm・カラー)  
ANSIKTE MOT ANSIKTE  
'75(スウェーデン)(監督)イングマール・ベルイマン

◆日本映画

6

9/13(日)0:00pm 9/26(土)0:00pm

浪華悲歌(71分・35mm・白黒)  
'36(第一映画)(監督)溝口健二

7

9/18(金)6:00pm 9/27(日)0:00pm

花ちりぬ(74分・35mm・白黒)  
'38(東宝京都)(監督)石田民三

8

9/19(土)0:00pm 9/27(日)3:00pm

晩春(108分・35mm・白黒)  
'49(松竹大船)(監督)小津安二郎

9

9/18(金)2:00pm 9/26(土)3:00pm

山の音(94分・35mm・白黒)  
'54(東宝)(監督)成瀬巳喜男



会 期
平成21年9月15日～平成21年9月27日 (12日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
25作品／14プログラム／28回上映
入館者数
4,175人(1回平均149人)
新聞・雑誌等における掲載記事
ビデオSALON 8月20日 「28歳の若さで逝った山中貞雄の偉業を振り返る」
読売新聞 8月27日夕刊 「山中貞雄監督『幻のフィルム』『鼠小僧次郎吉 道中の巻』断片発見9月に上映」
赤旗 9月6日 「生誕百年 映画監督 山中貞雄」
赤旗 9月9日 「山中貞雄監督の映画を特殊上映」
朝日新聞 9月9日夕刊 「生誕百年 映画監督 山中貞雄」
朝日新聞 9月10日 「生誕百年 映画監督 山中貞雄」
東京新聞 9月10日 「生誕百年 映画監督 山中貞雄」
東京新聞 9月15日 「幻の作品 断片を発見 『鼠小僧次郎吉 道中の巻』」
デジタルイミダス 9月16日 「鼠小僧次郎吉 道中の巻」
日本経済新聞 9月19日 「山中貞雄生誕百年 時代を超える映画愛」(古賀重樹)

## 293 生誕百年 映画監督 山中貞雄

天才の名をほしいままにしながら28歳でこの世を去った映画監督・山中貞雄の生誕百年を記念して、今日まとまったかたちで現存する監督作品『丹下左膳餘話 百萬兩の壺』(1935年)、『河内山宗俊』(1936年)、『人情紙風船』(1937年)の他に原作、脚本作品、一部断片のみが現存する作品等25本(14プログラム)を上映し、その偉業を偲んだ。

山中が関わった映画のほとんどが今日失われているため、上映作品の対象を原作、脚本作品にまで広げるとともに、断片のみが現存する玩具フィルム等も可能な限り集め、これまででは最大規模の上映プログラムを構成した。それらの中には関連機関・団体の提供によるフィルムも多く含まれており、国内の映画保存の現状と最新の成果を知らしめる機会ともなった。

### Sadao Yamanaka Retrospective at his Centenary

Commemorating the centenary of the birth of director Yamanaka Sadao, who passed away at the age of 28 at the midst of the voices of many people calling him genius, this retrospective was held in order to cherish his extraordinary achievements. 25 films were screened in 14 programs. In addition to the films he directed and are extant today in the substantial forms, namely, *Tange sazen yowa hyakumanryo no tsubo* (1935), *Kochiyama soshun* (1936) and *Ninjo kamifusen* (1937), the films he worked on as the writer of the original stories, scriptwriter, and the films of which only the fragments exist today were screened.

Since most of the films Yamanaka directed have been lost, NFC organized this unprecedentedly large screening program by including the films he contributed to as writer and scriptwriter. In addition, NFC collected such materials as fragmented toy films. Many of such films were rent from the archival institutions and organizations outside of NFC. This event thus proved to be the opportunity to let the public know the status quo and the latest achievements of film preservation within Japan.



## 1

9/15(火)3:00pm 9/23(水・祝)2:00pm

右門捕物帖十六番手柄 [玩具フィルム] (52秒・16fps・35mm・無声・染色)

'31(東亜キネマ京都)(監督)仁科熊彦

むっつり右門捕物帖一番手柄 南蠻幽霊 (99分・16fps・16mm・無声・白黒)

'29(東亜キネマ京都)(監督)橋本松男

## 2

9/15(火)7:00pm 9/27(日)11:00am

右門廿五番手柄 七七なぞの橙 [玩具フィルム] (51秒・16fps・35mm・無声・調色)

'32(寛壽郎プロ=新興キネマ)(監督)仁科熊彦

右門捕物帖六番手柄 (66分・24fps・16mm・無声・活弁トーキー版・白黒)

'30(東亜キネマ京都)(監督)仁科熊彦

## 3

9/16(水)3:00pm 9/26(土)4:00pm

鼠小僧次郎吉 道中の巻 [玩具フィルム] (30秒・16fps・35mm・無声・染色)

'33(日活京都)(監督)山中貞雄

水戸黄門 来國次の巻 (50分・24fps・16mm・無声・白黒)

'34(日活京都)(監督)荒井良平

水戸黄門 密書の巻 (49分・24fps・16mm・無声・白黒)

'35(日活京都)(監督)荒井良平

## 4

9/16(水)7:00pm 9/27(日)2:00pm

風流活人剣 [玩具フィルム] (104秒・16fps・35mm・無声・白黒)

'34(千恵蔵プロ)(監督)山中貞雄

水戸黄門 血刃の巻 (92分・18fps・35mm・無声・白黒)

'35(日活京都)(監督)荒井良平

## 5

9/17(木)3:00pm 9/23(水・祝)5:00pm

丹下左膳餘話 百萬兩の壺 (91分・35mm・白黒)

'35(日活京都)(監督)山中貞雄

丹下左膳餘話 百萬兩の壺 [玩具フィルム] (67秒・35mm・白黒・無声)

## 6

9/17(木)7:00pm 9/22(火・祝)2:00pm

海鳴り街道 [玩具フィルム] (68秒・24fps・35mm・無声・染色)

'36(日活京都)(監督)山中貞雄

大菩薩峠 甲源一刀流の巻 (77分・35mm・白黒)

'35(日活京都)(監督)稲垣浩(応援監督)山中貞雄、荒井良平

## 7

9/18(金)3:00pm 9/22(火・祝)5:00pm

荒木又右衛門 [玩具フィルム] (30秒・16fps・35mm・無声・白黒)

'36(千恵蔵プロ)(監督)萩原遼

河内山宗俊 (81分・35mm・白黒)

'36(日活京都=太秦発声)(監督)山中貞雄

## 8

9/18(金)7:00pm 9/26(土)1:00pm

山中貞雄パラバラ漫画アニメ (30秒・デジタル素材での上映)

戦国群盗傳 [総集篇] (101分・35mm・白黒)

'37(P.C.L.)(監督)瀧澤英輔

## 9

9/19(土)1:00pm 9/27(日)5:00pm

小笠原壹岐守 [玩具フィルム] (52秒・16fps・35mm・無声・調色)

'32(寛壽郎プロ)(監督)山中貞雄

人情紙風船 (86分・35mm・白黒)

'37(P.C.L.)(監督)山中貞雄

## 10

9/19(土)4:00pm 9/23(水・祝)11:00am

嗚呼 山中貞雄 ～山中貞雄作品集～ (23分・24fps・16mm・無声・白黒)

'85(マツダ映画社)

その前夜 (86分・35mm・白黒)

'39(東宝映画)(監督)萩原遼

## 11

9/20(日)11:00am 9/25(金)7:00pm

山中貞雄パラバラ漫画アニメ (30秒・デジタル素材での上映)

江戸遊民伝 (104分・35mm・白黒)

'59(松竹京都)(監督)萩原遼

## 12

9/20(日)2:00pm 9/24(木)3:00pm

山中貞雄パラバラ漫画アニメ (30秒・デジタル素材での上映)

戦国群盗傳 (115分・35mm・カラー)

'59(東宝)(監督)杉江敏男

## 13

9/20(日)5:00pm 9/25(金)3:00pm

山中貞雄パラバラ漫画アニメ (30秒・デジタル素材での上映)

がんばれ! 盤嶽 (94分・35mm・カラー)

'60(宝塚映画)(監督)松林宗恵

## 14

9/22(火・祝)11:00am 9/24(木)7:00pm

山中貞雄パラバラ漫画アニメ (30秒・デジタル素材での上映)

恋と十手と巾着切 (66分・35mm・白黒)

'63(東映京都)(監督)井沢雅彦

会 期
第1期：平成21年10月6日～23日 10月25日～11月15日
第2期：平成21年11月17日～12月27日 (71日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
97作品／95プログラム／207回上映
入館者数
27,907人(1回平均135人)
新聞・雑誌等における掲載記事
葛西新聞 8月28日 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
聖教新聞 10月15日 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
日本経済新聞 10月21日 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
和の生活マガジン花saku 10月号 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
日本経済新聞 11月2日 「田中絹代 生誕100年 映画上映や展覧会 監督としての足跡にも脚光」(白木緑)
読売新聞 11月4日 「生誕百年 田中絹代 消えた『憧れのスター』」
赤旗 日曜版 11月8日 「田中絹代 生誕100年 出演・監督作90本 一挙上映」
映像新聞 11月16日 「田中絹代の生誕百年記念し上映」
東京新聞 11月17日 「田中絹代 生誕100年記念 思い出巡る『絹ロード』」
読売新聞 11月22日 「田中絹代 自立女性の先駆者 生誕100年 上映相次ぐ」
赤旗 11月26日 「生誕百年 映画女優 田中絹代 大衆が共感できる女性を数多く演じて」(澤登翠)
テレビ・プロス 11月号 「活弁世界傑作劇場 『ある映画監督の生涯 私家版』」(山田広野)

## 294 生誕百年 映画女優 田中絹代

映画女優・田中絹代の生誕百年を記念して、出演作や監督作計97本を95プログラムに構成し、10月6日～11月15日の第1期と11月17日～12月27日の第2期に分けて、その歩みを回顧した。無声映画のプログラムでは弁士・伴奏付きの上映も行った。

現存する初期の無声映画から晩年の64歳でベルリン映画祭主演女優賞を受賞した『サンダカン八番娼館 望郷』(1974年)まで、代表的な出演作に、『恋文』(1953年)等6本の監督作品を加えて上映し、1971年の「田中絹代特集」を凌ぐ規模で大女優の足跡をたどることができた。また、展示室で開催の展覧会「生誕百年 映画女優 田中絹代」と連繋して、田中絹代の功績を立体的に概観することができた。

### Film Actress Tanaka Kinuyo Retrospective at her Centenary

Commemorating the centenary of birth of film actress Tanaka Kinuyo, 97 films which she appeared in and directed were organized into 95 programs, and were screened in two terms, that is, between October 6th and November 15th, and between November 17th and December 27th, so as to review her career. Some screenings of silent films were accompanied by benshi (live narrator/ commentator) and musical performance.

The screened films ranged from the early silent films through to *Sandakan hachiban shokan bokyo* (1974), which brought 64-year-old Tanaka the best leading actress award at the Berlin Film Festival. Six films which Tanaka directed including *Koibumi* (1953) were also screened. The event proved to be even larger in scale than the special program on Tanaka Kinuyo in 1971 and thus was able to review the footsteps of the great actress in a more comprehensive manner. In addition, together with the exhibition, *Film Actress Tanaka Kinuyo at her Centenary*, NFC was successful in surveying her achievements from various aspects.



生誕百年 映画女優 田中絹代(1)

◆無声映画プログラム

★印の回は、弁士・伴奏付き上映

1

10/9(金)7:00pm ★[弁士:澤登翠、伴奏:新垣隆(ピアノ)]  
10/13(火)0:30pm

進軍(142分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'30(松竹蒲田)(監督)牛原虚彦

2

10/6(火)1:00pm 10/17(土)0:00pm

大学は出たけれど[マーヴェルグラフ短縮版] (13分・20fps・  
35mm・無声・白黒)  
'29(松竹蒲田)(監督)小津安二郎

落第はしたけれど(77分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'30(松竹蒲田)(監督)小津安二郎

3

10/8(木)0:00pm 10/17(土)3:00pm ★[弁士:澤登翠、伴奏:  
柳下美恵(ピアノ)]

若者よなぜ泣くか(193分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'30(松竹蒲田)(監督)牛原虚彦

4

10/7(水)0:00pm 10/15(木)6:00pm

愛よ人類と共にあれ(181分・24fps・35mm・無声・白黒)  
'31(松竹蒲田)(監督)島津保次郎

5

10/10(土)4:00pm ★[弁士:澤登翠、伴奏:湯浅ジョウイチ(ギ  
ター)] 10/14(水)1:00pm

感激時代[パテベビー短縮版](19分・18fps・35mm・無声・白黒)  
'28(松竹蒲田)(監督)牛原虚彦

金色夜叉(101分・18fps・16mm・無声・白黒)  
'32(松竹蒲田)(監督)野村芳亭

6

10/7(水)4:00pm 10/18(日)1:00pm

青春の夢いまいづこ(102分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'32(松竹蒲田)(監督)小津安二郎

7

10/6(火)4:00pm 10/18(日)4:00pm ★[弁士:澤登翠、伴奏:  
湯浅ジョウイチ(ギター)]

恋の花咲く伊豆の踊子(124分・18fps・35mm・無声・白黒)  
'33(松竹蒲田)(監督)五所平之助

8

10/11(日)4:00pm ★[弁士:澤登翠、伴奏:湯浅ジョウイチ(ギ  
ター)、鈴木真紀子(フルート)] 10/15(木)1:00pm

非常線の女(120分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'33(松竹蒲田)(監督)小津安二郎

9

10/8(木)4:00pm 10/16(金)7:00pm ★[弁士:澤登翠、伴奏:  
柳下美恵(ピアノ)]

晴曇(125分・20fps・35mm・無声・白黒)  
'33(松竹蒲田)(監督)野村芳亭

◆トーキー映画プログラム

10

10/10(土)1:00pm 10/15(木)4:00pm 11/13(金)1:00pm

花嫁の寝言(57分・35mm・白黒)  
'33(松竹蒲田)(監督)五所平之助

11

10/11(日)1:00pm 10/14(水)4:00pm

應援団長の恋(78分・35mm・白黒)  
'33(松竹蒲田)(監督)野村浩将

12

10/6(火)7:00pm 10/31(土)11:00am

婦系図(135分・16mm・白黒)  
'34(松竹蒲田)(監督)野村芳亭

13

10/7(水)7:00pm 10/23(金)4:00pm 11/1(日)11:00am

お小夜恋姿(95分・16mm・サウンド版・白黒)  
'34(松竹蒲田)(監督)島津保次郎

14

10/9(金)3:00pm 11/4(水)7:00pm

私の兄さん(69分・16mm・白黒)  
'34(松竹蒲田)(監督)島津保次郎

15

10/8(木)7:00pm 11/6(金)1:00pm

男性對女性(132分・35mm・白黒)  
'36(松竹大船)(監督)島津保次郎

16

10/13(火)7:00pm 10/31(土)2:00pm

新道[前後篇](132分・35mm・白黒)  
'36(松竹大船)(監督)五所平之助

17

10/14(水)7:00pm 11/8(日)11:00am

花篝の歌(69分・35mm・白黒)  
'37(松竹大船)(監督)平之助ごしょ[五所平之助]

18

10/13(火)4:00pm 10/31(土)5:00pm

女醫絹代先生(91分・35mm・白黒)

'37(松竹大船)(監督)野村浩将

19

10/16(金)3:00pm 11/1(日)2:00pm 11/5(木)7:00pm

母と子(88分・35mm・白黒)

'38(松竹大船)(監督)澁谷實

20

10/20(火)1:00pm 11/1(日)5:00pm 11/12(木)4:00pm

南風(72分・35mm・白黒)

'39(松竹大船)(監督)渋谷実

21

10/20(火)4:00pm 11/15(日)5:00pm

絹代の初戀(82分・35mm・白黒)

'40(松竹大船)(監督)野村浩将

22

10/20(火)7:00pm 11/5(木)1:00pm

征戦愛馬譜 曉に祈る(105分・35mm・白黒)

'40(松竹大船)(監督)佐々木康

23

10/21(水)1:00pm 11/6(金)7:00pm

舞台姿(102分・35mm・白黒)

'40(松竹大船)(監督)野村浩将

24

10/21(水)4:00pm 11/14(土)11:00am

お絹と番頭(73分・35mm・白黒)

'40(松竹大船)(監督)野村浩将

25

10/22(木)1:00pm 11/7(土)5:00pm

簪(70分・35mm・白黒)

'41(松竹大船)(監督)清水宏

26

10/22(木)4:00pm 11/3(火・祝)5:00pm 11/11(水)1:00pm

女醫の記録(95分・35mm・白黒)

'41(松竹大船)(監督)清水宏

27

10/22(木)7:00pm 11/10(火)1:00pm

日本の母(89分・35mm・白黒)

'42(松竹大船)(監督)原研吉

28

10/23(金)1:00pm 11/8(日)5:00pm

或る女(95分・35mm・白黒)

'42(松竹大船)(監督)澁谷實

29

10/21(水)7:00pm 11/12(木)1:00pm

還って来た男(67分・35mm・白黒)

'44(松竹下加茂)(監督)川島雄三

30

10/23(金)7:00pm 11/3(火・祝)2:00pm

陸軍(87分・35mm・白黒)

'44(松竹大船)(監督)木下恵介

31

10/25(日)11:00am 11/10(火)4:00pm

宮本武蔵(55分・35mm・白黒)

'44(松竹京都)(監督)溝口健二

32

10/25(日)2:00pm 11/13(金)4:00pm

必勝歌(80分・35mm・白黒)

'45(松竹京都)(監督)田坂具隆、清水宏、溝口健二、マキノ正博、大曾根辰夫、高木孝一、市川哲夫

33

10/25(日)5:00pm 11/4(水)4:00pm

三十三間堂通し矢物語(76分・35mm・白黒)

'45(東宝)(監督)成瀬巳喜男

34

10/27(火)1:00pm 11/13(金)7:00pm

女性の勝利(81分・35mm・白黒)

'46(松竹大船)(監督)溝口健二

35

10/27(火)4:00pm 11/7(土)2:00pm 11/12(木)7:00pm

歌麿をめぐる五人の女(95分・35mm・白黒)

'46(松竹京都)(監督)溝口健二

36

10/27(火)7:00pm 11/11(水)4:00pm

結婚(85分・35mm・白黒)

'47(松竹大船)(監督)木下恵介

37

10/28(水)1:00pm 11/6(金)4:00pm 11/15(日)11:00am

女優須磨子の戀(96分・35mm・白黒)

'47(松竹京都)(監督)溝口健二

38

10/28(水)4:00pm 11/7(土)11:00am

不死鳥(82分・35mm・白黒)  
'47(松竹大船)(監督)木下恵介

39

10/28(水)7:00pm 11/5(木)4:00pm 11/14(土)2:00pm

夜の女たち(73分・35mm・白黒)  
'48(松竹京都)(監督)溝口健二

40

10/29(木)1:00pm 11/11(水)7:00pm

風の中の牝雞(83分・35mm・白黒)  
'48(松竹大船)(監督)小津安二郎

41

10/29(木)4:00pm 11/10(火)7:00pm

我が恋は燃えぬ(84分・35mm・白黒)  
'49(松竹京都)(監督)溝口健二

42

10/29(木)6:30pm 11/3(火・祝)10:30am

新釋四谷怪談[前後篇](158分・35mm・白黒)  
'49(松竹京都)(監督)木下恵介

43

10/30(金)1:00pm 11/8(日)2:00pm

真晝の円舞曲(109分・35mm・白黒)  
'49(松竹大船)(監督)吉村公三郎

44

10/30(金)4:00pm 11/4(水)1:00pm 11/14(土)5:00pm

エンゲージリング  
婚約指環(96分・16mm・白黒)  
'50(松竹大船=田中絹代プロ)(監督)木下恵介

45

10/30(金)7:00pm 11/15(日)2:00pm

宗方姉妹(112分・35mm・白黒)  
'50(新東宝)(監督)小津安二郎

生誕百年 映画女優 田中絹代(2)

1

11/17(火)1:00pm 12/9(水)4:00pm 12/26(土)5:00pm

銀座化粧(87分・35mm・白黒)  
'51(新東宝)(監督)成瀬巳喜男

2

11/17(火)4:00pm 12/10(木)7:00pm 12/27(日)11:00am

お遊さま(93分・35mm・白黒)  
'51(大映京都)(監督)溝口健二

3

11/17(火)7:00pm 12/12(土)11:00am

武藏野夫人(88分・35mm・白黒)  
'51(東宝)(監督)溝口健二

4

11/18(水)1:00pm 12/8(火)7:00pm

稲妻草紙(98分・35mm・白黒)  
'51(松竹京都)(監督)稲垣浩

5

11/18(水)4:00pm 12/11(金)1:00pm 12/27(日)5:00pm

西鶴一代女(136分・35mm・白黒)  
'52(児井プロ=新東宝)(監督)溝口健二

6

11/18(水)7:00pm 12/10(木)1:00pm

西陣の姉妹(110分・35mm・白黒)  
'52(大映京都)(監督)吉村公三郎

7

11/19(木)1:00pm 12/9(水)7:00pm 12/27(日)2:00pm

おかあさん(98分・35mm・白黒)  
'52(新東宝)(監督)成瀬巳喜男

8

11/19(木)4:00pm 12/5(土)5:00pm

まごころ(95分・35mm・白黒)  
'53(松竹大船)(監督)小林正樹

9

11/19(木)7:00pm 12/6(日)11:00am

煙突の見える場所(108分・35mm・白黒)  
'53(スタジオ・エイト・プロ=新東宝)(監督)五所平之助

10

11/20(金)1:00pm 12/13(日)1:30pm

雨月物語(97分・35mm・白黒)  
'53(大映京都)(監督)溝口健二

11

11/20(金)4:00pm 12/15(火)7:00pm

獅子の座(125分・35mm・白黒)  
'53(大映京都)(監督)伊藤大輔

12

11/20(金)7:00pm 12/6(日)2:00pm

山椒大夫(124分・35mm・白黒)  
'54(大映京都)(監督)溝口健二

13

11/21(土)11:00am 12/11(金)7:00pm

女の暦(100分・16mm・白黒)

'54(新東宝)(監督)久松静児

14

11/21(土)2:00pm 12/8(火)1:00pm

噂の女(84分・35mm・白黒)

'54(大映京都)(監督)溝口健二

15

11/21(土)5:00pm 12/10(木)4:00pm

渡り鳥いつ帰る(128分・35mm・白黒)

'55(東京映画)(監督)久松静児

16

11/22(日)11:00am 12/15(火)1:00pm 12/25(金)4:00pm

少年死刑囚(104分・35mm・白黒)

'55(日活)(監督)吉村廉

17

11/22(日)2:00pm 12/16(水)4:00pm 12/25(金)7:00pm

月夜の傘(127分・35mm・白黒)

'55(日活)(監督)久松静児

18

11/24(火)4:00pm 12/18(金)1:00pm

王將一代(115分・16mm・白黒)

'55(新東宝)(監督)伊藤大輔

19

11/24(火)1:00pm 12/9(水)1:00pm 12/26(土)2:00pm

色ざんげ(92分・35mm・白黒)

'56(日活)(監督)阿部豊

20

11/22(日)5:00pm 12/8(火)4:00pm

嵐(108分・35mm・白黒)

'56(東宝)(監督)稲垣浩

21

11/24(火)7:00pm 12/12(土)2:00pm

流れる(116分・35mm・白黒)

'56(東宝)(監督)成瀬巳喜男

22

11/25(水)1:00pm 12/17(木)7:00pm

黄色いからず(104分・35mm・カラー)

'57(歌舞伎座)(監督)五所平之助

23

11/25(水)4:00pm 12/12(土)5:00pm

異母兄弟(110分・35mm・白黒)

'57(独立映画)(監督)家城巳代治

24

11/25(水)7:00pm 12/13(日)10:30am

<sup>こったい</sup>太夫さんより 女体は哀しく(113分・35mm・カラー)

'57(宝塚映画)(監督)稲垣浩

25

11/26(木)1:00pm 12/18(金)7:00pm

地上(98分・35mm・カラー)

'57(大映東京)(監督)吉村公三郎

26

11/26(木)4:00pm 12/22(火)7:00pm

悲しみは女だけに(105分・35mm・白黒)

'58(大映東京)(監督)新藤兼人

27

11/26(木)7:00pm 12/25(金)1:00pm

榎山節考(98分・35mm・カラー)

'58(松竹大船)(監督)木下恵介

28

11/27(金)1:00pm 12/16(水)7:00pm

彼岸花(118分・35mm・カラー)

'58(松竹大船)(監督)小津安二郎

29

11/27(金)4:00pm 12/23(水・祝)2:00pm

母子草(89分・35mm・白黒)

'59(東映東京)(監督)山村聰

30

11/27(金)7:00pm 12/19(土)2:00pm

太陽に背く者(103分・35mm・白黒)

'59(松竹京都)(監督)酒井辰雄

31

11/28(土)11:00am 12/17(木)4:00pm

おとうと(98分・35mm・カラー)

'60(大映東京)(監督)市川崑

32

11/28(土)2:00pm 12/22(火)1:00pm

別れて生きるときも(100分・35mm・カラー)

'61(東宝)(監督)堀川弘通

33

11/28(土)5:00pm 12/15(火)4:00pm

放浪記(123分・35mm・白黒)  
'62(宝塚映画)(監督)成瀬巳喜男

34

11/29(日)11:00am 12/11(金)4:00pm

かあさん長生きしてね(91分・35mm・カラー)  
'62(松竹大船)(監督)川頭義郎

35

11/29(日)2:00pm 12/16(水)1:00pm

結婚式 結婚式(94分・35mm・カラー)  
'63(松竹大船)(監督)中村登

36

11/29(日)5:00pm 12/18(金)4:00pm

太平洋ひとりぼっち(97分・35mm・カラー)  
'63(日活=石原プロモーション)(監督)市川崑

37

12/1(火)1:00pm 12/24(木)7:00pm

光る海(125分・35mm・カラー)  
'63(日活)(監督)中平康

38

12/1(火)4:00pm 12/6(日)5:00pm

この空のある限り(88分・35mm・白黒)  
'64(松竹大船)(監督)桜井秀雄

39

12/1(火)6:30pm 12/13(日)4:00pm

赤ひげ(185分・35mm・白黒)  
'65(黒沢プロ=東宝)(監督)黒澤明

40

12/2(水)4:00pm 12/19(土)5:00pm

三婆(101分・35mm・カラー)  
'74(東京映画)(監督)中村登

41

12/2(水)1:00pm 12/20(日)5:00pm

サンダカン八番娼館 望郷(121分・35mm・カラー)  
'74(東宝=俳優座)(監督)熊井啓

42

12/2(水)6:30pm 12/24(木)0:30pm

ある映画監督の生涯 私家版(150分・35mm・カラー)  
'75(近代映画協会)(監督)新藤兼人

43

12/3(木)1:00pm 12/20(日)2:00pm

おれの行く道(86分・35mm・カラー)  
'75(松竹大船)(監督)山根成之

44

12/3(木)4:00pm 12/23(水・祝)5:00pm

大地の子守歌(111分・35mm・カラー)  
'76(行動社=木村プロ)(監督)増村保造

## ◆田中絹代監督作品

45

12/3(木)7:00pm 12/19(土)11:00am

恋文(97分・35mm・白黒)  
'53(新東宝)(監督)田中絹代

46

12/4(金)1:00pm 12/20(日)11:00am

月は上りぬ(102分・35mm・白黒)  
'55(日活)(監督)田中絹代

47

12/4(金)4:00pm 12/23(水・祝)11:00am

乳房よ永遠なれ(110分・35mm・白黒)  
'55(日活)(監督)田中絹代

48

12/5(土)11:00am 12/24(木)4:00pm

流転の王妃(102分・35mm・カラー)  
'60(大映東京)(監督)田中絹代

49

12/5(土)2:00pm 12/22(火)4:00pm

女ばかりの夜(92分・35mm・白黒)  
'61(東京映画)(監督)田中絹代

50

12/4(金)7:00pm 12/17(木)1:00pm 12/26(土)11:00am

お吟さま(101分・35mm・カラー)  
'62(にんじんくらぶ)(監督)田中絹代



会 期
平成21年10月30日～平成21年11月15日 (9日間)※金、土、日のみ上映
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
22作品／12プログラム／18回上映
入館者数
1,744人(1回平均97人)
新聞・雑誌等における掲載記事
週刊金曜日 10月16日 「アンコール特集：2008年度上映作品より」

## 295 《京橋映画小劇場No.16》 アンコール特集：2008年度上映作品より

平成20年度に上映して満席を記録した作品等、特に人気が高かった作品を再上映する企画で、今年で4回目を迎えた。2008年度の上映データを検討して22作品を選定し12プログラムに構成、1プログラムにつき1回の上映を基本としたが、入場者の特に多かった『恋多き女』(1956年)や『巴里の空の下セーヌは流れる』(1951年)等、6プログラムについてはそれぞれ2回の上映を行った。

### 《Kyobashi-za No.16》

#### Back by Popular Demand: From the Programs of 2008

This was the fourth installment of the series that re-screens the especially popular films from the previous year including the ones that had full house audience. Based on the screening records of the fiscal year 2008, 22 films were selected and screened in 12 programs. Basically, one screening was held for each program, but six programs including *Elena et les hommes* (1956) and *Sous le ciel de Paris coule la Seine* (1951) demanded two showings due to their popularity.



1

10/30(金)2:00pm 11/8(日)3:00pm

恋多き女(97分・35mm・カラー) ELENA ET LES HOMMES  
'56(フランス)(監督)ジャン・ルノワール

2

10/30(金)6:00pm 11/15(日)3:00pm

発掘されたアニメーション映画(計109分)

なまくら刀(塙内名刀之巻) [デジタル復元版] (2分・16fps・  
35mm・無声・染色)  
'17(小林商会)(作画)幸内純一浦島太郎[デジタル復元版] (2分・16fps・35mm・無声・染色)  
'18(日活向島)(作画)北山清太郎漫画 瘤取り(10分・24fps・35mm・無声・染色)  
'29(横浜シネマ商会)(監督)青地忠三火の用心(13分・18fps・35mm・無声・染色)  
'30(横浜シネマ商会)(監督)青地忠三古寺のおばけ騒動(5分・35mm・白黒)  
'36(日本マンガフィルム研究所)(作画)(撮影)鈴木宏昌熊に喰われぬ男(9分・35mm・白黒)  
'48(三幸映画社)(監督)オーフジ・ノブロー(大藤信郎)狐と小鳥(11分・35mm・白黒)  
'48(近代映画株式会社)(監督)森野佐登志ガリヴァー奮闘記(9分・35mm・白黒)  
'50(近代映画社)(監督)黒田外喜男、小沢重行バクダット姫[最長版](48分・35mm・白黒)  
'48(三幸映画社)(監督)芦田巖

3

10/31(土)0:00pm

雪之丞変化[総集篇](97分・35mm・白黒)  
'35(松竹下加茂)(監督)衣笠貞之助

4

10/31(土)3:00pm 11/6(金)2:00pm

巴里の空の下セーヌは流れる(117分・35mm・白黒)  
SOUS LE CIEL DE PARIS COULE LA SEINE  
'51(フランス)(監督)ジュリアン・デュヴィヴィエ

5

11/1(日)0:00pm 11/6(金)6:00pm

尼僧ヨアンナ(108分・35mm・白黒)  
MATKA JOANNA OD ANIOŁÓW  
'61(ポーランド)(監督)イエジー・カワレロウィッチ

6

11/1(日)3:00pm 11/13(金)2:00pm

夜(121分・35mm・白黒)LA NOTTE  
'60(イタリア)(監督)ミケランジェロ・アントニオーニ

7

11/7(土)0:00pm

丹下左膳 第1篇(45分・35mm・白黒・部分)  
'33(日活太秦)(監督)伊藤大輔新編 丹下左膳 隻眼の巻(62分・35mm・白黒・不完全)  
'39(東宝東京)(監督)中川信夫

8

11/7(土)3:00pm 11/13(金)6:00pm

祇園祭(167分・35mm・カラー)  
'68(日本映画復興協会)(企画)伊藤大輔(監督)山内鉄也

9

11/8(日)0:00pm

富士の地質(11分・35mm・白黒・部分)  
'41(東宝)(監督)秋元憲戦ふ兵隊(66分・35mm・白黒)  
'39(東宝)(監督)亀井文夫

10

11/14(土)0:00pm

ゴジラ(96分・35mm・白黒)  
'54(東宝)(監督)本多猪四郎

11

11/15(日)0:00pm

第三次世界戦争 四十一時間の恐怖(77分・35mm・白黒)  
'60(第二東映)(監督)日高繁明

12

11/14(土)3:00pm

モスラ(101分・35mm・カラー)  
'61(東宝)(監督)本多猪四郎

会 期
平成22年1月5日～平成22年1月29日 (22日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
28作品／25プログラム／66回上映
入館者数
9,495人(1回平均144人)
新聞・雑誌等における掲載記事
Prints 21 春号 12月26日 「映画監督 大島渚」
毎日新聞 1月4日 「企画上映(大ホー ル) 映画監督 大島渚」
読売新聞 1月8日夕刊 「大島渚を特集」
浦安新聞 1月8日 「映画監督 大島渚」
読売新聞 1月19日夕刊 「映画監督 大 島渚」
東京新聞 1月28日 「隠れている怪物」 (麟六)
ビデオSALON 1月号 「世界に誇る名監 督 大島渚の作品を振り返る」

## 296 映画監督 大島渚

大島渚監督の長篇映画デビュー作『愛と希望の街』の公開(1959年11月) 50周年を記念して、1999年の『御法度』にいたる計28作品(25プログラム)の上映を通して、日本が世界に誇るオオシマの足跡を回顧した。

大島が長篇デビュー以前に手がけた新人スター紹介用の短篇作品『明日の太陽』や、脚本を担当した『月見草』、『どんと行こうぜ』(いずれも1959年)等の珍しい初期作品もプログラムして、その作家性を多角的に検証した。

### Oshima Nagisa Retrospective

Oshima Nagisa is one of the film directors Japan is proud of in the international arena. Commemorating the 50th anniversary of the release (November, 1959) of Oshima's debut feature *Ai to kibo no machi*, this event reviewed Oshima's career through 28 films up to *Gohatto* (1999) in 25 programs. Notably, the event included the rarely seen early works such as *Asu no taiyo* (1959), the short film introducing young starlets which Oshima worked on before his feature debut, and *Tsukimiso* and *Don to ikoze* (1959) which Oshima wrote scripts for. Thus, the event was successful in examining Oshima's artistic talents from a number of angles.



1

1/5(火)1:00pm 1/16(土)11:00am

月見草(70分・35mm・白黒)

'59(松竹大船)(監督)岩城其美夫(脚本)大島渚

2

1/5(火)4:00pm 1/17(日)11:00am

どんと行こうぜ(89分・35mm・白黒)

'59(松竹大船)(監督)野村芳太郎(脚本)大島渚

3

1/5(火)7:00pm 1/15(金)4:00pm 1/23(土)2:00pm

明日の太陽(6分・35mm・白黒)

'59(松竹大船)(監督)大島渚

愛と希望の街(62分・35mm・白黒)

'59(松竹大船)(監督)大島渚

4

1/6(水)1:00pm 1/17(日)2:00pm 1/26(火)7:00pm

青春残酷物語(96分・35mm・カラー)

'60(松竹大船)(監督)大島渚

5

1/6(水)4:00pm 1/14(木)7:00pm 1/19(火)1:00pm

太陽の墓場(88分・35mm・カラー)

'60(松竹)(監督)大島渚

6

1/6(水)7:00pm 1/16(土)2:00pm 1/21(木)1:00pm

日本の夜と霧(108分・35mm・カラー)

'60(松竹大船)(監督)大島渚

7

1/7(木)1:00pm 1/15(金)7:00pm 1/26(火)4:00pm

飼育(105分・35mm・白黒)

'61(パレスフィルムプロ)(監督)大島渚

8

1/7(木)4:00pm 1/19(火)7:00pm 1/29(金)1:00pm

天草四郎時貞(101分・35mm・白黒)

'62(東映京都)(監督)大島渚

9

1/24(日)5:00pm 1/27(水)4:00pm

小さな冒険旅行(60分・35mm・カラー)

'63(日生劇場映画部)(監督)大島渚

ユンボギの日記(25分・16mm・白黒)

'65(創造社)(監督)大島渚

10

1/8(金)1:00pm 1/21(木)4:00pm 1/27(水)7:00pm

悦楽(91分・35mm・カラー)

'65(創造社)(監督)大島渚

11

1/8(金)4:00pm 1/16(土)5:00pm 1/20(水)4:00pm

白昼の通り魔(99分・35mm・白黒)

'66(創造社)(監督)大島渚

12

1/8(金)7:00pm 1/19(火)4:00pm 1/27(水)1:00pm

忍者武芸帳(117分・35mm・白黒) 資料に132分

'67(創造社)(監督)大島渚

13

1/9(土)11:00am 1/20(水)7:00pm

日本春歌考(103分・35mm・カラー)

'67(創造社)(監督)大島渚

14

1/9(土)2:00pm 1/15(金)1:00pm 1/28(木)7:00pm

無理心中 日本の夏(99分・35mm・白黒)

'67(創造社)(監督)大島渚

15

1/9(土)5:00pm 1/22(金)1:00pm

絞死刑(118分・35mm・白黒)

'68(創造社=ATG)(監督)大島渚

16

1/10(日)11:00am 1/14(木)4:00pm 1/29(金)7:00pm

帰って来たヨッパライ(80分・35mm・カラー)

'68(創造社)(監督)大島渚

17

1/10(日)5:00pm 1/22(金)7:00pm 1/28(木)0:30pm

宵闇せまれば(43分・35mm・白黒)

'69(プロダクション断層)(監督)実相寺昭雄(脚本)大島渚

新宿泥棒日記(96分・35mm・パートカラー)

'69(創造社)(監督)大島渚

18

1/10(日)2:00pm 1/22(金)4:00pm

少年(97分・35mm・カラー)

'69(創造社=ATG)(監督)大島渚

19

1/7(木)7:00pm 1/12(火)1:00pm 1/24(日)11:00am

東京戦争戦後秘話(94分・35mm・白黒)

'70(創造社=ATG)(監督)大島渚

20

1/12(火)4:00pm 1/23(土)11:00am

儀式(122分・35mm・カラー)

'70(創造社=ATG)(監督)大島渚

21

1/12(火)7:00pm 1/20(水)1:00pm 1/29(金)4:00pm

夏の妹(91分・35mm・カラー)

'70(創造社=ATG)(監督)大島渚

22

1/13(水)1:00pm 1/21(木)7:00pm

愛のコリーダ(104分・35mm・カラー)

'76(大島プロ=アルゴス・フィルム)(監督)大島渚

23

1/13(水)4:00pm 1/23(土)5:00pm 1/26(火)1:00pm

愛の亡霊(107分・35mm・カラー)

'78(大島プロ=アルゴス・フィルム)(監督)大島渚

24

1/13(水)7:00pm 1/24(日)2:00pm 1/28(木)4:00pm

戦場のメリークリスマス(123分・16mm・カラー)

'83(シネペンチャー・プロ=レコーデッド・ピクチャーカンパニー  
=大島プロ=テレビ朝日=ブロードバンク・インベストメント)(監  
督)大島渚

25

1/14(木)1:00pm 1/17(日)5:00pm

御法度(100分・35mm・カラー)

'99(松竹=角川書店=IMAGICA=BS朝日=衛星劇場)(監督)大島  
渚

会 期
平成22年1月14日～平成22年1月31日 (16日間)
会 場
小ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター 川喜多記念映画文化財団 独立行政法人国際交流基金
作品数・上映回数
16作品／16プログラム／32回上映
入館者数
3,517人(1回平均110人)
新聞・雑誌等における掲載記事
聖教新聞 12月24日 「川喜多賞受賞監督作品選集」
日本 Herald 新聞 1月8日 「JAPANESE FILM SCREENINGS」
映像新聞 1月11日 「川喜多賞受賞8監督の作品」
東京新聞 1月14日 「川喜多賞受賞監督作品選集」
赤旗 1月17日 「川喜多賞受賞監督作品選集」
ビデオSALON 2月号 「川喜多賞受賞監督8人の代表作品 16選」

## 297 川喜多かしこ生誕100年記念事業 川喜多賞受賞監督作品選集

フィルムセンターでは、平成20年に川喜多かしこ（1908-1993）の生誕100年に合わせて3つの記念事業（東和が配給したヨーロッパ映画を回顧上映する「川喜多かしことヨーロッパ映画の黄金時代」、かしこ夫人の功績と生涯に関連の資料で振り返る「川喜多かしこ展」、川喜多賞受賞監督の代表作を海外に巡回する“A Wreath for Madame Kawakita”）を実施しているが、それらの締めくくりとして本企画では、川喜多記念映画文化財団、国際交流基金との共同主催で、“A Wreath for Madame Kawakita”で海外を巡回した作品のうち16作品を連続上映した。

川喜多賞を受賞した映画監督8人の代表作を世界各国の映画祭やシネマテーク、フィルム・アーカイブなどで巡回上映する“A Wreath for Madame Kawakita”の上映作品から1監督2作品を選び、全作品を英語字幕付きプリントで上映した。

### “A Wreath for Madame Kawakita” in Tokyo

In 2008 NFC organized three events to commemorate the centenary of Kawakita Kashiko's birth (1908-1993). They were: *Madame Kawakita: L'Ambassadrice cinématographique du film européen*, the retrospective screening event of the European films which were originally distributed by Towa, *Madame Kawakita, Her Life and Films* exhibition which surveys Madame Kawakita's achievements and life through the related reference materials, and *A Wreath for Madame Kawakita*, a touring screening program abroad that consisted of the films by the directors who won the Kawakita Awards. This event was the final one of the series. Co-organized by Kawakita Memorial Film Institute and the Japan Foundation, this event screened 16 films that were selected from the ones that toured as part of *A Wreath for Madame Kawakita*.

The touring program *A Wreath for Madame Kawakita* screened the representative films by eight directors who won the Kawakita Awards at various venues around the world such as at film festivals, cinemathèques, and film archives. For the event in Tokyo, two films per one director were selected and screened with English subtitles.



**黒澤明監督(第2回〔1984年〕受賞)**

1

1/14(木)2:00pm 1/24(日)3:00pm

**野良犬**(122分・35mm・白黒)

'49(新東宝=映画芸術協会)

2

1/14(木)6:00pm 1/17(日)3:00pm

**生きる**(143分・35mm・白黒)

'52(東宝)

**大島渚監督(第3回〔1985年〕受賞)**

3

1/15(金)2:00pm 1/26(火)6:00pm

**少年**(97分・35mm・カラー)

'69(創造社=ATG)

4

1/15(金)6:00pm 1/27(水)2:00pm

**儀式**(122分・35mm・カラー)

'71(創造社=ATG)

**新藤兼人監督(第14回〔1996年〕受賞)**

5

1/16(土)0:00pm 1/27(水)6:00pm

**裸の島**(96分・35mm・白黒)

'60(近代映画協会)

6

1/24(日)0:00pm 1/29(金)6:00pm

**鬼婆**(100分・35mm・白黒)

'64(近代映画協会)

**今村昌平監督(第15回〔1997年〕受賞)**

7

1/16(土)3:00pm 1/26(火)2:00pm

**赤い殺意**(150分・35mm・白黒)

'64(日活)

8

1/19(火)2:00pm 1/28(木)6:00pm

**復讐するは我にあり**(140分・35mm・カラー)

'79(松竹=今村プロ)

**羽田澄子監督(第16回〔1998年〕受賞)**

9

1/23(土)3:00pm 1/28(木)2:00pm

**早池峰の賦**(186分・16mm・カラー)

'82(自由工房)

10

1/19(火)6:00pm 1/23(土)0:00pm

**山中常盤**(100分・35mm・カラー)

2004(自由工房)

**市川崑監督(第19回〔2001年〕受賞)**

11

1/17(日)0:00pm 1/20(水)2:00pm

**炎上**(99分・35mm・白黒)

'58(大映京都)

12

1/20(水)6:00pm 1/29(金)2:00pm

**おとうと**(98分・35mm・カラー)

'60(大映東京)

**山田洋次監督(第21回〔2003年〕受賞)**

13

1/21(木)2:00pm 1/30(土)0:00pm

**家族**(106分・35mm・カラー)

'70(松竹)

14

1/21(木)6:00pm 1/31(日)3:00pm

**幸福の黄色いハンカチ**(108分・35mm・カラー)

'77(松竹)

**鈴木清順監督(第24回〔2006年〕受賞)**

15

1/22(金)2:00pm 1/31(日)0:00pm

**東京流れ者**(83分・35mm・カラー)

'66(日活)

16

1/22(金)6:00pm 1/30(土)3:00pm

**ツイゴイネルワイゼン**(144分・35mm・カラー)

'80(シネマ・ブラセット)

会 期
平成22年1月30日～平成22年2月12日 (12日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
19作品／18プログラム／36回上映
入館者数
6,466人(1回平均180人)
新聞・雑誌等における掲載記事
赤旗 日曜版 1月31日 「フィルムセンター・アンコール特集」 東京新聞 2月4日 「アンコール特集：1995-2004年度の上映作品より」 ビデオSALON 2月号 「1995-2004年度までの人気プログラムをアンコール」

## 298 アンコール特集：1995-2004年度の上映作品より

フィルムセンターがリニューアルオープンした1995年から、2006年にスタートした「アンコール特集」でも取り上げられたことのない2004年までの上映作品の中から、特に入場者数の高かった作品を選んで集中上映した。

監督・木下恵介や女優・高峰秀子等を取り上げた過去の人気特集や、「発掘された映画たち」で話題を呼んだ幻の日本映画、シリーズ「日本映画の発見」で紹介された隠れた名作まで、計19本(18プログラム)を再上映した。

### Back by Popular Demand: From the Programs of 1995-2004

This event selected the especially popular films that were shown at NFC between 1995 and 2004. (NFC was re-opened after renovation in 1995.) These are the films that were not included in the *Back by Popular Demand* series, which started in 2004. The selected films included the ones from the popular programs on director Kinoshita Keisuke and actress Takamine Hideko, the legendary Japanese films that became the topics of many people's talks when they were screened in *Cinema: Lost and Found*, and the previously little known films despite their artistic qualities, that were shown at *Rediscovering Our National Film Heritage*. In total, 19 films were thus re-screened in 18 programs.





1

1/30(土)11:00am 2/9(火)4:00pm

鐮鳴浪人(52分・35mm・白黒)

續 鐮鳴浪人(70分・35mm・白黒)

'39-40(日活)(監督)荒井良平

2

1/30(土)2:00pm 2/12(金)1:00pm

北極光(108分・35mm・白黒)

'41(新興東京)(監督)田中重雄

3

1/30(土)5:00pm 2/10(水)1:00pm

狼火は上海に揚る(65分・35mm・白黒)

'44(大映=中華電影)(監督)稲垣浩、岳楓

4

1/31(日)11:00am 2/10(水)4:00pm

三百六十五夜 [総集篇](119分・35mm・白黒)

'48(新東宝)(監督)市川崑

5

1/31(日)2:00pm 2/12(金)7:00pm

破戒(99分・35mm・白黒)

'48(松竹京都)(監督)木下恵介

6

1/31(日)5:00pm 2/9(火)1:00pm

破れ太鼓(108分・35mm・白黒)

'49(松竹京都)(監督)木下恵介

7

2/2(火)1:00pm 2/6(土)2:00pm

善魔(108分・35mm・白黒)

'51(松竹大船)(監督)木下恵介

8

2/2(火)4:00pm 2/7(日)11:00am

雁(104分・35mm・白黒)

'53(大映東京)(監督)豊田四郎

9

2/2(火)7:00pm 2/11(木・祝)1:30pm

日本橋(111分・35mm・カラー)

'56(大映京都)(監督)市川崑

10

2/3(水)1:00pm 2/9(火)7:00pm

暴れん坊街道(95分・35mm・白黒)

'57(東映京都)(監督)内田吐夢

11

2/3(水)4:00pm 2/6(土)5:00pm

暗黒街の美女(87分・35mm・白黒)

'58(日活)(監督)鈴木清順

12

2/3(水)7:00pm 2/6(土)11:00am

駅前旅館(109分・35mm・カラー)

'58(東京映画)(監督)豊田四郎

13

2/4(木)1:00pm 2/12(金)4:00pm

旗本退屈男(108分・35mm・カラー)

'58(東映京都)(監督)松田定次

14

2/4(木)4:00pm 2/10(水)7:00pm

女が階段を上る時(111分・35mm・白黒)

'60(東宝)(監督)成瀬巳喜男

15

2/4(木)7:00pm 2/7(日)2:00pm

華岡青洲の妻(99分・35mm・白黒)

'67(大映京都)(監督)増村保造

16

2/5(金)1:00pm 2/7(日)5:00pm

なみだ川(79分・35mm・カラー)

'67(大映京都)(監督)三隅研次

17

2/5(金)4:00pm 2/11(木・祝)11:00am

ひとり狼(83分・35mm・カラー)

'68(大映京都)(監督)池広一夫

18

2/5(金)7:00pm 2/11(木・祝)4:30pm

日本暗殺秘録(142分・35mm・カラー)

'69(東映京都)(監督)中島貞夫

会 期
平成22年2月20日～平成22年3月20日 (25日間)
会 場
大ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
作品数・上映回数
30作品／30プログラム／75回上映
入館者数
11,438人(1回平均153人)
新聞・雑誌等における掲載記事
読売新聞 2月19日夕刊 「篠田正浩を特集」
聖教新聞 2月25日 「映画監督 篠田正浩」
日本経済新聞 2月25日夕刊 「篠田正浩監督の特集上映」
映像新聞 3月1日 「篠田正浩監督 30作品を特集」
テレビ・ブロス 3月6日 「活弁世界傑作劇場 『卑弥呼』(山田広野)」
ビデオSALON 3月号 「松竹ヌーヴェルヴァーグを築いた一人 篠田正浩の軌跡」

## 299 映画監督 篠田正浩

篠田正浩監督の長篇映画デビュー作『恋の片道切符』の公開(1960年4月)50周年を記念して、2003年の『スパイ・ゾルゲ』にいたる計30作品(30プログラム)の連続上映により、篠田正浩監督の足跡を回顧した。

松竹時代の初期作品から、表現社を中心とする独立プロによる作品、日独合作の『舞姫』(1989年)等、多彩なフィルモグラフィのほとんどを網羅するプログラムを通して篠田正浩監督の作家性を検証した。

### Shinoda Masahiro Retrospective

Commemorating the 50th anniversary of the release of Shinoda Masahiro's feature debut *Koi no katamichi kippu* (1960), NFC organized his retrospective in which 30 films up to *Supai Zoruge* (2003) were screened in 30 programs.

By covering almost all of Shinoda's diverse oeuvre including his early films at Shochiku, films made by independent productions such as Hyogensha Inc., and Japan-Germany co-production *Maihime* (1989), the retrospective showcased Shinoda's artistic characteristics.



1

2/20(土)11:00am 3/5(金)7:00pm

恋の片道切符(82分・35mm・白黒)

'60(松竹大船)(監督)篠田正浩

2

2/20(土)2:00pm 3/4(木)4:00pm 3/16(火)7:00pm

乾いた湖(87分・35mm・カラー)

'60(松竹大船)(監督)篠田正浩

3

2/20(土)5:00pm 3/5(金)1:00pm 3/17(水)7:00pm

夕陽に赤い俺の顔(82分・35mm・カラー)

'61(松竹大船)(監督)篠田正浩

4

2/21(日)11:00am 3/5(金)4:00pm 3/18(木)7:00pm

わが恋の旅路(91分・35mm・カラー)

'61(松竹大船)(監督)篠田正浩

5

2/21(日)2:00pm 3/5(金)7:00pm

三味線とオートバイ(81分・35mm・カラー)

'61(松竹大船)(監督)篠田正浩

6

2/21(日)5:00pm 3/9(火)1:00pm 3/17(水)4:00pm

私たちの結婚(66分・35mm・白黒)

'62(松竹大船)(監督)篠田正浩

7

2/23(火)1:00pm 3/6(土)2:00pm

燃ゆる若者たち 一山の讃歌―(89分・35mm・カラー)

'62(松竹大船)(監督)篠田正浩

8

2/23(火)4:00pm 3/13(土)5:00pm 3/19(金)1:00pm

涙を、獅子のたて髪に(92分・35mm・白黒)

'62(松竹大船)(監督)篠田正浩

9

2/23(火)7:00pm 3/10(水)1:00pm 3/20(土)2:00pm

乾いた花(96分・35mm・白黒)

'64(松竹大船)(監督)篠田正浩

10

2/24(水)1:00pm 3/7(日)5:00pm 3/18(木)4:00pm

暗殺(104分・35mm・白黒)

'64(松竹京都)(監督)篠田正浩

11

2/24(水)4:00pm 3/6(土)11:00am 3/19(金)4:00pm

美しさと哀しみと(104分・35mm・カラー)

'65(松竹大船)(監督)篠田正浩

12

2/24(水)7:00pm 3/13(土)11:00am

異聞猿飛佐助(100分・35mm・白黒)

'65(松竹大船)(監督)篠田正浩

13

2/26(金)1:00pm 3/9(火)4:00pm 3/20(土)5:00pm

処刑の島(86分・35mm・カラー)

'66(日生劇場プロ)(監督)篠田正浩

14

2/25(木)1:00pm 3/7(日)2:00pm

あかね雲(107分・35mm・パートカラー)

'67(表現社)(監督)篠田正浩

15

2/26(金)4:00pm 3/10(水)7:00pm 3/20(土)11:00am

心中天網島(103分・35mm・白黒)

'69(表現社=ATG)(監督)篠田正浩

16

2/25(木)4:00pm 3/6(土)5:00pm

無頼漢(103分・35mm・カラー)

'70(東宝=にんじんくらぶ)(監督)篠田正浩

17

2/26(金)7:00pm 3/7(日)11:00am 3/17(水)1:00pm

沈黙 SILENCE(130分・35mm・カラー)

'71(表現社=マコ・インターナショナル)(監督)篠田正浩

18

2/25(木)6:30pm 3/12(金)0:30pm

札幌オリンピック(165分・35mm・カラー)

'72(ニュース映画製作者連盟)(総監督)篠田正浩

19

2/27(土)11:00am 3/11(木)7:00pm 3/16(火)4:00pm

化石の森(117分・35mm・カラー)

'73(東京映画)(監督)篠田正浩

20

2/27(土)2:00pm 3/11(木)4:00pm 3/19(金)7:00pm

卑弥呼(99分・35mm・カラー)

'74(表現社=ATG)(監督)篠田正浩

21

2/27(土)5:00pm 3/11(木)1:00pm

桜の森の満開の下(95分・35mm・カラー)

'75(芸苑社)(監督)篠田正浩

22

3/2(火)4:00pm 3/14(日)5:00pm 3/18(木)1:00pm

はなれ瞽女おりん(118分・35mm・カラー)

'77(表現社)(監督)篠田正浩

23

2/28(日)10:30am 3/12(金)7:00pm

瀬戸内少年野球団(143分・35mm・カラー)

'84(YOUの会=ヘラルド・エース)(監督)篠田正浩

24

2/28(日)2:00pm 3/2(火)1:00pm 3/10(水)4:00pm

やりごんざ  
鑪の権三(126分・35mm・カラー)

'86(松竹=表現社)(監督)篠田正浩

25

2/28(日)5:00pm 3/12(金)4:00pm

舞姫(123分・35mm・カラー)

'89(ヘラルド・エース=テレビ朝日=マンフレッド・ドルニオー  
クプロ)(監督)篠田正浩

26

3/2(火)7:00pm 3/14(日)11:00am

少年時代(117分・35mm・カラー)

'90(「少年時代」製作委員会)(監督)篠田正浩

27

3/3(水)1:00pm 3/14(日)2:00pm

写楽 Sharaku(138分・35mm・カラー)

'95(西友=TSUTAYA=堺総合企画=表現社=テレビ朝日)(監督)篠  
田正

28

3/3(水)4:00pm 3/13(土)2:00pm

瀬戸内ムーンライト・セレナーデ(117分・35mm・カラー)

'97(松竹=オフィス・トゥー・ワン=フジテレビジョン=ポニー  
キャニオン)(監督)篠田正浩

29

3/3(水)7:00pm 3/16(火)1:00pm

梟の城(138分・35mm・カラー)

'99(「梟の城」製作委員会)(監督)篠田正浩

30

3/4(木)0:00pm 3/9(火)6:30pm

スパイ・ゾルゲ(182分・35mm・カラー)

2003(スパイ・ゾルゲ製作委員会)(監督)篠田正浩

<b>会 期</b>
平成22年2月26日～平成22年3月14日 (9日間)※金、土、日のみ上映
<b>会 場</b>
小ホール
<b>主 催</b>
東京国立近代美術館フィルムセンター
<b>作品数・上映回数</b>
9作品／9プログラム／18回上映
<b>入館者数</b>
1,709人(1回平均95人)
<b>新聞・雑誌等における掲載記事</b>
該当なし

### 300 《京橋映画小劇場No.17》 NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究③

平成14年度から15年度にかけてジョージ・イーストマン・ハウス国際写真映画博物館(アメリカ・ロチェスター)の協力により、ワーナー・ブラザーズから入手したアメリカ映画の16mmプリント・コレクションを紹介するシリーズの第3回で、平成20年度と同様トーキー初期のアメリカ映画9本を選び上映した。

メロドラマやミュージカル等、多彩なジャンル、スターからなる9本の上映を通して、古典的な様式の確立から第二次世界大戦への参戦に伴う新たな産業構造へ転換しつつあった1940年前後のアメリカ映画を概観できるようなプログラム構成を行った。

今回も上映作品に日本語字幕が無いことを考慮して、あらすじを記したハンドアウトの配布や、トークイベントの開催で観客の理解を補うよう努めた。

#### 《Kyobashi-za No.17》 A Survey of American Film History Part 3: From the National Film Center Collection

This was the third screening event of the 16 mm prints of American films which NFC collected, in 2003 and 2004, from Warner Brothers with the cooperation of the George Eastman House Museum of Photography (Rochester, USA). This program consisted of nine films which have a variety of genres such as melodrama and musical, and surveyed the American cinema around 1940, which was going through the establishment of the classical style and the transition to the new industrial structure in relation to its the participation in the Second World War.

Taken into account that the films don't have subtitles, the hand-outs of their synopsis were distributed, and the talk shows were held in order to help the spectators to understand the works.



1

2/26(金)2:00pm 3/6(土)3:00pm

椿姫(109分・16mm・白黒) CAMILLE  
'37(MGM)(監督)ジョージ・キューカー

2

2/26(金)6:00pm 3/7(日)0:00pm

踊るニクウ・ヨーク(101分・16mm・白黒)  
BROADWAY MELODY OF 1940  
'40(MGM)(監督)ノーマン・タウログ

3

2/27(土)0:00pm 3/7(日)3:00pm

ブーム・タウン(118分・16mm・白黒) BOOM TOWN  
'40(MGM)(監督)ジャック・コンウェイ

4

2/27(土)3:00pm 3/12(金)2:00pm

アウト・オブ・ザ・フォッグ(87分・16mm・白黒)  
OUT OF THE FOG  
'41(ワーナー・ブラザース)(監督)アナトール・リトヴァク

5

2/28(日)0:00pm 3/12(金)6:00pm

大雷雨(102分・16mm・白黒) MANPOWER  
'41(ワーナー・ブラザース)(監督)ラオール・ウォルシュ

6

2/28(日)3:00pm 3/13(土)0:00pm

アンホリー・パートナーズ(94分・16mm・白黒)  
UNHOLY PARTNERS  
'41(MGM)(監督)マーヴィン・ルロイ

7

3/5(金)2:00pm 3/13(土)3:00pm

追憶の女(97分・16mm・白黒) IN THIS OUR LIFE  
'42(ワーナー・ブラザース)(監督)ジョン・ヒューストン

8

3/5(金)6:00pm 3/14(日)0:00pm

フォー・ミー・アンド・マイ・ギャル(104分・16mm・白黒)  
FOR ME AND MY GAL  
'42(MGM)(監督)バスビー・バークレー

9

3/6(土)0:00pm 3/14(日)3:00pm

鉄腕ジム(99分・16mm・白黒) GENTLEMAN JIM  
'42(ワーナー・ブラザース)(監督)ラオール・ウォルシュ

1-3 展覧会 Exhibitions

1-3-1 展覧会一覧(新ビル開館より平成19年度まで)  
Exhibitions from the Opening of NFC's New Building in Fiscal 1995 until 2007

回数 展覧会名

平成7年度[1995]	1	映画生誕百周年記念 ポスターでみる日本映画史 — みそのコレクションより — Japanese Film History in Posters — From the Collection of Kyohei Misono —
平成8年度[1996]	2	写真で見る「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」 — UCLAジャン・ルノワール・コレクションより — Le Grand Théâtre de Jean Renoir A Photo Exhibition from UCLA Arts Library Special Collections Jean Renoir Papers
平成9年度[1997]	3	ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」 Soviet Film Posters in the Late Silent Era
平成10年度[1998]	4	ポスターでみる日本映画史PART II — みそのコレクションより — Japanese Film History in Posters, Part II — From the Collection of Kyohei Misono —
平成11年度[1999]	5	フリッツ・ラング：映像とそのイメージの原型 Fritz Lang: Filmbilder Vorbilder
平成12年度[2000]	6	ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」PART II Soviet Film Posters in the Late Silent Era, Part 2
平成13年度[2001]	7	「イタリア映画大回顧」ポスター展 Cartelloni del Cinema Italiano in Giappone
	8	資料でみる日本映画史 — みそのコレクションより — Japanese Film History in Documents — From the Collection of Kyohei Misono —
平成14年度[2002]	9	展覧会 映画遺産 — 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより — The Japanese Film Heritage — From the Non-Film Collection of the National Film Center —
平成15年度[2003]	10	映画資料でみる蒲田時代の小津安二郎と清水宏 Days of Youth: Ozu and Shimizu at Shochiku Kamata Studio
平成16年度[2004]	11	造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界 Artworks from the Animation Films of Tadanari Okamoto
	12	映画女優 高峰秀子展 Exhibition: Hideko Takamine, Film Actress

平成17年度 [2005]

- 13 尾上松之助と時代劇スターの系譜  
Onoe Matsunosuke and the Culture of Period Films
- 14 ポーランドの映画ポスター  
Polish Posters for Films — From the Collection of National Film Center
- 15 松竹創業110周年記念 松竹と映画  
Shochiku Company at 110: Shochiku in the History of Japanese Cinema  
特別展示『浮雲』再現セット  
Special Exhibition: Recreated Set of Ukigumo

平成18年度 [2006]

- 16 生誕100周年記念 美術監督 水谷浩の仕事  
Pioneering Art Director: Hiroshi Mizutani at his Centenary
- 17 生誕110周年記念 衣笠貞之助の世界  
Teinosuke Kinugasa: From Female Impersonator to Master Filmmaker

平成19年度 [2007]

- 18 スチル写真でみる日本の映画女優  
Japanese Film Actress — from the NFC still photo collection —
- 19 没後30年記念 チャップリンの日本  
チャップリン秘書・高野虎市遺品展  
Chaplin Meets Japan
- 20 マキノ映画の軌跡  
The Makino Picture Story



## 21 映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1

(併設：展覧会 映画遺産 — 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより)

「映画資料でみる 映画の中の日本文学」は、日本映画の歴史全体にわたってその糧となり、発展を支えた日本文学のさまざまな流れを、フィルムセンター所蔵のスチル写真、ポスター、シナリオ等、映画資料の展示を通じてたどるもので、個々の文学作品が各時代の文化状況の中でいかに一本の映画に“翻訳”され、人々に伝えられていったかという道のりを示すフィルムセンターの展覧会の新しいシリーズである。シリーズの第1回となるこの展示では、古代・中世から近世を経由して、明治期・大正期までに主に活躍した作家たちの原作による映画作品に焦点を当てた。「古事記」「源氏物語」といった古典や近松門左衛門、井原西鶴といった江戸期の文学に端を発しつつ、明治・大正期においては夏目漱石・森鴎外・島崎藤村・樋口一葉・谷崎潤一郎・志賀直哉といった著名な文豪の作品だけでなく、盛んに映画化された尾崎紅葉・菊池寛・久米正雄等の大衆小説、さらにそれぞれの時代に支持されたマイナーな文学者にも着目することで、文学史と映画史の関係に対する新しい視点を獲得することを目指した。

### Japanese Literature in Film Part 1 —From the NFC Non-Film Collection

(Held with the regular exhibition: The Japanese Film Heritage  
—From the Non-Film Collection of the National Film Center)

*Japanese Literature in Film—From the NFC Non-Film Collection* is the new exhibition series that surveys various trends in Japanese literature through the reference materials such as still photographs, posters, and scenarios from the NFC collection. It is well known that Japanese literature has supported the development of cinema throughout the history of Japanese films. This exhibition series aims to show the process in which each literary work was “translated” into one film and thus was conveyed to the public in each specific socio-cultural environment. In this first installment of the series, the focus was given to the films based on the literary stories from the ancient times, medieval era, to the Meiji (1868-1912) and Taisho (1912-1926) eras via the early modern times. The exhibition aimed to present a new viewpoint regarding the relationship between the literary history and film history. In order to do so, the exhibition included a wide range of works. For example, classics such as *Kojiki* and *Genji monogatari*, and the literature of the Edo era such as those by Chikamatsu Monzaemon and Ihara Saikaku were represented. As for the Meiji and Taisho Eras, the popular novels that were actively made into films were given special attention to in addition to the works by famous literary masters. The former includes Ozaki Koyo, Kikuchi Kan, and Kume Masao while the latter includes Natsume Soseki, Mori Ogai, Shimazaki Toson, Higuchi Ichiyo, Tanizaki Junichiro, and Shiga Naoya.



## 会期

平成20年4月4日～平成20年7月20日  
(93日間)

## 会場

展示室

## 主催

東京国立近代美術館フィルムセンター

## 出品点数

131点

## 入館者数

3,946人(1日平均 42人)

## 新聞・雑誌等における掲載記事

東京新聞 3月25日夕刊 「展覧会『映画資料でみる 映画の中の日本文学』」

毎日新聞 3月28日 「『映画資料でみる 映画の中の日本文学』展開催」

全私学新聞 4月3日 「映画の中の日本文学 4月4日から展示」

TBSラジオOTTAVA 4月7日 「映画の中の日本文学」

読売新聞 4月8日夕刊 「映画資料でみる 映画の中の日本文学」

読売新聞 4月12日夕刊 「『文学の映画化』展示と特集上映」

朝日新聞 4月16日夕刊 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1」

朝日新聞 4月23日夕刊 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1」

日本経済新聞 4月23日夕刊 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1」

東京新聞 5月15日 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1」

読売新聞 5月24日夕刊 「日本の名作映画化の歩み」

常陽藝文 5月号 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1」

朝日新聞 6月18日夕刊 「映画の中の日本文学展 ポスターや写真でたどる」

会 期
平成20年7月25日～平成20年9月28日 平成20年10月7日～平成20年12月26日 (127日間)
会 場
展示室
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター 財団法人川喜多記念映画文化財団
出品点数
166点
入館者数
5,709人(1日平均45人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 7月19日 「生誕100年 川喜多かしこ展 映画一筋で多大な功績」
新潟新聞 7月22日 「25日から『生誕100年 川喜多かしこ展』」
新潟日報 7月22日 「輝く映画一筋の人生 25日から『生誕100年』川喜多かしこ展」
神奈川新聞 7月24日 「鎌倉ゆかりの川喜多かしこさん生誕100年 欧州の名作を日本に紹介」
朝日新聞 7月25日夕刊 「『川喜多かしこ』生誕100年記念展 東京で始まる『日本映画の母』の実像 幅広く」
西日本新聞 8月4日 「川喜多かしこ生誕100年 映画一筋に生きた女性」
読売新聞 8月8日夕刊 「淀川長治没後10年 川喜多かしこ生誕100年」(近藤孝)
北海道新聞 8月8日夕刊 「東京で生誕100年 川喜多かしこ展」(藤谷洋)
朝日新聞 8月21日 「川喜多かしこ生誕100年 『日本映画大使』の評伝を」(古賀太)
Excite ブログ・マガジン 8月26日 「TOKYO ART PATROL 世界中の尊敬を集めた“マダム・カワキタ”・映画にかけた情熱の跡 ～ 生誕100年 川喜多かしこ展」(立川直樹)
赤旗 8月31日 「生誕100年 川喜多かしこヨーロッパ映画の黄金時代」
女のしんぶん(女性会議) 9月10日 「『和服の映画大使』川喜多かしこ展をみて」(菅井ゆきえ)
聖教新聞 10月1日 「世界と日本を結んだ映画人 川喜多かしこさん」(高野悦子)
読売新聞 10月2日夕刊 「名画上映 マダムの生涯」(永峰好美)
産経新聞 12月17日 「マダム・カワキタ “映画大使”の足跡追う」

## 22 生誕100年 川喜多かしこ展

(併設：展覧会 映画遺産 — 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより)

「生誕100年 川喜多かしこ展」は、1928年に設立された東和商事映画部(のちに東和映画・東和、現在の東宝東和)を、夫である社長・川喜多長政とともに長く率いた川喜多かしこの生誕百年を記念する展覧会である。映画を「商品」である以上に「芸術作品」として日本の観客に届けた東和の業績は、企業としての任務を超えて日本の映画文化そのものの向上に貢献したが、その中心で活躍した川喜多かしこの功績をたどり、日本でも先駆的なこの女性映画人の華やかな人生に迫ろうとした。

財団法人川喜多記念映画文化財団との共催のもと、同財団所蔵の写真・ポスターやさまざまな遺品を中心に、世界のそうそうたる映画人から崇敬された“マダム・カワキタ”がいかに世界と日本を映画で結びつけたか、また外国映画の輸入だけでなく日本映画の海外への紹介にもいかに積極的に取り組んだかを示した。さらに、川喜多かしこが映画文化を振興する専門機関の必要性を説き、東京国立近代美術館フィルムセンターや財団法人川喜多記念映画文化財団の設立に貢献した点にも注目している。

### Madame Kawakita, Her Life and Films

(Held with the regular exhibition: The Japanese Film Heritage  
—From the Non-Film Collection of the National Film Center)

*Madame Kawakita, Her Life and Films* commemorates the centenary of the birth of Kawakita Kashiko who, together with her husband and president Kawakita Nagamasa, led Towa Shoji (later became Towa Eiga, currently Toho-Towa) for a long time since its establishment in 1928. Towa was successful in importing films more as “artistic works” than as “commodities” to the Japanese audience. By doing so, Towa went beyond its corporate mission and contributed to the enhancement of film culture in Japan. Kawakita Kashiko played an essential role at the center of such activities of Towa. By reviewing her achievements, this exhibition aimed to closely examine the spectacular life of the woman who was the forerunner in the Japanese film world and in Japanese society in general.

Co-organized with Kawakita Memorial Film Institute, the exhibition showed how “Madame Kawakita,” respected by an array of famous filmmakers around the world, connected the outside world with Japan through Japanese films, and how she was both active in importing foreign films to Japan and in introducing Japanese films to abroad. Various items on display included still photographs, posters, and her personal items from the collection of the Institute. In addition, the exhibition conveyed the fact that Kawakita Kashiko advocated the necessity of the specialized institutions for promoting film culture and contributed to the establishments of such institutions as National Film Center, the National Museum of Modern Art, Tokyo, and Kawakita Memorial Film Institute.



会期
平成21年1月8日～平成21年3月29日 (70日間)
会場
展示室
主催
東京国立近代美術館フィルムセンター 京都国立近代美術館
出品点数
142点
入館者数
4,251人(1日平均61人)
新聞・雑誌等における掲載記事
世界日報 12月31日 「無声時代ソビエト映画ポスター展」
映像新聞 1月5日 「無声時代ソビエト映画ポスター展」
ビデオSALON 1月20日 「無声映画時代の貴重なソビエト映画のポスター展」
ぴあ 2月19日 「無声時代ソビエト映画ポスター展」
常陽藝文 2月号 「無声時代ソビエト映画ポスター展」
月刊ロシア通信 2月号 「無声時代ソビエト映画ポスター展」
日本とユーラシア 3月15日 「ソビエト映画ポスター展ギャラリートーク 井上徹氏語る」(多喜二郎)
POPEYE 4月号 「レーニンも無視できなかったアバンギャルドのパワー」(青山鼓)
映画秘宝 4月号 「地獄の映画観光 無声時代ソビエト映画ポスター展」
MOE 4月号 「無声時代ソビエト映画ポスター展」
CG WORLD 4月号 「無声時代ソビエト映画ポスター展」

## 23 無声時代ソビエト映画ポスター展

(併設：展覧会 映画遺産 — 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより)

フィルムセンターの映画関連資料の中でも最も貴重なコレクションの一つである、無声時代後期から1930年代にかけてソビエトで制作された140枚の映画ポスター、いわゆる《袋一平コレクション》を紹介する展覧会である。ロシア・ソビエト文化研究家・翻訳家の袋一平(1897-1971)がソビエト映画の輸入・配給に携わっていた1930年に日本にもたらされたこれらポスターは、映画とグラフィック・アートという両分野における前衛的な芸術思潮を反映し、ステンベルク兄弟等、多くの優れたポスター・デザイナーの手で描かれている。140枚のポスターは約1ヶ月ごとの3期に分けて展示され、映画資料の展示であるだけでなく美術展としての性格を併せ持つ企画となった。

### Soviet Film Posters in the Silent Era

(Held with the regular exhibition: The Japanese Film Heritage  
—From the Non-Film Collection of the National Film Center)

One of the most important collections among the non-film materials at NFC is the so-called Fukuro Ippei Collection, which consists of 140 film posters made around 1930 in Soviet Union. Fukuro Ippei (1897-1971) was a scholar and translator of Russian and Soviet culture and worked on importing and distributing Soviet films in the 1930s. These posters reflected the avant-garde artistic thoughts of those days both in the field of cinema and graphic art, and were drawn by many great poster designers such as Stenberg brothers. This exhibition showed 140 posters in three periods. Each period ran for a month. The exhibition functioned at the both levels of the display of the film related reference materials and the art show.



## 会 期

平成21年4月3日～平成21年6月18日  
(66日間)

## 会 場

展示室

## 主 催

東京国立近代美術館フィルムセンター

## 出品点数

136点

## 入館者数

2,752人(1日平均42人)

## 新聞・雑誌等における掲載記事

信濃毎日新聞 4月2日 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2」

赤旗 4月5日 「映画の中の日本文学 東京で開催中」

常陽藝文 4月号 6月号 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2」

日本近代文学館 5月15日 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2」

産経新聞 5月18日 「『映画の中の日本文学』展」

美しいキモノ 夏号 5月20日 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2」

ビデオSALON 5月号 「昭和の始まりから終戦まで 映画になった日本文学」

サライ 12号 6月4日 「日本文学作品が原作の、往年の名画を秘蔵資料で辿る」

## 24 映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2

「映画資料でみる 映画の中の日本文学」は、日本映画の歴史全体にわたってその糧となり、発展を支えた日本文学のさまざまな流れを、フィルムセンター所蔵のスチル写真、ポスター、シナリオ等、映画資料の展示を通じてたどるもので、個々の文学作品が各時代の文化状況の中でいかに一本の映画に“翻訳”され、人々に伝えられていったかという道のりを示すフィルムセンターの展覧会の新しいシリーズである。シリーズの第2回となるこの展示では、昭和の始まりから終戦期までに主に活躍した作家たちの原作による映画作品に焦点を当てた。この時代の文学が見せたさまざまな方向性について、芸術派・プロレタリア文学・時代小説・異端の文学・通俗小説・昭和十年代作家・児童文学・劇作家といったジャンルごとに映画との関連性を掘み取り、1930年代に流行したいわゆる「文芸映画」だけでなく、さまざまな潮流の特徴を明らかにした。さらに時代に支持された大衆的あるいは異色の文学者にも着目することで、文学史と映画史の関係に対する新しい視点を獲得することを目標にした。

### Japanese Literature in Film Part 2 —From the NFC Non-film Collection

*Japanese Literature in Film—From the NFC Non-Film Collection* is the new exhibition series that surveys various trends in Japanese literature through the reference materials such as still photographs, posters, and scenarios from the NFC collection. It is well known that Japanese literature has supported the development of cinema throughout the history of Japanese films. This exhibition series aims to show the process in which each literary work was “translated” into one film and thus was conveyed to the public in each specific socio-cultural environment. In this second installment of the series, the focus was given to the films that were based on the literary works from the early Showa era and the end of World War II. By grasping the relationship between the literature and films by each genre such as artistic group, proletariat literature, period novels, heretical literature, popular novels, children’s literature, and literature by scriptwriters for the theater, the exhibition clarified the characteristics of various trends. By including popular and heretical authors, the exhibition aimed to obtain the new viewpoint regarding the relationship between literary and film histories.



会期
平成21年6月30日～平成21年8月30日 (54日間)
会場
展示室
主催
東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数
103点 (「土本典昭の仕事部屋」コーナー除く)
入館者数
2,636人(1日平均49人)
新聞・雑誌等における掲載記事
週刊金曜日 6月14日 「土本典昭の仕事展」
朝日新聞 6月24日夕刊 「ドキュメンタリー作家 土本典昭」
東京新聞 6月30日夕刊 「水俣追った土本監督 取材ノートなど展示」
東京新聞 7月2日 「ドキュメンタリー作家 土本典昭」
公明新聞 7月5日 「『ドキュメンタリー作家 土本典昭』展に寄せて よみがえる“魂の労働”」(岡田秀則)
信濃毎日新聞 7月9日 「ドキュメンタリー作家 土本典昭」
朝日新聞 7月15日夕刊 「ドキュメンタリー作家 土本典昭」
ビデオSALON 7月17日 「没後一年 ドキュメンタリー作家 土本典昭の作品上映と展示」
熊本日日新聞 7月19日 「『水俣病』追った映画作家 故土本氏の業績たどる」
熊本日日新聞 7月29日 「土本典昭さんの『目』」(高峰)
熊本日日新聞 8月3日 「土本典昭さんの特集上映」
西日本新聞 8月13日 「『記録なくして事実なし』 土本典昭展」
くまにちコム射程 ビルメンテナンス 11月29日 「おもてなしの心 記録映画作家 土本典昭の思い出」(辻本基子)

## 25 ドキュメンタリー作家 土本典昭

「ドキュメンタリー作家 土本典昭」は、2008年6月に逝去した日本のドキュメンタリー界を代表する映画作家・土本典昭監督の生涯と業績を顕彰する展示企画で、フィルムセンターにとってドキュメンタリーという分野を扱う初の展覧会である。1956年に岩波映画製作所に入社、映画作りの研鑽を積むとともに、黒木和雄・小川紳介等、ドキュメンタリーの同志との交流を深めながら『ある機関助士』(1963年)で頭角を現した初期、『水俣 患者さんとその世界』(1971年)に始まる代表作「水俣」シリーズを発表して国内外の観衆に衝撃を与えた1970年代、主題の幅をより広げた1980年代以降、と同監督の活動を時系列で追いながら、今日まで日本のドキュメンタリー界を牽引してきたその思考と行動の軌跡をたどることを主眼とした。監督自身の製作母体である映画同人シネ・アソシエの特別協力を得て、ご遺族や製作プロダクションの所蔵する写真や遺品を中心に展示し、個々の作品の顕彰だけでなく、記録映画作りの背後にある「労働」の側面も理解できるように努めた。また、外国での同監督作品の評価にも視線を広げる等、従来の評価軸では扱われにくかった部分にも配慮している。

### Tsuchimoto Noriaki: The Life of a Documentary Filmmaker

*Tsuchimoto Noriaki: The Life of a Documentary Filmmaker* is an exhibition to showcase and praise the life and achievements of Tsuchimoto Noriaki, the representative Japanese documentary filmmaker who passed away in June 2008. This was the first time NFC held an exhibition on the documentary genre. The exhibition follows his career in a chronological order. The first section reviews the early days when Tsuchimoto entered Iwanami Film Production in 1956, where he learned the art of filmmaking while he also cultivated deep ties with his fellow documentary filmmakers such as Kuroki Kazuo and Ogawa Shinsuke, and asserted his prominence with *Aru kikanjoshi* (1963). Next was the 1970s when he shocked the audience within and outside of Japan with his representative “Minamata” series starting with *Minamata kanja san to sono sekai* (1971), and then the era after the 1980s when he widened the scope of his subject matters. The exhibition mainly aimed to track his thoughts and actions that led the Japanese documentary film industry until his demise. With the cooperation by Ciné Associé, Tsuchimoto’s own production body, NFC mainly exhibited the photographs and the late Tsuchimoto’s and his family’s personal items so as to let the viewers understand the “labor” aspect of documentary filmmaking in addition to praise and evaluate his works. The exhibition also presented how director Tsuchimoto was critically received abroad, thus was able to include the aspect that had rarely been addressed before.



会 期
平成21年9月4日～平成21年9月27日 平成21年10月6日～平成21年12月20日 (87日間)
会 場
展示室
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数
151点
入館者数
5,050人(1日平均58人)
新聞・雑誌等における掲載記事
朝日新聞 9月2日夕刊 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
信濃毎日新聞 9月3日 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
東京新聞 9月3日 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
東京新聞 9月3日 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
朝日新聞 9月9日夕刊 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
朝日新聞 9月9日夕刊 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
朝日新聞 9月9日広告 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
ビデオSALON 9月18日 「生誕百年 昭和の名女優 田中絹代の映画人生」
週刊リフレッシュ 9月25日 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
和の生活マガジン花saku 10月号 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
日本経済新聞 11月2日 「田中絹代 生誕100年 映画上映や展覧会 監督としての足跡にも脚光」(白木緑)
毎日新聞 11月2日夕刊 「田中絹代 生誕100年 業績見直しの動き活発に」(勝田友巳)
赤旗 日曜版 11月8日 「田中絹代 生誕100年」
東京新聞 11月17日 「田中絹代 生誕100年記念 思い出巡る『絹ロード』」
美しいキモノ 冬号 11月20日 「生誕百年 映画女優 田中絹代」
赤旗 11月26日 「生誕百年 映画女優 田中絹代 大衆が共感できる女性を数多く演じて」(澤登翠)
芸術新潮 11月号 「田中絹代 映画一代女」

## 26 生誕百年 映画女優 田中絹代

この「生誕百年 映画女優 田中絹代」は、日本映画が生んだ数々のスターの中でもつねに映画界の中央を歩み続け、少女時代から晩年まであらゆる時代に輝きを見せた女優田中絹代をめぐる展覧会である。1924年に映画界入りして以来、可憐な演技が評判を呼んで国民的アイドルの座を獲得した絹代は、戦後には巨匠監督たちの信頼を得て成熟した女優の魅力を加え、さらに晩年にもその名演は国内外で評価された。この展覧会は、その輝かしい女優人生を現存する遺品や資料によってたどることを主眼としているが、「女優監督」としての側面を掘り下げる等、旧来のイメージを補完するだけではない新たなテーマを提示しようとした。

開館間もない1971年、本人を迎えて、初の女優特集「田中絹代特集 女優の歩みにみる日本映画史」を開催したフィルムセンターにとって田中絹代はかかわりの深い存在であり、「田中絹代ぶんか館」の開館を控えた生地の下関市や、田中絹代の膨大な遺品を管理してきた芸游会の特別協力のもと、両団体の保存する遺品や写真とフィルムセンターの所蔵資料を合わせて実現に至った企画である。

### Film Actress Tanaka Kinuyo at her Centenary

*Film Actress Tanaka Kinuyo at her Centenary* addressed actress Tanaka Kinuyo, who was always at the center of the film industry throughout her career since her teenage days till her old days. In fact, Tanaka was special even among the stars. Tanaka entered the film industry in 1924 and soon gained the status of a national idol with her cute acting. Later in the post World War II era, she earned the trust of a number of master directors as a mature and attractive actress. In her older days, her acting was highly acclaimed both in Japan and internationally. The exhibition aimed to review her brilliant life as an actress through her personal items and reference materials. It also attempted to go beyond recreating her public image as a great actress by examining the aspect of her as a “female director” in depth so as to present a new theme.

In 1971, shortly after NFC opened, NFC held the *Focus on Tanaka Kinuyo: Japanese Film History As Seen in the Footsteps of an Actress* with her personal appearance. As this fact shows, Tanaka has been an especially familiar figure to NFC. For this exhibition, in addition to the reference materials in the NFC collection, NFC was able to use a variety of her personal items and photographs thanks to the cooperation by the city of Shimonoseki, Tanaka's birth place, where they were about to open the Tanaka Kinuyo Memorial Museum, and the Geiyukai, which stores a huge volume of Tanaka's personal items.



会 期
平成22年1月7日～平成22年2月14日 平成22年2月17日～平成22年3月28日 (69日間)
会 場
展示室
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数
97点
入館者数
5,080人(1日平均74人)
新聞・雑誌等における掲載記事
東京新聞 10月29日 「映画『美女と野獣』の字幕作成用 大岡昇平さんの原稿発見」
読売新聞 10月29日 「大岡昇平の字幕台本 仏映画『美女と野獣』翻訳」
産経新聞 10月29日 「作家・大岡昇平の映画字幕資料発見」
毎日新聞 10月29日 「大岡昇平の『美女と野獣』字幕台本見つかると」(棚部秀行)
朝日新聞 10月29日 「大岡昇平の字幕台本 発見 48年封切り 仏映画『美女と野獣』(石飛徳樹)」
日本経済新聞 10月29日夕刊 「大岡昇平の字幕原稿発見 仏映画『美女と野獣』を翻訳」
東京新聞 12月15日夕刊 「戦後フランス映画ポスターの世界」
毎日新聞 1月4日 「企画展(展示室) 戦後フランス映画ポスターの世界」
朝日新聞 1月13日夕刊 「戦後フランス映画ポスターの世界」
真夜中 1月22日 「戦後フランス映画ポスターの世界」
ふらんす 1月号 「戦後フランス映画ポスターの世界」
FRANC-PARLER 1月号 「戦後フランス映画ポスターの世界」
ブレーン 2月号 「フランス流の華麗なグラフィック 戦後フランス映画ポスターの世界」
MOE 2月号 「戦後フランス映画ポスターの世界」
装苑 3月号 「戦後フランス映画ポスターの世界」
朝日新聞 3月3日夕刊 「銀幕描く専門画家たち 戦後フランス映画ポスターの世界」
芸術新潮 3月号 「ある洋画配給会社の遺産 戦後フランス映画ポスターの世界」

## 27 戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より

この「戦後フランス映画ポスターの世界」は、フィルムセンターが所蔵する4万5千枚以上のポスターのうち、洋画配給会社・新外映(1947-1963、当初はフランス映画輸出組合日本事務所)がかつて所有していたフランス映画のオリジナル・ポスターを初めて公開する企画であり、ジャン・コクトー、ロベール・ブレッソン、アンリ＝ジョルジュ・クルーゾー、ルネ・クレマン、ジャック・ベッケル、ジャック・タチ、マックス・オフェルス、ジャン＝リュック・ゴダールといった世界的巨匠による傑作群のポスターを含む64点に加え、新外映が制作した日本版ポスター 16点も展示した。また、ポスター芸術の豊かな伝統に根ざしたフランスの映画ポスターは、映画の宣伝媒体という目的を超えたグラフィック作品でもあり、フランス映画史と戦後フランスのグラフィック・アートの流れを同時に紹介することを目標とした。

なお、160×120cmを基本サイズとするフランスのポスターを展示室内で大量に公開することは困難なため、ポスターの制作時期を基準に、2期に分けて展示を行った。また、ポスターのほかにオリジナル版のプレスシートも展示し、映画宣伝資料の担うグラフィック的な美質をさらに強調することができた。

### Postwar French Cinema in Posters—From the Shingaei Collection of the National Film Center

NFC holds over 45,000 pieces of posters in its collection including the original posters for French films which used to belong to the distributor of foreign films, Shingaei (1947-1963, formerly Le Syndicat d'Exportation des Films Français, Bureau au Japon.)

“Postwar French Cinema in Posters” was the exhibition in which such French posters were shown to the public for the first time. The 64 French posters included those for the films by internationally acclaimed master directors such as Jean Cocteau, Robert Bresson, Henri-Georges Clouzot, René Clément, Jacques Becker, Jacques Tati, Max Ophüls, and Jean-Luc Godard. In addition, 16 pieces of posters made by Shingaei were shown. French film posters are rooted in the rich tradition of poster arts in France, and as such are not merely the means of publicity but also are the works of graphic art. This exhibition aimed to introduce French film history and the trend of graphic art in France at the same time through the film posters.



会 期
平成20年8月9日～平成20年8月17日 (8日間)※8月11日は除く
会 場
ブラジル サンパウロ BNCES劇場 ペトロブラス劇場
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター シネマテカ・ブラジレイラ
作品数・上映回数
11作品／6プログラム／12回上映 ※各作品2回上映
入館者数
1,240人

## 1-4 共催事業 Co-organized Events

### 1-4-1 共催による館外上映会 Co-organized Out-of-premises Screening Programs

#### 【平成20年度】 第2回ブラジルにおける無声映画の旅 ブラジルにおける日本人移民100年記念プログラム

シネマテカ・ブラジレイラ(ブラジル・サンパウロ, FIAF会員)との共同主催により、ブラジルにおける日本人移民100年を記念するプログラムとして、上映会「第2回ブラジルにおける無声映画の旅」のなかで、アニメーション映画、短篇劇映画を含む日本の無声映画11本(6番組)の上映を行った。

The Japanese section dedicated to the 100th anniversary of Japanese immigration in Brazil in the second Brazilian Journey of Silent Cinema

NFC co-organized with Cinemateca brasileira the event the second *Brazilian Journey of Silent Cinema in the Japanese section dedicated to the 100th anniversary of Japanese immigration in Brazil*. The event consisted of six screening programs with 11 silent films including animation and short ones.



<b>会 期</b>
平成20年8月1日 (1日間)
<b>会 場</b>
京都国立近代美術館 北側駐車場
<b>主 催</b>
京都国立近代美術館 東京国立近代美術館フィルムセンター
<b>作品数・上映回数</b>
5作品／1プログラム／1回上映 ※各作品1回上映
<b>入場者数</b>
167人

## 京都国立近代美術館＋東京国立近代美術館フィルムセンター 共催フィルム・プロジェクト 野外上映会『イワン雷帝』

京都国立近代美術館(MoMAK)との共同主催により、フィルムセンターの所蔵フィルムを用いた映画の上映を行う企画の第2回。MoMAK1階ロビーに会場を特設し『鉄路の白薔薇』(1923年)をピアノ伴奏付きで上映した昨年度とは趣向を変えて、セルゲイ・エイゼンシュテインの遺作『イワン雷帝』(1944-1945年)を、今回はMoMAK駐車場に特設された野外会場で上映した(第1部：1944年 アルマ＝アタ中央連合撮影所 99分・35mm・白黒・ロシア語 日本語字幕付、第2部：1945年 アルマ＝アタ中央連合撮影所、モスフィルム 85分・35mm・パートカラー・ロシア語 日本語字幕付)。なお、『イワン雷帝』に先立ち、ドイツのオスカー・フィッシンガーによる短篇映画3本が上映された。

The National Museum of Modern Art, Kyoto (MoMAK) + National Film Center, The National Museum of Modern Art, Tokyo  
Outdoor film screening: *Ivan the Terrible* («Иван Грозный»)

The second screening event of films in the NFC Collection was co-organized by The National Museum of Modern Art, Kyoto and National Film Center. In this event, which was different from the previous year's version in which *La Roue* had been screened with piano accompaniment in the lobby on the first floor, Sergei Eisenstein's posthumous work *Ivan the Terrible* («Иван Грозный») was screened in the outdoor space, which was specially arranged in the parking lot of MoMAK. Before this film, Oskar Fischinger's three short films were screened.

会 期
平成20年5月28日～平成21年3月19日 (42日間)
会 場
海外9会場 フランス パリ シネマテーク・フランセーズ イギリス ロンドン 英国映画協会 サウスバンク カナダ トロント シネマテーク・ オンタリオ モントリオール モントリオール世 界映画祭 アメリカ ニューヨーク フィルム・ ソサエティ・オブ・リンカーン・セ ンター カリフォルニア州 パシフィック・ フィルム・アーカイブ ドイツ ベルリン アルゼナール劇 場、ケルン 国際交流基金ケルン日本 文化会館 イタリア ローマ 国際交流基金 ローマ日本文化会館
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター 財団法人川喜多記念映画文化財団 独立行政法人国際交流基金
作品数・上映回数
4作品(提供作品数/全24作品) / 4プログラム / 36回上映 ※各作品1回上映
入館者数
20,994人

## 川喜多かしこ生誕100年記念 日本映画海外巡回特集上映

日本映画の海外での紹介と映画を通じた国際交流に貢献した川喜多かしこ氏を偲び、川喜多記念映画文化財団より川喜多賞を受けた8名の監督の作品から3本を選び、世界各地の主要なアーカイブ、シネマテーク、映画祭において、35mm及び16mmの英語字幕付プリントによる巡回上映を行った。フィルムセンターからは、『裸の島』(1960年)、『おとうと』(1960年)、『赤い殺意』(1964年)、『家族』(1970年)の所蔵プリントを提供した。

### A Wreath for Madame Kawakita

As a memorial for madame Kawakita Kashiko, who made an important contribution in introducing Japanese films abroad and the international exchange through films, the touring screening program was organized. Among the films directed by eight directors who won the Kawakita Award from Kawakita Memorial Film Institute, three titles for each director were selected and screened at major archives, cinemathèques, and film festivals around the world. The films were in either the 35 mm or 16 mm formats, and were subtitled in English. Four prints from the NFC collection were used for this program. They were: *Hadaka no shima* (1960), *Ototo* (1960), *Akai satsui* (1964), and *Kazoku* (1970).

会 期
平成20年12月20日～平成21年2月15日 (8日間)
会 場
全国2会場 広島サロンシネマ1 高知県立美術館ホール
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター コミュニティシネマ支援センター
作品数・上映回数
14作品(提供作品数/全20作品) / 15プログラム / 17回上映
入館者数
833人

## 「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」巡回事業

生誕100年を記念し、フィルムセンターでも前年度に大規模な回顧展を開催したマキノ雅弘監督の作品を、全国各地で良質なプリントで鑑賞できる機会を作るために、映画評論家・山根貞男氏のセレクションによる20作品を基に、ミニシアター、公立美術館に巡回した。フィルムセンターからは、14作品の所蔵プリントを提供した。

### Circulation Program 'Masahiro Makino Retrospective at his Centenary'

Commemorating the centenary of Makino Masahiro's birth, NFC held a large-scale retrospective in the previous year. This circulation program aimed to provide opportunities for people around Japan to see Makino's films with high-quality prints. Film critic Yamane Sadao selected 20 titles. The program toured to art houses and public museums. 14 prints from the NFC collection were used.

会 期
平成21年3月3日～平成21年5月5日 (延べ上映日数12日間)
会 場
1会場 ミュンヘン市博物館・映画博物館内 (ドイツ)
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター ミュンヘン市博物館・映画博物館
作品数・上映回数
53作品(上映作品数/全55作品)/ 10プログラム/ 53回上映
入館者数
320人

## 日本アニメーション映画史

平成19年度から20年度にかけて、シネマテーク・ケベコワーズ(カナダ・モントリオール)と共同で開催した「アニメの源へ——日本アニメーション映画(1924-1952)」で上映した10番組、53作品をすべてドイツ・ミュンヘンで紹介するとともに、共催者がセレクトした日本アニメーション映画の近作2本を加え、草創期から現在に至る日本アニメーション映画の歴史を鳥瞰する上映会である。モントリオールでの上映の際に作成されたカタログから、初期日本アニメーション映画の歴史に関する文章をドイツ語に翻訳し、カレンダーに掲載することで、ドイツにおける本格的な紹介となった。

日本における小型映画のパイオニアである荻野茂二の作品を中心に構成した番組に際しては、フィルムセンター研究員が立会い、解説を行うとともに、上映後には映画博物館長とのディスカッションにより、日本の初期アニメーション映画の特徴やドイツ等海外のアニメーション映画からの影響、個人によるアニメーション映画製作等、多方面から議論を行い、ドイツにおける日本のアニメーション映画に関する一層の理解を促すことができた。

## Geschichte des japanischen Animations films

NFC co-organized the event *To the source of Anime: Japanese Animation* with Cinémathèque québécoise (Montreal, Canada) from 2007 through 2008, in which 53 films were screened in 10 programs. All of them were brought to Munich. In addition, the co-organizer of this German event selected two recent Japanese animation films. Together, the event surveyed the history of Japanese animation from the very early days till the present. The texts explaining the history of early Japanese animation were taken from the catalog for the Montreal event, translated to German, and published in the calendar. Thus, the event functioned as the serious introduction of early Japanese animations in Germany. At the time of the program that focused on Ogino Shigeji, a pioneer of small-gauge films in Japan, a NFC curator gave an introduction and engaged in a discussion with the head of the film museum. By addressing a variety of issues such as the characteristics of Japanese early animation films, influences from the foreign animations such as German ones, and productions of personal animation, the NFC curator was able to enhance the German viewers' further understanding of Japanese animation films.

会 期	
第2期	平成21年4月17日～ 平成21年6月26日（5日間）
第3期	平成21年11月20日～ 平成22年3月28日（52日間）
会 場	
第2期	国内3会場
第3期	国内4会場
第2期	神戸映画資料館、静岡市清水文化センター、鎌倉市生涯学習センターホール
第3期	山口情報芸術センター スタジオC、シネマまえばし、神戸アートビレッジセンター、広島市映像文化ライブラリー
主 催	
	東京国立近代美術館フィルムセンター
第2期	コミュニティシネマ支援センター
第3期	一般社団法人コミュニティシネマセンター(平成21年4月に一般社団法人化)
作品数・上映回数	
第2期	3作品(上映作品数/全4作品) / 3プログラム/ 7回上映
第3期	16作品(上映作品数/全28作品) / 16プログラム/ 104回上映
入館者数	
	8,369人

【平成21年度】

## 「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」巡回事業

生誕100年を記念し、フィルムセンターで平成20年度に大規模な回顧展を開催したマキノ雅弘監督の作品を、全国各地で良質なプリントで鑑賞できる機会を作るために、映画評論家・山根貞男氏のセレクションによる20作品を基に、前年度に引き続き、公共文化施設、ミニシアター等に巡回した。フィルムセンターからは、最大16作品の所蔵プリントを提供した。

事業実施にあたり、映画会社各社との権利処理とともに、提供するプリントの所在確認は共催者側に任せているが、各社から提供されるプリントの状態確認や各社が保管する原版状態の把握が十分でないと、映写上の事故のリスクが高まるだけでなく、番組の中途変更を余儀なくされる事態も起こりかねない。そのため、共催事業の実施にあたっては、プリントや原版の確認作業に、一層の慎重さを期すことが必要である。

## Circulation Program ‘Masahiro Makino Retrospective at his Centenary’

Commemorating the centenary of Makino Masahiro's birth, NFC held a large-scale retrospective in 2007. This circulation program aimed to provide opportunities for people around Japan to see Makino's films with the high-quality prints. Film critic Yamane Sadao selected 20 titles. The program toured art-houses and public museums. The maximum of 16 prints from the NFC collection were used.

The co-organizer is in charge of clearing the rights with the film companies and confirming the presence of the screening prints. In case the conditions of the prints rented from the companies and that of the original negatives are not appropriately grasped, the risk of accidents happening during the projection becomes higher. It is even possible that the programs need to be changed after the tour started. In order to avoid such troubles, NFC needs to be further careful in checking the screening prints and original negatives when it co-organizes such an event.

<b>会 期</b>
平成21年5月28日～平成21年7月12日 (7日間)
<b>会 場</b>
海外1会場 中国 香港電影資料館
<b>主 催</b>
東京国立近代美術館フィルムセンター 財団法人川喜多記念映画文化財団 独立行政法人国際交流基金
<b>作品数・上映回数</b>
4作品(提供作品数/全22作品) / 4プログラム / 8回上映
<b>入館者数</b>
638人

## 川喜多かしこ生誕100年記念 日本映画海外巡回特集上映

平成20年度に引き続き、日本映画の海外での紹介と映画を通じた国際交流に貢献した川喜多かしこ氏を偲び、川喜多記念映画文化財団より川喜多賞を受けた8名の監督の作品から3本を選び、香港電影資料館(FIAF加盟機関)において、35mm及び16mmの英語字幕付プリントによる上映を行った。フィルムセンターからは、『裸の島』(1960年)、『おとうと』(1960年)、『赤い殺意』(1964年)、『家族』(1970年)の所蔵プリントを提供した。

本事業で上映される作品は、監督の知名度も高く、香港での上映も会期を通じて3,937人の入館者数を記録した。海外における日本映画の古典的な名作の上映には、国内外の著作権者との権利処理、他機関との役割分担、現地会場との上映及び搬送日程の調整、良質な字幕付プリントの確保等さまざまな課題があるが、本事業を一つの事例として、今後とも検討と工夫を重ねていきたい。

### A Wreath for Madame Kawakita

As a memorial for madame Kashiko Kawakita, who made an important contribution in introducing Japanese films abroad and the international exchange through films, the touring screening program was organized, following the previous year. Among the films directed by eight directors who won the Kawakita Award from Kawakita Memorial Film Institute, three titles for each director were selected and screened at Hong Kong Film Archive, the FIAF member institution. The films were in either the 35 mm or 16 mm formats, and were subtitled in English. Four prints from the NFC collections were used for this program. They were: *Hadaka no shima* (1960), *Ototo* (1960), *Akai satsui* (1964), and *Kazoku* (1970).

The directors showcased in this project are well known. The event received 3,937 viewers in total in Hong Kong. In order to screen classic Japanese films abroad, a number of problems need to be taken care of. For example, clearing the rights with the domestic and international copyright holders, defining divisions of roles with the cooperative institutions, arranging the screening dates with the foreign venues and the transportation schedules, procuring high-quality prints with English subtitles. Using this event as a successful case, we hope to continue with our efforts in the future.

会 期
平成21年8月6日～平成21年9月19日 (4日間)
会 場
海外2会場 ロカルノ国際映画祭 トリノ国立映画博物館
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター ロカルノ国際映画祭 トリノ国立映画博物館
作品数・上映回数
28作品／28プログラム／56回上映
入館者数
1,020人 (ロカルノ720人、トリノ300人)

## 「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門

本事業は、ロカルノ国際映画祭(スイス)、トリノ国立映画博物館(イタリア、FIAF加盟機関)との共催により、日本におけるアニメーションや漫画を網羅的、多角的に紹介した上映会及び展覧会「MANGA IMPACT」展の一部門として、日本の初期アニメーション映画を上映したものである。作品選定は、ここ2年間に亘り、シネマテーク・ケベコワーズ、ミュンヘン市博物館・映画博物館との共催による大規模な回顧展で紹介してきた作品をベースに、この間新たに発掘・復元を行った『なまくら刀』(1917年)、『浦島太郎』(1917年)等3作品を加え、4番組28作品で構成した。映画、テレビ、ビデオ、出版等の媒体で隆盛を誇る現在のアニメや漫画と同時に、1910年代から始まる初期アニメーション映画を紹介することで、日本のアニメーション映画における発展や進化、連続性等を歴史的に鳥瞰する絶好の機会を提供することができた。日本の初期アニメーション映画の本格的な紹介としては、トリノでの上映はイタリアにおける初の試みとなり、また、1948年創設の長い歴史を持つロカルノ国際映画祭での上映は、ヨーロッパ全域に対する大きな発信となった。

ロカルノ国際映画祭での上映に際しては、フィルムセンター研究員がすべての上映に立会い、解説を行うとともに、上映後にはヨーロッパ在住のアニメーション研究者とのディスカッションにより、初期アニメーション映画の価値を映画史、技術史、文化史等の面から論じ、日本のアニメーション映画に関する一層の理解を促すことができた。

### “MANGA IMPACT” exhibition: The Section of Early Japanese Animations

“MANGA IMPACT” introduced Japanese animations and manga (narrative comics) in a comprehensive and varied manner through screenings and exhibitions. NFC co-organized the screenings of early Japanese animation films with Festival del film Locarno (Switzerland) and Museo Nazionale del Cinema—Fondazione Maria Adriana Prolo (Italy, FIAF member institution), this event screened early Japanese animation films as part of “MANGA IMPACT.” Selection was based on the films that were shown in the large-scale retrospectives that NFC co-organized with Cinémathèque québécoise and Filmmuseum in Münchner Stadtmuseum over the previous two years. In addition, three films including the recently discovered and restored *Namakura gatana* (1917) and *Urashima Taro* (1917) were added to make the event with the total of 28 films that were screened in four programs. By showing the early Japanese animation films since the 1910s together with the contemporary anime and manga that flourish through the media such as films, television, videos, and publications, we were successful in providing the prime opportunity to historically survey the development, evolution, and continuity of the Japanese animations. The event in Torino was the first significant attempt to showcase early Japanese animations in Italy. As Festival del film Locarno boasts a long history since its inception in 1948, screenings at the festival functioned as a strong message to the entire European region.

At Festival del film Locarno, a NFC curator gave introductions to all the screening sessions. In addition, the NFC curator had the discussions with an Europe-based researcher on animation after the screenings. The discussions of the values of early animation films through various aspects such as film history, technological history and cultural history helped the European viewers to better understand Japanese animations.

会 期
平成21年12月19日～平成22年3月31日 (23日間)
会 場
国内6会場 大阪シネ・ヌーヴォ、大分シネマ5、 高知県立美術館、せんだいメディア テーク、川崎市アートセンター・アル テリオ映像館、山口情報芸術センター スタジオC
主 催
東京国立近代美術館フィルムセンター 一般社団法人コミュニティーシネマセンター
作品数・上映回数
3作品(提供作品数/全7作品)/ 3プログラム/39回上映
入館者数
683人

## 「生誕百年 映画監督 山中貞雄」巡回事業

生誕100年を記念し、フィルムセンターでも本年度大規模な回顧展を開催した山中貞雄の監督及び脚本作品について、全国各地で良質なプリントで鑑賞できる機会を作るために、ほぼ完全な形で残されている監督作品3本と脚本作品4本の全7本を、公共文化施設、ミニシアター等に巡回した。フィルムセンターからは、3作品の所蔵プリントを提供した。

共催者側が提供することになった山中貞雄監督作品『河内山宗俊』（1936年）については、フィルムセンターで原版を所蔵しているため、製作者で、元素材の所有者であった日活株式会社より、複製利用申請を受ける形でニュープリントの作成に協力し、所蔵プリントとともに、本事業に対する良質なプリントの提供に貢献することができた。

### Circulation Program ‘Yamanaka Sadao Retrospective at his Centenary’

Commemorating the centenary of Yamanaka Sadao's birth, NFC held a large-scale retrospective exhibition in the same year. This circulation program aimed to provide opportunities for people around Japan to see Yamanaka's films (those Yamanaka directed and wrote scripts for) with the high-quality prints. The program included the total of seven films: three films directed by Yamanaka that existed in the almost perfect shapes, and four films Yamanaka wrote scripts for. The program toured to such venues as public cultural institutions and art-houses. Three prints from the NFC collection were used.

As for *Kochiyama Soshun* (1936), directed by Yamanaka, which the co-organizer lent, NFC cooperated in making the new print. This happened since the negative was in the NFC collection. NFC accepted the request by Nikkatsu, the producer and the original owner of this title, to make a duplicate of the negative. It was one of several instances in which NFC was able to contribute to providing high-quality prints to this program.



国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性について理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施した。番組は、88作品22プログラム(1プログラム4作品)で編成し、小津安二郎、成瀬巳喜男など日本映画史を彩る名匠たちの代表作や、石原裕次郎、原節子等スターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等ジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成した。

#### 【平成20年度】

20回目となる平成20年度は、岩手県、栃木県、鹿児島県を除く全国44都道府県で実施し、会場数は過去最高の193会場(内新規32会場)を記録した。また、期間中の中の入場者数は、総計で100,232人に達した。

本事業で使用する35mmプリントについては、これまでも随時ニュープリントの購入による交換を行ってきたが、本年度は事業実施前に、接合箇所が多寡や状態、パーフォレーションの損傷、コマの欠落、ビネガー・シンドロームの発生等について綿密な調査を行い、『幕末太陽伝』(1957年)を初め計10本のニュープリントを購入した。

本年度の本事業は、平成19年度に引き続き「鑑賞の手引」作製及びフィルム等搬送作業の委託を除く運営業務を、外部委託した。委託業者にフィルム搬送の計画や管理を任すとともに、各実施会場との連絡を密にすることで、日程の変更希望や突発的な事故等に迅速かつ効率的に対応することができた。

会 期	平成20年7月14日～平成21年3月15日
会 場	全国44都道府県193会場
主 催 等	文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数	88作品22プログラム(1プログラム4作品)
入場者数	計100,232人
入場料金	成人1人1回500円以内

In order to enhance the Japanese citizens' interests in film culture and art and their understanding of the importance of film preservation, NFC co-organized the touring screening program with Agency for Cultural Affairs with the cooperation and networking by the local educational boards and public cultural institutions. The selected films included the famous titles by master directors such as Ozu Yasujiro and Naruse Mikio, box-office hits featuring stars such as Ishihara Yujiro and Hara Setsuko, and representative films of such genres as period films and youth films, and controversial films at the time of the release. 88 films were shown in 22 programs (four films per program).

The year 2008 marked the 20th year of the event. The screenings were held in 44 prefectures around Japan excluding Iwate, Tochigi and Kagoshima. The number of venues marked the record high of 193, including 32 new ones. The total number of viewers reached 100,232.

The films are screened with 35mm prints for this project, and the new prints are purchased regularly so as to replace the worn prints. This year, before the touring began, NFC conducted detailed inspections of the prints

regarding the number and the conditions of the glued parts, the damages of perforations, missing frames, and the vinegar syndromes. As a result, ten new prints were purchased for such films as *Bakumatsu taiyo den* (1957).

This year, following the previous year, NFC assigned the management of this project to an outside party except for making of the “Program Brochures for Promotion of the Viewing of Superior Films” and of transporting the films. By entrusting the outside party to plan and coordinate the film transportation and by keeping a close communication with the venues, we were able to handle, in a quick and efficient manner, the requests to change the screening dates and other unexpected accidents.

#### 【平成21年度】

21回目となる平成21年度は、岩手県、栃木県、鹿児島県を除く全国44都道府県で実施し、会場数は188会場(内新規28会場)を記録した。また、期間中の入場者数は、総計で94,052人に達している。

本事業で使用する35mmプリントについては、これまでも随時ニュープリントの購入による交換を行ってきたが、本年度も事業実施前に、接合箇所が多寡や状態、パーフォレーションの損傷、コマの欠落、ビネガー・シンドロームの発生等について綿密な調査を行い、『彼岸花』(1958年)を初め計12本のニュープリントを購入した。

平成20年度に引き続き「鑑賞の手引」作製及びフィルム等搬送作業の委託を除く運営業務を、外部委託した。委託業者にフィルム搬送の計画や管理を任すとともに、各実施会場との連絡を密にすることで、日程の変更希望や突発的な事故等に迅速かつ効率的に対応することができた。

会 期	平成21年7月14日～平成22年3月15日(347日間)
会 場	全国44都道府県188会場
主 催 等	文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター
出品点数	88作品22プログラム(1プログラム4作品)
入場者数	計94,052人
入場料金	成人1人1回500円以内

The year 2008 marked the 21st year of the event. The screenings were held in 44 prefectures around Japan excluding Iwate, Tochigi and Kagoshima. The number of venues marked 188, including 28 new ones. The total number of viewers reached 94,052.

The films are screened with 35mm prints for this project, and the new prints are purchased regularly so as to replace the worn prints. This year, before the touring began, NFC conducted detailed inspections of the prints regarding the number and the conditions of the glued parts, the damages of perforations, missing frames, and the vinegar syndromes. As a result, 12 new prints were purchased for such films as *Higanbana* (1958).

This year, following the previous year, NFC assigned the management of this project to an outside party except for making of the “Program Brochures for Promotion of the Viewing of Superior Films” and of transporting the films. By entrusting the outside party to plan and coordinate the film transportation and by keeping a tight communication with the venues, we were able to handle, in a quick and efficient manner, the requests to change the screening dates and other unexpected accidents.

プログラム別作品一覧 平成20年度

Aプログラム

西鶴一代女	(1952年・溝口健二・137分)
雨月物語	(1953年・溝口健二・97分)
山椒大夫	(1954年・溝口健二・124分)
近松物語	(1954年・溝口健二・103分)

Bプログラム

麦秋	(1951年・小津安二郎・125分)
東京物語	(1953年・小津安二郎・136分)
彼岸花	(1958年・小津安二郎・118分)
秋刀魚の味	(1962年・小津安二郎・113分)

Cプログラム

めし	(1951年・成瀬巳喜男・97分)
おかあさん	(1952年・成瀬巳喜男・98分)
浮雲	(1955年・成瀬巳喜男・123分)
乱れ雲	(1967年・成瀬巳喜男・108分)

Dプログラム

王将	(1948年・伊藤大輔・93分)
弁天小僧	(1958年・伊藤大輔・86分)
血槍富士	(1955年・内田吐夢・94分)
飢餓海峡	(1964年・内田吐夢・183分)

Eプログラム

青い山脈	(1949年・今井正・172分)
また逢う日まで	(1950年・今井正・109分)
野火	(1959年・市川崑・104分)
ぼんち	(1960年・市川崑・104分)

Fプログラム

戦争と平和	(1947年・山本薩夫、亀井文夫・110分)
安城家の舞踏会	(1947年・吉村公三郎・90分)
蜂の巣の子供たち	(1948年・清水宏・84分)
帰郷	(1950年・大庭秀雄・104分)

Gプログラム

煙突の見える場所	(1953年・五所平之助・108分)
お早よう	(1959年・小津安二郎・94分)
裸の島	(1960年・新藤兼人・96分)
東京オリンピック	(1965年・市川崑・169分)

Hプログラム

くちづけ	(1957年・増村保造・73分)
青春残酷物語	(1960年・大島渚・96分)
にっぽん昆虫記	(1963年・今村昌平・123分)
心中天網島	(1969年・篠田正浩・103分)

Iプログラム

遠雷	(1981年・根岸吉太郎・135分)
転校生	(1982年・大林宣彦・113分)
夢千代日記	(1985年・浦山桐郎・129分)
花いちもんめ	(1985年・伊藤俊也・125分)

Jプログラム

櫻の園	(1990年・中原俊・100分)
大誘拐 RAINBOW KIDS	(1991年・岡本喜八・120分)
お引越し	(1993年・相米慎二・124分)
毎日が夏休み	(1994年・金子修介・94分)

Kプログラム

夜の河	(1956年・吉村公三郎・104分)
伊豆の踊子	(1963年・西河克己・87分)
五番町夕霧楼	(1963年・田坂具隆・137分)
五瓣の椿	(1964年・野村芳太郎・163分)

Lプログラム

稲妻	(1952年・成瀬巳喜男・87分)
紀ノ川	(1966年・中村登・166分)
華岡青洲の妻	(1967年・増村保造・99分)
サンダカン八番娼館 望郷	(1974年・熊井啓・121分)

## Mプログラム

暁の脱走	(1950年・谷口千吉・110分)
反逆児	(1961年・伊藤大輔・110分)
次郎長三国志	(1963年・マキノ雅弘・102分)
白い巨塔	(1966年・山本薩夫・150分)

## Nプログラム

嵐を呼ぶ男	(1957年・井上梅次・101分)
悪名	(1961年・田中徳三・94分)
沓掛時次郎 遊侠一匹	(1966年・加藤泰・90分)
人生劇場 飛車角と吉良常	(1968年・内田吐夢・109分)

## Oプログラム

大江戸五人男	(1951年・伊藤大輔・132分)
銭形平次捕物控 人肌蜘蛛	(1956年・森一生・82分)
旗本退屈男	(1958年・松田定次・108分)
赤穂浪士	(1961年・松田定次・150分)

## Pプログラム

本日休診	(1952年・渋谷実・97分)
幕末太陽伝	(1957年・川島雄三・110分)
ニッポン無責任時代	(1962年・古沢憲吾・86分)
喜劇・女は男のふるさとヨ	(1971年・森崎東・90分)

## Qプログラム

おかしな奴	(1963年・沢島忠・110分)
喜劇・大安旅行	(1968年・瀬川昌治・94分)
吹けば飛ぶよな男だが	(1968年・山田洋次・91分)
あゝ軍歌	(1970年・前田陽一・88分)

## Rプログラム

キューポラのある街	(1962年・浦山桐郎・99分)
けんかえれじい	(1966年・鈴木清順・86分)
八月の濡れた砂	(1971年・藤田敏八・91分)
伊豆の踊子	(1974年・西河克己・82分)

## Sプログラム

純愛物語	(1957年・今井正・130分)
おとうと	(1960年・市川崑・98分)
肉弾	(1968年・岡本喜八・116分)
旅の重さ	(1972年・斎藤耕一・91分)

## Tプログラム

エノケンの頑張り戦術	(1939年・中川信夫・74分)
ジャンケン娘	(1955年・杉江敏男・92分)
大学の若大将	(1961年・杉江敏男・82分)
君も出世ができる	(1964年・須川栄三・100分)

## Uプログラム

にごりえ	(1953年・今井正・130分)
あすなる物語	(1955年・堀川弘通・108分)
雁の寺	(1962年・川島雄三・98分)
怪談	(1964年・小林正樹・161分)

## Vプログラム

西遊記	(1960年・藪下泰司、手塚治虫・88分)
太陽の王子 ホルスの大冒険	(1968年・高畑勲・82分)
長靴をはいた猫	(1969年・矢吹公郎・80分)
火垂るの墓	(1988年・高畑勲・89分)

平成20年度優秀映画鑑賞推進事業実施報告

	会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
<b>■北海道</b>								
1	千歳市民文化センター	平成20年8月14日(木)～8月15日(金)	N	2	4	494	-	93,292
2	札幌市生涯学習総合センター(ちえりあ)	平成20年10月31日(金)～11月1日(土)	A	2	8	1,090	41	1,880,138
3	たきかわホール	平成20年11月15日(土)～11月16日(日)	G	2	6	344	-	21,343
4	砂川市地域交流センター★	平成20年7月20日(日)～7月21日(月)	I	2	6	114	-	19,348
5	北見芸術文化ホール 中ホール(きた・アート21)	平成20年10月19日(日)	A	1	4	276	7	126,508
6	厚岸情報館	平成20年10月24日(金)～10月26日(日)	Q	3	5	64	-	11,014
<b>■青森県</b>								
7	青森市中世の館	平成20年8月23日(土)～8月24日(日)	U	2	4	171	13	308,616
<b>■宮城県</b>								
8	気仙沼市民会館	平成20年11月18日(火)	A	1	4	413	-	63,364
9	加美町中新田文化会館(中新田パッハホール)	平成20年10月5日(日)	T	1	4	419	-	26,607
10	塩竈市民交流センター(遊ホール)	平成20年8月23日(土)	J	1	3	109	-	58,097
<b>■秋田県</b>								
11	横手市ふれあいセンターかまくら館	平成20年9月21日(日)	R	1	4	161	-	102,308
12	大仙市中仙市民会館(ドンパル)	平成20年11月29日(土)～11月30日(日)	I	2	4	246	5	92,078
13	大館市民文化会館	平成21年3月7日(土)～3月8日(日)	G	2	8	659	-	81,328
14	小坂町康楽館	平成21年2月14日(土)～2月15日(日)	M	2	4	654	1	25,834
15	北秋田市文化会館(ファルコン)	平成20年11月29日(土)～11月29日(土)	E	1	4	1,000	-	14,620
<b>■山形県</b>								
16	山形市民会館	平成20年10月25日(土)	N	1	4	2,479	22	250,348
17	長井市民文化会館★	平成20年8月23日(土)～8月23日(土)	S	1	4	57	-	29,761
18	庄内町文化創造館★	平成20年8月23日(土)～8月24日(日)	R	2	6	328	-	23,618
<b>■福島県</b>								
19	福島県文化センター	平成20年7月14日(月)～7月15日(火)	E	2	4	590	13	112,878
20	会津若松市文化センター	平成20年11月7日(金)	Q	1	2	620	1	128,404
21	国見町観月台文化センター	平成20年12月13日(土)～12月14日(日)	M	2	4	474	-	3,253
<b>■茨城県</b>								
22	水戸芸術館(ACM劇場)	平成21年2月21日(土)～2月22日(日)	A	2	4	429	18	265,030
23	日立市視聴覚センター	平成21年2月21日(土)～2月22日(日)	O	2	4	627	-	194,168
24	土浦市亀城プラザ★	平成20年9月13日(土)	J	1	3	394	4	142,794
25	東海文化センター	平成21年1月31日(土)～2月1日(日)	T	2	8	675	-	36,767
26	取手市民会館★	平成20年8月2日(土)～8月3日(日)	V	2	5	272	-	111,000
<b>■群馬県</b>								
27	コミュニティシネマ新橋(旧テアトル西友)★	平成20年12月8日(月)～12月12日(金)	P	2	4	400	9	318,830
28	桐生市市民文化会館(シルクホール)	平成20年10月19日(日)	L	1	4	1,400	-	126,922
29	太田市新田文化会館(エアリスホール)	平成20年9月4日(木)～9月5日(金)	E	2	4	509	19	210,254
30	甘楽町文化会館	平成20年12月6日(土)	Q	1	4	414	-	14,339
<b>■埼玉県</b>								
31	桶川市民ホール(響の森)	平成20年10月4日(土)	U	1	2	1,170	2	75,098
32	SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ	平成20年10月23日(木)～10月26日(日)	B	4	8	1,011	9	488,771
33	川口市立映像・情報メディアセンター (メディアセブン)★	平成20年7月21日(月)	R	1	3	206	9	488,771
34	所沢市民文化センター(ミュージズ)	平成20年8月2日(土)～8月3日(日)	R	2	4	170	3	336,575
35	深谷シネマ チネ・フェリーチェ	平成20年11月2日(日)～11月6日(木)	I	5	20	411	1	145,178
36	川越スカラ座★	平成20年7月20日(日)～7月24日(木)	P	5	10	599	10	330,414

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
<b>■千葉県</b>							
37 白子町青少年センター	平成20年10月19日(日)	R	1	2	72	-	12,433
38 市川市映像文化センター	平成20年12月5日(金)～12月7日(日)	C	3	5	1,200	18	457,564
39 千葉市美浜文化ホール★	平成20年9月8日(月)	T	1	4	223	10	144,311
<b>■東京都</b>							
40 小平市民文化会館大ホール(ルネこだいら)	平成20年11月4日(火)～11月5日(水)	M	2	4	2,028	-	179,657
41 多摩市立関戸公民館(やまばとホール)	平成20年11月26日(水)～11月27日(木)	F	2	6	410	8	144,947
42 三鷹産業プラザ★	平成20年7月27日(日)	G	1	2	132	-	176,210
43 武蔵村山市民会館(さくらホール)★	平成21年2月14日(土)～2月15日(日)	K	2	4	620	12	68,728
44 江東区亀戸文化センター(カメリアホール)	平成20年8月2日(土)	E	1	2	419	20	432,090
<b>■神奈川県</b>							
45 川崎市アートセンター(アルテリオ映像館)★	平成20年11月5日(水)～11月9日(日)	L	5	20	936	43	1,340,801
46 相模原南市民ホール	平成20年9月19日(金)～9月20日(土)	T	2	4	288	9	691,162
47 大和市生涯学習センターホール	平成21年3月14日(土)～3月15日(日)	B	2	4	1,770	9	219,857
48 伊勢原市民文化会館	平成20年8月16日(土)	P	1	4	205	-	100,992
49 座間市立市民文化会館(ハーモニーホール座間)	平成20年11月12日(水)～11月13日(木)	B	2	4	1,013	-	128,550
<b>■山梨県</b>							
50 韮崎市民会館★	平成20年9月19日(金)	L	1	2	325	-	32,339
51 都の杜うぐいすホール(うぐいすホール)	平成21年1月31日(土)～2月2日(月)	P	3	6	220	-	32,259
52 増穂町文化会館	平成21年1月24日(土)～1月25日(日)	B	2	4	256	-	12,950
53 市川三郷町歌舞伎文化公園ふるさと会館(ふるさと会館)	平成20年8月23日(土)	K	1	1	262	-	17,240
<b>■長野県</b>							
54 飯島町文化館	平成21年2月15日(日)	I	1	1	390	-	10,331
55 飯田市民館	平成20年7月19日(土)	B	1	2	800	6	106,705
56 飯田市立鼎文化センター(鼎公民館)	平成20年9月6日(土)	U	1	1	230	6	106,705
57 池田町公民館★	平成20年11月30日(日)	P	1	2	258	-	10,437
58 上田市文化会館	平成20年11月9日(日)	G	1	2	450	3	160,743
59 小布施町北斎ホール	平成20年11月29日(土)	Q	1	1	200	-	11,156
60 駒ヶ根市民文化会館(駒ヶ根総合文化センター内)	平成21年2月28日(土)～3月1日(日)	Q	2	8	139	-	34,257
61 須坂市民文化会館(メセナホール)	平成21年2月28日(土)～3月1日(日)	I	2	4	223	-	52,660
62 茅野市民館★	平成21年3月13日(金)～3月14日(土)	E	2	6	365	1	56,024
<b>■新潟県</b>							
63 胎内市産業文化会館	平成20年9月20日(土)～9月21日(日)	M	2	8	498	-	31,686
64 村上市民ふれあいセンター	平成20年8月9日(土)～8月10日(日)	O	2	7	119	-	67,440
65 南魚沼市民会館 多目的ホール	平成21年3月6日(金)～3月10日(火)	O	2	6	561	-	64,000
66 魚沼市小出郷文化会館	平成20年10月18日(土)～10月19日(日)	M	2	5	93	-	61,808
67 糸魚川市民会館	平成20年8月24日(日)	P	1	4	228	-	47,919
68 高島座★	平成20年8月30日(土)～8月31日(日)	O	2	8	646	11	280,603
<b>■富山県</b>							
69 黒部市国際文化センター(コラーレ)	平成21年1月24日(土)～1月25日(日)	P	2	4	265	-	43,250
70 滑川市民交流プラザ★	平成21年1月24日(土)～1月25日(日)	G	2	4	184	-	33,910
71 庄川生涯学習センター(庄川ふれあいセンター)	平成20年8月28日(木)～8月31日(日)	B	4	4	109	-	49,390
72 クロスランドおやべ	平成21年3月7日(土)～3月8日(日)	M	2	4	609	-	32,351
73 北アルプス文化センター	平成21年3月7日(土)～3月8日(日)	P	2	4	281	-	22,433
<b>■石川県</b>							
74 加賀市アピオシティホール	平成20年12月13日(土)	A	1	4	94	-	76,910
<b>■福井県</b>							
75 池田町能楽の里文化交流会館	平成20年11月15日(土)～11月16日(日)	P	2	8	24	-	3,146
76 パレア若狭音楽ホール★	平成21年3月13日(金)	T	1	1	47	-	16,133

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
<b>■岐阜県</b>							
77 岐阜市文化センター	平成20年12月2日(火)～12月3日(水)	A	2	4	375	16	412,444
78 羽島市文化センター	平成21年2月27日(金)～2月28日(土)	R	2	4	234	-	67,323
79 羽島市映画資料館	平成20年9月27日(土)～9月28日(日)	C	2	4	331	-	67,323
80 美濃市文化会館	平成20年9月6日(土)～9月7日(日)	G	2	8	390	-	22,665
81 可児市文化創造センター(ala)	平成21年2月13日(金)～2月16日(月)	N	4	8	498	-	99,336
82 多治見市笠原中央公民館	平成20年10月5日(日)	V	1	4	348	-	114,277
83 瑞浪市総合文化センター	平成20年8月17日(日)	I	1	4	255	-	41,148
<b>■静岡県</b>							
84 天城温泉会館(天城会館)(天城劇場ホール)★	平成21年1月24日(土)	U	1	1	172	-	35,294
85 大井川町文化会館(ミュージコ)	平成21年1月31日(土)～2月1日(日)	B	2	6	418	-	143,317
86 掛川市生涯学習センター	平成21年1月24日(土)	I	1	4	450	-	118,600
87 掛川市文化会館(シオオーネ)	平成21年1月18日(日)	N	1	4	1,762	-	118,600
88 富士市文化会館(ロゼシアター)★	平成21年2月22日(日)	N	1	4	334	-	253,942
89 藤枝市民会館	平成20年9月6日(土)	Q	1	4	606	-	141,590
90 焼津市文化センター(焼津市文化会館)	平成21年1月9日(金)～1月11日(日)	R	2	4	436	-	143,317
<b>■愛知県</b>							
91 瀬戸蔵	平成20年8月23日(土)～8月24日(日)	G	2	4	530	-	132,820
92 東郷町民会館	平成20年10月4日(土)～10月5日(日)	M	2	4	229	-	41,103
93 春日井市民会館	平成21年3月13日(金)～3月15日(日)	K	3	8	724	9	302,224
<b>■三重県</b>							
94 松阪コミュニティ文化センター	平成20年11月14日(金)～11月15日(土)	R	2	4	1,050	1	169,009
95 名張市青少年センター	平成20年8月31日(日)	U	1	4	1,111	-	80,595
96 伊勢市生涯学習センター(いせトピア)	平成20年8月30日(土)～8月31日(日)	N	2	4	1,744	2	132,460
97 菰野町民センター	平成20年9月16日(火)～9月20日(土)	K	2	4	142	-	39,940
98 亀山市文化会館	平成20年12月14日(日)	E	1	4	274	-	50,615
<b>■滋賀県</b>							
99 滋賀会館	平成20年8月22日(金)～8月24日(日)	E	3	12	299	13	328,173
100 近江八幡市文化会館	平成20年9月27日(土)	N	1	4	1,051	8	69,474
101 甲賀市碧水ホール	平成21年1月24日(土)～1月25日(日)	A	2	6	291	5	92,576
102 日野町民会館わたむきホール虹	平成20年9月13日(土)	M	1	3	425	-	23,228
<b>■京都府</b>							
103 宇治市生涯学習センター	平成20年11月28日(金)～11月29日(土)	B	2	8	1,450	-	190,607
104 文化パルク城陽 プラムホール	平成21年2月14日(土)～2月15日(日)	R	2	8	604	-	80,362
<b>■大阪府</b>							
105 大阪歴史博物館	平成20年9月13日(土)～9月14日(日)	C	2	4	777	15	68,359
106 堺市立榎文化会館ホール	平成20年11月21日(金)～11月22日(土)	B	2	6	1,934	32	833,694
107 堺市立西文化会館(ウエスティ)	平成20年10月11日(土)～10月12日(日)	J	2	6	555	32	833,694
108 岸和田市立文化会館(マドカホール)	平成20年12月13日(土)～12月14日(日)	G	2	4	358	9	201,813
109 すばるホール(富田林市)	平成20年10月23日(木)～10月24日(金)	P	2	4	121	-	120,885
110 大東市立文化ホール	平成20年8月9日(土)	R	1	4	824	-	125,546
111 たかいし市民文化会館(アプラホール)	平成20年11月17日(月)～11月18日(火)	L	2	8	456	-	59,904
112 大阪人権博物館(リパティおおさか)	平成20年8月16日(土)～8月17日(日)	V	2	4	35	17	49,529
<b>■兵庫県</b>							
113 兵庫県立美術館(芸術の館)	平成20年8月22日(金)～8月23日(土)	C	2	6	804	32	109,743
114 神戸市立灘区民ホール(マリーホール)	平成20年10月25日(土)	R	1	2	61	-	130,136
115 小野市民会館	平成21年2月7日(土)	N	1	3	450	-	49,603
116 豊岡市民プラザほっとステージ	平成21年2月8日(日)～2月11日(水)	T	2	4	74	2	90,016
117 高砂市福祉保健センター	平成21年2月8日(日)	G	1	3	487	-	94,181
118 姫路市文化センター大ホール	平成20年12月23日(火)	P	1	4	1,675	10	533,026
119 明石市立市民会館 大ホール(アワーズホール)	平成20年9月25日(木)～9月26日(金)	B	2	4	757	9	292,966

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
120 川西市みつなかホール	平成21年2月14日(土)～2月15日(日)	J	2	4	803	-	157,928
121 西宮市なるお文化ホール	平成21年2月14日(土)～2月15日(日)	G	2	4	731	12	465,951
<b>■奈良県</b>							
122 奈良県文化会館	平成20年11月23日(日)～11月24日(月)	J	2	2	986	9	366,814
123 奈良市北部会館市民文化ホール	平成20年11月29日(土)	V	1	2	49	9	366,814
124 大和高田市文化会館	平成21年3月15日(日)	V	1	4	112	-	68,846
125 奈良県橿原文化会館	平成20年11月22日(土)	I	1	1	213	23	124,438
126 川上総合センター やまぶきホール	平成20年11月3日(月)	P	1	2	20	-	1,701
<b>■和歌山県</b>							
127 和歌山市民会館★	平成21年1月14日(水)～1月16日(金)	L	3	9	837	13	382,564
128 和歌山県立図書館(きのくに志学館)	平成20年7月19日(土)	L	1	1	235	13	382,564
129 かつらぎ総合文化会館(あじさいホール)	平成20年9月13日(土)	R	1	4	352	-	18,907
130 紀の川市粉河ふるさとセンター	平成20年11月2日(日)	J	1	2	224	-	66,947
131 紀の川市貴志川生涯学習センター (かがやきホール)	平成21年1月17日(土)～1月18日(日)	K	2	4	943	-	66,947
132 和歌山県民文化会館	平成20年11月4日(火)～11月5日(水)	R	2	8	1,110	13	382,564
<b>■鳥取県</b>							
133 米子市公会堂 大ホール	平成20年9月27日(土)～9月28日(日)	H	2	6	860	3	149,153
<b>■島根県</b>							
134 大田市民会館	平成20年11月8日(土)	C	1	2	125	-	38,753
135 島根県芸術文化センター(グラントワ)	平成20年9月18日(木)～9月19日(金)	B	2	4	667	-	50,151
136 松江市美保閑海の学苑ふるさと創生館 (メテオプラザ)	平成20年11月15日(土)	E	1	2	42	5	193,200
137 安来市民会館	平成20年10月4日(土)	G	1	4	115	-	42,321
138 松江勤労者総合福祉センター(松江テルサ)	平成20年10月25日(土)～10月26日(日)	K	2	5	316	5	193,200
139 悠邑ふるさと会館	平成20年10月4日(土)～10月5日(日)	N	2	4	75	-	3,964
140 出雲市立平田学習館★	平成20年7月18日(金)～7月21日(月)	M	1	3	111	12	146,252
<b>■岡山県</b>							
141 岡山県天神山文化プラザ	平成21年1月31日(土)～2月1日(日)	S	2	8	481	19	685,564
142 西川アイプラザ	平成21年1月17日(土)～1月18日(日)	A	2	5	275	19	685,564
143 音楽文化ホール・ベルフォーレ津山	平成21年3月8日(日)	N	1	4	593	-	107,965
144 笠岡市保健センター(ギャラクシーホール)	平成20年9月7日(日)	R	1	2	248	-	54,880
145 美作文化センター	平成21年3月1日(日)	L	1	3	268	-	30,951
146 高梁総合文化会館	平成21年2月7日(土)	I	1	4	172	-	36,786
<b>■広島県</b>							
147 はつかいち文化ホール(さくらびあ)	平成21年1月9日(金)～1月10日(土)	B	2	8	1,654	-	118,609
148 北広島町大朝公民館★	平成20年10月25日(土)	V	1	1	22	-	60,849
149 三原リージョンプラザ★	平成20年9月27日(土)～9月28日(日)	I	2	8	270	-	103,803
<b>■山口県</b>							
150 下関市民会館大ホール	平成20年7月27日(日)	T	1	4	742	2	285,758
151 山口情報芸術センター(YCAM)	平成20年10月22日(水)～10月25日(土)	G	5	12	238	4	187,420
152 山口県民芸術文化ホールながと (ルネッサながと)	平成20年8月2日(土)～8月3日(日)	B	2	4	275	-	38,881
153 シネマ・ヌーヴェル (シアトル徳山 I)	平成20年10月17日(金)～10月21日(火)	I	5	24	302	3	152,771
154 山陽小野田市民館 文化ホール	平成20年9月6日(土)～9月7日(日)	B	2	4	466	-	64,971
<b>■徳島県</b>							
155 徳島県郷土文化会館★	平成20年8月24日(日)	A	1	4	875	-	263,882
<b>■香川県</b>							
156 丸亀市綾歌総合文化会館★	平成21年3月1日(日)	U	1	3	519	-	110,726
157 善通寺市民会館	平成21年2月8日(日)	K	1	4	1,708	-	34,663



会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
158 ユープラザうたづ(ハーモニーホール)	平成20年9月23日(火)	E	1	4	220	7	18,000
<b>■愛媛県</b>							
159 西条市総合文化会館★	平成20年11月3日(月)	N	1	4	304	-	111,551
160 西条市丹原文化会館	平成20年8月10日(日)	K	1	4	291	-	111,551
161 松山市総合福祉センター	平成20年11月29日(土)～11月30日(日)	G	2	4	368	15	513,897
162 砥部町文化会館(ふれあいホール)★	平成20年7月27日(日)	D	1	4	110	-	22,245
163 宇和島市生涯学習センター	平成20年8月23日(土)～8月24日(日)	H	2	2	219	-	84,807
164 御荘文化センター	平成20年8月2日(土)	A	1	4	144	-	24,481
<b>■高知県</b>							
165 土佐清水市立市民文化会館(くろしおホール)	平成20年7月24日(木)～7月27日(日)	N	4	8	680	-	17,292
166 高知市春日野文化ホールピアステージ (ピアステージ)	平成20年9月13日(土)～9月14日(日)	I	2	8	456	11	340,839
<b>■福岡県</b>							
167 大牟田文化会館	平成20年8月9日(土)～8月10日(日)	B	2	8	1,622	-	128,000
168 田川青少年文化ホール	平成20年8月2日(土)～8月3日(日)	P	2	8	799	-	51,490
169 小都市文化会館	平成21年1月17日(土)～1月18日(日)	M	2	4	698	-	58,937
170 ユメニティのおがた	平成20年9月6日(土)～9月7日(日)	N	2	4	441	9	58,852
171 サザンクス筑後	平成20年10月11日(土)～10月13日(月)	D	3	10	344	-	48,513
<b>■佐賀県</b>							
172 唐津市相知交流文化センター(サライ)★	平成20年8月23日(土)	V	1	2	88	-	131,790
173 鹿島市生涯学習センター(エイブル)	平成20年8月23日(土)～8月24日(日)	N	2	8	586	-	31,787
174 炎の博記念堂	平成20年12月19日(金)～12月23日(火)	N	1	4	606	-	21,036
175 白石町有明スカイパークふれあい郷	平成20年7月27日(日)	U	1	4	434	-	26,464
<b>■長崎県</b>							
176 新上五島町鯨賓館ミュージアム	平成20年10月2日(木)～10月5日(日)	K	4	4	154	-	22,583
177 大村市民会館	平成20年9月13日(土)～9月14日(日)	E	2	8	612	-	89,485
<b>■熊本県</b>							
178 八千代座★	平成21年2月1日(日)	O	1	4	1,806	-	55,931
179 宇土市民会館	平成20年11月15日(土)～11月16日(日)	U	2	8	126	-	37,593
180 宇城市小川総合文化センター(ラポート)	平成20年8月2日(土)～8月3日(日)	M	2	6	1,662	8	63,781
181 ながす未来館	平成20年7月19日(土)～7月21日(月)	O	3	8	413	-	16,649
182 益城町文化会館	平成20年9月5日(金)～9月6日(土)	C	2	8	841	-	32,933
<b>■大分県</b>							
183 日田市民文化会館(パトリア日田)★	平成20年9月13日(土)～9月14日(日)	P	2	7	649	-	71,248
184 大分市コンパルホール(コンパル)★	平成20年8月9日(土)～8月10日(日)	J	2	4	94	24	466,886
185 九重町九重文化センター	平成20年9月21日(日)	N	1	4	141	-	10,613
186 くにさき総合文化センター(アストくにさき)	平成20年9月20日(土)～9月21日(日)	Q	2	4	190	-	33,034
187 国見生涯学習センター(みんなかん)	平成20年12月13日(土)～12月14日(日)	B	1	4	180	-	33,034
188 宇佐市安心院文化会館	平成20年11月23日(日)～11月24日(月)	N	2	4	746	-	59,334
189 由布市湯布院公民館	平成21年3月7日(土)	S	1	1	45	-	34,919
190 コアやまくに	平成20年9月12日(金)～9月15日(月)	D	4	8	258	2	83,961
<b>■宮崎県</b>							
191 西都市文化ホール	平成21年1月24日(土)～1月25日(日)	K	2	8	635	-	32,902
192 門川町総合文化会館	平成20年9月6日(土)～9月7日(日)	M	2	8	1,230	-	18,788
<b>■沖縄県</b>							
193 パレット市民劇場	平成20年11月15日(土)～11月16日(日)	C	2	8	1,464	15	312,692
合計	193会場		343	944	100,232		

★印は本年度新規実施会場(32会場)

※人口規模の出典：映画年鑑2009、記載がないものについては各市町村のHP、ウィキペディアに拠る。

プログラム別作品一覧 平成21年度

Aプログラム

西鶴一代女	(1952年・溝口健二・137分)
雨月物語	(1953年・溝口健二・97分)
山椒大夫	(1954年・溝口健二・124分)
近松物語	(1954年・溝口健二・103分)

Bプログラム

麦秋	(1951年・小津安二郎・125分)
東京物語	(1953年・小津安二郎・136分)
彼岸花	(1958年・小津安二郎・118分)
秋刀魚の味	(1962年・小津安二郎・113分)

Cプログラム

めし	(1951年・成瀬巳喜男・97分)
おかあさん	(1952年・成瀬巳喜男・98分)
浮雲	(1955年・成瀬巳喜男・123分)
乱れ雲	(1967年・成瀬巳喜男・108分)

Dプログラム

王将	(1948年・伊藤大輔・93分)
弁天小僧	(1958年・伊藤大輔・86分)
血槍富士	(1955年・内田吐夢・94分)
飢餓海峡	(1964年・内田吐夢・183分)

Eプログラム

青い山脈	(1949年・今井正・172分)
また逢う日まで	(1950年・今井正・109分)
野火	(1959年・市川崑・104分)
ぼんち	(1960年・市川崑・104分)

Fプログラム

戦争と平和	(1947年・山本薩夫、亀井文夫・110分)
安城家の舞踏会	(1947年・吉村公三郎・90分)
蜂の巣の子供たち	(1948年・清水宏・84分)
帰郷	(1950年・大庭秀雄・104分)

Gプログラム

煙突の見える場所	(1953年・五所平之助・108分)
お早よう	(1959年・小津安二郎・94分)
裸の島	(1960年・新藤兼人・96分)
東京オリンピック	(1965年・市川崑・169分)

Hプログラム

くちづけ	(1957年・増村保造・73分)
青春残酷物語	(1960年・大島渚・96分)
にっぽん昆虫記	(1963年・今村昌平・123分)
心中天網島	(1969年・篠田正浩・103分)

Iプログラム

遠雷	(1981年・根岸吉太郎・135分)
転校生	(1982年・大林宣彦・113分)
夢千代日記	(1985年・浦山桐郎・129分)
花いちもんめ	(1985年・伊藤俊也・125分)

Jプログラム

櫻の園	(1990年・中原俊・100分)
大誘拐 RAINBOW KIDS	(1991年・岡本喜八・120分)
お引越し	(1993年・相米慎二・124分)
毎日が夏休み	(1994年・金子修介・94分)

Kプログラム

夜の河	(1956年・吉村公三郎・104分)
伊豆の踊子	(1963年・西河克己・87分)
五番町夕霧楼	(1963年・田坂具隆・137分)
五瓣の椿	(1964年・野村芳太郎・163分)

Lプログラム

稲妻	(1952年・成瀬巳喜男・87分)
紀ノ川	(1966年・中村登・166分)
華岡青洲の妻	(1967年・増村保造・99分)
サンダカン八番娼館 望郷	(1974年・熊井啓・121分)

## Mプログラム

暁の脱走	(1950年・谷口千吉・110分)
反逆児	(1961年・伊藤大輔・110分)
次郎長三国志	(1963年・マキノ雅弘・102分)
白い巨塔	(1966年・山本薩夫・150分)

## Nプログラム

嵐を呼ぶ男	(1957年・井上梅次・101分)
悪名	(1961年・田中徳三・94分)
杏掛時次郎 遊侠一匹	(1966年・加藤泰・90分)
人生劇場 飛車角と吉良常	(1968年・内田吐夢・109分)

## Oプログラム

大江戸五人男	(1951年・伊藤大輔・132分)
銭形平次捕物控 人肌蜘蛛	(1956年・森一生・82分)
旗本退屈男	(1958年・松田定次・108分)
赤穂浪士	(1961年・松田定次・150分)

## Pプログラム

本日休診	(1952年・渋谷実・97分)
幕末太陽伝	(1957年・川島雄三・110分)
ニッポン無責任時代	(1962年・古沢憲吾・86分)
喜劇・女は男のふるさとヨ	(1971年・森崎東・90分)

## Qプログラム

おかしな奴	(1963年・沢島忠・110分)
喜劇・大安旅行	(1968年・瀬川昌治・94分)
吹けば飛ぶよな男だが	(1968年・山田洋次・91分)
あゝ軍歌	(1970年・前田陽一・88分)

## Rプログラム

キューポラのある街	(1962年・浦山桐郎・99分)
けんかえれじい	(1966年・鈴木清順・86分)
八月の濡れた砂	(1971年・藤田敏八・91分)
伊豆の踊子	(1974年・西河克己・82分)

## Sプログラム

純愛物語	(1957年・今井正・130分)
おとうと	(1960年・市川崑・98分)
肉弾	(1968年・岡本喜八・116分)
旅の重さ	(1972年・斎藤耕一・91分)

## Tプログラム

エノケンの頑張り戦術	(1939年・中川信夫・74分)
ジャンケン娘	(1955年・杉江敏男・92分)
大学の若大将	(1961年・杉江敏男・82分)
君も出世ができる	(1964年・須川栄三・100分)

## Uプログラム

にごりえ	(1953年・今井正・130分)
あすなる物語	(1955年・堀川弘通・108分)
雁の寺	(1962年・川島雄三・98分)
怪談	(1964年・小林正樹・161分)

## Vプログラム

西遊記	(1960年・藪下泰司、手塚治虫・88分)
太陽の王子 ホルスの大冒険	(1968年・高畑勲・82分)
長靴をはいた猫	(1969年・矢吹公郎・80分)
火垂るの墓	(1988年・高畑勲・89分)

## 平成21年度優秀映画鑑賞推進事業実施報告

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
<b>■北海道</b>							
1 千歳市民文化センター	平成21年8月8日(土)～8月9日(日)	R	2	4	211	-	93,118
2 札幌市生涯学習総合センター(ちえりあ)	平成21年11月5日(木)～11月6日(金)	B	2	8	1,741	41	209,063
3 たきかわホール	平成21年11月7日(土)～11月8日(日)	L	2	6	246	-	45,000
4 砂川市地域交流センター	平成22年3月13日(土)～3月14日(日)	K	2	4	292	-	19,438
5 北見芸術文化ホール 中ホール(きた・アート21)	平成21年10月17日(土)	L	1	4	263	7	126,419
6 厚岸情報館	平成21年10月22日(木)～10月25日(日)	C	3	4	52	-	12,000
<b>■青森県</b>							
7 青森市中世の館	平成21年8月29日(土)～8月30日(日)	O	2	4	149	13	312,817
<b>■宮城県</b>							
8 気仙沼市民会館	平成21年12月20日(日)	N	1	4	586	-	65,000
9 加美町中新田文化会館(中新田パッハホール)	平成21年10月25日(日)	E	1	4	415	-	267,000
<b>■秋田県</b>							
10 大仙市中仙市民会館(ドンパル)	平成21年12月5日(土)～12月6日(日)	R	2	4	616	5	93,000
11 大館市民文化会館	平成21年9月21日(月)～9月23日(水)	Q	3	9	728	-	82,000
12 小坂町康楽館	平成22年2月27日(土)～2月28日(日)	N	2	4	472	1	6,296
13 八郎潟町公民館★	平成21年12月20日(日)	K	1	2	339	-	6,921
14 北秋田市文化会館(ファルコン)	平成21年12月6日(日)	T	1	4	684	-	38,365
<b>■山形県</b>							
15 高島町文化ホール(まほら)	平成21年10月24日(土)	N	1	4	203	-	26,000
16 長井市民文化会館	平成21年8月22日(土)	E	1	4	137	-	3,029
<b>■福島県</b>							
17 福島県文化センター	平成21年8月31日(月)～9月1日(火)	L	2	4	600	13	295,000
18 会津若松市文化センター	平成21年12月11日(金)	E	1	2	800	1	128,600
19 白河市文化センター★	平成21年8月22日(土)	P	1	4	103	-	65,000
20 白河市東文化センター★	平成21年8月9日(日)	V	1	3	90	-	65,000
21 朝日座★	平成21年9月12日(土)～9月13日(日)	P	2	8	195	-	71,000
22 国見町観月台文化センター	平成21年12月12日(土)～12月13日(日)	Q	2	4	246	-	10,537
<b>■茨城県</b>							
23 水戸芸術館(A C M劇場)	平成22年2月13日(土)～2月14日(日)	U	2	4	556	18	264,614
24 日立市視聴覚センター	平成22年2月20日(土)～2月21日(日)	J	2	4	309	-	194,543
25 土浦市民会館	平成21年11月1日(日)	D	1	3	584	4	143,843
26 東海文化センター	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	B	2	4	1,205	-	37,000
27 取手市民会館	平成21年11月7日(土)～11月8日(日)	T	2	4	359	-	111,000
<b>■栃木県</b>							
28 鹿沼市民文化センター★	平成21年12月6日(日)	A	1	4	1,333	-	103,178
<b>■群馬県</b>							
29 旧前橋アテアトル西友(コミュニティシネマ前橋)	平成21年8月7日(金)～8月9日(日)	F	3	8	430	9	323,246
30 桐生市市民文化会館(シルクホール)	平成21年10月18日(日)	O	1	4	1,330	-	130,000
31 太田市新田文化会館(エアリスホール)	平成21年9月3日(木)～9月4日(金)	P	2	4	287	19	220,209
32 甘楽町文化会館	平成21年12月5日(土)	M	1	4	639	-	15,000
33 片品村文化センター★	平成21年8月20日(木)～8月22日(土)	V	3	8	173	-	5,500
<b>■埼玉県</b>							
34 桶川市民ホール(響の森)	平成21年10月3日(土)	E	1	2	1,210	2	75,518
35 彩の国さいたま芸術劇場★	平成22年1月15日(金)～1月17日(日)	E	3	10	425	40	1,100,000
36 SKIPシティ 彩の国ビジュアルプラザ	平成21年10月15日(木)～10月18日(日)	A	4	8	596	9	500,000
37 蕨市民会館	平成21年12月6日(日)	N	1	4	1,358	-	71,000
38 川越スカラ座	平成21年10月27日(火)～10月31日(土)	B	5	10	1,529	10	337,087

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
39 深谷シネマ チネ・フェリーチェ	平成21年11月15日(日)～11月19日(木)	K	5	20	442	1	148,000
40 所沢市民文化センター(ミュージズ)	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	J	2	4	654	3	340,000
<b>■千葉県</b>							
41 市川市映像文化センター	平成22年3月13日(土)～3月14日(日)	E	2	4	1,005	18	460,000
<b>■東京都</b>							
42 小平市民文化会館大ホール(ルネこだいら)	平成21年9月8日(火)～9月9日(水)	R	2	4	2,050	-	183,472
43 多摩市立永山公民館(ベルブホール)★	平成21年11月25日(水)～11月26日(木)	Q	2	4	116	8	145,000
44 三鷹産業プラザ	平成21年7月26日(日)	B	1	3	377	-	179,000
45 江東区亀戸文化センター(カメラシアホール)	平成21年8月29日(土)	G	1	2	355	20	420,000
<b>■神奈川県</b>							
46 川崎市アートセンター(アルテリオ映像館)	平成21年10月31日(土)～11月4日(水)	K	5	19	866	43	1,394,091
47 相模原南市民ホール	平成21年11月7日(土)～11月8日(日)	C	2	4	458	9	710,000
48 大和市生涯学習センターホール	平成22年1月16日(土)～1月17日(日)	R	2	8	999	9	224,644
49 伊勢原市民文化会館	平成21年8月14日(金)	M	1	4	151	-	100,000
50 座間市立市民文化会館(ハーモニーホール座間)	平成21年11月18日(水)～11月19日(木)	T	2	4	183	-	128,289
51 厚木市文化会館	平成21年11月3日(火)	A	1	2	433	-	226,520
52 小田原コロナシネマワールド★	平成21年10月2日(金)～10月3日(土)	I	2	4	216	19	200,000
<b>■山梨県</b>							
53 東京エレクトロン韮崎文化ホール	平成21年8月20日(木)	K	1	1	342	-	33,000
54 韮崎市民会館	平成21年8月21日(金)	K	1	1	120	-	33,000
55 都の杜うぐいすホール (うぐいすホール)	平成22年3月12日(金)～3月14日(日)	B	3	6	177	-	35,000
56 増穂町文化会館	平成21年9月1日(火)	K	1	4	456	-	12,977
57 市川三郷町歌舞伎文化公園ふるさと会館 (ふるさと会館)	平成21年8月22日(土)	Q	1	2	452	-	17,942
<b>■長野県</b>							
58 飯田市民会館	平成21年7月20日(月)	C	1	2	706	6	107,000
59 飯田市立鼎文化センター(鼎公民館)	平成21年8月30日(日)	U	1	2	645	6	107,000
60 池田町公民館	平成22年2月7日(日)	Q	1	2	245	-	107,000
61 上田市文化会館	平成21年11月7日(土)～11月8日(日)	Q	2	2	210	3	160,000
62 駒ヶ根市文化会館(駒ヶ根総合文化センター内)	平成22年2月20日(土)～2月21日(日)	N	2	8	185	-	34,631
63 須坂市文化会館(メセナホール)	平成22年2月28日(日)	J	1	4	177	-	53,668
<b>■新潟県</b>							
64 胎内市産業文化会館	平成21年8月8日(土)～8月9日(日)	T	2	8	498	-	32,400
65 村上市民ふれあいセンター	平成21年12月5日(土)～12月6日(日)	L	2	7	411	-	69,517
66 南魚沼市民会館 多目的ホール	平成21年12月12日(土)～12月13日(日)	K	2	6	737	-	64,000
67 魚沼市小出郷文化会館	平成21年10月10日(土)～10月11日(日)	N	2	7	29	-	42,391
68 妙高市文化ホール★	平成21年8月18日(火)～8月21日(金)	I	4	4	180	-	37,127
69 高島座	平成21年10月11日(日)～10月12日(月)	M	2	8	435	11	280,434
<b>■富山県</b>							
70 滑川市民交流プラザ	平成21年11月28日(土)～11月29日(日)	R	2	4	200	-	34,000
71 クロスランドおやべ	平成22年3月6日(土)～3月7日(日)	B	2	4	635	-	32,000
<b>■石川県</b>							
72 サンビーム日とヶ丘	平成21年9月10日(木)～9月13日(日)	I	4	4	59	-	61,926
<b>■福井県</b>							
73 バレア若狭音楽ホール	平成21年8月1日(土)	R	1	1	222	-	16,725
<b>■岐阜県</b>							
74 岐阜市文化センター	平成21年11月30日(月)～12月3日(木)	K	2	4	546	16	410,971
75 羽島市文化センター	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	N	2	4	209	-	69,000
76 羽島市映画資料館	平成21年9月26日(土)～9月27日(日)	L	2	4	215	-	69,200

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
77 可児市文化創造センター(ala)	平成22年2月19日(金)～2月22日(月)	K	4	8	634	-	99,336
78 多治見市笠原中央公民館	平成21年8月9日(日)	P	1	4	37	-	117,000
79 瑞浪市総合文化センター	平成21年8月30日(日)	T	1	4	217	-	42,000
<b>■静岡県</b>							
80 浜松市龍山森林文化会館★	平成22年1月29日(金)	R	1	3	465	21	36,600
81 掛川市生涯学習センター	平成22年1月23日(土)～1月23日(土)	K	1	4	1,408	-	114,000
82 掛川市文化会館(シオーネ)	平成22年1月17日(日)	M	1	4	1,489	-	115,549
83 静岡市清水文化センター	平成22年2月19日(金)～2月21日(日)	L	3	8	558	24	728,828
84 藤枝市民会館	平成21年9月5日(土)	G	1	4	546	-	140,000
85 焼津市大井川文化会館(ミュージコ)	平成22年2月27日(土)～2月28日(日)	C	2	6	1,094	-	143,000
<b>■愛知県</b>							
86 東郷町民会館	平成21年11月28日(土)～11月29日(日)	N	2	4	209	-	41,500
87 瀬戸蔵	平成21年8月22日(土)～8月23日(日)	C	2	4	467	-	132,000
88 春日井市東部市民センター	平成22年3月12日(金)～3月14日(日)	T	3	9	485	9	300,000
<b>■三重県</b>							
89 松阪コミュニティ文化センター	平成21年11月27日(金)～11月28日(土)	C	2	4	976	1	171,435
90 名張市青少年センター	平成21年9月6日(日)	N	1	4	1,040	-	82,790
91 伊勢市生涯学習センター(いせトピア)	平成21年8月22日(土)～8月23日(日)	M	2	3	353	2	132,460
92 菟野町町民センター	平成21年9月3日(木)～9月5日(土)	A	3	2	127	-	41,000
93 亀山市文化会館	平成21年11月29日(日)	V	1	3	63	-	50,000
94 多気町民文化会館★	平成21年8月28日(金)	V	1	3	134	-	15,694
<b>■滋賀県</b>							
95 滋賀会館	平成21年8月20日(木)～8月23日(日)	A	4	14	469	13	328,485
96 大津市生涯学習センター★	平成21年11月19日(木)～11月20日(金)	B	2	4	326	13	330,000
97 近江八幡市文化会館	平成21年9月26日(土)	T	1	3	307	8	69,617
98 甲賀市碧水ホール	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	S	2	6	349	5	96,000
99 日野町町民会館わたむきホール虹	平成21年9月5日(土)	K	1	4	713	-	23,000
<b>■京都府</b>							
100 宇治市生涯学習センター	平成21年12月11日(金)～12月12日(土)	L	2	6	890	-	193,000
101 文化パルク城陽 プラムホール	平成22年1月9日(土)～1月10日(日)	I	2	6	499	-	80,508
102 みやづ歴史の館文化ホール★	平成21年10月21日(水)	B	1	4	81	-	21,512
103 寒梅館ハーディーホール(同志社大学)★	平成21年10月1日(木)	A	1	4	501	-	45,000
<b>■大阪府</b>							
104 大阪歴史博物館	平成21年9月12日(土)～9月13日(日)	E	2	4	566	15	73,400
105 守口文化センター(エナジーホール)	平成21年11月24日(火)	A	1	4	177	8	147,759
106 岸和田市立文化会館(マドカホール)	平成21年12月12日(土)～12月13日(日)	C	2	4	524	9	200,000
107 すばるホール	平成21年10月23日(金)～10月24日(土)	U	2	4	197	-	122,000
108 大東市立文化ホール(サーティーホール)	平成21年9月27日(日)	U	1	3	1,138	-	128,609
109 四條畷市市民総合センター★	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	L	2	4	239	-	57,653
110 阪南市立文化センター(サラダホール)	平成21年9月12日(土)～9月13日(日)	Q	2	6	115	-	58,635
111 大阪人権博物館(リパティおおさか)	平成22年3月6日(土)～3月7日(日)	H	2	4	113	17	59,692
<b>■兵庫県</b>							
112 兵庫県立美術館(芸術の館)	平成21年8月7日(金)～8月8日(土)	K	2	6	571	32	121,373
113 三田市総合文化センター(郷の音ホール)★	平成22年3月6日(土)～3月7日(日)	I	2	4	209	7	110,000
114 洲本市文化体育館文化ホール(しばえもん座)★	平成21年7月19日(日)	R	1	2	328	1	150,791
115 小野市民会館	平成22年2月13日(土)～2月14日(日)	C	2	2	185	-	50,000
116 豊岡市民プラザ ぼっとステージ	平成22年2月5日(金)～2月8日(月)	O	3	4	196	2	90,197
117 高砂市文化会館(高砂市福祉保健センター)	平成22年2月14日(日)	D	1	3	408	-	96,881
118 姫路市文化センター大ホール	平成21年12月23日(水)	R	1	3	1,412	10	540,000
119 明石市立市民会館 大ホール(アワーズホール)	平成21年9月24日(木)～9月25日(金)	O	2	4	811	9	292,000
120 川西市みつなかホール	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	C	2	4	1,398	-	161,060

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
121 西宮市なるお文化ホール	平成22年2月13日(土)～2月14日(日)	T	2	4	551	12	479,310
<b>■奈良県</b>							
122 奈良県文化会館	平成21年11月22日(日)～11月23日(月)	M	2	2	714	9	369,368
123 奈良市北部会館市民文化ホール	平成21年9月22日(火)	B	1	3	368	9	370,000
124 奈良県橿原文化会館	平成21年11月21日(土)	L	1	1	207	23	125,000
<b>■和歌山県</b>							
125 和歌山市民会館	平成21年10月1日(木)～10月3日(土)	B	3	6	586	13	38,000
126 橋本市民会館	平成22年3月6日(土)～3月7日(日)	C	2	4	344	-	68,844
127 かつらぎ総合文化会館(あじさいホール)	平成22年1月17日(日)	D	1	4	243	-	19,450
128 紀の川市貴志川生涯学習センター (かがやきホール)	平成22年1月16日(土)～1月17日(日)	N	2	4	676	-	69,046
129 和歌山県民文化会館	平成21年11月11日(水)～11月12日(木)	D	2	8	948	13	371,001
<b>■鳥取県</b>							
130 米子市公会堂 大ホール	平成21年9月26日(土)～9月27日(日)	K	2	6	1,447	3	150,000
<b>■島根県</b>							
131 大田市民会館	平成21年11月14日(土)	A	1	2	79	-	40,310
132 島根県芸術文化センター(グラントワ)	平成21年9月17日(木)～9月18日(金)	T	2	4	218	-	53,000
133 松江市美保関海の学苑ふるさと創生館 (メテオプラザ)	平成21年10月31日(土)～11月1日(日)	V	2	4	109	5	193,323
134 安来市民会館	平成21年11月14日(土)	O	1	4	328	-	43,473
135 松江勤労者総合福祉センター(松江テルサ)	平成21年10月24日(土)～10月25日(日)	A	2	6	238	5	196,000
136 悠邑ふるさと会館	平成21年10月3日(土)～10月4日(日)	R	2	4	59	-	3,996
137 平田文化会館	平成21年7月19日(日)	E	1	3	259	12	147,600
<b>■岡山県</b>							
138 岡山県天神山文化プラザ	平成22年2月6日(土)～2月7日(日)	D	2	8	586	19	300,000
139 西川アイプラザ	平成22年1月16日(土)～1月17日(日)	I	2	5	246	19	700,000
140 津山文化センター★	平成22年1月11日(月)	T	1	4	200	-	109,601
141 笠岡市保健センター(ギャラクシーホール)	平成21年9月13日(日)	M	1	2	238	-	56,000
142 美作市英田公民館★	平成21年8月30日(日)	R	1	3	452	-	30,000
143 高梁総合文化会館	平成22年3月13日(土)～3月14日(日)	N	2	4	109	-	38,800
<b>■広島県</b>							
144 はつかいち文化ホール(さくらびあ)	平成22年1月14日(木)～1月15日(金)	G	2	8	899	-	120,000
145 安芸高田市民文化センターホール★	平成21年11月28日(土)	B	1	4	498	-	33,000
146 三原リージョンプラザ	平成21年12月19日(土)～12月20日(日)	P	2	8	219	-	104,074
147 シネマ尾道★	平成21年10月23日(金)～10月25日(日)	R	3	9	168	1	149,669
<b>■山口県</b>							
148 下関市菊川ふれあい会館★	平成21年8月2日(日)	V	1	4	319	2	289,147
149 山口情報芸術センター(YCAM)	平成21年9月19日(土)～9月23日(水)	F	5	12	604	4	190,000
150 山口県民芸術文化ホールながと (ルネッサながと)	平成21年7月25日(土)～7月26日(日)	D	2	4	126	-	42,000
151 テアトル徳山 I	平成21年10月23日(金)～10月27日(火)	P	5	24	273	3	154,070
152 山陽小野田市民館 文化ホール	平成21年9月26日(土)～9月27日(日)	R	2	4	128	-	67,000
<b>■徳島県</b>							
153 徳島県郷土文化会館	平成21年8月29日(土)～8月30日(日)	B	2	8	3,120	9	270,000
<b>■香川県</b>							
154 三豊圏域健康生きがい中核施設 (マリンウェーブ)	平成21年7月18日(土)～7月19日(日)	N	2	6	382	-	71,500
155 善通寺市民会館	平成22年2月14日(日)	O	1	4	1,320	-	35,000
156 ユープラザうたづ(ハーモニーホール)	平成21年9月23日(水)	N	1	4	290	-	18,000

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
<b>■愛媛県</b>							
157 西条市総合文化会館	平成21年8月2日(日)	Q	1	4	156	-	115,200
158 松山市総合福祉センター	平成21年11月1日(日)	P	1	3	414	15	515,246
159 宇和島市生涯学習センター	平成21年8月22日(土)～8月23日(日)	L	2	4	342	-	89,000
<b>■高知県</b>							
160 土佐清水市立市民文化会館(くろしおホール)	平成21年8月20日(木)～8月23日(日)	B	4	8	321	11	17,083
<b>■福岡県</b>							
161 大牟田文化会館	平成21年8月22日(土)～8月23日(日)	R	2	8	1,049	-	129,186
162 田川青少年文化ホール	平成21年8月1日(土)～8月2日(日)	U	2	6	693	-	51,773
163 小都市文化会館	平成22年1月16日(土)～1月17日(日)	B	2	4	627	-	59,032
164 ユメニティのおがた	平成21年7月18日(土)	M	1	4	349	9	60,000
165 サザンクス筑後	平成21年10月3日(土)～10月4日(日)	L	2	8	302	-	48,575
<b>■佐賀県</b>							
166 鹿島市生涯学習センター(エイブル)	平成21年8月22日(土)～8月23日(日)	T	2	8	526	-	31,984
167 炎の博記念堂	平成21年8月22日(土)	O	1	4	791	-	21,800
168 白石町有明スカイパークふれあい郷	平成21年7月14日(火)	B	1	4	256	-	27,000
<b>■長崎県</b>							
169 新上五島町鯨賓館ミュージアム	平成21年11月5日(木)～11月9日(月)	R	4	4	45	-	25,000
170 大村市民会館	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	R	2	8	357	-	90,000
<b>■熊本県</b>							
171 八千代座	平成22年1月31日(日)	G	1	4	272	-	58,000
172 宇土市民会館	平成21年7月26日(日)～	P	1	4	765	-	38,000
173 宇城市小川総合文化センター(ラポート)	平成21年8月1日(土)～8月2日(日)	T	2	8	1,476	8	63,457
174 ながす未来館	平成21年10月24日(土)～10月25日(日)	T	2	8	173	-	17,000
175 益城町文化会館	平成21年9月5日(土)～9月6日(日)	D	2	8	662	-	33,272
176 荒尾総合文化センター	平成21年9月5日(土)～9月6日(日)	B	2	8	1,042	-	56,649
<b>■大分県</b>							
177 日田市民文化会館(パトリア日田)	平成21年12月13日(日)～12月14日(月)	B	2	8	662	-	73,400
178 竹田市文化会館	平成21年12月13日(日)	V	1	4	152	-	26,219
179 九重町九重文化センター	平成21年9月13日(日)	D	1	4	116	-	11,206
180 くにさき総合文化センター(アストくにさき)	平成22年2月27日(土)～2月28日(日)	B	2	4	287	-	33,034
181 国見生涯学習センター(みんなかん)	平成21年12月19日(土)	M	1	4	192	-	34,000
182 宇佐市安心院文化会館	平成22年3月14日(日)	P	1	4	848	-	63,000
183 由布市湯布院公民館	平成22年3月6日(土)	U	1	2	93	-	36,637
184 コアやまくに	平成21年9月11日(金)～9月14日(月)	A	4	8	125	2	3,100
<b>■宮崎県</b>							
185 西都市文化ホール	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	M	2	8	265	-	34,000
186 門川町総合文化会館	平成21年9月5日(土)～9月6日(日)	O	2	8	862	-	19,000
<b>■鹿児島県</b>							
187 コミュニティセンター川辺文化会館★	平成22年1月23日(土)～1月24日(日)	T	2	6	641	-	41,289
<b>■沖縄県</b>							
188 パレット市民劇場	平成21年11月14日(土)～11月15日(日)	P	2	8	729	15	316,314
合計	188会場			347	944	94,052	

★印は昨年度新規実施会場(24会場)

※人口規模の典拠：各会場からの報告書に記載がないものについては各市町村のHP統計データで得られた数値を記載。



【平成20年度】

## ①映画フィルム

国外への貸与のうち、共同主催事業では、シネマテカ・ブラジレイラ(ブラジル、FIAF会員)との間で開催した「第2回ブラジルにおける無声映画の旅『ブラジルにおける日本人移民100年記念日本プログラム』」に対し短篇映画を含む11本を、前年度にシネマテーク・ケベコワーズ(カナダ、FIAF会員)との間で行った番組をミュンヘン映画博物館(ドイツ、FIAF会員)へ巡回した「日本アニメーション映画史」に対し53本を、また川喜多記念映画財団、国際交流基金との間で、9会場を巡回した「『川喜多かしこ生誕100年記念』日本映画海外巡回特集上映」に対しては4本の映画フィルムを提供した。同種機関や国際映画祭等に対して行う通常の貸与では、第56回サンセバスチャン国際映画祭回顧プログラム「日本のフィルム・ノワール」に対し、無声映画から1990年代の作品まで20本の映画フィルムを貸与したのが特筆される。

国内への貸与のうち、共同主催事業では、前年度に続き京都国立近代美術館との間で上映会を開催し、『イワン雷帝 第一部』(1944年)等5本の映画フィルムを提供した。同じく前年度開催した上映企画「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」を受けて、コミュニティシネマ支援センターとの間で巡回事業を行い、14本の映画フィルムを提供した。通常の貸与では、プラネット映画資料館(大阪)が開催する上映シリーズ「日本映画史/日本映画の源流」に22本の映画フィルムを貸与し、京都国立近代美術館とともに、関西において継続的に所蔵作品を上映する拠点の形成に寄与した。本年度の貸与は、件数、本数とも前年度より増加した。所蔵作品を中心に番組編成を行った大規模な上映企画への貢献、国内における所蔵作品の継続的な上映拠点の形成への寄与において、前年度に引き続き堅実な成果を挙げるとともに、とりわけ貸与件数が伸びた国内においては、所蔵作品を幅広く普及することにより、映画芸術への認知とスクリーンによる映画体験の継承に貢献することができた。

①貸与	88件	(314本)
内訳	国内貸与	60件 (145本)
	海外貸与	23件 (82本)
	共催事業	5件 (87本)
②特別映写観覧	104件	(296本)
③複製利用	50件	(94本)

## ②映画関連資料

映画関連資料については、国内の展覧会主催者9機関に貸与を行った。また海外についてはドイツ映画博物館へ貸与を行った。

①貸与	10件	(57点)
内訳	国内貸与	9件 (56点)
	共催事業	1件 (1点)
②特別観覧	38件	(159点)

2008

① Films

NFC made loans for the co-organized projects as follows. Eleven films including the shorts for *The Japanese section dedicated to the 100th anniversary of Japanese immigration in Brazil in the second Brazilian Journey of Silent Cinema* which was co-organized with Cinemateca Brasileria (Brazil, FIAF member), 53 films for *Geschichte des japanischen Animationsfilms* at Filmmuseum in Münchner Stadtmuseum (Germany, FIAF member), which was toured from Cinémathèque québécoise where it was held in the previous year, four films for *A Wreath for Madame Kawakita*, the project that traveled to nine venues and was co-organized with Kawakita Memorial Film Institute and the Japan Foundation. Regarding the loans to the film archives and international film festivals, it is notable that 20 titles ranging from the silent era to the 1990s were loaned to the retrospective program named “Japón en Negro” at the 56th San Sebastián International Film Festival.

Domestic loans can be divided into two categories, that is, those for the co-organizing events and the regular ones. There were two former cases. Following the previous year, NFC co-organized the screening events with the National Museum of Modern Art, Kyoto, and provided five films including *Ivan the Terrible* (《Иван Грозный》)(1944). Also, following the screening event of the previous year *Masabiro Makino Retrospective at his Centenary*, NFC co-organized a touring project with Japan Community Cinema Center and provided 14 films. As for the regular loans, NFC loaned 22 films to the screening series *History of Japanese Cinema / The Source of Japanese Cinema* by Planet Bibliothèque de Cinéma (Osaka). This was part of the efforts by NFC, in addition to its collaborative work with the National Museum of Modern Art, Kyoto, to establish the base venues to regularly screen films from its collection in the western region of Japan. This year, both the number of the loan recipients and the loaned films increased from last year. NFC continued to make steady achievements in contributing to the large-scale screening events that mostly centered on the films in the NFC collection, and in loaning the titles from its collection to the outside venues that are to become the regular base for screening the films from the NFC collection. In addition, by increasing the number of loans to the domestic parties, NFC was able to contribute to the enhancement of the understanding on the film culture on the part of the public and to providing the opportunities for the younger generations of audience to view the films on the big screen through the projection.

② Non-Film Materials

NFC loaned some film related non-film materials to nine domestic institutions that organized exhibitions. The international loans were made to Deutsches Filmmuseum.

## 【平成21年度】

### ①映画フィルム

国外への貸与のうち、共同主催事業では、ロカルノ国際映画祭(スイス)、トリノ国立映画博物館(イタリア、FIAF会員)との間で開催した「MANGA IMPACT」展「日本の初期アニメーション映画」部門に対し28本、これに先立ち、前年度から継続して開催したミュンヘン市博物館・映画博物館(ドイツ、FIAF会員)との上映会「日本アニメーション映画史」には53本の日本アニメーション映画を提供した。また、前年度に引き続き、川喜多記念映画文化財団、独立行政法人国際交流基金との共同開催による「川喜多かしこ生誕100年記念 日本映画海外巡回特集上映」では、香港電影資料館(FIAF会員)での上映に、4本の日本劇映画のフィルムを提供した。同種機関や国際映画祭等への通常の貸与では、前年度のように大量のフィルムを提供する案件はなかったが、新規に協力した団体を含め、件数は23件と前年度並みであった。

国内への貸与のうち、共同主催事業では、京都国立近代美術館との間で開催した「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@Goethe」に対し、『東洋の神秘』(1928年)、『石川五右エ門の法事』(1930年)等、日本映画及び外国映画のフィルム19本を提供、同じく京都国立近代美術館との間で開催した「無声時代ソビエト映画ポスター展」に関連する上映会に対し、『母』(1926年)等、外国映画フィルム3本を提供し、関西において継続的に所蔵フィルムを上映する拠点の形成に寄与した。また、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの間で行っている巡回上映事業について、前年度に引き続き開催した「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」では全7会場に17本を、今年度より開始した「生誕百年 映画監督 山中貞雄」では全6会場に3本の日本劇映画のフィルムを提供した。通常の貸与では、前年度の実績をやや下回ったが、52件、131本のフィルムを提供している。東京国際映画祭や山形国際ドキュメンタリー映画祭といった由緒ある映画祭のみならず、東京国際レズビアン&ゲイ映画祭、京都国際学生映画祭、ヒロシマ平和映画祭、キューバ映画祭等、全国各地で活動している団体へ新規に協力する機会が増えたことが、今年度の特徴である。

①貸与	82件	(242本)
内訳	国内貸与	52件 (131本)
	海外貸与	23件 (35本)
	共催事業	7件 (76本)
②特別映写観覧	129件	(397本)
③複製利用	39件	(96本)

### ②映画関連資料

映画関連資料については、国内の展覧会主催者2機関に貸与を行った。また海外についてはカナダのシネマテーク・ケベコワーズ(モントリオール)とイタリア国立映画博物館(トリノ)等3機関へ貸与を行った。

また、平成21年度にフィルムセンターで実施した「無声時代ソビエト映画ポスター展」を、本年度は京都国立近代美術館においても共催事業として実施した(2009年7月3日～8月25日)。同展覧会の関連上映会の開催に際しては、フィルムセンター研究員が上映作品の解説を行った。

①貸与		5件	(68点)
	内訳	国内貸与	2件 (6点)
		共催事業	3件 (62点)
②特別観覧		24件	(93点)

2009

① Films

As for the international loans, those for the co-organized events were as follows. 28 films to the “Early Japanese Animation” section at the MANGA IMPACT exhibition that was co-organized by Festival del film Locarno (Switzerland) and Museo Nazionale del Cinema—Fondazione Maria Adriana Prolo (Italy, FIAF member). Also, prior to this event, NFC loaned 53 Japanese animation films to the screening event *Geschichte des japanischen Animationsfilms* that was co-organized, following the previous year, with Filmuseum in Münchner Stadtmuseum (Germany, FIAF member). Also following the previous year, NFC loaned four Japanese drama films to *A Wreath for Madame Kawakita* at Hong Kong Film Archive (FIAF member) co-organized with Kawakita Memorial Film Institute and the Japan Foundation. As for the loans to film archives and international film festivals, unlike the previous year, there was no case in which a huge amount of films were loaned. The number of loaning activities, including those for the new parties, was 23, which was the similar figure to that of the previous year.

As for the domestic loans, NFC loaned the total of 19 films including *Geheimnisse des Orients* (1928) and *Ishikawa Goemon no hoji* (1930) to the event *Selections from the NFC Collection MoMAK Films @ Goethe* co-organized with The National Museum of Modern Art, Kyoto. NFC also co-organized, with The National Museum of Modern Art, Kyoto, the screening event in relation to *Soviet Film Posters in the Silent Era* exhibition and provided three foreign films including *Мать* (1926). By doing so, NFC contributed to establishing a base for screening the films in its collection. As for the touring screening projects, first, NFC provided 17 films for the seven venues for *Masahiro Makino Retrospective at his Centenary*, that continued from the previous year and was co-organized with Japan Community Cinema Center. NFC also provided three Japanese drama films to six venues for *Sadao Yamanaka Retrospective at his Centenary*, which started this year and was co-organized with the same Center. The number of regular loans was somewhat less than that of the previous year with 131 films for 52 cases. In addition to the long-time festivals such as Tokyo International Film Festival and Yamagata International Documentary Film Festival, it was notable that NFC made the first-time loans to a number of organizations such as Tokyo Lesbian & Gay Film Festival, the Kyoto International Student Film & Video Festival, Hiroshima Peace Film Festival and Cuban Film Festival.

② Non-Film Materials

As for non-film materials, NFC made loans to two domestic institutions that organized exhibitions. As for abroad, loans were made to three institutions including Cinémathèque québécoise (Montreal) and Museo Nazionale del Cinema (Torino).

In addition, NFC re-held the exhibition, *Soviet Film Posters in the Silent Era* that was originally held in 2008 at The National Museum of Modern Art, Kyoto, as the co-organized event. At the time of the related screening events, NFC curator delivered introductions.

貸与実績一覧

【平成20年度】

〔映画フィルム国内貸与〕 60件145本

上映会名	主催	貸与本数
山崎バナラの愉快的な活弁ワールド in Yokohama	財団法人神奈川芸術文化財団	1本
映画館で映画と生の音楽を、シリーズ	立命館大学	1本
光南台実年講座	岡山市立光南台公民館	1本
なつかしの映画鑑賞会	社会福祉法人共愛会	1本
川島雄三レトロスペクティブ	金沢コミュニティシネマ	1本
歌姫の恋	神戸映画資料館	2本
第30回びあフィルムフェスティバル スペシャルプログラム	びあ株式会社PFF事務局	2本
横浜黄金町映画祭2008	横浜黄金町映画実行委員会	2本
市川崑監督の作品回顧上映	映画「幸福」を見る会	1本
日本映画史/日本映画の源泉 第4期	プラネット映画資料図書館プラネット・プラスワン	3本
京都自由大学・夏休み特別講座 「親子で科学映画を楽しもう！宇宙と気象の不思議2」	特定非営利活動法人京都自由大学	2本
追悼 市川崑	市川崑追悼上映会実行委員会	1本
追悼特集 映画監督・市川崑	日本映画大回顧展上映実行委員会	1本
ミシェル・ビュートル セレクション	東京日仏学院	1本
日本映画史/日本映画の源泉 第5期	プラネット映画資料図書館プラネット・プラスワン	1本
日本映画史/日本映画の源泉 第6期	プラネット映画資料図書館プラネット・プラスワン	3本
ジャック・ドワイヨン特集	東京日仏学院	2本
第6回京都映画祭	京都映画祭実行委員会	16本
第3回「映画の復元と保存に関するワークショップ」 「還ってきた川島雄三」上映会	第3回「映画の復元と保存に関するワークショップ」運営委員会 NPO法人 harappa	4本 2本
第6回京都映画祭	関西日仏学院	1本
第14回KAWASAKIしんゆり映画祭「特集・新藤兼人」	特定非営利活動法人KAWASAKIアーツ	1本
日本映画史/日本映画の源泉 第7期	プラネット映画資料図書館プラネット・プラスワン	4本
「第30回びあフィルムフェスティバル 全国開催」	びあ株式会社PFF事務局	2本
武庫川女子大生活美学研究会開催の上映会	宝塚映画祭実行委員会	1本
ドキュメンタリー・ドリーム・ショー山形 in 東京 2008	シネマトリックス	11本
越中文学展	富山映画サークル協議会	1本
久万美術館企画展「万作と草田男―「楽天」の絆」	町立久万美術館	1本
長野原応桑小学校 映画祭	ぐんま映像教育研究会	1本
わたしたちのまると新聞展パートⅢ	いどばたNIEの会	1本
宝塚映画祭	宝塚映画祭実行委員会	1本
「びあフィルムフェスティバル in 福岡」	福岡市総合図書館	2本
中之島国際音楽祭2008 「貴志康一生涯100年記念 オペレッタ『なみ子』」	中之島国際音楽祭実行委員会	2本
定期上映会「山形ドキュメンタリー フィルムライブラリー金曜上映会」	特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭	1本

上映会名	主催	貸与本数
上映企画「ニッポン・シネマ・クラシック」 提携企画「東京国際女性映画祭」	財団法人日本映像国際振興協会東京国際映画祭実行委員会	2本
「1921年作『路上の霊魂』生演奏上映会 ～サウンド・オン・フィルムVOL.10特別編～」	特定非営利活動法人コミュニティシネマ大阪	1本
日本映画史/日本映画の源泉 第9期	プラネット映画資料図書館プラネット・プラスワン	3本
児島活弁シネマライブ	児島文化協会	1本
「第3回映画の復元と保存に関するワークショップ」 in東京生伴奏付上映会	NPO法人映画保存協会	2本
「伊藤大輔生誕110年 映画祭」〈特集上映〉 伊藤大輔生誕110年 映画祭プログラム	愛媛県宇和島市生涯学習センター	4本
マキノ雅弘生誕百年記念上映会	マキノ雅弘生誕百年記念上映会実行委員会	9本
山形国際ドキュメンタリー映画祭プレイベント 「李香蘭／山口淑子～二つの祖国に刻んだ記憶～」	特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭	1本
日本映画史/日本映画の源泉 第10期	プラネット映画資料図書館プラネット・プラスワン	3本
「脚本家 荒井晴彦」特集上映会	川崎市市民ミュージアム	1本
「昭和の時代」回顧展	「昭和の時代」回顧展実行委員会	2本
キューバ映画祭inサッポロ2009	キューバ映画祭inサッポロ2009実行委員会	8本
日本映画史/日本映画の源泉 第11期「内田吐夢特集」	プラネット映画資料図書館プラネット・プラスワン	5本
名作と出会う 明治・大正・昭和の美術 国立美術館巡回展	高知県立美術館	3本
『國土無双』オリジナル&リメイク上映会	株式会社ふたり	1本
松本俊夫映画回顧展	イメージフォーラム	1本
ジャック・ドゥミ監督の特集	株式会社ハピネット	1本
東京都青少年委員会大会	東京都青少年委員会連合会	1本
川島雄三監督特集	財団法人広島市文化財団	2本
にいがた国際映画祭	財団法人新潟市国際交流協会	5本
恵比寿映像祭	財団法人東京都歴史文化財団東京都写真美術館	2本
時代劇の至宝・萬屋錦之介十三回忌「錦之助映画祭り」	錦之助映画ファンの会	5本
ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2009	ゆうばり国際ファンタスティック映画祭実行委員会	1本
ジャック・ドゥミ監督の特集	株式会社ハピネット	1本
EXPOSE・2009アヴァンギャルド芸術のために	名古屋市立大学大学院	1本
映画美学校海外ゲスト講師特別講義	特定非営利活動法人映画美学校	1本

[映画フィルム海外貸与] 23件82本

上映会名	主催	貸与本数
回顧展「サムライの時間」	フィンランド・フィルム・アーカイブ ／フィンランド国立視聴覚アーカイブ	1本
岡本喜八回顧展	フィルモテカ・デ・カタルニヤ	12本
韓国映像資料院映画祭	韓国映像資料院	6本
中川信夫監督回顧展	ヌーシャテル国際ファンタスティック映画祭	1本
第22回復元映画祭における無声映画部門	チネテカ・ディ・ボローニヤ	1本
ボン無声映画祭	ミュンヘン市映画博物館	1本

第7回マカブロ映画祭「塚本晋也監督特集」	マカブロ映画祭	1本
第2回ソウル忠武路国際映画祭 「アジア映画を再発見する—作家とジャンル」	ソウル忠武路国際映画祭	2本
第61回ロカルノ国際映画祭	ロカルノ国際映画祭	2本
第56回サン・セバスチャン国際映画祭 回顧プログラム「日本のフィルム・ノワール」	サン・セバスチャン国際映画祭	20本
回顧展「イマジナリー・ジャパン」	フィンランド・フィルム・アーカイブ/ フィンランド国立視聴覚アーカイブ	1本
上映企画「影のメロディー」	フォーラム・ド・イマージュ	7本
ローザンヌ・アンダーグラウンド・フィルム・ アンド・ミュージック・フェスティバル 「寺山修司監督を讃えるプログラム」	ローザンヌ・アンダーグラウンド・フィルム・アンド・ ミュージック・フェスティバル	1本
第32回サンパウロ国際映画祭 企画「シネ・コンサート」	シネマテカ・ブラジレイラ ルクセンブルク・シネマテーク	12本 1本
リオデジャネイロ国際短篇映画祭 「ジャパン・フォーカス」特集	リオデジャネイロ国際短篇映画祭	3本
「青山真治レトロスペクティヴ」及び 「青山真治への白紙委任状」プログラム	フランス国立ギャラリー Jeu de Paume	2本
第11回未来映画祭「中川信夫—マスター・オブ・ホラー」 特集上映「新宿エクスタシー—日本アート・シアター・ ギルドによるインディペンデント映画」	未来映画祭 ジャパン・ソサエティ	1本 2本
第6回ワールドシネマ映画祭	シネマテーク・プサン	1本
全州国際映画祭2009「JIFFが発見した新しい監督たち」	全州国際映画祭組織委員会	1本
展覧会「貴志康一ベルリンへ帰る」オープニング式典	甲南大学	2本
吉田喜重監督特集	ハーバード・フィルム・アーカイブ	1本

[映画関連資料貸与] 10件57点

展覧会名	主催	貸与点数
映像にのこされた富士	富士市立博物館	3点
市川崑の世界(第10回世田谷フィルムフェスティバル)	世田谷文学館	10点
生誕100年映画字幕の名工・秘田余四郎展	徳島県立文学書道館	6点
幻と呼ばれたフィルム—原爆被災記録映画の軌跡	広島平和記念資料館	2点
躍動する魂のきらめき—日本の表現主義	栃木県立美術館	7点
躍動する魂のきらめき—日本の表現主義	兵庫県立美術館	7点
躍動する魂のきらめき—日本の表現主義	名古屋市美術館	7点
躍動する魂のきらめき—日本の表現主義	岩手県立美術館	7点
躍動する魂のきらめき—日本の表現主義	松戸市教育委員会	7点
H・R・ギーガー展	ドイツ映画研究所 ドイツ映画博物館	1点

【平成21年度】

[映画フィルム国内貸与] 52件131本

上映会名	主催	貸与本数
貴志康一生誕100年記念事業 「貴志康一の映画とレコードコンサート」	大阪府吹田市立博物館	2本
中平康監督特集	中平康監督特集上映実行委員会	6本
豊島区映画教室事業「芸能生活70年 淡島千景の歩み」	「淡島千景記念上映会」実行委員会	4本
市川崑監督特集	福岡市総合図書館	2本
川島雄三監督特集	山口情報芸術センター	2本
マキノ雅弘監督特集	財団法人三鷹市芸術文化振興財団	2本
シナリオライター小國英雄のすべて	小國英雄映画祭上映委員会	1本
白夜映画祭Ⅲ	白夜映画祭実行委員会	2本
児島夫婦活弁シネマ	マリン児島地区社会福祉協議会	1本
横浜ラテンフィルムフェスタ2009 キューバ映画祭	横浜ラテンフィルムフェスタ2009実行委員会	3本
「憂魂、高倉健」刊行記念上映会	「憂魂、高倉健」刊行記念上映会実行委員会	1本
「京都学 前衛都市・モダニズムの京都展」関連企画 上映会「前衛都市・モダニズムの京都映画」	京都国立近代美術館	6本
東京国際レズビアン&ゲイ映画祭	東京国際レズビアン&ゲイ映画祭運営委員会	1本
「山頭火・一草庵祭」上映企画「山頭火映画祭」	山頭火・一草庵祭実行委員会	1本
映画専攻講義「映画演出論」	東京芸術大学	1本
「第4回特別展 THE 黒部川(世界遺産登録に向けて) ～黒部峡谷から電源開発～」特別上映会	黒部市教育委員会	1本
第7回上映会イベント「nobody presents SUDDENLY」	nobody	1本
『嗚呼、満蒙開拓団』地方巡回上映	一般社団法人 コミュニティシネマセンター	2本
ワークショップ「シネマ・シンジケート/シネマテーク ・プロジェクト 合同ワークショップイン 京都」	一般社団法人 コミュニティシネマセンター	1本
中川信夫監督没後25年特集上映	酒豆忌実行委員会	1本
検証・日本映画 鮮烈なる東映'50～'70	「検証・日本映画 鮮烈なる東映'50～'70」実行委員会	3本
キューバ映画と講演の集い	キューバ映画と講演の集い実行委員会	2本
キューバ映画祭	キューバ映画祭実行委員会	3本
「山形国際ドキュメンタリー映画祭2009」特集企画 「やまがたと映画」内「ナトコのじかん」プログラム	特定非営利活動法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭	3本
21.1世紀の音楽会	同志社大学学生支援機構学生支援センター	1本
2009年特別展『土佐が誇る名優 「澤田正二郎」展—龍馬を演じた奇才—』 の関連企画講演「澤田正二郎と新国劇—近代演劇史のなかで」	高知市立自由民権記念館	1本
マキノ雅弘監督特集	財団法人三鷹市芸術文化振興財団	3本
科学映画特集	特定非営利活動法人たかさきコミュニティシネマ	6本
社会教育法制定60周年記念全国公民館研修大会	社団法人 全国公民館連合会	1本
第22回東京国際映画祭の中の企画上映 「アジアの風」及び提携企画「東京国際女性映画祭」	財団法人日本映像国際振興協会 東京国際映画祭実行委員会	4本
田中絹代映画祭	福岡市総合図書館	2本
第11回世田谷フィルムフェスティバル 特集：名優・森繁久彌	財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館	1本



第31回びあフィルムフェスティバル 全国開催 「福島こどものみらい映画祭」の中の企画 『心の色, 映画の力』	びあ株式会社 PFF事務局 福島こどものみらい映画祭実行委員会	4本 1本
貴志康一生誕100周年記念シンポジウム 1930年代, ベルリンの日本人～貴志康一とその周辺	貴志康一生誕100周年記念シンポジウム実行委員会	2本
第12回京都国際学生映画祭の中の特集上映, 「超越者たち～科学映画&芸術映画特集上映～」	第12回京都国際学生映画祭	1本
群馬県「地域における映画上映推進事業」 としての映画上映事業「鬼石子ども映画祭」	ぐんま映像教育研究会	2本
錦之助映画祭り (パート3)	錦之助映画ファンの会	8本
第10回東京フィルメックスの特集上映 『ニッポン★モダン1930』	特定非営利活動法人 東京フィルメックス実行委員会	17本
企画展「サハリンを読む一遙か[樺太]の記憶」の 関連事業“フィルムレクチャー「北極光」”	財団法人北海道文学館	1本
ヒロシマ平和映画祭2009	ヒロシマ平和映画祭実行委員会	2本
「シネマまえばし」開館記念上映	前橋芸術週間	2本
シリーズ企画「もうひとつのフランス映画」	横浜日仏学院	1本
特別支援の必要な子どもたちのための 無料映画上映会とデジタル・アートワークショップ	ART LABOVA	2本
キューバ映画祭 in サッポロ2010	キューバ映画祭 in サッポロ実行委員会	3本
マキノ雅弘監督特集	財団法人三鷹市芸術文化振興財団	3本
黒澤明一生誕100周年記念—30作品一挙上映	T O H O シネマズ株式会社	2本
映画の楽しみ方講座	船橋市中央公民館	1本
「奇想天外シネマテーク S F ・ファンタジー特集」 特別レイトショー上映	株式会社ヒューマックスシネマ	1本
黒澤明一生誕100周年記念—30作品一挙上映	T O H O シネマズ株式会社	1本
「在日芸講座シリーズ②」講演会 『幻の名テナー永田絃次郎(金永吉) 歌の軌跡』	K . A . C (コリアアーツセンター)	1本
広島市現代美術館ウィリアム・ケントリッジ展 関連上映「ジョルジュ・メリエスに捧ぐ」	財団法人広島市文化財団	5本

[映画フィルム海外貸与] 23件35点

上映会名	主催	貸与本数
回顧展「Samurai」	アントニオ・マゾッタ財団	1本
第55回オーバーハウゼン国際短篇映画祭	オーバーハウゼン国際短篇映画祭	2本
「シティ・シンフォニー」映画特集	ドイツ・フィルムインスティテュート/ドイツ映画博物館	1本
上映企画「外国人監督が見たキューバ革命」	フィルモテカ・エスパニョーラ	1本
「ラ・ミラネシアーナ・フェスティバル2009」 上映企画「塚本の霊界」	ラ・ミラネシアーナ・フェスティバル	1本
上映企画「生伴奏による溝口健二の無声映画」	パリ・シネマ国際映画祭	1本
特別上映「沖縄映画特別展～映画の島・沖縄～」	韓国映像資料院	1本
第23回復元映画祭	チネテカ・ディ・ポローニャ	2本
第11回ソウル国際青少年映画祭上映企画 「大林宣彦監督回顧展」	ソウル国際青少年映画祭	3本
ボン無声映画祭	ミュンヘン市映画博物館	2本

上映プログラム「瀧の白糸」	ニュー・アンサンブル	1本
パースペクティブズ2009映画祭 「モンスター・マニア！」	ナンヤン工科大学通信情報学部	1本
台北金馬影展2009「市川準監督回顧展」	台北金馬影展	1本
特別上映「日本のニューウェイブのペルソナ 浅野忠信」	韓国映像資料院	1本
回顧展「日本のエロチック映画」	アントニオ・マゾッタ財団	1本
オランダ映画博物館および第39回 ロッテルダム国際映画祭における吉田喜重監督回顧展	オランダ映画博物館	1本
国立博物館シネマテークによる上映企画 「ワールド・シネマ・シリーズ」	シンガポール国立博物館	1本
第三回「子供のための映画祭」	フォーラム・ド・イマージュ	4本
吉田喜重監督回顧展	ノルウェー映画協会	1本
第7回ワールドシネマ映画祭	シネマテーク・プサン	3本
第34回香港国際映画祭における回顧番組 「島津保次郎—普通の人へのファンファーレ」	香港国際映画祭	3本
回顧展「北野武、偶像破壊者」	国立ジョルジュ・ボンビドウ芸術文化センター	1本
吉田喜重監督回顧展	デンマーク映画協会/シネマテーク	1本

[映画フィルム共催館外上映貸与] 7件76点

上映会名	主催	貸与点数
「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」巡回事業	コミュニティシネマ支援センター	3点
「川喜多かしこ生誕100年記念 日本映画海外巡回特集上映」	財団法人川喜多記念映画文化財団 独立行政法人国際交流基金	4点
NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@Goethe	京都国立近代美術館	19点
「無声時代ソビエト映画ポスター展」にともなう 「ソビエト無声映画上映会」	京都国立近代美術館	3点
「MANGA IMPACT」展 「日本の初期アニメーション映画」部門	ロカルノ国際映画祭 トリノ国立映画博物館	28点
「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」巡回事業	一般社団法人コミュニティシネマセンター	16点
「生誕百年 映画監督 山中貞雄」巡回事業	一般社団法人コミュニティシネマセンター	3点

[映画関連資料貸与] 5件68点

上映会名	主催	貸与点数
浅草オペラと昭和の芸能—田谷力三と俳優たちの物語	台東区立下町風俗資料館	1点
街にキネマがあったころ	さいたま市立博物館	5点
H・R・ギーガー展	ドイツ映画研究所 ドイツ映画博物館	1点
日本のエロティック映画ポスター展	シネマテーク・ケベコワーズ	48点
マンガ・インパクト	イタリア国立映画博物館	13点

## 【平成20年度】

### ◆赤崎陽子

「一映画祭とは何か—映画祭の歴史と現在」／「映画祭」と「コミュニティシネマ」に関する基礎調査報告書(コミュニティシネマ支援センター、2008年6月20日)

講演「赤い陣羽織」について／第64回国際フィルムアーカイブ連盟パリ会議(シネマテーク・フランセーズ、2008年4月23日)

### ◆板倉史明

「(映画に関する総合的な辞典の項目執筆)」／世界映画大事典(日本図書センター、2008年6月30日)

「124本の映画フィルムを寄贈」／全米日系人博物館ニュースレター(2008 Spring Volume 11)

「メディアの広場。フィルムを守り、継承する」／視聴覚教育(財団法人 日本視聴覚教育協会、2008年7月号)

「日本映画と文学——領域横断的な研究の可能性」／国文学論叢第30号(国士舘大学国文学会、2009年3月)

講演「日本における映画保存」／第3回 映画の復元と保存に関するワークショップ(会場：京都府京都文化博物館、2008年8月30日)

講演「日本における映画保存」／「第3回映画の復元と保存に関するワークショップ」in 東京(会場：協和会の蔵、2008年11月8日)

講演「視線と眩暈——美空ひばりのアクション時代劇」／第13回日本映画シンポジウム「女侠繚乱 日本映画のなかの女性アクション」(会場：明治学院大学白金校舎、2008年6月21日)

講演「日本映画と文学——映画研究の可能性」／国士舘大学国文学会(会場：国士舘大学世田谷キャンパス多目的ホール、2008年10月)

講演「映像メディアにおける音分析へのアプローチ」／マス・コミュニケーション学会メディア史研究部会(会場：フィルムセンター小ホール、2008年10月23日)

### ◆入江良郎

「ノンフィルム：収集、フェアユースとアクセス」／映像文化の創造と倫理 立命館大学映像学部現代GP「映像文化の創造を担う実践的教育プログラム」報告書(2008年度)(立命館大学映像学部、2009年3月25日)

「(映画に関する総合的な辞典の項目執筆と資料編纂)」／世界映画大事典(日本図書センター、2009年6月30日)

### ◆岡島尚志

「映画、フィルムで保存を」／朝日新聞(朝日新聞社、2008年5月24日)

「FIAF70周年記念マニフェスト」／ジャーナル・オブ・フィルム・プレザベーション(FIAF、2008年10月)

「分科会「シネマテーク・プロジェクト」、映像学芸員—資格の新設とその目的」／全国コミュニティシネマ会議2008 in 仙台 報告書(コミュニティシネマ支援センター、2009年1月31日)

「デジタル保存の“3C”原則 デジタルvs フィルム(改訂版)」／学術情報研究 2009年3月号 [通巻207号](学術ソフトウェア情報研究センター、2009年3月10日)

「フィルムセンター、映画保存、デジタル・シフト」／彩の国ビジュアルプラザ広報誌VPLA第19号(埼玉県、2009年3月13日)

「フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題について その最前線」／映像文化の創造と倫理 立命館大学映像学部現代GP「映像文化の創造を担う実践的教育プログラム」報告書(2008年度)(立命館大学映像学部、2009年3月25日)

「フィルム・アーキビストの未来／フィルムセンターの仕事」／映像アーカイブのノート(NPO法人映像メディア創造機構、2009年3月31日)

「(映画に関する総合的な辞典の項目執筆)」／世界映画大事典(日本図書センター、2008年6月30日)

報告「パンドラの箱——フィルム・アーカイブと権利問題」／国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)第64回パリ会議(会場:シネマテーク・フランセーズ、2008年4月22日)

報告「FIAF70周年記念manifesto」／国際フィルム・アーカイブ連盟第64回パリ会議(会場:シネマテーク・フランセーズ、2008年4月25日)

報告「フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題について その最前線」／立命館大学 特別講義(会場:立命館大学、2008年5月2日)

報告「To Have and Have Not—日本における返還映画の経験」／韓国映像資料院(KOFA)新館開館記念シンポジウム(会場:韓国映像資料院、2008年5月10日)

報告「フィルム・アーキビストの未来／フィルムセンターの仕事」／NPO法人映像メディア創造機構セミナー「アーカイブの未来」(会場:東京藝術大学大学院映像研究科、2008年7月26日)

報告「映像学芸員—資格の新設とその目的」／全国コミュニティシネマ会議2008 in 仙台 分科会「シネマテーク・プロジェクト」(会場:せんだいメディアテーク、2008年8月30日)

#### ◆岡田秀則

「(映画に関する総合的な辞典の項目執筆)」／世界映画大事典(日本図書センター、2008年6月30日)

「フィルム・アーカイヴという想像力」／[中央評論(中央大学出版部)第264号、2008年7月31日発行]

「シネマテークの新しい力」朝日新聞(朝日新聞社) 2009年2月21日夕刊

報告「『撮る』と『撮られる』—眼の座標をめぐるドキュメンタリー映画の歴史から」／日本文化人類学会第42回研究学会(会場:京都大学吉田キャンパス、2008年6月1日)

報告「シネマテークの昨日、今日、明日」／せんだいメディアテーク「スタジオ・レクチャー」(せんだいメディアテーク、2008年9月21日)

「旅の終わり—袋一平とソビエト映画ポスター」／『東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》カタログ』(フィルムセンター、京都国立近代美術館編集、2009年1月8日)

#### ◆榎木 章(発表者名=とちぎあきら)

「途方に暮れつつ、集めつづける—海外に残存する戦前日本映画を対象としたフィルムセンターの映画収集事業」／Intelligence第10号(20世紀メディア研究所、2008年8月28日)

「デジタルを通してフィルムが見える—フィルム・アーカイビングの現場から」／日本写真学会誌第72巻第1号(日本写真学会、2008年2月25日)

「極私的に、アーカイブの仕事を通してフィルムの媒体・保存・復元を考える」／映像文化の創造と倫理 立命館大学映像学部現代GP「映像文化創造を担う実践的教育プログラム」報告書（2008年度）（立命館大学映像学部、2009年3月25日）

報告「フィルム・アーカイブ～フィルムの資料的価値と魅力について～」／神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会相模原大会 社会教育分科会「貴重な映像資産はフィルムで～映像資産の継承・アーカイブの役割と取り組み～」(会場：相模原市民会館第2大会議室、2008年11月14日)

報告「映画保存におけるナショナルとリージョナルの対話に向けてーフィルムセンターからの視点」／シンポジウム「地域映像の力ー新潟からの情報発信とアーカイブ構築をめざして」(会場：新潟県民会館小ホール、2009年2月7日)

報告「フィルムの身になって考える映画保存ーなぜフィルム原版の長期保管が必要か」／シンポジウム「岩波映画の一億フレーム」(会場：東京大学大学院情報学環福武ホール、2009年2月14日)

#### ◆その他

カタログ「無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》」(フィルムセンター、京都国立近代美術館編集、2009年1月8日発行)

カタログ「カナダ・アニメーション映画名作選」(フィルムセンター編集、2009年3月17日発行)

カタログ「オランダ映画祭2009」(キネマ旬報社発行、キネマ旬報映画総合研究所編集、フィルムセンター編集協力、2009年2月)

#### 【平成21年度】

##### ◆赤崎陽子

「ジャン・ルノワールの再評価と1950年代フランスの「若者文化」」／京都国立近代美術館ニュース『視る』439号(2009年7月7日)

インタビュー「東京国立近代美術館フィルムセンター 夏休みキッズ企画「こども映画館」2009」／『美術教育』(財団法人教育美術振興会、2009年10月1日)

映画紹介記事「名画の指定席『密告』」／東商新聞(2010年1月20日)

映画紹介記事「名画の指定席『踊るニューヨーク』」／東商新聞(2010年2月20日)

映画紹介記事「名画の指定席『歴史は女で作られる』」／東商新聞(2010年3月20日)

##### ◆板倉史明

「視線と眩暈——美空ひばりの異性装時代劇」／四方田犬彦・鶯谷花編『戦う女たちー日本映画の女性アクション』(作品社、2009年8月8日)

「フィルム・アーカイブにおける映像資料の保存と復元 歴史学にとっての映画」／『歴史評論』2009年11月号(校倉書房、2009年10月10日)

『『史劇 楠公訣別』(1921年)の可燃性ネガフィルムを同定する』／『東京国立近代美術館研究紀要』第14号(2010年3月31日)

映画研究書の解説「映画と社会心理:S.クラカウアー『カリガリからヒトラーへ』」／井上俊編『ポピュラー文化(社会学ベーシックス7)』(世界思想社、2009年4月27日)

講演「日本における映画保存」／第4回映画の復元と保存に関するワークショップ(会場：京都府京都文化博物館、2009年8月29日)

◆入江良郎

報告「演劇博物館所蔵映画フィルムの調査・目録整備と保存活用」／早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点での成果報告(会場：早稲田大学早稲田キャンパス6号館3階レクチャールーム、2010年2月27日)

◆岡島尚志

(「巻頭随想」欄)「国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)会長に就任して」／『映画テレビ技術』2009年9月号(日本映画テレビ技術協会、2009年9月1日)

「フィルム・アーカイブと映画文化」／『友 Iwanami Hall』2009年秋号No.363(岩波ホール、2009年10月10日)

(「展望」欄)「コンテンツ／キャリアの保存と分離—映画・映像の長期保存に関する一考察」／『日本映像学会報』No.149(日本映像学会、2010年1月1日)

インタビュー(類似の紹介記事が、産経新聞6月21日朝刊と読売新聞7月2日朝刊等に掲載)「世界の映画保存をさらに推進—FIAF会長に聞く」／『ユニ通信』No.5446(ユニ通信社、2009年8月6日)

鼎談の採録(鼎談者：水嶋英治、栗原祐司)「鼎談 フィルム・アーカイブ—日本の果たすべき役割—」／『ミュゼ』第90号(アム・プロモーション、2009年10月25日)

講演の採録「フィルム・アーカイブと映画上映の未来」／『全国コミュニティシネマ会議2009 in 川崎・報告書』(コミュニティシネマセンター、2010年2月26日)

講演の採録「映画保存の国際的な広がり」とアーカイブ間の協力—FIAFの活動を中心に—」／『立命館大学映像学部現代GP「映像文化の創造を担う実践的教育プログラム」報告書(2009年度)・映像文化の創造と倫理』(立命館大学映像学部、2010年3月25日)

講演(対象は立命館大学全学部、大学コンソーシアム京都加盟校、京都カレッジ生社会人)「映画保存の国際的な広がり」とアーカイブ間の協力—FIAFの活動を中心に—」／立命館大学特殊講義「映像学「映像文化の創造と倫理」」(会場：立命館大学映像学部、2010年4月30日)

標記シンポジウムのアジア部門パネルと司会(英語)「シネマテーク—新たな観客を求めて(Cinematheques – In Search of New Audiences)」／第65回国際フィルム・アーカイブ連盟会議(会場：シネマテーク・アルヘンティーナ(ブエノスアイレス)、2009年5月25日)

講演「フィルム・アーカイブと映画上映の未来」／全国コミュニティシネマ会議2009 in 川崎(会場：新百合トウェンティワンホール、2009年9月4日)

講演「世界のフィルム・アーカイブを展望する」／あいち国際女性映画祭2009(会場：ウィルあいち3階会議室、2009年9月6日)

講演とパネルディスカッション(英語、他のパネリスト：ガブリエル・クラス、エリック・ルロワ他)「21世紀のフィルム・アーカイブとデジタル化(Film Archives and Digitization in the 21st Century)」／ギリシャ国立フィルム・アーカイブ主催セミナー(会場：ギリシャ国立フィルム・アーカイブ(アテネ)、2009年10月11日)

講演「FIAFとフィルムセンター(Introducing FIAF and NFC)」／中国電影資料館主催セミナー(会場：中国電影資料館(北京)、2009年10月22日)

ゲストトーク(聞き手:堀家敬嗣、阿部一直)「映画フィルムの保存と地方映像の重要性」/巡回上映「生誕百年 映画監督 マキノ雅弘」(会場:山口情報芸術センター(スタジオC)、2009年12月19日)

講演とパネル「映像アーカイブとメディア文化財の活用」/日本学術会議社会科学委員会メディア文化研究分科会(会場:日本学術会議講堂、2010年1月30日)

対談:松本正道「映画上映の未来」/映画美学校・映画上映専門家養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」(会場:映画美学校、2010年3月16日)

講演とパネルディスカッション「映像アーカイブの現状と未来」/サイエンス映像学会第3回大会シンポジウム(会場:サピアタワー(9階ホール)、2010年3月21日)

#### ◆岡田秀則

朝刊文化欄『ドキュメンタリー作家 土本典昭』展に寄せてよみがえる「魂の労働」/公明新聞(公明新聞社、2009年7月5日)

インタビュー「シネマテークと映像教育の可能性」/『シネリテラシー』vol.1(早美出版社、2009年9月17日)

オランダで出版された研究書「*The Rise and Fall of the Nippon Eigasha Jakarta Studio*」/『*The Encyclopedia of Indonesia in the Pacific War*』(Brill、2010年1月)

研究ノート「撮る」と「撮られる」—眼の座標をめぐって:ドキュメンタリー映画の歴史から」/『コンフリクトの人文科学』第2号(大阪大学出版会、2010年3月15日)

講演「Non-film (ノンフィルム) フランスの映画資料保存」/映画保存協会ゲストレクチャーNo.8(会場:協和会の蔵、2009年4月21日)

対談とパネルディスカッション「たのしい科学—岩波映画の理科教室」/記録映画アーカイブ・プロジェクト 第2回ワークショップ(会場:東京大学情報学環・福武ホール、2009年10月18日)

講演「川喜多かしこの映画人生」/鎌倉市教養センター一般教養講座(会場:鎌倉市教養センター、2009年11月2日)

「ディレタントの滴—新外映とフランス映画ポスター」/『戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より』(フィルムセンター編集、2010年1月7日)

#### ◆榎木 章(発表者名=とちぎあきら)

「国立美術館・博物館研究員は語る」欄「文化財としての映画フィルム」/『文部科学時報』平成21年4月号 No.1599(2009年4月10日)

「映画『紅葉狩』の重要文化財指定について」/『映画テレビ技術』2009年8月号 No.684(社団法人日本映画テレビ技術協会、2009年8月1日)

講演「『はかりごと』としてのフィルム・アーカイビング—映画フィルムにおける規格を巡って」/立命館大学映像学部現代GP特殊講義(会場:立命館大学映像学部、2009年4月23日)

パネルディスカッション「映像学芸員/映像アート・マネージャーの育成」/全国コミュニティシネマ会議2009 in川崎 分科会2(会場:新百合トウエンティワンホール会議室、2009年9月5日)

講演「『映画を残す』という仕事—映画上映を志す人のためのフィルム・アーカイブ入門」/映画美学校・映画上映専門家養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」(会場:映画美学校、2009年9月15日)

講演「国立台湾歴史博物館所蔵戦前日本アニメーション映画について」／国際ワークショップ「植民地期台湾の映画フィルム史料に関する研究」(会場：日本大学文理学部、2009年9月26日)

パネルディスカッション「桐生市立図書館旧蔵CIE映画のフィルム・アーカイビング」／新潟大学人文学部、愛媛大学法文学部学際協定事業シンポジウム「にいがた 戦争から占領へ 映像で探る記憶のたび」(会場：新潟県立生涯学習推進センターホール、2009年12月19日)

講演「生きた記憶としてのフィルム・アーカイブ」／神戸映画資料館を支える会 会議2010 (会場：神戸映画資料館、2010年1月30日)

◆その他

カタログ「戦後フランス映画ポスターの世界」展 (フィルムセンター編集 2010年1月7日)

※以下の「NFCニューズレター」に発表した論文等は除く

【平成20年度】

NFCニューズレター 78号(2008年4月-5月号)～83号(2009年2月-3月号)

【平成21年度】

NFCニューズレター 84号(2009年4月-5月号)～89号(2010年2月-3月号)



#### 【平成20年度】

平成17年度から19年度にかけて行われた「国際映画新聞」の復刻に続いて、ゆまに書房の刊行により、戦前期の重要な映画雑誌である「キネマ週報」を復刻した。今回復刻される259冊のうち本年度内には第1回～第3回配本として1号から138号まで(136号を除く)137冊の原本提供を行った。

#### ①収集活動

収集件数 1,423件

#### ②図書室公開活動

公開日数 240日  
 公開件数 28,929件(和書24,969件／洋書3,960件)  
 入室者数 3,621人  
 公開請求件数 895件  
 複写利用数 1,598人(13,229枚)

#### 【平成21年度】

平成20年度に続いて、ゆまに書房の刊行により、戦前期の重要な映画雑誌である「キネマ週報」を復刻した。今回復刻される259冊のうち本年度内には第4回～第5回配本として139号から223号まで85冊の原本提供を行った。

また、日常の図書収集活動について来館者に周知させるため、図書室内に新着図書コーナーを新たに設置、インターネットの上でも新着図書情報の積極的な発信を開始した。今後のデータベースへの登録を見越して、これまでリスト化されていなかった図書室内の映画雑誌のリスト化に着手した。

#### ①収集活動

収集件数 903件

#### ②図書室公開活動

公開日数 233日  
 公開件数 29,832件(和書25,819件／洋書4,013件)  
 入室者数 3,206人  
 公開請求件数 989件  
 複写利用数 1,096件(13,773枚)

【平成20年度】

◆「京都国立近代美術館＋東京国立近代美術館フィルムセンター共催  
フィルム・プロジェクト野外上映会『イワン雷帝』

開催回数：1回

参加者数：167人

開催場所：京都国立近代美術館

◆「中央区丸ごとミュージアム」への協力

期間：平成20年11月2日(日)

開催場所：展示室 ※無料開放を実施

【平成21年度】

◆「カルト・ブランシュ～期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画～」

期間：平成21年10月10日(土)、11日(日)、11月28日(土)、29日(日)、  
12月12日(土)、13日(日)(6日間)

共催：エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社

参加者数：165人

開催場所：小ホール

◆ 特別映写観覧による職能教育研修会等への協力

【平成20年度】

実施件数：17件

参加者数：1,579人

【平成21年度】

実施件数：18件

参加者数：1,388人

◆ 小中学高等学校・大学の授業等への協力

【平成20年度】

実施件数：12件

参加者数：108人

【平成21年度】

実施件数：7回

参加者数：93人

◆ 研修等への協力

【平成20年度】

実施件数：1件

参加者数：2人

【平成21年度】

実施件数：3件

参加者数：18人

## 【平成20年度】

## ◆「こども映画館 2008年の夏休み」

内 容：「こども映画館」は7年目を迎えた。映画上映に施設見学や弁士・生演奏付きの無声映画上映等を組み合わせるスタイルを踏襲して開催した。

実施回数：4回(平成20年8月1日、8月2日、8月8日、8月9日)

参加者数：330人

会 場：小ホール

## ◆相模原分館における小・中学生を対象とした上映会

内 容：相模原市立由野台中学校3年生(上映作品『ブラックジャック』)  
相模原市立由野台中学校2年生(上映作品『ブラックジャック』)

実施回数：2回(平成21年3月5日、3月19日)

参加者数：222人

会 場：相模原分館

## 【平成21年度】

## ◆「こども映画館 2009年の夏休み」

内 容：「こども映画館」は8年目を迎えた。映画上映に施設見学や弁士・生演奏付きの無声映画上映等を組み合わせるスタイルを踏襲して開催した。

実施回数：4回(平成21年7月31日、8月1日、8月7日、8月8日)

参加者数：357人

会 場：小ホール

## ◆相模原市内の小・中学生を対象とした上映会(由野台中学校)

内 容：相模原市立由野台中学校3年生(上映作品『がんばっていきまっしょい』)

実施回数：1回(平成22年3月5日)

参加者数：110人

会 場：由野台中学校

## ◆相模原分館「子供映画鑑賞会と施設探検ツアー」

内 容：相模原市・宇宙航空研究機構・東京国立近代美術館の間で締結した「文化事業等の協力協定」を基に実施した。(上映作品『村祭』等)

実施回数：2回(平成21年7月24日、7月25日)

参加者数：113人

会 場：相模原分館

## ◆相模原分館「さがみ風っ子文化祭」親子映画鑑賞会

平成21年10月31日

実施回数：2回

内 容：上映作品(『グリックの冒険』、『少年時代』)

参加者数：20人

会 場：相模原分館

## 1-4-1 シンポジウム Symposium

## 【平成20年度】

## ①ユネスコ「世界視聴覚文化遺産の日」記念特別イベント「甦る新版大岡政談」

実施日：平成20年10月26日

開催場所：大ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：301人

講師：梶田章(映画史家)

ゲスト：澤登翠(弁士)、柳下美恵(ピアノ演奏)

ユネスコが2006年に定めた「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)を記念するイベント事業の第1回目として、大河内傳次郎(主演)＝伊藤大輔(監督)＝唐沢弘光(撮影)の代表作であり日本の無声映画を代表する傑作とも評されながら、既にフィルムが失われた『新版大岡政談』を取り上げ、大河内研究の第一人者として知られる映画史家・梶田章氏の蒐集によるスチル写真のスライド投影と澤登翠氏の弁士、柳下美恵氏のピアノ伴奏で再現を試みた。また作品やその背景に関する梶田章氏の講演を行った。

## ②映像メディア・アーカイヴ人材交流事業 国際シンポジウム

「映像アーカイヴの未来」特定非営利活動法人映像メディア創造機構

実施日：平成20年11月29日

開催場所：小ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

講師：岡島尚志(フィルムセンター主幹)

ゲスト：シャネル・ルティエ(カナダ国立映画制作庁 アジア太平洋・中近東国際セールス部門部長)

ジャン＝リュック・ヴェルネ(フランス国立視聴覚研究所 国際マーケティング&セールス部門部長)

チョ・ソユン(韓国映像資料院 デジタル情報マネジメントチーム部長)

関本好則(日本放送協会 放送総局特別主幹)

榎木章(フィルムセンター主任研究員)※発表者名＝とちぎあきら

松本正道(コミュニティシネマ支援センター 運営委員長)

桂英史(東京藝術大学大学院映像研究科 メディア文化財領域准教授)

参加者数：116人

特定非営利活動法人映像メディア創造機構と共同でシンポジウム「映像アーカイヴの未来」を開催し、カナダ、フランス、韓国ならびに国内の映像アーカイヴ等から専門家を招いて映画の保存と活用についてプレゼンテーションとパネルディスカッションを行った。

【平成21年度】

①EUフィルムデーズ2009

実施日：平成21年5月30日

開催場所：大ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：131人

大ホールの上映企画「EUフィルムデーズ2009」のために来日した『カザンボロフ兄弟』(2008年、チェコ)のペトル・ゼレンカ監督と主演俳優のイヴァン・トロヤン氏、『クリスマス・オラトリオ』(1996年、スウェーデン)のシェル＝オーケ・アンデション監督と主演俳優のヨーワン・ヴィーデルベリ氏、『カマロン』(2005年、スペイン)のプロデューサーのミゲル・メネンデス・デ・スピリャーガ氏、『私は死んでいない』(2008年、フランス)のジャン＝シャルル・フィトゥシ監督を招き、古賀太氏(日本大学芸術学部教授)の司会で「ヨーロッパ映画製作の現状と将来：ローカル or グローバル?～各国、そして、欧州のアイデンティティ」と題するシンポジウムを開催した。

②ユネスコ「世界視聴覚文化遺産の日」記念特別イベント「『幸福』特別上映会：シルバーカラーの復元」

実施日：平成21年10月24日

開催場所：大ホール

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター

参加者数：217人

講師：鈴木美康(フィルムセンター技能補佐員)

ゲスト：手塚昌明(映画監督)

ユネスコが2006年に定めた「世界視聴覚遺産の日」(10月27日)を記念するイベント事業の第2回目として、市川崑監督、水谷豊主演の『幸福』(1981年)を取り上げ、「シルバー・カラー」と呼ばれる特殊現像プロセスを再現した復元版プリントを初披露するとともに、1981年当時東洋現像所(現・IMAGICA)で本作の仕上げを担当し今回のプリント復元でもフィルムセンターの技能補佐員として監修を務めている鈴木美康の講演、『幸福』製作当時のスタッフであった手塚昌明氏によるトークを行った。

1-4-2 ゲストトーク Post-Screening Talk

【平成20年度】

①企画上映「発掘された映画たち2008」

開催回数：8回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成20年4月24日 板倉史明(フィルムセンター研究員)  
(同日1回目)

平成20年4月24日 板倉史明(フィルムセンター研究員)  
(同日2回目)

平成20年4月26日 榎木章(フィルムセンター主任研究員)

平成20年5月3日 赤崎陽子(フィルムセンター研究員)  
平成20年5月8日 榎本章(フィルムセンター主任研究員)  
平成20年5月10日 板倉史明(フィルムセンター研究員)  
平成20年5月14日 板倉史明(フィルムセンター研究員)  
平成20年5月15日 板倉史明(フィルムセンター研究員)

参加者数：1,098人

②共催上映「生誕100年 川喜多かしことヨーロッパ映画の黄金時代」

開催回数：2回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成20年8月5日 佐藤忠男(映画評論家)

平成20年9月7日 ドナルド・リチー(映画評論家)

参加者数：495人

③共催上映「第9回東京フィルメックス 特集上映 蔵原惟繕監督特集～狂熱の季節～」

開催回数：4回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成20年11月22日 蔵原惟二(映画監督)

平成20年11月22日 白鳥あかね(スクリプター)

黒須孝治(元日活企画部)

平成20年11月23日 瀬川昌治(映画監督、『ある脅迫』脚本家)

平成20年11月25日 浅丘ルリ子(映画女優)

参加者数：701人

④共催上映「日本オランダ年2008-2009 オランダ映画祭2009」

開催回数：3回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成21年2月24日 クラウディア・ランズベルガー(ホランドフィルム マネージング・ディレクター)

レオンティーン・ペティート(『ドゥーニャ&デイジー』プロデューサー)

ヘーネ・ベルヴィッツ(『ドウスカ』『パニシング』主演俳優)

ヨーラム・リュルセン(オランダ王国大使館文化・広報担当)

平成21年2月24日 ヘーネ・ベルヴィッツ(『ドウスカ』『パニシング』主演俳優)

平成21年2月25日 ヨーラム・リュルセン(『ラブ・イズ・オール』監督)

参加者数：412人

⑤企画上映「カナダ・アニメーション映画名作選」

開催回数：3回

開催場所：大ホール

ゲ ス ト：平成21年3月20日	マルコ・ドウ・ブロワ（シネマテーク・ケベコワーズ アニメーション部門プログラミング／保存担当）
平成21年3月21日	マルコ・ドウ・ブロワ（シネマテーク・ケベコワーズ アニメーション部門プログラミング／保存担当）(同日1回目)
平成21年3月21日	マルコ・ドウ・ブロワ（シネマテーク・ケベコワーズ アニメーション部門プログラミング／保存担当）(同日2回目)

参加者数：255人

⑥共催上映「EUフィルムデーズ2008」

開催回数：11回

開催場所：大ホール(1回から5回まで)、小ホール(6回から11回まで)

ゲ ス ト：平成20年5月16日	ブランコ・ジュリッチ(監督・主演) ターニャ・リビッチ(主演女優)
平成20年5月18日	ダニエル・アギラル(映画研究家)
平成20年5月18日	ブランコ・ジュリッチ(監督・主演) ターニャ・リビッチ(主演女優)
平成20年5月20日	エリー・キュレ（駐日フランス大使館文化 部・『タンギー』にエキストラ出演）
平成20年5月22日	クリスティヨナス・ヴィルジュナス (映画監督)
平成20年5月23日	ポール・ステインメッツ（駐日ルクセン ブルク大使）
平成20年5月27日	クリスティヨナス・ヴィルジュナス (映画監督) ウリヤナ・キム(映画プロデューサー)
平成20年5月28日	イリヤ・コストフ(映画監督)
平成20年5月28日	ペキー・フランツェン（ルクセンブルク 大使館公使参事官）
平成20年5月31日	エリー・キュレ（駐日フランス大使館文 化部・『タンギー』にエキストラ出演）
平成20年6月1日	イリヤ・コストフ(映画監督)

参加者数：1,591人

⑦共催上映「日本インディペンデント映画史シリーズ①」

PF30回記念 ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.1」

開催回数：18回

開催場所：小ホール

ゲ ス ト：平成20年6月24日	長崎俊一(映画監督)
平成20年6月26日	手塚真(映画監督)
平成20年6月27日	芹沢洋一郎(映画監督)
平成20年6月27日	緒方明(映画監督)
平成20年6月28日	山崎幹夫(映画監督)
平成20年6月29日	関根博之(映画監督) 小口詩子(映画監督)

平成20年7月2日	斎藤久志(映画監督)
平成20年7月3日	七里圭(映画監督)
平成20年7月4日	常本琢招(映画監督)
平成20年7月6日	宇田川幸洋(映画監督)
平成20年7月8日	手塚眞(映画監督)
平成20年7月9日	山崎幹夫(映画監督)
	クマガイコウキ(映画監督)
平成20年7月12日	石井聰互(映画監督)
平成20年7月13日	芹沢洋一郎(映画監督)
	山川直人(映画監督)
平成20年7月15日	斎藤久志(映画監督)
平成20年7月16日	七里圭(映画監督)
平成20年7月17日	常本琢招(映画監督)
平成20年7月18日	関根博之(映画監督)

参加者数：634人

⑧企画上映「アメリカ映画史研究②」

開催回数：2回

開催場所：小ホール

ゲスト：平成21年2月21日 檜山博士(フィルムセンター客員研究員)  
平成21年3月7日 檜山博士(フィルムセンター客員研究員)

参加者数：241人

【平成21年度】

①「発掘された映画たち2009」

開催回数：5回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成21年4月24日 板倉史明(フィルムセンター研究員)  
平成21年4月26日 榎木章(フィルムセンター主任研究員)、  
中西萌子(日夏英太郎監督ご遺族)  
平成21年4月26日 榎木章(フィルムセンター主任研究員)  
平成21年4月28日 榎木章(フィルムセンター主任研究員)  
中西萌子(日夏英太郎監督ご遺族)  
平成21年5月23日 板倉史明(フィルムセンター研究員)

参加者数：853人

②「日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 ブルガリア映画特集」

開催回数：1回

開催場所：小ホール

ゲスト：平成21年5月3日 ダニエラ・ニコロヴァ(ブルガリア大使館文化・広報・教育担当)

参加者数：140人

③「EUフィルムデーズ2009」

開催回数：5回

開催場所：大ホール



ゲ ス ト：平成21年5月29日	シェル＝オーケ・アンデション(『クリスマス・オラトリオ』監督)
	ヨーワン・ヴィーデルベリ(『クリスマス・オラトリオ』主演俳優)
平成21年5月30日	ペトル・ゼレンカ(『カラマーゾフ兄弟』監督)
	イヴァン・トロヤン(『カラマーゾフ兄弟』主演俳優)
平成21年5月31日	ジャン＝シャルル・フィトゥシ(『私は死んでいない』監督)
平成21年6月3日	ミゲル・メネンデス・デ・スピリャーガ(『カマロン』プロデューサー)
平成21年6月10日	ジャン＝シャルル・フィトゥシ(『私は死んでいない』監督)

参加者数：1,123人

④「日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.2」

開催回数：13回

開催場所：小ホール

ゲ ス ト：平成21年7月1日	大川戸洋介(『恋の姿見』監督)
平成21年7月4日	橋口亮輔(『夕辺の秘密』監督)
平成21年7月7日	杉浦昭嘉(『流れるままのグリーン』監督)
平成21年7月8日	工藤義洋(『家族ケチャップ』監督)
平成21年7月10日	中嶋莞爾(『はがね』監督)
平成21年7月10日	渡辺一志(『19 (ナインティーン)』監督)
平成21年7月11日	村松正浩(『シンク』監督)
平成21年7月15日	井川耕一郎(『ついのすみか』監督)
平成21年7月16日	大川戸洋介(『恋の姿見』監督)
平成21年7月18日	工藤義洋(『家族ケチャップ』監督)
平成21年7月22日	村松正浩(『シンク』監督)
平成21年7月23日	杉浦昭嘉(『流れるままのグリーン』監督)
平成21年7月23日	中嶋莞爾(『はがね』監督)

参加者数：267人

⑤「第31回ぴあフィルムフェスティバル」

開催回数：21回

開催場所：大ホール

ゲ ス ト：平成21年7月17日	佐々木靖之(監督)、中嶋祐介(監督)
平成21年7月17日	木村承子(監督)、飯塚諒(監督)
平成21年7月18日	岩永洋(監督)、任書剣(監督)
平成21年7月18日	奥田庸介(監督)、佐々木想(監督)
平成21年7月18日	加納隼(監督)、武田真悟(監督)
平成21年7月19日	松村真吾(監督)、井上真行(監督)
平成21年7月19日	蔦哲一郎(監督)
平成21年7月19日	頃安祐良(監督)、加治屋彰人(監督)
平成21年7月22日	黒沢清(監督)(同日1回目)

平成21年7月22日	黒沢清(監督)(同日2回目)
平成21年7月23日	武田真悟(監督)
平成21年7月23日	松村真吾(監督)、井上真行(監督)
平成21年7月23日	岩永洋(監督)、任書剣(監督)
平成21年7月24日	大畑創(監督)、蔦哲一郎(監督)
平成21年7月24日	奥田庸介(監督)
平成21年7月24日	頃安祐良(監督)
平成21年7月25日	若松孝二(監督)
平成21年7月26日	木村承子(監督)、飯塚諒(監督)
平成21年7月26日	佐々木靖之(監督)、中嶋祐介(監督)
平成21年7月30日	是枝裕和(監督)
平成21年7月30日	石井裕也(監督)、満島ひかり(出演者)、 遠藤雅(出演者)

参加者数：2,948人

⑥「映画監督 篠田正浩」

開催回数：3回

開催場所：大ホール

ゲスト：平成22年2月20日	篠田正浩(監督)(同日1回目)
平成22年2月20日	篠田正浩(監督)(同日2回目)
平成22年3月10日	篠田正浩(監督)

参加者数：594人

⑦「《京橋映画小劇場 No.17》NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究③」

開催回数：2回

開催場所：小ホール

ゲスト：平成22年2月27日	檜山博士(フィルムセンター客員研究員)
平成22年3月13日	檜山博士(フィルムセンター客員研究員)

参加者数：198人

1-4-3 ギャラリートーク Gallery Talk

【平成20年度】

①「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1」

開催回数：4回

開催場所：展示室

講師：平成20年4月19日	田中眞澄(映画史家・フィルムセンター客員研究員)
平成20年5月10日	田中眞澄(映画史家・フィルムセンター客員研究員)
平成20年6月14日	田中眞澄(映画史家・フィルムセンター客員研究員)
平成20年7月12日	田中眞澄(映画史家・フィルムセンター客員研究員)

参加者数：196人

②「生誕100年 川喜多かしこ展」

開催回数：5回

開催場所：展示室

講師：平成20年8月23日 佐藤忠男(映画評論家)  
平成20年9月27日 小池晃(前川喜多記念映画文化財団事務局長)  
平成20年10月11日 大場正敏(前フィルムセンター主幹)  
平成20年11月15日 岡田秀則(フィルムセンター主任研究員)  
平成20年12月20日 岡島尚志(フィルムセンター主幹)

参加者数：253人

③「無声時代ソビエト映画ポスター展」

開催回数：2回

開催場所：展示室

講師：平成21年1月31日 井上徹(映画史・ユーラシア文化研究者)  
平成21年3月21日 貝澤哉(早稲田大学文学学術院教授／ロシア文化)

参加者数：85人

【平成21年度】

①「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2」

開催回数：3回

開催場所：展示室

講師：平成21年4月18日 田中眞澄(映画史家・文化史家、フィルムセンター客員研究員、展覧会監修者)  
平成21年5月23日 栗坪良樹(近代日本文学研究者)  
平成21年6月13日 田中眞澄(映画史家・文化史家、フィルムセンター客員研究員、展覧会監修者)

参加者数：112人

②「ドキュメンタリー作家 土本典昭」

開催回数：3回

開催場所：展示室

講師：平成21年7月11日 土本基子(土本監督夫人、映画同人シネ・アソシエ代表)、石坂健治(映画研究者)  
平成21年8月1日 中村秀之(立教大学現代心理学部教授)  
平成21年8月22日 高木隆太郎(映画プロデューサー、青林舎元代表)

参加者数 156人

③「生誕百年 映画女優 田中絹代」

開催回数：3回

開催場所：展示室

講師：平成21年9月26日 大場正敏(前フィルムセンター主幹)  
平成21年10月23日 藤井浩明(元大映プロデューサー、『流転の王妃』企画)

平成21年11月28日 梶山弘子（芸游会代表、映画スクリーンライター）

参加者数：158人

④「戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より」

開催回数：3回

開催場所：展示室

講師：平成22年1月23日 竹内次男（京都工芸繊維大学名誉教授）

平成22年3月4日 ドミニク・パイニー（映画企画プログラマー）

平成22年3月20日 岡田秀則（フィルムセンター主任研究員）

参加者数：170人

1-5 大学等との連携 Working with Universities

【平成20年度】

◆インターンシップ

受入期間 6月～8月(3ヶ月間)

実施場所 フィルムセンター

参加人数 1名(事業推進室)

事業内容 刊行物の校正、イベント運営等、事業推進室の業務全般

◆博物館実習

受入期間 平成20年8月19日～8月23日(5日間)

開催場所 フィルムセンター

参加者数 15名

事業内容 フィルムセンター各室の業務に関わる講義と実習

◆特別映写観覧による大学等への協力

実施件数 104件(296本)

参加者数 1,503人

◆国立美術館内での連携

京都国立近代美術館との連携

共催フィルム・プロジェクト野外上映会『イワン雷帝』

期間：平成20年8月1日

会場：京都国立近代美術館

【平成21年度】

◆インターンシップ

受入期間 6月～8月(3ヶ月間)

実施場所 フィルムセンター

参加人数 1名(事業推進室)

事業内容 刊行物の校正、イベント運営等、事業推進室の業務全般

◆博物館実習

受入期間 平成21年8月18日～8月22日(5日間)  
実施場所 フィルムセンター  
参加人数 11名  
事業内容 フィルムセンター各室の業務に関わる講義と実習

◆特別映写観覧による大学等への協力

実施件数 129件(397本)

◆京都国立近代美術館との連携

①「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@Goethe」

期 間：平成21年5月23日～平成22年3月31日

会 場：ドイツ文化センター(京都)

②「無声時代ソビエト映画ポスター展」

期間：平成21年7月3日～8月23日

会場：京都国立近代美術館

会期中上映会(7月30日～8月1日)、作品解説(7月30日、31日)、講演会(8月1日)を実施

◆国立西洋美術館・国立新美術館との連携

ミュージアムショップでのフィルムセンター刊行物の販売

「戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より」カタログ

※ カタログ販売委託先 5件

(東京国立近代美術館(本館)1件、国立西洋美術館1件、国立新美術館3件)

## 2-1 カタログ

## 【平成20年度】



- 無声時代ソビエト映画ポスター《袋一平コレクション》  
発行：平成21年1月8日  
編集：東京国立近代美術館フィルムセンター、京都国立近代美術館



- オランダ映画祭2009  
発行：平成21年2月 株式会社キネマ旬報社  
編集：キネマ旬報映画総合研究所、掛尾良夫、須川夕香  
編集協力：佐藤 結、東京国立近代美術館フィルムセンター



- カナダ・アニメーション映画名作選  
発行：平成21年3月17日  
編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

## 【平成21年度】



- 第31回あひ Film フェスティバル公式カタログ2009 (共催者)  
発行：平成21年7月17日  
責任編集：荒木啓子  
編集：四位晴彰



- 戦後フランス映画ポスターの世界 東京国立近代美術館  
フィルムセンター所蔵《新外映コレクション》より  
発行：平成22年1月7日  
編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

発行：東京国立近代美術館

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

【平成20年度】



- 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part1」出品リスト  
22.5×10cm/4p  
発行日：平成20年4月4日



- 平成20年度優秀映画鑑賞推進事業 鑑賞の手引  
29.7×21cm/48p  
編集：東京国立近代美術館フィルムセンター、コミュニティシネマ支援センター  
発行日：平成20年6月30日



- 「誕生100年 川喜多かしこ展」出品リスト  
22.5×10cm/4p  
発行日：平成20年7月25日



- 「無声時代ソビエト映画ポスター展」出品リスト  
22.5×10cm/4p  
発行日：平成21年1月8日

【平成21年度】



- 「映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part2」出品リスト  
22.5×10cm/4p  
発行日：平成21年4月3日



- 平成21年度優秀映画鑑賞推進事業 鑑賞の手引  
29.7×21cm/48p  
編集：東京国立近代美術館フィルムセンター、コミュニティシネマセンター  
発行日：平成21年6月30日



- 「ドキュメンタリー作家 土本典昭」出品リスト  
22.5×10cm/4p  
発行日：平成21年6月30日



- 「誕生百年 映画女優 田中絹代」作品リスト  
22.5×10cm/4p  
発行日：平成21年9月4日



- 「戦後フランス映画ポスターの世界」作品リスト  
22.5×10cm/4p  
発行日：平成22年1月7日

2-3 NFCカレンダー等 NFC Calender and Flyers

2-3-1 NFCカレンダー NFC Calender

29.7×21cm

大ホール上映作品解説／上映スケジュール

【平成20年度】



□2008年4月号  
「ルノワール＋ルノワール展」  
開催記念 ジャン・ルノワール  
映画の世界ジャン・ルノワール  
監督名作選  
4p



□2008年5月号  
発掘された映画たち2008  
6p



□2008年6-7月号  
スターと監督 長谷川一夫  
と衣笠貞之助  
6p



□2008年8-9月号  
生誕100年 川喜多かしこと  
ヨーロッパ映画の黄金時代  
6p



□2008年10-11月号  
生誕110周年 スターと監督  
大河内傳次郎と伊藤大輔  
6p



□2008年12月号  
生誕百年 映画監督  
亀井文夫  
4p



□2009年1月号  
日本映画史横断③  
怪獣・SF映画特集  
6p



□2009年2月号  
日本オランダ年2008-2009  
オランダ映画祭2009  
4p



□2009年3月号  
カナダ・アニメーション  
映画名作選  
4p



【平成21年度】



□2009年4月号  
映画の中の日本文学Part 2  
4p



□2009年5月号  
発掘された映画たち2009  
怪獣・SF映画特集Part 2  
6p



□2009年6月号  
EUフィルムデーズ2009  
4p



□2009年7-8月号  
特集・逝ける映画人を偲んで  
2007-2008  
6p



□2009年9月号  
生誕百年 映画監督 山中貞雄  
4p



□2009年10-11月号  
生誕百年 映画女優 田中絹代(1)  
6p



□2009年12月号  
生誕百年 映画女優 田中絹代(2)  
6p



□2010年1月号  
映画監督 大島渚  
4p



□2010年2月号  
アンコール特集  
1995-2004年度の上映作品より  
4p



□2010年3月号  
映画監督 篠田正浩  
4p

29.7×21cm

【平成20年度】



映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 1  
2p



生誕100年 川喜多かしこ展  
2p



無声時代ソビエト映画ポスター展  
2p

【平成21年度】



映画資料でみる 映画の中の日本文学 Part 2  
2p



ドキュメンタリー作家 土本典昭  
2p



生誕百年 映画女優 田中絹代  
2p



戦後フランス映画ポスターの世界  
2p

29.7×21cm

【平成20年度】

(ア)フィルムセンター発行



□《京橋映画小劇場 No.10》  
映画の中の日本文学 Part1  
2p



□日本インディペンデント映画史シリーズ①  
PF30回記念ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.1  
4p



□《京橋映画小劇場 No.11》  
アンコール特集  
2007年度上映作品より  
2p



□ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」特別記念イベント 失われた無声映画再現公演企画『甦る新版大岡政談』  
2p



□《京橋映画小劇場 No.12》  
映画の教室2008  
2p



□《京橋映画小劇場 No.13》  
NFC所蔵外国映画選集  
アメリカ映画史研究②  
2p

(イ)共催者発行



□EUフィルムデイズ2008



□国際シンポジウム  
映像アーカイブの未来



□第9回東京フィルメックス特集上映 蔵原惟繕監督特集  
~狂熱の季節~

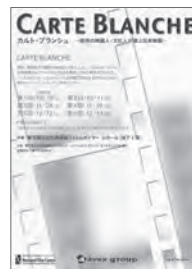
【平成21年度】  
 (ア)フィルムセンター発行



□日本・ブルガリア外交関係再開50周年記念 ブルガリア映画特集  
 2p



□日本インディペンデント映画史シリーズ② ぴあフィルムフェスティバルの軌跡vol.2  
 4p



□カルト・ブランシュ～期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画～  
 2p



□ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント 特別上映会『幸福』シルバー・カラーの復元  
 2p



□《京橋映画小劇場 No.14》ドキュメンタリー作家 土本典昭  
 4p



□川喜多かこ生誕100年記念事業 川喜多賞受賞監督作品選集  
 4p



□《京橋映画小劇場 No.15》映画の教室2009  
 2p



□《京橋映画小劇場 No.16》アンコール特集 2008年度上映作品より  
 2p



□《京橋映画小劇場 No.17》NFC所蔵外国映画選集 アメリカ映画史研究③

(イ)共催者発行



EUフィルムデーズ2009



第31回びあフィルムフェスティバル

2-3-4 こども映画館 Publicity Flyers / Kids☆Cinema

29.7×21cm

【平成20年度】



こども映画館  
2008年の夏休み  
2p

【平成21年度】



こども映画館  
2009年の夏休み  
2p

29.7×21cm/16p

発行・著作：独立行政法人国立美術館／東京国立近代美術館

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

【平成20年度】



□78号(2008年4月-5月号)  
 特集1：ジャン・ルノワール監督名作選  
 特集2：発掘された映画たち2008  
 特集3：映画の中の日本文学  
 発行日：平成20年4月1日



□79号(2008年6月-7月号)  
 特集1：長谷川一夫と衣笠貞之助  
 特集2：びあフィルムフェスティバルの軌跡  
 発行日：平成20年6月1日



□80号(2008年8月-9月号)  
 特集：生誕100年 川喜多かしこ  
 発行日：平成20年8月1日



□81号(2008年10月-11月号)  
 特集：生誕110周年  
 大河内傳次郎と伊藤大輔  
 発行日：平成20年10月1日



□82号(2008年12月-2009年1月号)  
 特集1：生誕百年 映画監督 亀井文夫  
 特集2：無声時代ソビエト映画ポスター展  
 発行日：平成20年12月1日



□83号(2009年2月-3月号)  
 特集1：怪獣・SF映画特集  
 特集2：オランダ映画祭2009  
 特集3：カナダ・アニメーション名作選  
 発行日：平成21年2月1日

【平成21年度】



- 84号(2009年4月-5月号)  
特集1：映画の中の日本文学Part 2  
特集2：発掘された映画たち2009  
特集3：怪獣・SF映画特集Part 2  
発行日：平成21年4月1日



- 85号(2009年6月-7月号)  
特集1：逝ける映画人を偲んで  
2007-2008  
特集2：ぴあフィルムフェスティバルの  
軌跡vol.2  
特集3：ドキュメンタリー作家 土本典昭  
発行日：平成21年6月1日



- 86号(2009年8月-9月号)  
特集：生誕百年 映画監督 山中貞雄  
発行日：平成21年8月1日



- 87号(2009年10月-11月号)  
特集：生誕百年 映画女優 田中絹代  
発行日：平成21年10月1日



- 88号(2009年12月-2010年1月号)  
特集1：映画監督 大島渚  
特集2：戦後フランス映画ポスターの世  
界  
発行日：平成21年12月1日



- 89号(2010年2月-3月号)  
特集：映画監督 篠田正浩  
発行日：平成22年2月1日

【平成20年度】

(ア)上映会のためのハンドアウトの発行 78～91号(14部)

(イ)こども向け教育普及事業



□「こども映画館 2008年の夏休み」チラシ  
(作品解説及び上映スケジュール)

29.7×21cm/2p

【平成21年度】

(ア)上映会のためのハンドアウトの発行 92～100号(9部)

(イ)こども向け教育普及事業



□「こども映画館 2009年の夏休み」チラシ  
(上映スケジュール)

29.7×21cm/2p

【平成20年度・21年度】



□「キネマ週報」復刻版

(ゆまに書房刊/原版提供及び監修)

27cm/B5判

※以下、続刊



## 【平成20年度】

かねてよりインターネット上でフィルムセンターとその事業に関する広報を行っているが、本年度はさらにCMS（コンテンツ・マネージメント・システム）の機能を高めて最新情報のアップデートを円滑にできるようにしている。また事業関連の情報を提供する「NFCメールマガジン」も着実に登録者が増えている。NFCD（フィルムセンターデータベース）については、ウェブ化開始以来の懸案であった人物データのコンバートのための準備作業を進め、すでにテストの段階に達している。

また、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかに行うためにデジタル・データの形で提供する傾向が定着している。

## 【平成21年度】

事業関連の情報を提供する「NFCメールマガジン」は着実に登録者が増えているが、メールマガジンとウェブサイトの両者に新たに新着図書情報を掲載することにし、日常の図書充実の成果をインターネット上で示せるようにした。NFCD（フィルムセンターデータベース）については、ウェブ化開始以来の懸案であった人物データのコンバートのテストを着実に進めている。

また、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかに行うためにデジタル・データの形で提供する傾向が定着しているが、これまでにデータ化された写真等の画像を共有ファイル内に集積し、今後円滑に活用できるように「画像集積所」の環境整備を開始した。



# 記錄

## 國際交流

International Exchange

## 日誌

Record of Events

## 予算

Expenditure

## 名簿

Nominal List

【平成20年度】

氏名[英文](所属)

---

目的

滞在期間

マルコ・ドウ・ブロワ [Marco de Blois]

(カナダ/シネマテーク・ケベコワーズ、アニメーション部門プログラミング・保存担当  
学芸員)

---

「カナダ・アニメーション映画名作選」の開催に係る講演会およびトークイベントの講師の  
ため

平成21年3月17日

【平成21年度】

なし

## 【平成20年度】

平成20年5月15日	ブランコ・ジュリッチ(スロヴェニア／映画監督) ターニャ・リビッチ(スロヴェニア／女優)
平成20年5月22日	クリスティヨナス・ヴィルジューナス(リトアニア／映画監督) ウリヤナ・キム(リトアニア／映画プロデューサー)
平成20年6月5日	ヴィクトル・ペレイラ(フランス／録音技師) レティティア・ミクレス(フランス／映画作家、撮影)
平成20年7月9日	アーロン・ジェロウ(アメリカ／イエール大学准教授)
平成21年2月24日	クラウドディア・ランズベルガー(オランダ／ホランドフィルム、マネージングディレクター) ヨースラム・リュルセン(オランダ／映画監督) レオンティーン・ペティート(オランダ／映画プロデューサー) ヘーネ・ベルヴッツ(ベルギー／俳優)

May 15, 2008	Branko Djuric (Slovenia / Filmmaker) Tanja Ribic (Slovenia / Actress)
May 22, 2008	Kristijonas Vildžiūnas (Lithuania / Filmmaker) Uljana Kim (Lithuania / Peoducer)
June 5, 2008	Victor Pereora (France / Sound recording) Laetitia Mikles (France / Filmmaker & Cameraman)
July 9, 2008	Gerow Aaron (USA / Associate professor)
February 24, 2009	Claudia Landsberger (The Netherlands / Managing director of Holland Film) Joram Lürsen (The Netherlands / Filmmaker) Leontine Petit (The Netherlands / Film producer) Gene Bervoets (Belgium / Actor)

## 【平成21年度】

平成21年5月28日	ペトル・ゼレンカ(チェコ／映画監督) イヴァン・トロヤン(チェコ／映画・舞台俳優) ジャン＝シャルル・フィトウシ(フランス／映画監督) ミゲル・メネンデス・デ・スピリャーガ(スペイン／映画プロデューサー) シャル＝オーケ・アンデション(スウェーデン／映画監督) ヨーワン・ヴィーデルベル(スウェーデン／映画俳優)
平成21年7月8日	アーロン・ジェロウ(アメリカ／イエール大学准教授)
平成21年9月9日	パスカル＝アレックス・ヴァンサン(フランス／映画監督)
平成21年9月10日	シュネイデル・マールタ(ハンガリー／教育文化省専門次官) バログ・ジュラ(ハンガリー／教育文化省専門次官) シクローシュ・ペーテル(ハンガリー／国際関係担当者)
平成21年10月16日	ローラン・ジェルヴロー(フランス／映画監督)
平成21年12月17日	デイヴィッド・トンプソン(英国／テレビ監督)
平成22年1月29日	グレゴリー・ウォルシュ(アメリカ／南カリフォルニア建築大学教授)

May 28, 2009	Petr Zelenka (Czech / Filmmaker)
	Yvan Trojan (Czech / Actor)
	Jean-Charles Fitoussi (France / Filmmaker)
	Miguel Menendez de Sbillaga (Spain / Film producer)
	Kjell-Åke Andersson (Sweden / Filmmaker)
	Johan Widerberg (Sweden / Actor)
July 8, 2009	Gerow Aaron (USA / Associate professor)
September 9, 2009	Pascal-Alex Vincent (France / Filmmaker)
September 10, 2009	Dr. Marta Schneider (Hungary / Ministry of Education and Culture)
	Dr. Gyula Balogh (Hungary / Ministry of Education and Culture)
	Peter Siklos (Hungary / Ministry of Education and Culture)
October 16, 2009	Laurent Gervereau (France / Filmmaker)
December 17, 2009	David Thompson (UK / TV director)
January 29, 2010	Gregory Walsh (USA / Professor of Southern California Institute of Architecture)

## 【平成20年度】

## □平成20年4月1日

辻村哲夫が館長を辞任し、後任には青柳正規(現独立行政法人国立美術館理事長)が任命された。

所蔵作品展及び特別展の高校生以下及び18歳未満の観覧料の無料化を実施。

## □平成20年5月15日

常陸宮妃殿下共催展「生誕100年 東山魁夷展」お成り。

## □平成20年6月3日

優秀映画鑑賞推進事業実施委員会開催。

## □平成20年6月4日

特別展「建築がうまれるとき ベーター・メルクリと青木淳」の開会式及びレセプションを挙げる。

## □平成20年6月16日

共催展「カルロ・ザウリ展 イタリア現代陶芸の巨匠」の開会式及びレセプションを挙げる。

## □平成20年6月20日

平成20年度第1回評議員会(映画部会)開催。

## □平成20年6月23日

平成20年度第1回評議員会(美術・工芸部会)開催。

## □平成20年7月12日

青柳正規の後任として、加茂川幸夫(前文部科学省生涯学習政策局長)が任命された。

## □平成20年8月25日

特別展「現代美術への視点6 エモーショナル・ドローイング」の開会式及びレセプションを挙げる。

## □平成20年9月8日

美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。

## □平成20年10月3日

特別展「かたちのエッセンスー平松保城のジュエリー」の開会式及びレセプションを挙げる。

## □平成20年10月27日

特別展「小松誠ーデザイン+ユーモアー」開会式及びレセプションを挙げる。

## □平成20年10月30日

特別展「沖縄・ブリズム 1872-2008」開会式及びレセプションを挙げる。

## □平成21年1月19日

特別展「高梨豊 光のフィールドノート」の開会式及びレセプションを挙げる。

## □平成21年1月20日

美術作品購入等選考委員会(工芸部門)開催。

## □平成21年2月16日

平成20年度第2回評議員会(美術・工芸部会)開催。

## □平成21年2月23日

美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。

## □平成21年2月26日

平成20年度第2回評議員会(映画部会)開催。

## □平成21年3月16日

美術作品購入等選考委員会(写真部門)開催。

## □平成21年3月30日

特別展「ビデオを待ちながらー映像、60年代から今日へ」の開会式及びレセプションを挙げる。

## 【平成21年度】

□平成21年5月30日

フィルムセンター主幹の岡島尚志が国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の会長に就任。

□平成21年6月4日

優秀映画鑑賞推進事業実施委員会開催。

□平成21年7月2日

共催展「ゴッガン展」の開会式及びレセプションを挙げる。

□平成21年7月7日

平成21年度第1回評議員会(美術・工芸部会)開催。

□平成21年7月10日

フィルムセンター所蔵の『紅葉狩』(1899年、柴田常吉撮影)が、映画フィルムとして初めて重要文化財に指定された。

□平成21年7月16日

平成21年度第1回評議員会(映画部会)開催。

□平成21年9月4日

皇后陛下「ゴッガン展」行啓。

□平成21年9月4日

特別展「染野夫妻陶芸コレクションーリーチ・濱田・豊藏・壽雪ー」の開会式及びレセプションを挙げる。

□平成21年10月13日

特別展「河口龍夫展 言葉・時間・生命」の開会式及びレセプションを挙げる。

□平成21年10月19日

特別展「権鎖圭」の開会式及びレセプションを挙げる。

□平成21年10月26日

美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。

□平成21年11月13日

特別展「現代工芸への視点ー装飾の力」の開会式及びレセプションを挙げる。

□平成22年1月3日

フィルムセンターが共同して実施した『羅生門』(1950年、黒澤明監督)のデジタル復元が、全米映画批評家協会賞(映画遺産賞)を受賞した。

□平成22年1月7日

特別展「早川良雄ー顔と形状ー」の開会式及びレセプションを挙げる。

□平成22年1月12日

特別展「ウィリアム・ケントリッジー歩きながら歴史を考えるーそしてドローイングは動き始めた……」の開会式及びレセプションを挙げる。

□平成22年2月22日

美術作品購入等選考委員会(工芸部門)開催。

□平成22年3月1日

共催展「生誕120年 小野竹喬展」の開会式及びレセプションを挙げる。

□平成22年3月2日

平成21年度第2回評議員会(映画部会)開催。

□平成22年3月5日

平成21年度第2回評議員会(美術・工芸部会)開催。

□平成22年3月8日

美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。

□平成22年3月12日

美術作品購入等選考委員会(写真部門)開催。



### 3 予算 Expenditure

#### 3-1 平成20・21年度歳出予算一覧(当初予算)

##### 【平成20年度】

事項	予算額(単位：千円)
1 一般管理費	244,327
2 収集・保管事業費	557,948
陳列品購入費	451,576
資料収集整備費	106,372
3 展示事業費	418,038
特別展経費	161,286
企画展経費	6,829
常設展経費	243,750
所藏品名品巡回展経費	1,514
展覧会調査経費	4,659
4 調査研究事業費	64,396
5 教育普及事業費	183,629
合計	1,468,338

##### 【平成21年度】

事項	予算額(単位：千円)
1 一般管理費	239,075
2 収集・保管事業費	558,044
陳列品購入費	444,901
資料収集整備費	113,143
3 展示事業費	409,037
特別展経費	133,309
企画展経費	7,746
常設展経費	253,197
所藏品名品巡回展経費	2,429
展覧会調査経費	12,356
4 調査研究事業費	63,008
5 教育普及事業費	179,661
合計	1,448,825

## 4-1 東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)

【平成20年度】

(平成21年3月31日現在)

現職	氏名
財団法人ポーラ美術館学芸部長	荒屋鋪透
武蔵野美術大学造形学部教授	岡部あおみ
東京大学大学院人文社会系研究科教授	木下直之
東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科准教授	熊倉純子
財団法人朝日新聞文化財団事務局長	小林淑郎
熊本市現代美術館長、美術評論家、 慶應義塾大学大学院非常勤講師	櫻井 武
世田谷美術館事業部美術担当課長	清水真砂
明星大学造形芸術学部教授	宝木範義
財団法人うつのみや文化の森常務理事、宇都宮美術館長	谷 新
社団法人日本経済団体連合会事務総長	中村芳夫
財団法人セゾン現代美術館常務理事館長	難波英夫
青森県教育委員会教育次長	橋本 都
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部長	松本伸之
写真家、日本写真家協会専務理事	松本徳彦

【平成21年度】

(平成22年3月31日現在)

現職	氏名
財団法人ポーラ美術館学芸部長	荒屋鋪透
横浜美術館長	逢坂恵理子
武蔵野美術大学造形学部教授	岡部あおみ
東京都写真美術館事業企画課長	笠原美智子
東京大学大学院人文社会系研究科教授	木下直之
財団法人朝日新聞文化財団事務局長	小林淑郎
熊本市現代美術館長、美術評論家、 慶應義塾大学大学院非常勤講師	櫻井 武
町田市立薬師中学校長	篠原やよい
世田谷美術館事業部長	清水真砂
明星大学造形芸術学部教授	宝木範義
財団法人うつのみや文化創造財団常務理事、宇都宮美術館長	谷 新
社団法人日本経済団体連合会事務総長	中村芳夫
財団法人セゾン現代美術館常務理事館長	難波英夫
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館学芸企画部長	松本伸之
写真家、日本写真家協会専務理事、文星芸術大学講師	松本徳彦

## 【平成20年度】

(平成21年3月31日現在)

現職	氏名
社団法人映像文化製作者連盟理事	大久保正
財団法人川喜多記念映画文化財団理事長	岡田正代
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授	刈間文俊
映画評論家	河原畑寧
映画監督、協同組合日本映画監督協会理事長	崔 洋一
社団法人日本映画製作者連盟事務局長	新坂純一
協同組合日本映画製作者協会代表理事、 株式会社近代映画協会取締役社長	新藤次郎
早稲田大学文学学術院教授	武田 潔
日本大学芸術学部教授	田島良一
映画字幕翻訳家	戸田奈津子
イメージフォーラム代表	富山加津江
映画プロデューサー、東京芸術大学大学院映像研究科教授、 ユーススペース代表取締役	堀越謙三
映画評論家	村山匡一郎
ぴあ株式会社代表取締役会長兼社長	矢内 廣
映画評論家、東海大学文学部文芸創作学科教授	山根貞男

## 【平成21年度】

(平成22年3月31日現在)

現職	氏名
財団法人川喜多記念映画文化財団理事長	岡田正代
社団法人日本映画製作者連盟事務局長	華頂尚隆
東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授	刈間文俊
映画評論家	河原畑寧
映画監督、協同組合日本映画監督協会理事長	崔 洋一
映画評論家	杉浦孝昭
早稲田大学文学学術院教授	武田 潔
日本大学芸術学部教授	田島良一
映画字幕翻訳家	戸田奈津子
社団法人映像文化製作者連盟事務局長	中嶋清美
映像作家	中島 崇
映画プロデューサー、東京芸術大学大学院映像研究科教授、 ユーススペース代表取締役	堀越謙三
ぴあ株式会社代表取締役社長	矢内 廣
映画評論家	山根貞男
映画評論家	渡辺祥子

(五十音順)

4-3 東京国立近代美術館職員

【平成20年度】

(平成21年3月31日現在)

現職	氏名	現職	氏名
館長	加茂川幸夫		
副館長	松本 透		
<b>運営管理部</b>		<b>工芸課</b>	
運営管理部長		工芸課長	金子賢治
室長(庶務)	石垣鉄也	主任研究員 工芸室長	諸山正則
室長(会計)	野上俊夫	主任研究員 デザイン室長	木田拓也
室長(普及)	生島達久	主任研究員 展示室長	唐澤昌宏
室長(研修)(命)	小山寛俊		北村仁美
係長(庶務)(兼)	小山寛俊	主任研究員 教育・資料室長	今井陽子
係主任	野上俊夫		
	西田恭子	<b>フィルムセンター</b>	
係長(人事)	小澤孝明	主幹	岡島尚志
	落合弘樹	事務室長	小谷松誠司
	布施岳人	係長(管理)	古澤 誠
係長(監査)	五十嵐征美		小林由佳
係主任	阿部公一	係長(業務)	春日義孝
	酒泉 創	係長(相模原分館管理)(兼)	小谷松誠司
	荒井英俊	主任研究員 映画室長	榎木 章
係長(会計)	東谷 憲		板倉史明
係主任	米田 翔	映写技術士	高屋吉丘
	岡 克憲	主任研究員 事業推進室長	入江良郎
専門職員(民間競争入札)	小山寛俊		赤崎陽子
係長(普及)(兼)	矢島 絢	主任研究員 情報資料室長	岡田秀則
	小川原茜		
	小山寛俊		
	矢島 絢		
	小川原茜		
<b>企画課</b>			
企画課長	中林和雄		
主任研究員 企画展室長	大谷省吾		
主任研究員	鶴見香織		
	三輪健仁		
主任研究員 教育普及室長	一條彰子		
主任研究員 情報資料室長	水谷長志		
<b>美術課</b>			
美術課長	藏屋美香		
主任研究員 絵画彫刻室長	鈴木勝雄		
	保坂健二郎		
	中村麗子		
版画素描室長(兼)	藏屋美香		
(命)	保坂健二郎		
主任研究員 写真室長	増田 玲		
主任研究員 展示調整室長	都築千重子		

【平成21年度】

(平成22年3月31日現在)

現職	氏名	現職	氏名
館長	加茂川幸夫		
副館長	松本 透		
<b>運営管理部</b>		<b>工芸課</b>	
運営管理部長	石垣鉄也	工芸課長	金子賢治
室長(庶務)	野上俊夫	主任研究員 工芸室長	諸山正則
室長(会計)	生島達久	主任研究員 デザイン室長	木田拓也
室長(普及)	小谷松誠司	主任研究員 展示室長	唐澤昌宏
室長(研修)(命)	小谷松誠司	主任研究員 教育・資料室長	北村仁美
係長(庶務)(兼)	野上俊夫		今井陽子
係主任	西田恭子	<b>フィルムセンター</b>	
	小澤孝明	主幹	岡島尚志
係長(人事)	大本 学	事務室長	西田佳二
	布施岳人	係長(管理)	荒井久登
係長(監査)	五十嵐征美	係長(業務)	小林由佳
	酒泉 創	係長(相模原分館管理)(兼)	春日義孝
係長(会計)	東谷 憲	主任研究員 映画室長	西田佳二
	米田 翔		榎木 章
係長(管理)	岡 克憲	映写技術士	板倉史明
	定永尚代	主任研究員 事業推進室長	高屋吉丘
係長(普及)(兼)	小谷松誠司	主任研究員 情報資料室長	入江良郎
	矢島 絢		赤崎陽子
係長(研修)(兼)	小川原茜		岡田秀則
(命)	小谷松誠司		
(命)	矢島 絢		
	小川原茜		
<b>企画課</b>			
企画課長	中林和雄		
主任研究員 企画展室長	大谷省吾		
主任研究員	鶴見香織		
	三輪健仁		
主任研究員 教育普及室長	一條彰子		
主任研究員 情報資料室長	水谷長志		
<b>美術課</b>			
美術課長	藏屋美香		
主任研究員 絵画彫刻室長	鈴木勝雄		
	保坂健二郎		
版画素描室長(兼)	中村麗子		
(命)	藏屋美香		
主任研究員 写真室長	保坂健二郎		
主任研究員 展示調整室長	増田 玲		
	都築千重子		



平成20-21年度  
独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館活動報告

発行者： 加茂川幸夫  
発行： 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館  
東京都千代田区北の丸公園3-1  
電話 03 (3214) 2561 (代表)  
印刷： ヤマノ印刷株式会社  
発行日： 平成23年3月31日

■非売品

2008-09 Annual Report  
Independent Administrative Institution National Museum of Art  
The National Museum of Modern Art, Tokyo

Publisher: Kamogawa Sachio  
Edited & Published by:  
Independent Administrative institution National Museum of Art  
The National Museum of Modern Art, Tokyo ©2010  
3-1 Kitanomaru-koen, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan  
Phone: +81(0)3-3214-2561  
Printed by: Yamano Printing Co., Ltd.

Printed in Japan

■Nor for sale